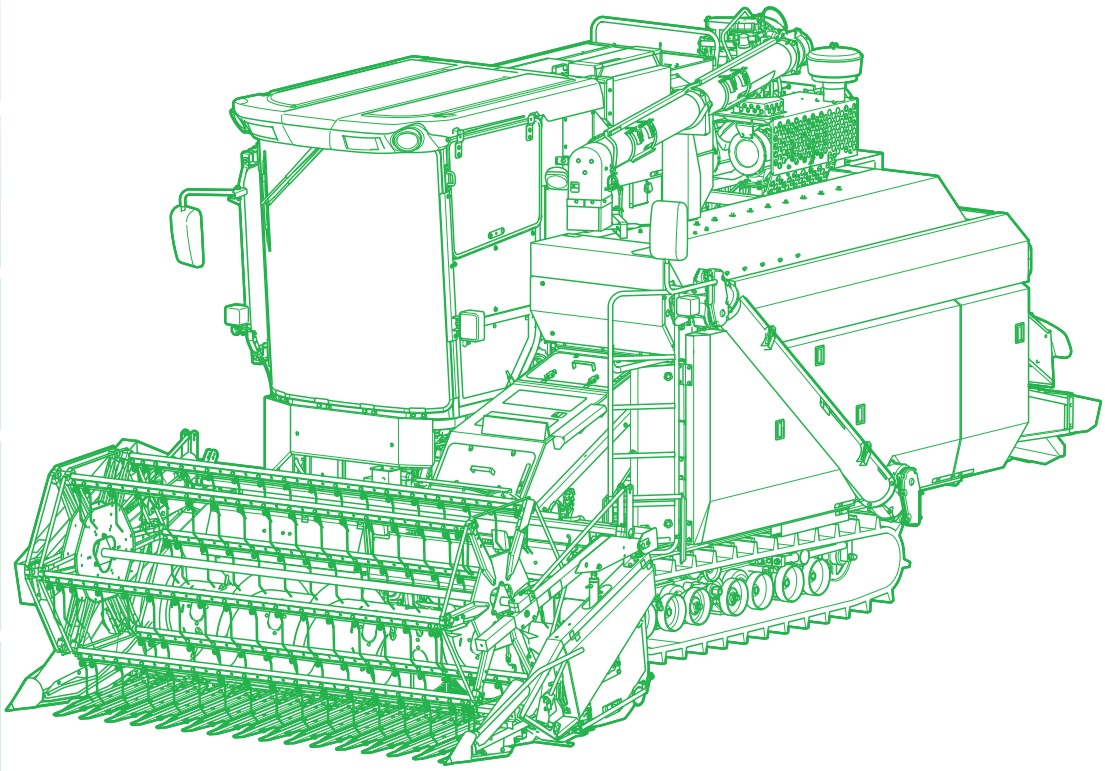
コンバイン

取扱説明書

MCH1150A



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、エアコン装備（キャビン仕様）の場合、「簡易点検の実施」、「記録の保管」を実施することが義務化されました。
詳しくは、巻末の「フロン排出抑制法によるお客様点検」と「簡易点検記録表」をお読みください。

輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連法規制を受ける場合があります。
確認の上、必要な手続きを実施してください。

車両銘板とエンジン銘板

車両銘板とエンジン銘板には、アフターサービスをお受けになるときなどに必要な情報が記載されています。
車両銘板は、乗降ステップの内側の位置（図1）に、エンジン銘板は、シリンダヘッド上面（図2）にそれぞれ貼り付けられています。

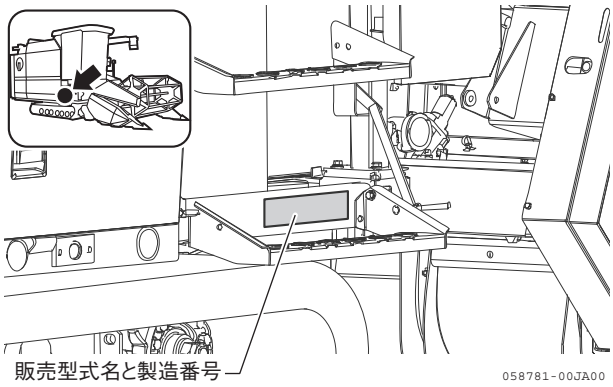


図 1 車両銘板

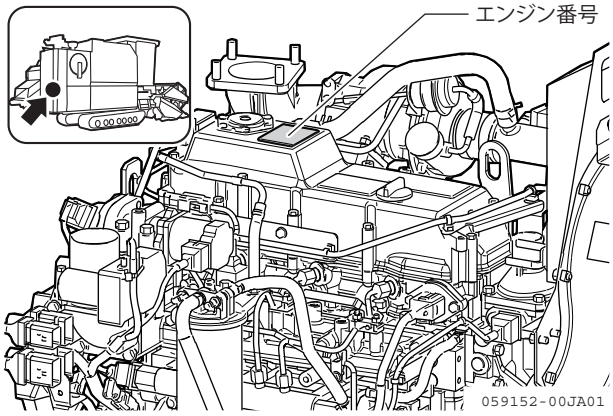


図 2 エンジン銘板

販売型式名、製造番号、キーナンバーなどを記入してください

コンバインの製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。
また、本製品は個別キーを採用しています。万一、キーを紛失した場合に必要になりますので、付属のキーナンバーも記入し、キーナンバープレートは大切に保管してください。

販売型式名：	アタッチメント型式名および製造番号：
区分：	
製造番号：	
エンジン型式：	
エンジン番号：	
キーナンバー：	

※ご購入のコンバインによっては、該当しない項目もあります。
※アフターサービス、保証については、（312ページ）をご参照ください。

エンジンオイルについて

お客様へのお知らせ

[重要]

このコンバインは排出ガス規制対応のためコモンレールエンジン、排気フィルター(DPF※1)、尿素SCR※2 システムを搭載しています。
日常点検項目や、使用する燃料・オイルは、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みいただき当社指定の燃料・オイルを使用し、および定期点検を必ず行ってください。

※1 Diesel Particulate Filter; ディーゼル パティキュレート フィルター
※2 Selective Catalytic Reduction; セレクティブ キャタリティック リダクション

1. ウォーターセパレータを表1に従って定期的に点検し、水がたまっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。

表 1 ウォーターセパレータの水抜き・洗浄時間

水抜き・洗浄	1回目:50時間目 2回目以降:100時間ごと

特にセンターディスプレイに下の警報画面が表示された場合は、ウォーターセパレータに水がたまっています。すみやかに中の水を抜いてください。



図 1

[重要]

- ウォーターセパレータのエレメントは、つぎの表2に従って、定期的に交換してください。守らないと、エンジンが損傷するおそれがあります。

表 2 燃料コシ器エレメント

ウォーターセパレータエレメント	交換	300時間ごと

- 燃料は市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物などを加えないでください。守らないと、エンジンが損傷するおそれがあります。

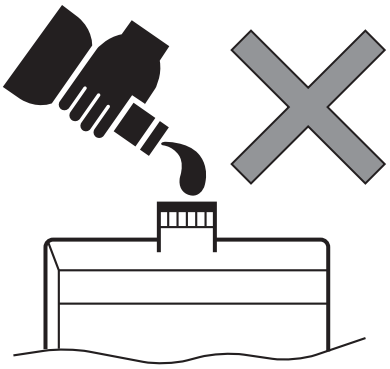


図 2

2. このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品および排出ガスの後処理装置である排気フィルターを使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板製の容器のご使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。
3. エンジンオイルは必ず表3のものを使用してください。

表 3 エンジンオイル

	三菱(指定)純正オイル	一般販売店の相当オイル	
		ENEOS	コスモ石油
エンジンオイル	DPF搭載機専用ディーゼルエンジンオイル 10W-30 DH-2	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30相当品 (DH-2級またはCJ-4級)	

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、三菱コンバインをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、コンバインの取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになったあとも、この取扱説明書をシート後のポケットに入れ、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章必ずお読みください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書1 ページの記入欄にコンバインの製造番号、エンジンの番号、キーナンバーなどを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書は、出荷状態の取り扱いについて記載しています。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンバインは、路上（公道）走行できません。

このコンバインは、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。
※積載するトラックの選定は、道路交通法を守ってください。（詳しくは9 ページをご覧ください。）

このコンバインは、日本国内での使用を想定しています。

このコンバインおよび搭載されている無線機器は、日本国内のみでの使用を想定しており、海外に輸出したり、海外での使用は想定しておりません。従いまして、海外での使用、輸出は当社の品質保証の適用範囲外となります。
また、本コンバインおよび搭載されている無線機器を海外に輸出したり、海外で使用すると、法令違反となる可能性があります。

説明記号の見かた

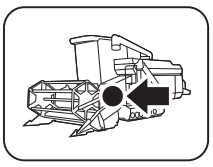
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明箇所の位置と、見ている方向を示します。
また、本書の「左側」や、「右側」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。「左旋回」、「右旋回」という記載は前進方向を基準として示します。

●印:位置　　⬅印:見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の他に、大豆・小豆・そばなどの作物の刈取・収穫用作業機としての農業用にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、しないでください。大豆・小豆・そばの場合は、必ず作業前に専用キットに交換し、各部の調整を必ず行ってください。
(詳細は、専用キットの取扱説明書をご覧ください。)
使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。
(詳細は、保証書をご覧ください。)

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で、型式・仕様によっては該当しない項目もあります。

型式：MCH1150A
仕様：M：　セカンドモア仕様
　　なし：標準ヘッダー仕様（刈幅 2060 mm）
　　W：　ワイドヘッダー仕様（刈幅 2590 mm）
　　W3：スーパーワイドヘッダー仕様（刈幅 3230 mm）

本製品の使用条件について

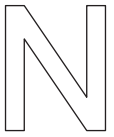
本製品は、収穫用のコンバインとして設計、製造されています。
表の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

傾斜度	11度(18%)以下

運転操作のシンボルマーク

コンバインを安全に能率よく操作、作業していただくために、以下のシンボルマークをコンバインおよび取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。なお、各シンボルマークのさらに詳しい説明については、本書第2章「運転のしかた」に記載しています。

	ウインカパイロットランプ		ホーン		セカンドモア高さ
	エンジン回転高速		油圧警報表示		リール高さ
	エンジン回転低速		バッテリーチャージ		リール変速
	エンジン回転		エンジン冷却水		グレンタンク
	燃料残量表示		尿素残量表示		ブザー停止
					前照灯
	積算計		Eモード		ニュートラル（中立）
	尿素水関係警報表示		SCRシステム異常		燃料温度
	ウォーターセパレータ		排気フィルター再生		排気フィルター 再不可状態警報

	排気フィルター異常		もみ満量		スプレッダ詰まり
	1番詰まり		2番詰まり		ロータ詰まり
	オーガ未収納警報		排出オーガクラッチ		オーガ自動旋回
	ワイパー		電源		オーガリターンスイッチ

関係法規

排出ガス規制について

このコンバインは、道路運送車両法の特定特殊自動車排出ガス規制に適合しています。
規制適合を維持していくためには「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」（308 ページ）に従って、エンジンオイル・オイルフィルター・燃料フィルター、およびエアクリーナーエレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。
定期的なメンテナンスを怠り、排出ガス基準値をクリアできなかった場合は、罰則が課せられる場合があります。

ナンバープレートの交付を､必ず受けてください

必ずコンバイン取得の届け出を行い、小型特殊のナンバープレートの交付を受けてください。交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付穴に取り付けてください。

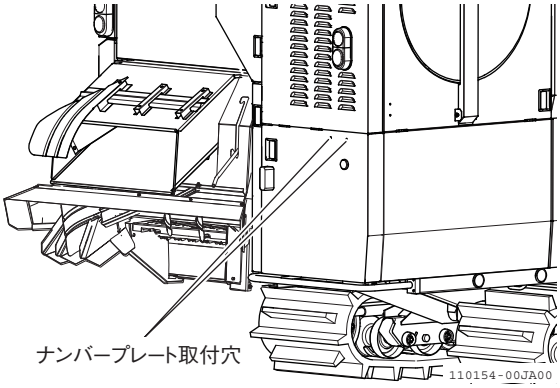


図 1

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保障法第 2 条の「自動車」から省かれ、強制保険の対象から除外されています。
万一の場合を考えて自動車保険の契約を希望される場合は、自動車共済、または任意の自動車保険にご加入ください。

ディーゼル燃料について

燃料規格について

表 2 燃料規格

ディーゼル燃料規格	地域
JIS K2204 2 号軽油	日本
ASTM D975-05 No.1 D S15 No.2 D S15	米国
EN590:2004	EU（欧州連合）
BS 2869-A1（またはA2）	英国
KSM-2610	韓国
GB19147	中国

その他の燃料基準

使用する燃料はつぎの条件を満たしているものをご使用ください。

- 燃料のセタン価は45 以上であること。
  なお、（EGR 付電子制御式）エンジンについては硫黄分15 ppm以下の燃料の使用が必須です。
  一般的に、高硫黄燃料を使用しますと、シリンダ内の硫酸腐食を発生させるおそれがあります。
  特にアメリカ合衆国・カナダにおいては Ultra Low Sulfur 燃料を使用すること。
- ディーゼル燃料には、灯油、使用済みのエンジンオイル、または余りの燃料を混ぜないこと。
- 燃料内の水および沈殿物は、全体の体積の200 mg/kg未満であること。
- 燃料タンク、および燃料を取り扱う装置類は、常に清潔にすること。
- 品質が悪い燃料は､エンジン性能を低下させます。また、エンジン損傷の原因になります。
- 燃料添加剤を使用しないこと。一部の燃料添加剤は、エンジン性能が低下する原因になります。詳細は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへお問い合わせください。
- アッシュ（灰分）は、全体の質量の0.01%未満であること。
- 10 % 残留炭素分は、全体の容積の 0.35%未満であること。ただし、推奨値は0.1%未満。
- 芳香族分は、全体の容積の 35%未満であること。ただし、推奨値は30%未満。

- PAH（多環芳香族炭化水素）は、全体の容積の10%未満であること。
- ナトリウム、亜鉛が混じっていないこと。
  マグネシウム、ケイ素、アルミニウムは1 mass ppm 以下であること。
  （JPI-5S-44-95 試験分析手法）
- 潤滑性 - HFRR 試験での WS1.4 の摩耗キズが、最大で460μm までとする。
- ディーゼル燃料は、必ず正規のディーゼル燃料販売店で購入してください。

バイオディーゼル燃料について

- 「揮発油の等の品質の確保に関する法律」で定める軽油規格を満足する B5 以下のバイオディーゼル燃料であることを確認してください。
- バイオ燃料は、必ず正規のディーゼル燃料販売店で購入してください。
- 製造から3カ月以内のものを使用してください。

尿素SCR システムについて

尿素 SCR（Selective Catalytic Reduction：選択式触媒還元）システムは、排ガス中に含まれる窒素酸化物（NOx）を、尿素水から発生するアンモニアを用いて無害な窒素（N_2）と水（H_2O）に還元・浄化する技術です。
この尿素SCR システムを適用することにより、米国環境保護庁（EPA）排ガス規制 Tier4-Final をはじめとする各国の排ガス規制に対応しています。

尿素水経路に尿素水が残留した状態でシステム内の尿素水が凍結（-11℃以下）した場合、尿素水の膨張によりデバイスが破損するため、キースイッチを「OFF」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
⇒システム破損の原因となるため、キースイッチを「OFF」位置にしてから10 分間は、バッテリーからケーブルを絶対に外さないでください。

排出ガスからアンモニア臭がすることがありますが故障ではありません。

尿素水について

尿素水は尿素水SCRシステムを搭載したディーゼルエンジンに使用され、排出ガス中に含まれる窒素酸化物（NOx)を低減します。
尿素水の品質と成分は排ガスを浄化するために非常に重要です。低品質の尿素水の使用は、NOx 浄化率の低下、システム不具合の原因となります。必ず以下に記載する仕様の尿素水を使用してください。

尿素水溶液規格について

以下の規格と同等、またはそれ以上の品質の尿素水を使用してください。

- ISO22241（国際標準化機構）
- JIS K2247-1（日本）
- DIN V70070（ドイツ）

AdBlue®/アドブルー®は、これらの規格を満足する尿素濃度32.5%で管理された高品位尿素水で、ドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標であり、主にヨーロッパ、日本で呼ばれる名称です。アメリカではDEF（Diesel Exhaust Fluid）と呼ばれています。

禁止事項について

- AdBlue® またはDEF でない液体は使用しないでください。
- AdBlue® またはDEF に他の物質を混ぜないでください。
  指定外の尿素水を使用したり、他の物質を混ぜた場合は、メーカー保証の対象外となる場合があります。
- 長期保管（タンクの中の残留尿素水を含む）した寿命切れ（期限切れ）の尿素水は使用しないでください。尿素水の凍結やアンモニアスリップ、NOx 浄化率の低下やデバイスの破損の原因となります。尿素水の寿命（期限）については 296 ページを参照してください。
- 尿素水を取り扱う際は、軍手など繊維が尿素水に混入してしまうおそれのあるものは使用しないでください。
  尿素水フィルターの目詰まりや尿素水 噴出口の尿素沈着（デポジット）の原因となります。

注意事項について

- 尿素水は取り扱いに特別な資格は必要ありませんが、万が一尿素水が手足などにかかった場合は、多量の水で流してください。目に入った場合は、ただちに15 分以上水道水で洗い流し、病院で診察を受けてください。
- 尿素水をこぼした場合はすみやかにふきとって、十分に洗浄してください。守らないと、白い結晶ができたり、異臭の原因となります。また、金属部が腐食するおそれがあります。
- 尿素水は危険物・毒劇物の指定はありませんが、水質汚濁防止法令が適用されるため、残液および残液を含む空容器を湖沼、海域、河川などへ廃棄しないでください。廃棄する場合には都道府県知事の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託し、適切に処理してください。
- 尿素水の取り扱いについては、尿素水メーカーの取扱説明書をご確認ください。

尿素水の性状、特徴について

- 尿素水は無色、無臭の液体です。
- 尿素水は非常に凍結しやすい液体で、AdBlue®の場合、-11℃で凍結します。
  （尿素濃度32.5%は最も凍結しにくい濃度です。）
  体積膨張率は約 7%であるため、低温時にはデバイスの破損に留意が必要です。
- 尿素水は常温でも多少のアンモニアを発生しますが、加熱・昇温されると加水分解され大量のアンモニアが発生するため、注意が必要です。
- 尿素水から強いアンモニア臭がする場合は、品質が劣化している可能性があります。そのような尿素水は使用しないでください。

液晶モニターについて

センターディスプレイとデュアルモニターの取り扱いについて

センターディスプレイとデュアルモニターを使用するときは、つぎのことを必ず守ってください。故障の原因になります。

- センターディスプレイやデュアルモニターを外したり、分解や改造をしないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性のある薬品で掃除しないでください。
- ガラス面を強く押したり、こすらないでください。
- スイッチは、先端が硬いものや尖ったもので押さないでください。
- 磁気を帯びたものや電波を発するものを近づけないでください。

液晶ディスプレイの特性上、つぎのような現象が発生することがありますが故障ではありません。

- 見る角度により表示色が変化して見える場合があります。
- 液晶特有の現象で輝度のムラ、縦スジや小さな黒点、輝点が見えることがあります。
- 長時間、同じ画面を表示させていると画面切り替え時に残像が発生する場合があります。
- ディスプレイの内部が高温になると、焼損を防止するため自動的に輝度が変更されることがあります。

目次

車両銘板とエンジン銘板 1

販売型式名、製造番号、キーナンバーなどを記入してください 1

エンジンオイルについて 2

お客様へのお知らせ 2

はじめに 3

関係法規 9
- 排出ガス規制について 9
- ナンバープレートの交付を、必ず受けてください 9
- 損害賠償保険について 9

ディーゼル燃料について 9
- 燃料規格について 9
- バイオディーゼル燃料について 10

尿素SCR システムについて 10

尿素水について 11
- 尿素水溶液規格について 11
- 禁止事項について 11
- 注意事項について 11
- 尿素水の性状、特徴について 11

液晶モニターについて 12
- センターディスプレイとデュアルモニターの取り扱いについて 12

1章　必ずお読みください 21

安全な作業をするために必ずお守りください 21
- 運転（作業）する人について 21
- 運転（作業）するコンバインについて 23
- 運搬するときの注意事項 32
- 駐車・格納するときの注意事項 35
- 点検・給油・整備するときの注意事項 38
- 無線リモコンを操作するとき 45
- その他の注意事項 46

安全銘板 47
- 安全銘板の貼り付け位置 47
- 安全銘板の手入れについて 61

2章　運転のしかた 62

各部のはたらきと使いかた 62
- フロントコラム部 62
- ハンドル部 64
- センターディスプレイ部 65
- サイドコラム部（スイッチ・ダイヤル類） 71
- オールマイティシフトレバー部 79
- オーガマルチリモコン 81
- オーガ先端 84
- 無線リモコンオーガ 84
- オーガリターンスイッチ 86
- その他の操作関係 86
- その他 89
- キャビン関係 92

ならし運転（最初の50時間）について 98

運転前の点検 99
- 点検のしかた 101

運転前の準備 102
- コンバインへの乗降のしかた 102
- シート位置の調節のしかた 103
- マルチハンドルの前後調節のしかた 104
- メンテナンスモードについて 105
- 操作機能の変更のしかた 109
- 基本設定のしかた 111

エンジンの始動と停止 113
- 始動のしかた 113
- 暖機運転のしかた 116
- エンジンの停止のしかた 116

運転操作 117
- 発進・走行のしかた 117
- 変速のしかた 119
- 旋回のしかた 119
- 停車・駐車のしかた 121
- 移動走行のしかた 122
- 夜間運転のしかた 125
- エアコンの使いかた 125

3章　作業のしかた 127

刈取作業前の準備 127
- 刈取作業ができる作物の条件について 127
- 刈取作業ができるほ場の条件について 128
- ほ場の準備と刈取方法について 128
- コンバインの準備のしかた 130
- ほ場への出入りのしかた 135
- デュアルモニターについて 136

作業について 137
- 刈取操作のしかた 137
- 作物や作業条件に合わせた各部の調節 144
- 警報装置が作動したときの処置 146
- 自動装置について 146
- こく粒の排出のしかた 160

4章　お手入れのしかた..... 166

各部の脱着･オープンのしかた..... 166
各部脱着・オープン一覧.....166
主なカバーのなまえ.....167
ロータカバーのオープンのしかた 169
グレンタンクのオープンのしかた 170
脱こく左前・左後カバーの
オープンのしかた 172
エンジン後カバーのオープンのしかた.....173
脱こく側板の外しかた.....173
スプレッダのオープンのしかた 173
脱こく下網の脱着のしかた.....174
ヘッダー部の脱着のしかた.....175
揺動装置の脱着のしかた.....178
作業後の手入れについて..... 181
作業後の手入れのしかた.....181
コンバインの洗浄のしかた.....182
刈取部ストッパ（刈取部固定）の
セットのしかた 183
各部の掃除のしかた.....185
各部の注油のしかた.....191
グリスアップのしかた.....193
点検･整備のしかた..... 196
定期点検・整備の時期について 197
調節箇所規定量一覧表.....199
オイル・グリス・不凍液一覧表 200
給油・給水一覧表 200
メンテナンス時間のリセットのしかた.....201
燃料の点検･補給のしかた.....202
尿素水の点検・補給のしかた 204
オイルの点検・補給・交換のしかた 205
冷却水の点検・補給・交換のしかた 210
エンジンオイルエレメントの
交換のしかた 212
サプライモジュールメインフィルターの
交換のしかた 213
燃料フィルターの交換のしかた 216
排気フィルターの再生のしかた 216
ウォーターセパレータエレメントの
点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた.....222
燃料タンクのドレン抜きのしかた 224
燃料の空気（エア）抜きのしかた 224
エアクリーナーの掃除・交換のしかた.....224
プレクリーナーの掃除のしかた 225
防塵装置の掃除のしかた.....226
作動油タンクオイルの
点検・補給・交換のしかた.....228
HST フィルターの交換のしかた.....230
ウォッシャー液の補充のしかた 231
バッテリーの点検・整備のしかた 231
パイプ類の点検のしかた..... 234
電気配線の点検のしかた..... 235
ヒューズ・スローブローヒューズの
点検・交換のしかた..... 235
刈刃の調節のしかた..... 237
プラットホーム底板とスクリューコンベア
のすき間調節のしかた..... 237
ストリッパの調節のしかた 238
リール変速ベルトの交換のしかた..... 238
プラットホーム底板とオーガフィンガの
すき間調節のしかた..... 239
プラットホームオーガリミットクラッチの
点検・調節のしかた..... 239
リール調節のしかた..... 240
各部チェンの点検・調節のしかた..... 242
各部ベルトの点検・調節のしかた..... 246
駐車ブレーキの点検・調節のしかた..... 256
各部ワイヤーの点検・調節のしかた..... 257
クローラの点検・調節のしかた 258
強力ピンの交換のしかた..... 259
送信機の電池の交換のしかた 259
排出ガスの色について..... 261
クーラーガス（冷媒）の点検のしかた..... 262
不調診断のしかた..... 264
センターディスプレイの
注意画面について..... 264
センターディスプレイの異常表示と
処置のしかた 266
センターディスプレイに表示されない
不調について 286
チェッカ機能について..... 293

5章　保管のしかた..... 296

短期保管するときは（２カ月以内）..... 296
保管のしかた 296
保管中の整備のしかた..... 297
長期保管するときは（２カ月以上）..... 298
保管のしかた 298
保管中の整備のしかた..... 300

6章　輸送のしかた..... 301

トラックへの積み･降ろしのしかた..... 301
アユミ板について..... 301
トラックの準備 302
コンバインの積み込みかた 302
トラックに積んだら..... 304
コンバインの降ろしかた..... 305
積み・降ろし中の停止・発進のしかた..... 306

7章　仕様 307

主要諸元 307
主要消耗部品の点検・交換時期の目安表.....308

8章　廃棄物の処理について 311

廃棄するときは..... 311
廃油、不凍液の処理.....311
バッテリーの処理 311
冷媒ガス（フロン類）の処理 311
ホース類の処理 311
尿素水の処理 311

9章　サービスと保証について 312

保証書は大切に保管してください 312
アフターサービスをお受けになるときは.....312

10章 索引..... 313

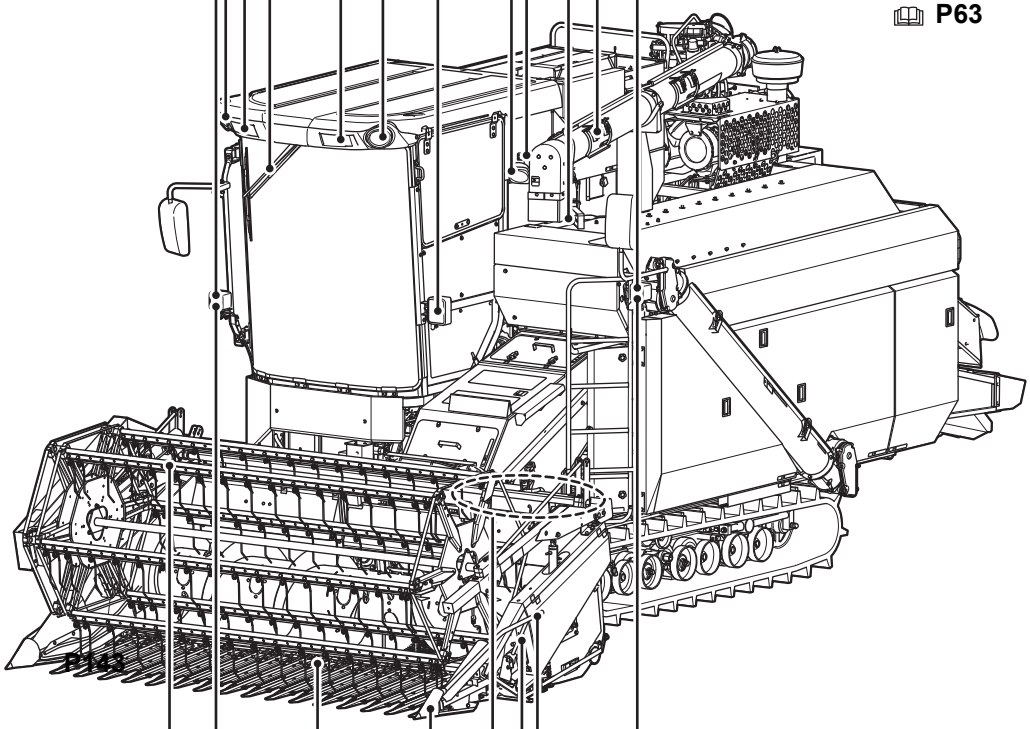
11章 部品リスト（部品早見表） 315

オプション 315
主要消耗部品 316

フロン排出抑制法によるお客様点検... 319

イラスト目次

外観



ヘッドライト
P63

フロントワイパー
P93

作業灯（キャビン）
P63

方向指示器（右）
P63

リール
P64

車幅灯（右）
P63

刈刃
P237

デバイダヘッド
P130

作業灯（オーガ）
P63

オーガモニター
メインカメラ
P97

送塵調節レバー
P88

排出オーガ
P81, 84

方向指示器（左）
P63

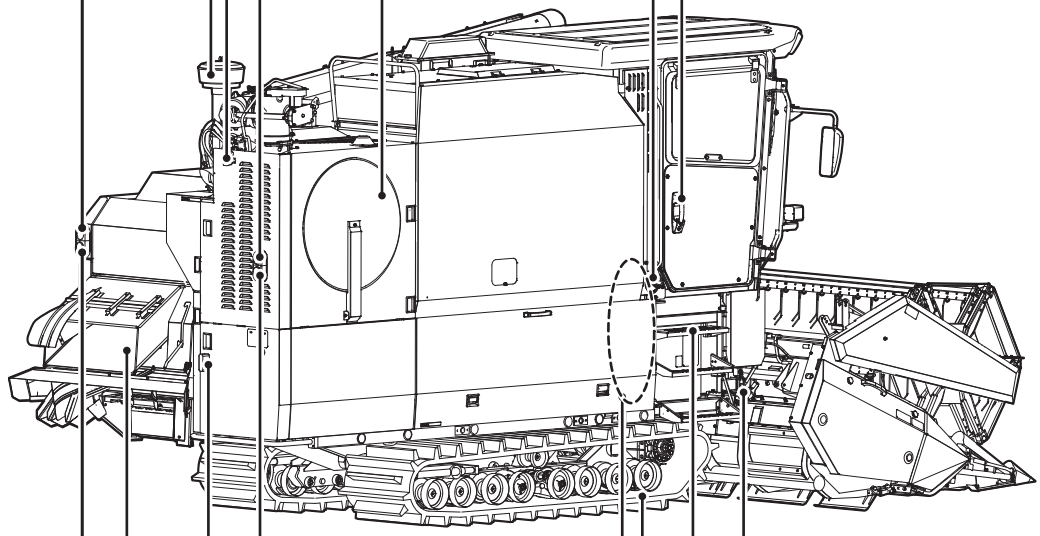
車幅灯（左）
P63

サイドデバイダ
P130

センサソリ
切換レバー
P72

刈取部ストッパ
P183

132545-01JA00



エンジン防塵装置
(ロータリースクリーン)
P226

バックモニター
カメラ
P97

プレクリーナー
P225

方向指示器
(左・右)
P63

車幅灯(左・右)
P63

スプレッダ
P173

バックランプ
P79

燃料キャップ
P203

ドア取っ手・
ドア開閉
P92

刈取ストップ
バルブ
P185

乗降ステップ
P90, 102

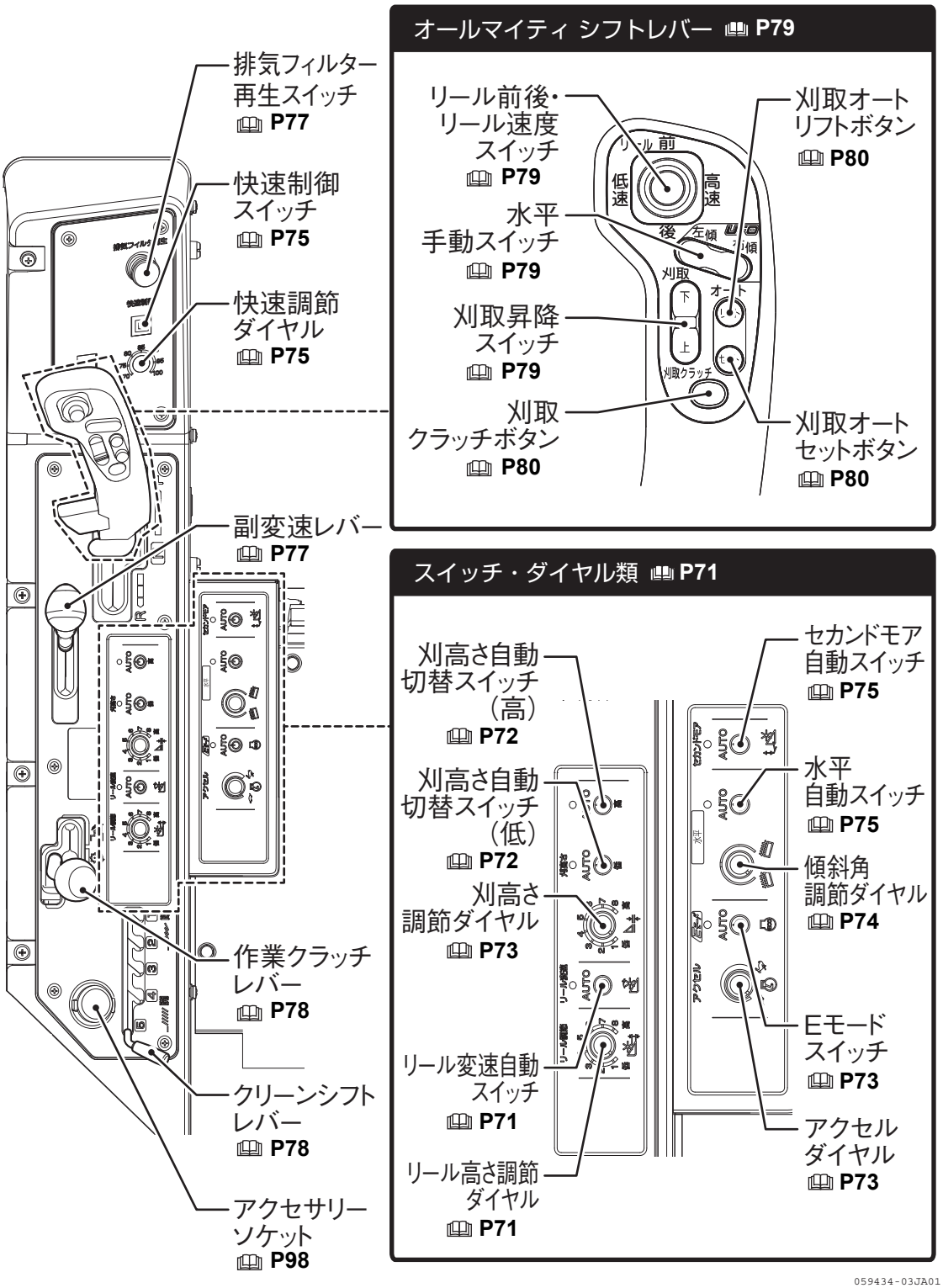
クローラ
P258

尿素水タンク
P204

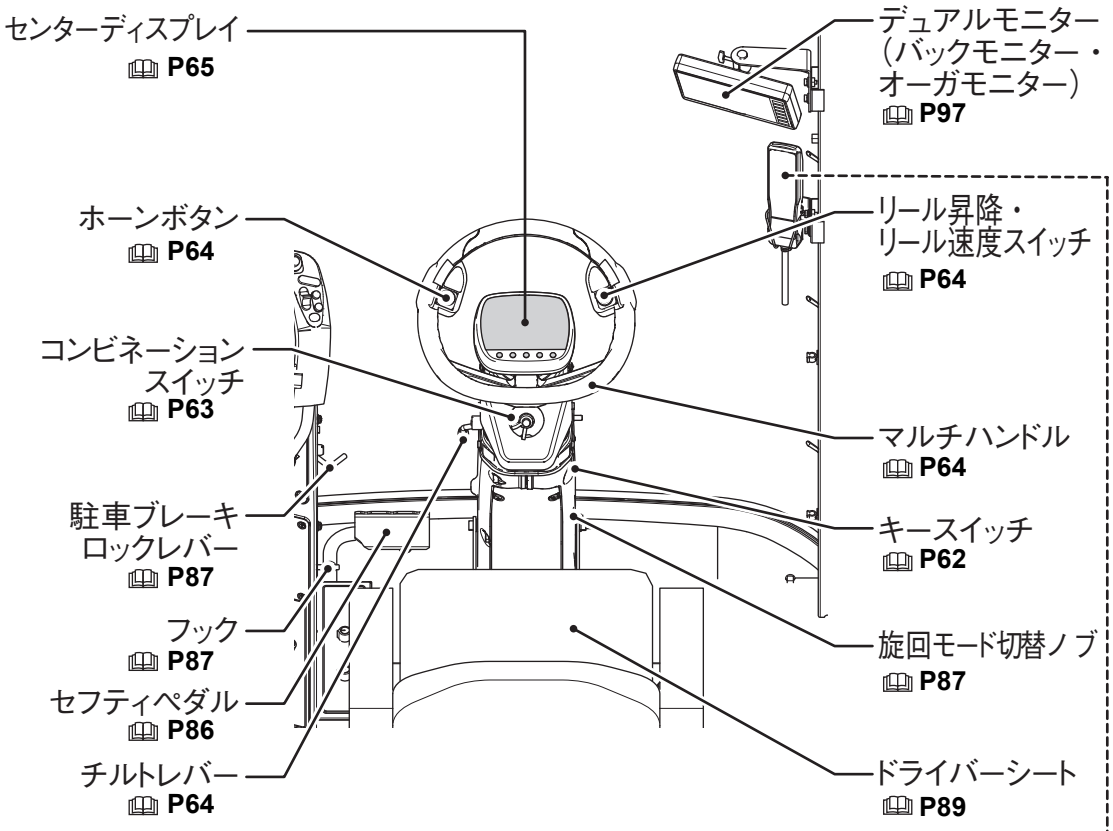
109961-01JA00

運転操作部

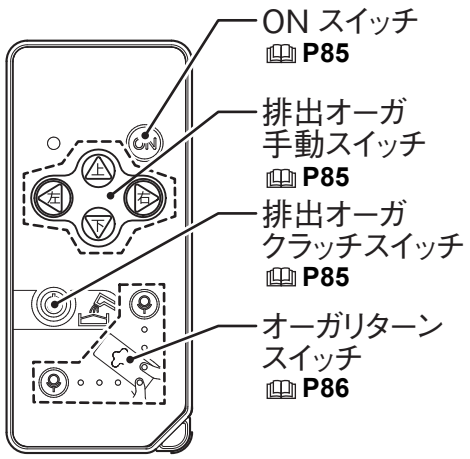
■ サイドコラム部周辺



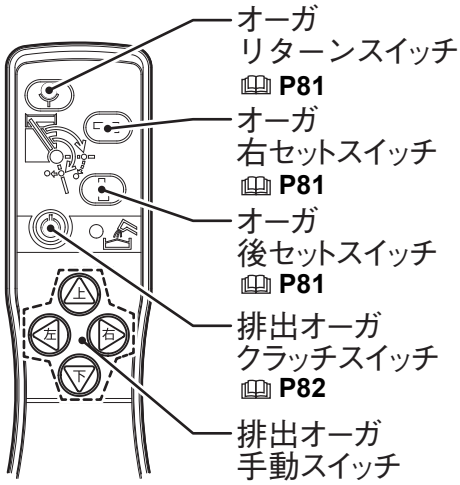
■ フロントコラム部・ハンドル部



無線リモコン P84

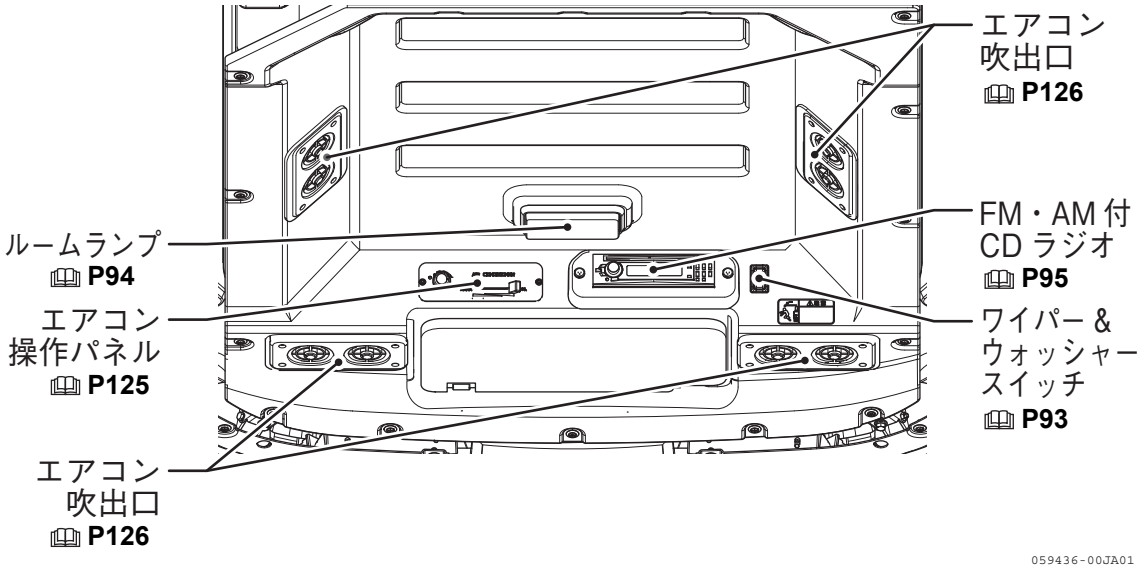


オーガマルチリモコン P81



059435-01JA00

■ キャビン天井


エアコン
吹出口
P126
FM・AM 付
CD ラジオ
P95
ワイパー &
ウォッシャー
スイッチ
P93
ルームランプ
P94
エアコン
操作パネル
P125
エアコン
吹出口
P126
059436-00JA01

安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。
- ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡事故を含む事故や損害事故の破損が生じる場合があります。
  ※ご購入いただいた製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

⚠印付きのマークは、安全上、特に重要な項目です。必ずお守りください。

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。
[重要]	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
[参考]	作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

運転(作業)する人について

⚠注意

■ コンバインおよび装着するアタッチメントの取扱説明書および安全銘板の内容を十分に理解する

【守らないと】
けがをするおそれがあります。



■ 取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や、子供は運転しない

作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。また、取扱説明書の内容が理解できない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡してください。

【守らないと】
誤作動などにより、けがをするおそれがあります。

⚠注意

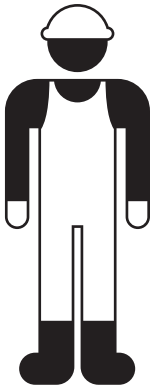
■ 体調が悪いとき、運転が未熟な人は運転しない

つぎの項目にあてはまるときは、コンバインを運転しないでください。

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- お酒を飲んだとき。
- 妊娠中の人。
- 18才未満の人。

【守らないと】
誤作動などにより、けがをするおそれがあります。

■ 作業に適した服装をする



- だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
- 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
- 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】
コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒してけがをするおそれがあります。

■ コンバインを他人に貸すときは



取り扱い方法や、安全な使いかたをよく説明し、使用前に必ず「取扱説明書」を読むように指導してください。

【守らないと】
けがをするおそれがあります。

■ 運転するときは携帯電話、タブレット端末を使用しない

- 携帯電話、タブレット端末を使用しないでください。
- 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】
誤操作などにより、けがをするおそれがあります。

運転(作業)するコンバインについて

⚠危険

■ わらくずの上で絶対に作業しない



わらくずが堆積している付近にコンバインを止めて、作業をしないでください。

【守らないと】

エンジン周辺の熱でわらくずが高温になって火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業中は絶対に人を近づけない



作業をするときは、十分周囲に注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

また、補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせてください。作業中は、ホーンなどでお互いに合図しあってください。

【守らないと】

死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業中に、カマなどを使って、脱こく部やカッター部を掃除しない

【守らないと】

カマがはねとばされ、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 使用する前には、必ず各部を点検する



コンバインを使用するときは、必ず運転前（作業前）点検を行い、異常な箇所は整備してください。

- 紛失、または損傷した部品は必ず交換してください。
- クラッチ・ブレーキ・ハンドルや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や破損した部品があれば必ず交換してください。
- ボルトやナットのゆるみがないか、定期的に点検してください。
- 異音や異常な振動がないか点検してください。

【守らないと】

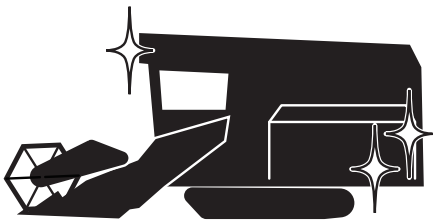
整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

運転前（作業前）点検箇所については、102ページ「運転前の準備」を参照ください。

⚠警告

■ コンバインは常に掃除しておく



バッテリー、配線、排出ガス出口、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着がないことを確認し、付着がある場合は、必ず取り除いてください。

【守らないと】

付着物に引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

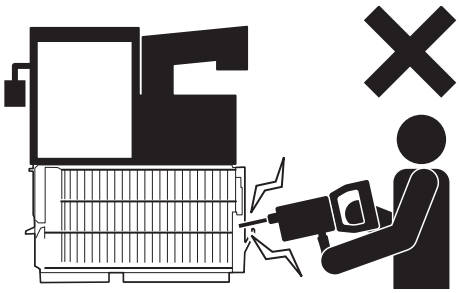
■ 電源容量を守る

電源取り出し用コネクタ以外から電源を取り出して電気機器を使用しないでください。また、電源取り出し用コネクタを利用して電気機器を使用する場合も、制限容量を超えないように使用してください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ コンバインは改造しない

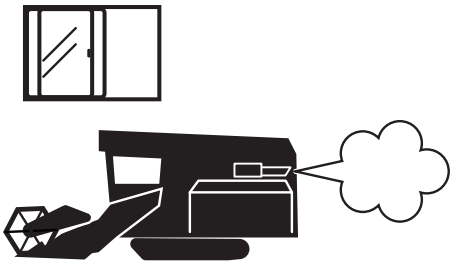


コンバインの改造は絶対にしないでください。

【守らないと】

コンバインの安全性がそこなわれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 排出ガスに十分注意する



倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。

エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内でエンジンを始動するときは、ドアや窓を開けて、換気を十分に行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 寒冷時には必ず暖機運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから必ず暖機運転を長く行ってください。その際、駐車ブレーキを必ずかけ、クローラの前後に車止めをしてください。

【守らないと】

駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤作動する可能性があり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ ブレーキのききや各レバー類の作動点検を行う

ブレーキのきき具合や、マルチハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、不良の場合は必要な処置をしてください。

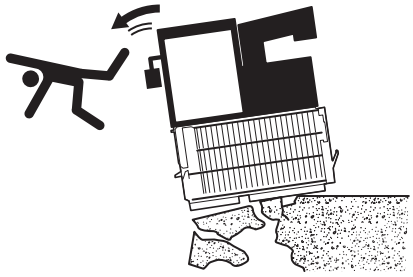
【守らないと】

正常な走行ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 道路の端に寄りすぎない

溝・穴の近くや路肩など、コンバインの重みでくずれるおそれがある場所では、運転しないでください。

草の茂った場所や水たまりは、隠れて見えない窪地などがあるおそれがあります。必ずコンバインから降りて確認してください。走行時は、路肩との距離を十分にとってください。



【守らないと】

転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ グレンタンク内にこく粒が入っているときは

グレンタンク内にこく粒が入っていると、コンバインの重心が高くなり危険です。あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右の傾きが11度以上）での作業および走行はしないでください。

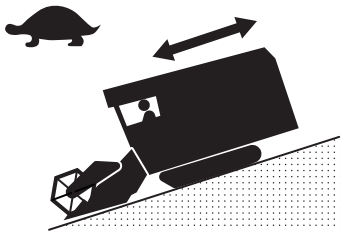
【守らないと】

バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 坂道を走行するときは

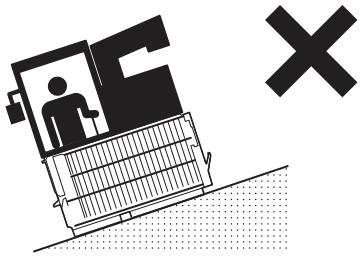
坂道を走行するときは、つぎの項目を必ず守ってください。

- 坂道の途中では駐車しないでください。
- 副変速を操作しないでください。
- 高速（移動）走行、急旋回をしないでください。
- 坂道を斜めに走行しないでください。



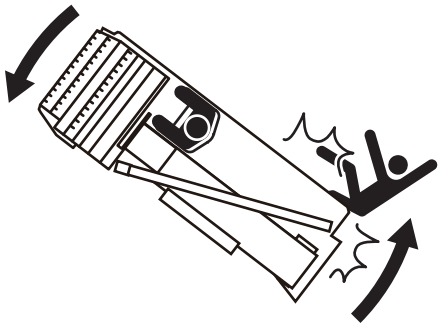
【守らないと】

コンバインが不意に動き出し、バランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ 慎重な運転をする



スピードの出し過ぎに注意し、慎重に運転してください。
走行時は、路肩との距離を十分にとってください。

- 急発進や急停止は、絶対にしないでください。
- 旋回をするときは、コンバインの速度を落としてください。
- 坂道や凹凸道、カーブの多い場所では、コンバインの速度を落としてください。
- わき見運転や、手放し運転は絶対にしないでください。

【守らないと】
転倒や追突により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業部の回転が止まるまで触れない



脱こく部や刈取部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。また、コンベア部やチェン部に手を入れないでください。

【守らないと】
回転するこぎ歯に触れてけがをしたり、コンバインが急に動き出して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジンや排気フィルター周辺部、排出ガス出口、プーリ駆動部の周辺のごみは取り除く



作業中は、エンジンや排気フィルター周辺部、排出ガス出口、プーリ駆動部に付着しているわらくず・ごみ・燃料などを、ときどき取り除いてください。取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、作業関係レバーを「OFF」位置にして高温部が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】
付着物に引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 手刈りした作物をプラットホームに投げ込まない



【守らないと】
回転する刃やリールに巻き込まれ、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 刈取部の下にもぐったり、手足を突っ込まない



【守らないと】
刈取部が下がったときに、はさまれて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ドアを開放したまま作業しない

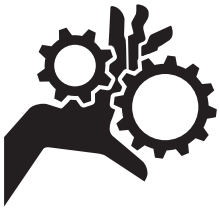
【守らないと】
作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や体がはさまれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 異常と思ったらエンジンをすぐに止める

異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、各作業クラッチ（作業クラッチ・オーガ）を「OFF」位置にしてから点検してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ こく粒排出作業中は、排出口に手を入れない



こく粒排出作業中は、排出オーガ内部でコンベアが回転しているので、排出口に手を入れないでください。

【守らないと】
回転部に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 傾斜地ではエンジンを切らない

【守らないと】
排出オーガが勝手に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合わせる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせしてください。また作業中は、ホーンなどでお互いに合図してから行ってください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 詰まりを取り除くときは、エンジンを停止する

脱こく部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。また、コンベア部・チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 関係法規を守り、ヘルメットを着用する

移動走行時は関係法規を守り、安全のため必ずヘルメットを着用してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 必ず定期点検整備を受ける

1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。電気配線は50時間または1年ごと（どちらか早いほう）に点検してください。燃料パイプなどのゴムホース類は、時間が経過すると劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良により、燃料・熱湯・作動油が漏れてヤケドや火災が起こり、けがをするおそれがあります。

■ コンバインの始動時、発進時は、周囲の安全を確認する

コンバインの始動や発進をするときは、周囲の安全を確認してからゆっくりと発進してください。

- 周囲に人や障害物がないことを確認してください。特に子供やペットには十分注意してください。
- オーガやコンバインに当たる障害物がないことを確認してください。
- コンバインを発進するときや、作業クラッチレバーを操作するときは、ホーンをならすなど周囲に合図をしてから行ってください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。



⚠注意

■ エンジンを始動するときは運転席に座る

エンジンを始動するときは、必ず運転席に座り、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、駐車ブレーキがかかっていること、各作業クラッチ（作業クラッチ・オーガ）が「OFF」位置にあることを確認してください。
ブースター端子や安全スイッチを直結して、エンジンを始動しないでください。

【守らないと】
コンバインが突然動き出して転落し、けがをするおそれがあります。

■ 運転者以外はコンバインに乗らない



このコンバインの乗車定員は1名です。運転者以外の人をコンバインに乗せたり、周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】
振り落とされたりして、けがをするおそれがあります。

■ 暖機運転時､運転席から離れるときなどは駐車ブレーキをかける

暖機運転時、運転席から離れる場合は、必ず安全のためオールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしていること、各作業クラッチ（作業クラッチ・オーガ）が「OFF」・「切」位置にあることを確認してください。

【守らないと】
コンバインが突然動き出し、けがをするおそれがあります。

■ 溝越え時は最低速度で､コンバインを溝に対して直角に合わせる

ほ場の出入りで、急斜面の登り降りや溝越えをするときは、コンバインを斜面や溝に対して直角に合わせ、低速で走行してください。

【守らないと】
コンバインが転倒し、けがをするおそれがあります。

⚠注意

■ 溝や高いあぜを渡るとき､段差を乗り越えるときはアユミ板を使用する



ほ場に入るとき、溝や高いあぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用してください。使用するアユミ板はつぎの基準にあったものにしてください。

- 丈夫で滑り止めのあるもの
- 段差の4倍以上の長さがあるもの
- 幅、強度がコンバインに適したもの

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、けがをするおそれがあります。

■ デバイダヘッドを外し､サイドデバイダ・排出オーガ・乗降ステップを収納する

移動走行時は、デバイダヘッドを外し、サイドデバイダは内側に、排出オーガはオーガレストへ、乗降ステップは操作レバーを操作して収納してください。

【守らないと】

人や物に接触して、けがをするおそれがあります。

■ ほ場を出る前に自動機能を｢切｣にする

ほ場以外で走行するときは、つぎの自動機能を「切」位置にしてください。

- リール高さ、リール変速自動
- セカンドモア自動
- 水平（傾斜角制御機能）
- 刈高さ自動

【守らないと】

自動機能が作動します。自動機能の作動により、けがをするおそれがあります。

■ 刈取作業時以外はEモードスイッチを｢切｣にする

【守らないと】

Eモードスイッチが「入」位置のときは、アクセルダイヤルでのエンジン回転調節ができないため、けがをするおそれがあります。

⚠注意

■ あぜを乗り越えるときは、最低速度であぜに対して直角に渡る

あぜを乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ずあぜに対して直角に渡ってください。

【守らないと】

バランスがくずれて転倒し、けがをするおそれがあります。

■ 夜間作業をするときは、作業灯を使用する

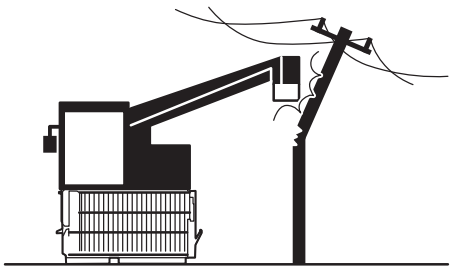


夜間作業をするときは、作業灯を点灯し、周囲が確認できる状態で作業をしてください。

【守らないと】

周囲の状況がわかりにくく、けがをするおそれがあります。

■ 排出オーガを操作するときは、周囲の障害物に注意する



排出オーガを上昇・下降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確かめ、ゆっくりと操作してください。

【守らないと】

接触して、けがをするおそれがあります。

■ 排出オーガの先端には、もみ袋などを吊り下げ、作業をしないでください

【守らないと】

排出オーガの変形やこく粒詰まりの事故および駆動系の破損のおそれがあります。

運搬するときの注意事項

⚠警告

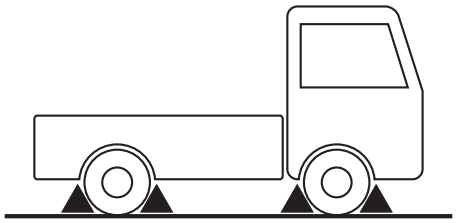
■ ほ場間の移動には、十分に強度のあるトラックを使う

積載荷重6t以上のトラックを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ コンバインを積み込むときは、必ずトラックに車止めをする



コンバインを積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤの前後に車止めをしてください。

【守らないと】

トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

アユミ板は丈夫で滑り止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15 度以下になる長さのものを使用してください。また、アユミ板は段差の4倍以上の長さがあるものを使用してください。

【守らないと】

アユミ板が折れたり、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、事前にアユミ板の平行や安定を確認する



アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。積み・降ろしをするときは、アユミ板の先端のツメがトラックの荷台後方にあるフックにかかっていることを確認してください。荷台にアユミ板のツメをかけるフックがないトラックへの積み・降ろしは行わないでください。

特にコンバインがアユミ板とトラックの荷台の継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分注意してください。

【守らないと】

積み・降ろし中にバランスをくずして転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 積み･降ろし作業は､誘導者をつけて行う



トラックへの積み・降ろし作業は誘導者をつけて、周囲の安全を十分に確認してから行ってください。また、誘導者は積み・降ろしするコンバインの直前・直後には立たないでください。

【守らないと】

転落などの傷害事故を引き起こすおそれがあります。

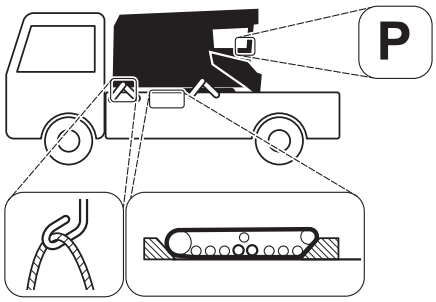
■ 運搬するときは､コンバインのエンジンを停止し､駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、コンバインのエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしてください。

【守らないと】

運搬中、荷台からコンバインが転落して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み込んだコンバインをトラックに荷締機で確実に固定する



荷締機をコンバインのフックにかけ､トラックと確実に固定してください。

【守らないと】

運搬中、荷台からコンバインが転落して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

コンバインのフックの位置は304ページをご覧ください。

■ トラックでの輸送時には､コンバインの各カバーを固定する

カバー類や折りたたみができる部品などは、運搬中、風圧で脱落するおそれがあります。確実に固定するか、外して荷台に置いてください。グレンタンク部、脱こくサイドカバー・グレンタンク下部カバーも確実にロックしてください。

【守らないと】

風圧で脱落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 積み・降ろしは平たんで安定した場所で行う

トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物のない、平たんで安定した場所で行ってください。

【守らないと】

転落、転倒事故により、けがをするおそれがあります。

■ 傾斜した荷台・アユミ板の上では、副変速操作、進路変更をしない



積み・降ろしをするときは、ゆっくりとした速度で、アユミ板に対して直角に進み、途中で副変速操作やハンドルを切らない（進路変更をしない）ようにしてください。

【守らないと】

コンバインが不意に動き出したり、バランスがくずれて転倒し、けがをするおそれがあります。

■ 長距離輸送をするときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください

トラックによる長距離輸送の場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご連絡ください。

【守らないと】

思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

駐車･格納するときの注意事項

⚠危険

■ 燃えやすいものが堆積した場所に駐車しない

乾燥した草やわらなど、燃えやすいものが堆積した場所にコンバインを駐車しないでください。

【守らないと】

堆積物に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ グレンタンクを開くときは

グレンタンクを開くときは、つぎの事項を必ず守ってください。

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。

【守らないと】

グレンタンクが不意に回動し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

グレンタンクの開きかたは170ページをご覧ください。

■ シートはコンバインの排気フィルター周辺や排出ガス出口、エンジンが十分に冷えてからかける

コンバインにシートをかけるときは、排気フィルター周辺や排出ガス出口、エンジンが十分に冷えていることを確認してから行ってください。

【守らないと】

高温の状態でシートをかけると、シートに引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 駐車するときは、平たんで安定した場所に止める

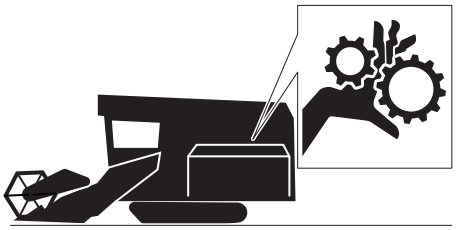
コンバインを駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、刈取部を接地させ、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
また、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、各作業クラッチ（作業クラッチレバー・オーガ）が「OFF」・「切」位置にあることを確認してください。
コンバインから離れるときは、必ずキーを抜いてください。
【守らないと】
コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ロータカバーを開閉するとき

ロータカバー開閉時は、つぎの事項に注意してください。

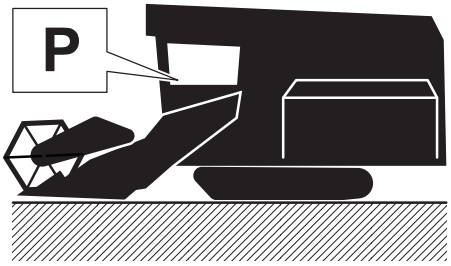
- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- 安全帯を安全帯取付用フックに取り付けてください。
- ロータのこぎ歯に注意し、素手で触らないでください。
- ロータカバーを閉じるときは、ロックハンドルが「ロック」位置にあることを確認してください。

【守らないと】
回転部などでけがをするおそれがあります。また、作業中にロータカバーが開いたときは、ロータ内からの作物などの飛散により、けがをするおそれがあります。



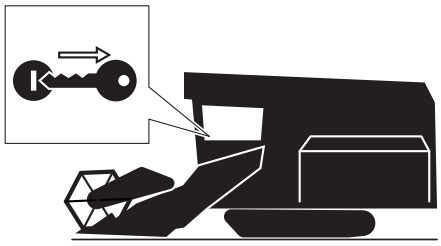
■ 掃除をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

掃除をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしてください。
【守らないと】
回転刃や刈刃などで手をはさまれて、けがをするおそれがあります。



■ 格納時には、バッテリーをコンバインから外し、キーを抜いておくこと

コンバインを格納するときは、バッテリーを外し、キーを抜いて保管してください。
【守らないと】
事故を引き起こすおそれがあります。



⚠警告

■ 1日の作業終了後は、各部を掃除する

1日の作業が終わったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ごみなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 平たんな場所にコンバインを保管する

コンバインは、平たんな場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキをかけて保管してください。

【守らないと】

不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■ 運転席以外の場所に乗らない

脱こく上やエンジンルームなど高い場所の整備や手入れをする場合は、脚立などを使用してください。

【守らないと】

エンジンルームの上などは高温となっているためヤケドをしたり、バランスをくずして高いところから転落し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



点検・給油・整備するときの注意事項

⚠危険

■ 燃料を補給するときは火気厳禁



燃料を補給するときは、くわえタバコや裸火照明をしないでください。また、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

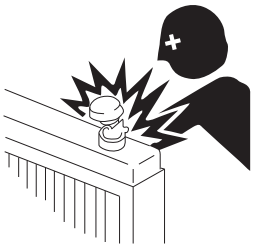
■ 注油・給油は、エンジンが冷えてから行う

エンジン回転中やエンジンが高温の間は、給油・注油を絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料やオイルに引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さない



ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

また、エンジン停止後30 分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

【守らないと】

熱湯が噴き出し、ヤケドによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーを点検するときは、保護メガネとゴム手袋を着用し、バッテリー液を体や衣服に付けない



バッテリーに入っている電解液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗ったあと、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】

バッテリーに入っている電解液（希硫酸）により、ヤケドなどによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠危険

■ バッテリーを点検するときは火気厳禁



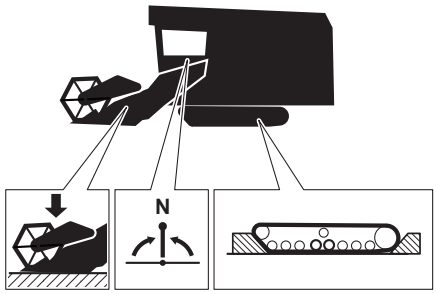
液槽キャップを開けると、バッテリーの液槽口から爆発性のあるガスが出ます。バッテリーを点検するときや、液槽キャップを開けるときは、絶対に火気を近づけないでください。

【守らないと】

ガスに引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 点検・給油・整備は平たんで安定した場所で行う



点検・給油・整備をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所にコンバインを駐車し、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラの前後に車止めをしてください。また、刈取部は地面に接地させ、オールマイティシフトレバー、副変速レバーが「N」（中立）位置にあること、作業クラッチレバーが「OFF」位置にあることと、回転部が停止されていることを確認してください。

【守らないと】

コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料を補給したあとは、燃料キャップを締める

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こし、ヤケドや傷害事故をするおそれがあります。

■ 燃料漏れに注意する

燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災が起こり、ヤケドや傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 電気部品や電気配線を点検する

電気配線が他の部品のエッジ部に接触していないか、配線の被覆がはがれていないか、配線の固定部がゆるんでいないか点検し、不備がある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】

ショートして、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ バッテリー液を「下限(Lower)」以下にしない

バッテリー液が「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの脱着は、正しい手順で行う

バッテリー端子を外すときは、(-) 側のケーブルから先に外し、取り付けは (+) 側のケーブルから取り付けてください。

【守らないと】

ショートしてヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 必ず指定のバッテリーを使用する

バッテリーを交換するときは、必ず指定された型式のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

ショートしてヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

指定バッテリー：115D31R

■ バッテリー上面、周辺は常に清潔にする

バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にし、バッテリーや配線に付着しているわらくず・ごみを取り除き、排気穴をふさがないようにしてください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ コモンレールエンジンの不調はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください

サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら、ご自身で分解・修理をせず、必ずお買い上げいただいた特販店または JA までご連絡ください。

【守らないと】

高圧燃料により傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 刈取部を上げて点検作業をするときは､必ず刈取部をストッパで固定する

刈取部を上げて点検作業をするときは､刈取部ストッパで必ず固定してください。

【守らないと】

刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

刈取部ストッパのセットのしかたは 183 ページをご覧ください。

■ 各部の脱着･オープン､点検･整備･調節を行うときは､必ずエンジンを停止させる

各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ､駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしてください。

【守らないと】

回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれあがります。

■ 定期的に各部のベルトを確認する

各部のベルトは定期的に確認し、損傷している場合は交換し、張りがゆるい場合は正規の寸法に調節してください。

【守らないと】

ベルトの切損やスリップにより火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ブレーキの点検整備は必ず行う

ブレーキのききが悪いと大変危険です。必ずブレーキの点検整備を行ってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

駐車ブレーキの点検・調節については256ページをご覧ください。

⚠警告

■ 操作レバー、スイッチ類は必ず停止させる

各操作レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は、必要な処置をしてください。

【守らないと】

正常な作業ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ マルチハンドルのきき具合を必ず点検・整備する

マルチハンドルの切れ角と旋回半径（きき具合）が同じか点検してください。異なる場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご連絡ください。

【守らないと】

正常な走行ができず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか、張り具合が適正か点検してください。摩耗やキズが激しい場合は、新しいクローラに交換し、張り具合が適正でない場合は、適正な張り状態に調節してください。

【守らないと】

クローラの耳切れや破損による横滑り・転倒により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

クローラの点検・調節については258ページをご覧ください。

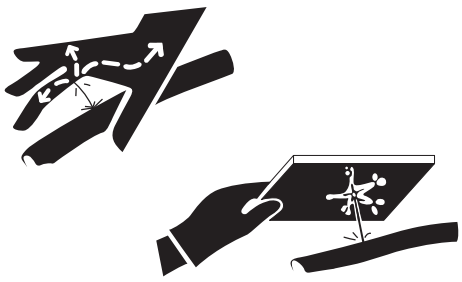
■ 油圧ホースを外すときは、回路内の圧力を抜く

油圧の継手やホースを外すときは、油圧回路内の圧力を抜いてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚を突き破るほどの力があり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの油漏れは、厚紙や板などを使って点検する



高圧油に手や体が直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、ただちに医師の治療を受けてください。

【守らないと】

油が皮膚に浸入した場合、重度のアレルギーを引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ スプレッダの中に手を入れない

スプレッダを点検整備するときは、必ずエンジンを停止し、スプレッダの中に手を入れないでください。

【守らないと】

回転刃に触ると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ スプレッダの脱着は1人で行わない

スプレッダの脱着をするときは、必ずエンジンを停止し、2人以上で作業してください。

【守らないと】

スプレッダは重いので、1人で持ち上げるとバランスをくずし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 排気フィルター周辺が高温のときは絶対に触らない

【守らないと】

ヤケドやけがをするおそれがあります。



■ 各部の点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止する

各部の点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

■ 点検・整備は高温部分が十分に冷めてから行う

【守らないと】

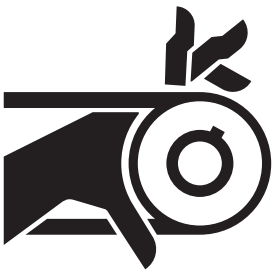
ヤケドやけがをするおそれがあります。

■ 外したカバー類は必ず元通りに取り付ける

点検・整備などで外したカバー類は必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。



⚠注意

■ 回転部に注油するときは､必ずエンジンを停止する



回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

■ 刈刃の手入れ･交換には､厚手の手袋を着用し、刃先を触らない

刈刃の手入れ・交換時には、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。

また、刈刃は重いので、脱着をするときは、必ず２人以上で行ってください。

【守らないと】

素手で刃先に触ると、けがをするおそれがあります。。

■ フィーダハウスに上がって点検､作業するときは、安全帯を装着し安全帯取付用フックに取り付ける

フィーダハウスに上がって点検､作業をするときは必ず安全帯を装着し､キャビンの安全帯取付用フックに取り付けてから作業を行ってください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

無線リモコンを操作するとき

⚠注意

■ コンバインが見える状態で操作する

必ず操作するコンバインが見える範囲で操作をしてください。

【守らないと】

思わぬときに排出オーガが作動してけがをするおそれがあります。

[参考]

- 周囲の状況により電波が弱かったり、ノイズや混信がある場合は、安全機能により、リモコン操作が作動しない場合があります。
- 近くで複数のリモコン操作を行うと、混信などにより作動しない場合があります。

その他の注意事項

⚠注意

■ 廃棄物は適切な方法で処分する

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水、尿素水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。
廃油・使用済みの冷却水などは、地面・河川には絶対に流さないでください。
エアコンのフロンガスは、大気汚染につながる物質です。法律に基づいて、ガスの回収、リサイクルを実施してください。正しい処分方法がわからないときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

【守らないと】
環境汚染につながります。

[重要]

■ エアコンの簡易点検実施について

フロン排出抑制法が施行され、エアコンが装備されたキャビン仕様の場合、以下の項目を実施することが義務化されました。

1. 簡易点検の実施
   3カ月に1回以上の目視による簡易点検を行ってください。点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、すみやかにお買い上げいただいた特販店またはJAへご連絡ください。
2. 記録の保管
   簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械・機器を廃棄したあとも3年間保管する必要があります。

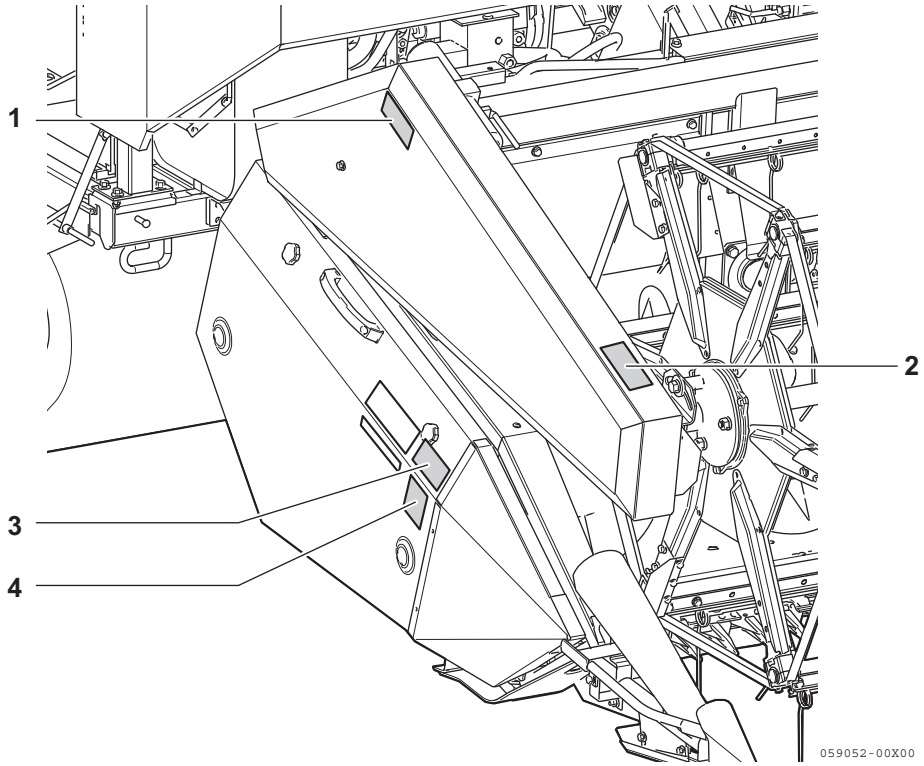
【守らないと】
法令違反となります。

[参考]
簡易点検の方法については、319ページをご覧ください。

安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

安全に作業していただくために、安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は作業をはじめる前に必ず読んで、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。
常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



1. 97260010140　警告(PF)



2. 94690070200　警告(リール)

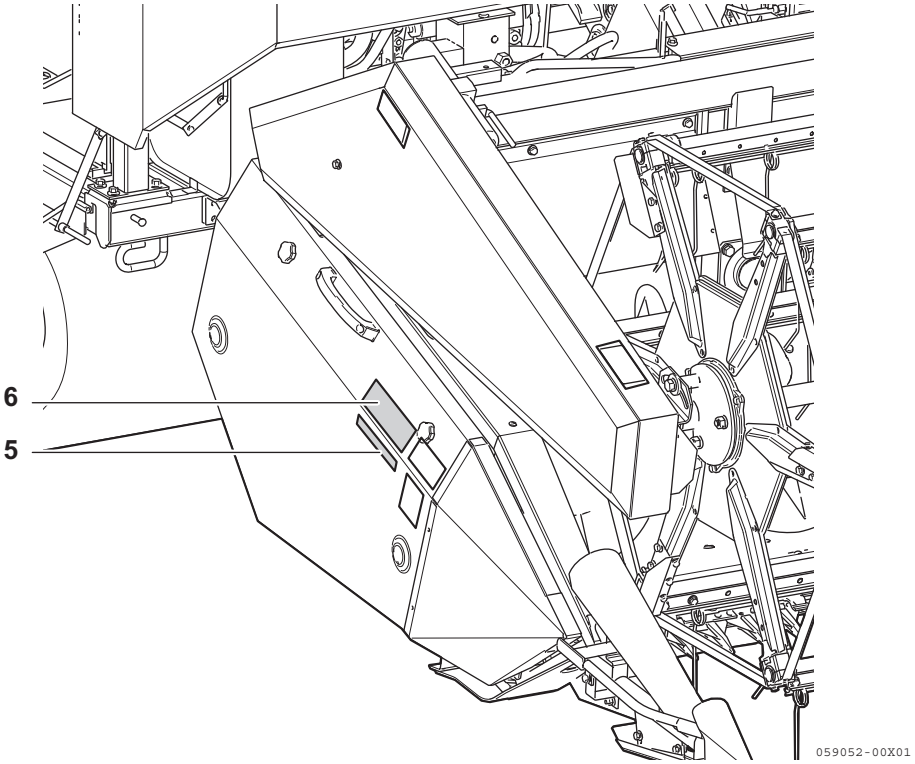


3. 94950001601　注意(デバイダ)

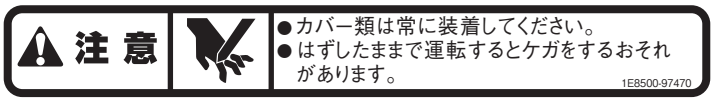


4. 10020070160　注意(エンジン停止)



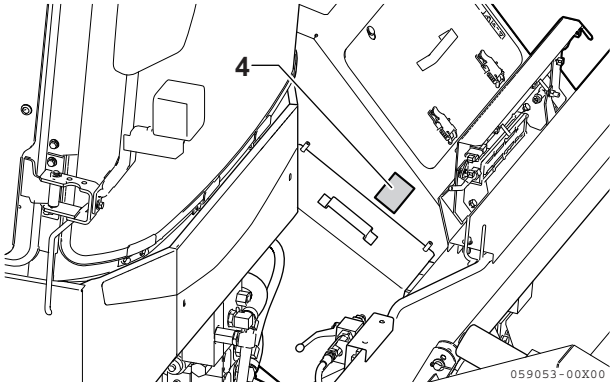


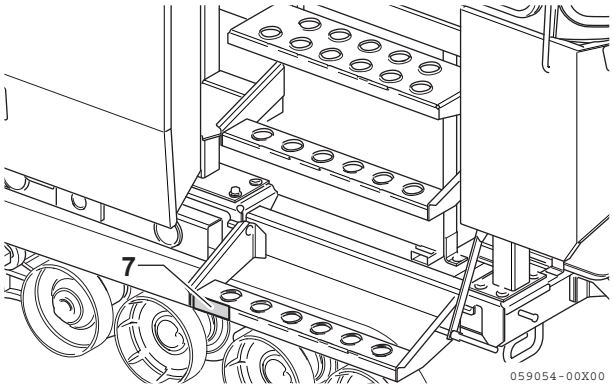
5. 94690070360　注意(ベルトカバーC)



6. 94690070210　警告(点検 A)



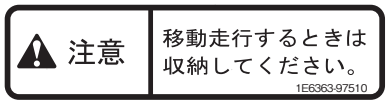


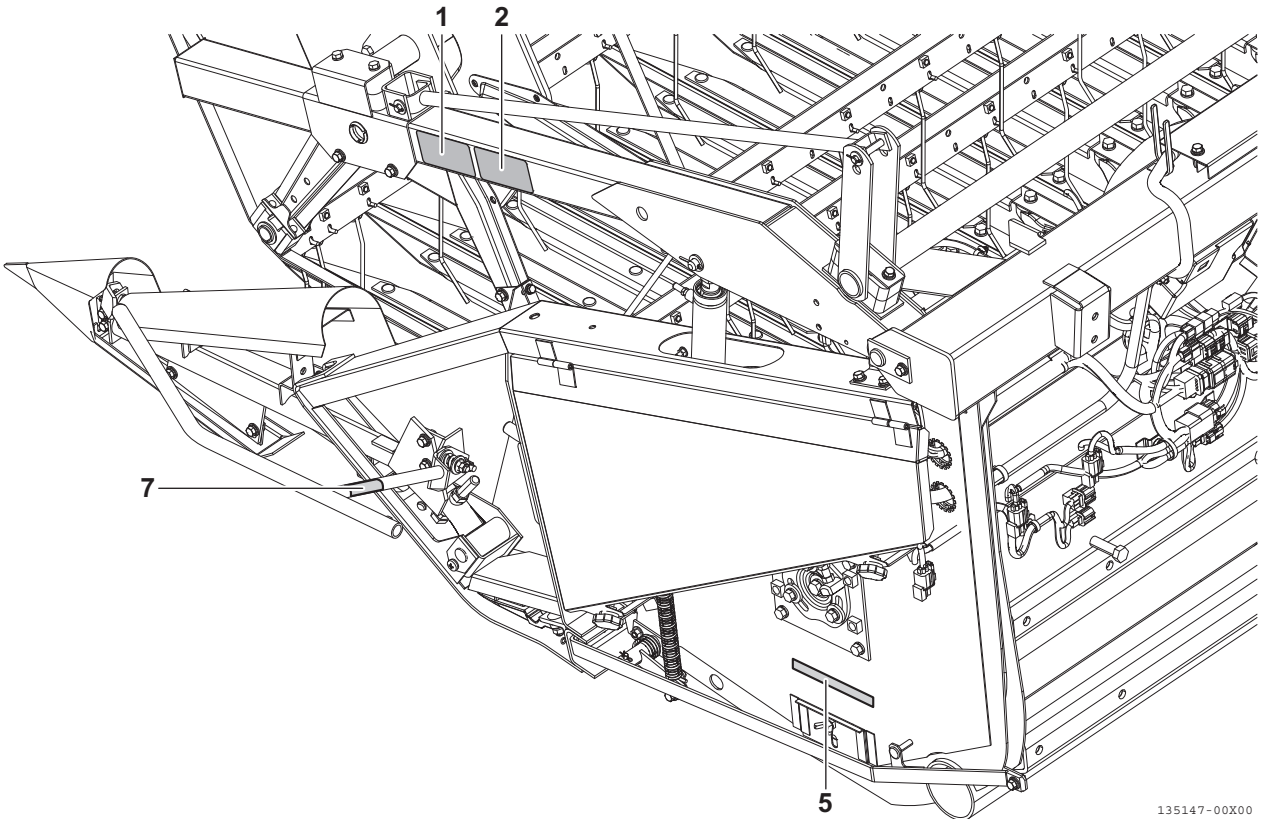


4. 10020070160　注意(エンジン停止)



7. 94690070370　注意(収納)





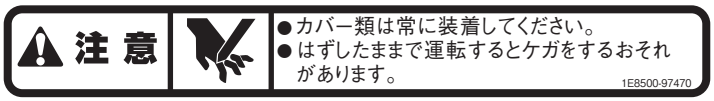
1. 97260010140　警告(PF)



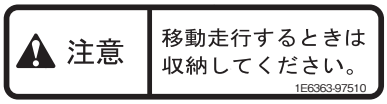
2. 94690070200　警告(リール)

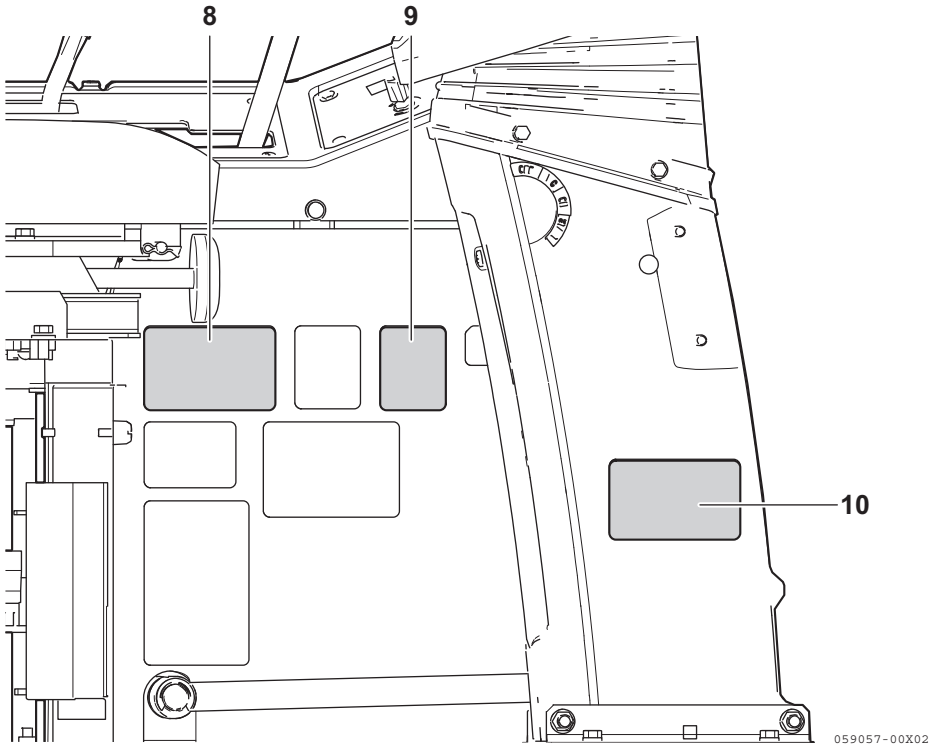


5. 94690070360　注意(ベルトカバーC)

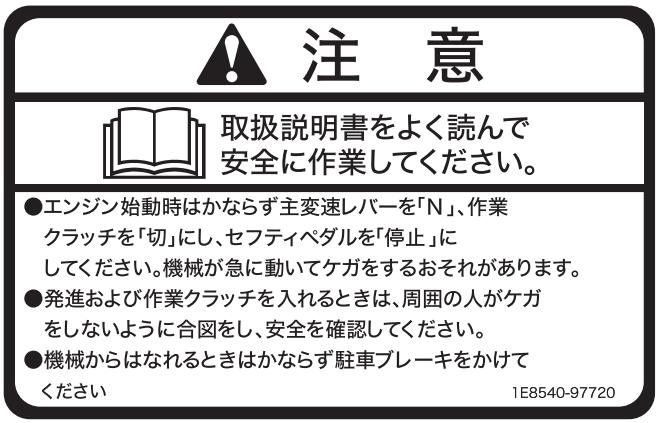


7. 94690070370　注意(収納)





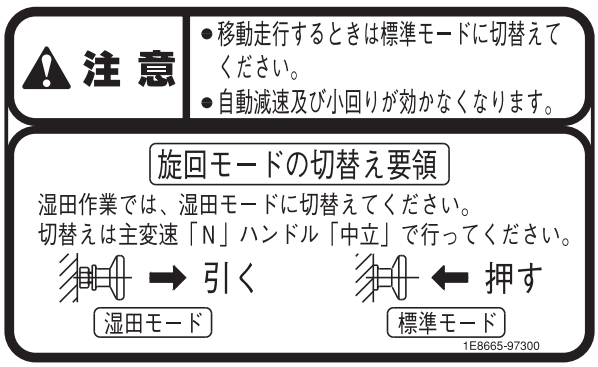
8. 97190000060　注意（取扱 S）

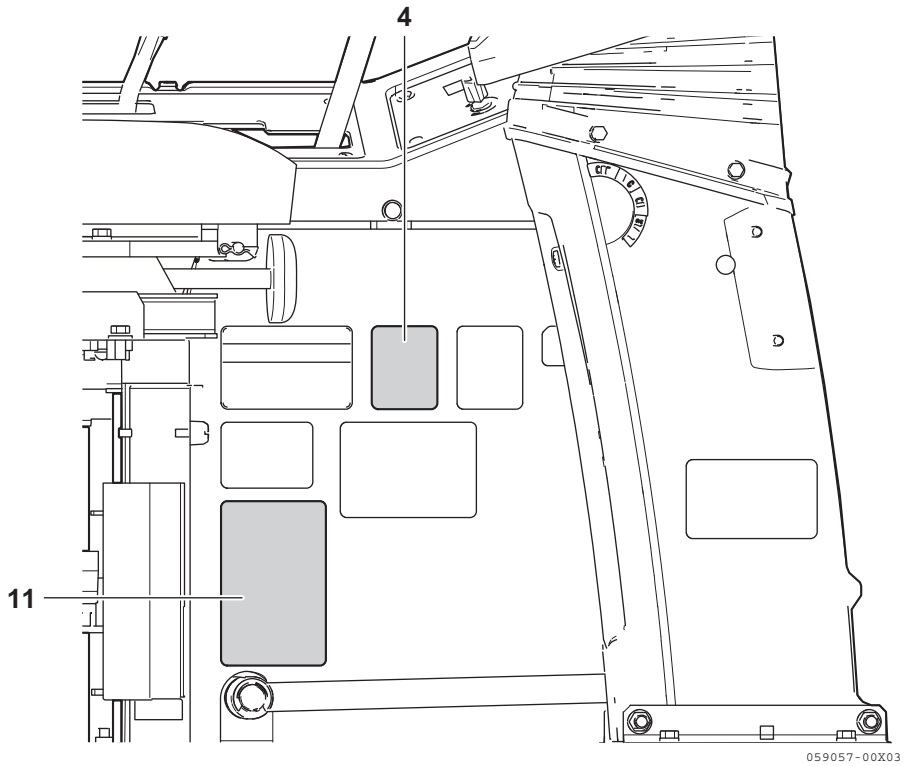


9. 94690070301　注意（注油）



10. 97190000030　注意（旋回モード）

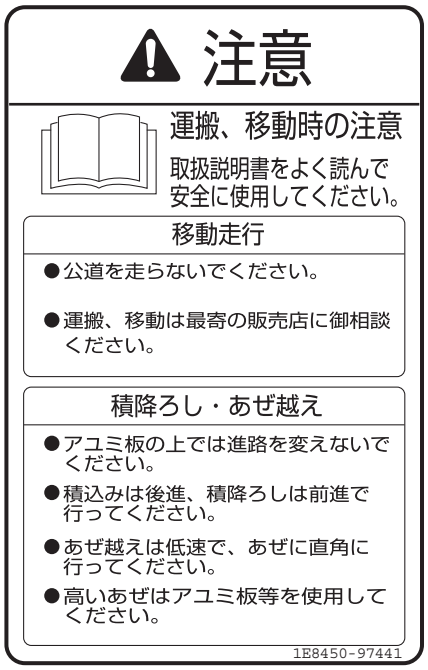


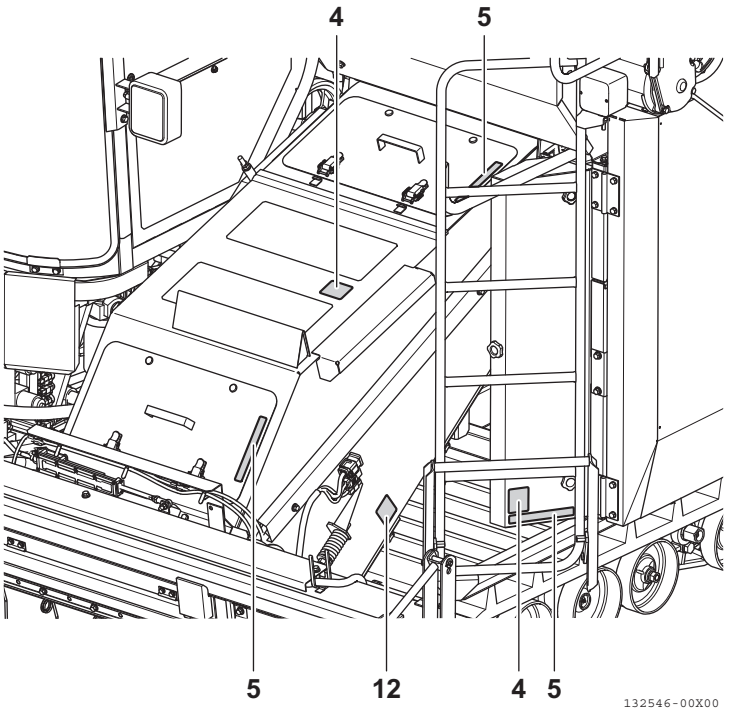


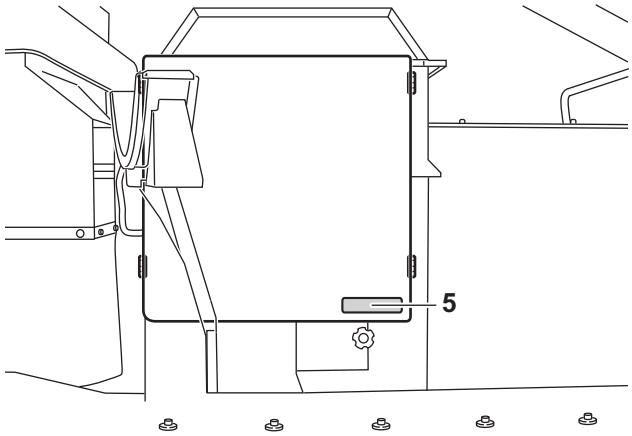
4. 10020070160　注意(エンジン停止)



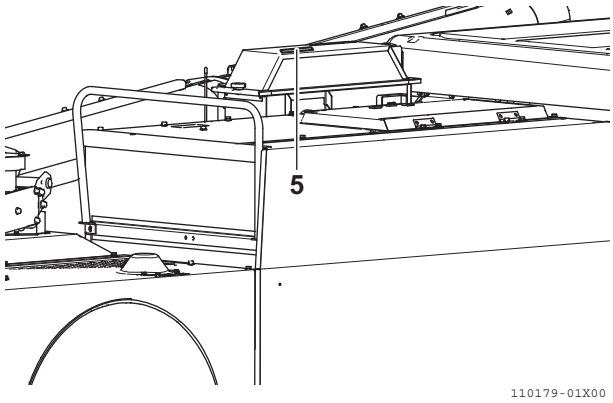
11. 97260005350　注意(運搬・移動)







4. 10020070160　注意(エンジン停止)

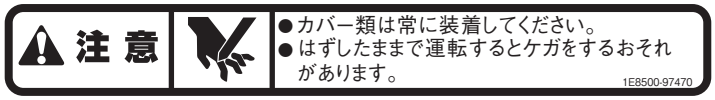


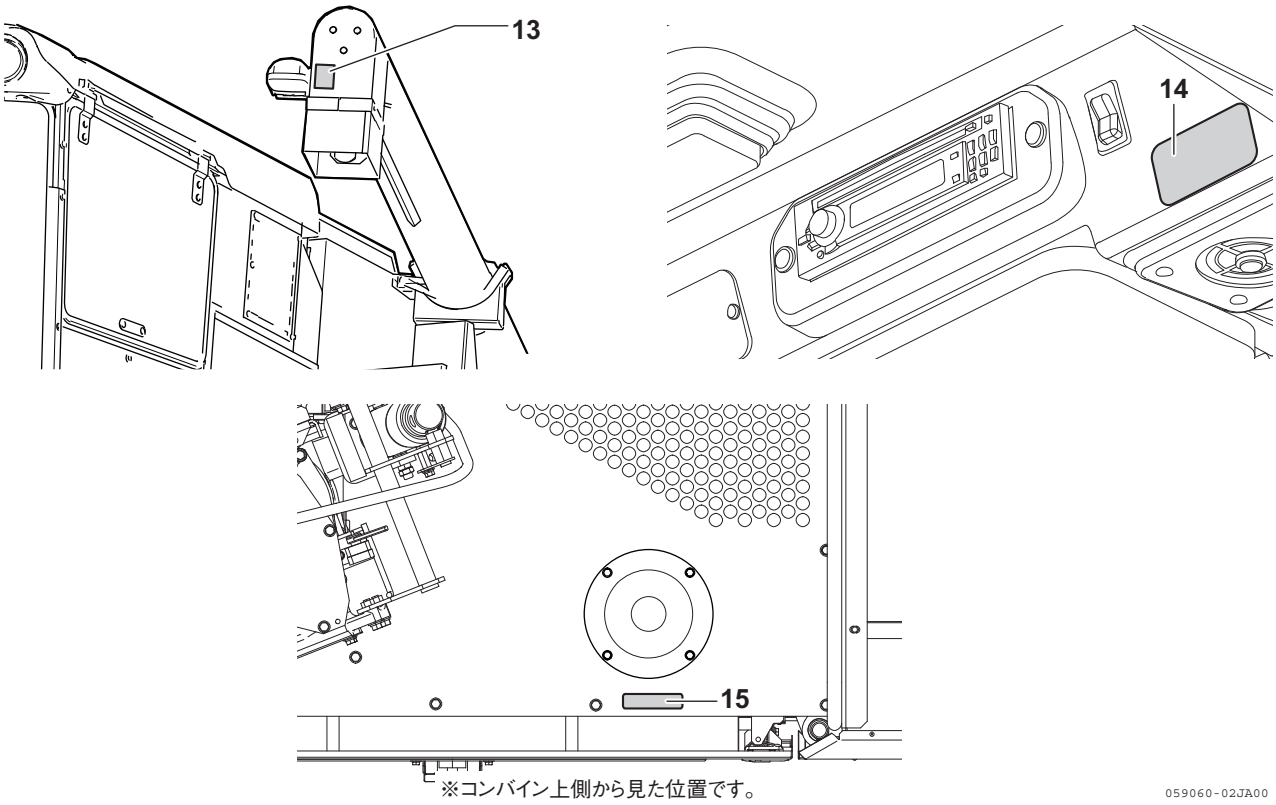
12. 94690070220　警告(刈取点検)





5. 94690070360　注意(ベルトカバー C)





※コンバイン上側から見た位置です。

059060-02JA00

13. 94690070330　警告(点検E)

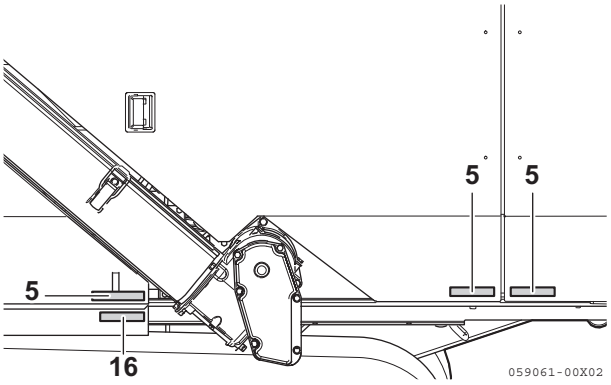


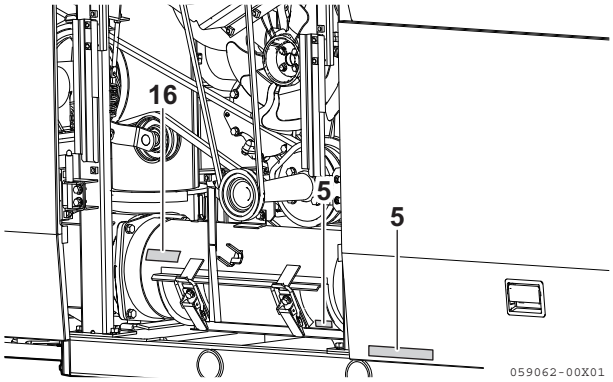
15. 90300029400　危険(ラジエータ)

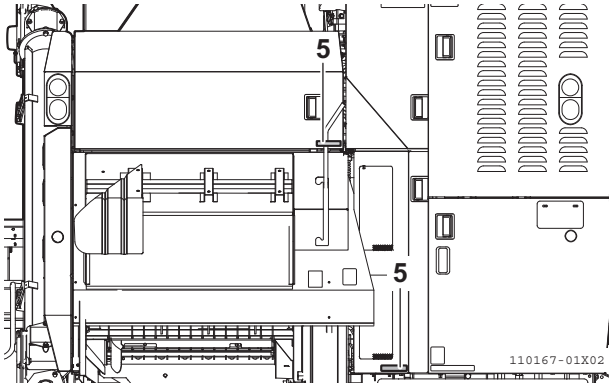


14. 94690070280　注意(オーガ操作)

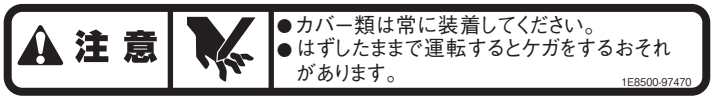






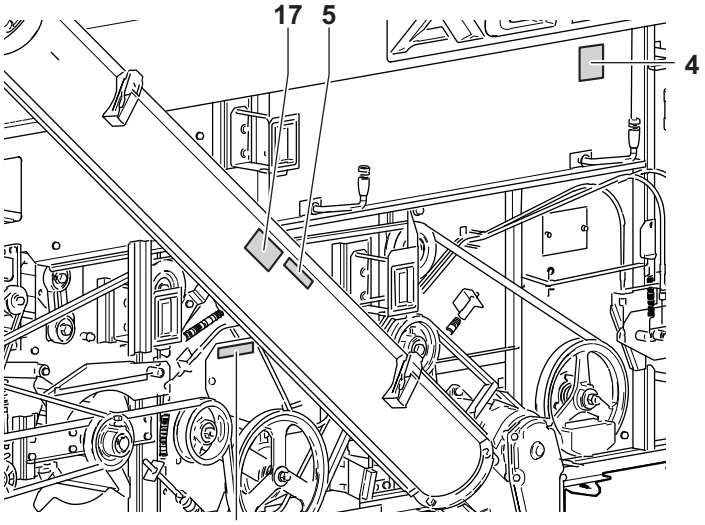


5. 94690070360　注意（ベルトカバーC）



16. 94690070230　注意（コンベア樋）





059063-00X00

4. 10020070160　注意(エンジン停止)



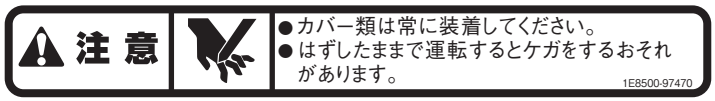
16. 94690070230　注意(コンベア樋)

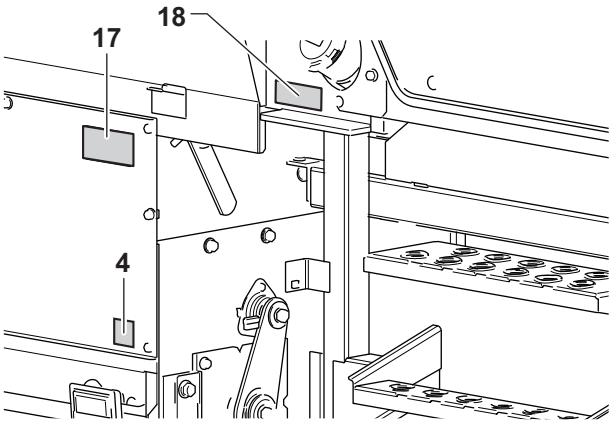


17. 94690070240　警告(点検C)

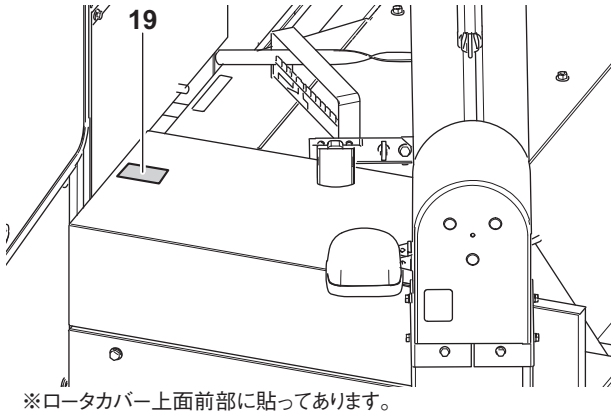


5. 94690070360　注意(ベルトカバーC)

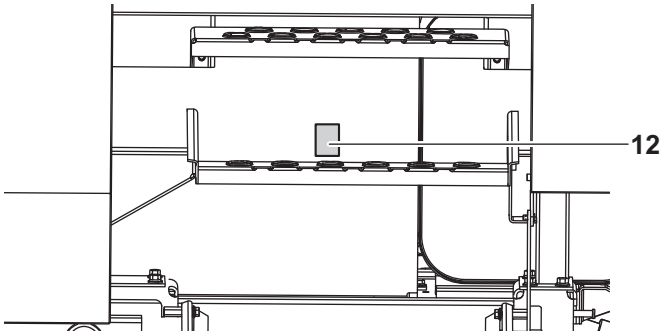




※グレンタンク下部カバーを外しています。



※ロータカバー上面前部に貼ってあります。



059064-01JA00

4. 10020070160　注意(エンジン停止)



12. 94690070220　警告(刈取点検)



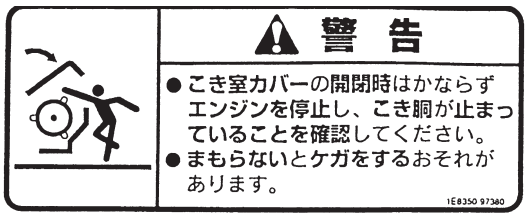
17. 94690070240　警告(点検C)

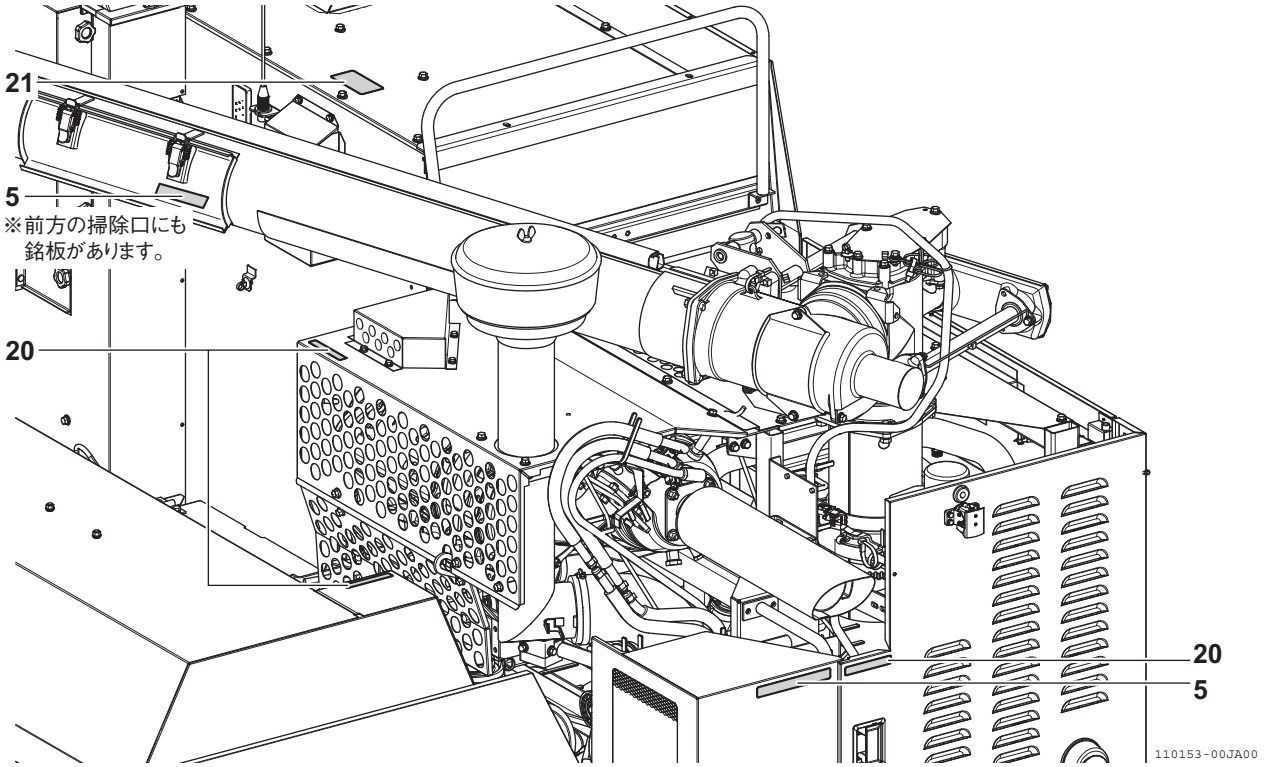


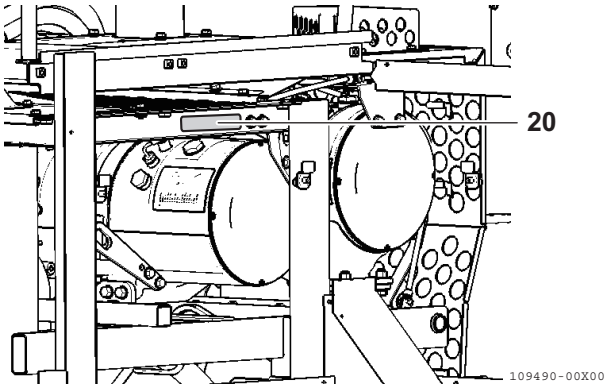
18. 94690070270　危険(火気厳禁B)



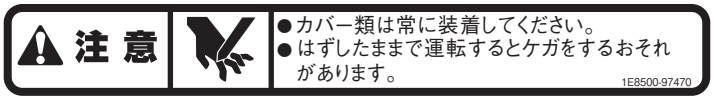
19. 94690070260　警告(こき室カバーB)







5. 94690070360　注意(ベルトカバーC)

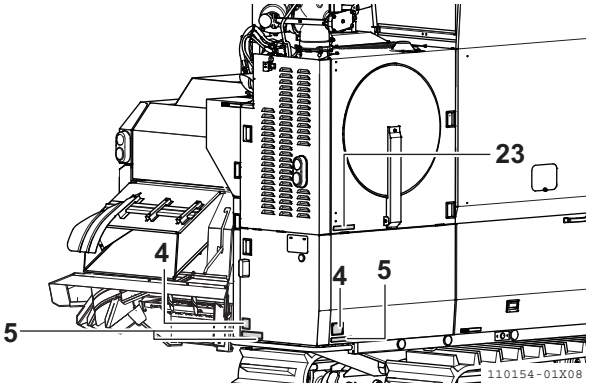


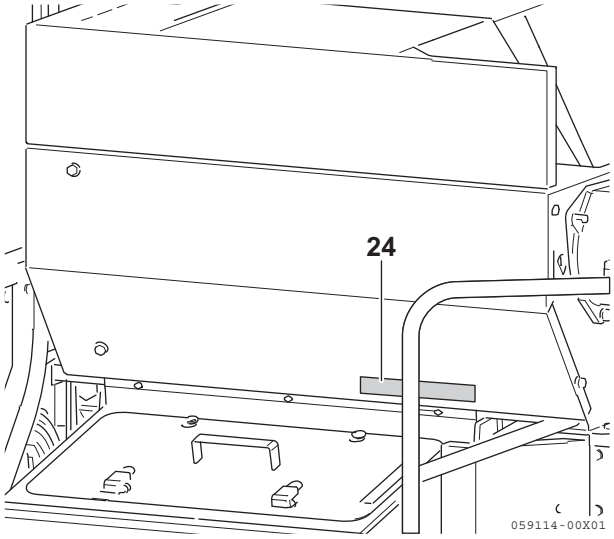
20. 90300029390　注意(マフラー)



21. 94690070250　警告(バケット)



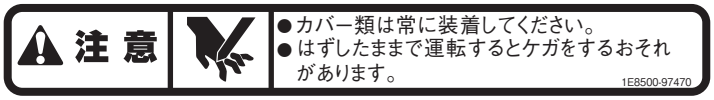




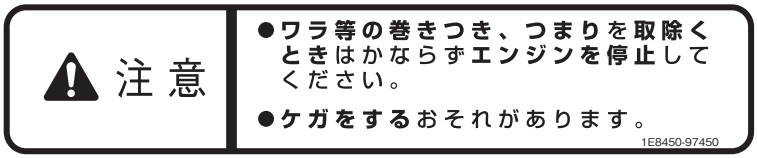
4. 10020070160　注意(エンジン停止)



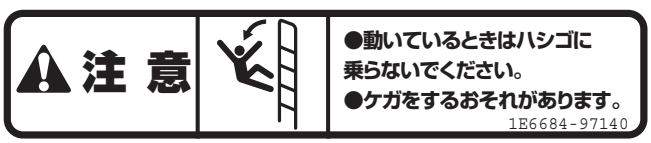
5. 94690070360　注意(ベルトカバーC)

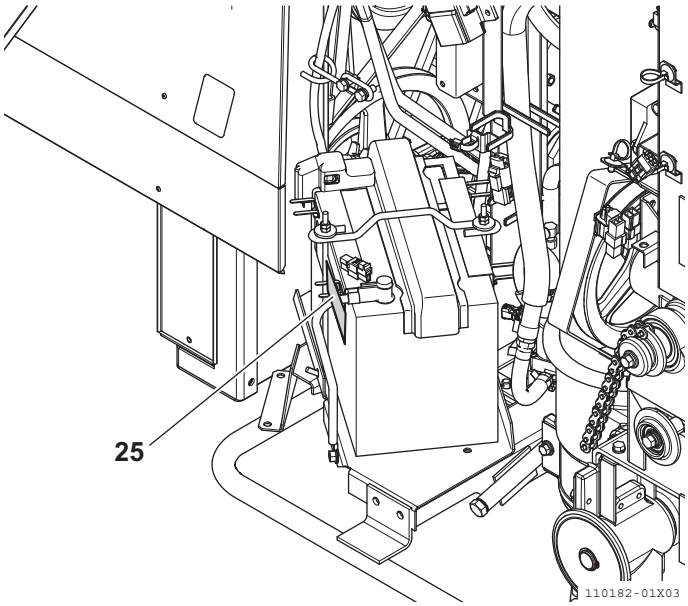


23. 94690070380　注意(点検)



24. 94690070340　注意(ラダー)





25. 91710000040　危険（バッテリー）

⚠危 険

- この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- バッテリーは水素ガスの発生があり、取扱いを誤ると引火爆発のおそれがあります。
- 充電は風通しのよいところで行い、ショートやスパークをさせないでください。
- バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物についたときはすぐに多量の水で洗い、目に入ったときや飲み込んだときは医師の治療を受けてください。
- 充電時火気厳禁　● 急速充電厳禁

1E9265-97480

安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板が破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
  安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

各部のはたらきと使いかた

フロントコラム部

フロントコラム部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

キー

キーは2本用意しています。1本は、スペアキーとしてメインキーとは別に大切に保管してください。

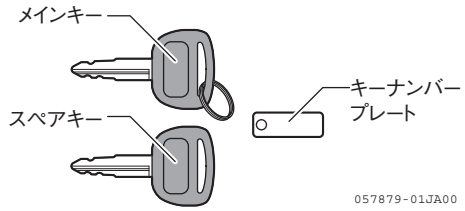


図 2-1 キー

[重要]

キーナンバープレートには、キーナンバーが記載してあります。キーナンバーは、キーを紛失した際に必要となりますのでキーナンバープレートは大切に保管してください。
また、キーナンバーを1ページ目に記入しておいてください。

[参考]

コンバインを譲渡するときは、つぎにお使いになるかたのためにすべてのキーとキーナンバープレートをコンバインにつけてお渡しください。

キースイッチ

⚠ 警　告

コンバインを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。
子供などが操作し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンの始動・停止に使用します。

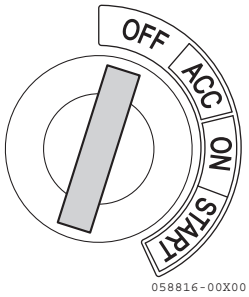


図 2-2 キースイッチ

「OFF（切）」位置
…エンジンが停止します。
（電流が流れず、キーを抜き取れます）
「ACC」位置
… ラジオ・CD を聞くことができます。また、アクセサリーソケットが使用できます。
「ON（入）」位置
… 各電装品スイッチに電流が流れます。
「START（始動）」位置
…セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離します。キーは自動的に「ON」位置に戻り、連続運転になります。

[参考]

- 寒冷時には、キースイッチを「ON」位置にしてから、数秒間はヒータが作動し、エンジンの始動を容易にします。ヒータ作動時には、センターディスプレイに「グロー作動中」と表示されます。
- 作業クラッチレバーが「脱こく」位置の場合には、安全のためにセルモータは回転しません。
- エンジンを始動せずに、キースイッチを「ACC」位置のまま長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。

コンビネーションスイッチ

■ ウインカスイッチ

方向指示器を点滅させるときに使用します。

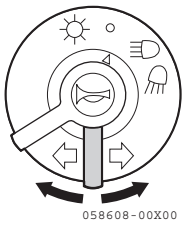


図 2-3 ウインカスイッチ

左へ倒す……左側が点滅します。
右へ倒す……右側が点滅します。

キースイッチを「ON」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時にセンターディスプレイのウインカパイロットランプも点滅します。



図 2-4 ウインカパイロットランプ

■ ライトスイッチ(作業灯スイッチ兼用)

ヘッドライトの照射、および作業灯（キャビン・オーガ先端）を点灯させるときに使用します。
ヘッドライト、作業灯を点灯させると車幅灯（前側左右、後側左右）も点灯します。

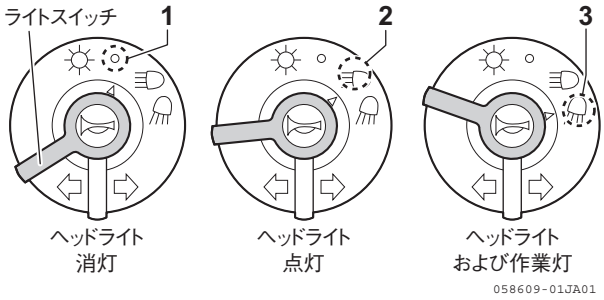


図 2-5 ライトスイッチ

キースイッチを「ON」位置にして、ライトスイッチを（2）（点灯）側に回すとヘッドライトと車幅灯が照射、（3）側へ回すと作業灯も点灯します。
（1）（消灯）側に回すと消灯します。（図 2-5）

■ ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

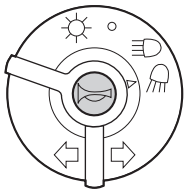


図 2-6 ホーンボタン

キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

チルトレバー

マルチハンドルの前後の角度を調節するときに使用します。好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。（104ページ参照）

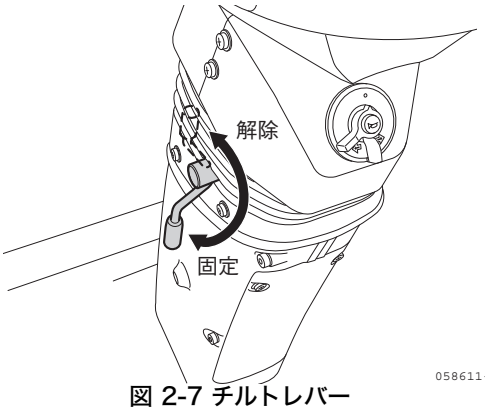


図 2-7 チルトレバー

「解除」方向……ハンドルの固定が解除されます。
「固定」方向……ハンドルが固定されます。

ハンドル部

ハンドル部周辺のスイッチ、ボタンについて説明します。

マルチハンドル

コンバインを旋回させるときに使用します。

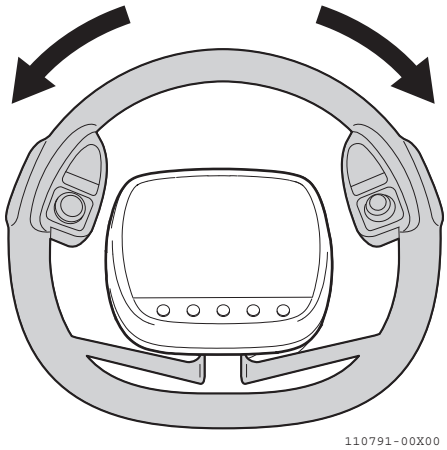


図 2-8 マルチハンドル

マルチハンドルを右へ回すとコンバインが右へ旋回し、左へ回すと左へ旋回します。
さらにマルチハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラが逆転し、旋回半径が小さくなります。

リール昇降･リール速度スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部のリール昇降･リール速度を調節するときに使用します。

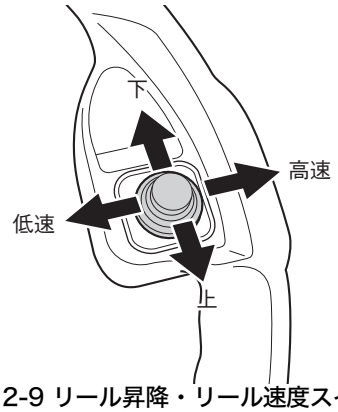


図 2-9 リール昇降・リール速度スイッチ

■ リール昇降機能

「下」側……リールが下降します。
「上」側……リールが上昇します。

■ リール回転速度調節機能

「低速」側……リール回転が遅くなります。
「高速」側……リール回転が速くなります。

[重要]

オールマイティシフトレバー部のリール速度スイッチとマルチハンドル部のリール速度スイッチを同時に異なる方向へ操作した場合、リール速度を調節することができません。

ホーンボタン

ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。

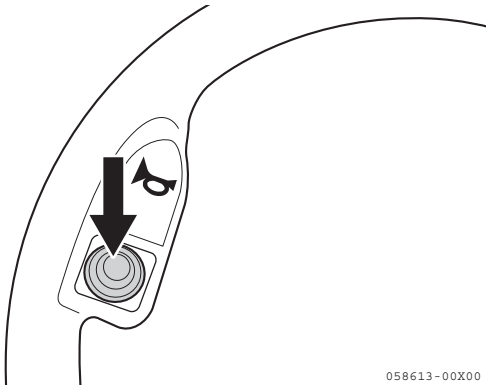


図 2-10 ホーンボタン

キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

センターディスプレイ部

運転中の各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所をディスプレイに文字やグラフィックで表示します。

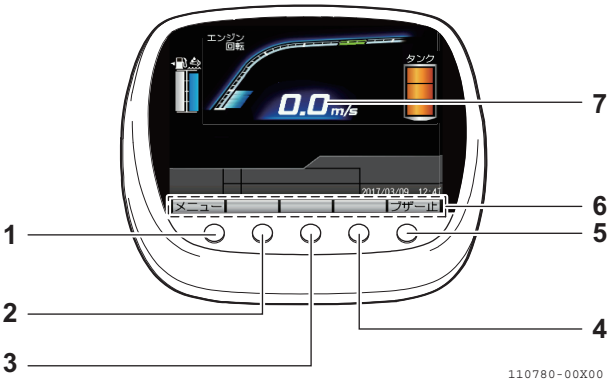


図 2-11 センターディスプレイ部

1. メニュースイッチ

メニュースイッチを押すと、コンバインの設定や、ほ場情報の登録などのメニュー画面を表示します。



図 2-12 メニュー画面

■ コンバイン設定

操作機能の一部を変更できます。（109ページ参照）

■ 基本設定

ディスプレイの明るさや日付を設定できます。
（111ページ参照）

2. 表示切替スイッチ

通常時はメニューが表示されません。
警報やエラー発生時に「表示切替」が表示されます。押すと詳細画面に切り替わります。警報・エラー表示については、70ページを参照してください。

3. 決定スイッチ1

4. 決定スイッチ2

5. ブザー停止スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。
つぎの警報の場合は、ブザー停止スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

- タンクシグナル
- 燃料残量
- 燃料満量
- 尿素水を補給1
- 尿素水満量
- SCRシステム異常
- SCRシステム異常1
- もみ満量警報
- もみ排出完了
- オーガ未収納警報

6. スイッチ表示部

スイッチ1～5の機能を表示します。

[参考]

センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ 1 ～ 5 で行ってください。（図 2-13）

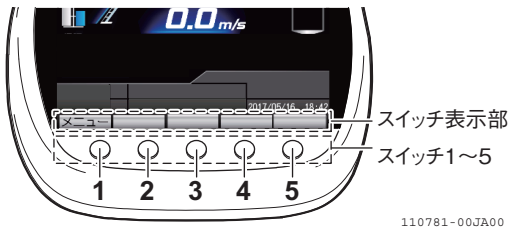


図 2-13

7. センターディスプレイ

運転中のコンバインの情報を文字とグラフィックで表示します。
詳細については、68 ページを参照してください。

〈メンテナンス情報の画面〉
エンジンオイル交換など、メンテナンスが必要になったときに文字で表示します。

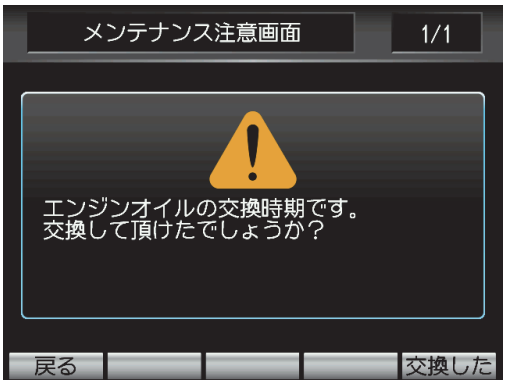


図 2-14 メンテナンス注意画面

〈作動表示の画面〉
エンジン始動時に、ヒータの作動を表示します。
画面下部に「グロー作動中」と表示されます。



図 2-15 グロー作動中画面

〈非作業時（作業クラッチレバー「OFF」）の画面〉
オープニング画面表示のあと、作業クラッチレバーが「OFF」位置のときに表示されます。



図 2-16 非作業時の画面

〈刈取作業時（作業クラッチレバー「脱こく」、「刈取」）の画面〉
エンジン始動後、作業クラッチレバーが「脱こく」位置のときに表示されます。

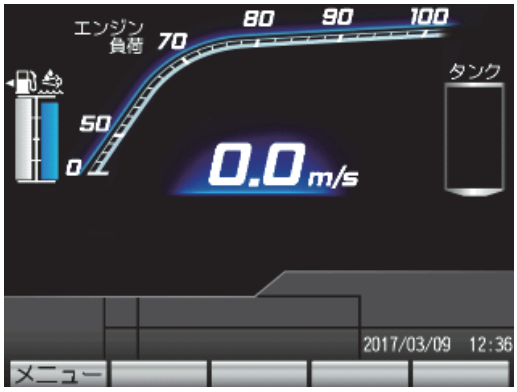


図 2-17 刈取作業時の画面（脱こくクラッチ入時）

〈異常箇所を表示する画面〉

各部に異常があった場合、画面下部に警報表示されます。異常箇所をセンターディスプレイとブザーで知らせます。また、警報表示中に「表示切替」（スイッチ）を押すと、警報詳細画面に切り替わります。

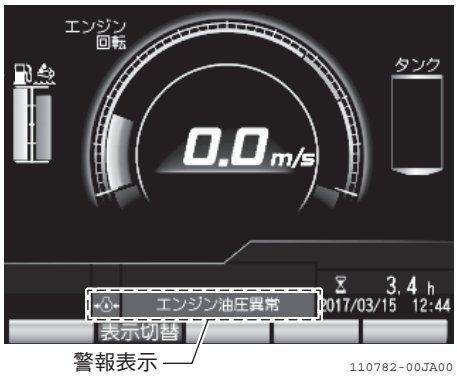


図 2-18 警報表示



図 2-19 警報詳細画面

[参考]

- キースイッチを「OFF」位置にすると、表示がリセットされます。
- ブザーが鳴らない警報もあります。

■ 非作業時（作業クラッチレバー「OFF」）の画面



図 2-20 非作業時（作業クラッチレバー「OFF」）の画面

■ 刈取作業時（作業クラッチレバー「ON」）の画面

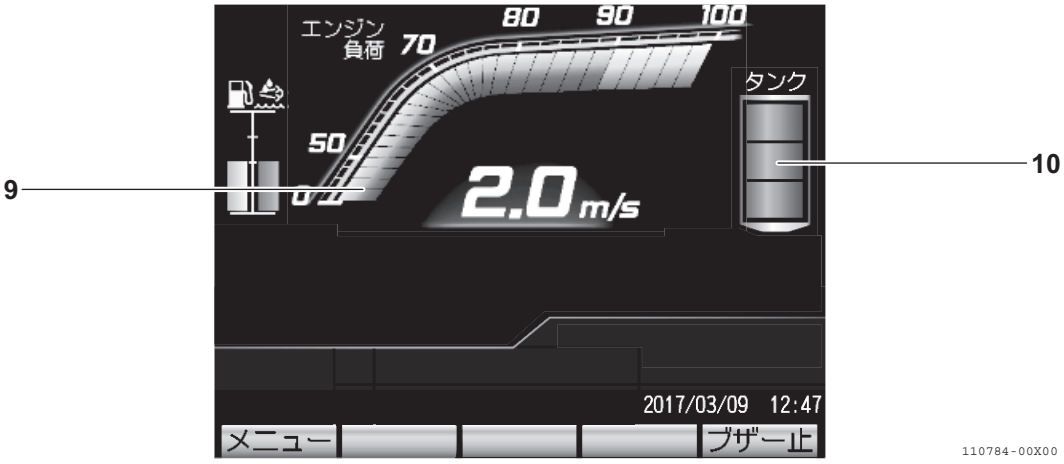


図 2-21 刈取作業時（作業クラッチレバー「ON」）の画面

1. 燃料残量表示

燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに、「●」が点灯、⛽マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。（燃料の残量はおよそ 15L です。）「ブザー止」（スイッチ）を押すと、ブザーが鳴り止みます。

また、キースイッチ「ON」位置で燃料給油時に満量になると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが断続音で鳴り続けます。「ブザー止」（スイッチ）を押すと鳴り止みます。

2. 尿素水残量表示

尿素水の残量を表示します。また、尿素水の残量が少なくなったときに、尿素水マークの上に「●」が点灯、尿素水マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。

ブザーを止めるときは「ブザー止」（スイッチ）を押してください。

3. 回転計

エンジン回転数を表示します。

4. 走行速度

車速を表示します。

5. ウインカパイロットランプ

ウインカスイッチを操作したときに点滅します。

6. ヘッドライト点灯表示

ヘッドライトを点灯させると表示します。

7. アワメータ（作業時間表示）

エンジンの使用時間もしくは、作業時間を表示します。

8. 日付時間表示

現在の日付と時間を表示します。

9. ロードモニター
エンジン負荷を表示します。

10.グレンタンクモニター
グレンタンク内のもみの量を表示します。
グレンタンクモニターが「3/3」の状態になると点滅（橙色）し、ブザーが断続的に鳴ります。グレンタンク内がほぼ満量になると、ブザーが連続的に鳴り、グレンタンクモニターが赤色で点滅します。

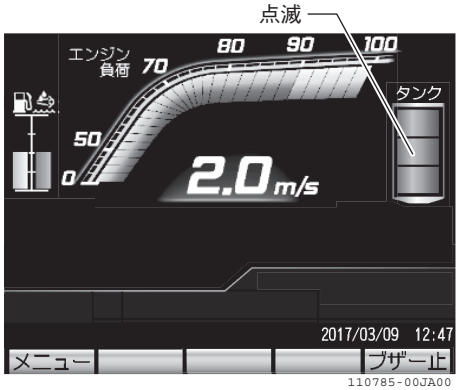


図 2-22 グレンタンクモニター

グレンタンクモニターが赤色で点滅しているときは、「ブザー止」（スイッチ）を押してもブザーは停止しません。もみを排出してください。

表 2-1 グレンタンクの充てん状況

充てん状況	ブザー	内容
	連続音	グレンタンク内のもみ（こく粒）が満量です。脱こくクラッチを切ってもみ（こく粒）を排出してください。
	断続音	グレンタンク内に、もみ（こく粒）が2/3以上充てんされています。
	停止	グレンタンク内に、もみ（こく粒）が1/3~2/3充てんされています。
	停止	グレンタンク内に、もみ（こく粒）が1/3充てんされています。

110786-00JA00

[重要]
ブザーが鳴ったときは、すみやかに排出オーガでもみを排出してください。詰まりなどにより故障の原因になります。

[参考]
- 排出オーガでもみを排出し、グレンタンク内のもみがなくなると、センサが感知し、ブザーが断続で数秒間鳴ります。
- 籾の充てん量は品種や、籾水分、作業面積・旋回回数などによりシグナルの点灯時間は異なります。

グレンタンクモニターが赤色に点滅したときは、画面下部にもみ満量警報が表示されます。「表示切替」（スイッチ）を押すと警報詳細画面が表示されます。



図 2-23 もみ満量警報詳細画面

11.セカンドモア表示
セカンドモアの状態を表示します。



図 2-24 セカンドモア表示

■ 警報表示とエラーコード表示について

異常があったときに警報、またはエラー情報が表示され、警報発生時は、ブザーが鳴ります。
解除されるまでセンターディスプレイ下部に警報の内容、またはエラーコードが表示されます。

〈警報表示画面〉



図 2-25 警報表示画面

[参考]

ブザーが鳴らない警報もあります。

〈エラーコード表示画面〉

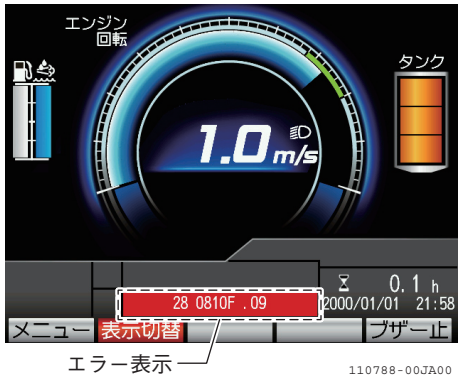


図 2-26 エラーコード表示画面

〈警報内容の詳細表示〉

警報表示中に「表示切替」(スイッチ) を押すと、警報詳細画面に切り替わります。



図 2-27 警報内容の詳細表示

[参考]

強制的にエンジンを停止させる警報 (1番詰まり、スプレッダ詰まりなど) が発生したときは、警報詳細画面が表示されます。

つぎの警報の場合は、「ブザー止」(スイッチ) を押すとブザーが鳴り止みます。

- オーガ未収納警報
- SCRシステム異常1
- SCRシステム異常
- 尿素水を補給1

つぎの警報の場合は、「ブザー止」(スイッチ) を押してもブザーは鳴り止みません。

- オーバーロードモニター
- ロータ詰まり警報
- 1番詰まり警報
- 2番詰まり警報
- スプレッダ詰まり警報
- もみ満量警報
- エンジン油圧異常警報
- オーバーヒート
- チャージ異常警報
- 燃料温異常警報
- ウォーターセパレータ警報
- 排気フィルター異常警報
- 排気フィルター再生要求2
- 排気フィルター再生要求1
- 排気フィルター再生要求
- SCRシステム異常2
- 尿素水を補給2

[参考]

- 通常の画面に戻すときは、「戻る」(スイッチ) を押してください。
- 数件の警報が重なっている場合は、「次ページ」(スイッチ) を押すとつぎの警報詳細画面が表示されます。
- 警報装置については、264 ページを参照してください。

〈エラーコードの詳細表示〉

各種センサにエラーが発生したとき、エラーコードが表示されます。

エラーコード表示中に「表示切替」(スイッチ) を押すと、エラーコード詳細画面に切り替わります。

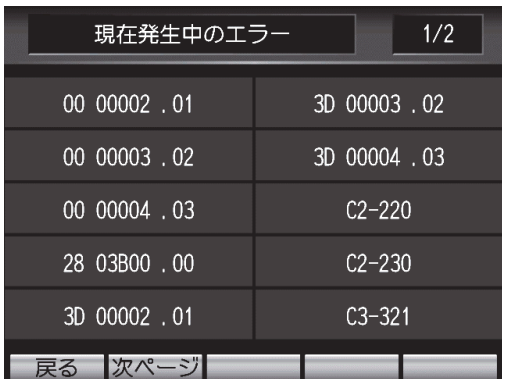


図 2-28 エラーコード詳細画面

[参考]

- 通常の画面に戻すときは、「戻る」(スイッチ) を押してください。
- エラーは、エラーコードのナンバー順に並んで表示されます。
- 数件のエラーが重なっている場合は、「次ページ」(スイッチ) を押すとつぎのエラーコード詳細画面が表示されます。

サイドコラム部(スイッチ・ダイヤル類)

サイドコラム部周辺のレバーやダイヤル、スイッチについて説明します。

リール高さ調節ダイヤル

刈取オートセット作動時のリール高さを調節するときに使用します。

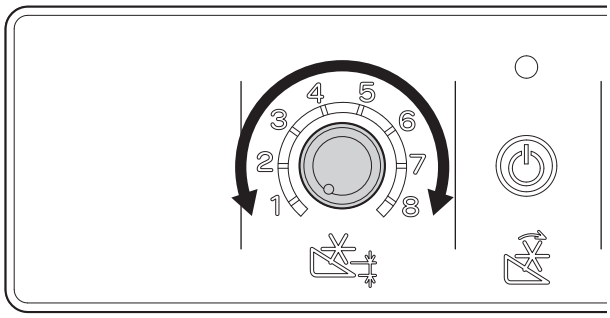


図 2-29 リール高さ調節ダイヤル

「低」側へ回す…リールが下がります。

「高」側へ回す…リールが上がります。

リール変速自動スイッチ

リールの回転速度と作業速度とを同調させるときに使用します。

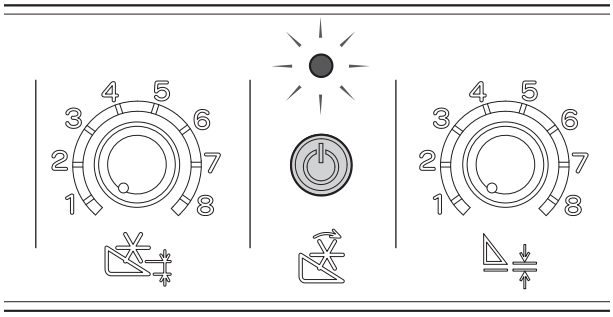


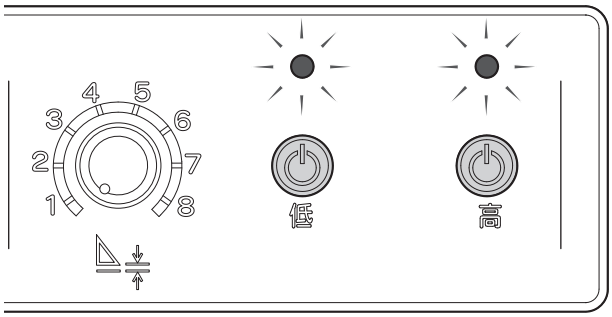
図 2-30 リール変速自動スイッチ

「入」(ランプ点灯) …リール同調制御がはたらきます。

「切」(ランプ点灯) …リール同調制御が切れます。

刈高さ自動切替スイッチ

刈高さを自動制御するときに使用します。
(149ページ参照)



059344-00JA00

図 2-31 刈高さ自動切替スイッチ

■ 低刈モード

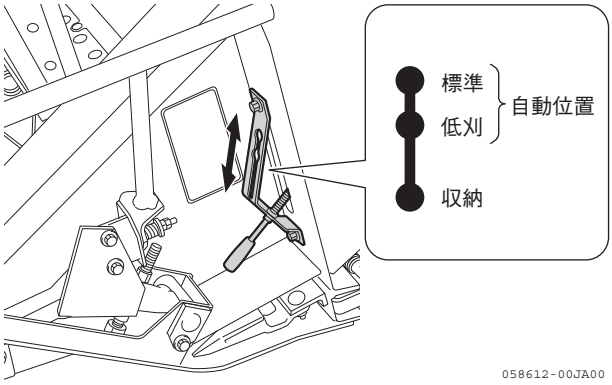
刈取部のセンサソリが地面に接地する高さで刈取作業を行うときに使用します。
「低」スイッチを押す(「低」ランプ点灯)
……刈高さを低刈モードで自動制御します。
「低」ランプ点灯中に「低」スイッチを押す
(「低」ランプ消灯)
……刈高さの自動制御が切れます。
「低」ランプ点灯中に「高」スイッチを押す
(「低」ランプ消灯し、「高」ランプが点灯)
……刈高さを高刈モードで自動制御します。

■ 高刈モード

刈取部のセンサソリが地面に接地しない高さで刈取作業を行うときに使用します。
「高」スイッチを押す(「高」ランプ点灯)
……刈高さを高刈モードで自動制御します。
「高」ランプ点灯中に「高」スイッチを押す
(「高」ランプ消灯)
……刈高さの自動制御が切れます。
「高」ランプ点灯中に「低」スイッチを押す
(「高」ランプ消灯し、「低」ランプが点灯)
……刈高さを低刈モードで自動制御します。

■ センサソリ切替レバーについて

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」または「高」位置(ランプ点灯)で、刈取作業を行うときは、センサソリ切替レバーを「自動」位置にしてください。
  自動位置には「標準」、「低刈」の2つのセット位置があります。
  「標準」… 通常の低刈モードで作業するとき
  「低刈」…「標準」よりもさらに低い位置で作業したいとき



058612-00JA00

図 2-32 センサソリ切替レバー

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」・「高」ランプいずれも消灯の場合に刈取作業を行うときは、センサソリ切替レバーを「収納」位置にしてください。

[重要]

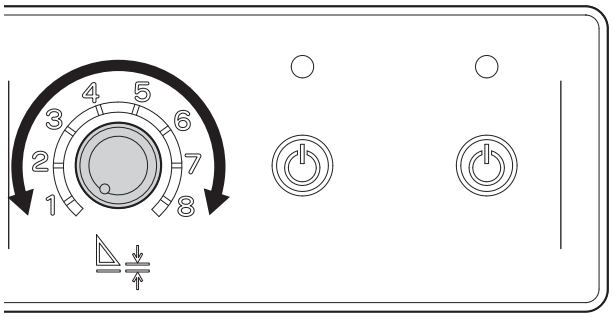
- 刈高さ自動制御が作動中に、刈取昇降スイッチを操作すると、手動操作による操作が優先されます。
- 後進するとき、センサソリが土を引っかけないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。

[参考]

センサソリ切替レバーを操作するときは、刈取部を地面に接地させた状態で行うと、軽く操作できます。

刈高さ調節ダイヤル

刈高さ自動制御の刈高さを調節するときに使用します。



059344-00X02

図 2-33 刈高さ調節ダイヤル

作業クラッチレバーが「刈取」のとき、刈高さ自動切替スイッチの「低」または「高」を押すとランプが点灯し、刈取部が刈高さ調節ダイヤルで設定した高さになり停止します。

「高」方向に回す……刈取部が上がります。
「低」方向に回す……刈取部が下がります。

■ 低刈モード

刈取部のセンサソリが地面に接地する高さで、刈取作業を行います。

■ 高刈モード

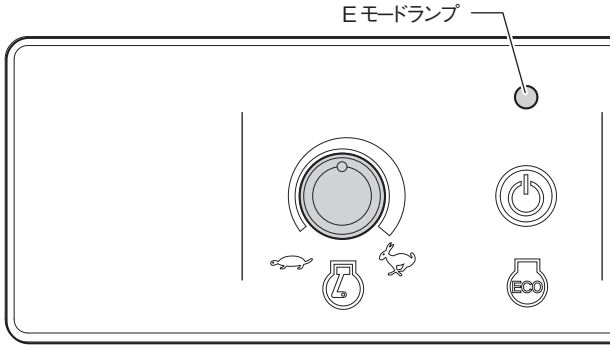
刈取部のセンサソリが地面に接地しない高さで、刈取作業を行います。センサソリが地面に接すると「クイックリフト」が作動し、刈取が上昇しますが、30cm走行すると、元の高さに下降します。

[参考]

「クイックリフト」とは、高刈モードのときに刈取部のセンサソリが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止がはたらき、刈取部が自動的に上昇する機能のことです。

アクセルダイヤル

エンジン回転の調整をするときに使用します。
(Eモードスイッチが「切」(Eモードランプ消灯)のとき、アクセル調整ができます。)



059345-00JA02

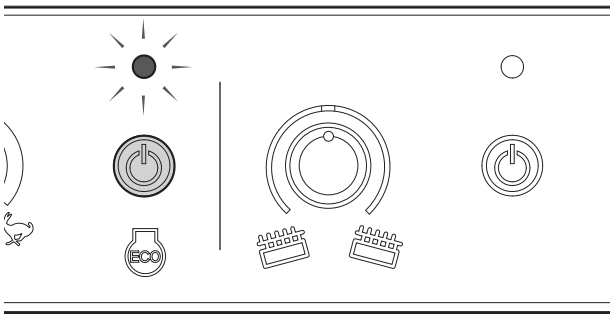
図 2-34 アクセルダイヤル

「🐇」へ回す……エンジン回転が上がります。

「🐢」へ回す……エンジン回転が下がります。

Eモードスイッチ

エンジン回転を自動制御するときに使用します。



059346-00X01

図 2-35 Eモードスイッチ

「切」状態(Eモードランプ消灯)
…アクセルダイヤルでエンジン回転を調節します。
「入」状態(Eモードランプ点灯)
…エンジン回転を自動的に制御します。

■ 自動定回転制御機能

作業負荷が変動（負荷率が 100%未満）しても、エンジン回転数を定格回転数（回転計が示す「グリーンゾーン」位置）に保ちます。

■ オートデセル機能

E モードスイッチが「入」（E モードランプ点灯）状態で、つぎの条件のときに、自動的にエンジン回転数がセンターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」位置になり、それ以外の場合はアイドリング（1300 rpm）回転になります。

- オールマイティシフトレバーを F（前方）・R（後方）に倒す。（移動走行時）
- 作業クラッチレバーを「脱こく」位置にする。（脱こく時）このときエンジン回転表示から負荷モニター表示になる。
- 排出オーガクラッチスイッチを「入」位置にする。（もみ排出作業時）
- オーガ自動旋回を行ったとき。



図 2-36 グリーンゾーン

[参考]

- 走行状態で作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にして、走行を停止しても、すぐにはエンジン回転はアイドリング（低回転）になりません。約 5 秒間エンジン回転は、「グリーンゾーン」位置（定格回転）に保たれます。
- 走行が停止している状態で、作業クラッチレバーを「OFF」位置、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にすると、すぐにアイドリング（低回転）になります。

表 2-2 E モードのエンジン回転数

E モード状態	エンジン回転数
切	アクセル位置
入	2500／1300

傾斜角調節ダイヤル

刈取部の角度を一定に保ちたいときに使用します。

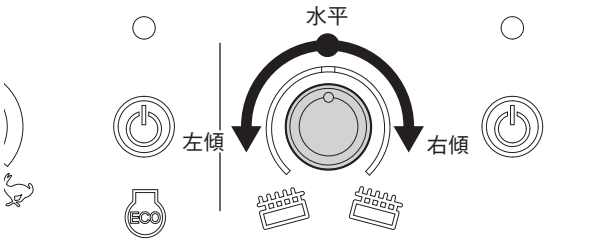


図 2-37 傾斜角調節ダイヤル

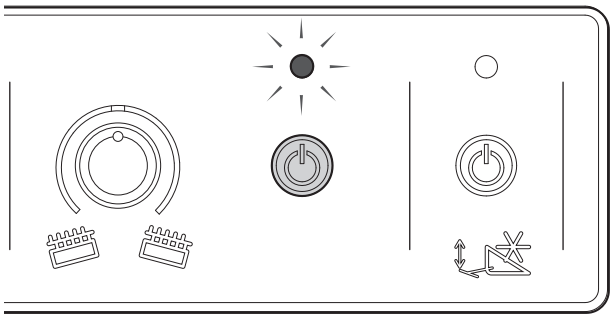
中央位置……刈取部が水平になります。
右方向に回す……刈取部が右に傾きます。
左方向に回す……刈取部が左に傾きます。

水平自動スイッチ

⚠ 注　意

傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ず左右水平自動スイッチを「切」(ランプ消灯)にしてください。コンバインが急に傾き、転倒やけがをするおそれがあります。

刈取部の水平を自動制御するときに使用します。



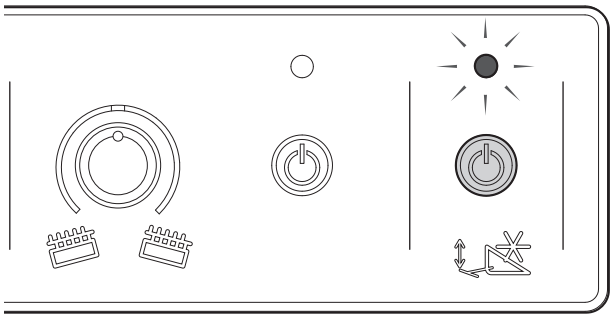
059347-00X01

図 2-38 水平自動スイッチ

刈取水平制御装置は、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに作動します。(155ページ参照)
「入」(ランプ点灯)…刈取水平制御がはたらきます。
「切」(ランプ消灯)…刈取水平制御が切れます。

セカンドモア自動スイッチ

セカンドモアを使用するときに使用します。
(詳細はセカンドモアの取扱説明書をご覧ください。)



059347-00X02

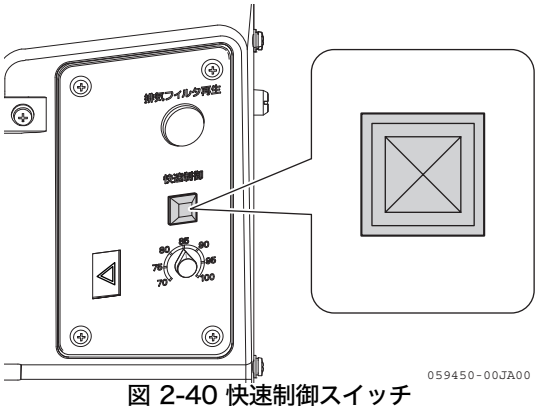
図 2-39 セカンドモア自動スイッチ

快速制御スイッチ・快速調節ダイヤル

エンジンの負荷率により、車速を自動制御したいときに使用します。

■ 快速制御スイッチ

快速制御の「入」「切」を行います。



059450-00JA00

図 2-40 快速制御スイッチ

「入」快速制御作動状態（スイッチランプ点灯）
…エンジンの負荷に応じて、自動的に車速を減速します。
「入」快速制御待機状態（スイッチランプ点滅）
…コンバインのエンジン負荷率が設定負荷率以下のためオールマイティシフトレバー位置の車速になっています。
「切」状態（スイッチランプ消灯）
…エンジンの負荷率に関係なく、オールマイティシフトレバー位置の車速になっています。

■ 快速調節ダイヤル

作物の状態や使用条件に合わせて、最適な状態で作業を行えます。ダイヤル位置の負荷で快速制御が作動します。

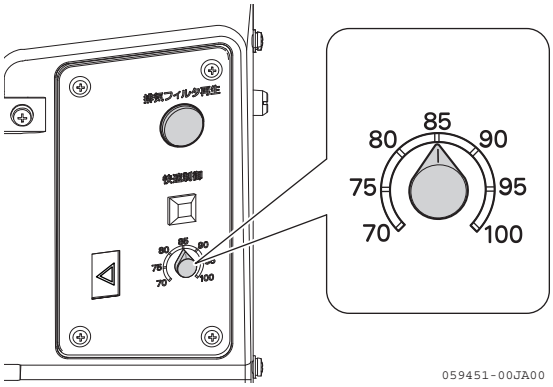


図 2-41 快速調節ダイヤル

■ 快速制御機能

エンジンの負荷が快速調節ダイヤルで設定した負荷になった場合に、自動的に車速を減速します。軽負荷になると車速をオールマイティシフトレバーの位置に戻します。快速制御がはたらくエンジン負荷率は、作物の状態や使用条件に合わせて、任意に設定します。オールマイティシフトレバーの操作頻度が軽減され、連続作業性が向上します。

[重要]

- 減速制御には限界があります。必ず負荷モニターやコンバインの状態を確認しながら作業を行ってください。
- 快速制御装置の作動条件はEモード「入」、快速制御スイッチ「入」、作業クラッチレバー「刈取」、車速0.5m/s以上のときです。
- 快速制御装置は刈取作業を補助する装置です。急発進や急加速などの作業状態では詰まりが発生する場合があります。
- 快速スイッチランプ点灯中は快速制御による車速制御中です。快速制御により車速が増減速する場合がありますので、オールマイティシフトレバーから手を離さないでください。快速スイッチランプが点滅または消灯してからオールマイティシフトレバーから手を離してください。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）でもオールマイティシフトレバーによる減速操作は優先して行えます。

■ 快速調節ダイヤルの調節

作物の状態や使用条件に合わせて、表 2-3 を参考にして調節してください。

作業開始時は、ダイヤル目盛りの緑範囲位置から始めてください。

作物の状態や使用条件に合わせて、快速調節ダイヤルを適宜調節してください。

表 2-3 快速調節ダイヤルの調節

快速調節ダイヤルの位置	作物の状態	負荷モニターの状態
70% ↑ 標準 （緑範囲） ↓ 100%	全倒伏の場合 作物が湿っている場合 直立と倒伏が混在の場合 半倒伏の場合 直立の場合 脱粒しやすい品種や作物を刈る場合	負荷変動が大きく不安定な場合 負荷変動が少なく安定している場合

AG1100041

排気フィルター再生スイッチ

排気フィルターに捕集したPM（ススなどの粒子状物質）を燃焼除去し、排気フィルターを再生するときに使用します。
排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅したら排気フィルターを再生（リセット再生）してください。
排気フィルターの再生についての詳細は、216 ページを参照してください。

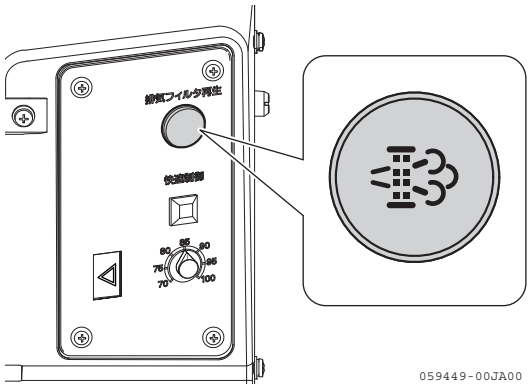


図 2-42 排気フィルター再生スイッチ

表 2-4 排気フィルター再生スイッチ

排気フィルター再生スイッチ（お知らせランプ）	状態
点滅	排気フィルター再生待ち
点灯	排気フィルター再生中

[参考]
お知らせランプが点滅しているときは、ブザーが鳴ります。

副変速レバー

⚠ 警　告

坂道では、副変速を操作しないでください。コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の3段階の走行速度が選べます。

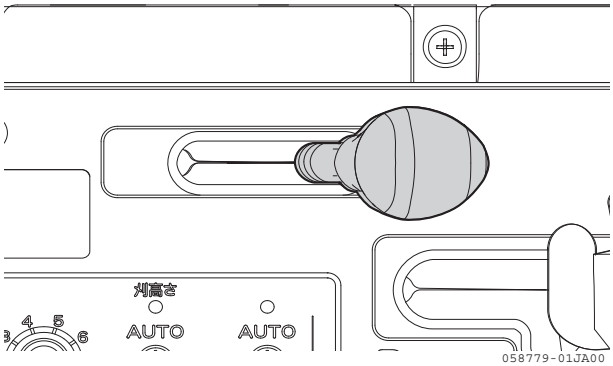


図 2-43 副変速レバー

「低速」位置 ……半倒伏や悪条件作物
「標準」位置 ……標準的な刈取作業
「走行」位置 ……移動走行
「N」（中立）位置… 走行しない

[重要]
- オールマイティシフトレバーを、必ず「N」（中立）位置にして、コンバインを完全に停止してから変速してください。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。

作業クラッチレバー

刈取部および脱こく部を動かしたり、止めるときに使用します。

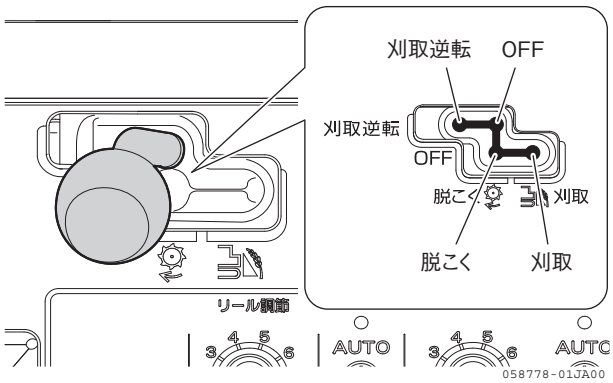


図 2-44 作業クラッチレバー

「OFF」……脱こく部も刈取部も停止します。
「脱こく」……脱こく部は作動していますが、刈取部は停止しています。
「刈取」……脱こくも刈取部も作動します。
「刈取逆転」…刈取昇降を繰り返すことにより刈取部が逆転します。

[重要]

セフティペダルを踏んだ状態で作業クラッチレバーを「刈取」位置から一気に「刈取逆転」位置にしないでください。守らないと、刈取逆転装置が破損するおそれがあります。

[参考]

- 「刈取逆転」位置は、プラットフォームオーガまたはフィーダハウス内で詰まりが発生した場合に、詰まりの除去を行うときに使用する機能です。
- Eモード「入」（Eモードランプ点灯）でエンジン回転が定格回転のときに、作業クラッチレバーを「脱こく」にすると伝達ベルトを保護する目的で、いったんエンジン回転を低下させてからクラッチが入るようにしています。

クリーンシフトレバー

脱こく内部のチャフシーブの角度を、作物の条件に合わせて調節するときに使用します。

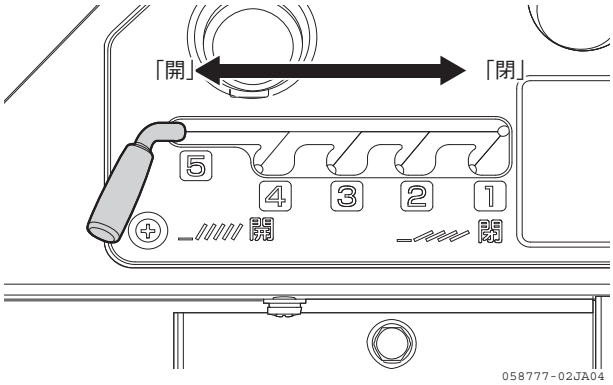


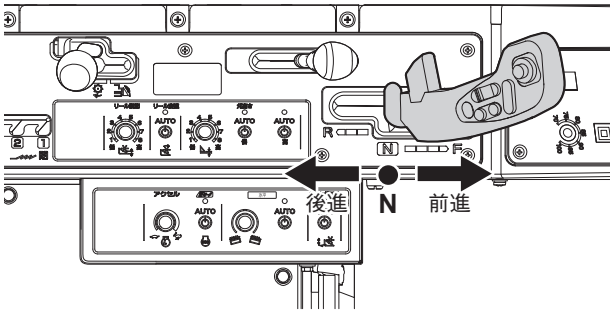
図 2-45 クリーンシフトレバー

「1」・「2」位置…… 選別が悪いとき・枝梗が多いとき
「3」位置…… 標準作業
「4」～「5」位置… 作物が湿材のとき・籾飛散が多いとき

オールマイティシフトレバー部

オールマイティシフトレバー(HST)

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。後進時は、バックランプが点灯します。



058831-03JA09

図 2-46 オールマイティシフトレバー

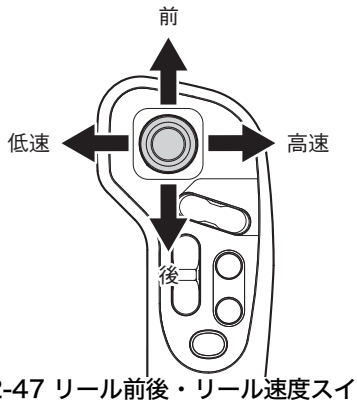
「F」(前進) 位置…… コンバインが前進します。
「R」(後進) 位置…… コンバインが後進します。
「N」(中立) 位置…… コンバインが停止します。
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

[重要]

セフティペダルを踏み込んでいるときは、オールマイティシフトレバーは「N」(中立)位置に戻り、オールマイティシフトレバーの操作はできません。

リール前後・リール速度スイッチ

リールの前後位置と回転速度の調節をするときに使用します。



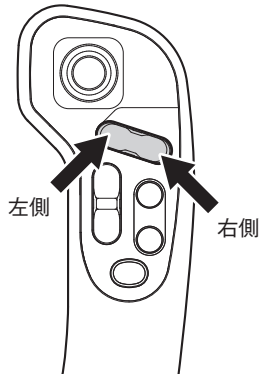
059167-00JA00

図 2-47 リール前後・リール速度スイッチ

「前」側……リールが前方へ動きます。
「後」側……リールが後方へ動きます。
「低速」側……リールの回転速度が遅くなります。
「高速」側……リールの回転速度が速くなります。

水平手動スイッチ

うねのあるほ場などでコンバインが傾いた場合、刈取部の位置を調節するときに使用します。



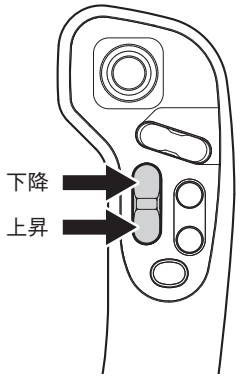
058828-00JA03

図 2-48 水平手動スイッチ

「左側」……刈取部が左へ傾きます。
「右側」……刈取部が右へ傾きます。

刈取昇降スイッチ

刈取部の上昇・下降をするときに使用します。



058828-00JA02

図 2-49 刈取昇降スイッチ

「下」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、
深く押すと速く下降します。
「上」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、
深く押すと速く上昇します。

[参考]

フィット昇降機能により、スイッチの押し加減で微妙な刈高さ調節が行えます。
(フィット昇降速度の設定は106ページ参照)

刈取オートリフトボタン・刈取オートセットボタン

■ 刈取オートリフトボタン

設定している高さに、刈取部を上昇させるときに使用します。



図 2-50 刈取オートリフトボタン

作業クラッチレバーが「刈取」位置のとき、オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。（147ページ参照）

[参考]

出荷時は刈刃の高さが、約70cmの高さに設定されています。

■ 刈取オートセットボタン

設定している刈高さに、刈取部を下降させるときに使用します。



図 2-51 刈取オートセットボタン

作業クラッチレバーが「刈取」位置で、オートセットボタンを押すと、刈取部が刈高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降します。（147ページ参照）

刈取クラッチボタン

作業クラッチレバー「刈取」で、刈取部が作動しているときに刈取クラッチボタンを押すと、刈取部が停止します。また、刈取が停止しているとき刈取クラッチボタンを押すと刈取部が作動します。



図 2-52 刈取クラッチボタン

オーガマルチリモコン

オーガ自動旋回スイッチ

排出オーガを自動的に、排出位置やオーガレストへ旋回させるときに使用します。(157ページ参照)

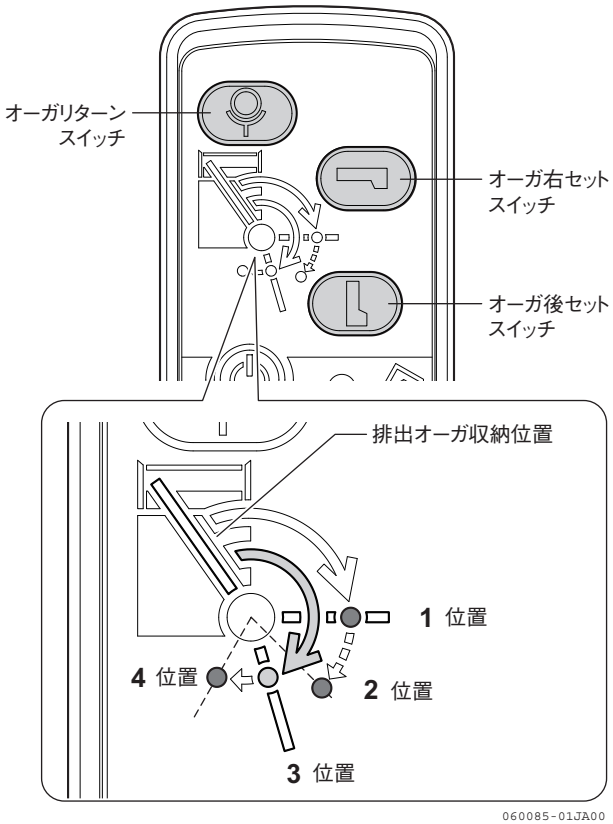


図 2-53 オーガ自動旋回スイッチ

オーガ右セットまたはオーガ後セットスイッチにより、4カ所（1, 2, 3, 4）の位置に排出オーガを移動させることができます。(オーガオートセット装置)(図 2-53)

■ 右セット位置(1位置)への移動

オーガ右セットスイッチを長押し（0.2秒以上）するとランプ（赤）が点灯し、排出オーガは最上昇位置まで上昇したあと、1位置（1）まで右旋回します。(図 2-53)

■ 右セット位置(2位置)への移動

ランプ（赤）が点灯中にオーガ右セットスイッチを押すとランプ（赤）が点滅し、排出オーガは 2 位置（2）まで右旋回します。(図 2-53)

■ 後セット位置(3位置)への移動

オーガ後セットスイッチを長押しするとランプ（橙）が点灯し、排出オーガは最上昇位置まで上昇した後、3位置（3）まで右旋回します。(図 2-53)

■ 後セット位置(4位置)への移動

ランプ（橙）が点灯中にオーガ後セットスイッチを押すとランプ（橙）が点滅し、排出オーガは 4 位置（4）まで右旋回します。(図 2-53)

■ 自動旋回を停止させるには

オーガが作動中に手動操作またはランプが消灯すると、自動旋回が停止します。

[参考]

オーガオートセット装置が作動中に、排出オーガ手動スイッチを操作すると、手動操作が優先されます。(オーガ自動旋回制御が切れ、ランプが消灯します。)

■ オーガオートリターン装置

オーガリターンスイッチを長押しすると、ランプ（緑）が点灯し、自動的に旋回してオーガレストに収納されます。収納後、ランプは消灯します。
(157ページ参照)

排出オーガクラッチスイッチ

グレンタンク内のこく粒を、排出オーガの先端から排出するときに使用します。

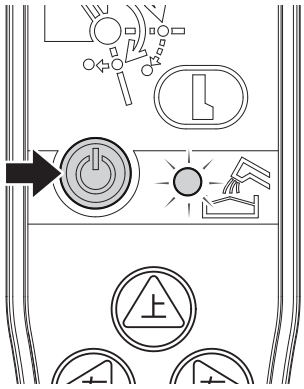


図 2-54 排出オーガクラッチスイッチ

「入」（ランプ点灯）…こく粒を排出します。
長押し（0.2秒以上）
「切」（ランプ消灯）…こく粒の排出を停止します。

[参考]

排出オーガが収納位置付近にある場合は、誤操作防止のために、排出オーガクラッチスイッチを押してもこく粒は排出されません。

排出オーガ手動スイッチ

排出オーガを昇降・左右旋回させるときに使用します。

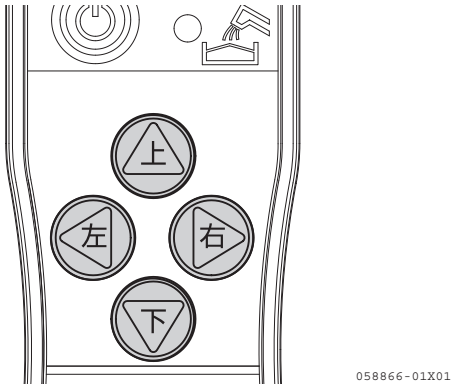


図 2-55 排出オーガ手動スイッチ

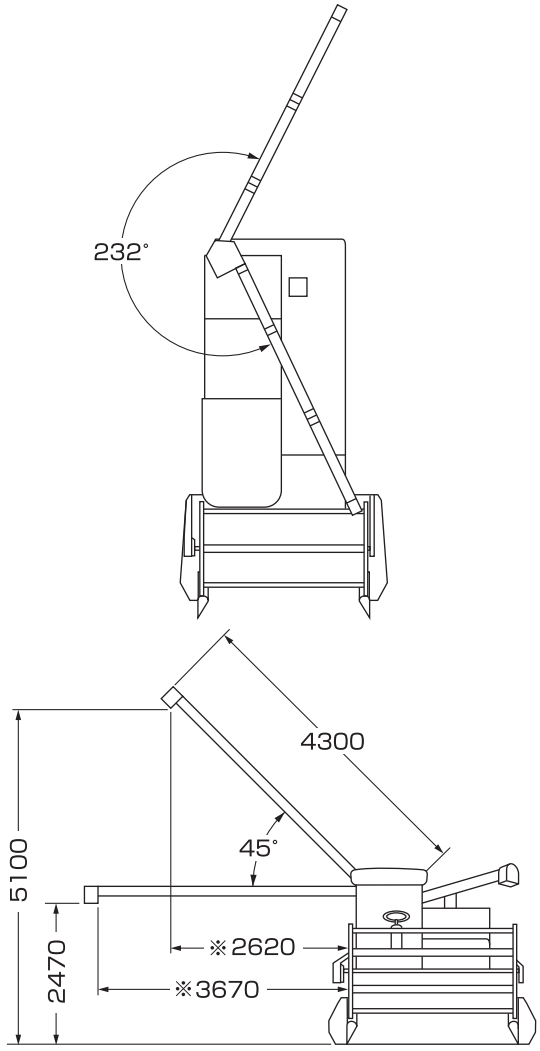
「上」……排出オーガが上昇します。
「下」……排出オーガが下降します。
「右」……排出オーガが右に旋回します。
「左」……排出オーガが左に旋回します。

[重要]

- 排出オーガを手動で旋回するときは、最上昇位置にしてから行ってください。最上昇位置にしないと、グレンタンク後方のグレンタンクガードに当たります。
- 排出オーガ手動スイッチで排出オーガを連続操作をすると、微調整が行いやすいように、動き始めはゆっくりと動き、その後徐々に速く動きます。

■ 手動操作での旋回範囲

（単位：mm ）



※グレンタンク側面からの寸法です。

図 2-56 旋回範囲

[参考]

排出オーガは、コンバイン後方に操作したときなどに、旋回する方向がわかるように、排出オーガ前方下側に赤・緑に色分けされたオーガマークを貼ってあります。

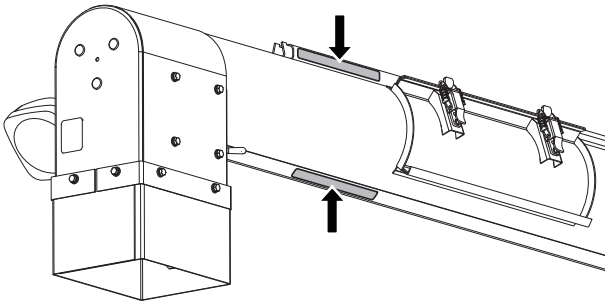


図 2-57 オーガマーク

※図は、「オーガマーク赤」側です。反対側に「オーガマーク緑」が貼られています。

「オーガマーク緑」……手動スイッチ「右」を操作すると動く方向

「オーガマーク赤」……手動スイッチ「左」を操作すると動く方向

オーガ先端

オーガ先端には、詰まりセンサが付いています。

詰まりセンサ

[重要]

排出中に詰まりセンサを手で押さないでください。センサが反応し途中で排出が中断されるおそれがあります。

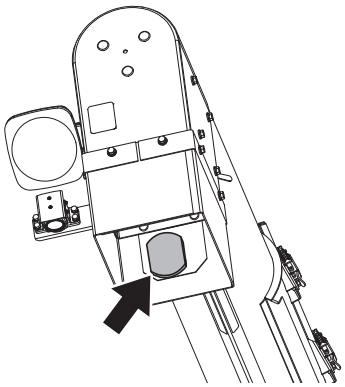


図 2-58 詰まりセンサ

無線リモコンオーガ

[重要]

- 無線リモコンを改造しないでください。改造すると、法令違反になる場合があります。また、故障の原因になります。
- 無線リモコンは、日本国内専用です。海外で送信機の操作を行い、電波を発射すると、その国の法令違反になる場合があります。
- 送信機に貼り付けられている銘板シールをはがさないでください。はがすと法令違反になる場合があります。銘板シールは、技術基準に適合している証明書で、貼り付けが法令で定められています。
- 送信機に水がついたらすぐにふき取ってください。送信機が故障する場合があります。

[参考]

- 運転席側のオーガマルチリモコンと送信機側で、同時に排出オーガの昇降・旋回の操作を行った場合は、排出オーガが停止します。この制御は、両方の操作を止めたときに、解除されます。
- 送信機には、オーガオートセットスイッチの機能はありません。
- 無線リモコンの再設定、および追加設定（送信機を増やす）などを行うときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご依頼ください。
- 送信機の電池を交換する場合は、裏側のネジ（1本）を外し、指定のものを使用してください。(259ページ参照)
- 電波を出しているときは、左上の赤ランプの点滅が速くなります。
- 電波状態が悪い場合は、送信機での操作ができない場合があります。
- 電源「切」でも、いずれかのスイッチを押すと、バックライトが一定時間点灯します。
- スイッチを押しっぱなしにしても　法令により約90秒で電波が止まります。
- 無線リモコンは1台ごとに個体識別番号が割り振られており、誤作動しにくい仕組みになっています。
- 指定以外のスイッチを、同時に押さないでください。誤作動防止のため、動作が止まる場合があります。
- オプションのリモコンオーガを装着すると、無線リモコンは使用できません。

ONスイッチ

送信機の電源を入れるときに使用します。

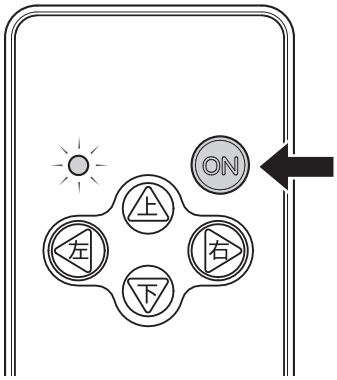


図 2-59 ONスイッチ

電源を入れるときは、長押しします。電源が入ると左上の赤ランプが点滅します。

[参考]

電源「切」のスイッチはありません。電源は、5分間操作しないと自動的に切れます。このとき赤ランプも消灯します。

排出オーガクラッチスイッチ

グレンタンク内のこく粒を、排出オーガの先端から排出するときに使用します。

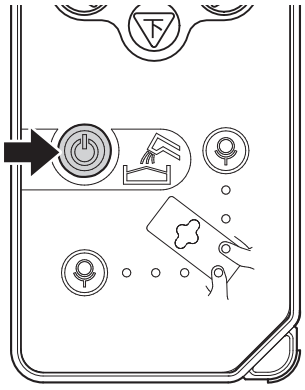


図 2-60 排出オーガクラッチスイッチ

「入」…こく粒を排出します。
「切」…「入」状態のときにスイッチを押すと、「切」になり、こく粒の排出を停止します。

[参考]

排出オーガがオーガレスト（収納位置）付近にある場合は、排出オーガクラッチスイッチを押しても、誤作動防止のために排出しません。

排出オーガ手動スイッチ

排出オーガを昇降・旋回させるときに使用します。

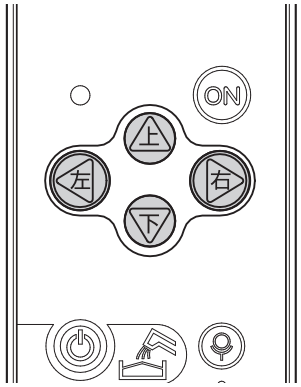


図 2-61 排出オーガ手動スイッチ

「上」……排出オーガが上昇します。
「下」……排出オーガが下降します。
「右」……排出オーガが右に旋回します。
「左」……排出オーガが左に旋回します。

[参考]

排出オーガ手動スイッチから指を離すと、排出オーガは停止します。

オーガリターンスイッチ

2つのスイッチを押すと、排出オーガを自動的にオーガレストに収納します。

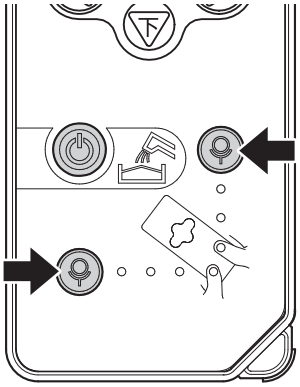


図 2-62 オーガリターンスイッチ

[参考]

送信機のオーガリターンスイッチは、誤作動防止のため、２つのスイッチを同時に押した場合に動作します。

送信機収納ポケット

送信機を使用しないときに、収納することができます。

送信機収納ポケットは、ドライバーシート右の下方にあります。

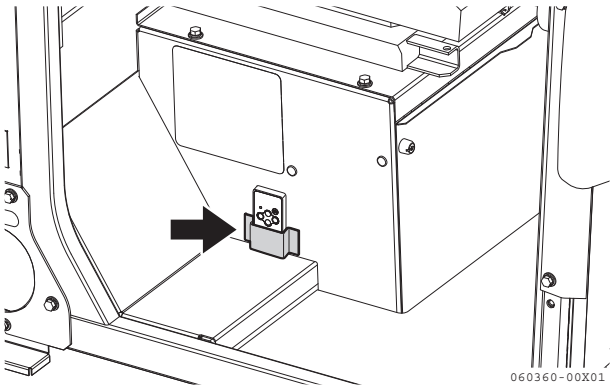


図 2-63 送信機収納ポケット

無線リモコン用アンテナ

送信機で排出作業を行うときに使用します。

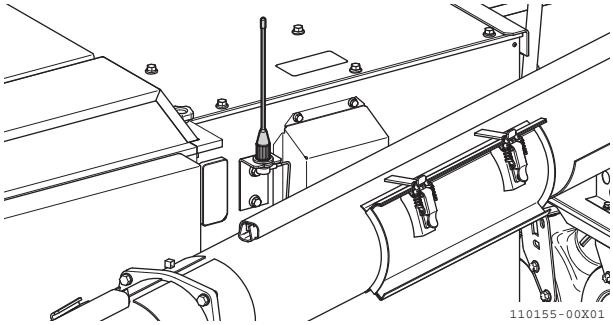


図 2-64 無線リモコン用アンテナ

[参考]

- 無線リモコンのアンテナを外して保管していた場合は、アンテナを取り付けてください。
- アンテナを正しく装着しないと、送信機での操作ができない場合があります。

その他の操作関係

セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。

セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置に戻り、コンバインが停止し、ブレーキがききます。

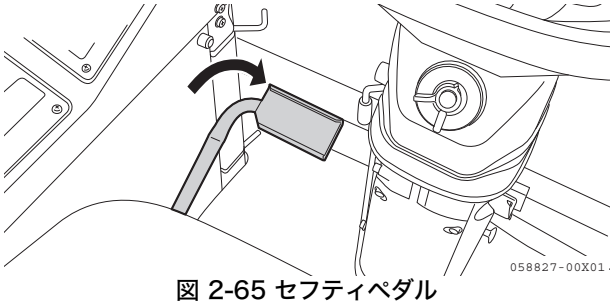


図 2-65 セフティペダル

[重要]

- セフティペダルを踏んだ状態で作業クラッチレバーを「刈取」位置から一気に「刈取逆転」位置にしないでください。守らないと、刈取逆転装置が破損するおそれがあります。
- セフティペダルに足を置いた状態でオールマイティシフトレバーを操作（前進・後進）しないでください。駐車ブレーキの性能が低下するおそれがあります。
- 通常の走行停止は、オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にして行ってください。

駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。
セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

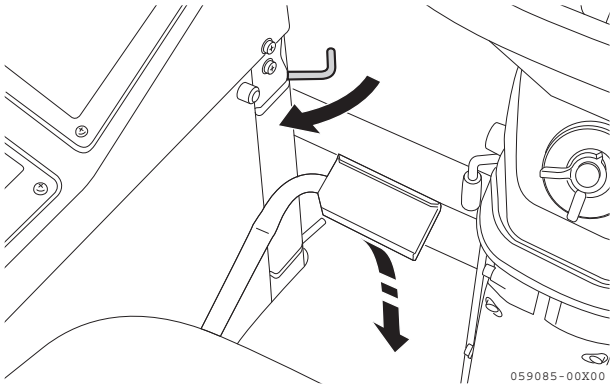


図 2-66 駐車ブレーキロックレバー

解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れて解除できます。

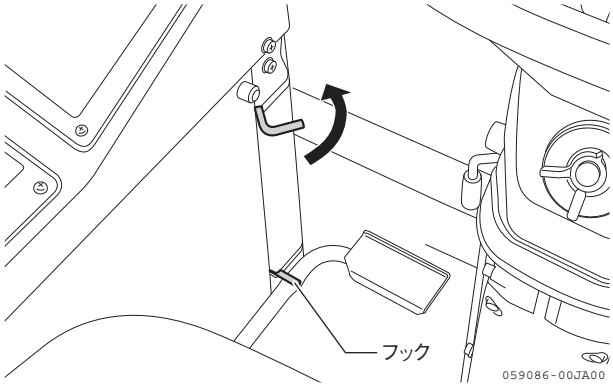


図 2-67 駐車ブレーキロックレバー（解除）

[参考]

セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」（中立）位置に戻ります。

旋回モード切替ノブ

⚠ 注　意

移動時は、必ず「標準モード」で走行してください。

旋回モードを切り替えるときに使用します。
工場出荷時は、「標準モード」になっています。

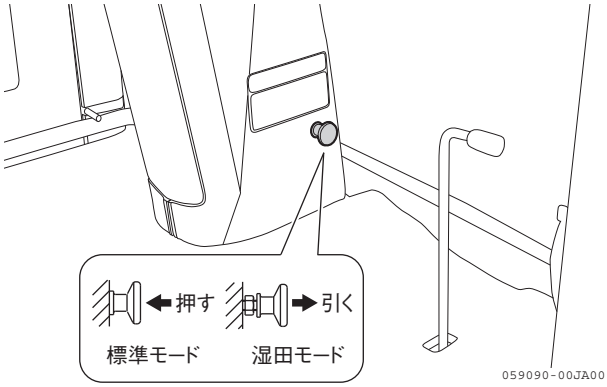


図 2-68 旋回モード切替ノブ

旋回モード切替ノブは、オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置、マルチハンドルを「直進」位置にして操作してください。

ノブを押し込む…標準モード（スピンターンする）
旋回時に自動減速がはたらき、小回り（スピンターン）ができます。

ノブを引き出す…湿田モード（スピンターンしない）
旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。

[参考]

- 「標準モード」では、旋回時に自動減速がはたらいて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。
- 乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田で作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですがコンバインの沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

表 2-5 旋回モード

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ 注意：ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行	◎	×（使用不可）
車庫入れ	◎	×（使用不可）

送塵調節レバー

ロータ内の作物の流れを、作物の種類や条件に応じて調節するときに使用します

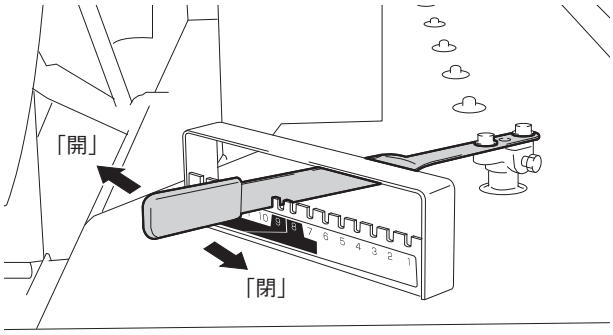


図 2-69 送塵調節レバー

■ 標準的な作物による調節位置

麦・大豆……「9」位置
稲……「8」位置
そば・ハト麦など…「10」～「13」位置

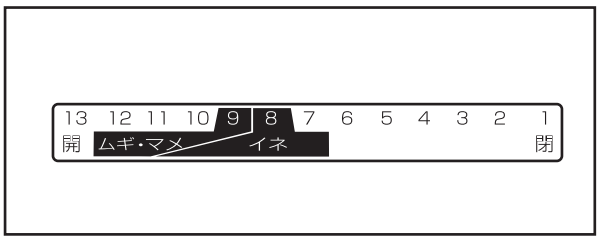


図 2-70 レバー位置の銘板

ロータ変速切替レバー

⚠ 注　意

ロータ変速切替レバーの近くに高温部がありますので、ロータ変速切替は、高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

ロータ回転を「稲・麦」・「大豆」に切り替えるときに使用します。
工場出荷時は、「稲・麦」になっています。

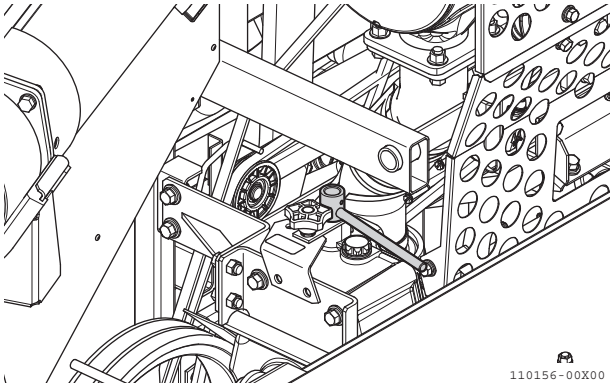


図 2-71 ロータ変速切替レバー

ノブネジを外して、レバーでロータ変速を切り替えることができます。

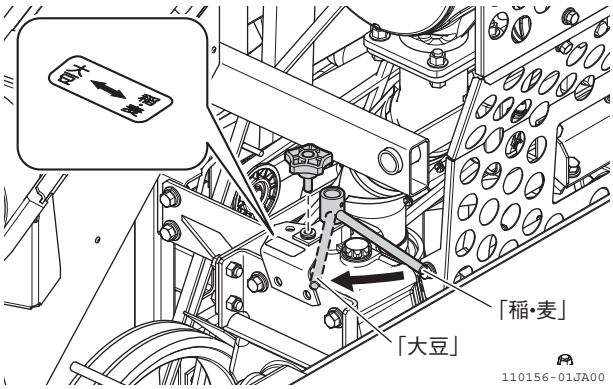


図 2-72 ロータ変速切替レバーの切り替え

「稲・麦」位置
……「稲」・「麦」を刈るときに使用します。
「大豆」位置
……「大豆」・「小豆」・「そば」を刈るときに使用します。

[参考]
レバーを切り替えたときは、ロータ変速が確実に切り替わったことを確認し、ノブネジで固定してください。

その他

ドライバーシート

運転者の体格に合わせて、ドライバーシートの位置を調節できます。

■ シートの前後調節

前後調節レバーを矢印方向に引き上げ、ドライバーシートを前後にスライドさせて操作しやすい位置に調節できます。

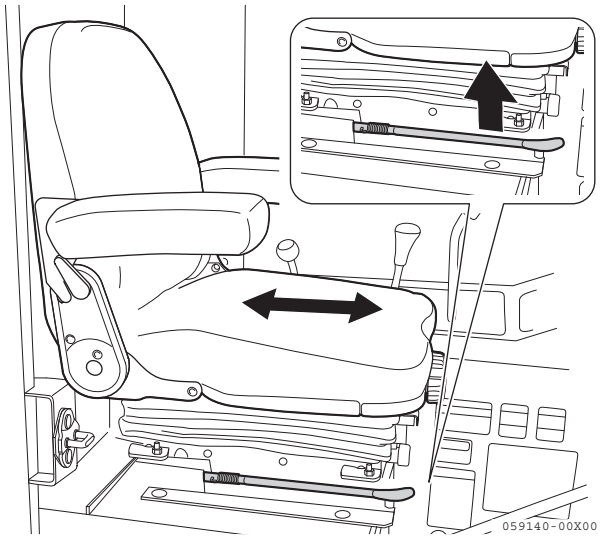


図 2-73 前後調節レバー

■ シートの硬さ調節

サスペンション調節ノブを回して、シートの硬さを調節できます。

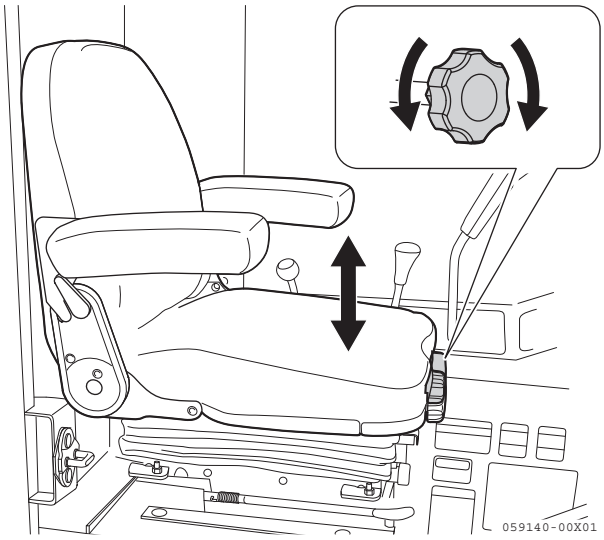


図 2-74 サスペンション調節ノブ

■ シートのリクライニング調節

リクライニングレバーを矢印方向に引き、シートの角度を調節できます。

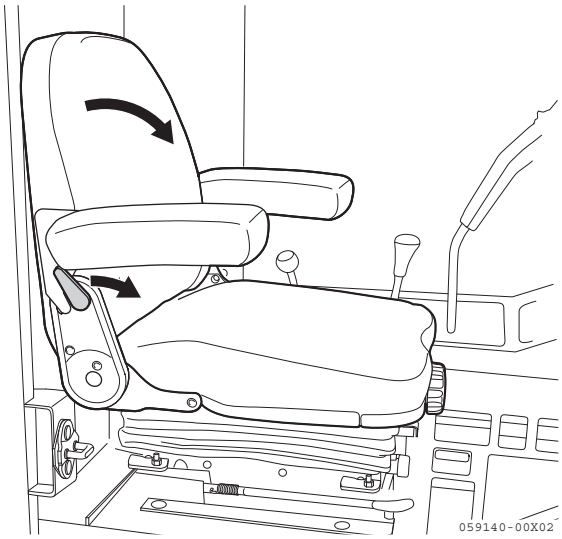


図 2-75 シートリクライニングレバー

■ アームレスト

矢印の方向に倒して使用してください。

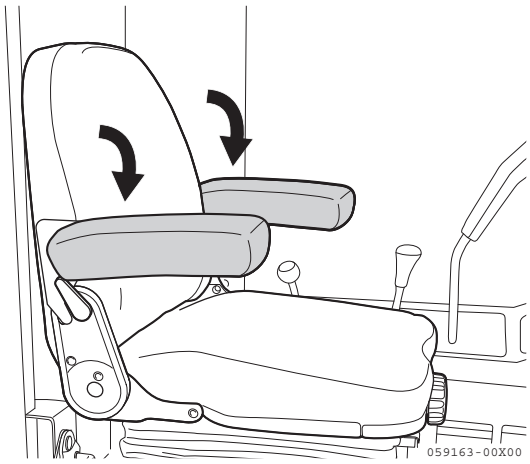


図 2-76 アームレスト

取扱説明書収納ポケット

取扱説明書を収納するポケットが、ドライバーシートの後側にあります。

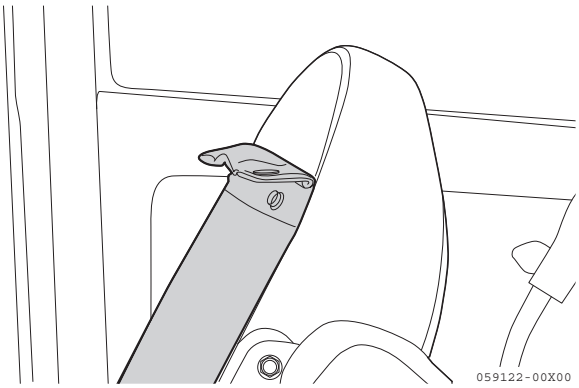


図 2-77 取扱説明書収納ポケット

乗降ステップ操作レバー

乗降ステップ操作レバーを押し込むと、乗降ステップが収納できます。また、乗降ステップ操作レバーを引き上げると乗降ステップが乗降位置になります。

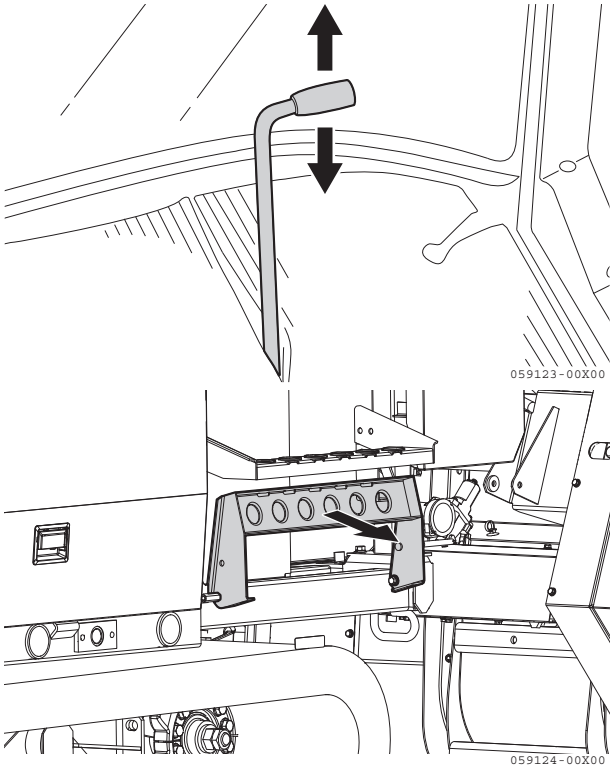


図 2-78 乗降ステップ操作レバー

[重要]

- トラックに積み・降ろしをするときは、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。

[参考]

コンバインから降りたときに、乗降ステップの出し入れをする場合は、乗降ステップ自体を手で持って行います。

ロータカバー開閉レバー

ロータカバーを開閉するときに使用します。

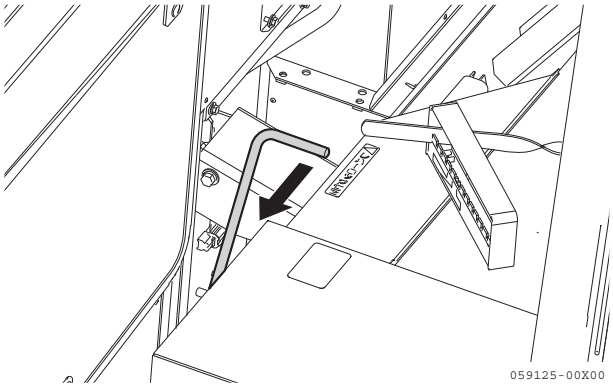


図 2-79 ロータカバー開閉レバー

[重要]

- ロータカバーを開閉するときは、サイドウィンドを閉じてください。
- 排出オーガを上げてください。オーガを上げずにロータカバーを開くと接触し破損するおそれがあります。

刈取部ストッパ

刈取部とフィーダハウスの下降を、機械的に固定するときに使用します。(183ページ参照)

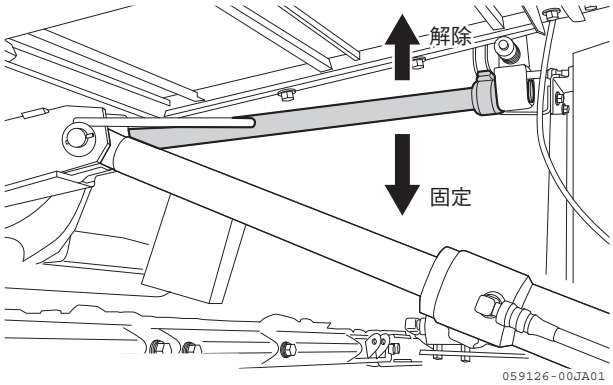


図 2-80 刈取部ストッパ

刈取部およびフィーダハウスの下で点検・整備するときは、必ず刈取部ストッパを「固定」位置(PFシリンダ)に掛けてください。

外部電源

⚠ 警 告

記載された制限容量を超えて使用しないでください。火災の原因になります。

作業灯増設用電源として、コネクタが2カ所あります。

■ 作業灯増設用電源1

脱こく前カバー内にあります。
この電源の「入」「切」は、作業灯スイッチの「入」「切」に連動しています。(63ページ参照)
コネクタは2極カプラ(白色)で、緑テープ巻きにより固定されています。
電源の使用制限容量は、作業灯増設用電源が12V20W以下となっています。

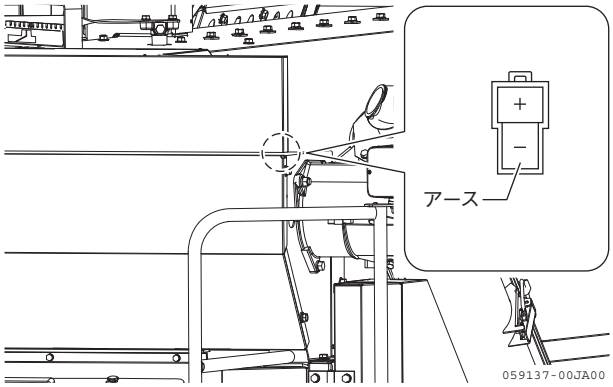


図 2-81 作業灯増設用電源1

■ 作業灯増設用電源2

エンジン後カバー内にあります。
この電源の「入」「切」は、作業灯スイッチの「入」「切」に連動しています。(63ページ参照)
コネクタは2極カプラ(白色)で、緑テープ巻きにより固定されています。
電源の使用制限容量は、作業灯増設用電源が12V35W以下となっています。

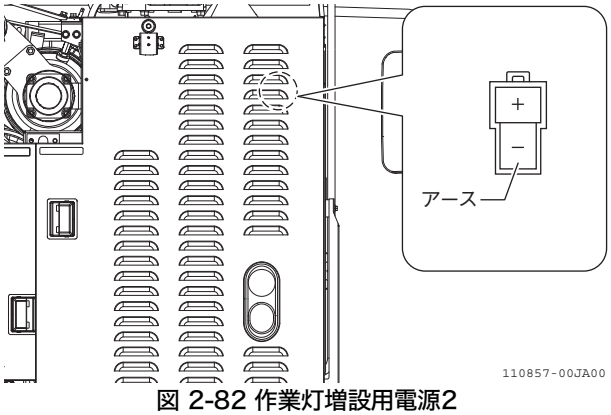


図 2-82 作業灯増設用電源2

キャビン関係

⚠ 注　意

ドアを閉めるときは、手をはさまないよう注意してください。

ドアハンドル(室外)

車外からドアを開閉するときに使用します。

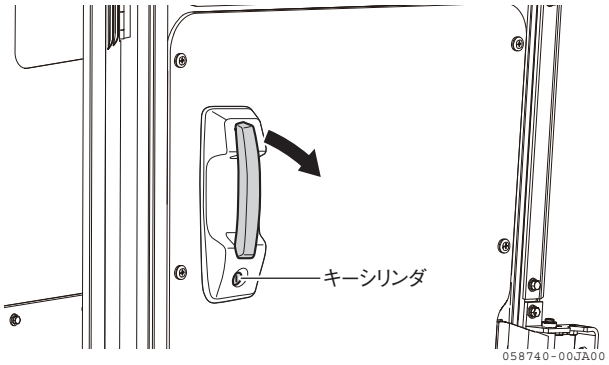


図 2-83 ドアハンドル

■ 開けかた

ドアハンドルを引くとロックが解除され、ドアが開きます。

■ 閉めかた

ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めます。

[重要]

- ドアを閉めたときは、確実にドアがロックされているか必ず確認してください。
- ドア取っ手にぶらさがるなど無理に力を加えないでください。

■ 施錠のしかた

キーをドアハンドルの下にあるキーシリンダに差し込み、右側に90度回すと施錠できます。

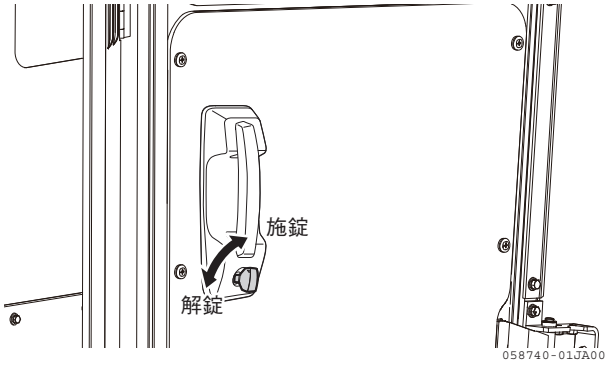


図 2-84 施錠・解錠

■ 解錠のしかた

キーをドアハンドルの下にあるキーシリンダに差し込み、左側に90度回すと解錠できます。

[参考]

- キーシリンダ部に直接水をかけると、室内に水が浸入する場合があります。洗車時には注意してください。
- キーの詳細については、62ページを参照してください。

ドア開閉レバー(室内)

車内からドアを開けるときに使用します。ドアロックを押し下げることにより施錠、引き上げることにより解錠できます。

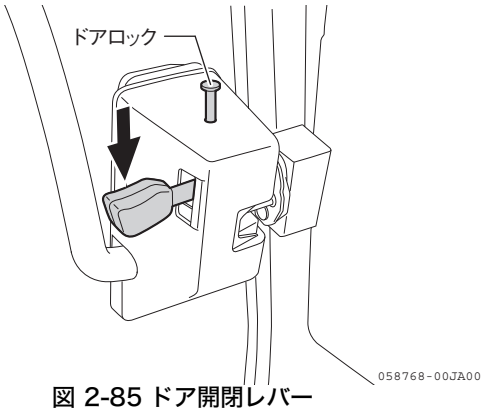


図 2-85 ドア開閉レバー

■ 開けかた

ドア開閉レバーを下方向に押すとロックが解除され、ドアが開けられます。

■ 閉めかた

ドアを確実にロックされるまで閉めます。

[重要]

- キーの閉じ込み防止のため、車内から降りるときは、必ずキーを携帯してください。
- ドアを閉めたときは、確実にドアがロックされているか必ず確認してください。

サイドウインドウ

サイドウインドウ（左右）を開閉するときに使用します。

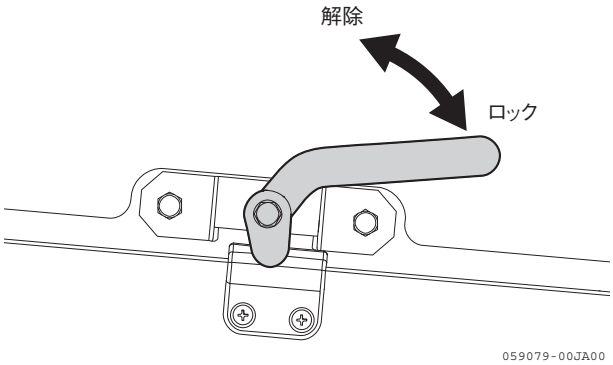


図 2-86 サイドウインドウ

■ 開けかた

ハンドルを解除側に回してロックを解除し、そのまま外側に押してください。
サイドウインドウが開きます。

■ 閉めかた

ハンドルを持って手前に引き寄せ、ハンドルをロック側に回します。

[重要]

ドアを開けた状態では、サイドウインドウを開けないでください。バックミラーに当たり、破損するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。

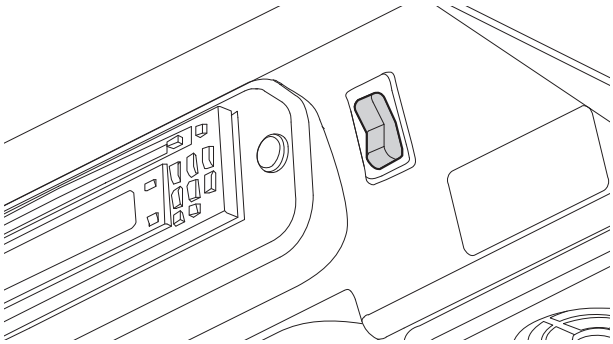


図 2-87 ワイパー&ウォッシャースイッチ

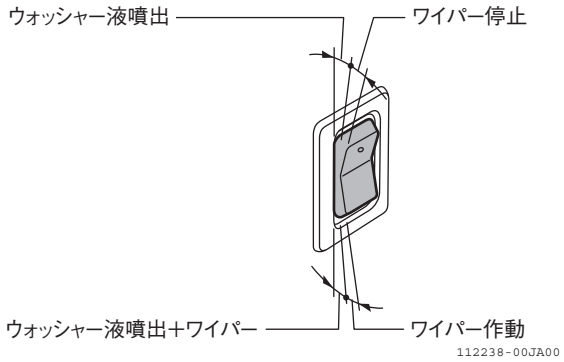


図 2-88 ウォッシャー作動位置

キースイッチが「ON」位置のとき

スイッチの下側を1段押す

… ワイパーが作動します。

スイッチの下側を最後まで押す

… 押している間、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄噴出口から噴出します。

スイッチの上側を1段押す

… ワイパーが停止します。

スイッチの上側を最後まで押す

… 押している間、ウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出します。

[重要]

- ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。
- ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
(231ページ参照)
- 寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがありますので、温風でフロントガラスを暖めてください。
- エンジン停止状態でワイパーを長時間使用すると、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ルームランプスイッチ

スイッチでルームランプの点灯・消灯ができます。

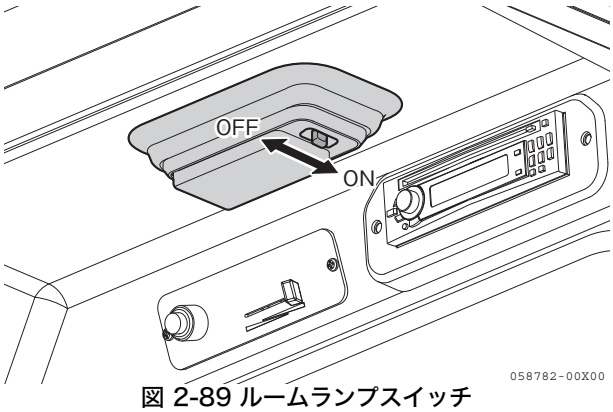


図 2-89 ルームランプスイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき
「ON」位置……ルームライトが点灯します。
「OFF」位置……ルームライトが消灯します。

[重要]

コンバインを離れるときは､必ずルームランプを｢OFF｣位置にしてください｡バッテリーが放電するおそれがあります。

[参考]

「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

FM･AM付CDラジオ

取扱方法については、付属の取扱説明書をお読みください。

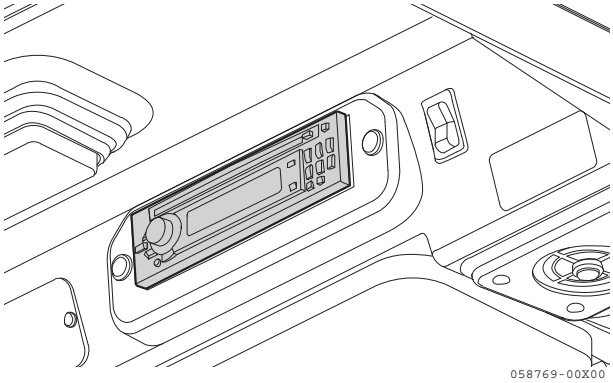


図 2-90 FM・AM付CDラジオ

[参考]

CD は振動などにより、音飛びすることがありますが、故障ではありません。

■ バックアップ電源について

バックアップ電源は、FM・AM付CDラジオにバッテリーからの電源を供給し、キャビン内のヒューズボックスのヒューズを抜き差しして切り替えます。

[参考]

バッテリー放電防止のため、工場出荷時はFM・AM付CDラジオ用の「CDラジオ(BATT)」の10Aヒューズは抜けています。
この状態でキースイッチを「OFF」位置にすると、バッテリー放電防止のため、FM・AM付CDラジオ用のプリセットメモリーおよび時計表示が消えます。

■ バックアップ電源の切り替えかた

[重要]

「CDラジオ(BATT)」のヒューズにかぎり、抜き差しをするときには、必ずキースイッチを「ON」位置にして行ってください。「CDラジオ(BATT)」のヒューズを抜き差ししたときに、火花が飛び、他の機器を破損させるおそれがあります。

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. ドライバーシート（1）下のネジ（2）2カ所を外してカバーを開けます。(図 2-91)



図 2-91

3. ヒューズボックスの「CDラジオ（BATT)」の箇所に予備の10Aヒューズを差し込みます。
4. キースイッチを「OFF」位置にします。

[重要]

長期間(1カ月以上)使用しないときは、バッテリーが放電を防止するため「CD ラジオ(BATT)」の 10A ヒューズを抜いてください。

[参考]

「CDラジオ（BATT)」の箇所に10Aヒューズが差し込まれた状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「ON」「OFF」位置に関係なく作動します。

ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。

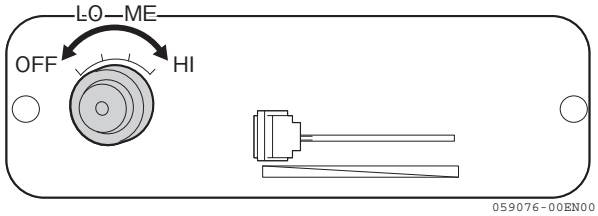


図 2-92 ファンスイッチ

風量を3段階に調節できます。
「OFF」位置…… ファン回転停止

「LO」 位置…… 弱風
「ME」 位置…… 弱風と強風の中間
「HI」 位置…… 強風

[参考]

エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

エアコンスイッチ

エアコンを「ON」「OFF」するときに使用します。

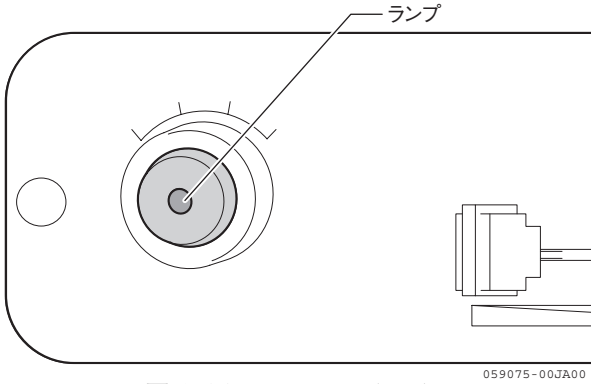


図 2-93 エアコンスイッチ

キースイッチが「ON」位置のとき
1回押す…… エアコン「ON」(ランプ点灯)
ランプ点灯時に押す…エアコン「OFF」(ランプ消灯)

[重要]

- **エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」位置（ランプ点灯）にしてください。**
- **エアコンスイッチが「ON」位置（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」位置（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。**

[参考]

ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」位置（ランプ点灯）にしてもエアコンは作動しません。

温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。

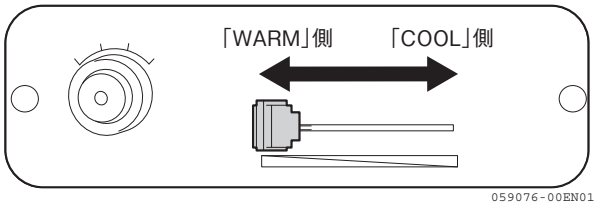


図 2-94 温度コントロールレバー

「WARM」側…近づけるほど風の温度は高くなります。
「COOL」側…近づけるほど風の温度は低くなります。

風向グリル

風量を変更するときに使用します。
風向グリルは、キャビン内の前方と左右にあります。

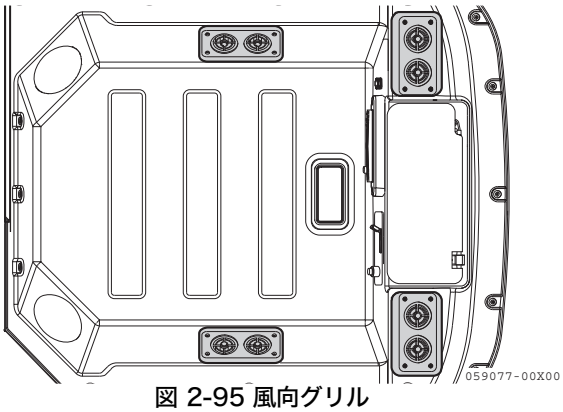


図 2-95 風向グリル

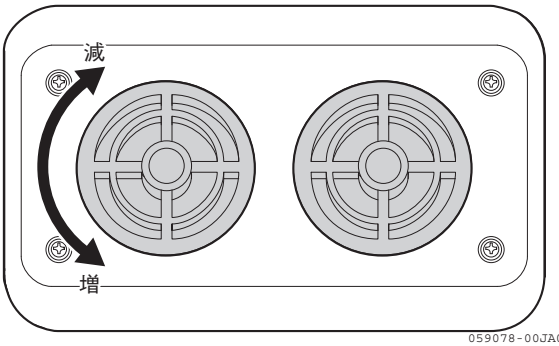


図 2-96 風向グリル

吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

デュアルモニター(バックモニターカメラ・オーガモニターカメラ)

取扱方法については、付属の取扱説明書をお読みください。

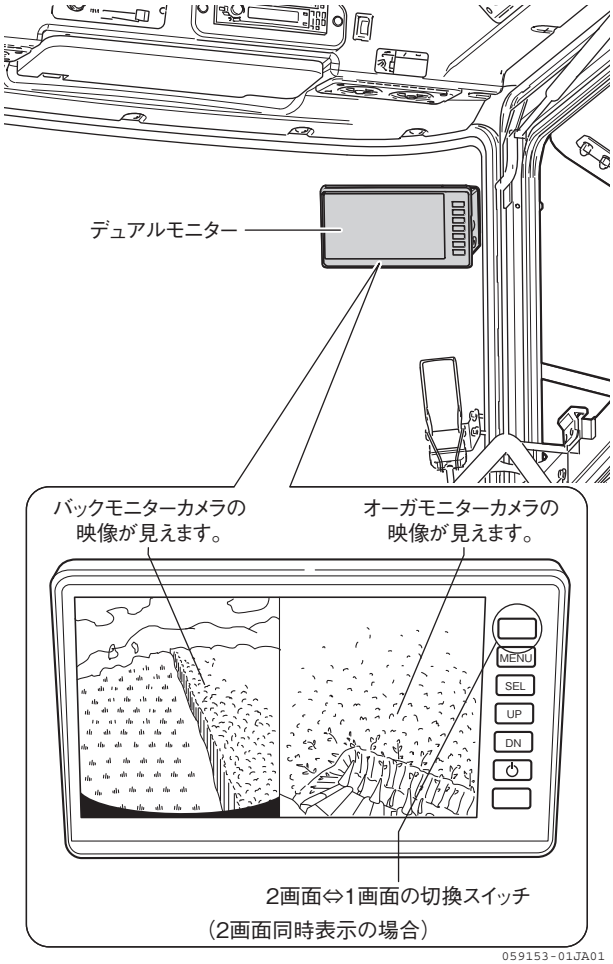


図 2-97 デュアルモニター

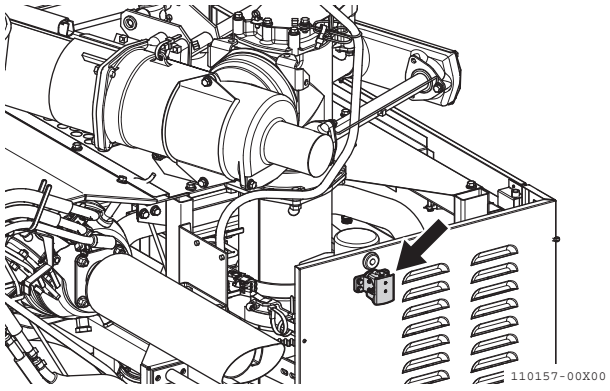
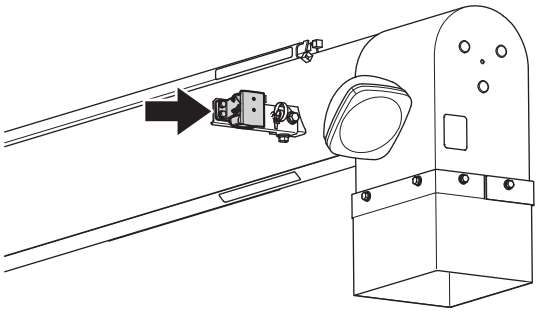


図 2-98 バックモニターカメラ



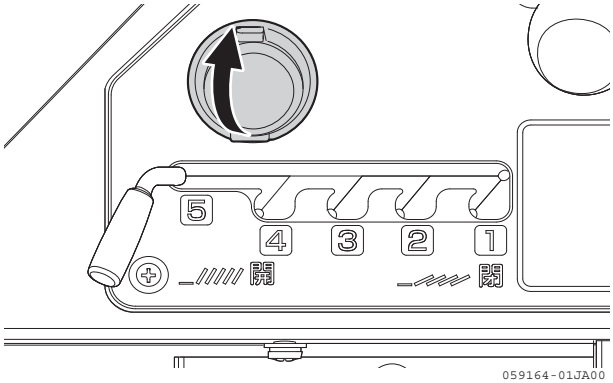
110158-00X00

図 2-99 オーガモニターカメラ

キースイッチを「ON」位置にすると、デュアルモニターにコンバイン後方の状況、および排出オーガ先端の状況を常時映し出すことができます。
(136ページ参照)

アクセサリーソケット

12V120W（10A）の電源を取り出すことができます。キースイッチが「ON」・「ACC」位置のときに使用できます。



059164-01JA00

図 2-100 アクセサリーソケット

ならし運転（最初の50時間）について

新車は、最初の50時間目までの取り扱いが寿命や性能に大きく影響します。この期間中は、特につぎのことを厳守してください。

- 急発進、急ブレーキは慎んでください。
- 必要以上の速度や負荷をかけないでください。
- 運転は、エンジンが十分に暖まってから行ってください。
- 悪路や傾斜地では、速度を落として、ゆっくり走行してください。
- 高速での刈取作業は避けてください。
- 最初の 50 時間目になったら、200 ページの「給油・給水一覧表」と308 ページの「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」に従って、各部の点検やオイル交換をしてください。

運転前の点検

⚠ 危　険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。こぼれた燃料に引火して火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは厚紙や板などを使って点検し、高圧油に直接、手や体が触れないようにしてください。
  万一、触れた場合は、ただちに医者の診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 運転・作業前の点検をするときは、点検者以外の人（特に子供）を近づけないでください。
- 運転・作業前の点検時に、エンジンを始動して行う場合は、閉めきった室内で行わないでください。
- コンバインは、常に掃除しておいてください。バッテリー、配線、排気フィルター周辺部、排出ガス出口、エンジンの周辺部にごみや燃料の付着があると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料パイプが破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

⚠ 注　意

- 作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。

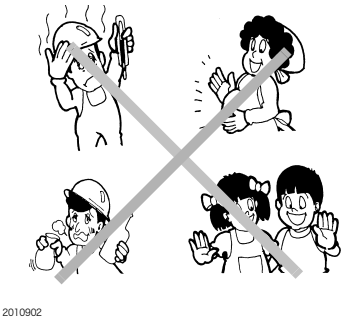


図 2-101

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などの滑り止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。

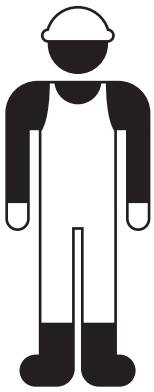


図 2-102

⚠ 注　意

- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしてから行ってください。回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、排出ガス出口やエンジンなどの高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドやけがをするおそれがあります。
- 点検・整備・調節後は、外したすべてのカバー類は、元通りに取り付けてください。外した状態で運転すると、コンバインに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、つぎの順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか	286〜292
コンバインの周りを回ってみて	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか	
	●燃料の量と燃料漏れはありませんか	
	●クローラの損傷・ゆるみはありませんか	258
	●各部注油箇所の油切れはありませんか	191〜196
	●各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか	242〜256
エンジンルームを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油漏れはありませんか	205〜208
	●燃料の量と燃料漏れ、水漏れ、オイル漏れはありませんか	
	●冷却水の量と水漏れ、ホースの損傷はありませんか	210
	●エアクリーナー・プレクリーナーの汚れはありませんか	224・225
	●冷却ファンベルトの張りと損傷はありませんか	251・252
	●エンジン防塵装置のホコリやごみはありませんか	226
	●配線コードの被覆のはがれや、接続部のゆるみはありませんか	235
ドライバーシートに座ってみて	●ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●ドライバーシートの状態は、体格に合っていますか	103
	●マルチハンドルが、チルトレバーにより固定されていますか、また作業に適正な位置になっていますか	104
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異音はありませんか	
	●排出ガスの色は正常ですか	261
	●各レバー・スイッチの作動状態は正常ですか	
	●セフティペダルの作動具合は正常ですか	86
	●マルチハンドルで、コンバインの旋回が行えますか	119
	●刈取昇降スイッチで、刈取部の昇降が行えますか	79
	●リール昇降・リール速度スイッチ、リール前後・リール速度スイッチで、リールの作動が行えますか	64・79
	●作業クラッチレバーで、脱こく部の作動・停止が行えますか	78
	●作業クラッチレバーで、刈取部の作動・停止が行えますか	78
スプレッダ・セカンドモアについて	●スプレッダの固定刃・回転刃に摩耗はありませんか	
	●スプレッダ・セカンドモア駆動部の油切れはありませんか	
	●それぞれの取扱説明書に従って点検してください	



運転前の準備

⚠ 警　告

取扱説明書および安全銘板の内容が理解できない人や子供は運転しないでください。また、作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。誤作動などにより、コンバインが破損し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

コンバインへの乗降のしかた

⚠ 注　意

コンバインへの飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。乗降するときは、必ず乗降用グリップを持って行ってください。

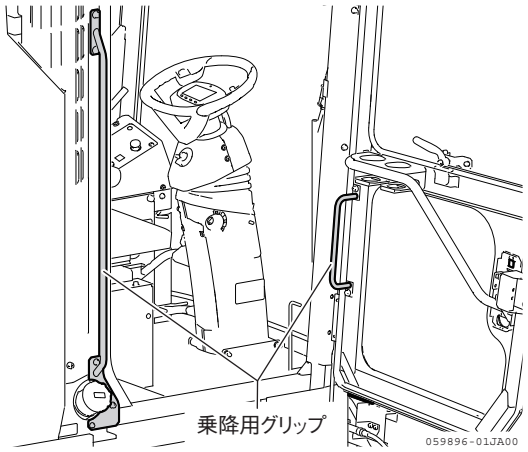


図 2-103

乗降のしかた

乗り降りするときは、必ず乗降ステップを図 2-105 のようにセットしてください。
コンバインに乗降するときは、アシストバーとパイプをしっかり握り、運転席を向いた形で行ってください。

■ 乗降するとき

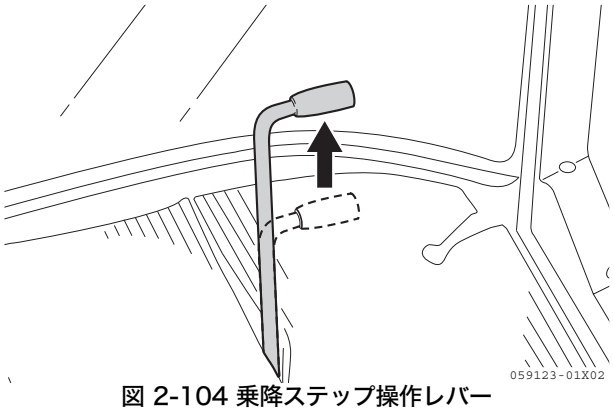


図 2-104 乗降ステップ操作レバー

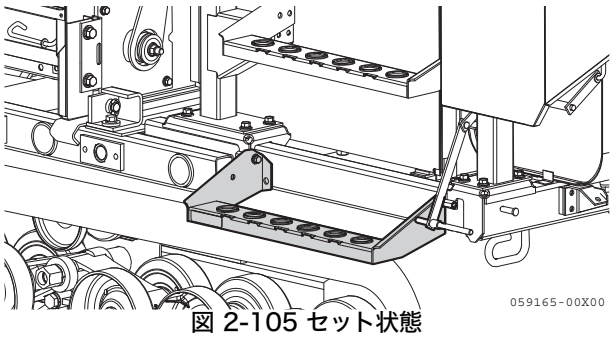


図 2-105 セット状態

コンバインから降りて昇降ステップを出し入れするときは乗降ステップ自体を手で持って行ってください。

■ 収納するとき

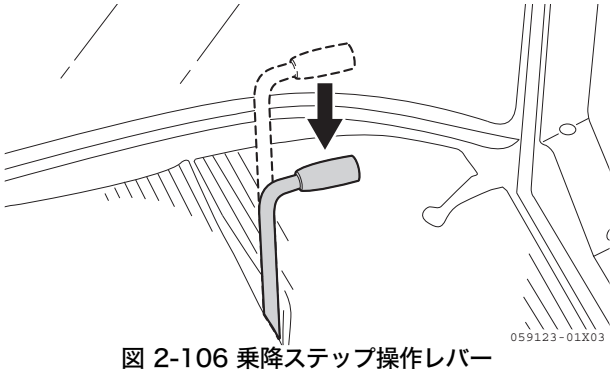


図 2-106 乗降ステップ操作レバー

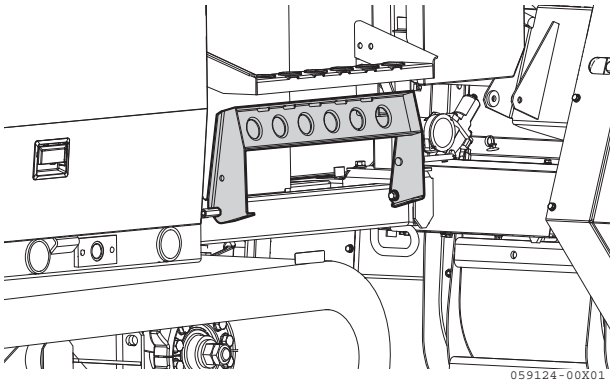


図 2-107 収納状態

[重要]

- トラックに積み･降ろしをするときは､乗降ステップを収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、乗降ステップを収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。
- 乗降ステップ操作レバー操作時に、オーガマルチリモコンのケーブルをはさまないように注意してください。

シート位置の調節のしかた

⚠ 警　告

ドライバーシートの調節は､必ずコンバインが停止した状態で行ってください｡走行しながらの調節は事故を起こすおそれがあります。

ドライバーシートの上下・前後位置およびリクライニング状態を、運転者の体格または作業状態に合わせて調節してください。

前後調節のしかた

1. 前後調節レバー (1) を矢印方向に引き上げます。(図 2-108)
2. ドライバーシート (2) を前後移動します。(図 2-108)
3. 前後調節レバーから手を離します。ドライバーシートが固定されます。

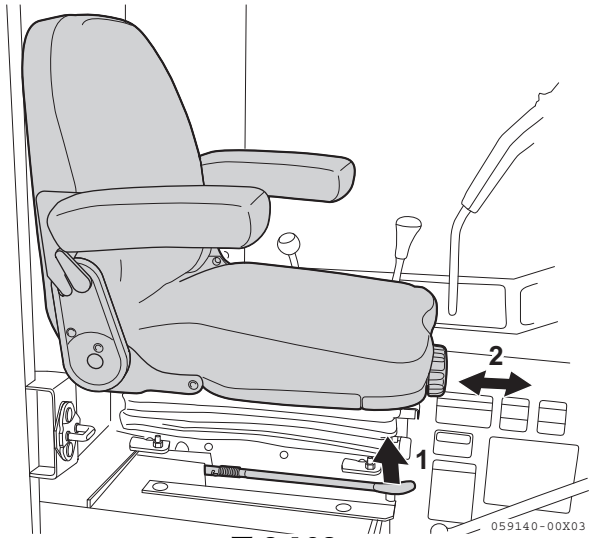


図 2-108

座面硬さの調節のしかた

1. サスペンション調節ノブ（1）を回します。右（2）へ回すと座面が硬くなり、左（3）へ回すと座面が軟らかくなります。(図 2-109)

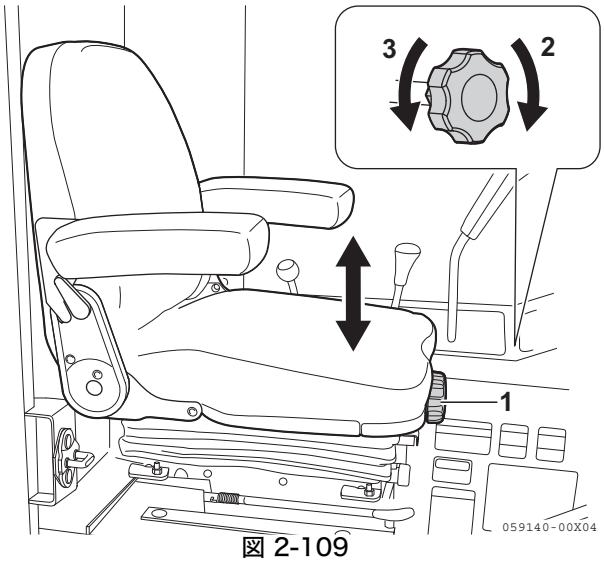


図 2-109

右へ回す…座面が硬くなります。(上がります)
左へ回す…座面が軟らかくなります。(下がります)

2. サスペンション調節ノブから手を離します。

リクライニング調節のしかた

リクライニング調節レバー（1）を「解除」位置（2）にして、座席の背もたれの角度を調節し、「ロック」位置（3）で背もたれの角度が固定されます。
(図 2-110)

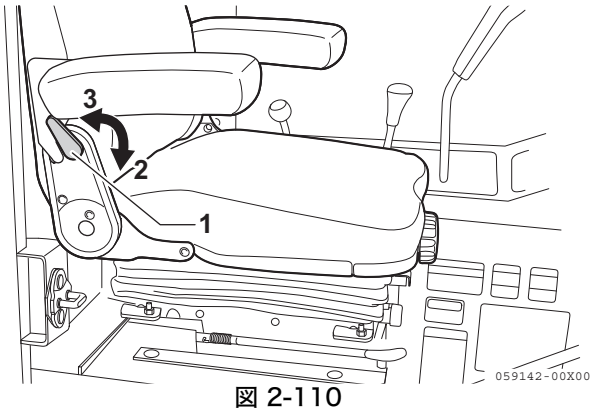


図 2-110

マルチハンドルの前後調節のしかた

⚠ 警　告

マルチハンドルの調節は、必ずコンバインが停止した状態で行ってください。走行しながらの調節は事故を起こすおそれがあります。

マルチハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

調節のしかた

1. チルトレバー（1）を「解除」位置（2）にします。マルチハンドルの固定がゆるみます。(図 2-111)

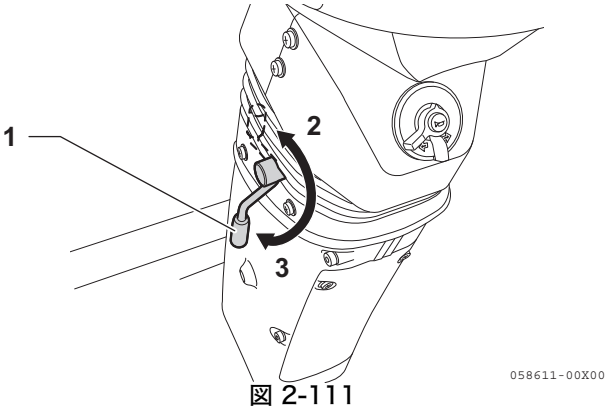


図 2-111

2. マルチハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節します。
3. チルトレバーを「固定」位置（3）にします。マルチハンドルが固定されます。(図 2-111)

[重要]
マルチハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

メンテナンスモードについて

⚠ 警　告

- 「メンテナンスモード」を設定するときは、安全な場所にコンバインを停止した状態で行ってください。
  不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 設定を変更するときには、変更内容を確認して行ってください。不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 確認する内容によっては、1人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特販店または、JAにご相談ください。不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- チェッカ機能を使用するときには、安全な場所でコンバインを停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「ON」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむをえずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

このコンバインには、「メンテナンスモード」があります。
「メンテナンスモード」には、機能変更や微調整が行える「初期設定モード」、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行える「チェッカモード」、およびサービスマンがコンバインの点検を行うための「サービスマンモード」があります。(「サービスマンモード」には、お客様が入ることはできません。)
「初期設定モード」では、フィット昇降の速度を5段階に変更できる「フィット昇降速度設定」、およびEモードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更できる「Eモード設定」の各機能の設定変更がでます。

メンテナンスモードへの切り替えかた

「メニュー」(スイッチ)を3秒以上押し続けます。(図 2-112)
はじめにブザーが断続で鳴ってから「メンテナンス選択メニュー」の画面に切り替わります。(図 2-113)

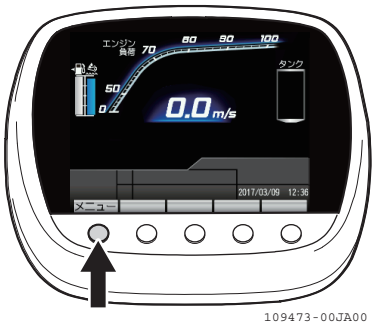


図 2-112

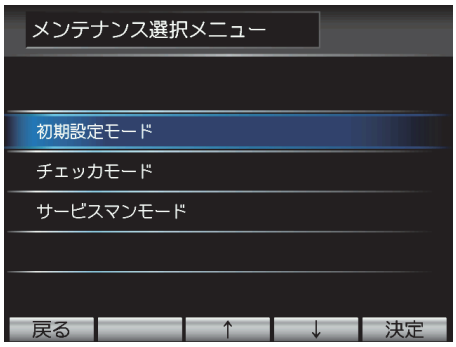


図 2-113

[参考]

- メンテナンスモードには 3 種類のモードがあります。
- センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ1～5で行ってください。(図 2-114)

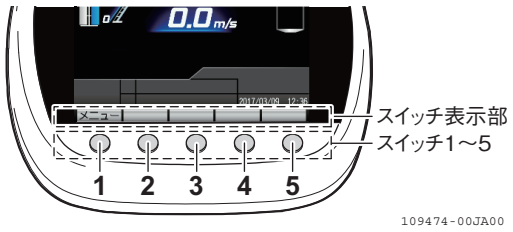


図 2-114

■ 初期設定モード

このモードは機能変更や、微調整が行えるモードです。

■ チェッカモード

このモードはスイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行えるモードです。「不調診断のしかた」(264ページ参照) で詳しく説明します。

■ サービスマンモード

サービスマンがコンバインの点検を行うためのモードです。お客様がこのモードに入ることはできません。

初期設定モードへの切り替えかた

「↑」(スイッチ)および「↓」(スイッチ)を押して「初期設定モード」を選択し、「決定」(スイッチ)を押します。初期設定モードでは、「初期設定メニュー」の画面に表示された設定が行えます。(図 2-115)



図 2-115

[参考]

初期設定モードで設定を変更した場合は、一度キースイッチを「OFF」位置にし、約10秒以上経過してから「入」位置にしてください。センターディスプレイはキースイッチが「OFF」位置のときにバックアップ動作を行っているため、十分な「OFF」の時間がないと、設定変更が反映されない場合があります。

■ フィット昇降速度設定

フィット昇降の昇降速度を5段階に調節できます。

■ Eモード設定

E モードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更できます。

それぞれの機能の変更方法について説明します。

フィット昇降速度設定

1. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「フィット昇降速度設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。(図 2-116)



図 2-116

2. 確認画面が表示されますので、刈取昇降速度を変更するときは「はい」(スイッチ) を押します。「戻る」(スイッチ) を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。(図 2-117)

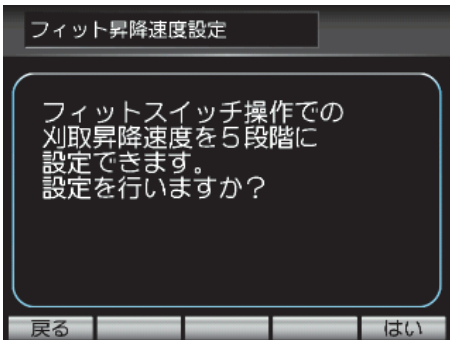


図 2-117

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「上昇速度」を選択し、「変更」(スイッチ) を押します。(図 2-118)
「上昇速度」と「下降速度」は別々に設定できます。



図 2-118

4. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して、設定したいフィット昇降の速度を選択します。「↑」（スイッチ）を押すごとに、フィット昇降の速度が1段ずつ速くなります。最速になると最遅に戻り、また押すごとに速くなります。
（図 2-119）



図 2-119

[参考]
工場出荷時は、中央値に設定されています。

5. 「決定」（スイッチ）を押して、フィット昇降の速度を確定します。（図 2-120）
確定後は、通常の画面に戻ります。

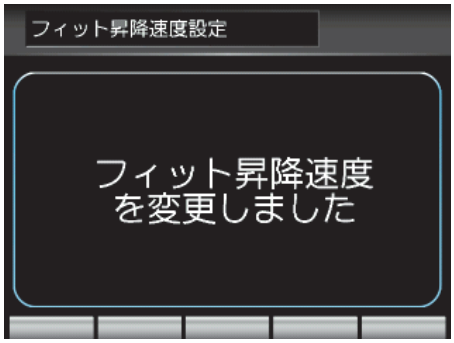


図 2-120

Eモード設定

1. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「次の画面へ」を選択し、「決定」（スイッチ）を押します。（図 2-121）

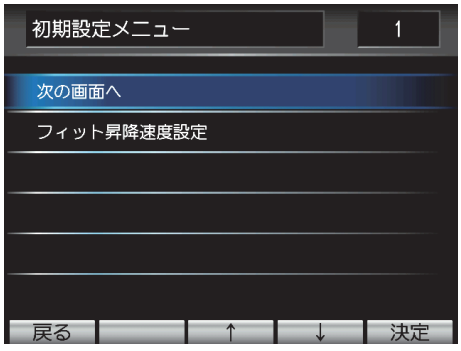


図 2-121

2. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「Eモード設定」を選択し、「決定」（スイッチ）を押します。（図 2-122）



図 2-122

3. 確認画面が表示されますので、「はい」（スイッチ）を押します。
「戻る」（スイッチ）を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。（図 2-123）

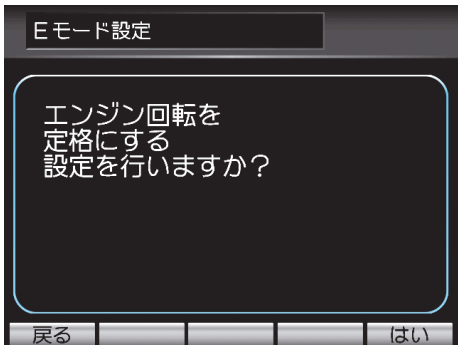


図 2-123

4. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「設定を変更したい項目」を選択し、「変更」（スイッチ）を押します。（図 2-124）

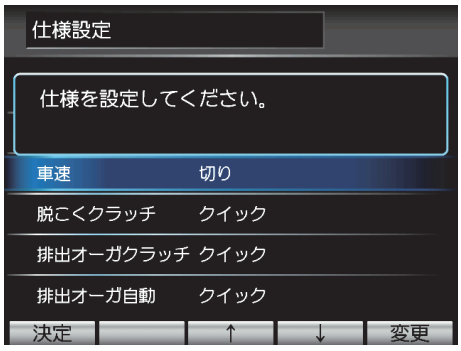


図 2-124

5. 「変更」（スイッチ）を押すごとに「クイック」「スロー」「切り」に切り替わります。（図 2-125）

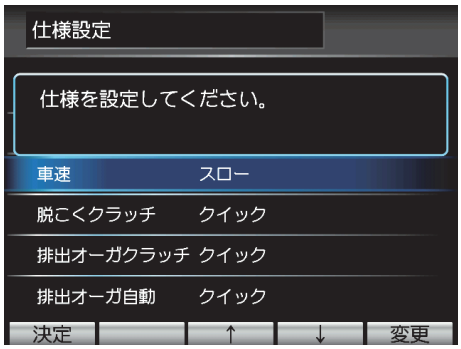


図 2-125

[参考]

- 仕様の設定は、車速・脱こくクラッチ・排出オーガクラッチ・排出オーガ自動、それぞれ別々に設定できます。
- 出荷時は、つぎの状態に設定されています。（図 2-126）
  - ・車速　クイック
  - ・脱こくクラッチ　クイック
  - ・排出オーガクラッチ　スロー
  - ・排出オーガ自動　クイック

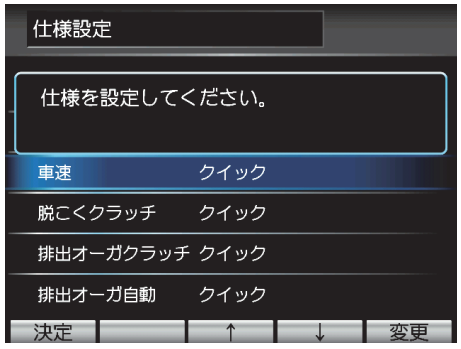


図 2-126

〈クイック〉
エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に瞬時に上がります。

〈スロー〉
エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に5秒かけて徐々に上がります。

〈切り〉
エンジン回転数は、アイドリング回転のまま維持されます。

6. 「決定」（スイッチ）を押して、Eモード設定を確定します。確定後、確認画面が2秒間表示され、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。（図 2-127）

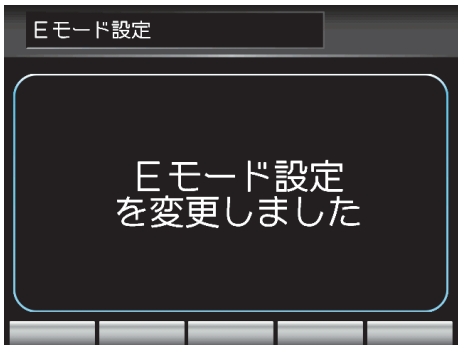


図 2-127

[重要]

「切り」に設定した場合は、E モードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）の状態で操作をしても、エンジン回転はアイドリング回転数のままです。
エンジン回転を上げる場合は、E モードスイッチを「切」（Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤルでエンジン回転を調節してください。

操作機能の変更のしかた

センターディスプレイで操作機能の一部を変更できます。表 2-6 に変更できる機能と、設定方法について説明します。

表 2-6 変更項目一覧

番号	機能	内容
1	積算時間 (アワメータ)	センターディスプレイに表示させる積算時間を「エンジン」または「作業時間」に設定できます。 (109ページ参照) エンジン……エンジンが回転している時間を積算する 作業時間……作業クラッチレバーが「刈取」状態になっている時間を積算する。
2	作業時間	「作業時間」の積算を「0」に戻すことができます。 (110ページ参照) 「エンジン」の積算時間を、「0」にすることはできません。

[参考]

センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ 1 ～ 5 で行ってください。(図 2-128)

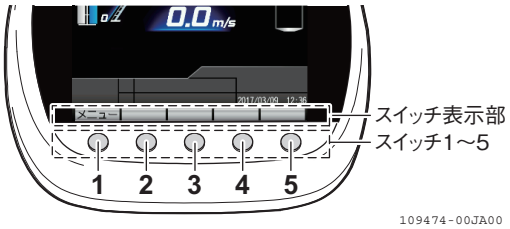


図 2-128 操作機能の変更のしかた

積算時間(アワメータ)の表示を変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。
   メニュー画面が表示されます。(図 2-129)

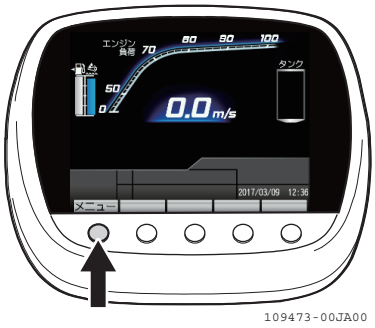


図 2-129

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。(図 2-130)

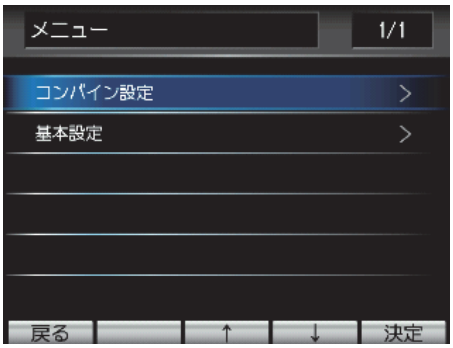


図 2-130

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「積算時間」を選択します。(図 2-131)

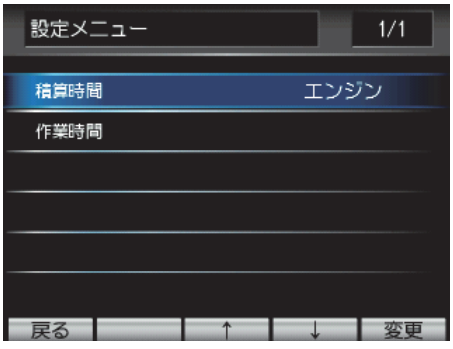


図 2-131

[参考]

- 工場出荷時は、「エンジン」に設定されています。
- 「↓」（スイッチ）を押していると、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。
  メンテナンス時間のリセットについては、201 ページを参照してください。（図 2-132）

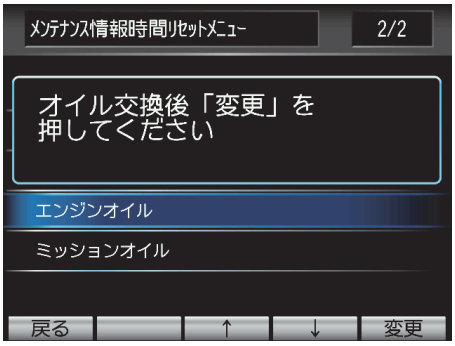


図 2-132

4. 「変更」（スイッチ）を押すごとに、「エンジン」「作業」を選択できます。
5. 「エンジン」を選択すると、通常の画面でアワメータが「砂時計マーク」を表示し、エンジンの使用時間を表示します。「作業時間」を選択すると、通常の画面でアワメータが「作業時間」を表示し、作業クラッチレバーが「刈取」位置の時間を表示します。
6. 「戻る」（スイッチ）を押して、積算時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

[参考]

通常の画面に戻らないで、キースイッチを「OFF」位置にすると、設定内容が記憶されません。

作業時間をリセットするには

1. 「メニュー」（スイッチ）を押します。
   メニュー画面が表示されます。（図 2-133）

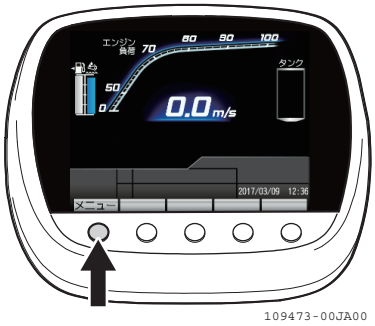


図 2-133

2. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」（スイッチ）を押します。（図 2-134）



図 2-134

3. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「作業時間」を選択します。（図 2-135）

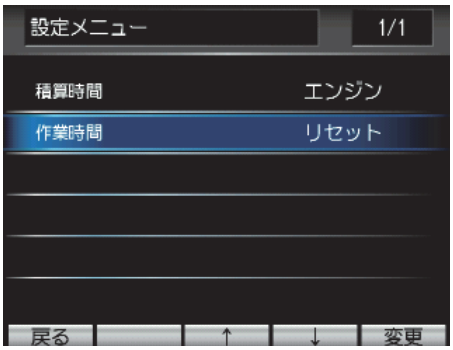


図 2-135

[参考]

「↓」(スイッチ) を押していると、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」が表示されますが、操作機能の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、201 ページを参照してください。(図 2-136)

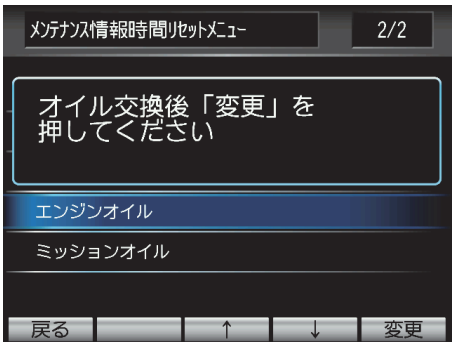


図 2-136

4. 「変更」(スイッチ) を押すと、「リセット」と表示され、作業時間の積算時間のリセットが確定されます。「リセット」の文字は数秒すると消えます。
5. 「戻る」(スイッチ) を押して、作業時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

基本設定のしかた

日付やセンターディスプレイ明るさなどを変更できます。表 2-7 に変更できる機能と、設定方法について説明します。

表 2-7 変更項目一覧

番号	項目	内容
1	明るさ設定	ディスプレイの明るさを設定できます。
2	日付・時間設定	日付、時間を設定できます。

[参考]

センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ 1 ～ 5 で行ってください。(図 2-137)

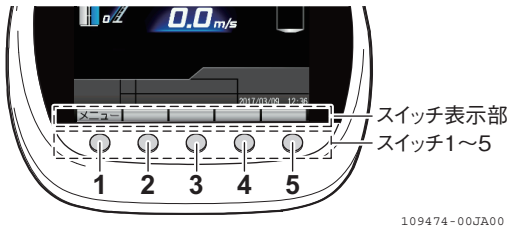


図 2-137

センターディスプレイの明るさを変更するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。(図 2-138)
   メニュー画面が表示されます。

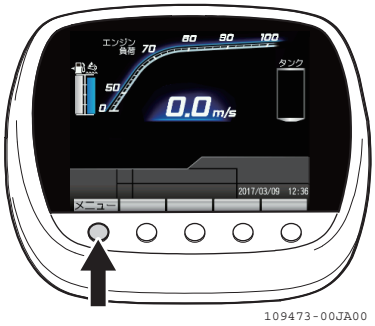


図 2-138

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「基本設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。(図 2-139)



図 2-139

3. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「明るさ設定」を選択します。(図 2-140)



図 2-140

4. 「変更」(スイッチ) を押して、明るさを選択します。
5. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して、設定したい明るさを選択します。「↑」(スイッチ) を押すごとに、明るくなります。
6. 「戻る」(スイッチ) を押して、明るさの設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

日付・時間を設定するには

1. 「メニュー」(スイッチ) を押します。(図 2-141)
メニュー画面が表示されます。

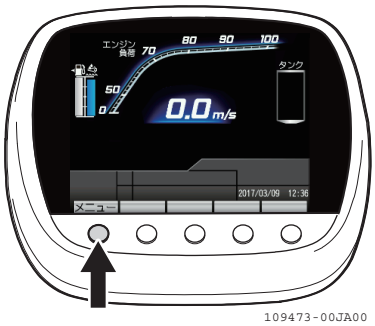


図 2-141

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「基本設定」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。(図 2-142)



図 2-142

3. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「日付・時間設定」を選択し、「変更」（スイッチ）を押します。（図 2-143）



図 2-143

4. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押して「年」を選択し、「→」（スイッチ）を押すとカーソルが「月」に移動します。（図 2-144）



図 2-144

5. 同じ手順で「月」「日」「時」「分」を入力します。
6. 「決定」（スイッチ）を押して、日付・時間の設定を確定します。

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠ 警　告

- エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジンを始動するときは、つぎのことを必ず守ってください。急にコンバインが動き出して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
  - 平たんな場所で運転席に座ってください。
  - 駐車ブレーキがかかっていること確認してください。
- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良により、コンバインが故障し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- コンバインを使う前と後には、99ページの「運転前の点検」に従って必ず点検・整備をしてください。特に、セフティペダル・レバーやスイッチなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジン始動時、異常がないこと確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備をしてください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

⚠ 注　意

- エンジン始動時は、必ず運転席に座って周囲の安全を確認し、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置にあること、各作業クラッチが「OFF」または「切」位置にあることを確認してください。急にコンバインが動き出して、けがをするおそれがあります。
- 周囲の安全を確認し、エンジン始動前にホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

[重要]

- 走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンがかからない場合があります。
- 作業中にエンジンが停止したときは、キースイッチをいったん「OFF」位置にしてから、再度始動してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. エンジン後カバーを開きます。（173ページ参照）
2. ウォーターセパレータ（1）のコック（2）を「開」位置にします。（図 2-145）

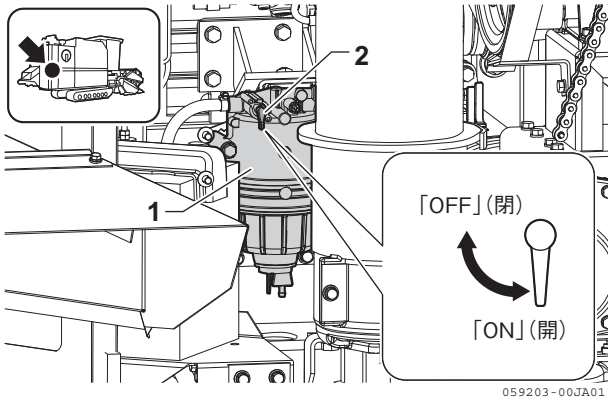


図 2-145

3. エンジン後カバーを閉めます。
4. ドライバーシートに座ります。
5. オールマイティシフトレバー（1）を「N」（中立）位置にします。（図 2-146）
6. 作業クラッチレバー（2）を「OFF」位置にします。（図 2-146）

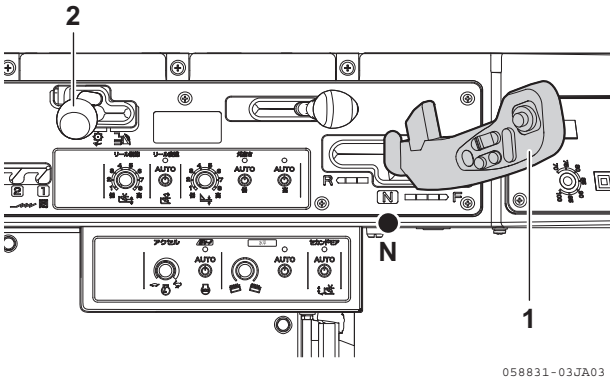


図 2-146

エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。（87ページ参照）
2. キースイッチにキー（1）を差し込んで、「ON」位置にします。（図 2-147）

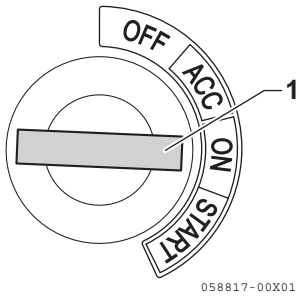


図 2-147

[重要]

キースイッチを「ON」位置にすると、センターディスプレイ下部に「グロー作動中」の文字が表示されます。（図 2-148）

エンジンが冷えているときは、「グロー作動中」の文字が消えたことを確認してから、つぎの操作を行ってください。



図 2-148



図 2-149 通常の画面

[参考]

- メンテナンスが必要な時期になったときは、メンテナンス情報が文字で表示されます。(図 2-150)

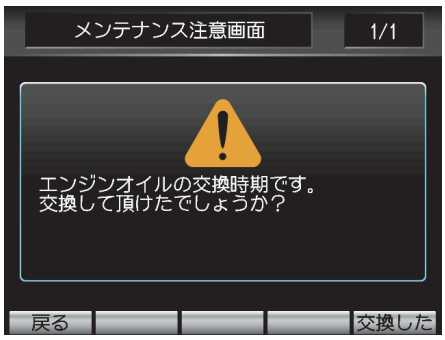


図 2-150

- このとき、デュアルモニターにコンバイン後方とオーガ先端の映像が映し出されます。

3. Eモードスイッチ（1）を「切」(Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤル (2) を「」位置にします。エンジン回転数が上がります。(図 2-151)

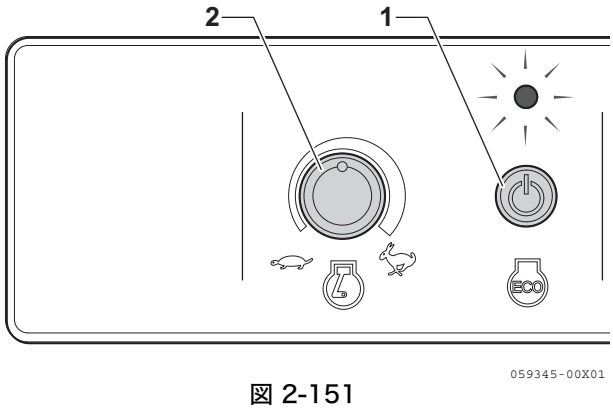


図 2-151

[参考]

Eモードスイッチが「入」(Eモードランプ点灯）でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、Eモードスイッチは「切」(Eモードランプ消灯）にしておいてください。

4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」位置に回します。(図 2-152)

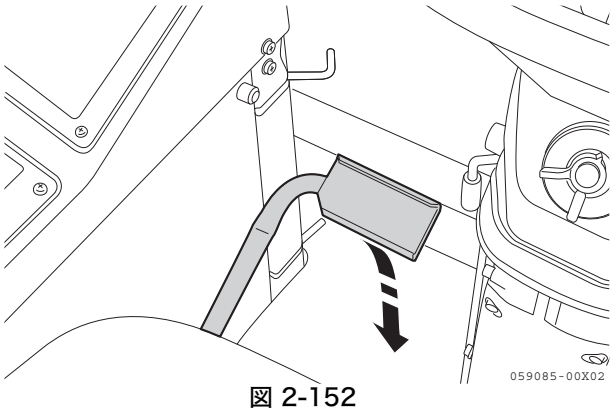


図 2-152

[重要]

- 作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、セルモータが回りません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「OFF」位置にして、1 分以上経ってから、再び始動してください。

5. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離します。キースイッチは、自動的に「ON」位置に戻ります。

[重要]

エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「START」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

暖機運転のしかた

⚠ 警　告

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. Eモードスイッチ（1）を「切」（Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤル（2）を「🐢」位置にします。（図 2-153）

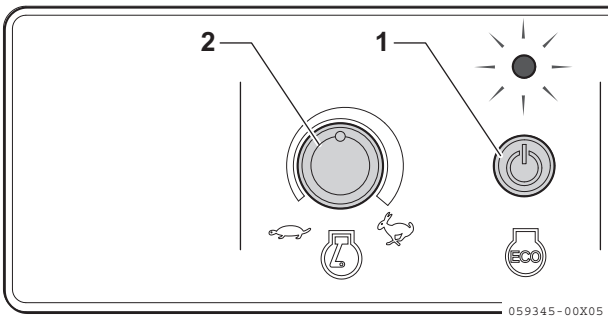


図 2-153

3. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」位置に回します。
4. 駐車ブレーキをかけます。（87ページ参照）
5. 約5分間は作業（ステアリングハンドル・各操作レバー・各操作スイッチの操作）をせずに、エンジンをかけたままにしておきます。

[重要]

寒冷時は、作動油の温度上昇に時間がかかります。暖機運転を行わないと満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

[参考]

- 寒冷時は、表 2-8 を参考に暖機運転を行ってください。

表 2-8 暖機運転時間

気温	暖機運転時間
15～0℃	10分以上
0～－5℃	20分以上
－5℃以下	30分以上

- 寒冷時は、エンジン始動時にマフラーパイプ内で結露した水分が、水蒸気や水滴として飛散することがあります。
- 寒冷時は、エンジンが十分に暖まってからエンジンを停止してください。エンジンが十分に暖まる前にエンジンの始動・停止を繰り返すと、マフラーパイプ内から飛散する水蒸気や水滴が多くなります。

エンジンの停止のしかた

⚠ 警　告

コンバインを使用しないときは必ずキーを抜いて、安全な保管場所にキーを保管してください。子供などが操作し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にします。（図 2-154）

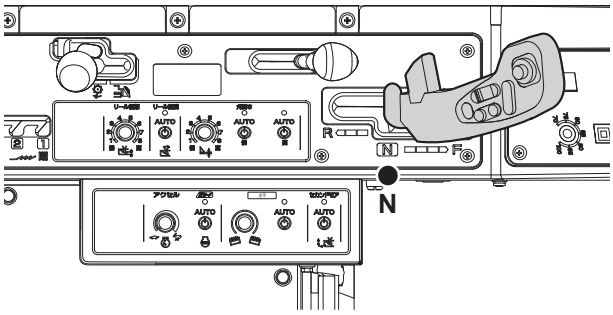


図 2-154

2. Eモードスイッチ「切」（Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤルを「🐢」位置にします。エンジン回転が下がります。
3. キースイッチを「OFF」位置にします。エンジンが停止します。
4. キーを抜きます。

[重要]

オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置でないときは、キースイッチを「OFF」位置にしないでください。エンジンが再始動しにくくなることがあります。

[参考]

エンジンを停止するときは、低速回転で5分間以上運転を行うことを推奨します。

運転操作

発進･走行のしかた

⚠ 警　告

- 発進は、ゆっくり行ってください。急発進・急旋回・急停止すると、傷害事故を起こすおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。
- エンジン始動時、異常がないことを確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。
- 寒冷時に運転する場合は、エンジン始動後、暖機運転を必ず行ってください。駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤作動などにより、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

発進するときは､周囲の安全を確認しホーンを鳴らして発進の合図をしてください。

発進前の準備

1. エンジンを始動します。(114ページ参照)
2. 駐車ブレーキを解除します。(87ページ参照)
3. Eモードスイッチ（1)「切」(Eモードランプ消灯）にして、アクセルダイヤル（2）を「」位置にします。エンジン回転が上がります。(図 2-155)

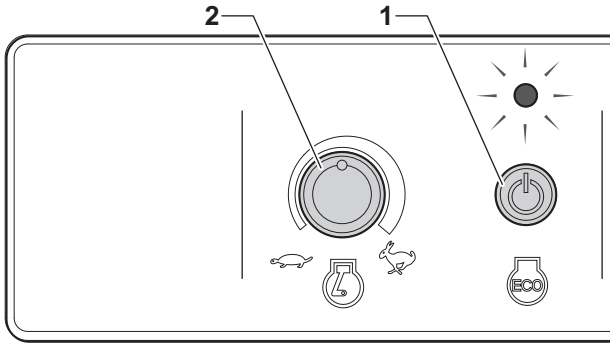


図 2-155

[参考]

エンジン回転数は、必ずセンターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」の回転数にしてください。(図 2-155)



図 2-156

4. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押します。刈取部が上昇します。(図 2-157)

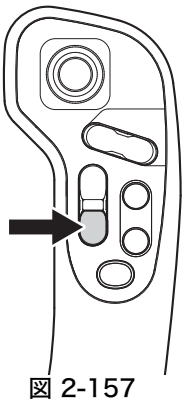


図 2-157

5. リール昇降・リール速度スイッチ（1）を「下降」(2) にします。リールが下降します。(図 2-158)

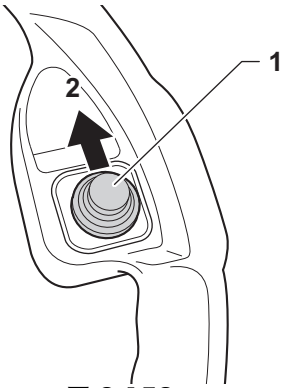


図 2-158

6. 副変速レバーを希望の位置にします。(図 2-159) (77ページ参照)

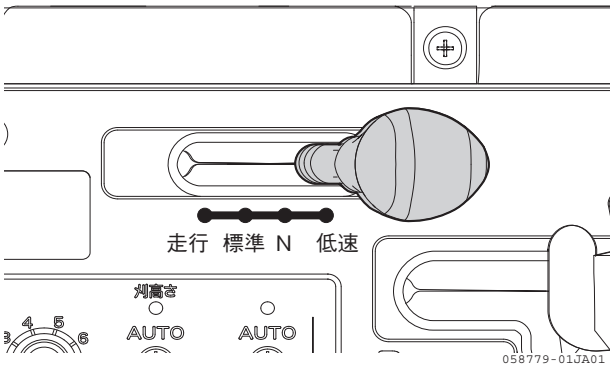


図 2-159

発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除します。(87ページ参照)
2. マルチハンドルを右手で持ちます。
3. 左手でオールマイティシフトレバーをゆっくり前方へ倒します。コンバインが発進します。(図 2-160)
   1) 周囲の安全を十分に確認します。
   2) オールマイティシフトレバーをゆっくり前方に倒して発進します。
   3) 発進後、必要に応じてオールマイティシフトレバーをさらに前方へ倒してスピードを上げます。

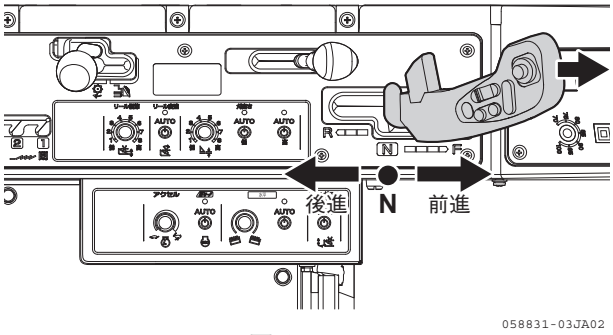


図 2-160

[重要]

- コンバインはHSTミッションのため、走行時はエンジン回転数を、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」にしてください。
- オールマイティシフトレバーは、セフティペダルを踏み込まずに操作してください。セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置で固定されます。
- オールマイティシフトレバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ずコンバインが完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、コンバインが破損することがあります。

変速のしかた

⚠ 警　告

坂道では、副変速レバーを操作しないでください。コンバインが不意に動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバー（1）を「N」（中立）位置にします。コンバインが停止したことを確認します。（図 2-161）
2. 副変速レバー（2）を希望の位置にします。（図 2-161）

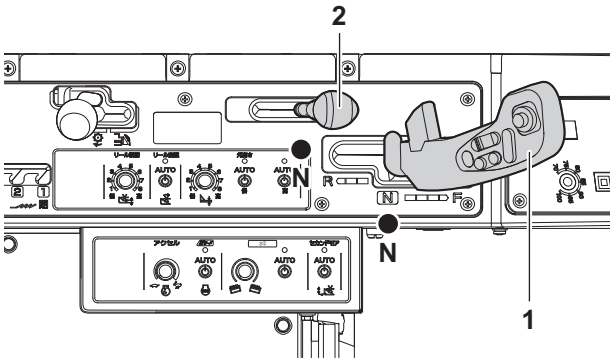


図 2-161

[重要]

- セフティペダルを踏み込まない方がスムーズに変速できます。
- 副変速レバーを操作する場合は、必ずコンバインが完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、コンバインが破損することがあります。

旋回のしかた

⚠ 警　告

副変速レバーが「走行」位置での高速移動時に、急旋回はしないでください。必ず速度を落として旋回操作を行ってください。接触・転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーで走行スピードを下げます。（図 2-162）

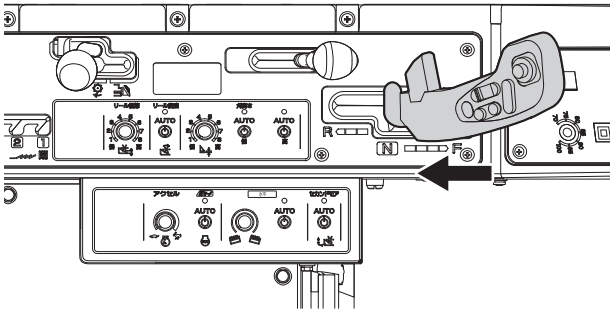


図 2-162

2. 旋回したい方向へマルチハンドルを回すと、その方向へコンバインが旋回します。（図 2-163）

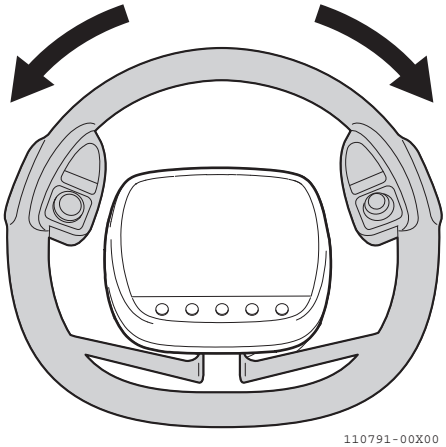


図 2-163

マルチハンドルの操作量と旋回角度について

ハンドルの操作量によって、旋回角度が調節できます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速し、約1/4回転で、クローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々にクローラが逆転し始め、約135°でスピンターンの状態になります。

■ ハンドルの操作量と旋回状態

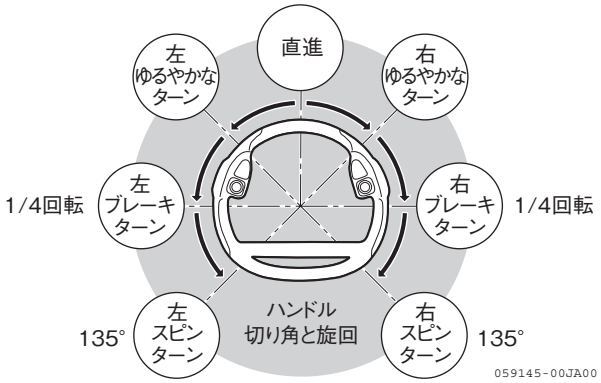


図 2-164

■ 旋回モードの切り替えについて

旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。(図 2-165)

「標準モード」位置…旋回時に自動減速がはたらき、小回り（スピンターン）ができます。

「湿田モード」位置…旋回時に自動減速を切り、ゆるやかな旋回ができます。

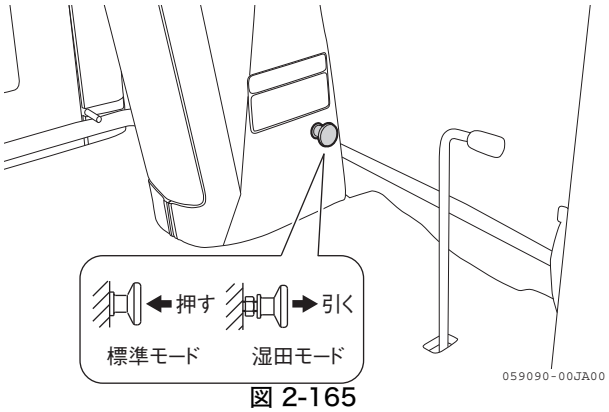


図 2-165

表 2-9 旋回モード

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ 注意：ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行	◎	×（使用不可）
車庫入れ	◎	×（使用不可）

[重要]

移動時は、必ず「標準モード」で走行してください。

[参考]

「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、コンバインの沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えます。さらに湿田性能が向上します。

停車・駐車のしかた

⚠ 警　告

駐車するときは、平たんで安定した場所に止め、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてクローラに車止めをしてください。また、オールマイティシフトレバーが「N」(中立)位置になっていることを確認してください。コンバインから離れるときは、必ずキーを抜いてください。コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

停車のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にします。コンバインが完全に停止したことを確認します。(図 2-166)

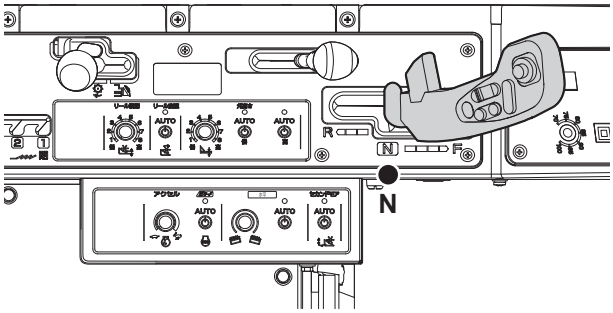


図 2-166

2. 駐車ブレーキをかけます。
(87ページ参照)
3. Eモードスイッチ (1) を「切」(Eモードランプ消灯) にして、アクセルダイヤル (2) を「🐢」位置にします。エンジン回転が下がります。
(図 2-167)

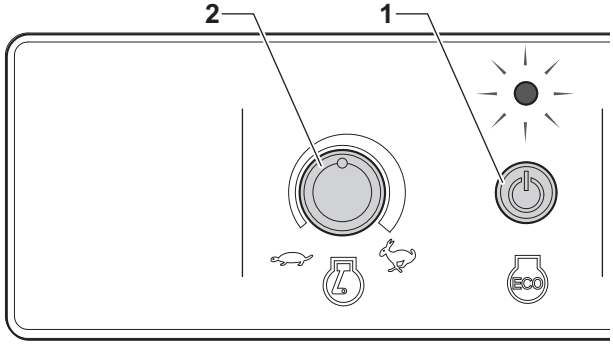


図 2-167

4. キースイッチを「OFF」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-168)

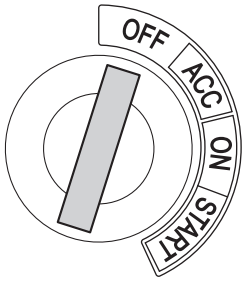


図 2-168

駐車のしかた

⚠ 警　告

坂道の途中では駐車しないでください。

1. 平たんで安全な場所にコンバインを移動します。
2. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押します。刈取部が地面に接地します。(図 2-169)



図 2-169

3. リール昇降・リール速度スイッチ (1) を「下降」側 (2) にします。リールが下降します。
(図 2-170)

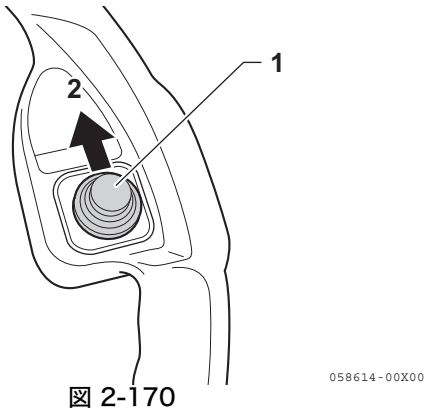


図 2-170

4. エンジンを停止します。(116ページ参照)
5. セフティペダルをいっぱいに踏み込みます。

[参考]
セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」(中立)位置に戻ります。

6. 駐車ブレーキロックレバー(1)を手前に引きます。(図 2-171)

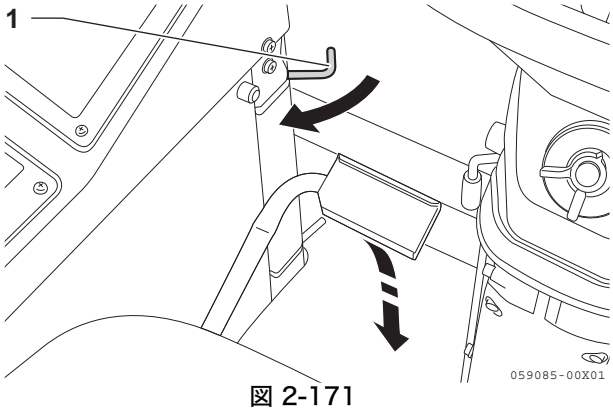


図 2-171

7. セフティペダル(1)にフック部(2)をかけると、駐車ブレーキがかかります。(図 2-172)

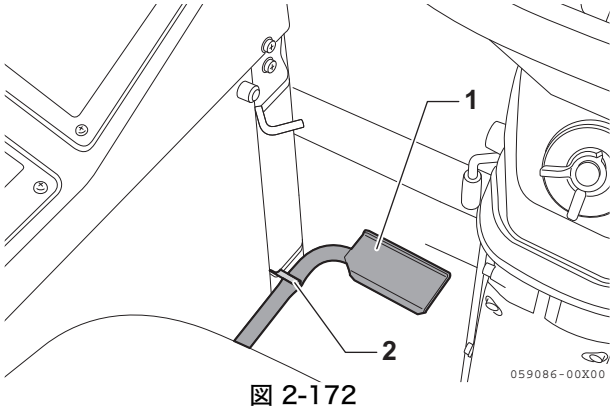


図 2-172

8. 運転席から離れる場合は、キーを抜きます。

[参考]
駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。

移動走行のしかた

⚠ 警 告

- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、リール、セカンドモア、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」(ランプ消灯)にしてください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- グレンタンク内にこく粒が入っていると、コンバインの重心が高くなり、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。必ずタンクは、空にしてください。
- コンバインが前後・左右とも11度を越える傾斜地は走行しないでください。転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 安全のために、ヘルメットを着用してください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草がおいしげっている所は、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。
- エンジン始動時、異常がないことを確認してください。異音や異常な振動がある場合は、ただちにエンジンを停止して点検・整備してください。それでも異常が改善されない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

⚠ 注 意

- デバイダヘッドを外し、サイドデバイダは内側に、排出オーガはオーガレストへ、乗降ステップは操作レバーを操作して収納してください。破損したり、当たってけがをするおそれがあります。
- 移動時は、ヘッダー底の高さを地面より 20cm 程度上げてください。
- 移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替えてください。旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 移動走行するときは、Eモードスイッチを「切」（E モードランプ消灯）にしてください。E モードスイッチを「入」にしたままでは、アクセルレバーでのエンジン回転調節ができないため思わぬ事故の原因になります。
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 運転者の他に、人を乗せないようにしてください。

[重要]

移動走行するときは､乗降ステップおよびセンサソリを収納してください｡乗降ステップおよびセンサソリの破損･変形を防ぐことができます。

コンバインの走行姿勢について

1. デバイダヘッド（1）を、ボルト（2）M8（2本）をゆるめて外します。(図 2-173)

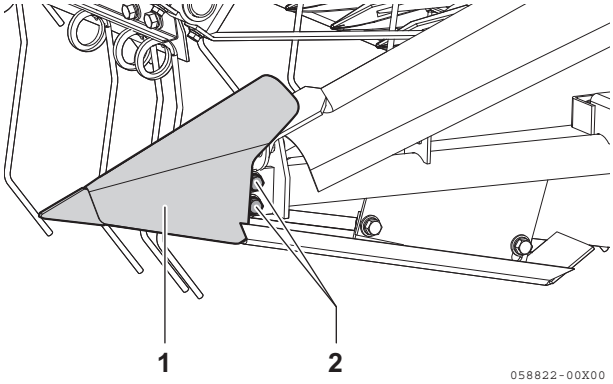


図 2-173

2. サイドデバイダを収納します。(図 2-174)

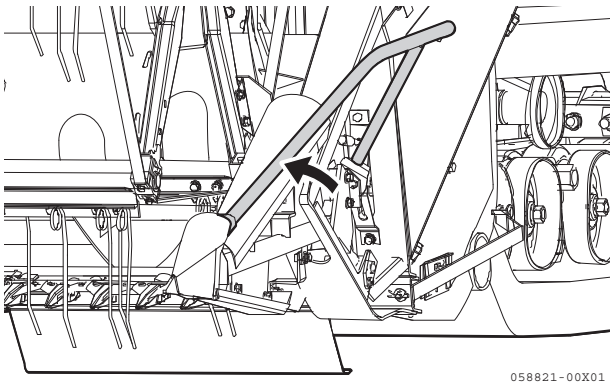


図 2-174

3. グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。(160ページ参照)

4. 排出オーガ（1）をオーガレスト（2）に収納します。(図 2-175)(160ページ参照)

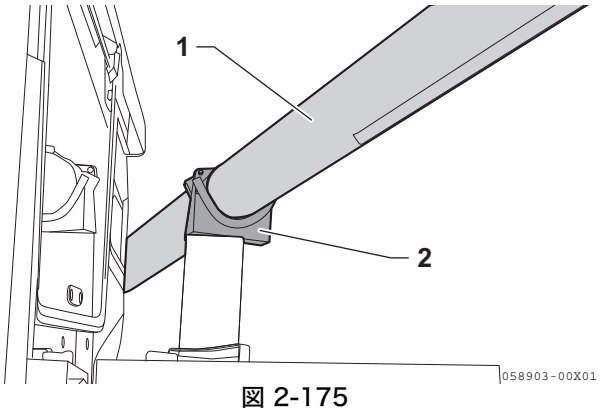


図 2-175

[参考]

オーガが収納されていない状態で走行を開始すると、警報ブザーが鳴ります。オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にしてコンバインを停止させるとブザーが止まります。センターディスプレイのOFF（ブザー）スイッチでも警報を停止することができますが、コンバインが動くと再度ブザーが鳴りますので、ブザーが鳴ったらコンバインを停止させてオーガを収納してください。

5. Eモードスイッチを「切」(Eモードランプ消灯）にします。また、リール、セカンドモア、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」(ランプ消灯）にします。(図 2-176)

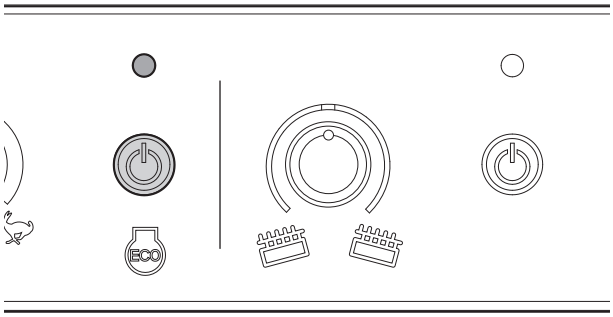


図 2-176

[参考]

Eモードスイッチが「入」(Eモードランプ点灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、Eモードがはたらき､瞬時にエンジン回転が定格回転(グリーンゾーン）になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調整はできません。

6. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にします。(図 2-177)

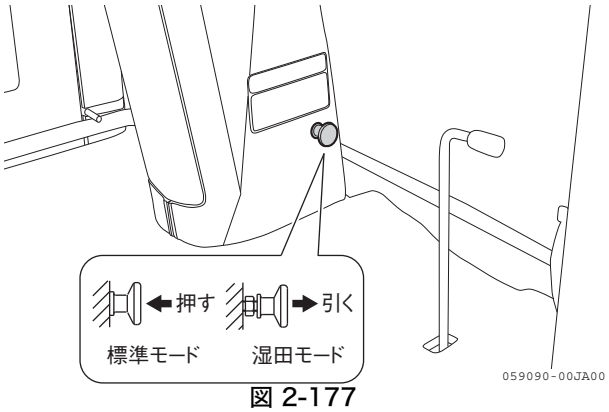


図 2-177

移動走行操作のしかた

1. センサソリ切替レバー（1）を「収納」位置（2）にして、センサソリを収納します。(図 2-178)

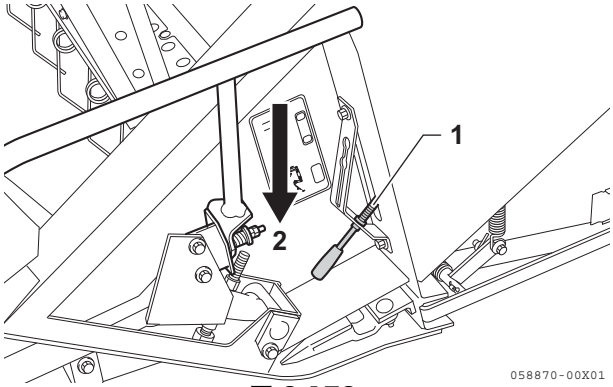


図 2-178

2. 乗降ステップを収納します。(90ページ参照)
3. エンジンを始動します。(114ページ参照)
4. 駐車ブレーキを解除します。(87ページ参照)
5. Eモードスイッチを「切」(Eモードランプ消灯)にし、アクセルダイヤルを「」位置にします。エンジン回転が上がります。(エンジン回転数は、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」(1) 位置に調節します。)
(図 2-179)



図 2-179

6. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押して、刈取部を地面から20cm程度上げます。(図 2-180)

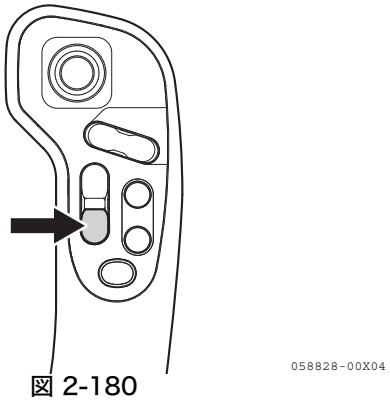


図 2-180

7. リール昇降・リール速度スイッチ（1）を「下降」側（2）にします。リールが下降します。
(図 2-181)

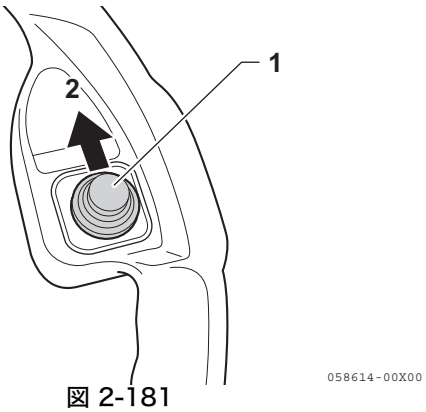


図 2-181

8. オールマイティシフトレバー（1）を「N」（中立）位置にして、副変速レバー（2）を希望の位置にします。（図 2-182）

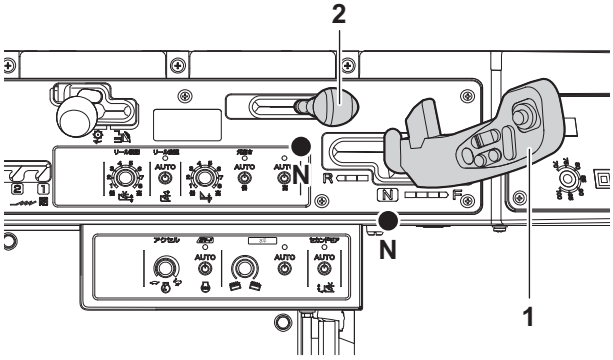


図 2-182

[参考]

このとき、セフティペダルを踏み込む必要はありません。

9. オールマイティシフトレバーを少しずつ前進方向に倒して、ゆっくりと発進し、徐々にスピードを上げます。（図 2-183）

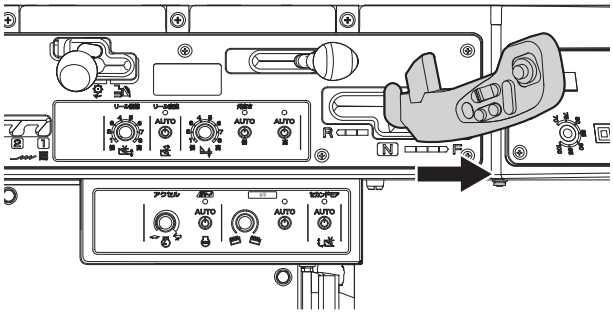


図 2-183

[重要]

- 走行スピードは、オールマイティシフトレバーで調節してください。
- エンジン回転数は、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。

夜間運転のしかた

[重要]

夜間運転時、ヘッドライト、作業灯、エアコンをつけたままで、長時間エンジン低回転域で使用することは、さけてください。バッテリーの早期消耗にいたり、エンジンの始動ができなくなることがあります。

エアコンの使いかた

[重要]

- エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」位置（ランプ点灯）にしてください。
- エアコンスイッチが「ON」位置（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」位置（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

暖房・冷房・除湿のしかた

1. エンジンを始動します。
2. ファンスイッチを希望の風量位置にセットします。（図 2-184）

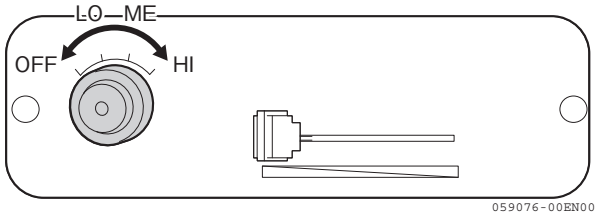


図 2-184

「LO」位置…… 弱風
「ME」位置…… 弱風と強風の中間
「HI」位置…… 強風

3. 温度コントロールレバーで低温から高温まで無段階に温度を調整できます。(図 2-185)

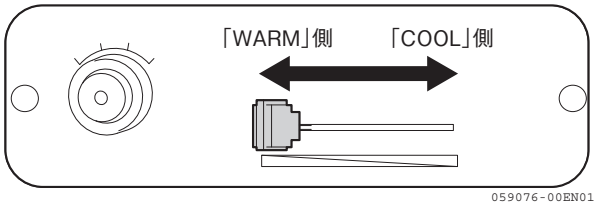


図 2-185

4. エアコンスイッチで「暖房」「冷房」「除湿」の選択をします。(図 2-186)

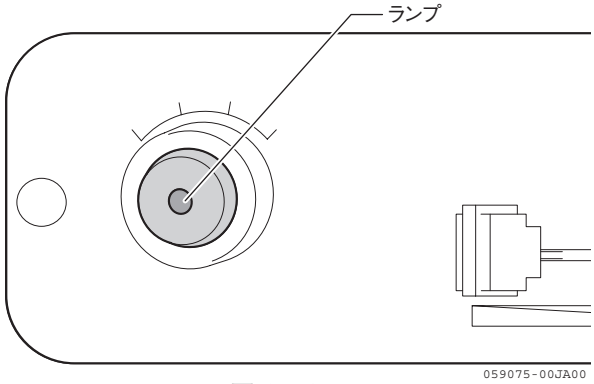


図 2-186

エアコンスイッチを押すことにより、エアコンの運転・停止が切り替わります。
「ON」(ランプ点灯) …エアコン運転
「OFF」(ランプ消灯) …エアコン停止

■ 暖房にするとき

レバーを「WARM」側に動かし、エアコンスイッチを「OFF」位置(ランプ消灯)にしてください。

■ 冷房にするとき

レバーを「COOL」側に動かし、エアコンスイッチを「ON」位置(ランプ点灯)にしてください。

■ 除湿にするとき

レバーを「WARM」と「COOL」の中間位置にし、エアコンスイッチを「ON」位置(ランプ点灯)にしてください。

温度調節のしかた

キャビン内の温度を高くしたいときは、温度コントロールレバーを「WARM」側に、低くしたいときは「COOL」側に動かしてください。(図 2-187)

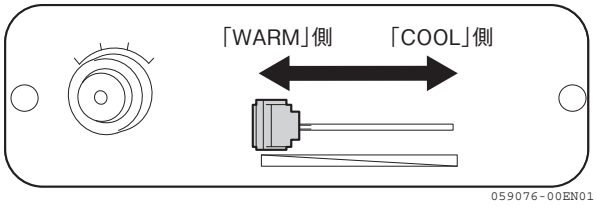


図 2-187

エアコン吹出口の風力調節のしかた

吹出口の風向きグリル (1) を右の方向 (2) に回転すると風量が少なくなり、左の方向 (3) に回転すると風量が多くなります。(図 2-188)

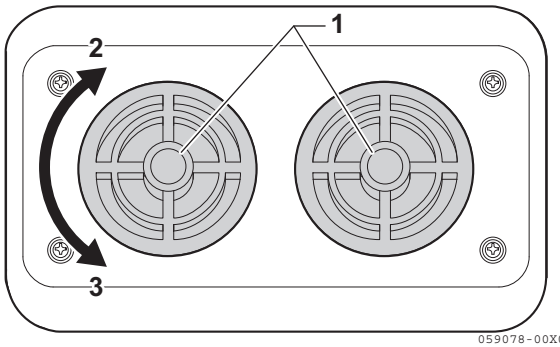


図 2-188

刈取作業前の準備

刈取作業ができる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の水分

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、選別が悪くなることがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎も乾いてから刈り取ってください。
やむをえず、ぬれている作物を刈り取る場合は、作業の状態を見ながらつぎの調節を行ってください。

- 送塵の調節（送塵調節レバー）（88ページ参照）
- クリーンシフトの調節（クリーンシフトレバー）（78ページ参照）

作物が病虫害にかかっている場合

病虫害にかかっている作物は、脱こく処理がしにくい場合がありますので、刈取速度は、副変速レバーを「走行」位置にして作業してください。

作物の刈取方向

作物の倒伏状態によって、刈取方向が限定されます。（図 3-1）
向い刈り……倒伏角70°まで
追い刈り……倒伏角85°まで

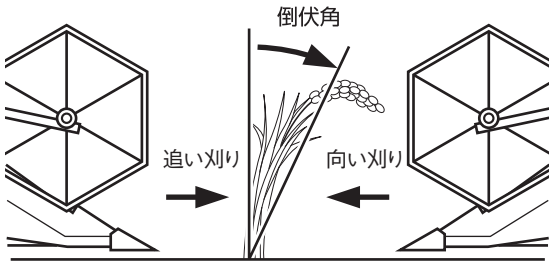
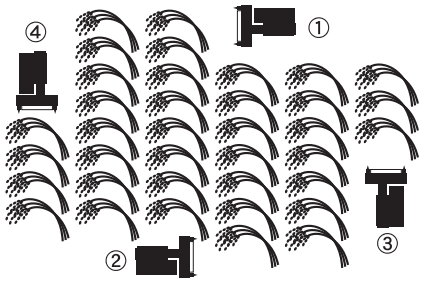


図 3-1

表 3-1 作物の刈取方向

（副変速「低速」）

倒れぐあい ／ 刈取方向	完全倒伏の場合	中倒伏の場合	やや倒伏の場合
①追い刈り	△	○	◎
②向い刈り	×	△	○
③左倒伏刈り	△	△	○
④右倒伏刈り	×	△	○



◎…刈取OK
○…注意しながら刈り取る
△…注意しながらゆっくりと刈り取る
×…刈取困難
※速度は、作物の状態によって決めてください。

刈取作業ができるほ場の条件について

足の沈み（15 cm）以下までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡はできるだけ通らないようにします。(図 3-2)

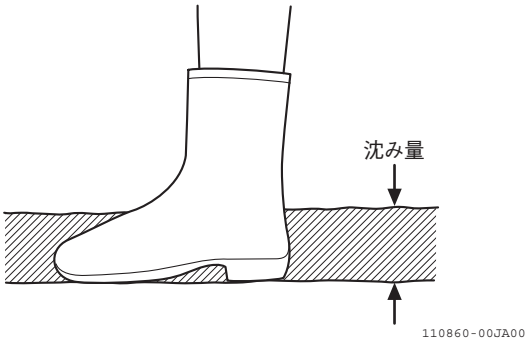


図 3-2

[重要]

沈下量が15 cm 以上の悪条件で作業した場合は、作業終了後ただちに点検・掃除・注油を行ってください。そのまま作業を続けていると、刈刃やフィーダハウスなどに泥が詰まり、刈刃やフィーダハウスの駆動系が破損したり、耐久性が著しく低下する原因になります。

ほ場の準備と刈取方法について

⚠ 危　険

- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。
- コンバインをわらくずのたまった上などに止めないでください。火災の原因になります。

⚠ 警　告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチをすべて「切」位置にしてから点検してください。
- わらくずを取り除く場合や、排わらが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチをすべて「切」位置にしてください。
- 2人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。
- わき見、手放し運転はしないでください。

⚠ 注　意

ほ場への出入り、あぜ越え、段差を乗り越えるときは、高低差が大きいと危険です。アユミ板を使用してください。

ほ場の準備

全面刈りで能率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りしてください。(図 3-3)

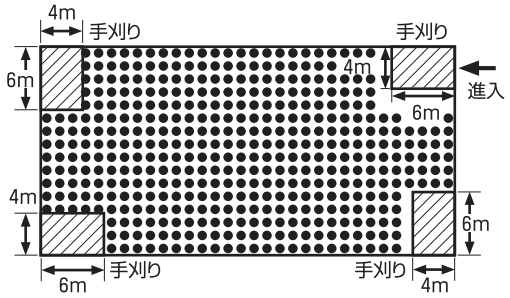


図 3-3

■ 手刈りを少なくするには

コンバインに慣れてきたら、隅を3〜4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。(図 3-4)
また、進入路の傾斜地がゆるい場合は、微速で刈り取りながら進入できます。

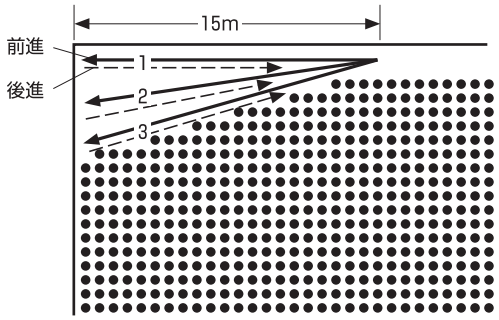


図 3-4

刈取方法

ほ場を痛めずに、作業能率を上げるため4方向刈りを基本とし、つぎの要項で刈り取ってください。

1. あぜぎわから、左回りで刈り取ります。(図 3-5)

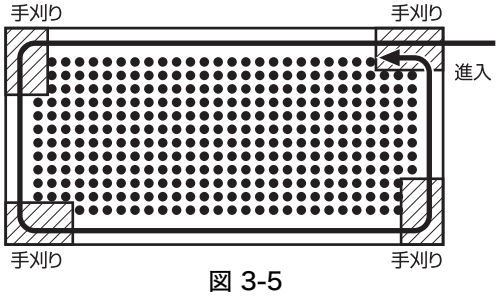


図 3-5

[参考]
手刈りした作物は、未刈稈の上に均等にばらまき、刈り取ってください。

⚠ 警　告

手刈りした作物を、プラットフォームに投げ込んで処理しないでください。
回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

2. 切り返しを行い、左回りで刈り続けます。(図 3-6)

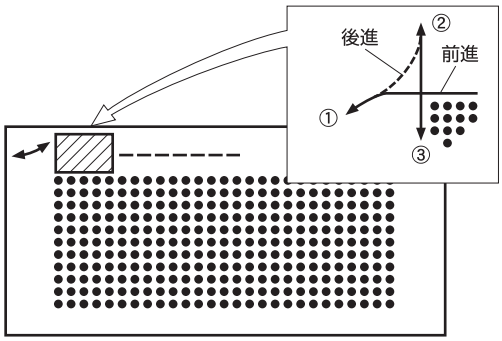


図 3-6

3. ほ場終盤で横刈りする長さがなくなってきたら、２方向刈りでも作業できます。

[重要]

- あぜぎわ刈りのときは、デバイダヘッドを突っ込んだり、サイドデバイダやセカンドモアをあぜにぶつけないように注意してください。
- 回行中もエンジン回転を下げないでください。エンジン回転を下げると、選別が悪くなったり、詰まることがあります。

横刈り時の刈取方法

横刈り時は、高速で作業すると刈刃に高負荷がかかるので、つぎの要領で作業してください。

1. 横刈り時は速度を落とします。
2. 高速作業をする場合は、横刈りではなく、斜め刈りをします。(図 3-7)
3. 高刈りをします。

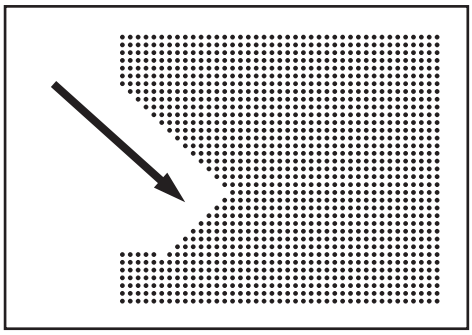


図 3-7

広いほ場の刈取方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などでは、中割り作業をしてください。(図 3-8)

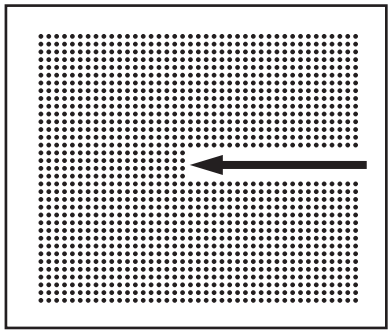


図 3-8

コンバインの準備のしかた

⚠ 警　告

各部の準備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

外したカバー類は、調節後、必ず元通りに取り付けてください。

デバイダヘッドの取り付け

デバイダヘッド（左右）(1) をボルト M8 (2) (2 本) で取り付けます。(図 3-9)

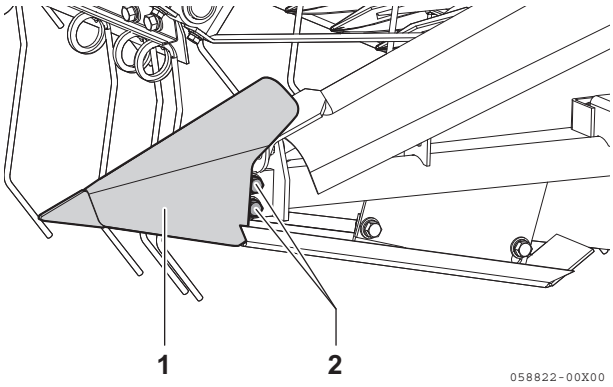


図 3-9

サイドデバイダの準備

サイドデバイダを作業位置にします。(図 3-10)

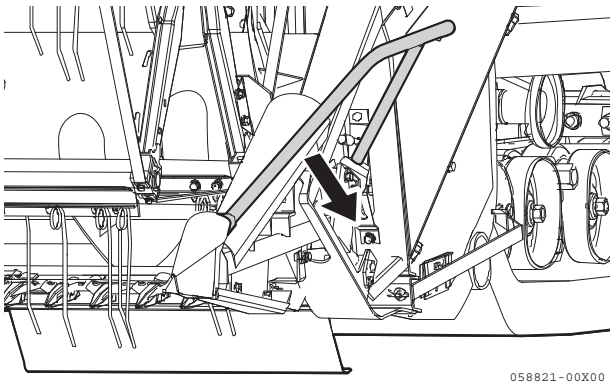


図 3-10

刈刃・チェンへの注油

⚠ 注　意

回転部などに注油するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。けがをするおそれがあります。

作業前は、刈刃や各チェンに「各部の注油のしかた」（191ページ参照）に従って注油してください。

[参考]

- 刈刃やフィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

表 3-2 品名、オプション部品

品　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	NX127

- 低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

クリーンシフトレバーの調節のしかた

ロスをなくし、よい選別を得るために行います。

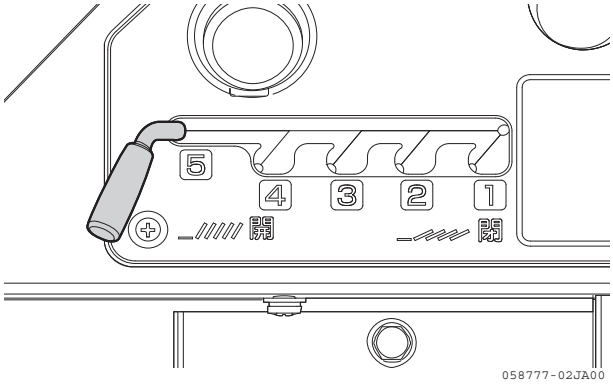


図 3-11 クリーンシフトレバー

表 3-3 クリーンシフトレバーの調節

作業条件	レバーの位置
標準作業	「3」
枝梗が多いとき	「1」・「2」(閉側)
作物が湿材のとき	「4」・「5」(開側)

[重要]

クリーンシフトレバーの調節を誤ると、詰まりやロスの原因になりますので、特に注意してください。

送塵調節レバーの調節のしかた

刈り取る作物の種類に応じて、作物別の標準位置にセットし、作業を開始します。

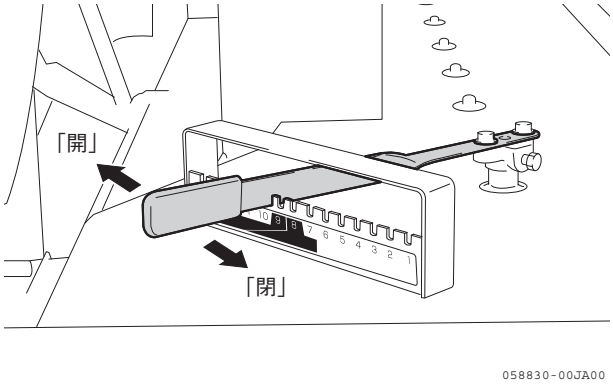


図 3-12 送塵調節レバー

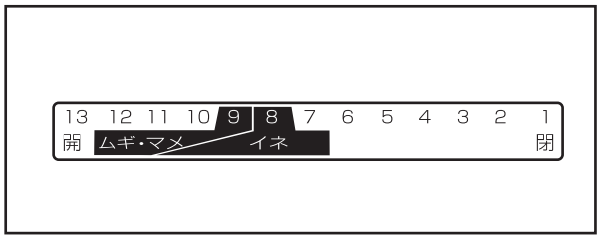


図 3-13 レバー位置の銘板

標準的な作物の調節位置

麦・大豆　・・・・・・・「9」
稲　・・・・・・・・・・「8」
そば・ハト麦など　・・・「10 ～ 13」

作物の条件によりつぎの目安で上手に使用してください。

稲・ロスがでないかぎり ➡「開」
稲：こぎ残し枝梗付きが目立つ ➡「閉」側へ動かす
大豆：ロスがでない限り ➡「開」側へ動かす
そば：水分の多いとき ➡「開」側へ動かす
ハト麦・その他 ➡「開」から順次「閉」側へ動かす

図 3-14 標準的な作物の調節位置

[重要]

- 「閉」側にしすぎると、ロータにわらくずなどがたまりやすくなり、ロータから異音が出る場合があります。また、コーンケーブ、ロータカバーなどの（摩耗）消耗が早くなります。
- 送塵調節レバーを「5」以下にするときは、ロータカバー上面のナット（1）M8（3 本）を外し、送塵弁の固定弁を外してください。（図 3-15）

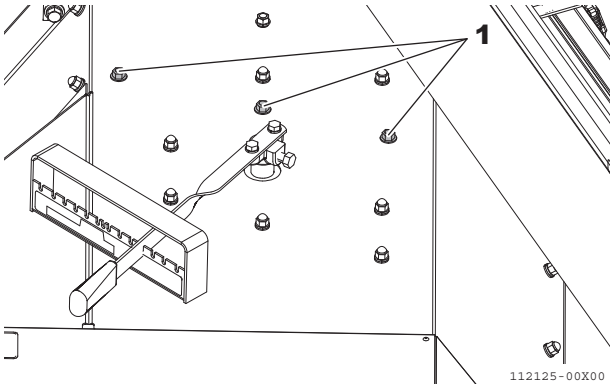


図 3-15

唐箕回転数の調節のしかた

ロスや脱ぷが多く唐箕回転数を下げたい場合、セットボルト（1）をゆるめて可動プーリ（2）を締めます。唐箕回転数が下がります。また、小屑が多く、選別が悪いときは、ゆるめて回転を上げます。（図 3-16）

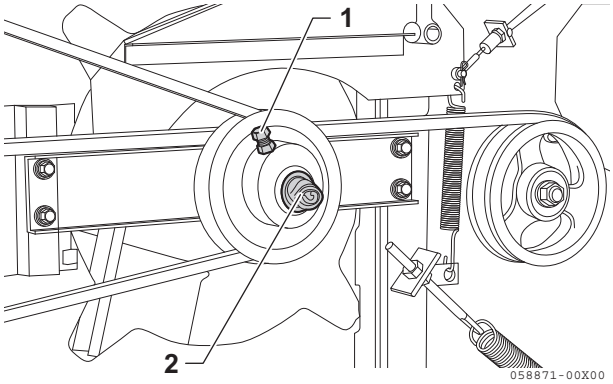


図 3-16

[参考]

- 出荷時は、約1015～1045 rpmにセットされています。(図 3-17)

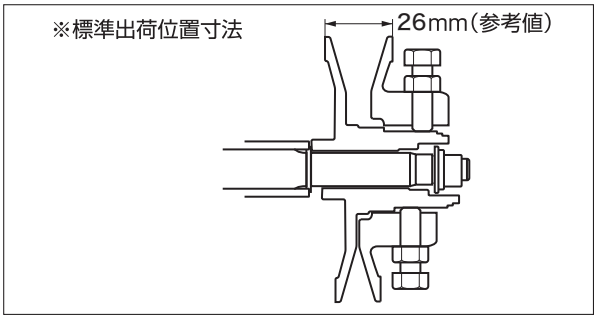


図 3-17

- セットボルトによるプーリの固定は、ネジのない部分（4カ所）で行います。(図 3-18)

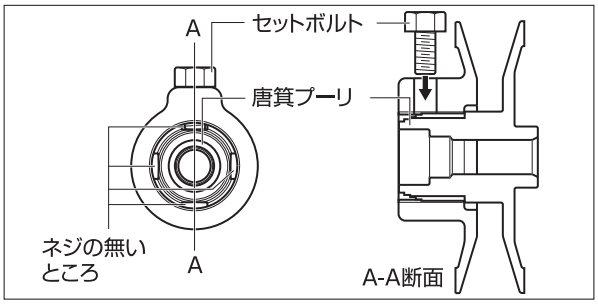


図 3-18

- プーリを1回転すると、約100 rpm変化します。(プーリを1/4回転すると、約25 rpm変化します)「チェッカ機能について」(293ページ参照）のその他メニュー3の唐箕回転センサで唐箕の回転数を確認してください。

[重要]

回転を変更したときは､テンションバネを95±2 mmに調節してください｡調節をおこたるとベルトがスリップし､コンバインの破損や火災の原因となります。

唐箕のプーリ幅(26 mm)は30 mm以上にしないでください。

2番スロワ羽根の高さ調節のしかた

1. スロワ羽根（1）の取付ボルト（2）の位置を確認します。(図 3-19)

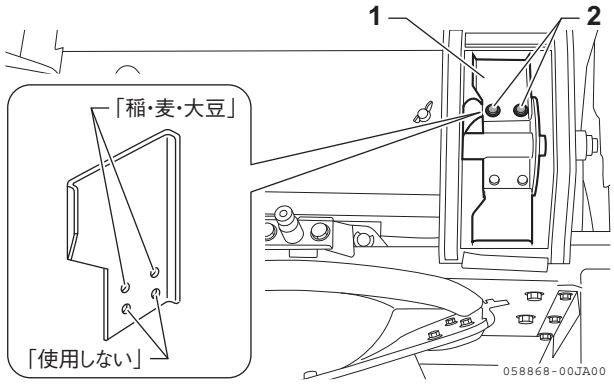


図 3-19

2. スロワ羽根の下側の穴にボルトが取り付けている場合は､取付ボルトを外しスロワ羽根の上側の穴にボルトを取り付けます。

デバイダヘッド高さの調節のしかた

作物の倒伏状態とほ場の状態によって、左右とも同じ高さに調節します。

調節は上下調節ボルト（1）で行います。(図 3-20)

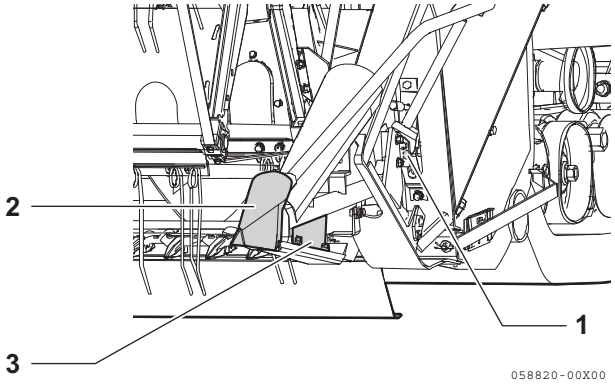


図 3-20

■ 立毛時

雑草が引っかからない程度に、刈株よりやや高めに調節します。

■ 倒伏時

デバイダヘッド（2）が軽く接地する程度に、ソリ（3）は前上がりで接地させ、デバイダヘッドの底が少し前上がりになるように調節します。(図 3-20)

チャフシーブ後の調節のしかた

チャフシーブは、脱こくされたこく粒とわらくずを選別します。作物の種類や脱こく状態に応じて、チャフシーブの角度を調節してください。

1. 脱こく左後カバーを開きます。(図 3-21)

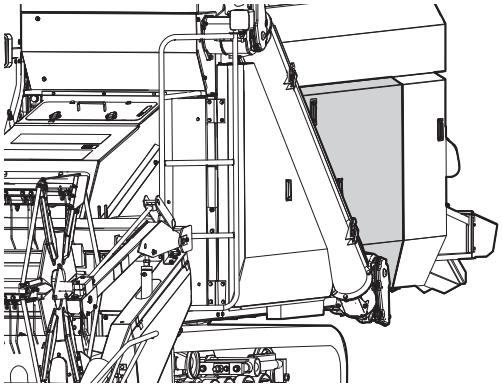


図 3-21

2. ネジ（1）2本を外し、チャフシーブカバー（2）を外します。(図 3-22)

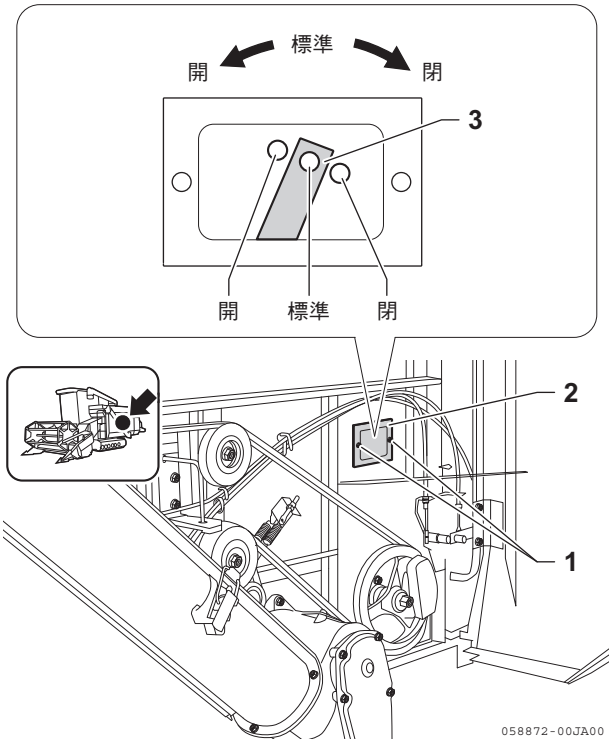


図 3-22

3. チャフシーブ（3）の角度を調節します。(図 3-22)

「開」位置……稲・麦（ロスが多いとき）
「標準」位置……大豆
「閉」位置……2番に詰まりやすいとき

[参考]
出荷時は、「開」位置に調節されています。

4. 調節終了後、カバーを元通りに閉じます。

プラットホームオーガ回転数の調節のしかた

麦の高速作業などで、プラットホームオーガ部に稈（稲）が滞留する場合は、オーガ駆動スプロケット（1）を組み替えて、オーガの回転数を調節します。(図 3-23)

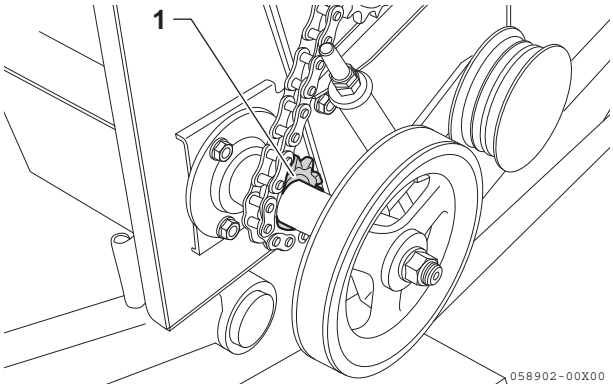


図 3-23

表 3-4 オーガ駆動スプロケット

刈取作物	オーガ駆動スプロケット
稲・麦(標準)	14T
大豆	12T(オプション)

グレンタンクの準備

1. 排出オーガ（1）をオーガレスト（2）に、確実に収納します。（図 3-24）（86ページ参照）

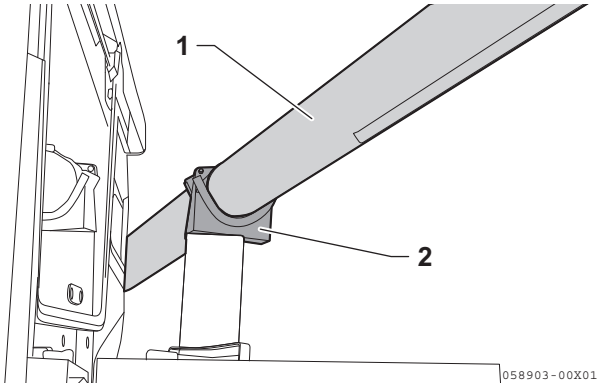


図 3-24

[重要]

排出オーガがオーガレストから浮き上がった状態での作業は、絶対にしないでください。排出オーガ取付部が破損するおそれがあります。

2. 排出オーガクラッチスイッチ（1）が「切」（ランプ（赤）消灯）（2）になっていることを確認します。（図 3-25）

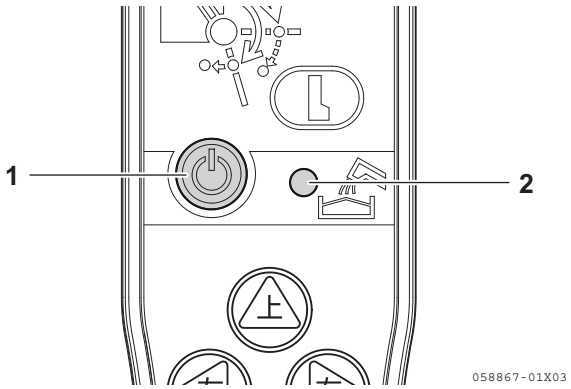


図 3-25

ほ場への出入りのしかた

⚠ 警　告

急な坂道は走行しないでください。
やむなく走行する場合は、つぎの方法に従ってください。進行方向や速度を誤って転倒し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 副変速レバーを「低速」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にします。
- E モードスイッチを「切」（E モードランプ消灯）にします。
- あぜに対して直角に出入りします。
- 10 cm以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用します。

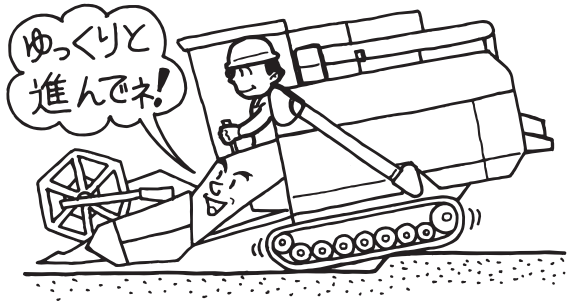


図 3-26 ほ場への出入りのしかた

■ 急な坂道の場合

副変速レバー「低速」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にして、ゆっくり登り降りしてください。

デュアルモニターについて

デュアルモニターは、キースイッチを「ON」位置にすると、コンバイン後方、および排出オーガ先端の状況を常時映し出すことができます。(図 3-27)
エンジン始動時や狭い納屋での格納時、ほ場の四隅や枕地での切り返し時などに、コンバイン後方の状況が確認ができます。また、もみ排出時の状況も確認できます。

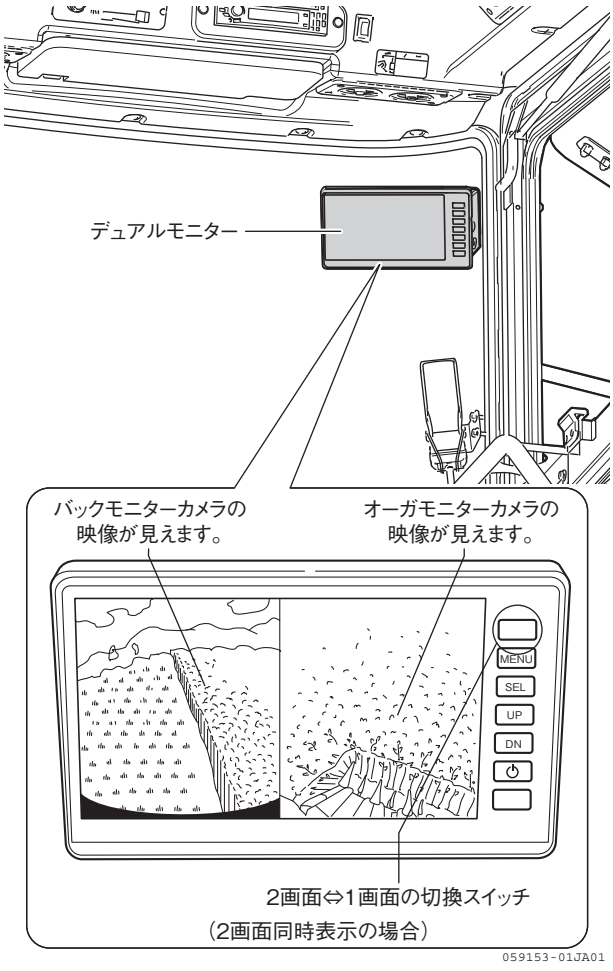


図 3-27

[重要]

- バックモニターカメラ (コンバイン後方) (1)、およびオーガモニターカメラ (排出オーガ) (2) のフードの汚れを確認し、汚れているときは、きれいにしてください。(図 3-28)

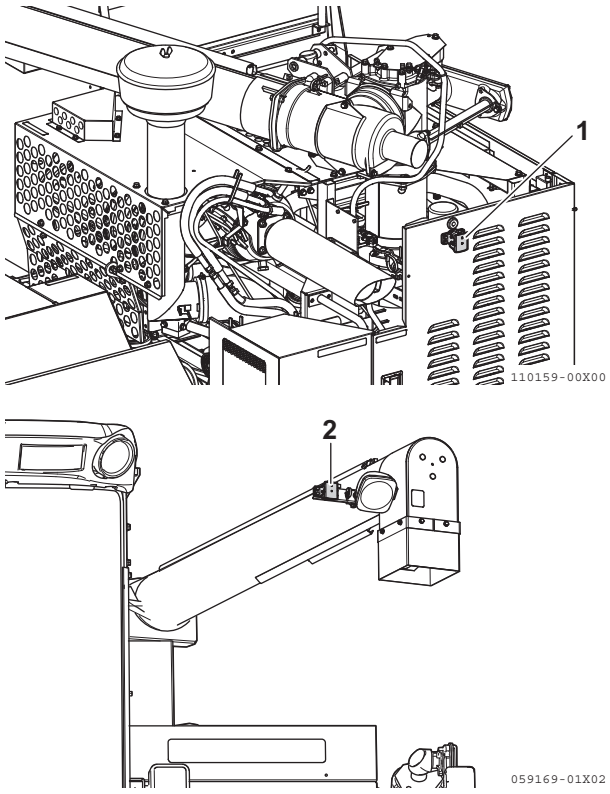


図 3-28

- バックモニターカメラの映像は目安ですので、コンバイン後方のすべてが見えるわけではありません。見えない範囲があります。(図 3-29)

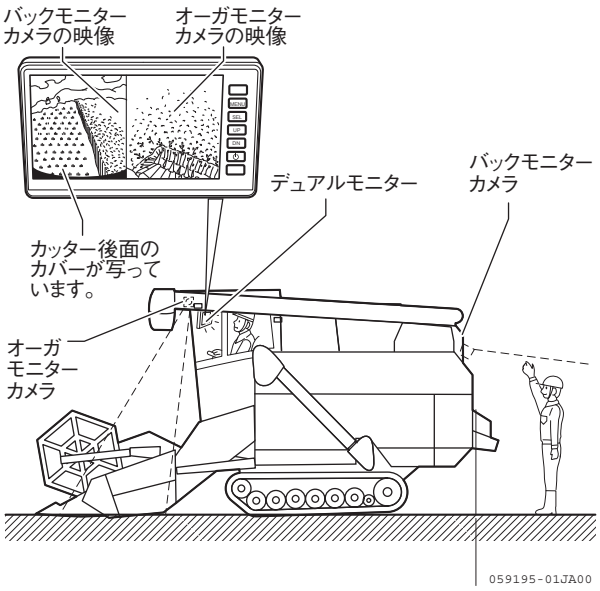


図 3-29

バックモニターカメラ･オーガモニターカメラの位置がずれたとき

1. バックモニターカメラ（1）、およびオーガモニターカメラ（2）左右の固定ボルト（3, 4）をゆるめ、カメラ位置を上下に調節します。（図 3-30）

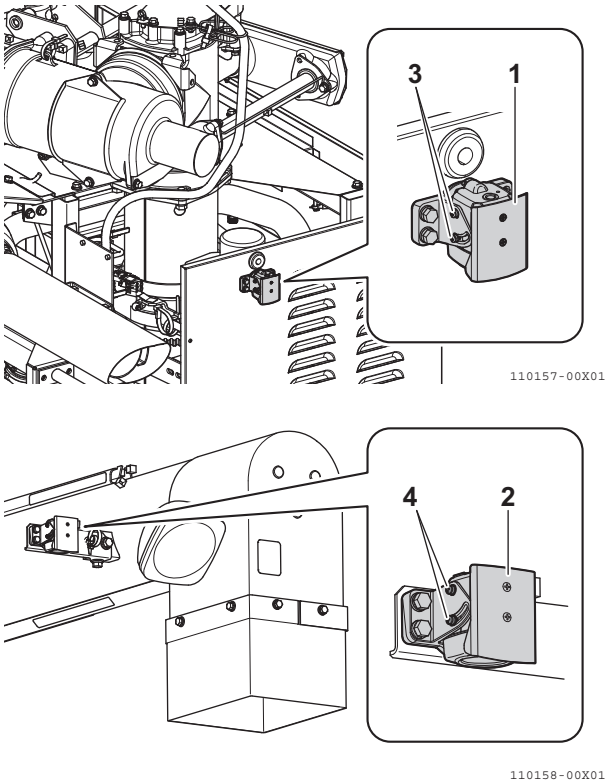


図 3-30

[重要]
バックモニターカメラの映像の下側に､後面カバーが少し写る位置を目安に調節してください。

2. 調節後は、ボルトを締め付けて固定します。

作業について

刈取操作のしかた

⚠ 危　険

刈取作業をするときは､周囲に十分注意をはらい､特に子供を近寄らせないでください｡回転物に巻き込まれたり､旋回時の接触などにより､死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 後進するときは、後方の安全を確認し、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業クラッチレバー・スイッチをすべて「切」位置にしてから点検してください。
- わらくずを取り除く場合や、排わらが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業クラッチレバー・スイッチをすべて「切」位置にしてください。
- 2人以上の共同作業では､ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 刈取部の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。万一、刈取部が下がったときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- わき見、手放し運転はしないでください。

作業の手順

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。（87ページ参照）
2. キースイッチにキーを差し込んで､「ON」位置にします。（図 3-31）

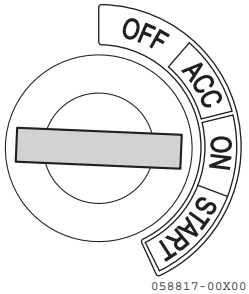


図 3-31

3. Eモードスイッチ（1）を「入」（Eモードランプ点灯）（2）にします。（図 3-32）

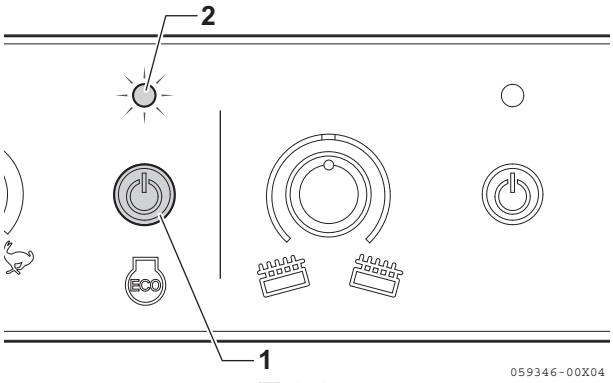


図 3-32

4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「START」位置に回します。（図 3-33）

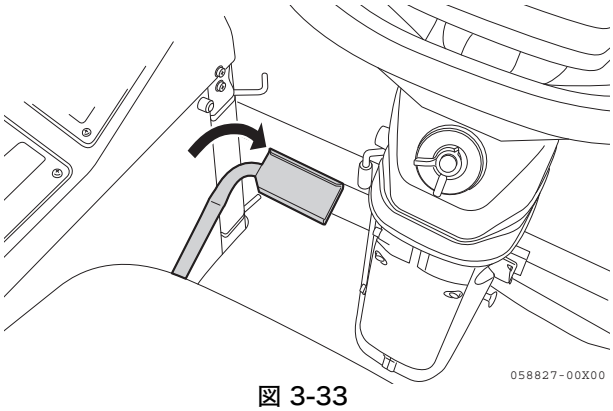


図 3-33

5. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押します。刈取部が下がります。（図 3-34）

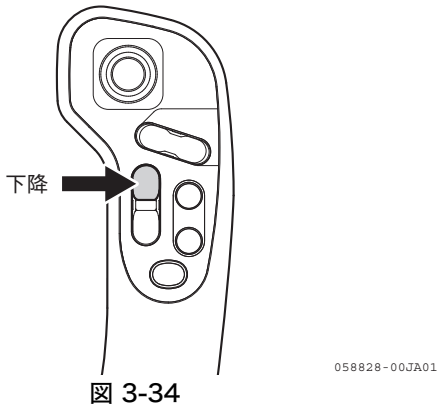


図 3-34

[参考]

刈取昇降スイッチの下側を押して刈取部を低くし、刈り残しのない刈り高さにセットします。

6. 副変速レバーを作物条件に合わせて、「低速」「標準」位置のどちらかに入れます。（図 3-35）

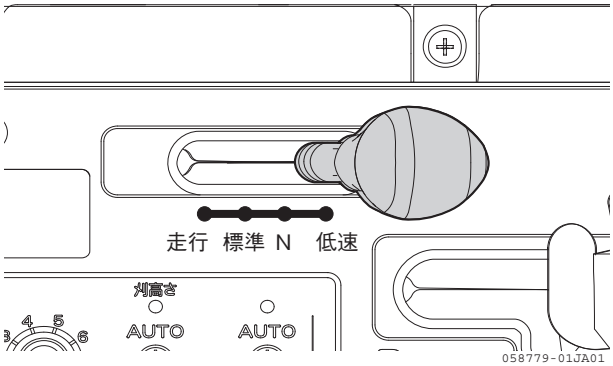


図 3-35

表 3-5 作業速度の選びかた

副変速レバー位置	使 用 条 件
低速	●全倒伏 ●半倒伏 ●周囲刈りで低速作業をする場合
標準	●直立

7. 作業クラッチレバー（1）を「脱こく」（2）→「刈取」（3）位置にします。（図 3-36）

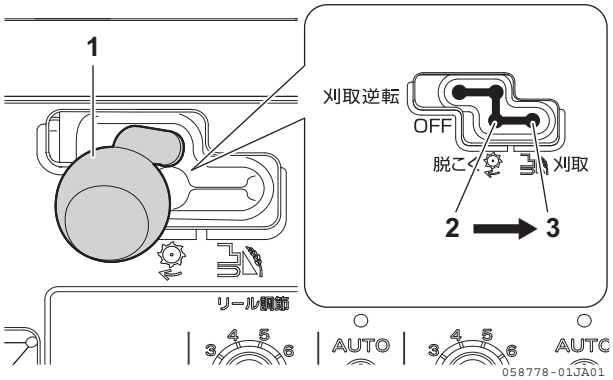


図 3-36

8. 作業中のエンジン回転数をセンターディスプレイの回転計が「グリーンゾーン」位置（1）を指すように、アクセルダイヤル（2）で調節します。または、Eモードスイッチ（3）を「入」にします。（図 3-37）（73ページ参照）

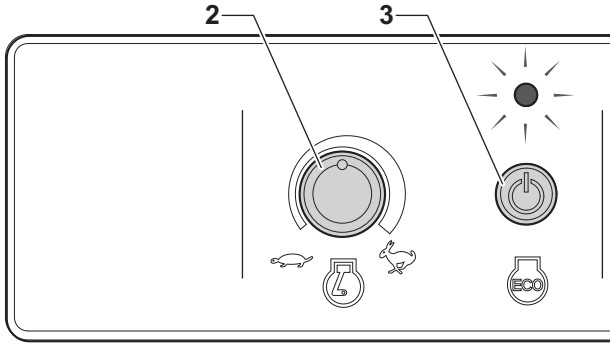




図 3-37

アクセルダイヤルを「🐇」に回す
…エンジンの回転が上がります。

アクセルダイヤルを「🐢」に回す
…エンジンの回転が下がります。

[重要]

エンジン回転がアイドリング状態では、刈取作業を行わないでください。詰まりの原因になります。

[参考]

- Eモード「入」（Eモードランプ点灯）でエンジン回転が定格回転のときに、作業クラッチレバーを「脱こく」にすると伝達ベルトを保護するため、いったんエンジン回転を低下させてからクラッチが入るようにしています。
- E モードスイッチ「切」の状態で作業クラッチを「脱こく」にするときは、ベルトを保護するため、アイドリング状態で行い、その後アクセルダイヤルで定格回転にして、作業を行ってください。

9. リール昇降・リール速度スイッチ（1）で、稈が刈刃（2）で切断されるときに、タインバー（3）が穂首に当たり、作物を捕らえる位置へ、リールをセットします。（図 3-38）

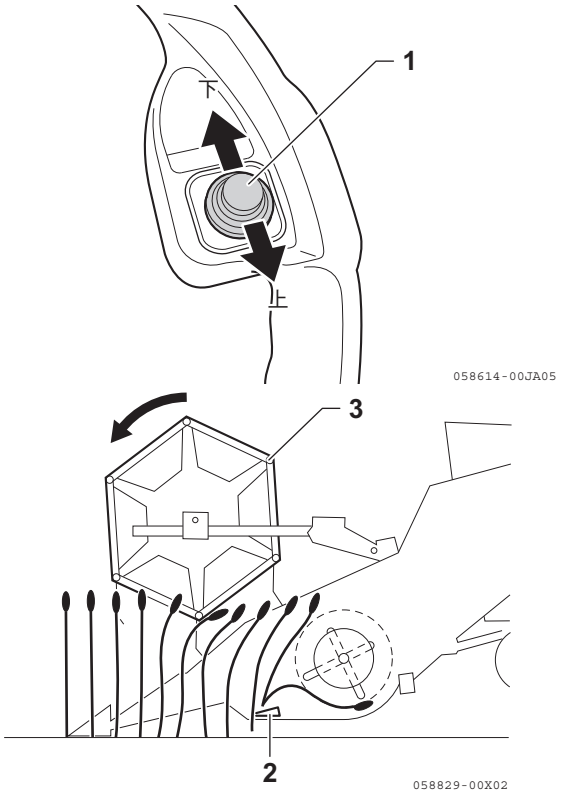


図 3-38

[重要]

向い刈り時は、リールが穂先を押し付けないようにしてください。押し付けすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

10. オールマイティシフトレバー（1）またはマルチハンドル（2）でリール速度を調節します。（図 3-39）

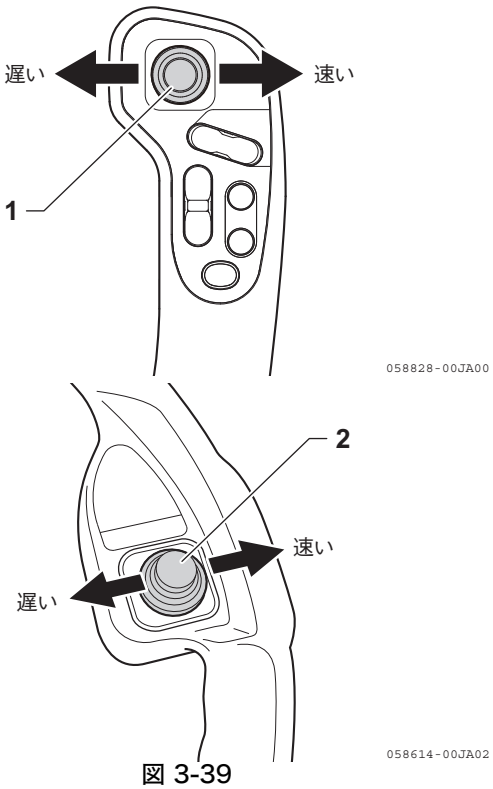


図 3-39

[参考]

- 稲作業のリール速度は、コンバインの走行速度よりもわずかに速くなるように調節してください。（走行速度の1.2～1.5倍）
- 麦で、取り込み稈長が80 cm以上の場合は、リール速度を走行速度よりわずかに遅くなるように調節してください。（図 3-40）

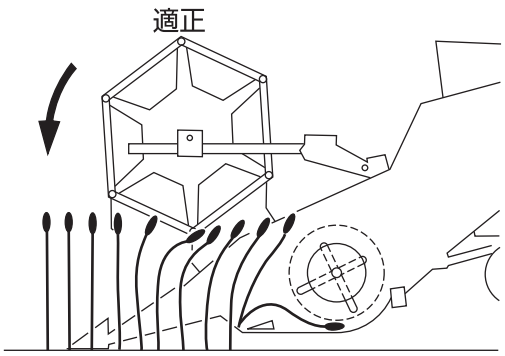


図 3-40

- 刈取部が作動していないときは、リール前後・リール速度スイッチを操作しても、速度は変わりません。

[重要]

リール速度が速すぎると、リールの衝撃で、こく粒損失が発生します。

11. オールマイティシフトレバーのリール前後・リール速度スイッチで、リールの位置を最も後ろにします。（図 3-41）

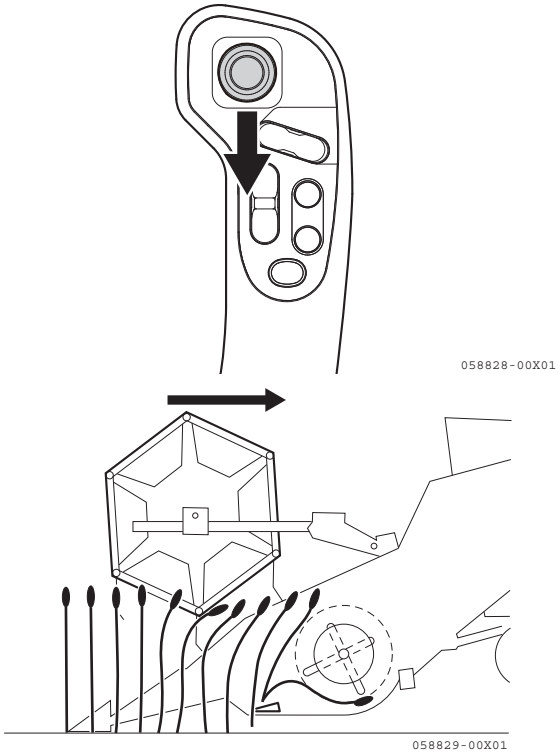
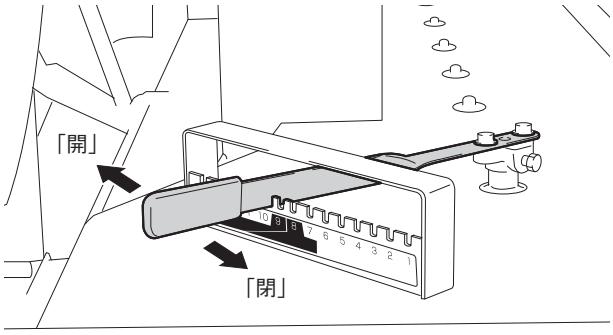


図 3-41

[重要]

リールの位置が前すぎると、こく粒損失が増加します。また、取り込み不良が発生し、プラットホームオーガによるフィーダハウスへの送り込みが断続的になり、過負荷の原因になります。

12. 送塵調節レバーで刈り取る作物に応じた位置にセットします。(図 3-42)



標準的な作物の調節位置	
麦・大豆	「9」
稲	「8」
そば・ハト麦など	「10 ～ 13」

図 3-42

13. クリーンシフトレバー（1）を「3・標準」位置（2）にセットします。(図 3-43)

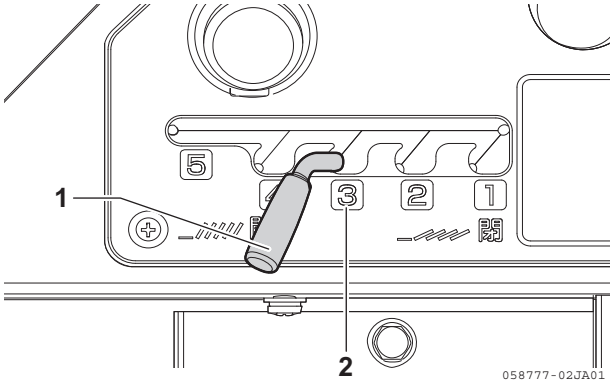


図 3-43

14. オールマイティシフトレバーを前進位置にゆっくり動かして、ゆっくり刈り始めます。(図 3-44)

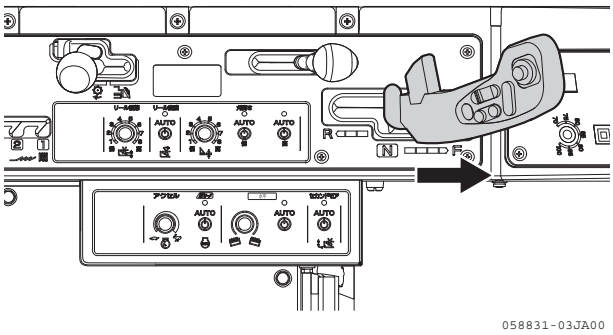


図 3-44

15. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで作業速度を調節します。

16. 刈り終わったら、つぎの操作をします。

1) オールマイティシフトレバー (1) を「N」(中立）位置にします。(図 3-45)

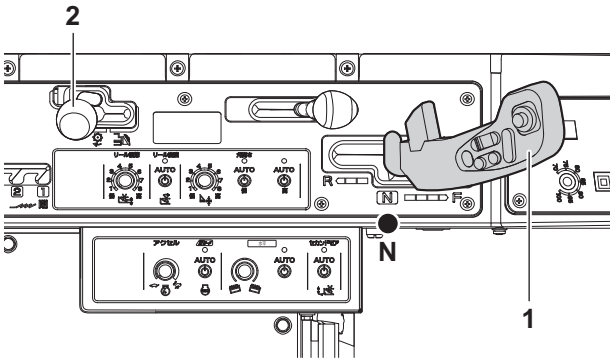


図 3-45

2) 駐車ブレーキをかけます。(87ページ参照)

3) 作業クラッチレバー（2）を「脱こく」位置にします。(図 3-45)

4) ロータでの作物の処理が終わってから、作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。

5) エンジンを停止します。(116ページ参照)

作業中の方向転換

刈り取っている条が終わり、コンバインを方向転換する場合は、オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、刈取部が刈株や排わらを引っかけない程度（10〜15 cm）に上げてください。（図 3-46）

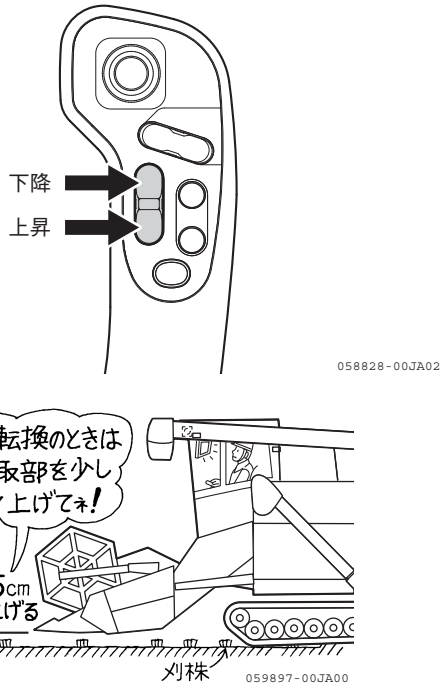


図 3-46

[重要]

- 刈取作業が終了しても旋回中は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、エンジン回転を下げないでください。脱こく部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。（147ページ参照）
- セカンドモア装着車は、刈取部（刈刃高さ）を地面より50 cm以上上げてください。上げ高さが不足していると、セカンドモアが収納位置に上昇せず、コンバインが破損する原因になります。
- 刈取作業の最終工程などで、刈幅に満たない条数を、セカンドモアを使用して刈取作業を行うと、セカンドモアが刈取作業を行っていない部分が排わらを押し、セカンドモアが変形するおそれがあります。
  このようなときには、刈取水平制御装置を切って、手動操作で刈取作業を行っていない側を上方に傾け、セカンドモアで排わらを押さないようにして作業を行ってください。

作業速度の選びかた

作物の状態などや使用条件に合わせて、副変速レバーとオールマイティシフトレバーを調節し、最適な状態で作業してください。

湿田ほ場での刈取作業のしかた

コンバインが後傾する場合は、デバイダヘッドを下げて使用してください。（133ページ参照）

[重要]

- 超湿田作業で旋回しにくいときは、マルチハンドルを切りすぎていることが考えられますので、ハンドルの切る角度を小さくして、旋回半径を大きくとってください。
- スピンターン状態になると、思うように旋回できません。
- 湿田作業でコンバインの沈下が著しく、旋回しにくいときは、旋回モード切替ノブを「湿田モード」に切り替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。

リールヘッダーの取り扱いポイント

コンバインでは通常（立毛時）、穂先から60～70 cmの位置が適当です。

[重要]

- 70 cmより長い位置で取り込んだ場合、所要動力が増加して能率が低くなったり、ロータ内で塵が多く発生して揺動部がいっぱいになり、こく粒損失の増加や、選別が悪くなることがあります。
- 60 cmより短い位置で取り込んだ場合、ロータの揉み作用が損なわれ、こく粒損失が増加する場合があります。このとき、送塵調節レバーを「閉」側にすると、損失は減少します。

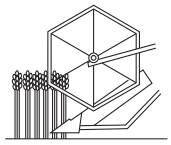
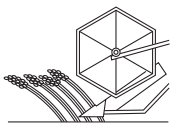
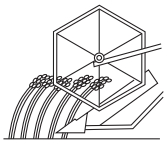
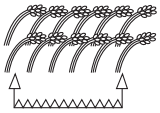
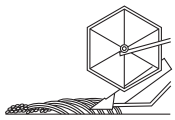
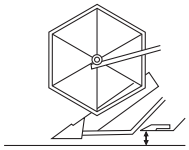
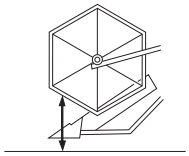
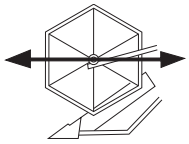
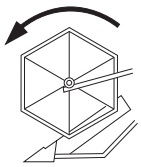
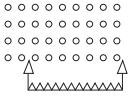
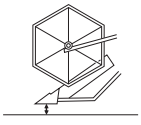
<table>
<tr><th>作物の状態
刈取部</th><th>立毛時</th><th>追刈時</th><th>向刈時</th><th>横刈時</th><th>完全倒伏</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>刈高さ
</td><td>希望する高さに合わせて作業を始めてください。
（穂先から60～70 cmが適当です。）</td><td>土に突っ込まない高さに、作業しながら調整してください。</td><td colspan="3">穂を切り落とさない範囲で、できるだけ高く調整してください。</td></tr>
<tr><td>リール高さ
</td><td>タインバーが穂首のやや下を通るように調整してください。</td><td>いっぱいまで下げてください。</td><td>タインが作物の穂先を櫛ですくうように調整してください。
（ハンドルを左右に細かく動かすと効果的です。）</td><td colspan="2">いっぱいまで下げてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール前後位置
</td><td>リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールが作物を拾い残さず、土に突っ込まない高さになるまで前方に出してください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※リールを前方に出しすぎると、稈こぼれやオーガ部でムラ搬送の原因になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール速度
</td><td>タインバーが作物に分け入るとき、作物が揺れ動かないように調整してください。
（リール速度は作業速度の2～5割増にしてください。）</td><td>走行速度より、かなり速くしてください。
（作業速度を遅くしてください。）</td><td>作業速度と同じか、やや速めにしてください。</td><td colspan="2">作業速度よりやや速めにしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは、タイン1本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか、リールを速く回転させてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ位置
</td><td>既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。</td><td>未刈部の作物をデバイダで押し倒さないように株の間を通してください。</td><td colspan="3">既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ高さ
</td><td>雑草が引っかからない程度（刈株よりやや高め）に調整してください。</td><td colspan="4">先端が土に軽く触れる程度に調整してください。
低すぎると株抜けします。</td></tr>
</table>

図 3-47 リールヘッダーの取り扱いポイント

作物や作業条件に合わせた各部の調節

実際に作業を行っていて、つぎのような現象がでた場合は、説明に従って各部を調節してください。

倒伏した作物やロータ内で常時ゴトゴト音がする場合

送塵調節レバーを「開」側に、1ノッチずつ動かします。(図 3-48)

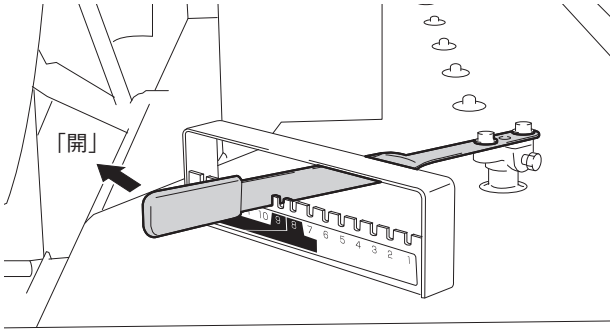


図 3-48

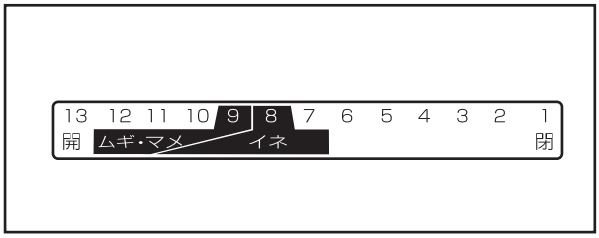


図 3-49 レバー位置の銘板

ロスが少ない場合は開側に1ノッチずつ動かします。

籾に枝梗付きが多い場合

- クリーンシフトレバーを「1」・「2」位置（閉側）にします。(図 3-50)

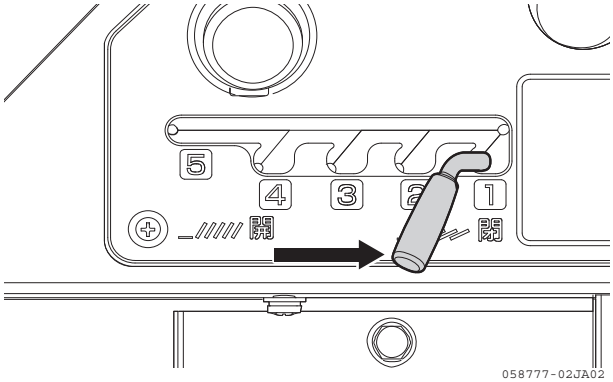


図 3-50

- 送塵調節レバーを「閉」側に、1 ノッチずつ動かします。(図 3-51)

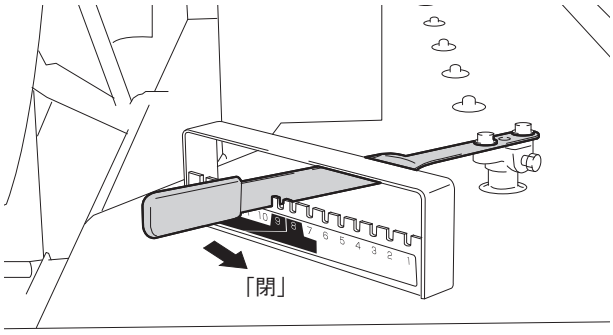


図 3-51

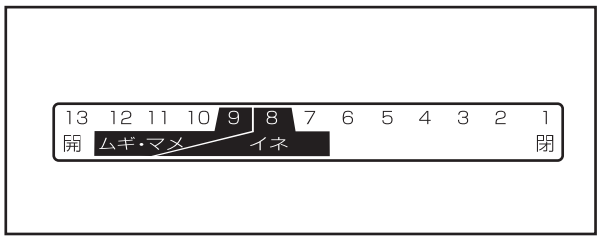


図 3-52 レバー位置の銘板

作物が湿材の場合

クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にします。（図 3-53）

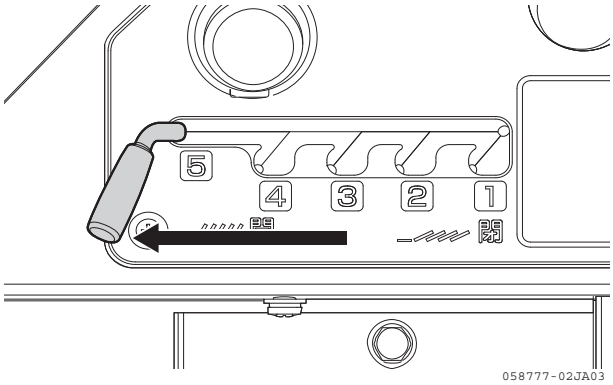


図 3-53

3番ロスが多い場合

クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にします。（図 3-54）

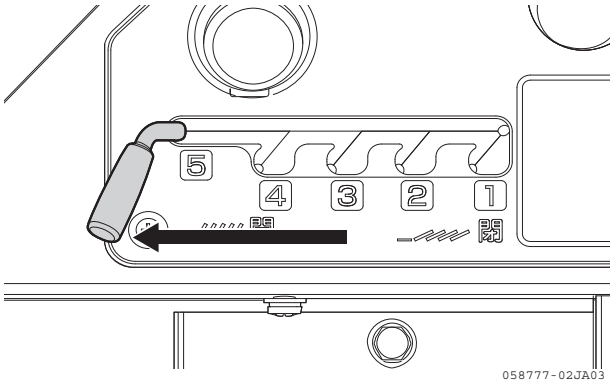


図 3-54

乾材などで、3番ロスが目立って多いときは、唐箕回転を調節してください。（132ページ参照）

[重要]

唐箕プーリのセットボルトをゆるめて調整してください。

選別が悪い場合

クリーンシフトレバーを「1」・「2」位置（閉側）にします。（図 3-55）

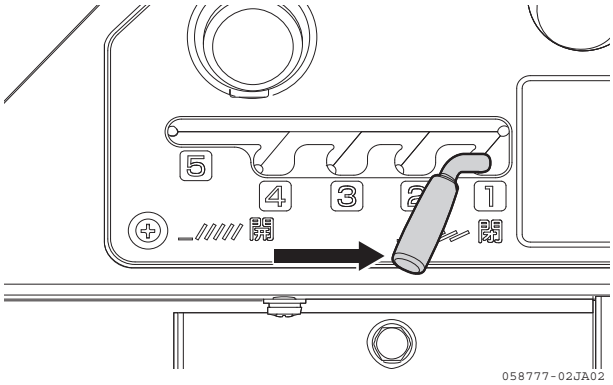


図 3-55

[参考]

クリーンシフトレバーを調節しても選別が悪い場合は、唐箕の回転を調節してください。（132ページ参照）

飛散・脱ぷなどが多い場合

クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にします。（図 3-56）

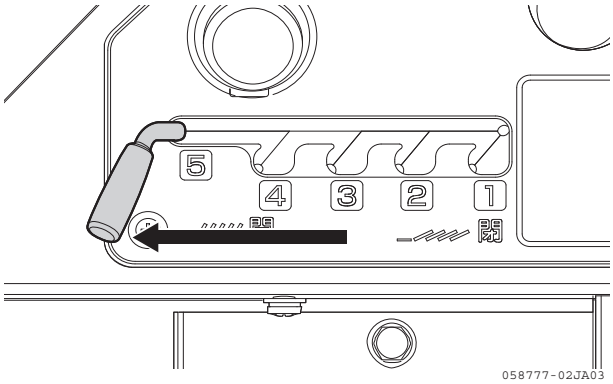


図 3-56

唐箕の回転を下げてください。目安は、50～100回転でプーリを半回転～ 1 回転締め込んでください。（132ページ参照）

警報装置が作動したときの処置

⚠ 警　告

- 詰まりなどを取り除く場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- コンベア部・チェン部に手を入れないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 排わら部の清掃は、カッター刃に十分注意してください。回転刃へのわらの巻き付きや詰まりを取り除くときは、厚手の手袋を着用し、少しずつ取り除いてください。素手で取り除くと、刃先に触れて傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中の各部の状態に異常があった場合は、異常箇所を警報表示（センターディスプレイ下部）とブザーで知らせます。「不調診断のしかた」（264 ページ参照）に従って確認し、処置をしてください。（図 3-57）

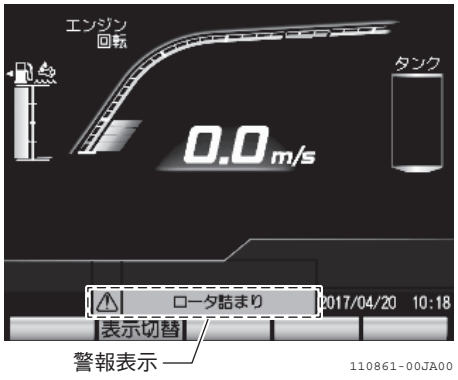


図 3-57

自動装置について

刈取作業を行う前に、自動装置について説明します。自動装置を使うと、能率よく作業が行えます。

自動定回転制御装置

⚠ 注　意

移動走行時・あぜ越え・刈取部の脱着・トラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、E モードスイッチを「切」（E モードランプ消灯）にしてください。車速が急に変化することがあり危険です。

■ 操作のしかた

1. エンジンを始動します。
2. Eモードスイッチ（1）を「入」（Eモードランプ点灯）（2）にします。（図 3-58）

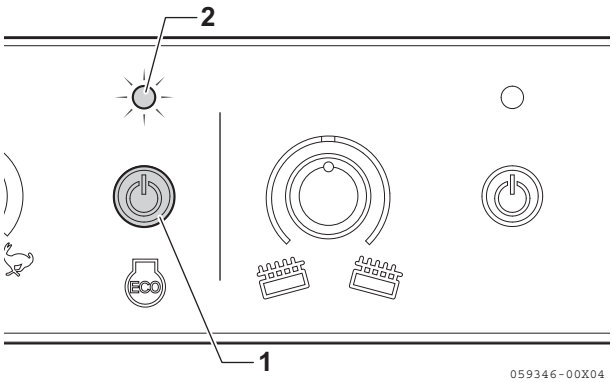


図 3-58

3. 作業クラッチレバー（1）を「脱こく」位置（2）にします。エンジン回転が、自動的に定格回転になります。（図 3-59）

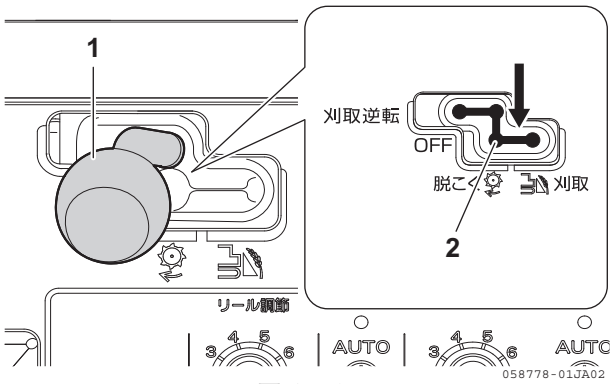


図 3-59

つぎの状態でも、Eモードスイッチが「入」（Eモードランプ点灯）位置のときは、自動定回転制御は作動します。

- 作業クラッチレバーが「OFF」位置のときに、前進または後進した場合。
- オーガ自動旋回装置のオートセット・オートリターンの作動中。
- 排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押して、排出オーガクラッチが入るとき。
  （排出オーガクラッチは、オーガレスト位置では入りません。）

[参考]

- E モードスイッチが「入」（E モードランプ点灯）位置のときは、作業クラッチレバーが「OFF」位置の場合でも、コンバインが停止してから 5 秒間は定格回転のままです。5 秒後に、自動的にアイドリング状態（低回転）に戻ります。
- 自動定回転装置は、自動的にエンジン回転数をセンターディスプレイの回転計が「グリーンゾーン」位置（定格回転：2,500 rpm）に保つ制御装置です。

刈取オートリフト・オートセット装置

⚠ 注　意

作業クラッチレバーが「刈取」位置のときは、コンバインが停止していても、オートリフトボタンを押すと、刈取部が上昇します。また、オートセットボタンを押すと、刈取部が下降します。
周囲の安全を確認してから、オートリフトボタンおよびオートセットボタンを押してください。

[参考]

- 刈取オートリフト装置とは、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部を設定高さまで上昇させ、リール高さを最下げ位置まで下降させる装置です。
- 刈取オートセット装置とは、作業クラッチレバーが「刈取」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部を刈高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降させ、リール高さをリール高さ調節ダイヤルの位置まで上昇させる装置です。
- 刈取オートリフト・刈取オートセットで刈取部が昇降中に、刈高さ調節ダイヤルを操作すると、手動操作が優先します。再度刈取オートリフト・刈取オートセットを行う場合は、オートリフトボタン・オートセットボタンのいずれかを押してください。（自動復帰なし）

■ 操作のしかた

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。（図 3-60）

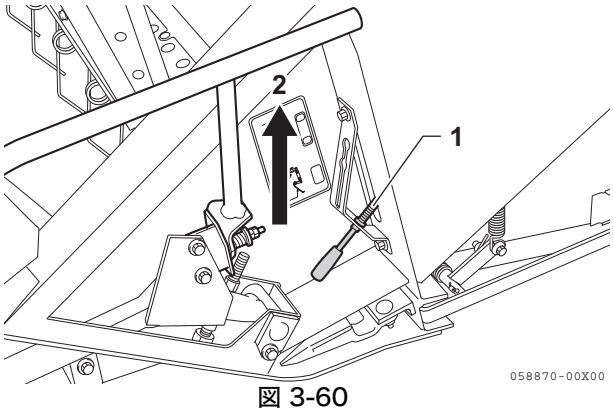


図 3-60

2. エンジンを始動します。(114ページ参照)
3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。(図 3-61)

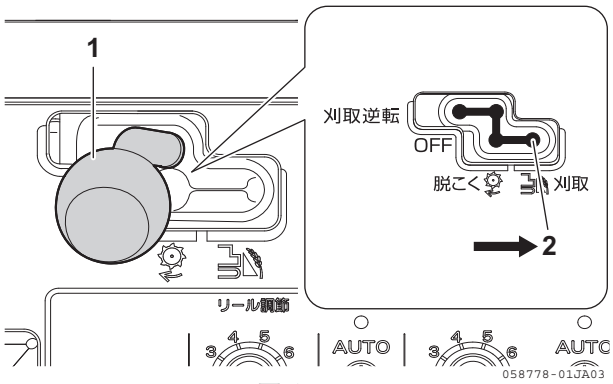


図 3-61

4. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定します。(図 3-62)

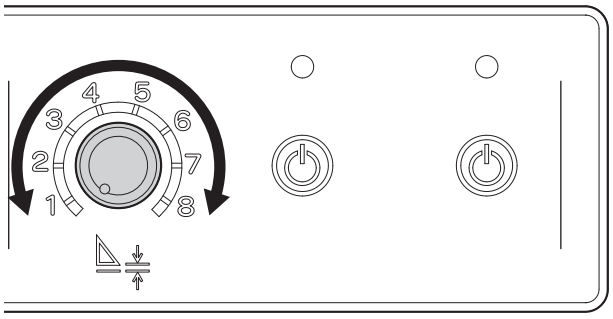


図 3-62

5. オートリフトボタンを押します。
刈取部がオートリフト高さまで上昇します。
リールが最下げ位置まで下降します。(図 3-63)



図 3-63

6. オートセットボタンを押します。
刈取部が刈高さ調節ダイヤルの位置まで下降します。(図 3-64)
リールがリール高さ調節ダイヤルの位置まで上昇します。



図 3-64

[参考]

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」または「高」（ランプ点灯）のときに、刈高さ調節ダイヤルで設定したオートセット高さが、図 3-65のように異なります。
ただし、「低」の場合、センサソリの接触する地面や、切株の状態により刈高さが異なる場合があります。

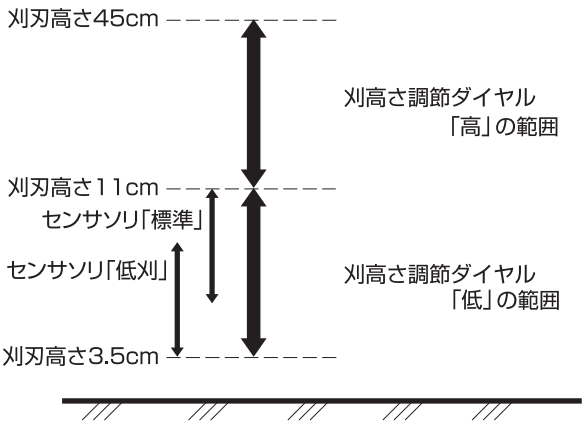


図 3-65

- 刈高さ自動切替スイッチが「OFF」位置（刈高さ自動切替スイッチの「低」および「高」ランプ消灯）のときは、「高」位置の刈高さ調節ダイヤル位置の高さまで下降します。

■ オートセット高さの設定のしかた

オートセットで、下降する刈取部の高さを設定できます。

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。(図 3-66)

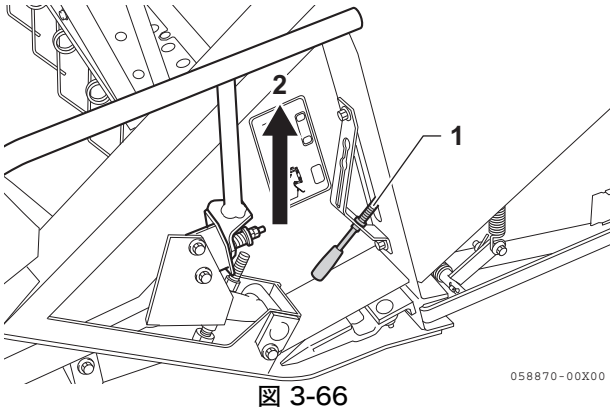


図 3-66

2. エンジンを始動します。(114ページ参照)
3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。(図 3-67)

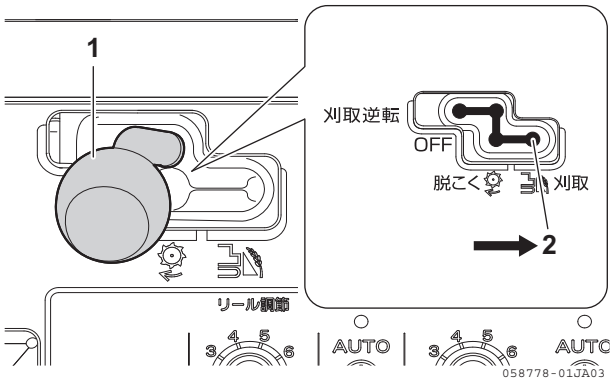


図 3-67

4. 刈高さ自動切替スイッチを「低」(1) または「高」位置（2）（ランプ点灯）にします。(図 3-68)

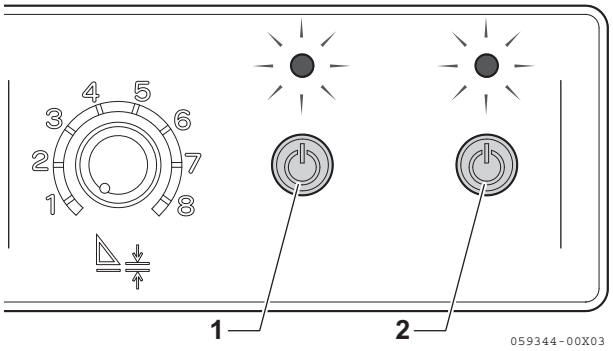


図 3-68

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定します。(図 3-69)

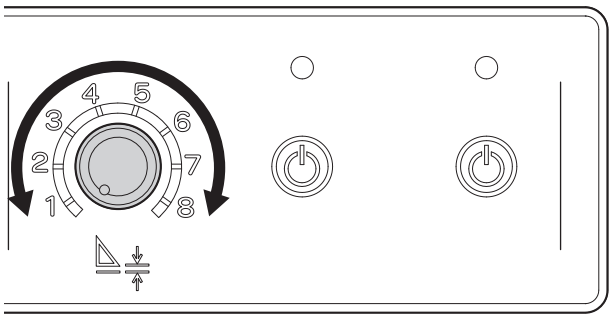


図 3-69

■ オートリフト高さの設定のしかた

オートリフトボタンで、上昇する刈取部の高さを設定できます。(設定した刈高さは、キースイッチを「OFF」位置にしても記憶されています。)

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。(図 3-70)

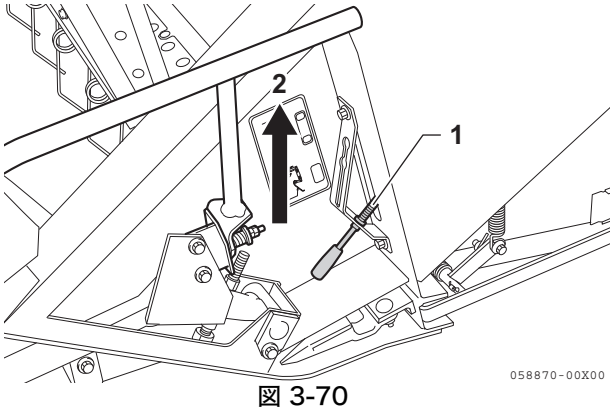


図 3-70

2. エンジンを始動します。(114ページ参照)
3. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、設定したい高さまで刈取部を昇降させます。(図 3-71)

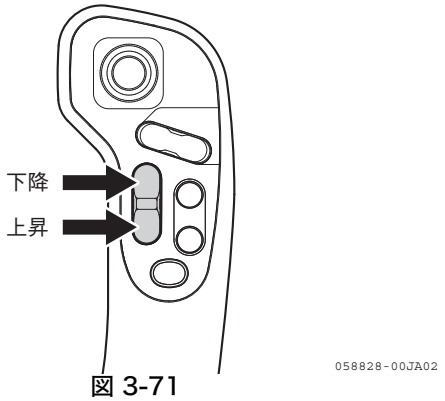


図 3-71

4. オートリフトボタンを5秒以上押し続けます。最初にブザーが断続で鳴り、設定が完了すると連続で鳴ります。(図 3-72)



図 3-72

5. オートリフトボタンから指を離します。設定が完了し、ブザーは鳴り止みます。

[参考]

- 工場出荷時は、地面から刈刃までの高さが70 cmに設定されています。
- 設定可能な高さは、地面から刈刃までの高さが65 cm 以上です。65 cm 未満の高さに設定しても、65 cmに設定されます。
- 走行しながら設定はできません。必ず停止した状態で行ってください。
- 作業クラッチレバーが「脱こく」位置のときは、オートリフト高さの設定はできません。作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてから設定してください。

刈高さ自動制御装置

⚠ 警 告

移動走行時、および、トラックへの積み降ろしの場合には、必ず作業クラッチ、刈高さ「高」スイッチ、および刈高さ「低」スイッチを「切」にし、刈高さ「高」ランプおよび刈高さ「低」ランプが消灯しているのを確認してください。また、センサソリ切替レバーが「収納」側にあることを確認してください。作業クラッチ、刈高さ「高」スイッチ、および、刈高さ「低」スイッチが「入」になっていると、刈取部が不意に上下し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

刈高さ自動制御装置とは、希望の刈高さをセットすると、刈取部のセンサソリ、およびフィーダハウス回動支点のセンサによって、刈取部の高さを検知し、ほ場の条件が変化しても希望の刈高さに自動調節する装置です。

■ 低刈モード

刈取部のセンサソリが、地面に接地する高さで作業を行うときに使用します。

刈刃高さは、地面から3.5～11 cmの範囲です。

1. センサソリ切替レバー (1) を「自動」位置 (2) にして、センサソリをセットします。(図 3-73)

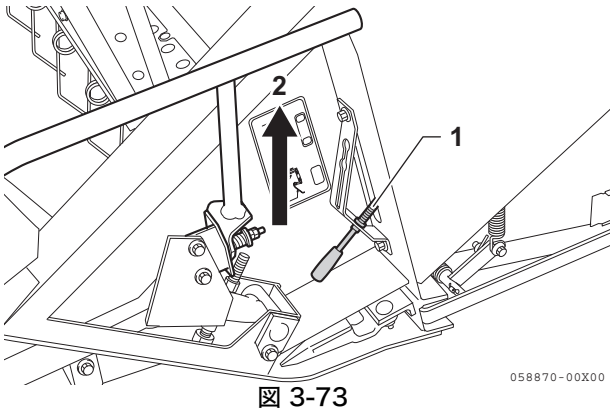


図 3-73

[参考]

センサソリ切替レバーは、必ず「自動」位置にしてください。センサソリが収納されていると、刈取部を下げても、自動制御がはたらきません。

2. エンジンを始動します。
3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。(図 3-74)

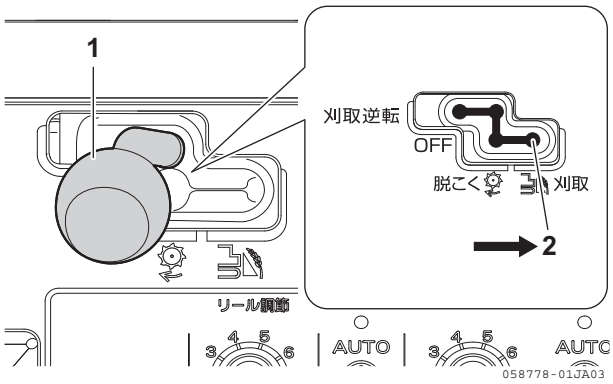


図 3-74

4. 刈高さ「低」スイッチ（1）を押します。刈高さ「低」ランプ（2）が点灯し、自動的に刈取部のセンサソリが地面に接地するまで下がり、自動制御がはたらきます。(図 3-75)

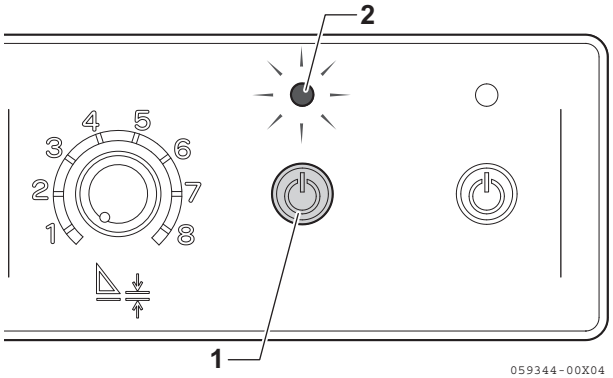


図 3-75

[参考]

刈高さ調節ランプが点滅し、自動制御がはたらかない場合は、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。刈高さ調節ランプが点灯し、自動制御がはたらきます。

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、刈取部を希望の刈高さに設定します。(図 3-76)
   刈取作業を始めると刈取部の高さを地面に対して、一定の高さに自動的に調節されます。

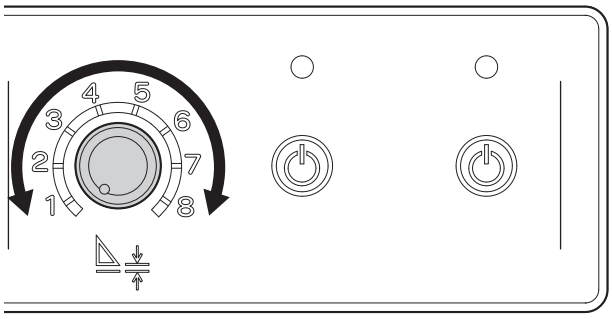


図 3-76

■ 高刈りモード

刈取部のセンサソリが、地面に接地しない高さで作業を行うときに使用します。
刈刃高さは、地面から11～45 cmの範囲です。

1. センサソリ切替レバー（1）を「自動」位置（2）にして、センサソリをセットします。(図 3-77)

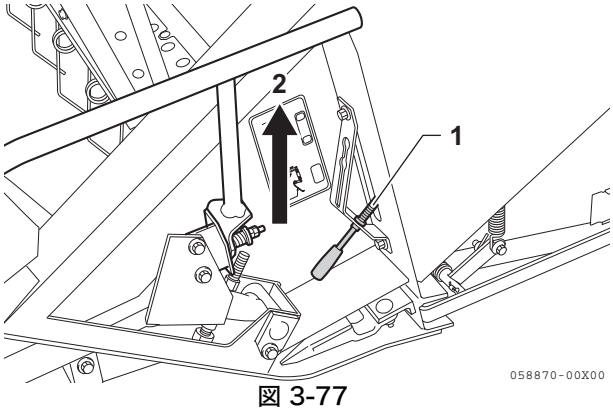


図 3-77

[参考]

センサソリ切替レバーは、必ず「自動」位置にしてください。センサソリが収納されていると、刈取部を下げても、自動制御がはたらきません。

2. エンジンを始動します。

3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。(図 3-78)

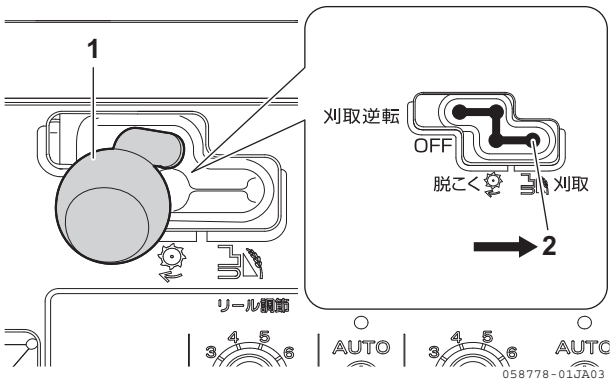


図 3-78

4. 刈高さ「高」スイッチ（1）を押します。刈高さ「高」ランプ（2）が点灯し、自動的に刈取部が刈高さ調節ダイヤルで設定した高さになり、自動制御がはたらきます。(図 3-79)

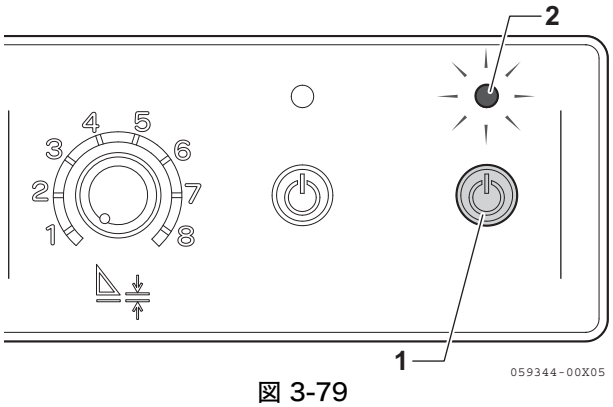


図 3-79

[参考]

刈高さ調節ランプが点滅し、自動制御がはたらかない場合は、オートセットボタンを押してください。刈高さ調節ランプが点灯し、自動制御がはたらきます。

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、刈取部を希望の刈高さに設定します。(図 3-80)
刈取作業を始めると刈取部の高さが自動的に調節されます。

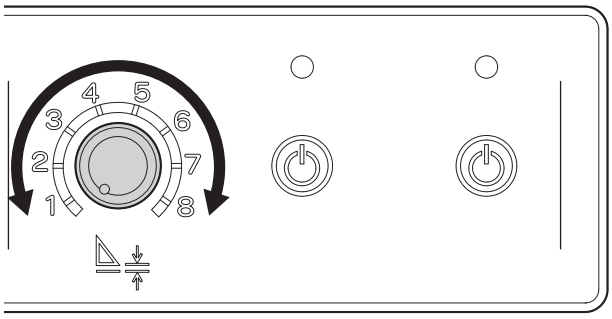


図 3-80

[参考]

- 刈高さ自動制御中（刈高さ「高」ランプ、または刈高さ「低」ランプが点灯）のときに刈取昇降スイッチを操作すると、手動優先がはたらき、刈取部の昇降が行えます。
- 低刈モードのとき、制御中に刈取部のセンサソリが接地からフリー状態（地上から離れる）になると、自動制御は中断されますが、30 cm走行後に自動復帰します。手動操作で刈取部のセンサソリがフリー状態になったときは、センサソリが地面に接地するまで自動復帰しません。自動制御に戻すためには、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサソリが接地するまで、刈取部を下げてください。
- 高刈モードのときに、刈取部のセンサソリが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止がはたらき刈取部は自動的に上昇します。（クイックリフト）
- 高刈モードで刈高さ調節ダイヤルの調節が低く突っ込み防止が作動する頻度が高い場合は、刈高さ調節ダイヤルの調節を高く調節するか、低刈モードで作業してください。

リール自動制御装置

■ リール同調制御装置

リール同調制御装置とは、作業速度に同調して、リールの回転速度が自動的に変速させる制御です。また、作業速度に対して、リール回転速度の同調の割合がリール前後・リール速度スイッチやリール昇降・速度スイッチで調整できます。

1. エンジンを始動します。
2. リール変速自動スイッチ（1）を押します。リール変速自動ランプ（2）が点灯します。（図 3-81）

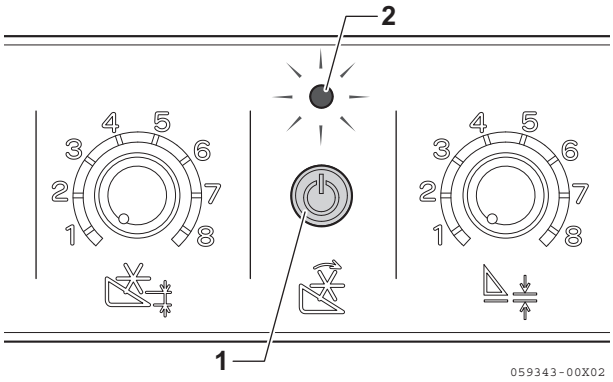


図 3-81

3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。リールが低速回転します。（図 3-82）

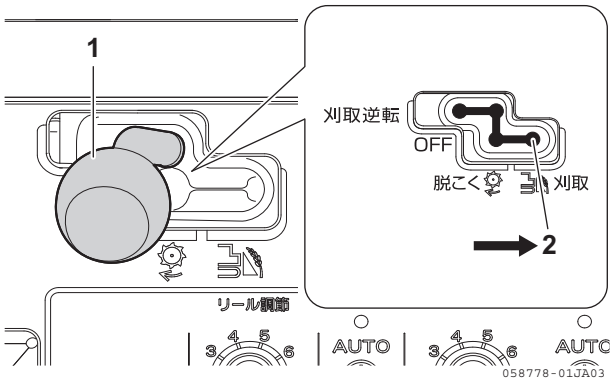


図 3-82

4. 刈取作業を始めます。
   刈取速度を速くするとリール回転速度も速くなり、刈取速度を遅くするとリール回転速度も遅くなります。

5. リール回転速度は、作物の状態を見ながら、オールマイティシフトレバーのリール前後・リール速度スイッチ（1）、またはマルチハンドルのリール昇降・速度スイッチ（2）により調節した回転速度に同調してリール回転速度を制御します。（図 3-83）

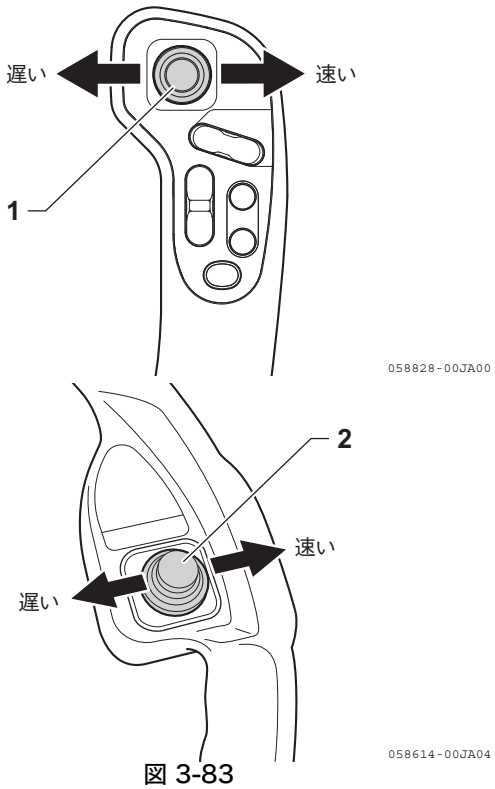


図 3-83

[参考]

- 自動制御中でも、リール前後・リール速度スイッチやリール昇降・速度スイッチの手動操作によりリール回転速度を任意に調節できます。
  手動調節以降は、任意に調節した回転速度に同調してリール回転速度を制御します。
  キースイッチを一度「OFF」位置にすると、標準の同調速度に復帰します。
- 刈取作業速度に関係なくリール回転速度を一定にしたい場合は、リール変速自動「切」（ランプ消灯）にして刈取作業を行ってください。

■ リール高さ自動制御装置

リール高さ自動制御装置とは、刈取作業時にリール高さダイヤルで設定したリール高さを保ち刈取作業が行えます。
刈取オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定高さまで上昇すると同時に、リールが最下点まで下降して、刈取物の脱落を防止します。
また、つぎの工程で刈取オートセットボタンを押すと、刈取部が下降して設定高さになると同時に、リールが設定したリール高さ調節ダイヤル位置になって刈取作業が行えます。

1. エンジンを始動します。
2. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。（図 3-84）

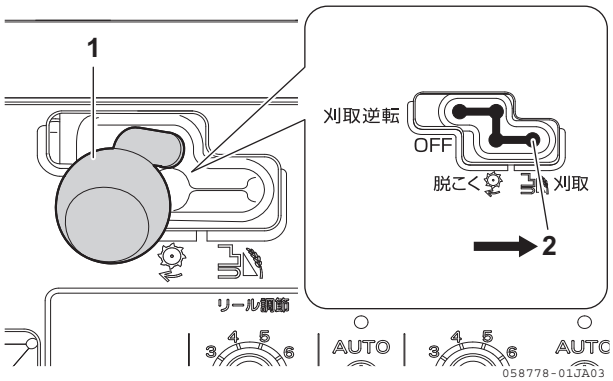


図 3-84

3. 刈取オートセットボタンを押します。（図 3-85）
刈取部が下降し、地面から一定の高さで停止します。同時に、リールがリール高さ調節ダイヤル位置まで上昇し停止します。

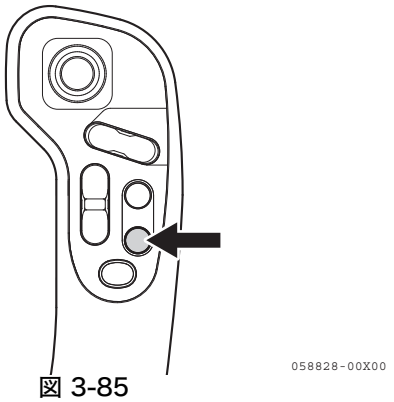


図 3-85

4. リール高さ調節ダイヤルを操作して、リール高さを希望の位置に設定します。（図 3-86）

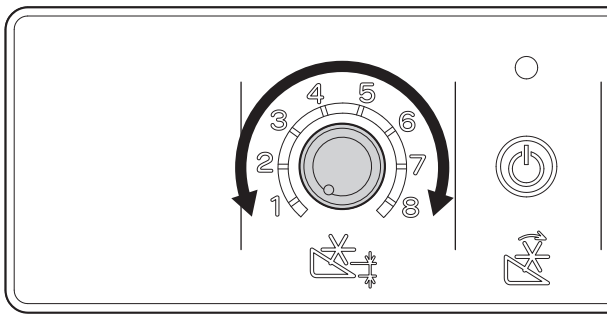


図 3-86

5. 刈取作業を始めます。
6. 作物の状態を見ながら、リール高さ調節ダイヤルを操作して、リールの高さを調節します。
7. 刈取オートリフトボタンを押します。
リールが最下点まで下降すると同時に、刈取部が設定高さまで上昇します。（図 3-87）

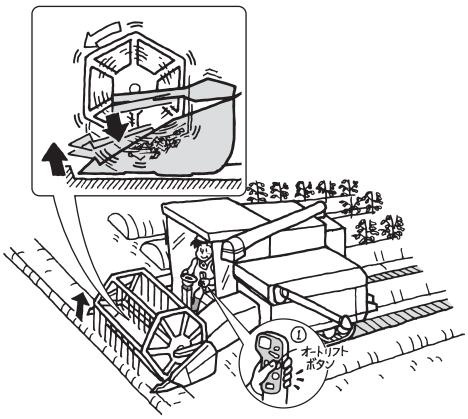


図 3-87

8. 刈取オートセットボタンを押します。刈取部が設定高さに下降すると同時に、リール高さも設定高さになって、刈取作業が行えます。

[参考]

- リール高さ制御装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でもマルチハンドルのリール昇降・速度スイッチでリール高さが調節できます。
- 手動操作後は、自動制御が切れるので、再び自動制御にする場合は、刈取オートセットボタンを押してください。

刈取バックアップ装置

刈取バックアップ装置とは、センサソリの破損を防止するための補助的な装置です。
作業クラッチレバー「刈取」位置、自動刈高さスイッチ「低」または「高」位置で（ランプ点灯）のとき、コンバインを後進させると、センサソリがフリー状態になる位置まで刈取部が上昇し、その後30 cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

[重要]

後進するときは、周囲の状況に注意して、刈取部を上昇させてから後進してください。

刈取水平制御装置

刈取水平制御装置とは、ほ場の条件が変化しても、地面に対して常に刈取部を水平に保つ装置です。
刈取部がオートリフト状態または刈取部の高さがセカンドモア収納高さ（工場出荷時64 cm）以上のときは、刈取水平制御は制御しません。

1. エンジンを始動します。（114ページ参照）
2. 作業クラッチレバー（1）を「脱こく」位置（2）にします。（図 3-88）

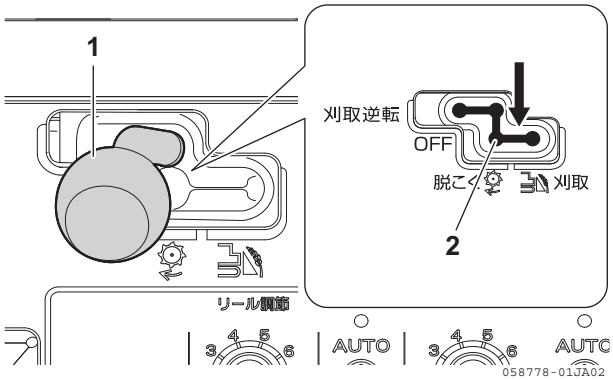


図 3-88

3. 水平自動スイッチ（1）を押して「入」（ランプ点灯）（2）にします。刈取部を傾斜角調節ダイヤル位置に制御します。（図 3-89）

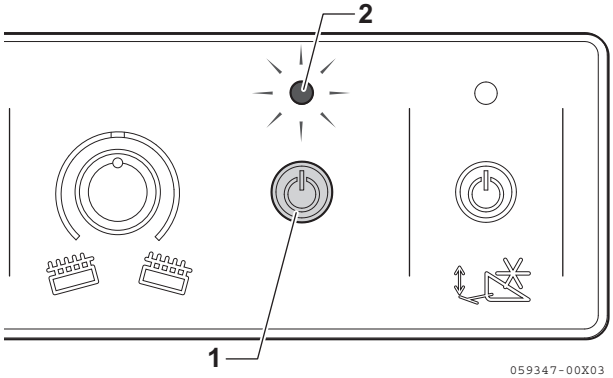


図 3-89

4. 刈取部を左に傾けたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり左側（）へ回し、右に傾けたいときはゆっくり右側（）へ回します。コンバインが傾斜しても、合わせた角度になるように制御します。

[参考]

- 刈取水平制御装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動制御中でも水平手動スイッチを操作すると、刈取部の傾きを調節できます。
- 刈取水平制御中に手動操作をすると、刈取水平制御は中断しますが、2秒後に再び水平制御がはたらきます。
- 作業クラッチレバーが「OFF」位置では、刈取部の刈刃高さがセカンドモア収納高さ（工場出荷時64 cm）より高くなると、水平自動スイッチの「入」「切」にかかわらず、コンバインに対して刈取部を水平に保ちます。
  このとき、水平手動スイッチを操作すると、刈取部の傾きを調節できますが、2秒後に再びコンバインに対して刈取部が水平になります。

● 傾斜角調節ダイヤル（1）の合わせマーク（2）がパネル側（3）と合っていないと、水平になりません。（図 3-90）

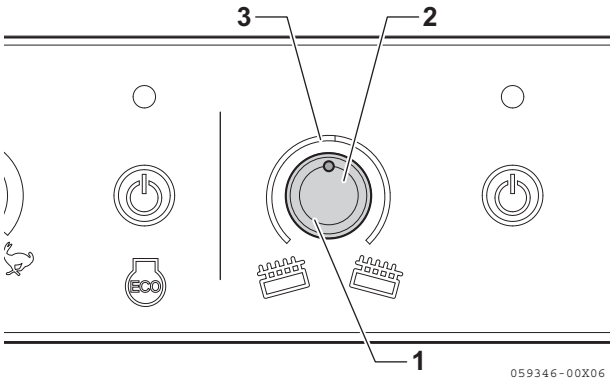


図 3-90

快速制御装置

[重要]

- **快速制御装置は刈取作業を補助する装置です。急発進や急加速などの作業状態では詰まりが発生する場合があります。**
- **快速制御スイッチランプ点灯中は快速制御による車速制御中です。快速制御により車速が増減速する場合がありますので、オールマイティシフトレバーから手を離さないでください。**

快速制御装置は、ほ場条件が変化してエンジンが過負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷に戻れば、車速を元のオールマイティシフトレバーの位置の速度に戻す制御装置です。

1. エンジンを始動します。
2. Eモードスイッチ（1）を「入」（Eモードランプ点灯）（2）にします。（図 3-91）

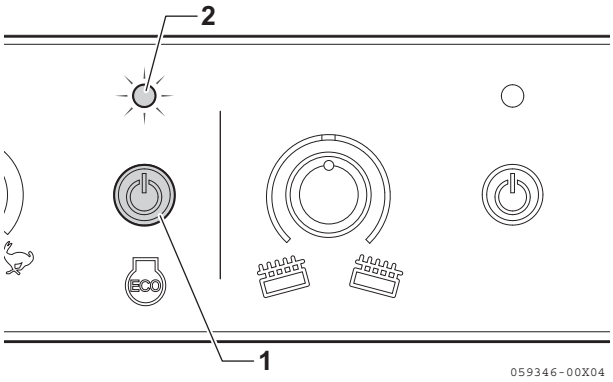


図 3-91

3. 作業クラッチレバー（1）を「刈取」位置（2）にします。（図 3-92）

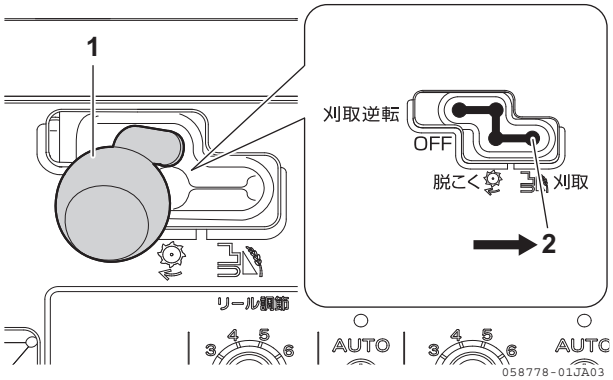


図 3-92

4. 快速制御スイッチ（1）を押して「入」にします。快速制御スイッチランプが点滅します。（図 3-93）

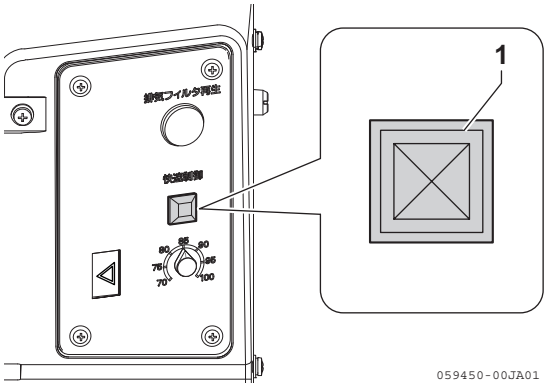


図 3-93

5. 快速調節ダイヤル（1）で快速制御が作動するエンジン負荷率を設定します。（標準はグリーンゾーン）（図 3-94）

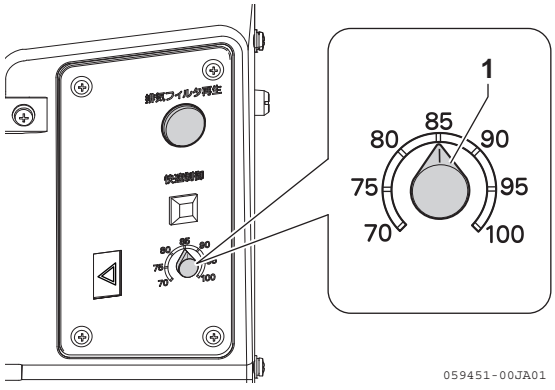


図 3-94

6. 刈取作業を0.5m/s以上の速度で行います。エンジン負荷率が快速調節ダイヤルで設定した値を超えると快速制御スイッチランプが点灯し、車速が自動的に減速されます。
（オールマイティシフトレバーは動きません。）
7. エンジン負荷が軽くなると、徐々に元の速度に戻ります。
（オールマイティシフトレバーは動きません。）

[参考]

- 刈取作業はオールマイティシフトレバーでゆっくりと車速をあげ、快速制御が作動した位置でオールマイティシフトレバーを固定すると最適な作業速度になります。
- 快速制御が作動しても、オーバーロード警報が頻発する場合は、オールマイティシフトレバーで車速を少し落としてください。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）はオールマイティシフトレバーでの増速操作はできません。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）でもオールマイティシフトレバーでの減速操作は優先して行えます。

脱こく制御装置

脱こく部のこく粒量が増加し、排稈口に設置した排稈口センサが一定以上の排稈量を検出したとき、あらかじめクリーンシフトレバーにて設定したチャフシーブ角度・唐箕風量より、さらにチャフシーブ角を開き、唐箕風量を増加させます。この制御により、より選別を向上させて、ロスの低減を図ります。また、回行時は、脱こく部のこく粒量が減少するため、チャフシーブ角を開け側に制御しないようにしています。

オーガ自動旋回装置（オーガオートセット・オーガオートリターン装置）

⚠ 警　告

- 移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、オーガ自動旋回スイッチに触らないでください。オーガが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。ランプが消えていることを確認してください。
- 移動走行時やトラックなどへの積み・降ろしのときは、絶対にオーガ右・後セットスイッチ、およびオーガリターンスイッチを押さないでください。

⚠ 注　意

オーガ自動旋回装置は、屋内や木の下などで使用しないでください。
オーガ自動旋回装置は、排出オーガを最上昇位置まで上昇させるため、障害物に当たりけがをするおそれがあります。

[参考]

オーガ右セットスイッチ、およびオーガ後セットスイッチを操作すると、排出オーガは自動的に旋回しますので、補助者・障害物などには十分注意してください。

■ オーガオートセット装置の操作のしかた

排出オーガをスイッチ2つで、右方と後方に、合計4カ所の位置に自動的に旋回させることができます。

[重要]

- 作動油温度が低い場合、オートリターンで排出オーガがオーガレストの収納位置まで下降しない場合があります。
- オーガ自動旋回装置の作動中や、排出オーガがオーガレストに収納されていない状態で、高速走行をしたり、急旋回をしないでください。排出オーガ取付部などの破損につながります。
- 刈取作業中や移動走行時、またはトラックなどへの積み・降ろしのときは、必ず排出オーガをオーガレストに収納してください。

1. エンジンを始動します。

[参考]
安全のため、エンジンがかかっていない場合は、オートセット装置は作動しません。

2. オーガ自動旋回スイッチのオーガ右セットスイッチ (1)、またはオーガ後セットスイッチ (2) を長押しします。(図 3-95)

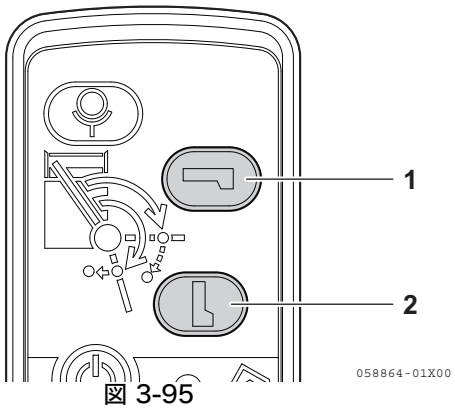


図 3-95

[参考]
安全のため、スイッチは長押ししないと装置は作動しません。

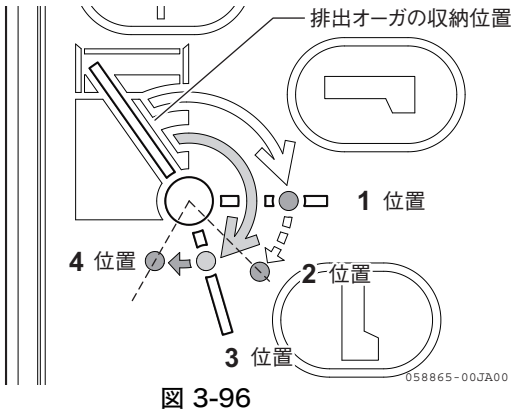


図 3-96

- 排出オーガが最上昇位置まで上昇し、「右セット」の場合は右旋回してコンバイン右側（ランプ（赤）点灯）1位置に、「後セット」の場合は右旋回してコンバイン真後ろ（ランプ（橙）点灯）3 位置に自動的に旋回します。(図 3-96)
  自動旋回中や 1 位置または 3 位置の位置で停止した後、再度、同じスイッチを押すと、ランプが点滅に切り替わり、排出オーガの旋回方向はそのままで、「右セット」の場合は2位置に、「後セット」の場合は4位置まで旋回します。(図 3-96)
  さらに、もう一度同じスイッチを押した場合は、ランプが消灯し自動旋回が停止します。
- オーガオートセット装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動旋回中でも排出オーガは、排出オーガ手動スイッチで操作できます。また、手動操作をするとオーガオートセット装置は切れます。
- オーガオートセット装置が作動中、異なる位置のオーガ右・後セットスイッチを押すと、排出オーガは止まります（ランプは消灯します)。
- オーガオートセット装置が作動中に、オーガリターンスイッチ、および排出オーガクラッチスイッチを押した場合、または、作動中のオートセット動作と異なる位置のセットスイッチを押した場合は、排出オーガは止まります（ランプは消灯)。この場合は、排出オーガクラッチは作動しません。排出オーガが停止した状態で、再度排出オーガクラッチスイッチを押してください。
- オーガオートセット中断後、再度オーガ右・後セットスイッチを押すと、動き出します。
- E モードスイッチが「入」(E モードランプ点灯) のときには、オーガオートセット装置がはたらいている間は、エンジン回転数が自動的に定格回転数（グリーンゾーン）になります。
- 排出オーガクラッチが「入」(ランプ（緑）点灯) の状態で、オーガ右セットスイッチ、およびオーガ後セットスイッチを押すと、オーガクラッチが入ったままで指示した位置に移動します。
- オーガ自動旋回中にリール昇降操作をすると、オーガ自動旋回が一時停止し、リール昇降操作をやめると、オーガ自動旋回を続けます。

3. 排出オーガを排出オーガ手動スイッチで、こく粒排出位置まで下降させて、こく粒を排出します。(図 3-97)

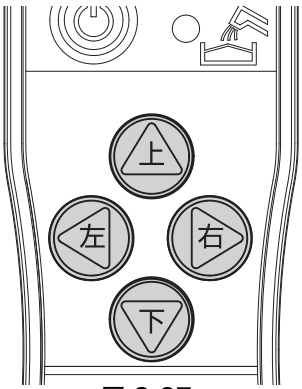


図 3-97

■ オーガオートリターン装置の操作のしかた

排出オーガをスイッチひとつで自動的にオーガレストに収納します。

1. エンジンを始動します。

[参考]

エンジンがかかっていない場合には、オートリターン装置は作動しません。

2. こく粒を排出後、オーガリターンスイッチ（1）を長押しします。(図 3-98)
   排出オーガが自動的にオーガレストに収納されます。

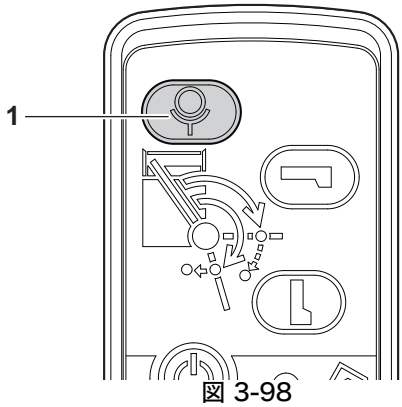


図 3-98

[重要]

オーガ自動旋回装置が作動中に、高速走行や急旋回をしないでください。排出オーガがオーガレストに収納されなかったり、排出オーガ取付部などの破損につながります。

[参考]

- オートリターン装置で排出オーガを戻すと、排出オーガは自動または手動でセットしたときの旋回方向の反対方向に旋回します。(左旋回)
- オートリターン装置には、手動優先回路が組み込まれているので、自動収納中でも排出オーガは、排出オーガ手動スイッチで操作できます。また、手動操作をするとオートリターン装置は切れます。再びオートリターンスイッチを押すと動き出します。
- オートリターン装置が作動中に、オーガ右・後セットスイッチ、オートリターンスイッチ、または排出オーガクラッチスイッチを押した場合は、排出オーガは止まります（ランプ（緑）消灯）。再度オートリターンスイッチを押すと、最初の動作から動き出します。
- E モードスイッチが「入」(E モードランプ点灯)のとき、オートリターン装置がはたらいている間は、エンジン回転数が自動的に定格回転数(グリーンゾーン）になります。
- 排出オーガクラッチが「入」(ランプ（緑）点灯)の状態で、オートリターンスイッチを押すと低速で上昇します。その後は連続で上昇します。
- オーガ自動旋回中にリール昇降動作をすると、オーガ自動旋回が一時停止し、リール昇降動作をやめると、オーガ自動旋回を続けます。

こく粒の排出のしかた

⚠ 警　告

- こく粒がタンクに入った状態で、あぜ越え、トラックなどへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右各11度以上）での作業、および移動走行は絶対にしないでください。転倒し傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 排出作業時は、脱こく部を必ず停止させてください。回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- オーガを昇降・旋回させるときは、コンバインが停止した状態で行ってください。破損の原因になります。
- オーガを昇降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確認してください。破損の原因になります。
- 排出オーガが、オーガレストの収納位置付近にあるときは、オーガ先端およびオーガマルチリモコンの排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押しても、オーガクラッチは「入」になりません。

[参考]

オーガが収納されていない状態で走行を開始すると、警報ブザーが鳴ります。オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にしてコンバインを停止させるとブザーが止まります。センターディスプレイのOFF（ブザー）スイッチでも警報を停止させることができますが、コンバインが動くと再度ブザーが鳴りますので、ブザーが鳴ったらコンバインを停止させてからオーガを収納してください。



図 3-99 オーガ未収納警報画面

排出オーガの作業範囲

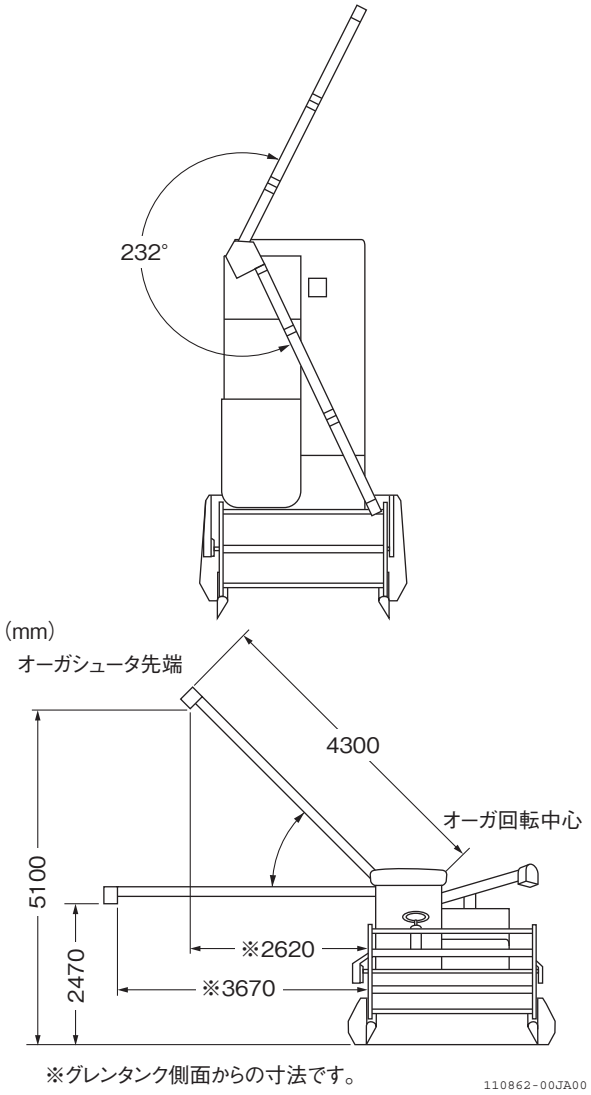
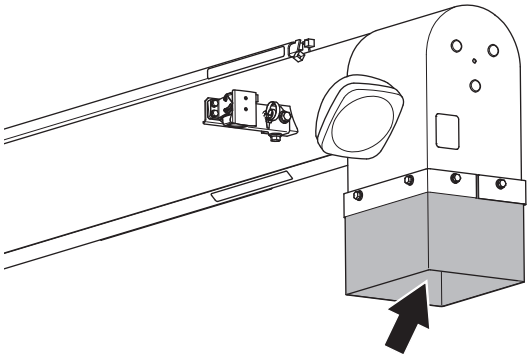


図 3-100 排出オーガの作業範囲

排出作業のしかた

⚠ 警　告

排出中は、排出口に手を入れないでください。オーガ内部でコンベアが回転しているので、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



[重要]

オーガマルチリモコンは、有線（コード）です。万一、コードを傷つけると、作動不良の原因になりますので、コードを傷つけないように注意してください。

タンク内が満タンになると、つぎの作動をします。手順に従って排出作業をしてください。

- ブザー（警報装置）が断続で鳴ります。
- グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅します。通常の画面で「表示切替」（スイッチ）を押すと「もみ満量画面」に切り替わります。（図 3-101,図 3-102）

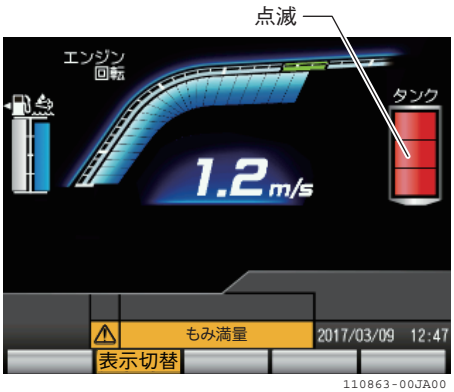


図 3-101 通常画面



図 3-102 もみ満量画面

1. もみ満量のブザーが鳴ったら、ただちに刈取作業を停止します。OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーが止まります。

[重要]

- コンバインを停止したときは、必ず作業クラッチレバー（1）を「脱こく」位置（2）にして、脱こく部での作物の処理が終わったことを確認してから、「OFF」位置（3）にしてください。作業クラッチレバーを「脱こく」で、脱こく部が回った状態にしておくと、こく粒ロスや損傷（脱ぷ）・稈切れ混入などの選別不良が発生します。（図 3-103）

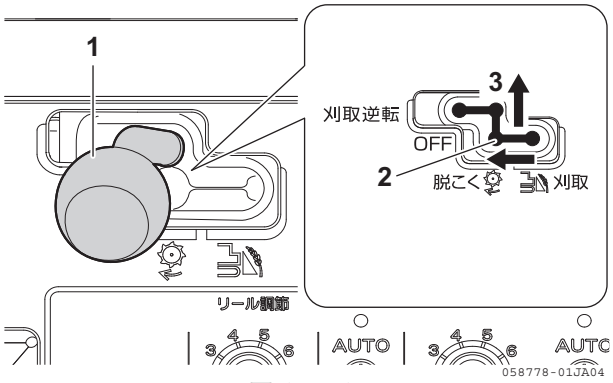


図 3-103

- ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒があふれて、故障の原因になります。

2. トラックへの排出が可能な所まで、コンバインを移動させます。

[重要]

コンバインは、できるだけ水平な状態にしてください。コンバインの傾斜が大きいと、排出時に排出オーガがずれるおそれがあります。(図 3-104)

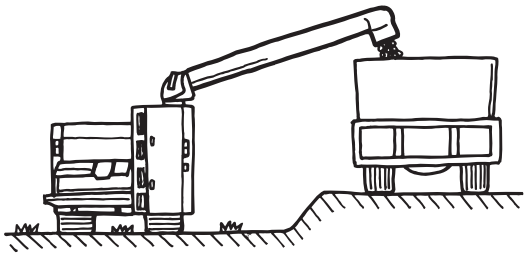


図 3-104

3. 作業クラッチレバーを「OFF」位置にします。
4. オーガ自動旋回スイッチのオーガ右セットスイッチ (1)、またはオーガ後セットスイッチ (2) を押します。ランプ（右セット：赤、後セット：橙）(3) が点灯し、自動的に旋回します。(図 3-105)

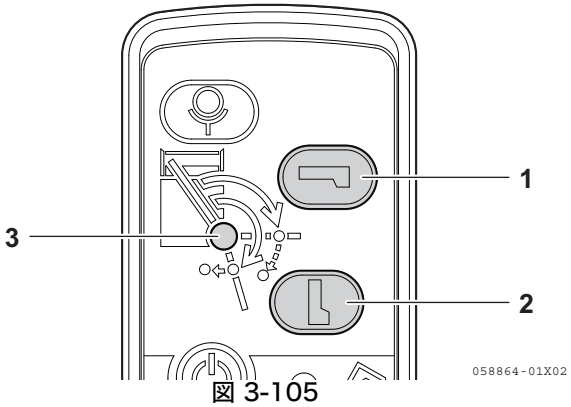


図 3-105

[参考]

排出オーガ手動スイッチを操作しても、排出オーガの旋回は行えますが、排出オーガを旋回するときは、必ず最上昇位置にしてから行ってください。

5. 排出オーガ手動スイッチで、排出オーガをこく粒排出位置まで下降させます。(図 3-106)

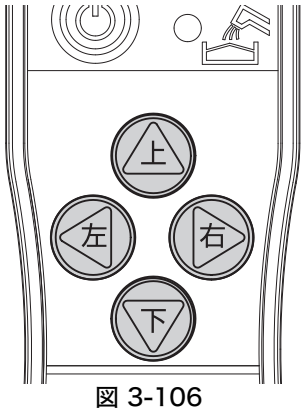


図 3-106

[重要]

オーガを昇降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確認してください。破損の原因になります。

6. 駐車ブレーキをかけます。(87ページ参照)
7. アクセルダイヤル (1) でエンジン回転を調節し、センターディスプレイの回転数が「グリーンゾーン」位置 (2) を示すように調節します。または、Eモードスイッチ (3) を「入」(Eモードランプ点灯) にします。(図 3-107)

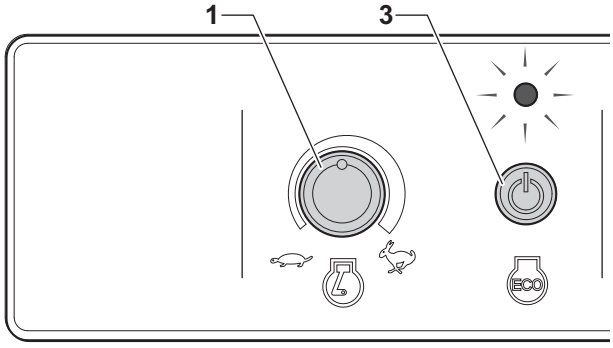




図 3-107

8. 排出オーガクラッチスイッチ（1）を長押しして、ランプ（2）を点灯させます。こく粒が排出されます。（図 3-108）

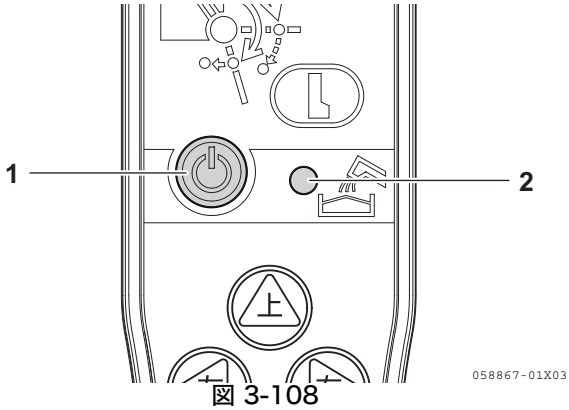


図 3-108

[重要]

- オーガの昇降・旋回操作は、コンバインが停止した状態で行ってください。
- こく粒排出中は、排出口をこく粒がふさがないように注意し、排出位置を変更しながら行ってください。（図 3-109）



図 3-109

- 排出位置を変更するときは、以下のいずれかの操作で行ってください。
  ・オーガを旋回される。
  ・コンバインをゆっくり動かす。

[参考]

投口シートが破損した場合は、すみやかに交換してください。

9. 排出が終了したら、排出オーガクラッチスイッチ（1）を押して、ランプ（2）を消灯させます。（図 3-110）

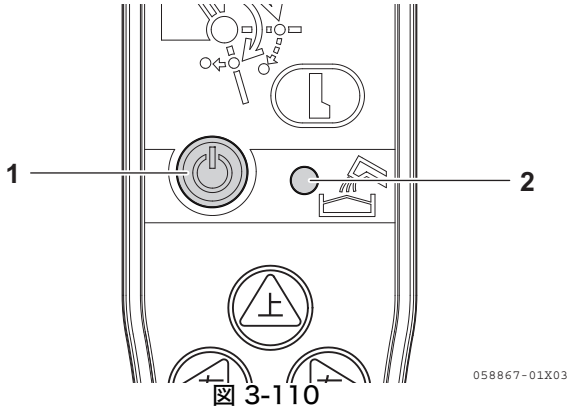


図 3-110

10. オーガリターンスイッチ（1）を長押しします。排出オーガは、自動的にオーガレストに収納されます。（図 3-111）

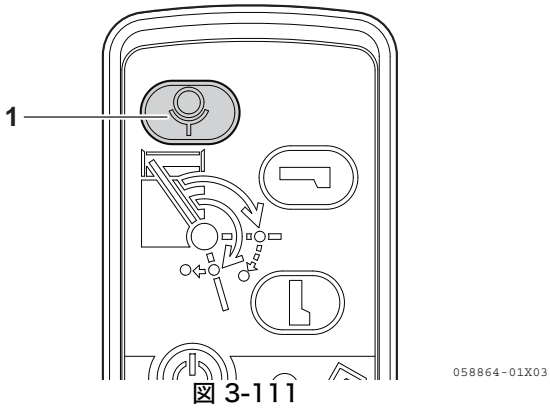


図 3-111

⚠ 注　意

- 刈取作業中は、排出オーガをオーガレストに必ず収納してください。
- 屋内や木の下などでは排出オーガを使用しないでください。

[重要]

- オーガリターンスイッチを押すと、排出オーガは最上昇位置まで上昇してから回動して収納されます。周囲に障害物がないか、確認してから操作してください。破損の原因になります。
- 排出オーガクラッチが「入」（ランプ点灯）の状態でオーガリターンスイッチを押すと低速で上昇します。
- 排出オーガをオーガレストに収納しない状態で、高速走行したり、急旋回しないでください。排出オーガ取付部などの破損につながります。

無線リモコンでの排出のしかた

⚠ 警 告

本装置を操作しているときは、わき見をしないで、常に周囲の安全に注意を配ってください。

[参考]

送信機の ON スイッチとオートリターンスイッチの操作以外は、基本はオーガマルチリモコンと同じです。

1. アクセルダイヤルを操作して、エンジン回転を調節します。作業中は、センターディスプレイの回転計が「作業」（グリーンゾーン）位置を指すようにします。
2. 送信機のONスイッチ（1）を長押しして、赤ランプ（2）を点滅させます。
   （送信機の電源が入ります。）（図 3-112）

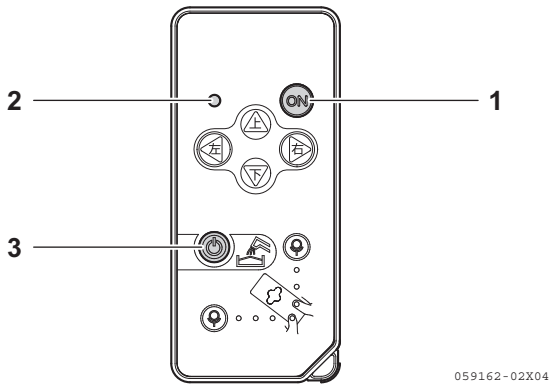


図 3-112

3. 排出オーガクラッチスイッチ（3）を押すと、こく粒が排出されます。（図 3-112）
4. 排出が終了したら排出オーガクラッチスイッチを押して排出を止めます。
5. 排出オーガをオーガレストに収納します。

[参考]

- 排出オーガを自動で収納する場合はオーガリターンスイッチを押します。（86ページ参照）
  このとき、排出クラッチは切れません。
- 排出オーガクラッチの「入」「切」、排出オーガの上下昇降・左右旋回、およびオーガオートリターンは、運転席側、送信機側の両方で行うことができますが、オーガオートセットは、運転席側のオーガマルチリモコンでしか操作できません。
- 排出オーガクラッチの「入」「切」は、長押ししてください。特に排出オーガクラッチスイッチを「切」にするときは、長押し後にクラッチが「切」側に作動し始めるため、排出がすぐに止まりませんので注意してください。
- 無線リモコンで排出オーガクラッチを操作した場合でも、オーガマルチリモコンの排出オーガクラッチランプが動作します。
- オーガマルチリモコンで排出オーガクラッチを「入」にして、無線リモコンで「切」にすることや、その逆の動作も可能です。

刈取部詰まり除去装置の使いかた

刈取作業中に、プラットフォームオーガ、またはフィーダハウス内で詰まりが発生した場合、刈取部の昇降を利用して、フィーダチェンやプラットフォームオーガを逆転させ、詰まりの除去を行う装置です。

1. 駐車ブレーキをかけます。
2. 刈取部が確実に止まっているのを確認してから、作業クラッチレバー（1）を「刈取逆転」位置（2）にします。(図 3-113)

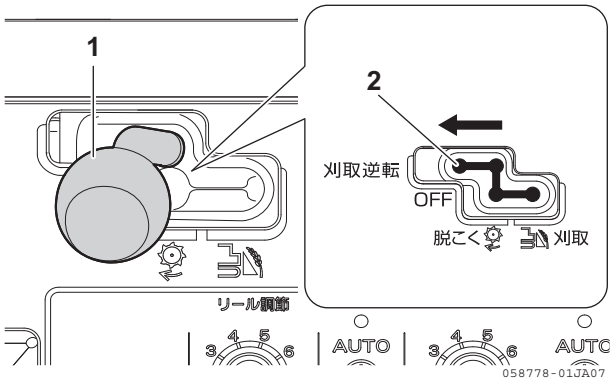


図 3-113

[重要]

ストッパシテン CMP の操作レバーが「ロック」位置にある場合、作業クラッチレバーは「刈取逆転」位置に入りません。ストッパシテン CMP の操作レバーを「ロック解除」位置にしてから作業クラッチレバーを「刈取逆転」位置に入れてください。(図 3-114)

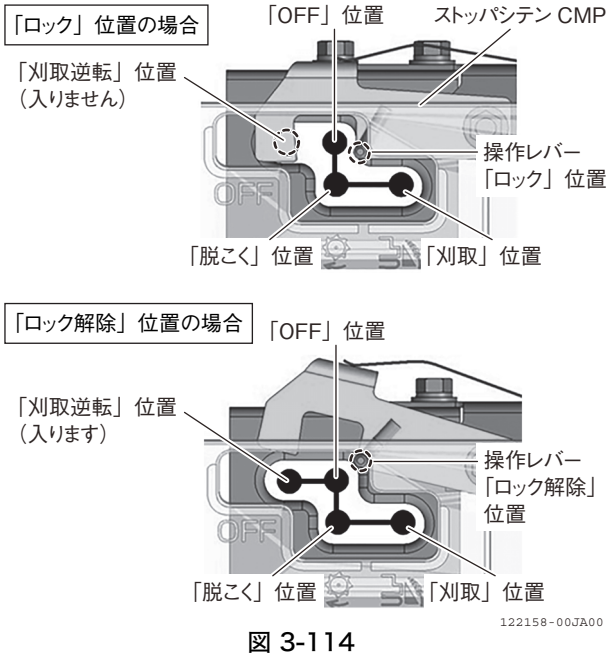


図 3-114

3. 刈取部を昇降します。
   1 回の昇降でプラットホームオーガが約 20° 逆転します。
4. 刈取部の昇降を数回繰り返します。
5. 作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてからリールを上昇させてエンジンを停止し、刈取部に詰まっている作物を取り除きます。
   このとき、ストッパシテンCMPは自動で「ロック」位置に戻ります。

[重要]

刈取部に詰まっている作物を取り除くときは、リールを上昇させて刈取昇降ストップバルブとリール昇降ストップバルブをロック位置にしてから作業を行ってください。

6. 作物が取り除けないときは、手順2 ～ 4の作業を繰り返します。

[重要]

- **詰まっている作物を手で取り除くときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。**
- **刈取部が確実に止まっているのを確認してから、作業クラッチレバーを「刈取逆転」位置にしてください。守らないと、刈取逆転装置が破損するおそれがあります。**
- **刈取部逆転作業途中でエンジンスイッチを「OFF」位置にすると作業クラッチレバーが「OFF」位置に戻らない場合があります。作業クラッチレバーが「OFF」位置にないとエンジンが始動できません。エンジンを始動するには、リールを上昇させて刈取昇降ストップバルブとリール昇降ストップバルブをロック位置にし、刈取プラットフォームオーガを手動で逆転させると、作業クラッチレバーを「OFF」位置にでき、エンジンを始動することができます。**

各部の脱着・オープンのしかた

⚠ 警　告

各部の脱着・オープンをするときは、平たんで安全な場所で必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 外したカバー類は、必ず取り付けてください。外したままで運転すると回転部に巻き込まれたり、けがをするおそれがあります。
- 各部の脱着・オープンをするときは、手などをはさまないよう注意してください。

各部脱着・オープン一覧

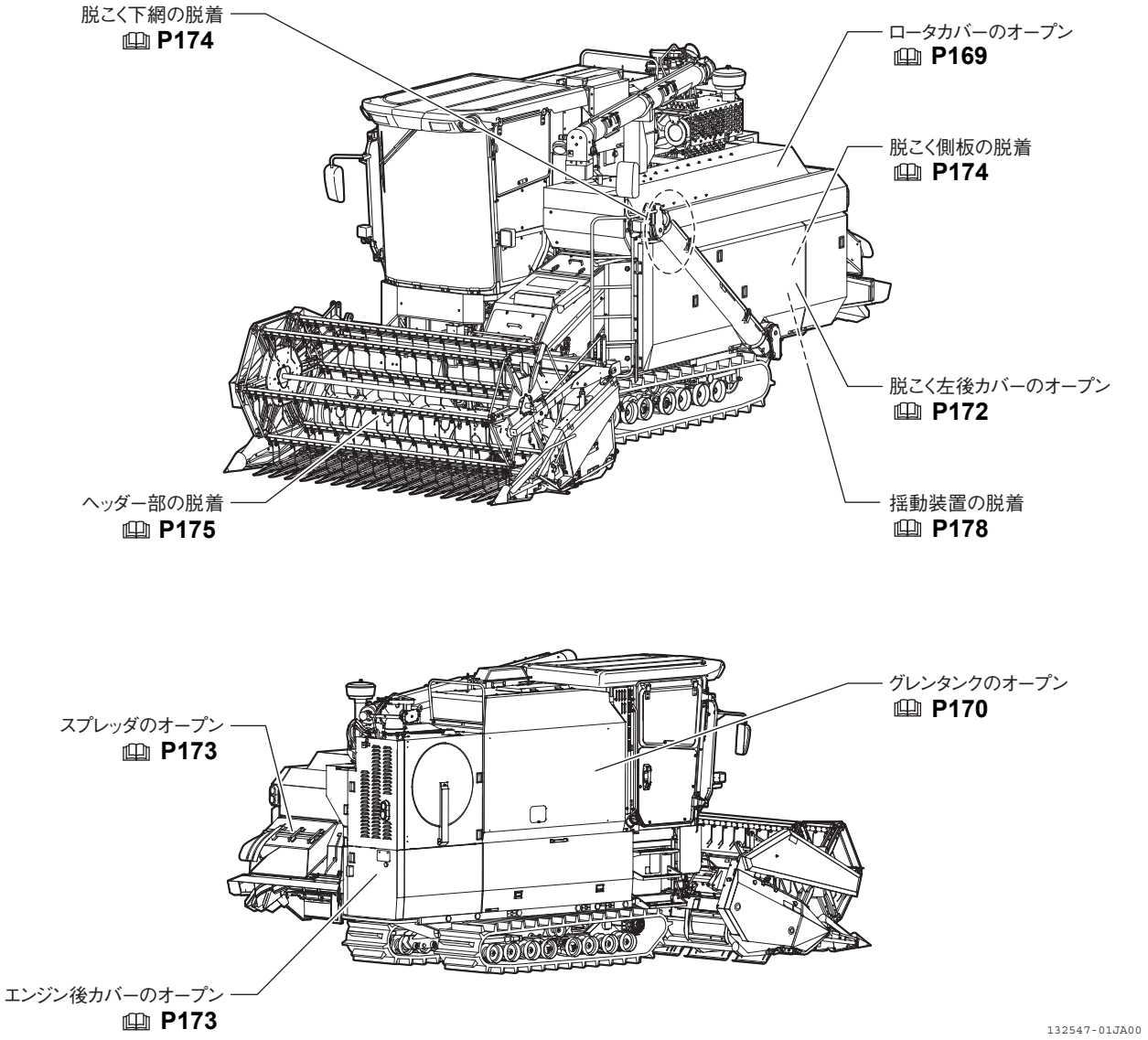


図 4-1 各部脱着・オープン一覧

主なカバーのなまえ

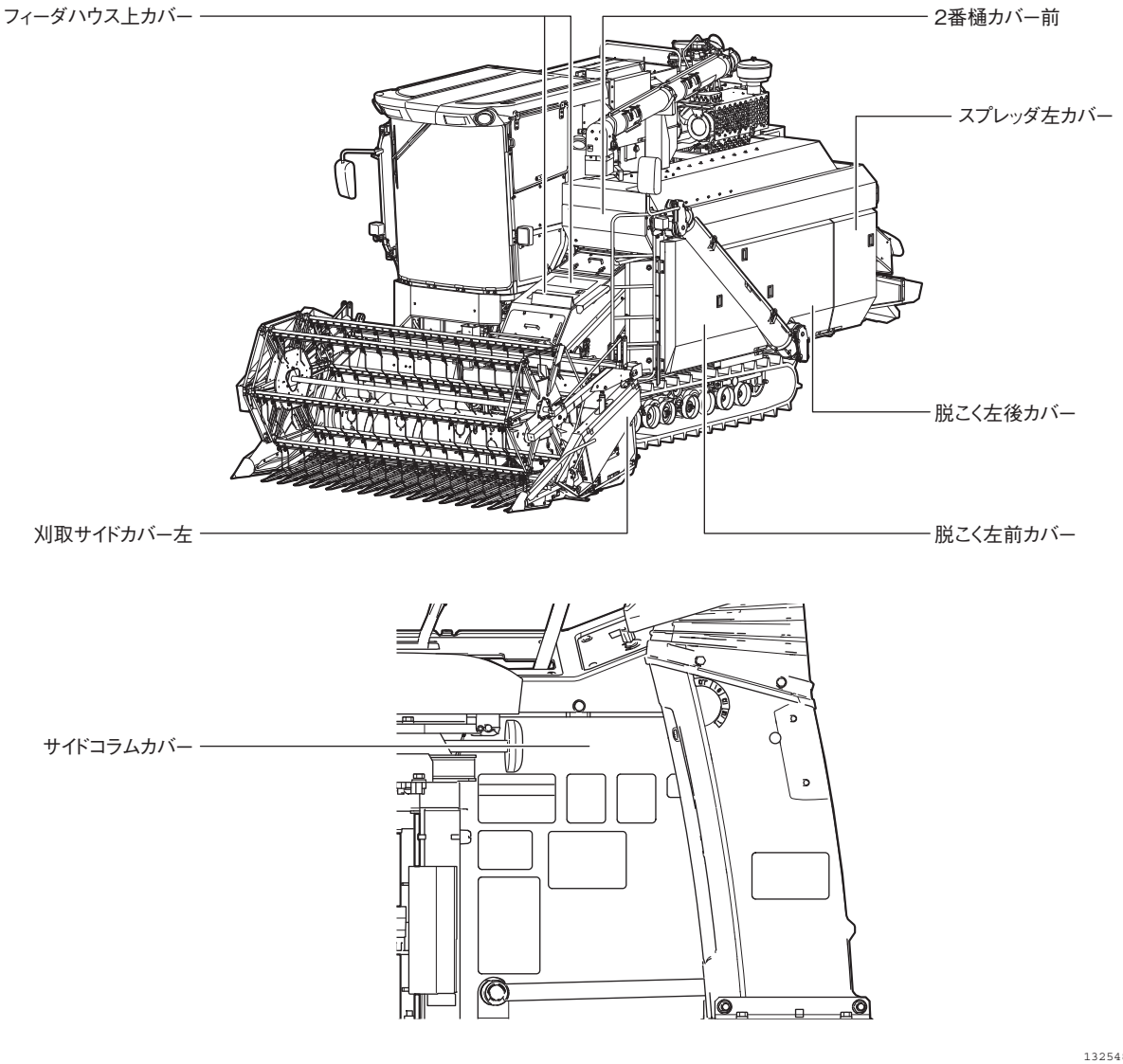


図 4-2 主なカバーのなまえ

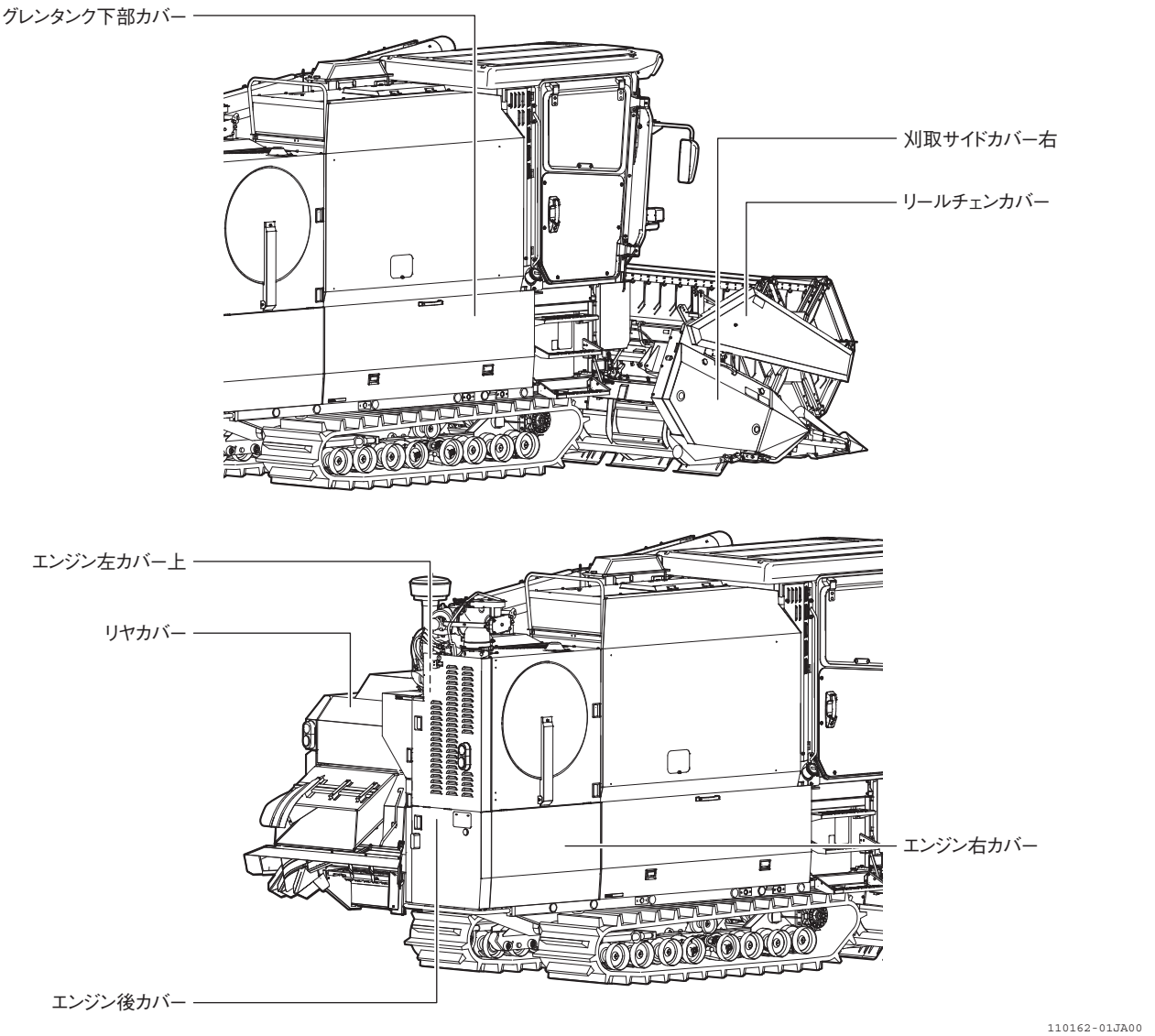


図 4-3 主なカバーのなまえ

ロータカバーのオープンのしかた

⚠ 警　告

作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転しています。ロータが回転している間は、絶対にカバーを開かないでください。
回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

フィーダハウスの上にのぼる場合は、安全帯を装着してください。
落下してけがをするおそれがあります。

1. エンジンを始動します。（114ページ参照）
2. 排出オーガ手動スイッチを操作して、排出オーガをオーガレストから 50 cm 以上上昇させます。（図 4-4）

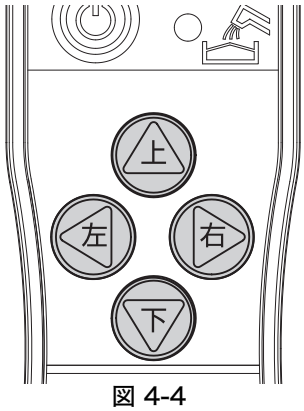


図 4-4

3. 刈取部を上げて刈取部ストッパで固定します。（91、183ページ参照）
4. エンジンを停止します。（116ページ参照）
5. ラダーを昇降位置にします。

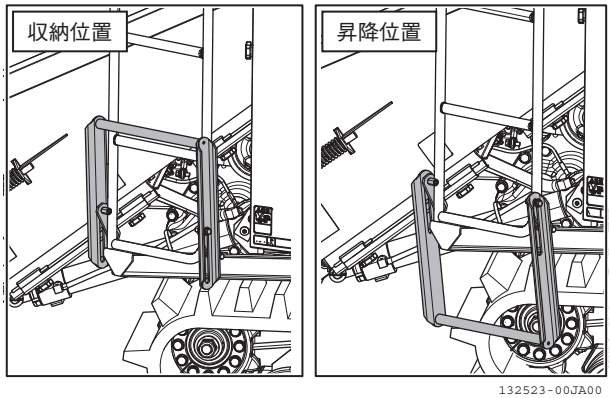


図 4-5

6. ラダー（1）にのぼって、安全帯を安全帯取付用フック（2）に取り付け、フィーダハウス（3）の上に乗ります。（図 4-6）

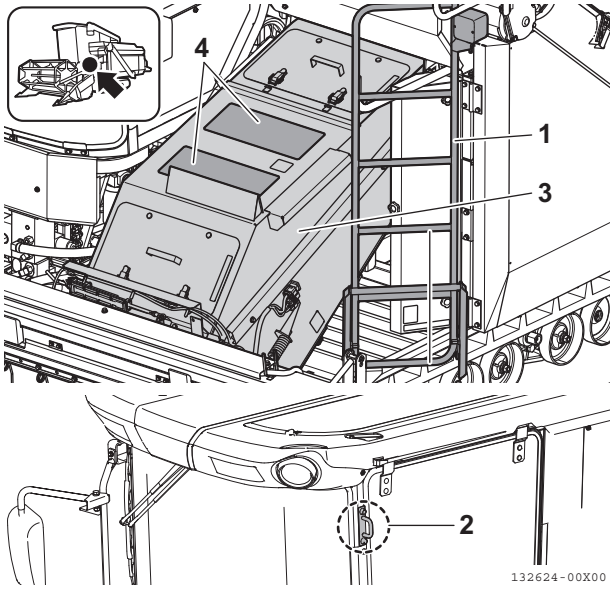


図 4-6

[重要]

フィーダハウスの上では、マット（4）の上に乗ってください。（図 4-6）

7. ロックレバー（1）を「解除」位置（2）（手前に引く）にして、ロックを解除した状態のまま、ロータカバー（3）をいっぱいまで開きます。（図 4-7）

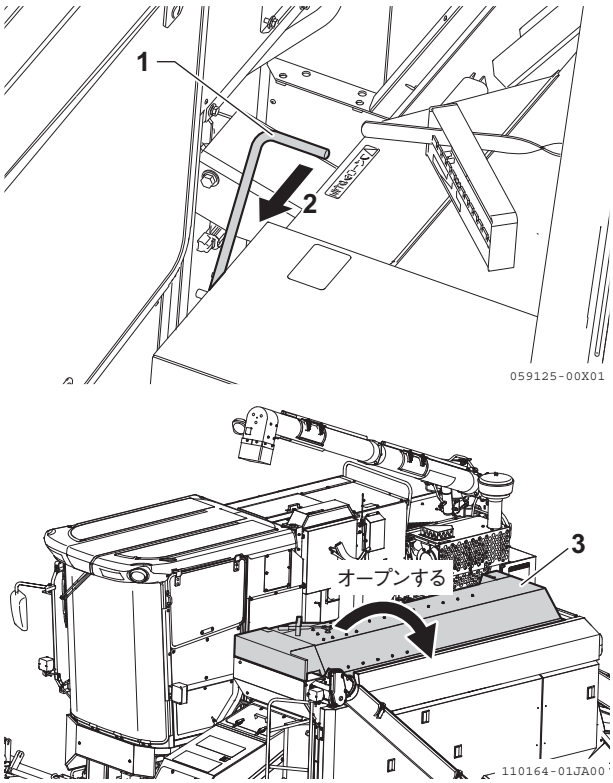


図 4-7

8. ロータカバーを閉めるときは、支持棒（1）を手前に折りながら閉めます。(図 4-8)

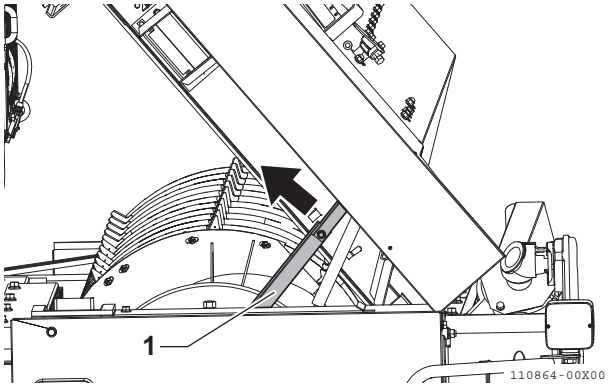


図 4-8

9. ロックレバー（1）を「ロック」位置（2）にして、確実にロックします。(図 4-9)

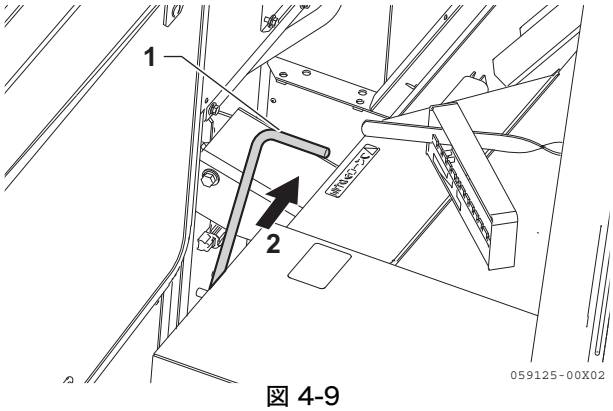


図 4-9

10. フィーダハウスから降りたらラダーを収納位置にします。

グレンタンクのオープンのしかた

⚠ 警　告

グレンタンクを開くときは、つぎの事項を必ず守ってください。回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
- コンバインを水平な状態にしてください。
- グレンタンク内を空にしてください。
- グレンタンクを開く際は、周囲の安全を確かめながら、必ず2人以上で行ってください。

⚠ 注　意

高温部分が十分に冷めてから行ってください。
ヤケドをするおそれがあります。

[重要]

グレンタンク内にこく粒が入っている状態では、絶対に開かないでください。グレンタンク回転部の破損の原因となります。

オープンのしかた

1. グレンタンク内にこく粒が入ってるときは、こく粒をすべて排出します。(160ページ参照)
2. 排出後は、排出オーガクラッチスイッチ（1）を押して、ランプ（2）を消灯します。(図 4-10)

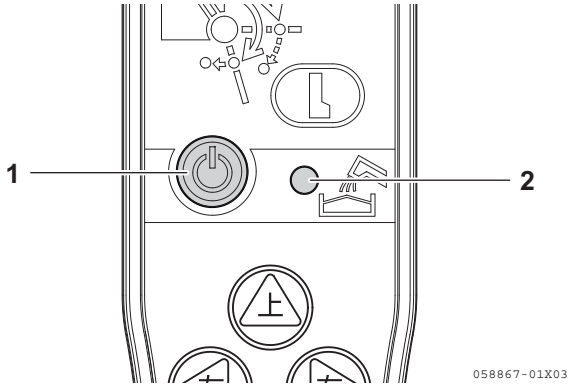


図 4-10

3. 排出オーガ（1）をオーガレスト（2）に収納します。（図 4-11）

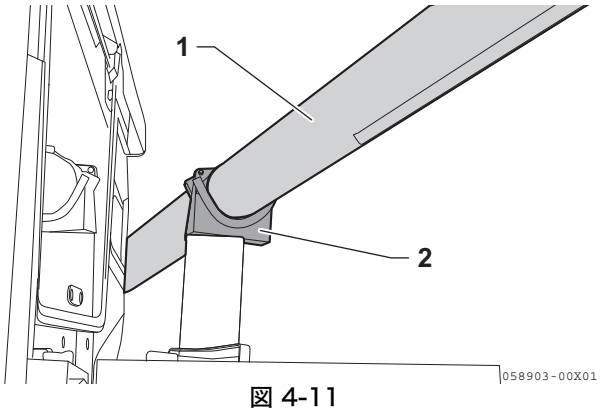


図 4-11

[重要]

排出オーガをオーガレストに収納しておかないと、オーガが動き周囲の物に当たるおそれがあります。

4. 作業クラッチレバー（1）を「OFF」位置（2）にします。（図 4-12）

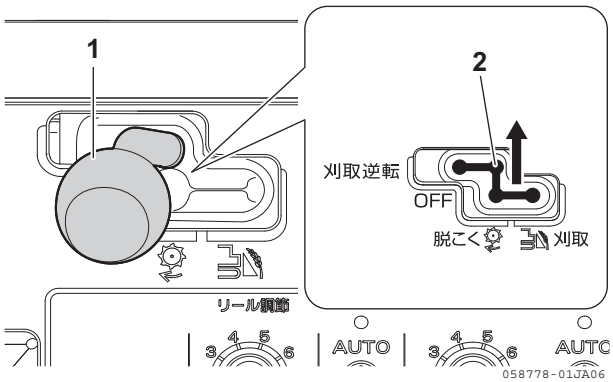


図 4-12

5. 駐車ブレーキをかけます。
6. エンジンを停止します。
7. エンジン右カバー（1）を開け、グレンタンク下部カバー（2）を外します。（図 4-13）

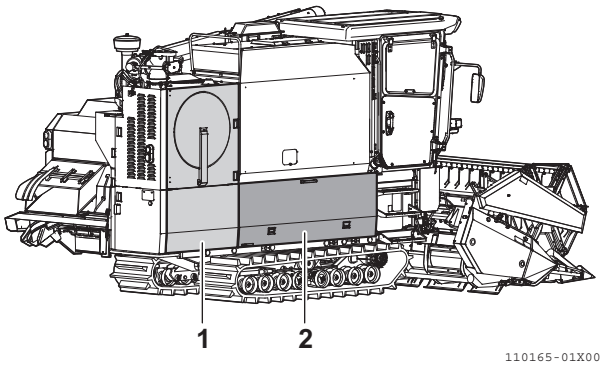


図 4-13

8. グレンタンク止めボルト（1）M12（1本）を外して、グレンタンクロックレバー（2）を解除します。（図 4-14）

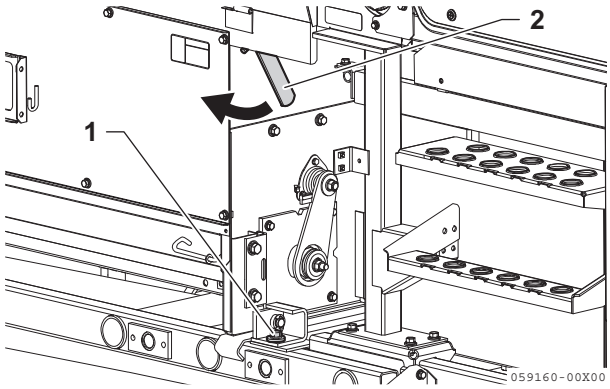


図 4-14

9. グレンタンクをゆっくりと手前に引き出します。（図 4-15）

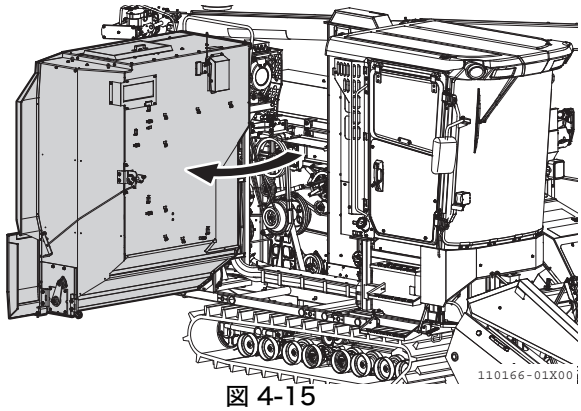


図 4-15

10. グレンタンクを収納するときは、逆の手順で行います。

[重要]

収納後は、グレンタンクが確実に収納されていることを確認してください。

脱こく左前･左後カバーのオープンのしかた

1. 脱こく左後カバー（1）と脱こく左前カバー（2）を開きます。(図 4-16)

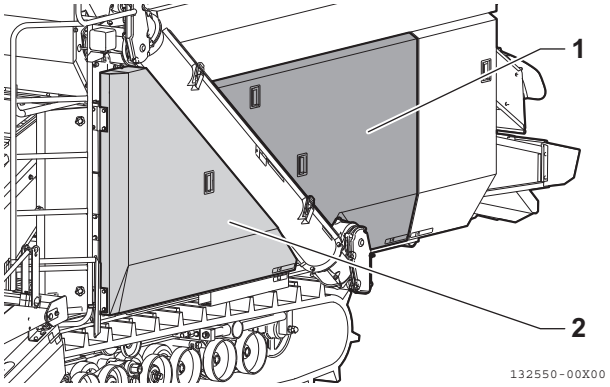


図 4-16

2. 脱こく左前カバーを開けたあとはオープンロックレバーのフックを掛けて脱こく左前カバーを固定します。(図 4-17)

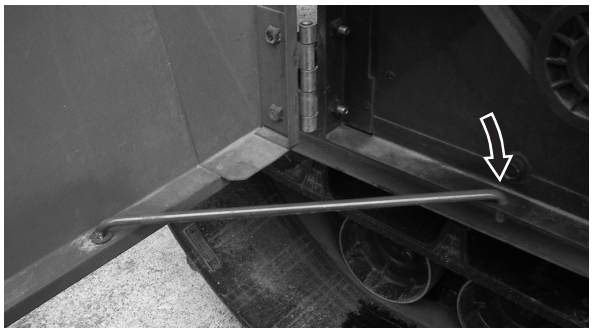


図 4-17

3. 脱こく左後カバーを開き、オープンロック（1）のピン（2）を差し替えて、脱こく左後カバーを固定します。(図 4-18)

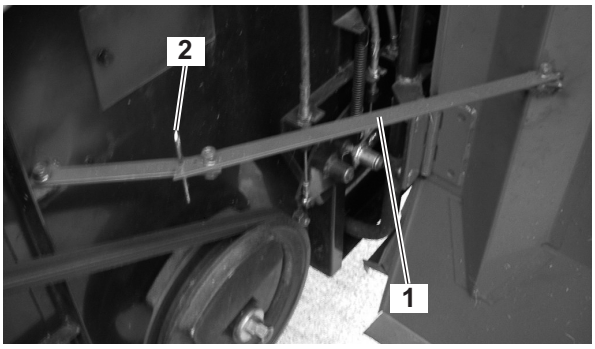


図 4-18

4. 脱こく左後カバーを閉めるときは､カバーの固定を解除してから閉めます。

[重要]

オープンロックが効いた状態で脱こく左後カバーを閉じると､オープンロックが破損しますので注意してください。

[参考]

スプレッダ左カバーの開けかたも上記と同じです。

エンジン後カバーのオープンのしかた

1. エンジン後カバーを開けます。(図 4-19)

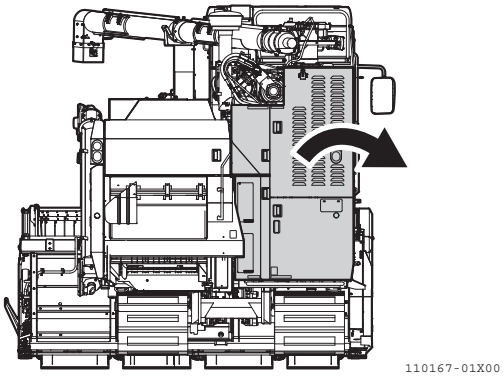


図 4-19

2. エンジン後カバーを開けたあとは、オープンロックレバー（1）をフックに掛けて、エンジン後カバーを固定します。(図 4-20)

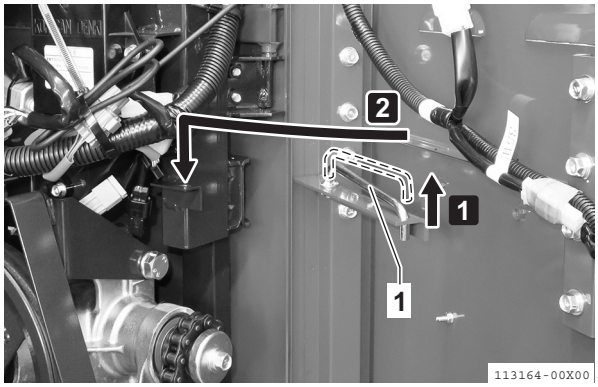


図 4-20

脱こく側板の外しかた

1. 脱こく左後カバーを開きます。
2. ロックレバー（1）を矢印方向に解除します。(図 4-21)

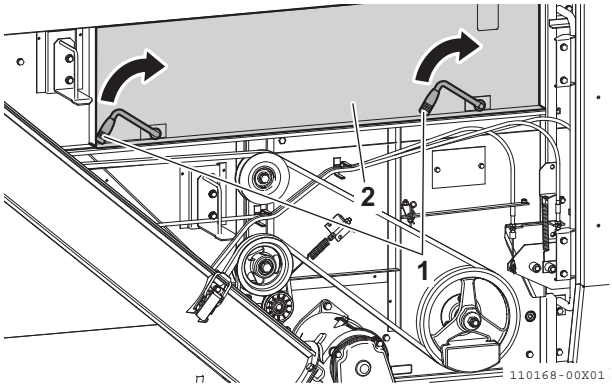


図 4-21

3. 脱こく側板（2）を手前に引き出します。(図 4-21)
4. 取り付けは、逆の手順で行います。

スプレッダのオープンのしかた

詳細は、スプレッダ取扱説明書をお読みください。

脱こく下網の脱着のしかた

⚠ 警　告

作業クラッチレバーを「OFF」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転しています。ロータが回転している間は、絶対にカバーを開かないでください。
回転部に巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. ロータカバーを開きます。(169ページ参照)
2. 下網 (6枚) を固定しているボルト (1) M10×20 (12本) を外します。(図 4-22)
3. 脱こく側板を外します。(173ページ参照)
4. 仕切り板後 (2) のボルト (3) M10×30 (1本) を外します。(図 4-22)

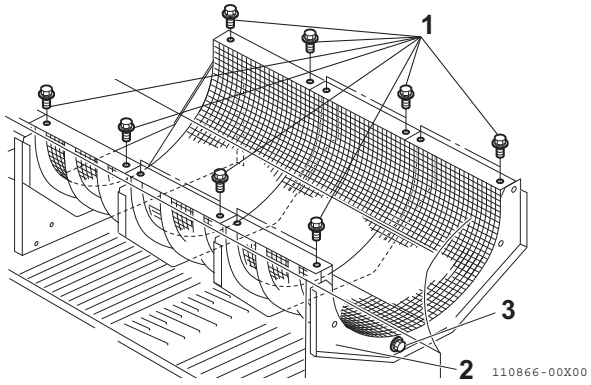


図 4-22

5. 下網を上方に抜き出します。(図 4-23)

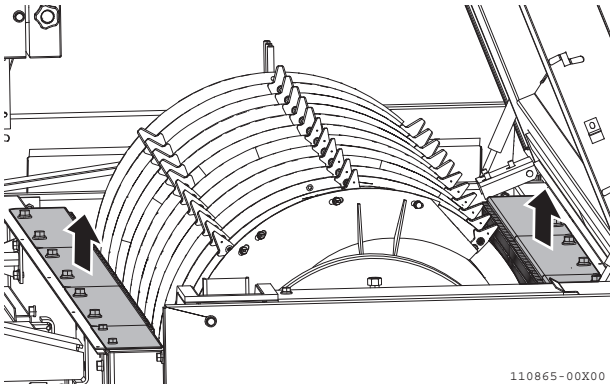


図 4-23

6. 下網の取り付けは、逆の手順で行い、最後に必ずロータカバーを閉めます。

作物が詰まっていて下網が抜けないとき

作業中に、ロータが詰まったときは、つぎの要領で取り除くことができます。

1. ロックナットをゆるめます。
2. ハンガーボルト (1) をA方向に回らなくなるまで、回します。ロータの前側が上がり、ロータが回りやすくなります。(図 4-24)

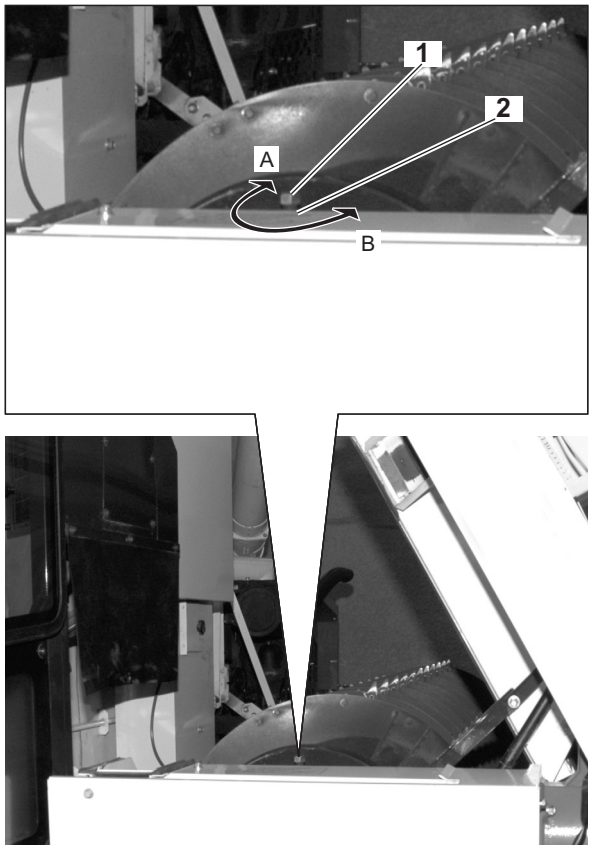


図 4-24

3. 詰まっている稈を取り除きます。この状態で、ロータが持ち上がり、すき間ができるので、下網が抜きやすくなります。
4. ハンガーボルトをB方向に回らなくなるまで、回してロータを下げ、ロックナット (2) を締めます。(図 4-24)

ヘッダー部の脱着のしかた

⚠ 警　告

- ヘッダー部を外すと、コンバインは後重心になります。走行するときは、低速で行ってください。また、急な坂道を走行したり、あぜ越えをするときは、登りは後進、下りは前進で行ってください。
- ヘッダー部の脱着を行うときは、地面が水平な場所にコンバインを止めて行ってください。
- フィーダハウス下部の固定ボルトを外すときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定していないと、刈取部が下がって傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

作業は、2人以上で行ってください。

1. エンジンを始動して（114ページ参照）、刈取部を地面から10 cm以上、上げます。
2. エンジンを停止します。（116ページ参照）
3. フィーダハウス前方左下にある水平ロックピン（1）を、止めボルト（2）をゆるめて外します。（図 4-25）

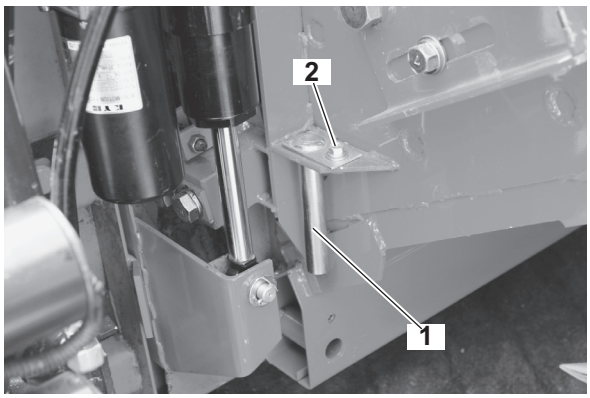


図 4-25

4. 水平ロックピン（1）を回動枠下部の穴に差し込んで、止めボルト（2）で固定します。（図 4-26）

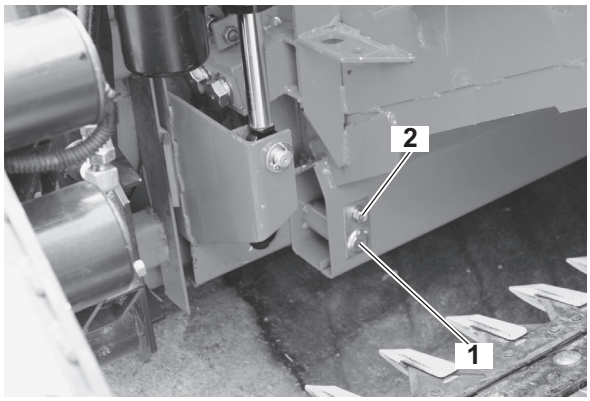


図 4-26

[参考]

回動枠下部の穴が合わないときは、つぎの手順で合わせてください。

1）水平ロックピンを差し込んでいる場合は、ピンを抜きます。
2）キースイッチを「ON」位置にします。
3）水平自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にします。
4）水平手動スイッチで穴を合わせます。

5. ヘッダー部（1）と刈刃（2）の下に角材（3）を入れます。（図 4-27）

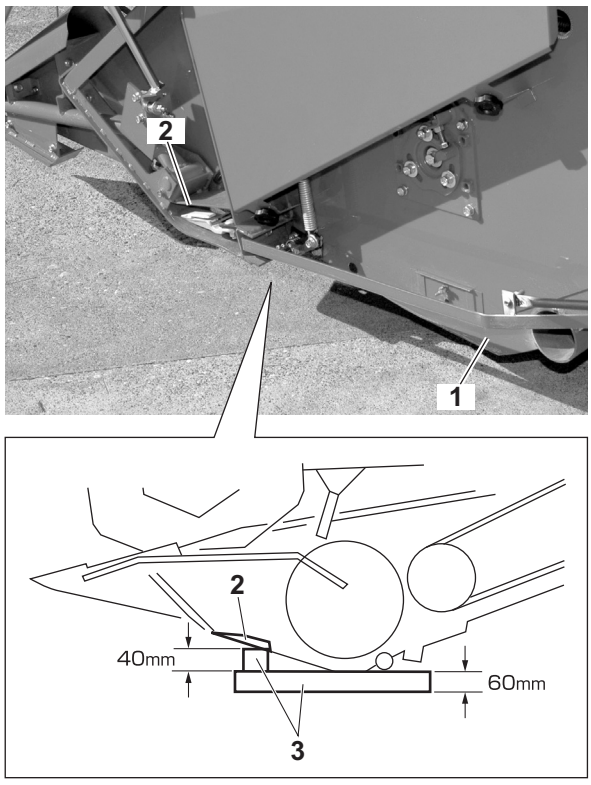


図 4-27

6. セカンドモアを装着しているときは、エンジンを始動し、エア抜き用スイッチ（1）で、セカンドモアを下げて、地面に接地させます。
エア抜き用スイッチはセカンドモア左シリンダの上方にあります。（図 4-28）

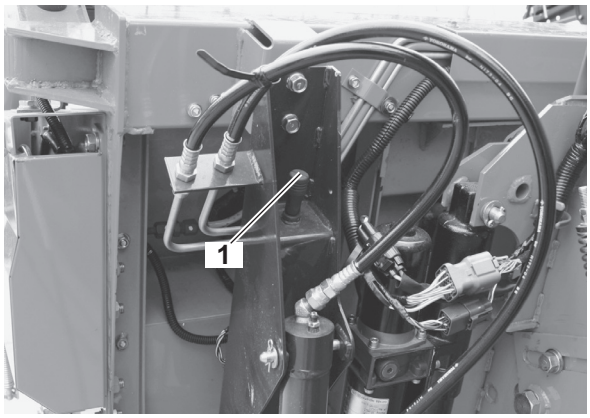


図 4-28

[参考]
スイッチカバーが付いているので、外してから操作してください。操作時以外は、スイッチカバーを取り付けてください。

7. エンジンを始動して、刈取部を角材の上に降ろします。
8. リールを最下げ（1）・最後方位置（2）にします。（図 4-29）

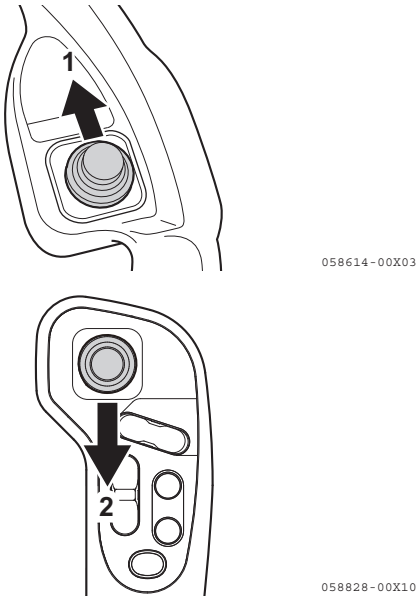


図 4-29

9. エンジンを停止します。（116ページ参照）

10. カバー（1）を上方に開き、油圧配管のワンタッチカプラ（2）（3本）、ワイヤーハーネスのカプラ（3）（3個）を外します。（図 4-30）

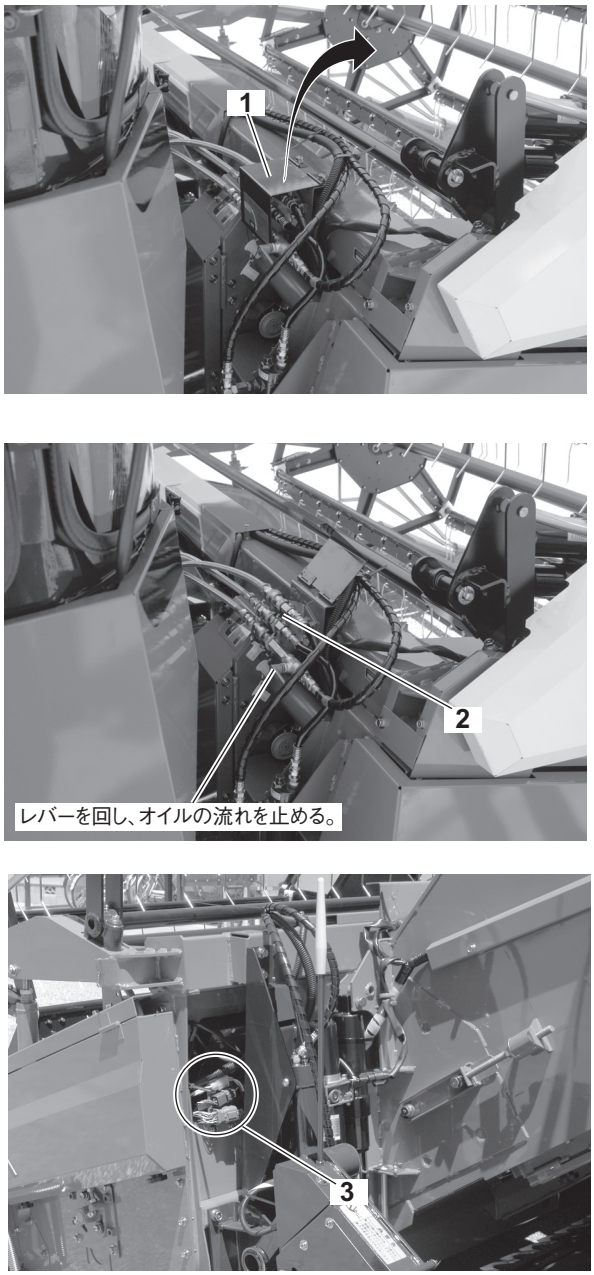


図 4-30

[参考]
ワンタッチカプラを外したあと、オス・メスともにカバーを装着してください。

11. 軸カバー（1）を上方に開きます。（図 4-31）

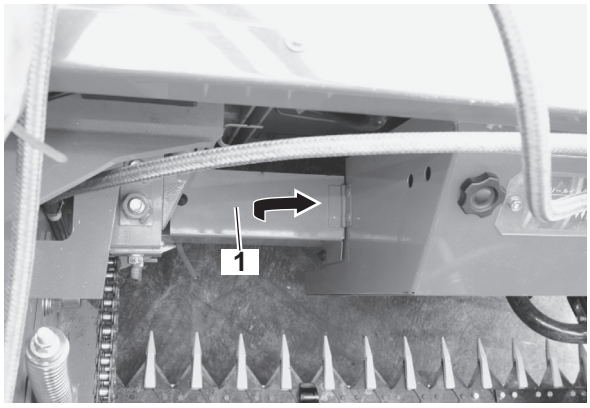


図 4-31

12. 軸継手（1）のRピン・平頭ピン（2）を外し、軸継手は右側（3）に寄せます。（Rピン・平頭ピンは紛失しないように保管します。）（図 4-32）

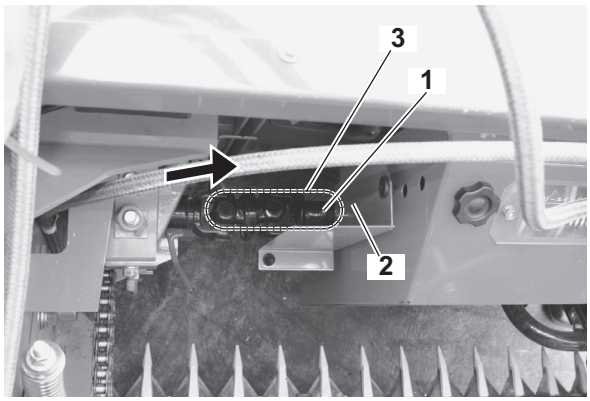


図 4-32

[重要]

軸継手は、必ず刈取部に付けておいてください。

13. エンジンを始動して、刈取部を上げて、刈取部ストッパで刈取部を固定します。
（183ページ参照）

14. フィーダハウス下部の固定ボルト（1）M16（2本）を外します。（図 4-33）

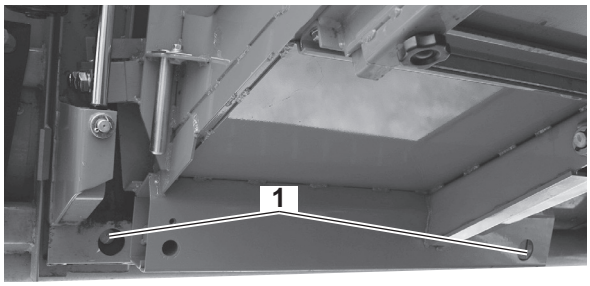


図 4-33

[参考]

固定ボルトを外すと、当て板が抜けるので、固定ボルトと一緒に紛失しないように保管してください。

15. 刈取部の固定を解除します。
16. フィーダハウスを下げます。（図 4-34）

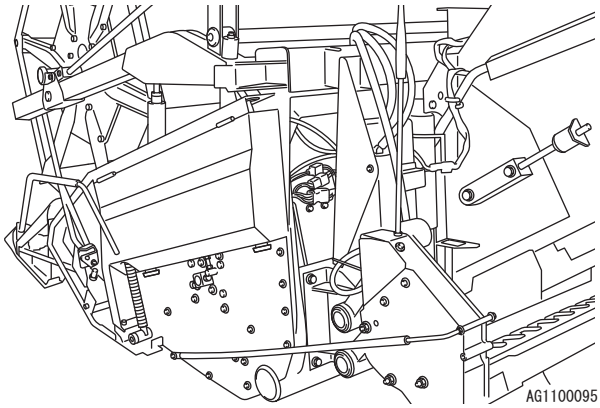


図 4-34

17. カプラ類が完全に切り離されていることを確認したあと、コンバインをゆっくり後進させます。（図 4-35）

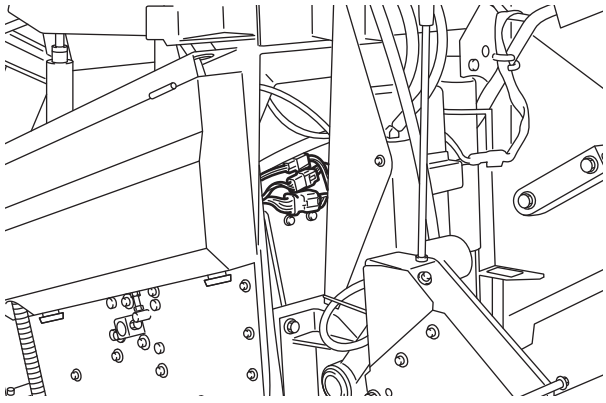


図 4-35

18. 以上でヘッダー部の取り外しは完了です。ヘッダー部を装着する場合は、以上の逆の手順で行います。フィーダハウス下部の固定ボルト（1）M16（2 本）を取り付けるときは、当て板（2）を下方から差し込んで、固定ボルトを締め付けます。（図 4-36）

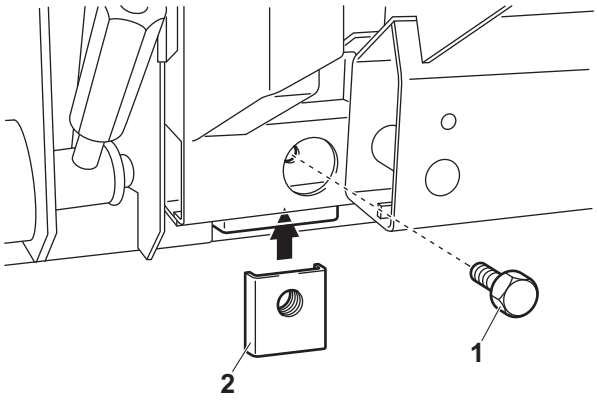


図 4-36

[重要]

ヘッダー部を外している状態で、リール昇降スイッチを操作すると、カプラ内の圧力が高圧になり、カプラが入りにくくなることがあります。入りにくい場合は、カプラをきれいなウエスで包み、カプラ先端の凸部をハンマーでたたいてください。オイルの圧力が抜けてカプラが入りやすくなります。

揺動装置の脱着のしかた

⚠ 注　意

揺動装置の重量は 60 kg あります。コンバインから外すときは、必ず２人以上で作業を行ってください。

1. スプレッダ左カバー（1）を外します。（図 4-37）
2. リヤカバー（2）を開き、スプレッダを130度開けます。（図 4-37）

（詳細は、スプレッダ取扱説明書をご確認ください。）

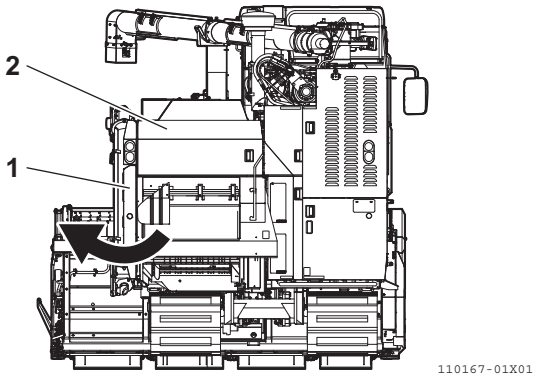


図 4-37

[重要]

安全カバーをセットし、ストッパピンでスプレッダを固定していることを確認してください。

3. ボルト（1）M8（7本）を外し、スプレッダロックレバーガイドを外します。（図 4-38）

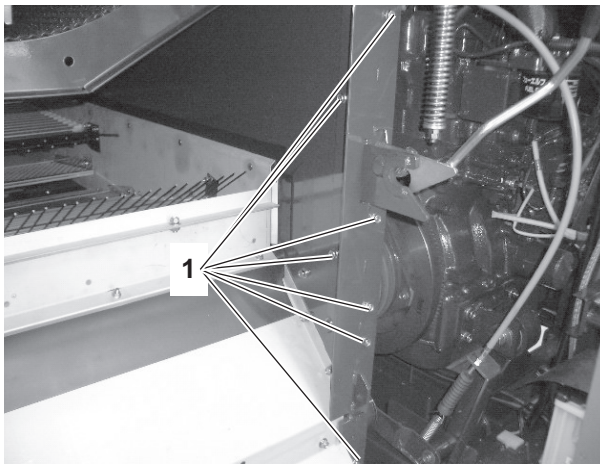


図 4-38

4. スプレッダ駆動ベルトのベルト押えのボルト M8（2本）を外します。

5. ボルト（1）M8（9 本）を外し、排塵樋カバー（2）を外します。(図 4-39)

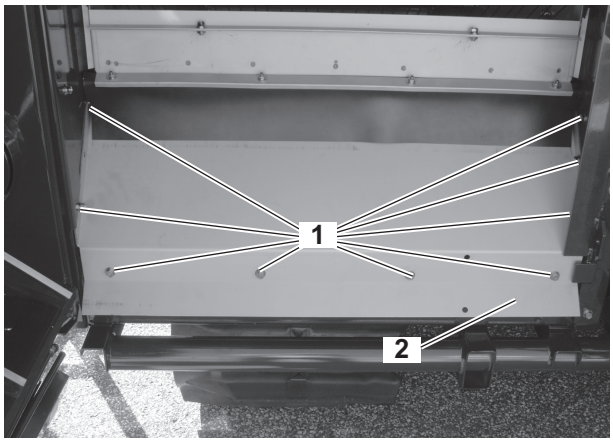


図 4-39

6. 揺動装置後部からボルト（1）M12（左右各2本）を外します。(図 4-40)

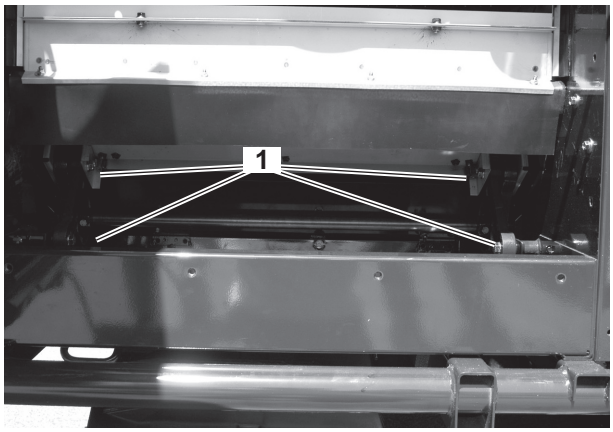


図 4-40

7. 脱こく左前（1）・左後カバー（2）を開きます。(図 4-41)（172ページ参照）

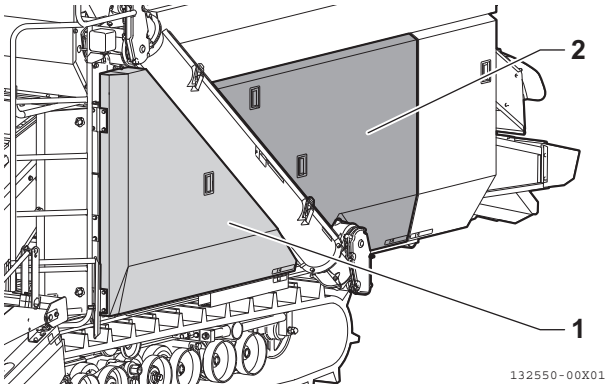


図 4-41

8. ボルト（1）M8（4本）を外し、チャフ連結アーム（2）を外します。(図 4-42)

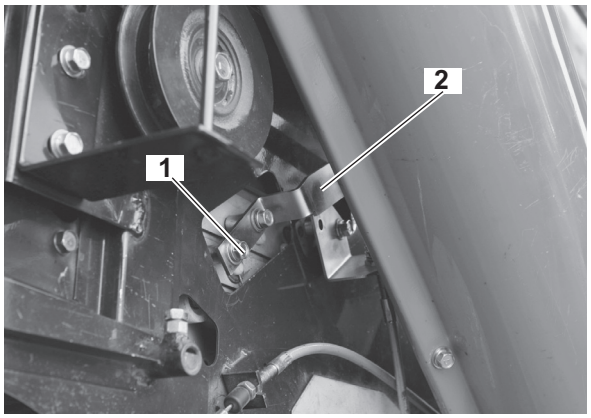


図 4-42

9. ロックレバー（1）を矢印方向に解除し、脱こく側板（2）を外します。(図 4-43)

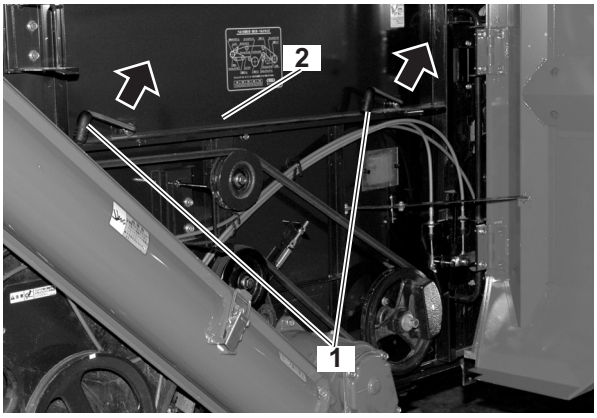


図 4-43

10. ボルト（1）M10（1本）を外し、スイングセレクターのアームを脱こく側板から切り離します。(図 4-44)

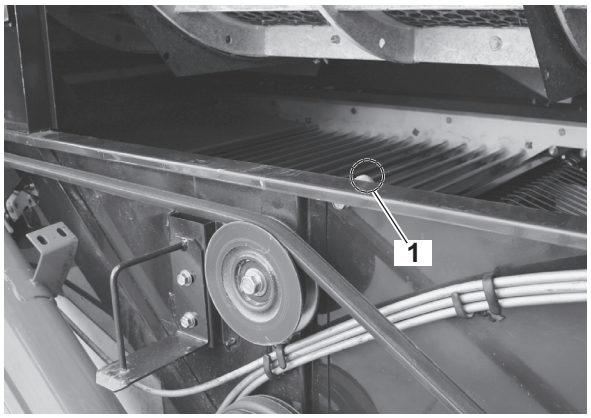


図 4-44

11. 揺動アーム支え（1）（左側）のボルト（2）M12（1本）を外します。（図 4-45）

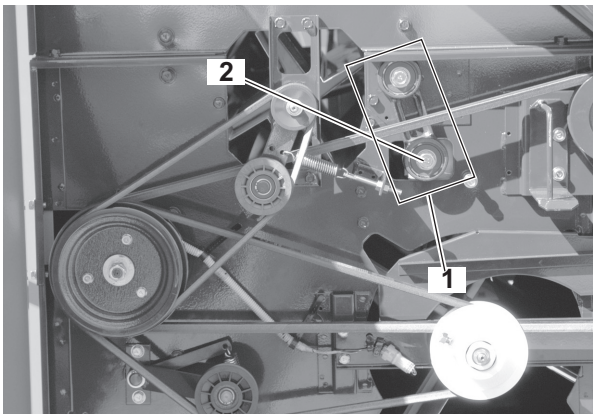


図 4-45

12. グレンタンクを開き（170ページ参照）し、揺動アーム支え（1）（右側）のボルト（2）M12（1本）を外します。（図 4-46）

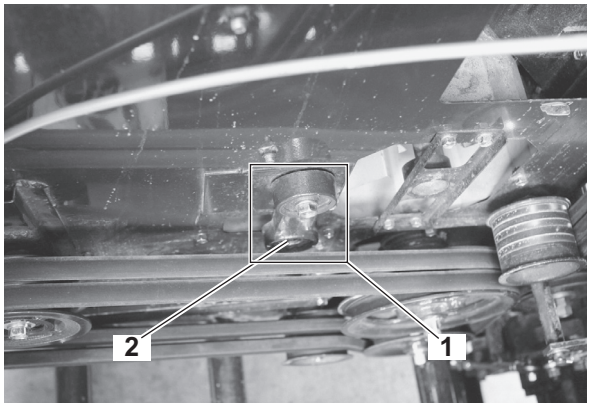


図 4-46

13. 2人以上で、揺動装置をしっかりと持ち、ゆっくり外します。
14. 揺動装置を装着する場合は、逆の手順で行い、終わったらカバー類を元通りに取り付けます。

[重要]

こく粒の漏れを防止するため、下図の通りセットしてください。1番シール（1）・2番シール（2）は各樋の上、揺動シール前（3）は揺動装置（4）の上にあることを確認してください。（図 4-47）

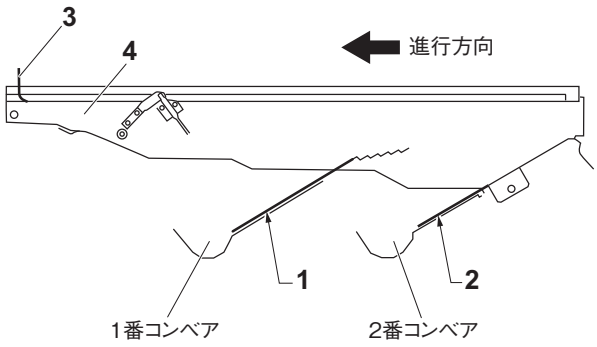


図 4-47

※図はコンバインを左側から見ています。

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

⚠ 危　険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いたあとは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。火災が起こり、ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- エンジンが高温の間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインの転倒により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 点検・整備や修理をするときは、作業に適した服装をしてください。コンバインに巻き込まれたり、滑って転倒して傷害事故につながるおそれがあります。
  - だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、袖口はきっちりと止めてください。
  - 滑り止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。
  - ヘルメットを着用してください。
  - はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。
  - 音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。コンバインに巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、可動部で手足をはさんだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。

⚠ 注　意

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラの前後に車止めをし、キーを抜いてから行ってください。回転部に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドやけがをするおそれがあります。
- 高いところの手入れをするときは、脚立などを用いて行ってください。エンジンルームなどの上に直接登ると、高温の場所もあり危険です。

コンバインの洗浄のしかた

⚠ 警　告

- コンバインの洗浄は、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 高圧洗浄機で洗浄するときは、洗浄ノズルを「拡散」位置にし、洗浄ノズルをコンバインから2 m以上離してください。

【守らないと】

・電気配線の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

・油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈直接洗車厳禁〉

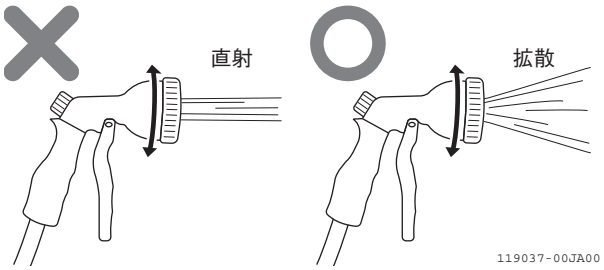


図 4-48

〈近距離放水厳禁〉

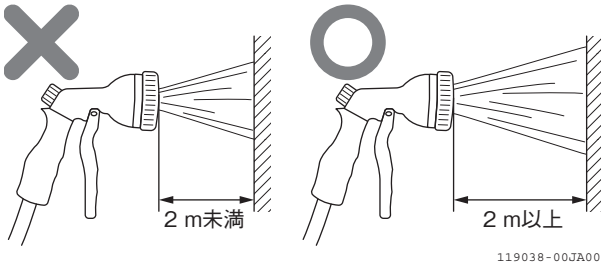


図 4-49

作業したその日のうちにコンバインを水洗いし、水洗い後は以下の掃除を行ってください。

- 作業機などの回転部にはさまったり、巻き付いたりしている異物やごみを取り除く
- 水分をよくふき取る
- さびやすいところにはグリスを塗る
- 回転部・摺動部に注油する
- 各グリス注入部（グリスニップル）部に、グリスアップを行う

電装品接続部（カプラー）に水や泥水などが浸入した場合は、きれいな布などで拭きとってください。

[重要]

- 洗車のしかたが不適切な場合、故障や破損の原因になります。
  - ・安全銘板やシールのはがれ
  - ・電子部品、エンジン・ミッション・キャビン内への水の浸入による故障
  - ・タイヤ、オイルシール、クローラなどのゴム類、樹脂製のカバー、ガラスなどの破損
  - ・塗装、メッキ面の皮膜のはがれ
- 高圧洗浄機などにより洗車をするときは、以下の箇所には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。（図 4-50）
  - ・メーターパネル
  - ・ステアリング周辺
  - ・油圧・走行操作レバー周辺
  - ・バッテリー周辺
  - ・その他電装品
    （スイッチやセンサー、コントローラーなど）

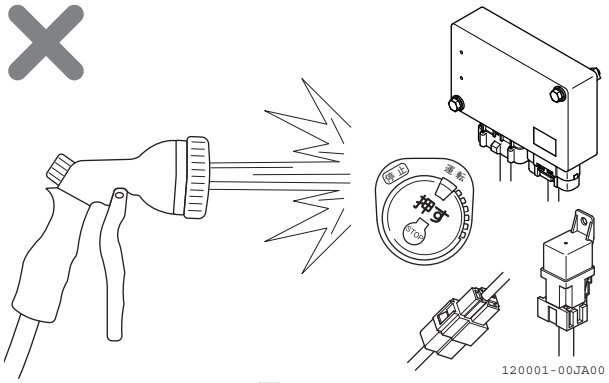


図 4-50

- キャビン仕様では、キャビンのガラス部、ルーフ部の洗車をするとき、高圧水を直接かけないでください。水圧を下げるか、水流を広げてください。守らないと、キャビン内の水漏れ、電気部品の故障の原因になります。（図 4-51）

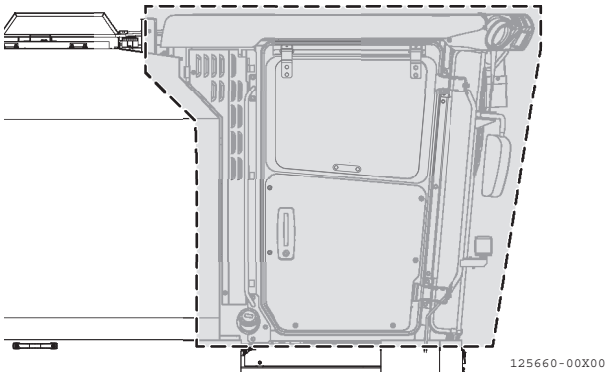


図 4-51

- プレクリーナー、エアクリーナ、エンジン部には、水をかけないでください。故障の原因になります。

刈取部ストッパ(刈取部固定)のセットのしかた

⚠ 警　告

刈取部の下で点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止して、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がって傷害事故を引き起こすおそれがあります。

固定のしかた

1. エンジンを始動します。
2. オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチ（1）の「上昇」側（2）を押して、刈取部を最上位置にします。（図 4-52）

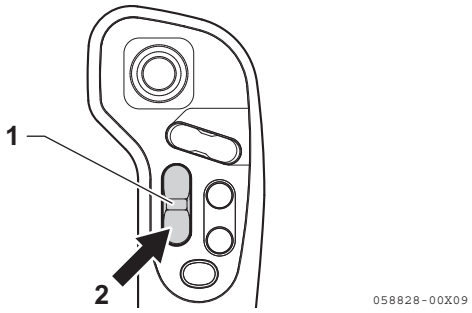


図 4-52

3. エンジンを停止します。
4. ストッパ受け（1）から刈取部ストッパ（2）を降ろします。（図 4-53）

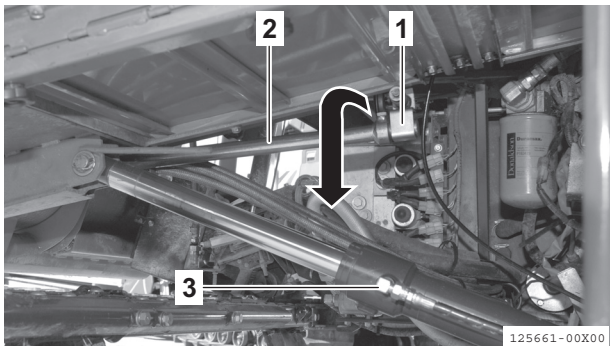


図 4-53

5. 油圧シリンダ（3）側のフックに刈取部ストッパをはめて固定します。（図 4-53）
6. エンジンを始動して、刈取部が固定されるまで刈取部を下げてエンジンを停止します。

[重要]

刈取部ストッパが固定位置に確実に掛かっていることを確認してください。

固定の解除のしかた

1. エンジンを始動します。
2. オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチ（1）の「上昇」側（2）を押して、刈取部を最上位置にします。（図 4-54）

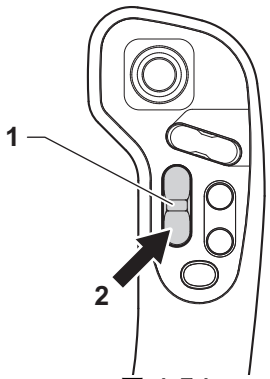


図 4-54

3. エンジンを停止します。
4. 刈取部ストッパ（1）を持ち上げて、ストッパ受け（2）に刈取部ストッパをのせます。（図 4-55）

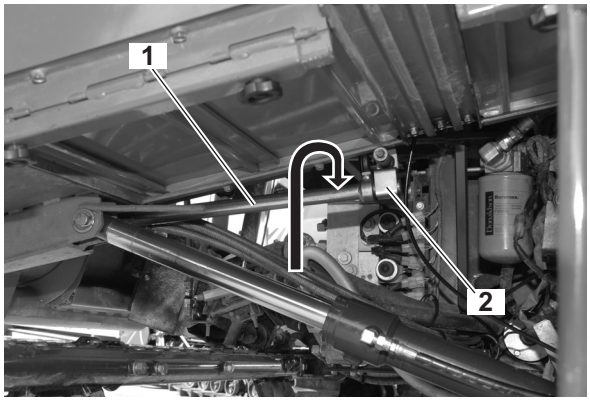


図 4-55

5. エンジンを始動して、刈取部を下げます。

[重要]
移動走行時は、刈取部ストッパを使用しないでください。
刈取部を上昇させて輸送する場合は、必ず刈取部ストッパを使用してください。

リールストッパのかけかた

⚠ 警　告

リールの下で作業するときは、必ずストップバルブのレバーをロックしてください。
リールが下降して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 刈取部（1）を路面に設置するまで下降（2）させ、リール（3）を最上げにしてエンジンを停止します。（図 4-56）

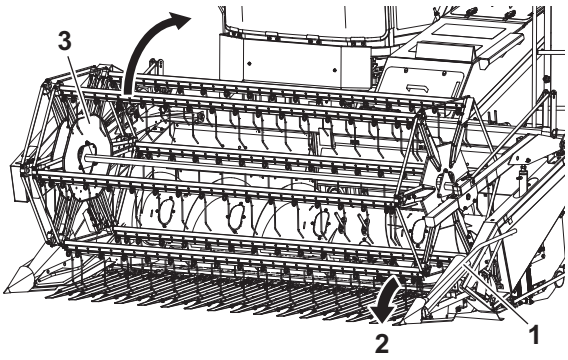


図 4-56

2. リールのストップバルブレバー（1）を水平位置（解除）から反時計方向に90度操作しロックします。リール昇降の油圧がロックされリールストッパがかかります。（図 4-57）

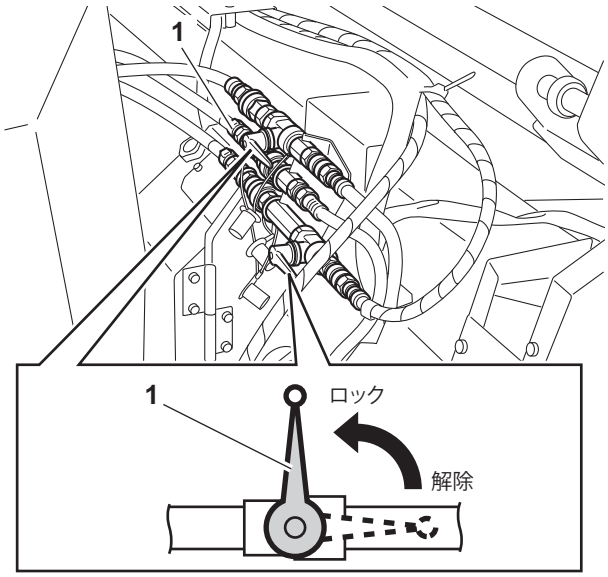


図 4-57

[重要]
再度、刈取作業をする場合は、ストップバルブのレバーを解除してください。

[参考]
解除するときは、逆の手順で操作してください。

刈取ストップバルブのかけかた

⚠ 警　告

刈取部の下で点検･整備をするときは､必ずエンジンを停止してください｡刈取ストップバルブではなく､刈取部ストッパで刈取部を固定してください｡固定しないと､刈取部が急に下がって傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. エンジンを始動します。
2. オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチ（1）の「上昇」側（2）を押して、刈取部を任意の位置にします。(図 4-58)

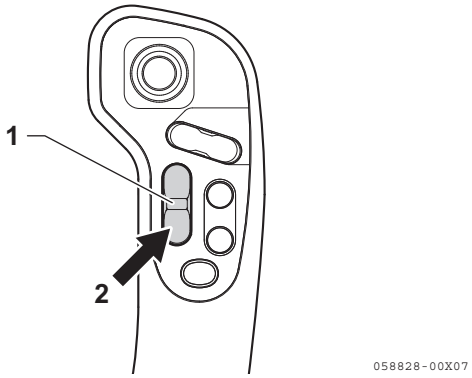


図 4-58

3. エンジンを停止します。
4. 刈取ストップバルブ（1）を解除から反時計方向に90度操作しロックします。刈取昇降の油圧がロックされ刈取昇降ストッパがかかります。(図 4-59)

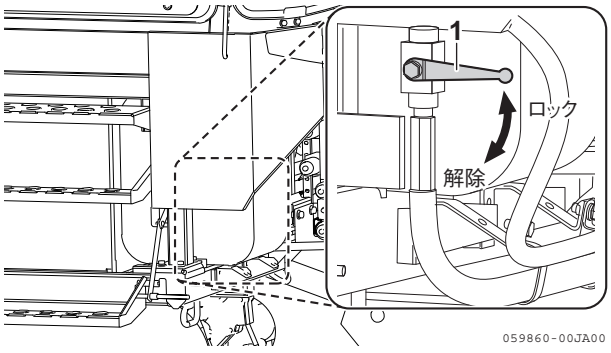


図 4-59

[重要]

再度､刈取作業をする場合は､ストップバルブのレバーを解除してください。

[参考]

解除するときは、逆の手順で操作してください。

各部の掃除のしかた

⚠ 警　告

- 掃除するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしてから行ってください。
- エンジンをかけたまま手入れをすると、刈刃などで手をはさまれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

掃除をしたあとは､外したカバーや開いた箇所を元に戻してください。

掃除口による掃除箇所

異品種や稲・麦の混種を防ぎ、脱こく内部に残留しているこく粒を取り除くために、各部の掃除口を開き、きれいに掃除してください。

■ 排出オーガ上部受継

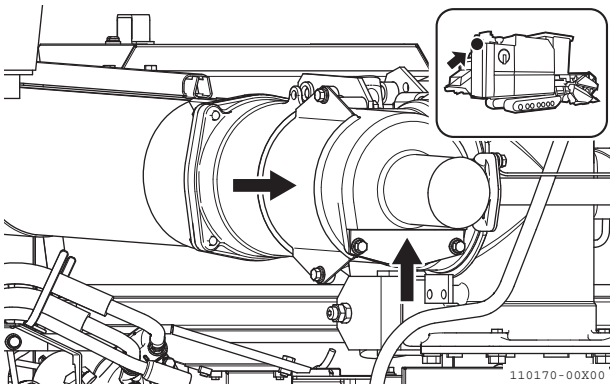


図 4-60 排出オーガ上部受継

■ 排出オーガパイプ部(2カ所)

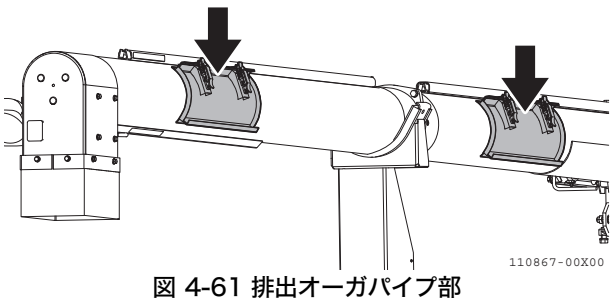


図 4-61 排出オーガパイプ部

■ バケット掃除口(昇降機底蓋)



※グレンタンクを開いています。

図 4-62 バケット掃除口(昇降機底蓋)

■ グレンタンク右側板・グレン下部

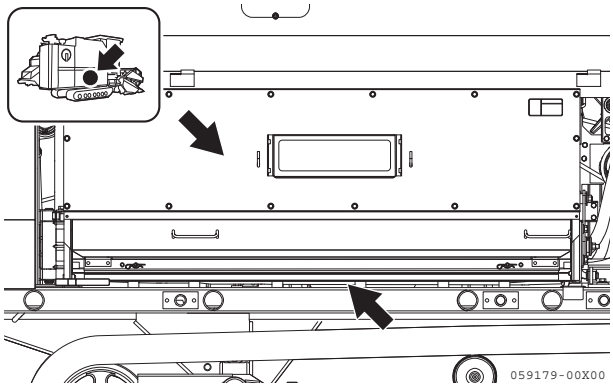


図 4-63 グレンタンク右側板・グレン下部

■ グレン下部パイプ・グレン下部受継

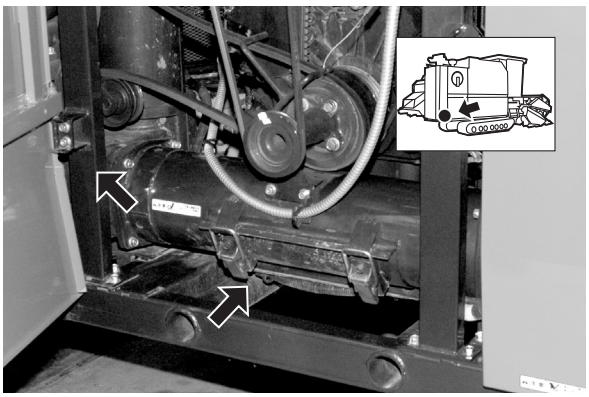


図 4-64 グレン下部パイプ・グレン下部受継

■ グレン下部受継ケース

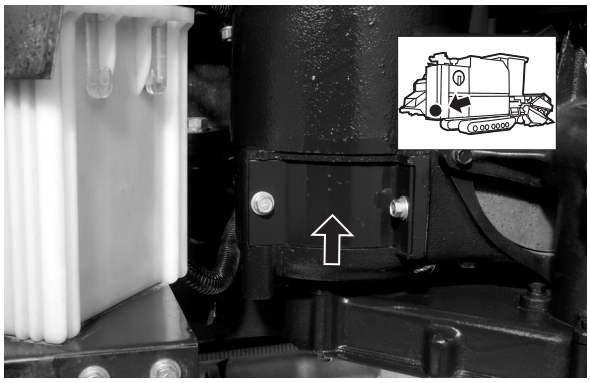


図 4-65 グレン下部受継ケース

■ フィーダハウス下

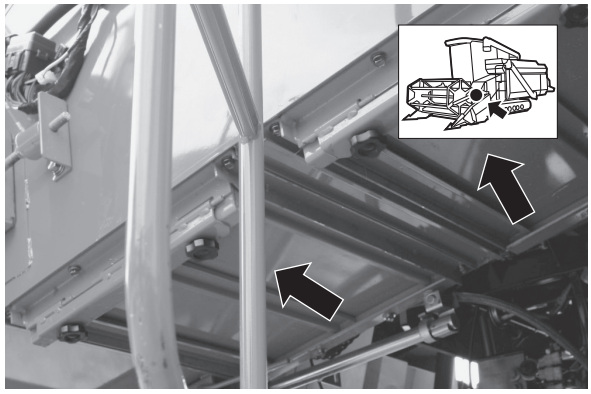


図 4-66 フィーダハウス下

■ ロータカバー

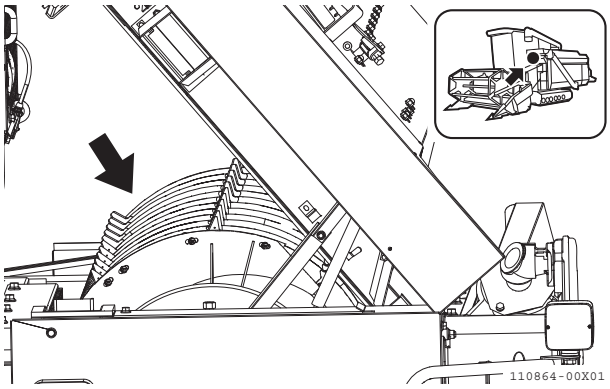


図 4-67 ロータカバー

■ 1番樋・2番樋

1. レバーの穴をピンから外し、解除側に動かします。（ボルトをゆるめる必要はありません）
2. レバーの穴を解除側のピンに入れて固定し、樋を外します。

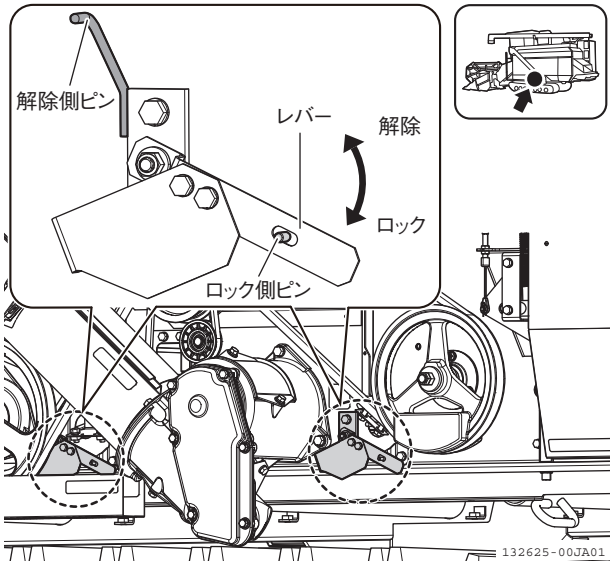


図 4-68 1番樋・2番樋

[重要]

- 1番樋・2番樋の装着時は、必ずレバーの穴にロック側のピンを入れて固定してください。
  固定しないと樋が外れるおそれがあります。
- 1番樋・2番樋を外しているときは、必ずレバーの穴に解除側のピンを入れて固定してください。
  固定しないと回転部に巻き込まれ破損するおそれがあります。

[参考]

1番樋・2番樋を取り付けてロック側のピンにレバーの穴を入れて固定した状態で、脱こく左前カバーおよび、脱こく左後カバーを閉じてください。1番樋・2番樋を外したまま作業するおそれがあります。

■ フィーダハウス

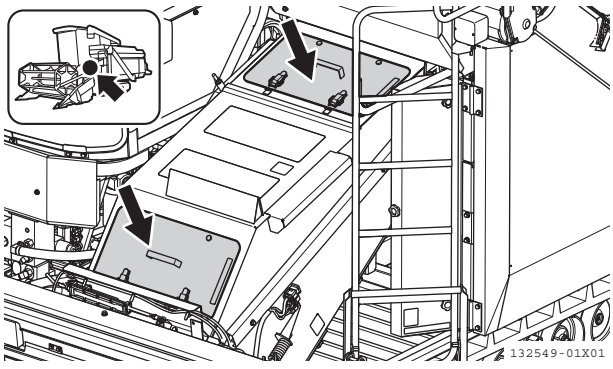


図 4-69 フィーダハウス

■ 2番受継下部

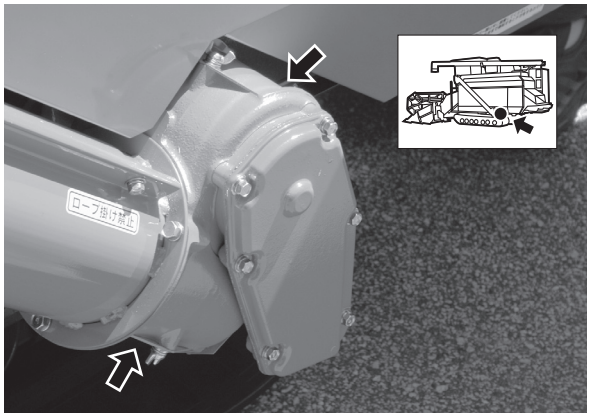


図 4-70 2番受継下部

■ 揺動装置

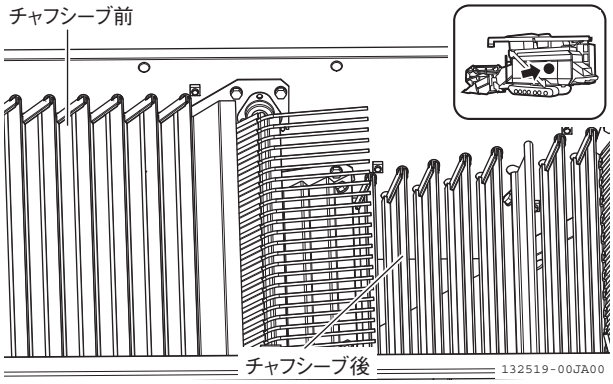


図 4-71 揺動装置

■ 2番縦コンベアパイプ

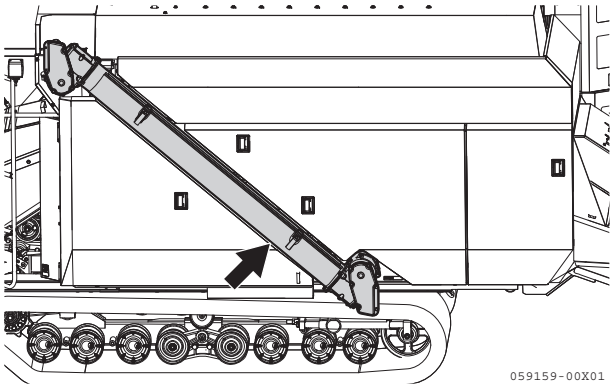


図 4-72 2番縦コンベアパイプ

■ 2番受継上部

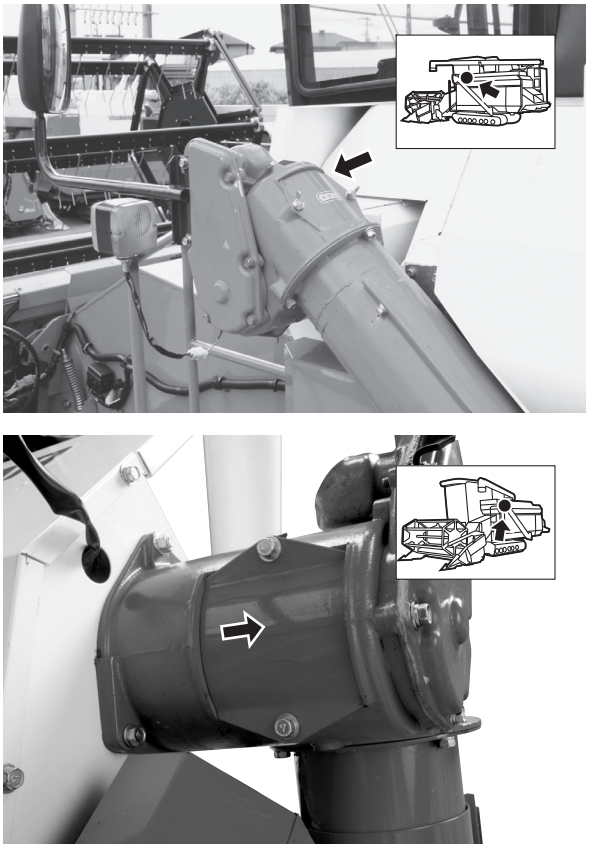


図 4-73 2番受継上部

■ 2番コンベア(上)

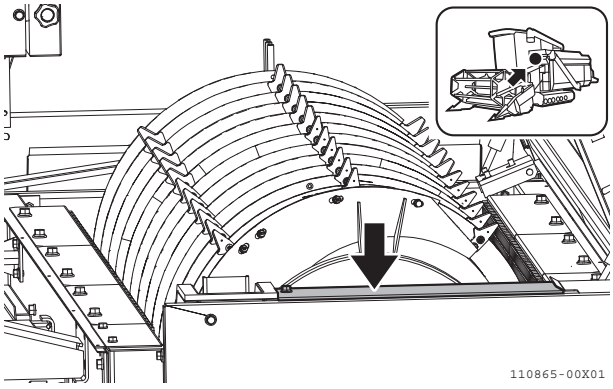


図 4-74 2番コンベア（上）

■ 2番コンベア樋(上)

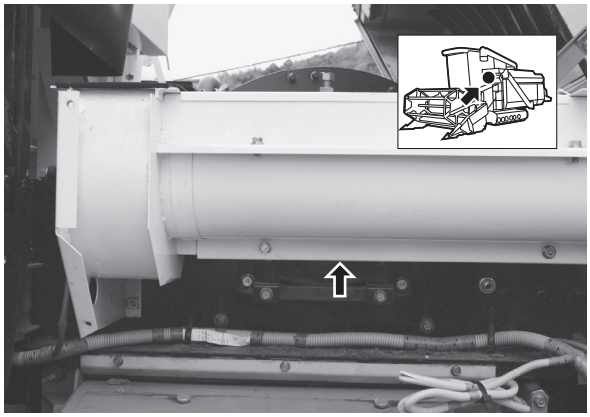


図 4-75 2番コンベア樋（上）

■ プラットホーム横

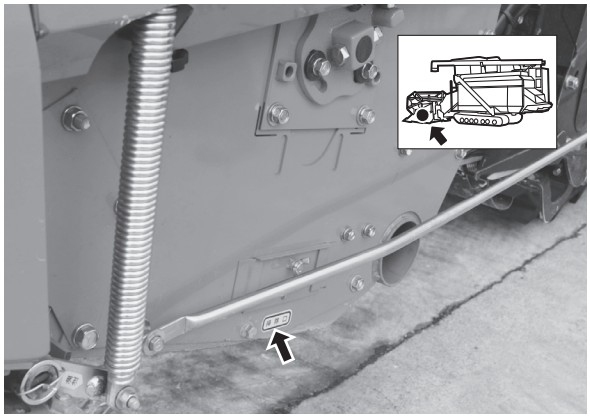


図 4-76 プラットホーム横

■ フィーダハウス前部

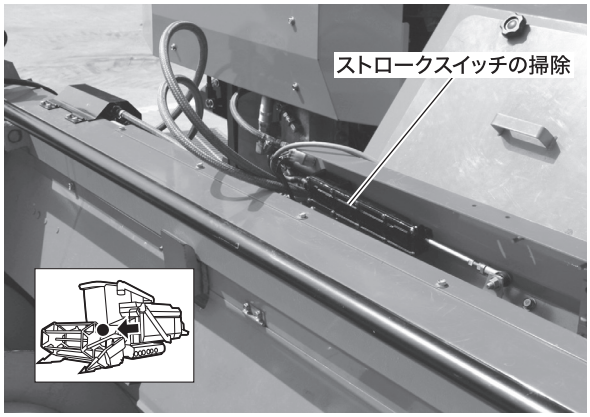


図 4-77 フィーダハウス前部

[重要]

ガイド板にこく粒･塵などが付着していると、電動シリンダのリミットクラッチがはたらき、水平制御が作動しないことがあります。

グレンシーブの掃除のしかた

グレンシーブの清掃は、揺動装置をコンバインに装着した状態とコンバインから外した状態のいずれでも清掃を行うことができます。
コンバインに揺動装置を装着した状態で行うときには、ボルトなどを落とさないように注意してください。

〈揺動装置をコンバインに装着した状態での掃除〉

1. 脱こく左後カバー（1）を開きます。（図 4-78）

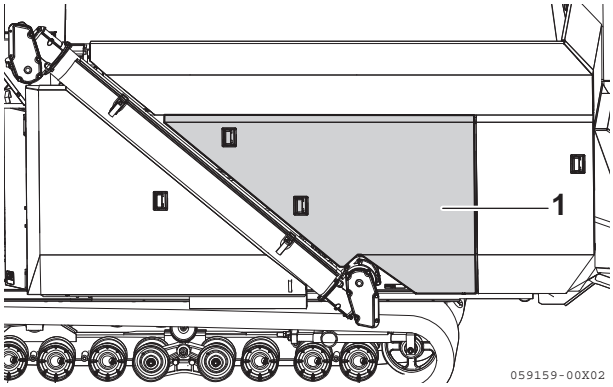


図 4-78

2. ロックレバー（1）を矢印方向に解除し、脱こく側板（2）を外します。（図 4-79）

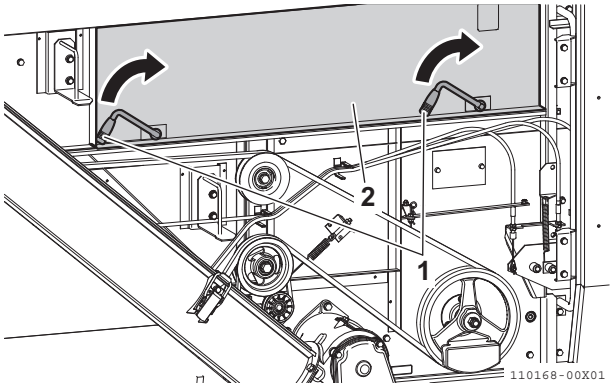


図 4-79

3. ネジ（1）M6（4本）を外し、チャフシーブ（2）2枚を外します。（図 4-80）

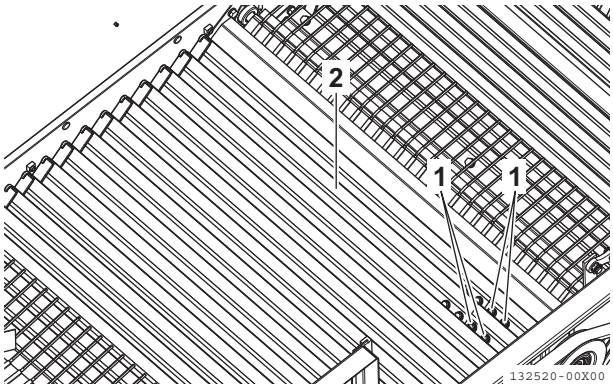


図 4-80

4. グレンシーブ（1）にたまったこく粒を掃除します。（図 4-81）

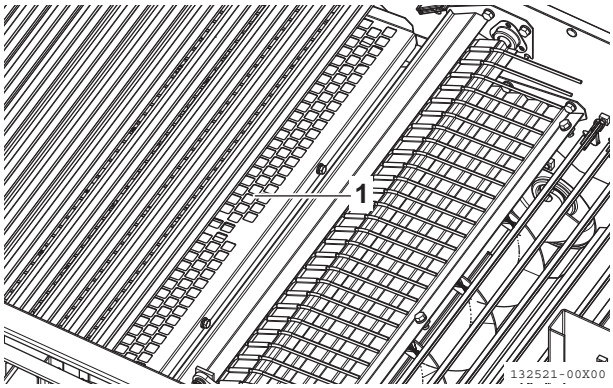


図 4-81

ロータ後端部の掃除のしかた

1. リヤカバーを開きます。
2. チョウボルト（1）を外し、掃除口ふた（2）を外します。(図 4-82)

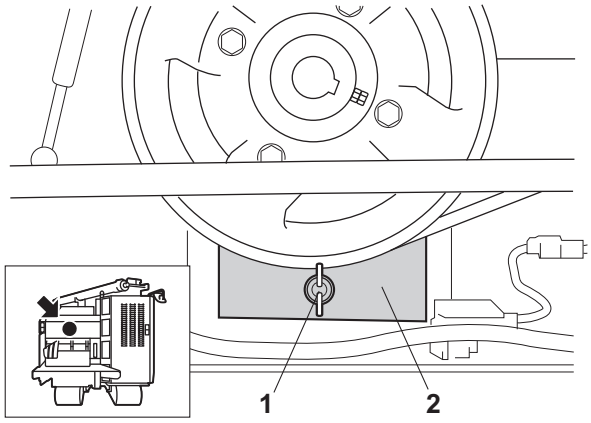


図 4-82

3. 毎日の作業前に清掃します。

掃除および清掃について

1. エアガンまたはブロアで、機内に残ったこく粒・塵などを除去します。搬送部・選別部を重点的に掃除します。
2. 各部を圧水洗浄します。洗浄後、エアコンプレッサで、付着した水を除去します。

排気フィルター関係の掃除のしかた

⚠ 注　意

高温部分が十分に冷めてから行ってください、ヤケドをするおそれがあります。

1. エンジン後カバーおよびグレンタンクを開きます。(170・173ページ参照)
2. 排出ガス出口（1）および連結パイプ付近（2）に堆積、付着しているわらくずなどを掃除します。(図 4-83)

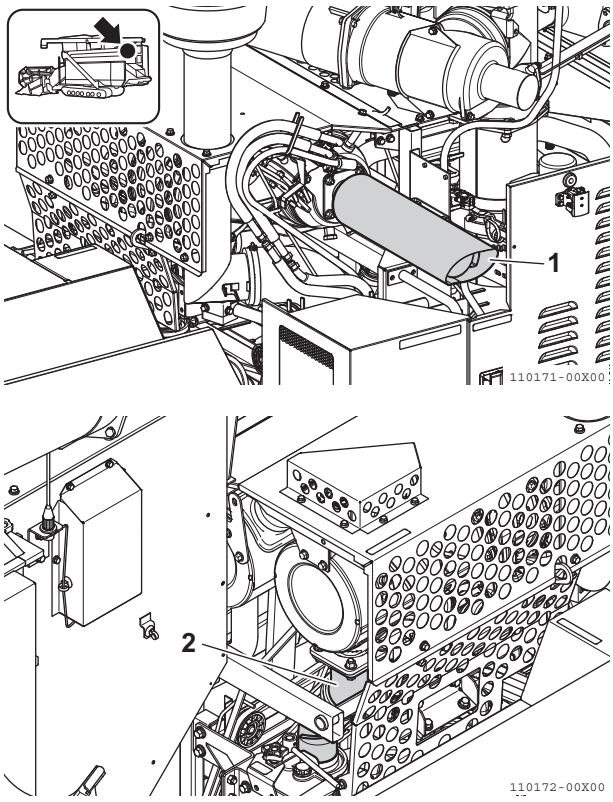


図 4-83

各部の注油のしかた

⚠ 注　意

注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。けがをするおそれがあります。

注油：

※ 刈刃・フィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

食品機械用潤滑スプレー：

表 4-1 品名、オプション部品

品　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	NX127

[参考]

低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

■ リール駆動チェン

1. リールチェンカバーを外します。
   （167ページ参照）
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

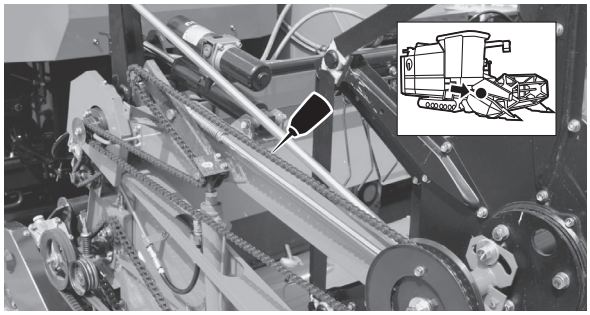


図 4-84 リール駆動チェン

■ リールカウンタチェン

1. 刈取サイドカバー右を外します。
   （167ページ参照）
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

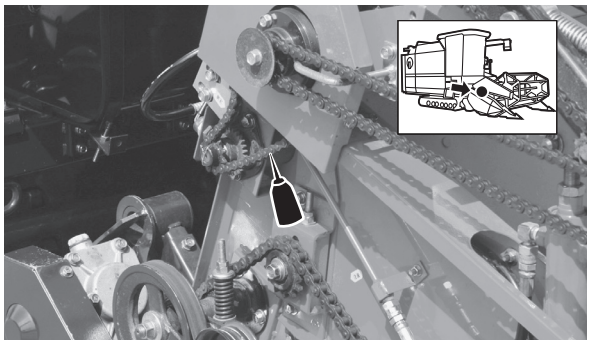


図 4-85 リールカウンタチェン

■ プラットホームオーガ駆動チェン

1. 刈取サイドカバー右を外します。
   （167ページ参照）
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

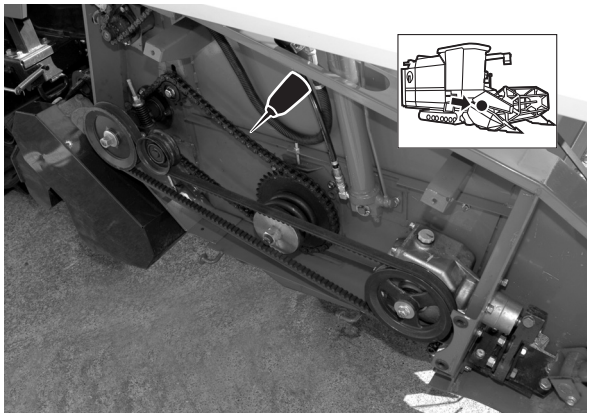


図 4-86 プラットホームオーガ駆動チェン

■ フィーダチェン

1. フィーダハウス上カバーを外します。（167ページ参照）
2. 注油作業後、元通りに取り付けます。

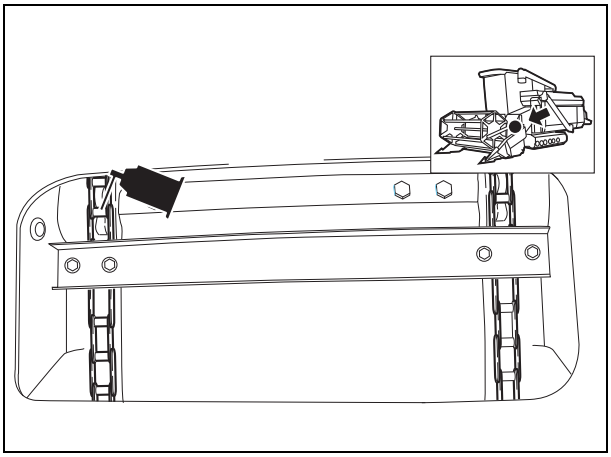
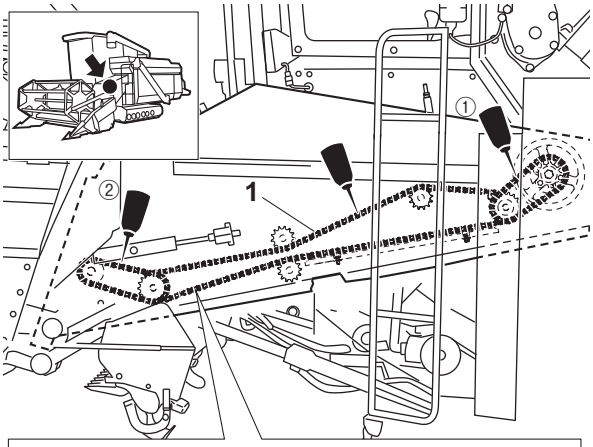


図 4-87 フィーダチェン

■ 刈取駆動チェン

刈取駆動チェン（1）の注油（①, ②）は、チェン用オイルまたはエンジンオイル 10W-30 を使用し、毎日注油します。（図 4-88）



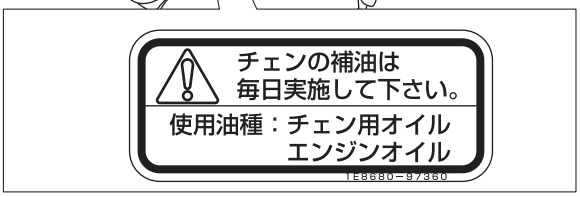


図 4-88

■ 下部コンベア駆動チェン

1. エンジン後カバーを開きます。（173ページ参照）
2. 注油作業後、元通りに閉じます。

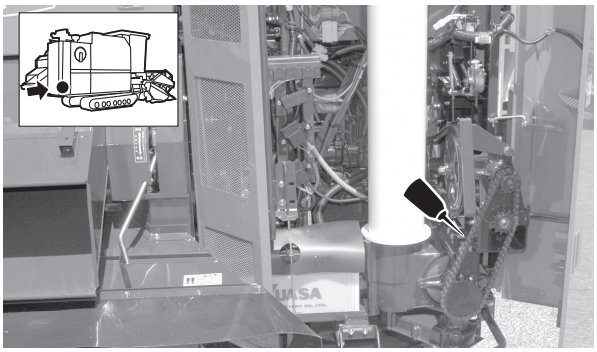


図 4-89 下部コンベア駆動チェン

■ 刈刃

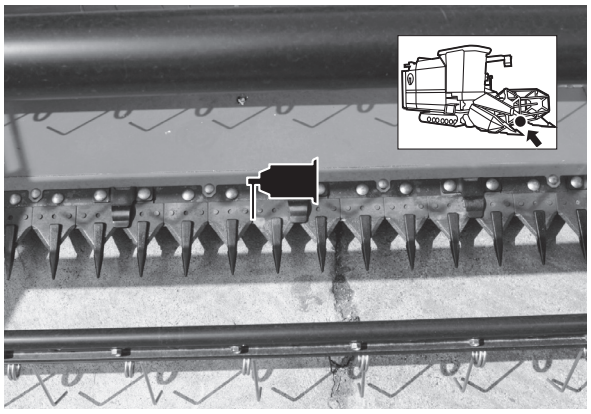


図 4-90 刈刃

■ センサソリ

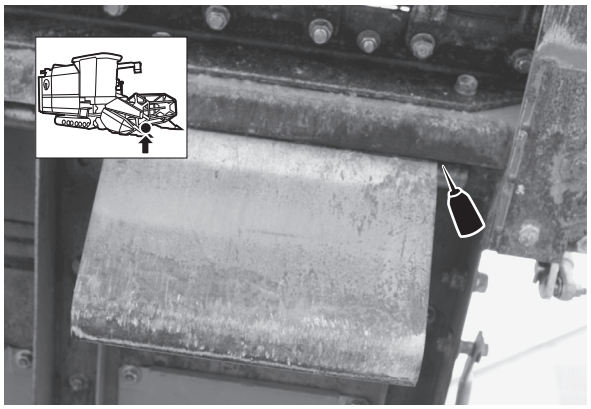


図 4-91 センサソリ

グリスアップのしかた

掃除をしたあと、下図の位置にグリスアップを行ってください。

■ PFシリンダ支点ピン

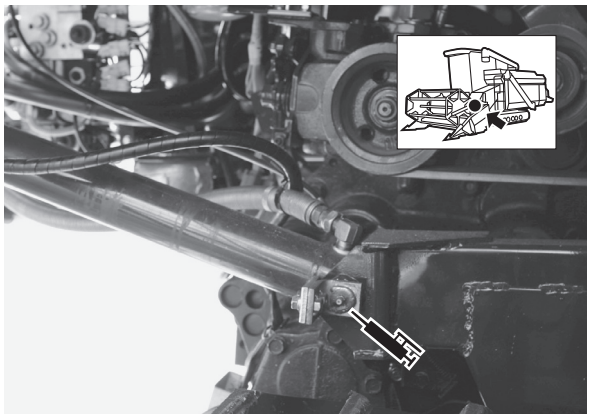


図 4-92 PFシリンダ支点ピン

■ リール変速プーリ(上)

1. リール変速ベルトカバーを外します。
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

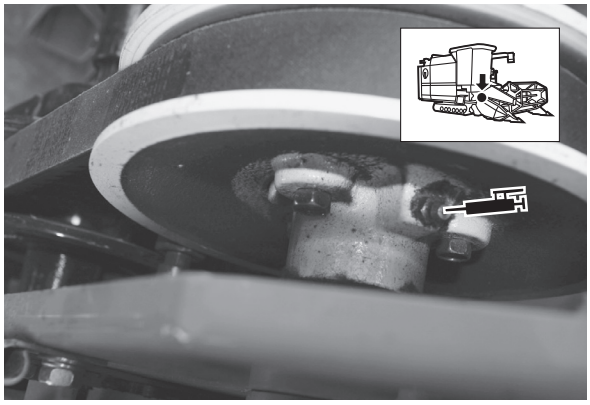


図 4-93 リール変速プーリ（上）

■ リール変速プーリ(下)

1. リール変速ベルトカバーを外します。
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

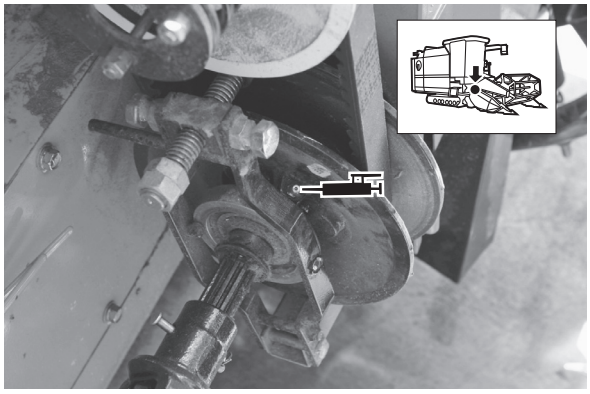


図 4-94 リール変速プーリ（下）

■ フィーダハウス回動支点右部

1. 脱こく左前カバーを外します。(167ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

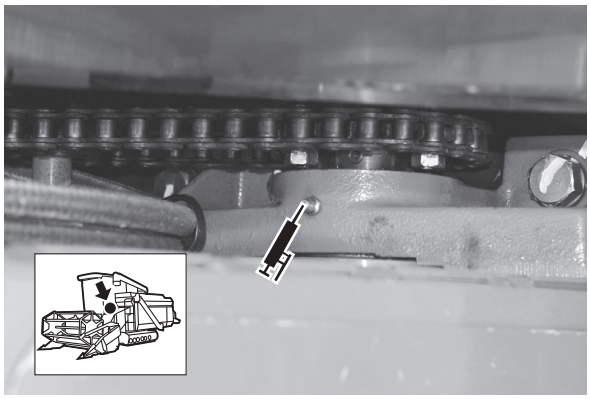


図 4-95 フィーダハウス回動支点右部

■ フィーダハウス回動支点左部

1. フィーダハウス右後カバーを外します。
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

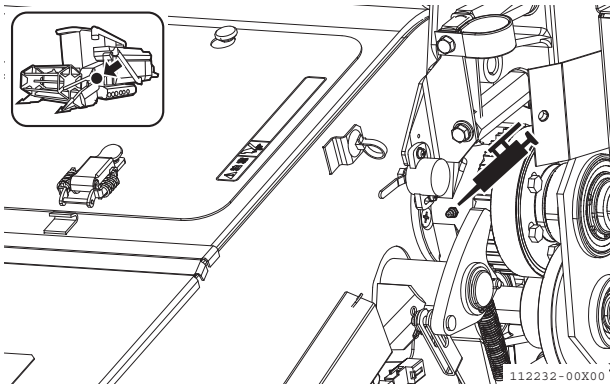
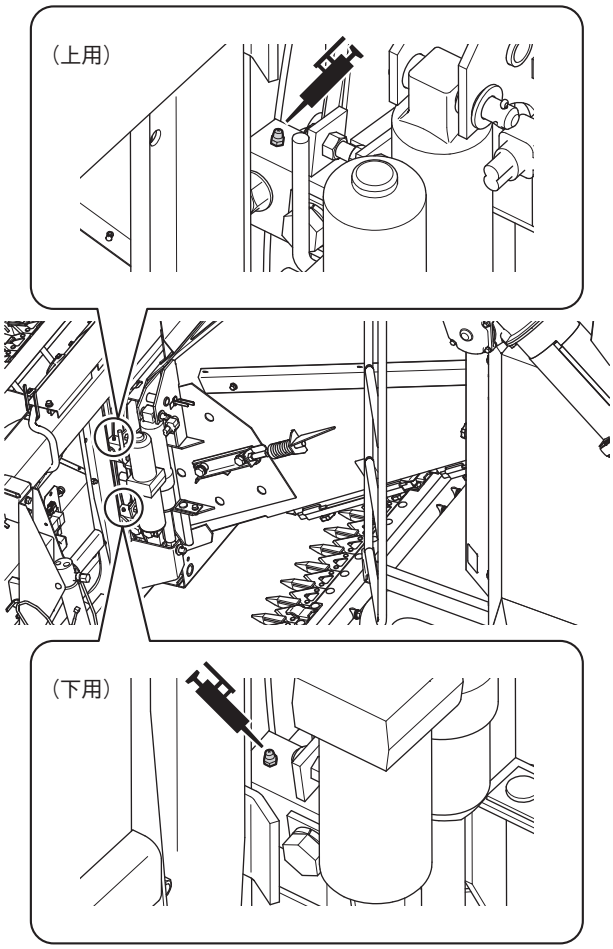


図 4-96 フィーダハウス回動支点左部

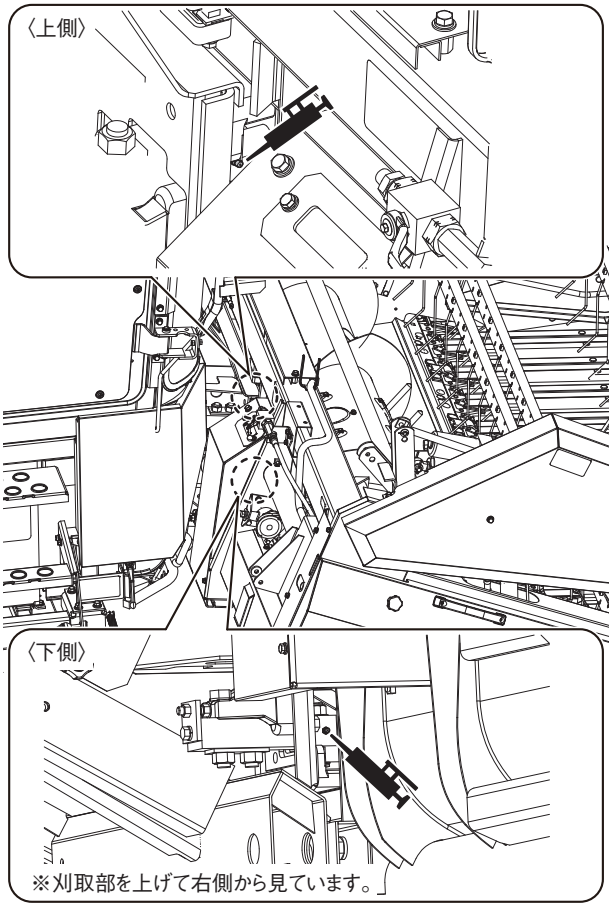
■ 水平回動部(左)



112112-00JA00

図 4-97 水平回動部（左）

■ 水平回動部(右)



111242-00JA00

図 4-98 水平回動部（右）

■ ロータ軸受部(前)

1. 2番樋カバー前を外します。(M8ボルト ×4本)
   (167ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに取り付けます。

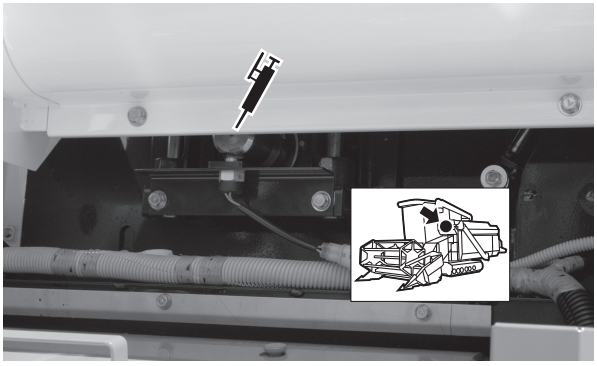


図 4-99 ロータ軸受部前部

■ ロータ軸受部(後)

1. ロータカバーを開きます。(169ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに閉じます。

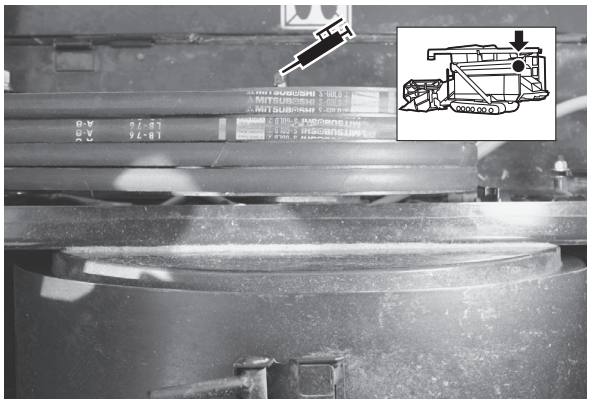


図 4-100 ロータ軸受部後部

■ 縦オーガ回動部(上)

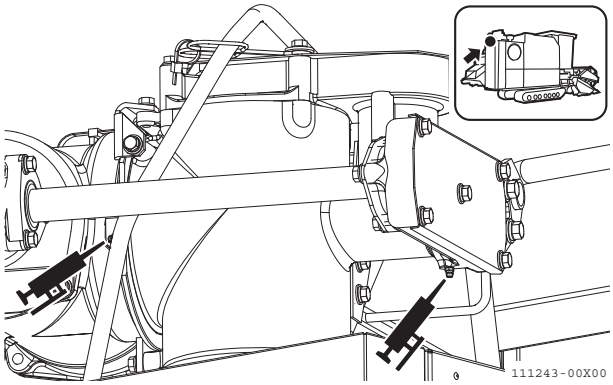


図 4-101 縦オーガ回動部（上）

■ 縦オーガ回動部(中)

1. エンジン後カバーを開きます。(173ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに閉じます。

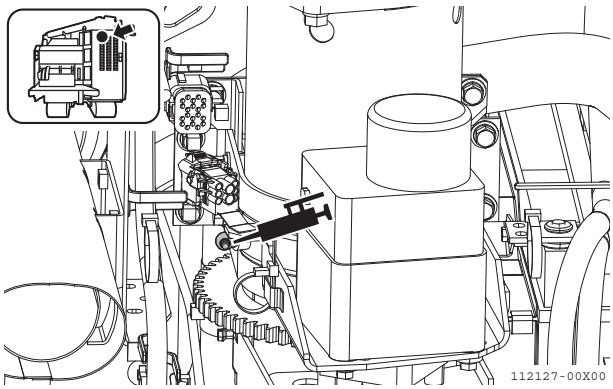


図 4-102 縦オーガ回動部（中）

■ イコライザ･トラックローラ･アイドラ

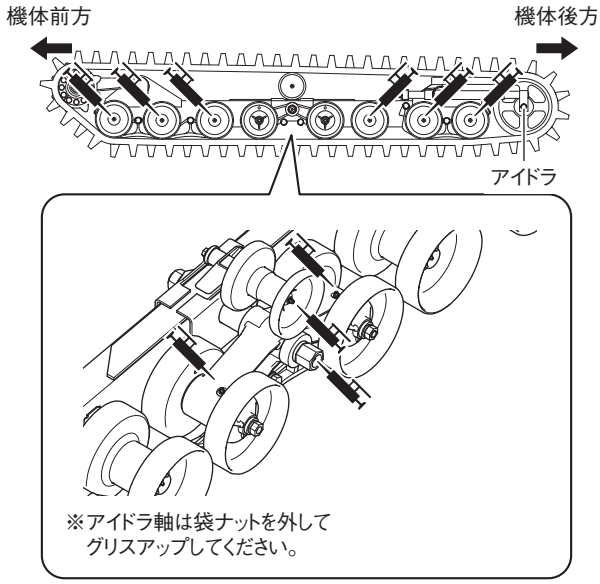


図 4-103 イコライザ・トラックローラ・アイドラ

■ カウンタテンションアーム軸

1. グレンタンクを開きます。(170ページ参照)
2. グリスアップ後、元通りに閉じます。

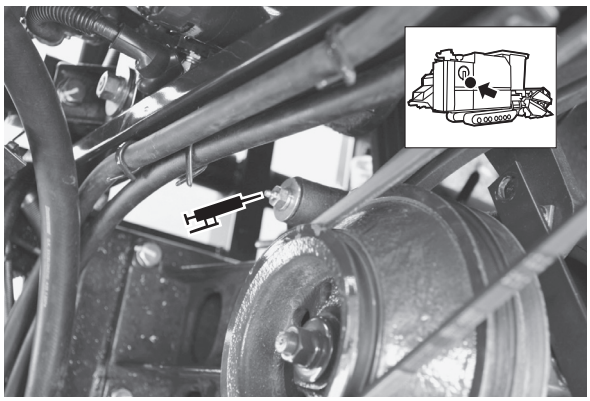


図 4-104 カウンタテンションアーム軸

■ 刈取テンションアーム軸

1. 刈取部を最上位位置にし、刈取部ストッパで固定します。
2. 刈取テンションアーム軸部の穴よりグリスアップします。

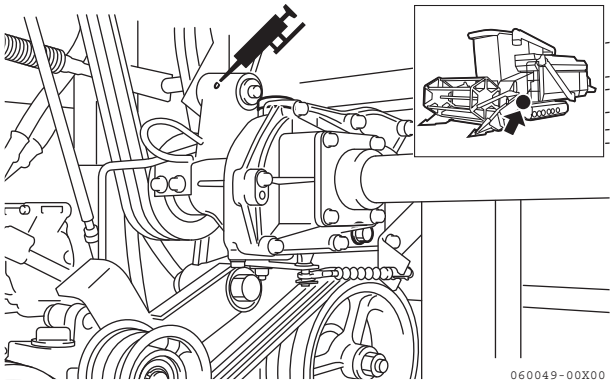


図 4-105 刈取テンションアーム軸

点検・整備のしかた

⚠ 警 告

- コモンレールエンジンの不調は、購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には、高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。高圧燃料による傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平たんで安定した場所で行ってください。コンバインが転倒するなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 刈取部を上げて点検・整備・調節をするときは、必ず刈取部ストッパを「固定」位置にして、刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、作業に適した服装にしてください。また、可動部で手足をはさんだり、鋭利なものでけがをしないように十分注意しながら作業してください。
- リールの下で作業するときは、必ずストップバルブのレバーをロックしてください。
  リールが下降して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（－）側のケーブルを外してください。ショートして火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、クローラの前後に車止めをし、各レバーを「N」（中立）、「切」または「OFF」位置にして、回転部の停止を確認してからキーを抜いて行ってください。回転部に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、排出ガス出口などの高温部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドやけがをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

[重要]

- 廃油や不凍液などの地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
  廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、または JA にご相談ください。
- 電気系統の点検・整備をするときは、バッテリーの（－）側のケーブルを外してください。

定期点検･整備の時期について

シーズン中でも、点検整備が必要な使用時間や状態になったら、定期点検一覧表や主要消耗部品のリストを参考に整備を行ってください。
また、定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期にはコンバインの性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。
コンバインの整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に、燃料パイプやラジエータホースなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にコンバインを最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。



図 4-106

■ 重要保安部品の点検・交換時期

つぎの部品は、保安上、非常に重要な部品ですので、定期的に点検・交換をしてください。

表 4-2 重要保安部品の点検・交換時期

	点検	交換
燃料ホースおよび結合部	1年ごと	2年ごと
電気配線	1年ごと	ー
油圧ホース	1年ごと	2年ごと

■ 燃料ホースおよび結合部の点検

- 燃料ホースおよび結合部からの燃料漏れやにじみがないか、点検してください。ある場合は、きれいにふき取ってください。
- 燃料ホース結合部のホースバンドが、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、締め付けてください。
- 燃料ホースにひび割れ・硬化・膨張がないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

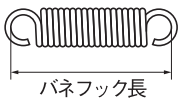
■ 電気配線の点検

- 電気配線の接続部が、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 電気配線に損傷がないか、また、クランプにゆるみがないかを、目視などで点検してください。
  損傷がある場合は、適切な修理や交換をしてください。

■ 油圧ホースおよび結合部の点検

- 油圧ホース・パイプおよび結合部より、オイルの漏れ・にじみがないか点検してください。漏れ・にじみがある場合は、きれいにふき取ってください。
- 油圧ホースの接続部がゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。
- 油圧ホースにひび割れ・キズがないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

調節箇所規定量一覧表



テンションバネフック長は、
両端フックの内寸法を示します。



テンションバネフック長は、
金具も含めた全長を示します。

表 4-3 調節箇所規定量一覧表

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
刈刃のすき間調節	1.2 mm	受刃と刈刃上面の最大すき間	237
	0.3～0.8 mm	受刃と刈刃下面のすき間	
	0.8 mm	刈刃の前後最大すき間	
プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節	稲・麦 6～8 mm	プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間	237
	大豆 12～15 mm		
プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節	4～6 mm	プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間	239
フィーダチェン	3～7 mm	スラットとフィーダチェン底板のすき間	242
プラットホームオーガリミットクラッチ	63～65 mm	リミットクラッチバネのバネ長	239
刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節	10～20 mm	刈刃上面とリールタイン先端のすき間	240
スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間調節	10～20 mm	スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間	241
リールカウンタチェン	10～16 mm	指で押したときのたわみ量	243
プラットホームオーガチェン	14～20 mm	指で押したときのたわみ量	243
刈取駆動チェン	0～1 mm	座金とカラーの間	244
バケットチェン	0～0.5 mm	座金とカラーの間	244
グレン駆動チェン	14～20 mm	指で押したときのたわみ量	245
2番駆動ベルト	90～94 mm	テンションバネフック長	247
選別駆動ベルト	151～155 mm	テンションバネフック長	247
刈刃駆動ベルト	51～55 mm	テンションバネのバネ長	248
刈取駆動ベルト	213～219 mm	テンションバネの金具を含む全長	248
ロータ駆動ベルト	稲・麦・大豆 163～167 mm	テンションバネのバネ長	249
脱こく駆動ベルト	239～243 mm	テンションバネの金具を含む全長	249
グレン駆動ベルト	122～126 mm	テンションバネフック長	250
エンジンベルト	143～147 mm	テンションバネのバネ長	250
ジェネレータ駆動ベルト	10～14 mm	指で押したときのたわみ量	251
冷却ファンベルト	104～108 mm	テンションバネフック長	251
セカンドファン駆動ベルト	178～182 mm	テンションバネフック長	252
プレファン駆動ベルト	79～83 mm	テンションバネフック長	252
唐箕駆動ベルト	93～97 mm	テンションバネフック長	253
HST駆動ベルト	232～236 mm	テンションバネの金具を含む全長	253
レベリングディスクベルト	10～15 mm	指で押したときのたわみ量	254
カウンタベルト	239～243 mm	テンションバネフック長	254
PTO駆動ベルト	146～150 mm	テンションバネフック長	255
コンプレッサ駆動ベルト	121～125 mm	テンションバネフック長	255
ロータリースクリーン吸引駆動ベルト	63～67 mm	テンションバネフック長	256
駐車ブレーキの調節	100～102 mm	テンションバネフック長	256
クローラの調節	20～25 mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと第3転輪のすき間	258
各ローラ部、イコライザ、アイドラ	–	グリスで注油。50時間または1シーズン後または湿田作業後（点検）	195

オイル・グリス・不凍液一覧表

表 4-4 オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正オイル	一般販売店の相当オイル	
	三菱農機(指定)純正オイル	ENEOS	コスモ石油
燃料	ー	ディーゼル軽油	
エンジンオイル (JASO分類、DH-2級) (API分類、CJ-4級)	DPF搭載機専用 ディーゼルエンジンオイル 10W-30 DH-2	ディーゼルエンジン用SAE10W-30相当品 (DH-2級、API分類、CJ-4級)	
グリス (マルチパーパスタイプ)	ー	エピノックグリースAP2 または リゾコックグリースEP2	コスモグリース ダイナマックス EP
不凍液(JIS K2234 2種 パーマネントタイプ)	スーパーフリーズまたは ロイヤルフリーズ	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT (ゴールド、シルバー)
ミッションオイル	トランスミッションフルードTF300	ー	
ミッションオイル (駆動ケース)	ミッションオイル90番	ー	
油圧作動オイル	耐摩耗性油圧作動油　VG56相当品		
食品機械用潤滑スプレー	部品コードNo.:NX127		

[重要]

気温が−5℃以下のとき、燃料は3号または特3号軽油を使用してください。

給油・給水一覧表

表 4-5 給油・給水一覧表

項　目		給油量	種類	交換時期	参照ページ
燃料		110 L	ディーゼル軽油	作業前	202
冷却水	ラジエータ	13 L	清水・不凍液	2年ごと	210
	サブタンク	1.1 L	清水・不凍液	2年ごと	210
尿素水		14.3 L	AdBlue®	作業前	204
エンジンオイル		9.4 L	クリーンロイヤルオイル 10W-30(DH-2級)	1回目　:50時間または1シーズン後 2回目以降:100時間または1シーズンごとのどちらか早いほう	205
ミッションオイル		8.5 L	トランスミッション フルードTF300	1回目　:50時間または1シーズン後 2回目以降:300時間または2年ごとのどちらか早いほう	208
刈取駆動ケース		0.7 L	ミッションオイル90番 (GL-3)	1回目　:50時間または1シーズン後 2回目以降:300時間または2年ごとのどちらか早いほう	209
ロータ駆動ケース		1.5 L	ミッションオイル90番 (GL-3)	1回目　:300時間または2年ごとのどちらか早いほう 2回目以降:300時間または2年ごとのどちらか早いほう	209
PTO駆動ケース		1.0 L	ミッションオイル90番 (GL-3)	1回目　:300時間または2年ごとのどちらか早いほう 2回目以降:300時間または2年ごとのどちらか早いほう	210
油圧作動オイル		35 L	耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品 (スーパーハイドロオイル56)	1回目　:300時間後 2回目以降:600時間ごと	228

[重要]

定期点検を実施すると共に、オイルの交換には純正(指定)オイルをご使用ください。

メンテナンス時間のリセットのしかた

画面上に表示するメンテナンス情報は、あくまで目安です。お客様の使用状況に合わせて「給油・給水一覧表」(200ページ参照)または「主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」(308ページ参照)に従って交換してください。

オイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面で、必ずメンテナンス情報時間をリセットしてください。
リセットしたときから、時間の積算を開始し、規定時間に達するとメンテナンス情報が表示されます。

1. 「メニュー」(スイッチ)を押します。(図 4-107)
   メニュー画面が表示されます。

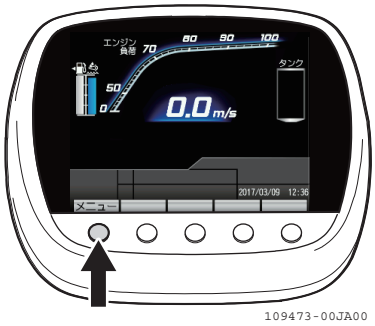


図 4-107

2. 「↑」(スイッチ)および「↓」(スイッチ)を押して「コンバイン設定」を選択し、「決定」(スイッチ)を押します。(図 4-108)

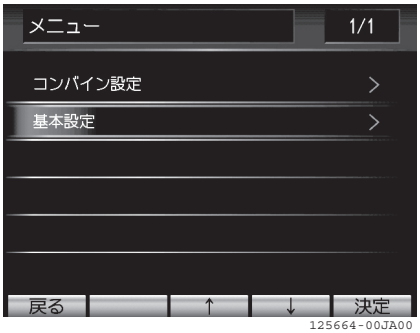


図 4-108

3. 「↓」(スイッチ)を押して、カーソルを下に移動していくと「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面に切り替わります。(図 4-109)

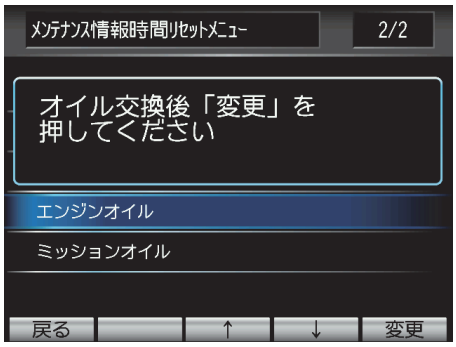


図 4-109

4. エンジンオイルを交換したときは、エンジンオイルの項目を、ミッションオイルを交換したときは、ミッションオイルの項目を、「↑」(スイッチ)および「↓」(スイッチ)を押して選択します。(図 4-110)

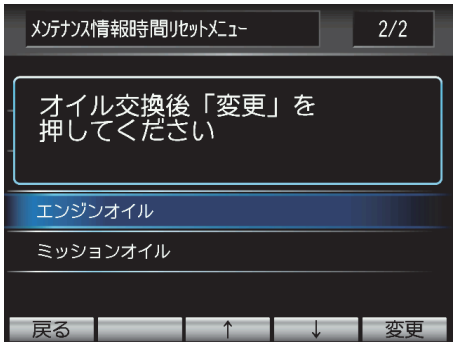


図 4-110

5. 「変更」（スイッチ）を押します。「リセット」の文字が表示され、時間のリセットが確定されますので、その時点から規定交換時間が経過すると、メンテナンス情報表示されるようになります。（図 4-111, 図 4-112）

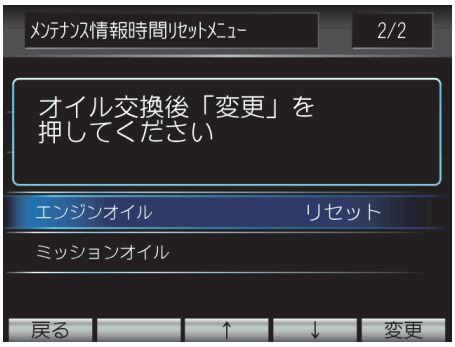


図 4-111

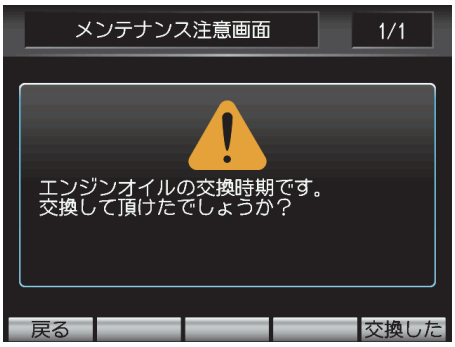


図 4-112

6. 「戻る」（スイッチ）を押すと、通常の画面に戻ります。

燃料の点検・補給のしかた

⚠ 危　険

燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。火災が起こり、ヤケドや傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「ON」位置にして、センターディスプレイの燃料残量表示（1）で確認します。燃料の残量が少なくなったときは、「●」マーク（2）が点灯、⛽マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。（図 4-113）

ブザーを止めるときは、「ブザー止」（スイッチ）を押してください。

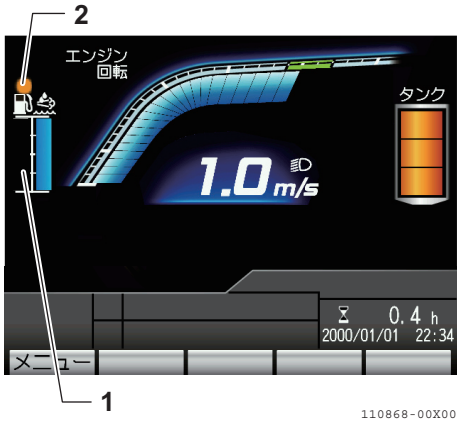


図 4-113

燃料の補給のしかた

[重要]

- コモンレールエンジンの燃料噴射関係の部品は精密部品です。燃料補給の際には、水や異物が混入しないように注意してください。
- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

燃料キャップ（1）を外し、燃料を、フィルター（2）から液面が見え始めるまで補給してください。
(図 4-114)
燃料給油時に満量近くになると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。燃料がこぼれないように注意して給油してください。「ブザー止」（スイッチ）を押すと、ブザーは鳴り止みます。

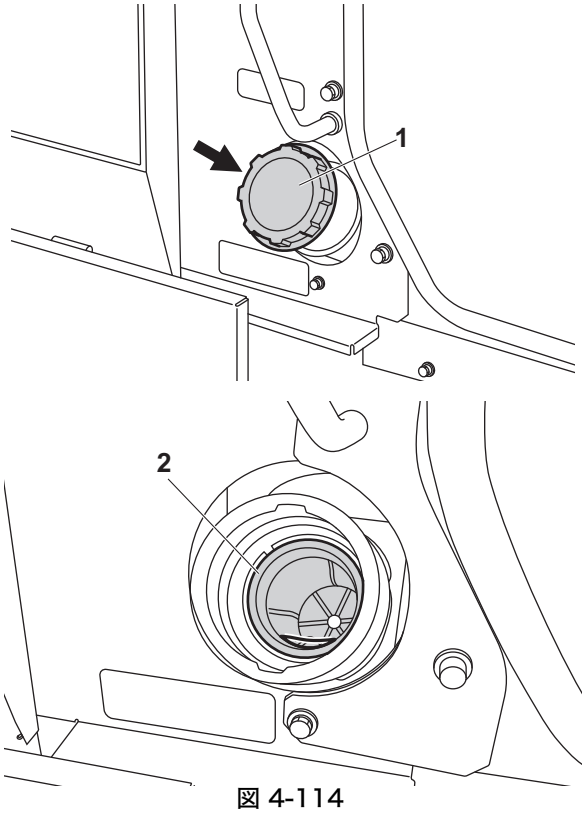


図 4-114

[重要]

- 燃料を補給するときは、燃料フィルターを必ず装着してください。燃料フィルターを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。
- 燃料補給は、給油口のフィルター下方に液面が見えてきたら、給油をやめてください。
  冬季など燃料の温度が低いときに、燃料を給油口いっぱいまで入れていると、気温の上昇とともに膨張し、ブリーザパイプから漏れることがあります。
- このコンバインのエンジンは排出ガス規制対応のため、燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は、亜鉛メッキ鋼板の容器の使用はさけ、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛、または鉛物質が溶け出すと、エンジン不調の原因になる場合があります。

尿素水の点検･補給のしかた

⚠ 注　意

尿素水が目に入らないようにしてください。万一目に入った場合には、ただちに大量の水で目を洗い、これを少なくとも 15 分間続けてください。飲み込まないでください。万一尿素水を飲み込んだ場合にはただちに医師に相談してください。

[重要]

- 尿素水をディーゼル燃料タンクに入れる、あるいはディーゼル燃料を尿素水タンクに入れることは絶対にしないでください。
- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

[参考]

飛び散った尿素水をそのまま乾かしたり、単に布でふきとっただけにすると、白い残留物質が残ります。見た目が悪くなるだけでなく、適切に洗浄されていない場合には、尿素SCRシステム診断の漏れ検査の妨げとなる可能性があります。

尿素水の残量点検のしかた

尿素水の残量は、キースイッチを「ON」位置にして、センターディスプレイの尿素水残量表示（1）で確認します。尿素水の残量が少なくなったときは、「●」マーク（2）が点灯、マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。（図 4-115）

ブザーを止めるときは、「ブザー止」（スイッチ）を押してください。

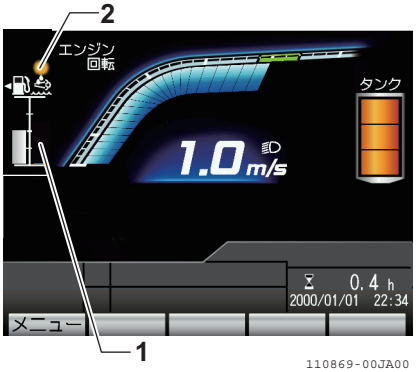


図 4-115

尿素水の補給のしかた

1. 尿素水注水に使用する前に、補給容器を蒸留水で十分にすすいで汚れを取り除きます。
2. 尿素水の汚染を軽減するため、尿素水タンクのキャップおよびキャップと注水口の周辺をふきます。
3. 尿素水タンクのキャップを取ります。
4. 目視レベルゲージを確認しながら、注水口から注意深く尿素水をタンクに注ぎます。（図 4-116）

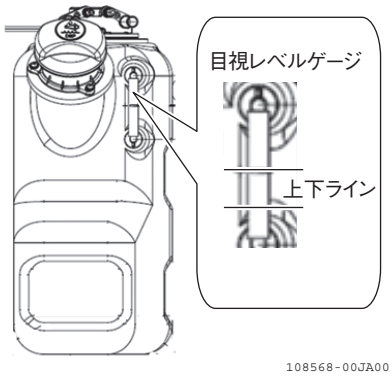


図 4-116

5. 尿素水タンクのキャップを確実に締め付けます。
6. 尿素水の飛散があれば、蒸留水だけを使用して注意深く洗い流します。

[重要]

- ディーゼル燃料やエンジン冷却水など承認外の液体が尿素水タンクに入った場合には、タンクを空にして蒸留水ですすぎ、十分に液体を取り除いたあと、再度タンクを充てんしてください。万一、承認外の液体が尿素タンクに入った状態で、エンジンを始動した場合は、システムの交換が必要になる可能性があるため、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
- 尿素水は目視レベルゲージの上ライン以上に補給しないでください。守らないと、注水口およびブリーザホース口より尿素水が飛び出します。また、尿素水が凍結したときにセンサ類が破損するおそれがあります。

尿素水の抜きかた

1. グレンタンク下部カバー（1）を外します。（図 4-117）

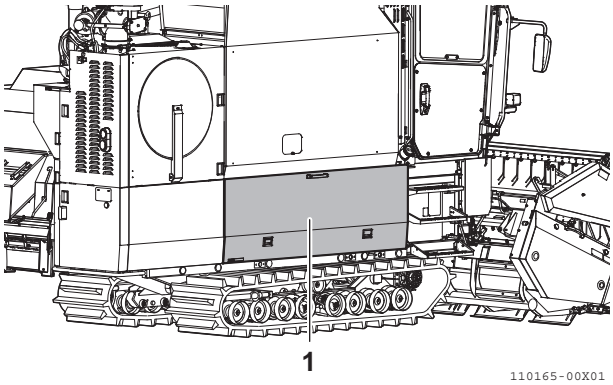


図 4-117

2. 尿素水の受け皿を置き、クリップ（1）を外してブリーザーホース（2）を下に向けて尿素水を抜きます。（図 4-118）

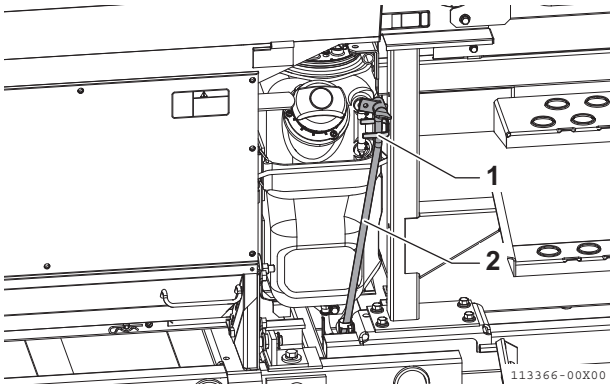


図 4-118

オイルの点検･補給･交換のしかた

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
  廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- オイルや燃料を補給・交換するときは、電装部品にかからないようにしてください。故障の原因になるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。
作業は、エンジン後カバーを開いてから行ってください。（173ページ参照）
作業終了後は、カバーを元通りにセットしてください。

表 4-6 推奨オイル･交換時期

推奨エンジンオイル	交換時期	規定量
DPF搭載機専用 ディーゼル エンジンオイル 10W-30 DH-2	1回目: 50時間または1シーズン後 2回目以降: 100時間または1シーズンごとのどちらか早いほう	9.4L

■ 交換時期について

「給油・給水一覧表」（200 ページ参照）に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。（図 4-119）

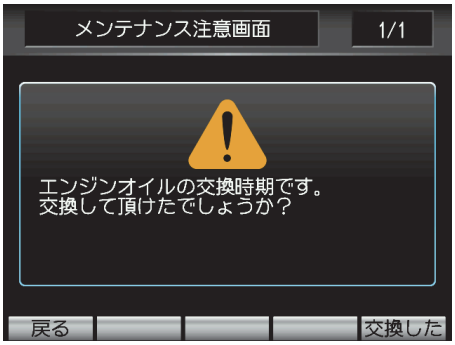


図 4-119

● 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「交換した」（スイッチ）を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

● すぐに交換しない場合

「戻る」（スイッチ）を押してください。（つぎにキースイッチを「ON」位置にしたときにも、「交換した」（スイッチ）を押すまで表示されます。

[参考]

メンテナンス情報は、約 5 秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は3回までです。3回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

■ 点検のしかた

1. 検油ゲージ（1）を抜いて、先端をきれいに拭き取ります。（図 4-120）

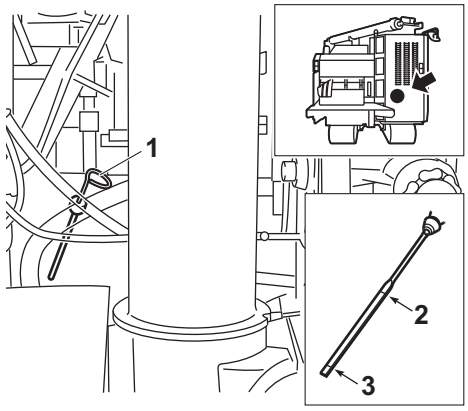


図 4-120

2. 検油ゲージを元通りに差し込んだあと、もう一度抜き出して、ゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。（図 4-120）
3. 点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けます。

[参考]

点検時、オイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量になるまで補給してください。（図 4-121）

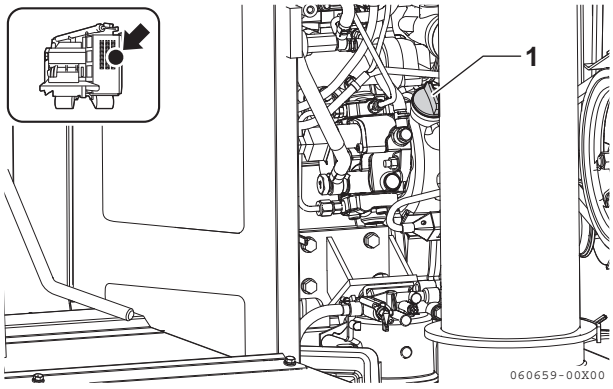


図 4-121

[重要]

エンジン上部にも給油口がありますが、上部の給油口からは給油しないでください。エンジンの破損につながるおそれがあります。

■ 交換のしかた

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外したあと、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグ（1）を元通りに取り付けます。（図 4-122）

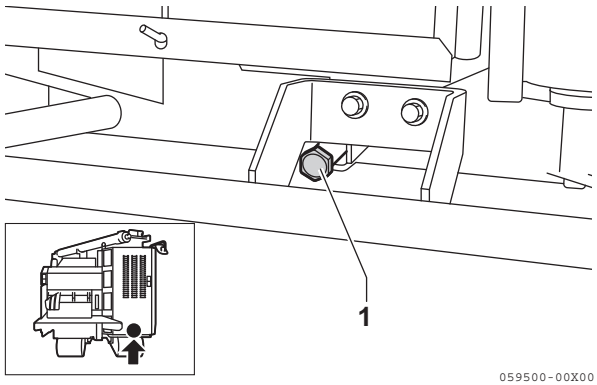


図 4-122

4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油します。
5. 給油口（1）にふたを取り付けます。（図 4-123）

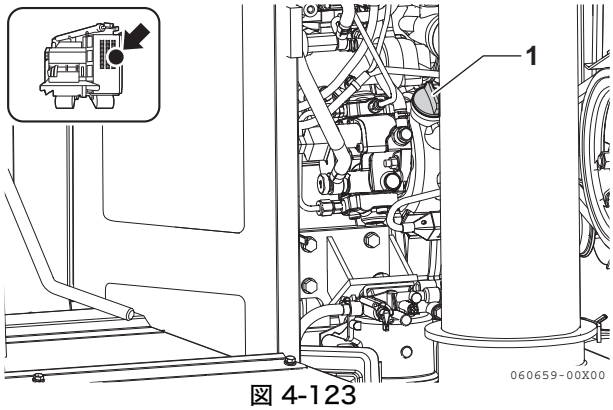


図 4-123

6. エンジンを始動し、約5分間低速回転で回します。
7. エンジンを停止し、油圧警報が表示されないことを確認し、約5分間待ちます。
8. 検油ゲージ（1）でゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。不足している場合は、補給します。（図 4-124）

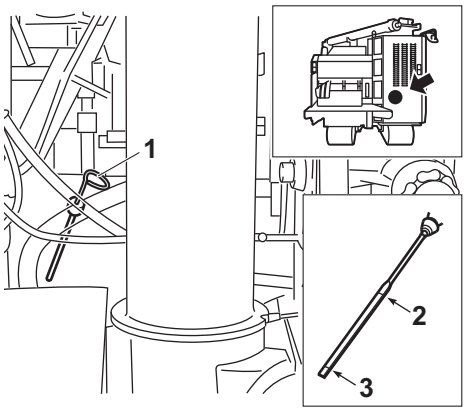


図 4-124

[重要]

- センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイルを交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。（201ページ参照）
  メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前にメンテナンス情報を表示してしまいます。
- エンジンオイルを交換するときは異種のオイルを混入させないでください。もし異種のオイルを入れる場合は、前のオイルを完全に抜け切ってから入れてください。

ミッションオイル

ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上げ状態にして、刈取部を固定してから行ってください。(183ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

表 4-7 推奨オイル・交換時期

推奨オイル	交換時期	規定量
TF300 トランスミッション フルード	1回目: 50時間または1シーズン後 2回目以降: 300時間または2年ごとの どちらか早いほう	8.5 L

■ 交換時期について

「給油・給水一覧表」(200 ページ参照) に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。(図 4-125)

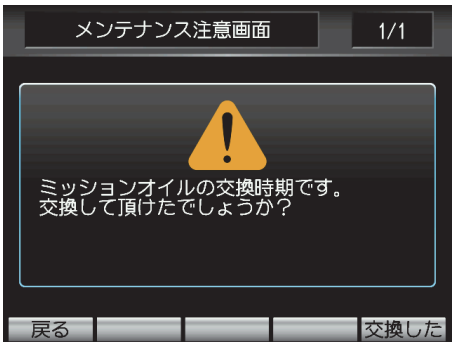


図 4-125

● 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「交換した」(スイッチ) を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

● すぐに交換しない場合

「戻る」(スイッチ) を押してください。(つぎにキースイッチを「ON」位置にしたときにも、「交換した」(スイッチ) を押すまで表示されます。

[参考]

メンテナンス情報は、約 5 秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は3回までです。3回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

■ 点検のしかた

1. コンバインを水平にします。
2. 刈取部を最上位置にします。
3. 刈取部を固定します。(183ページ参照)
4. ミッションケース左側面にある検油窓 (1) でオイル量を点検します。(図 4-126)
   規定量は上部検油窓の半分の位置です。
   (図 4-127)

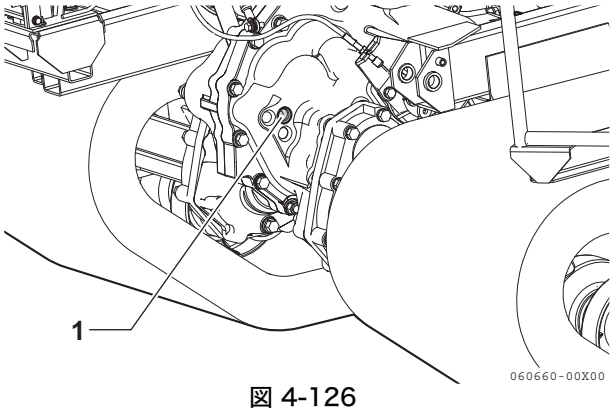


図 4-126

検油窓の見かた

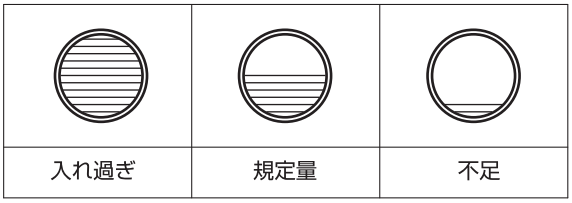


図 4-127

[参考]

点検時、オイル漏れがないことを確認してください。

■ 補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口 (1) から規定量 (検油窓の半分の位置) まで補給してください。(図 4-128)

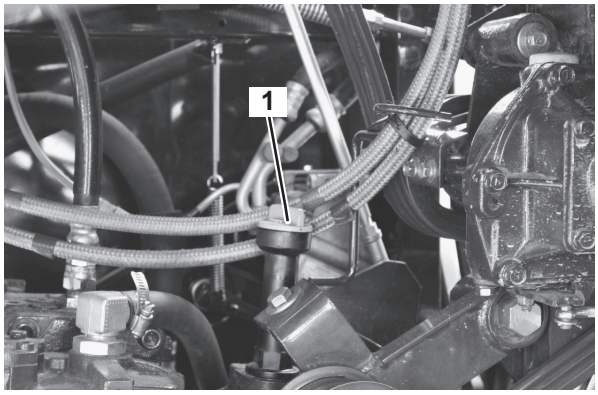


図 4-128

■ 交換のしかた

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置きます。
2. 給油口のふたを外したあと、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグ（1）を元通りに取り付けます。（図 4-129）

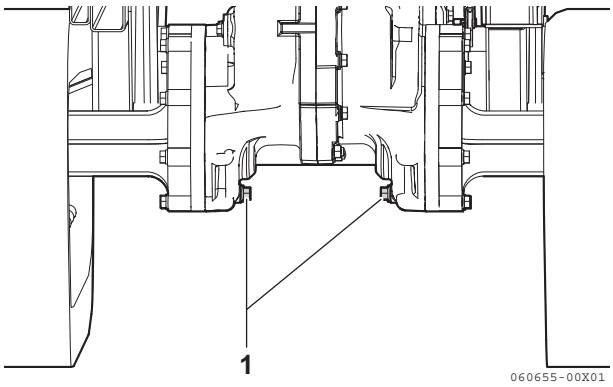


図 4-129

4. 給油口からミッションオイルを給油します。
5. 給油口のふたを取り付けます。

[重要]

ミッションオイルの交換後は、前記の「点検のしかた」に従って、オイルが規定量あることを確認してください。

[参考]

センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイル交換したときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。
（201ページ参照）
メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前にメンテナンス情報を表示してしまいます。

その他の給油箇所

[参考]

オイルの点検・補給・交換の必要なときは、特販店または、JAにご相談ください。

表 4-8 推奨オイル・交換時期

	推奨オイル	交換時期	規定量
刈刃駆動ケース	ミッションオイル90番(GL-3)	1回目：50時間または1シーズン後 2回目以降：300時間または2年ごとのどちらか早いほう	0.7L
ロータ駆動ケース	ミッションオイル90番(GL-3)	1回目：300時間または2年ごとのどちらか早いほう 2回目以後：300時間または2年ごとのどちらか早いほう	1.5L
PTO駆動ケース	ミッションオイル90番		1.0L

■ 刈刃駆動ケース

1. 刈取サイドカバー右を外します。（167ページ参照）
2. 給油終了後、元通りに取り付けます。

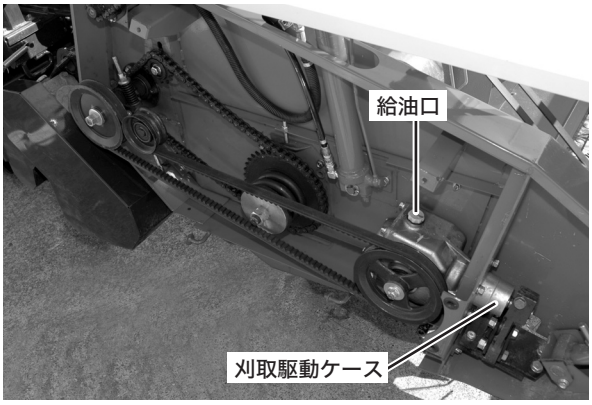


図 4-130 刈刃駆動ケース

■ ロータ駆動ケース

1. グレンタンクを開きます。（170ページ参照）
2. 給油終了後、元通りに閉じます。

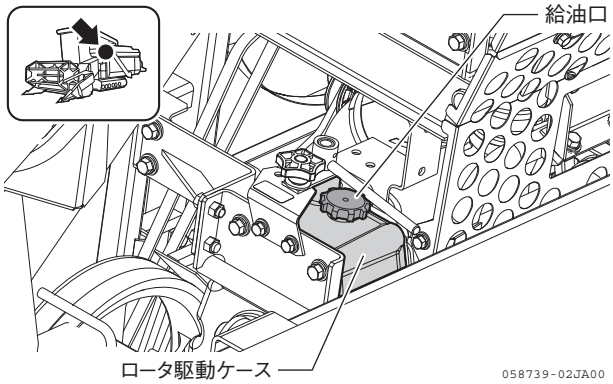


図 4-131 ロータ駆動ケース

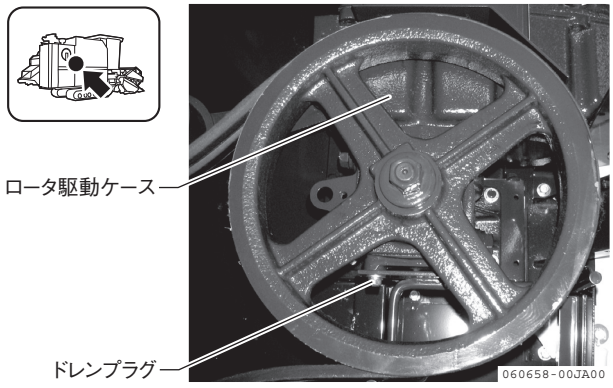


図 4-132 ドレンプラグ

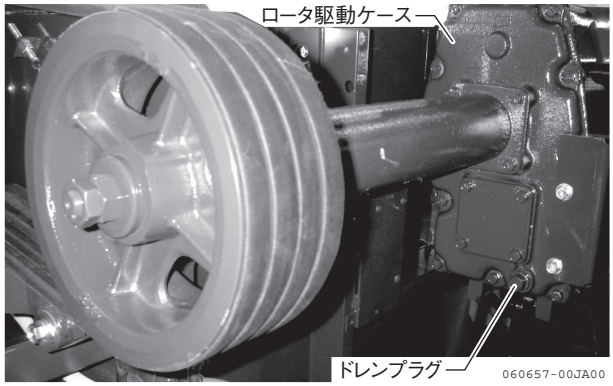


図 4-133 ドレンプラグ

■ PTO駆動ケース

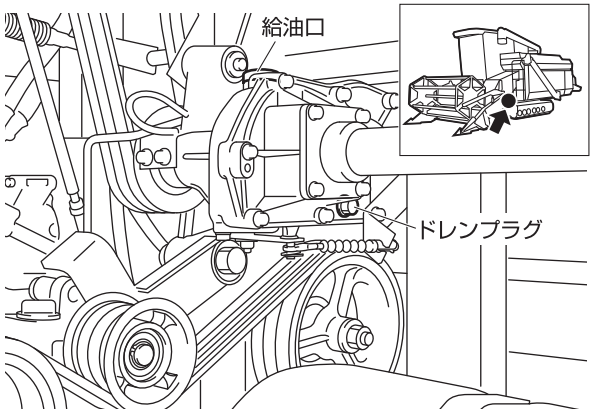


図 4-134 PTO駆動ケース

冷却水の点検･補給･交換のしかた

⚠ 危　険

ラジエータキャップは､エンジン運転中や停止直後には絶対に外さないでください｡外すと熱湯が噴き出して､ヤケドや死亡事故を引き起こすおそれがあります｡エンジン停止後30分以上経過し､エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ､蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

⚠ 注　意

エンジンルームなどの上には､直接登らないでください｡高温になっている箇所もあり危険です｡脚立などを用いて行ってください。

[重要]

- 地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています｡絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
  廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジン後カバーを開いてから行ってください。（173ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

■ 点検のしかた

サブタンク内の冷却水が、「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

[参考]

点検時、水漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

冷却水が不足している場合は、サブタンク（1）のキャップ（2）を外し、きれいな水道水を補給してください。(図 4-135)

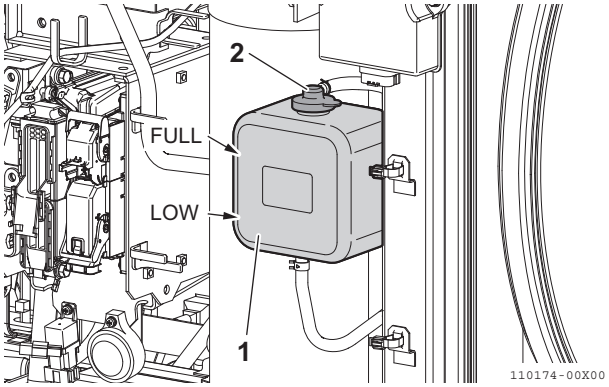


図 4-135

■ 交換のしかた

表 4-9 冷却水

推奨不凍液	アンチフリーズPT
交換時期	2年ごと

1. エンジン上部にあるラジエータカバー (1) を、ボルト M6（4 本）(2) を外して、取り外します。(図 4-136)

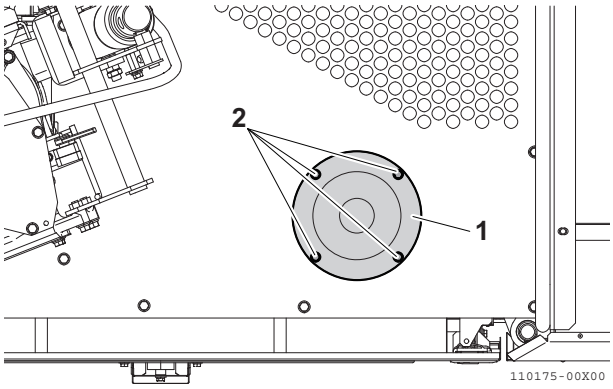


図 4-136

2. ラジエータキャップ (1) を外します。(図 4-137)

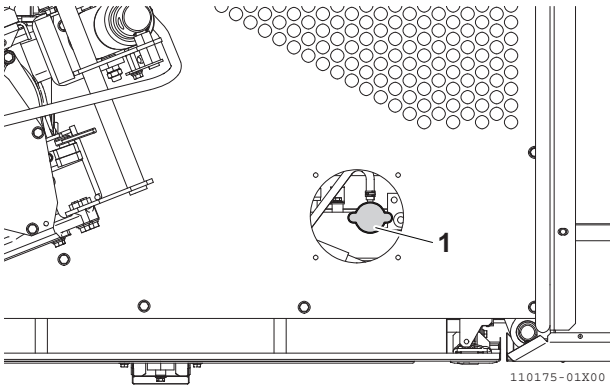


図 4-137

3. ドレンのコックボルト（1）をゆるめて、ラジエータ内の水をすべて抜きます。(図 4-138)

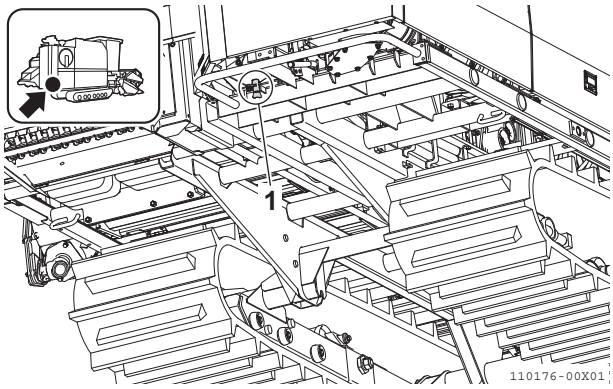


図 4-138

4. 水道水で、ごみやさびが出なくなるまでラジエータ内を洗います。

[参考]

ラジエータ内をきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータ内に入れ、15分以上エンジンを空運転してから、水を抜き取ってください。

5. ドレンのコックボルトを元通りに締め付け、不凍液を必要量入れたあと、水道水をあふれるまで入れます。
6. ラジエータキャップを取り付けます。
7. ラジエータカバーを取り付けます。
8. エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めます。
9. エンジン停止後、再度サブタンク内の冷却水量が規定量あることを確認します。

■ 不凍液の取り扱いについて

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などでは表 4-10を参考にして、安全な濃度で使用してください。

表 4-10 不凍液混合率表

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

- 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
- 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
- 冷却水が自然に不足した場合は、軟水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。
- 不凍液の有効期限は2年です。2年ごと、新しい不凍液と交換してください。

[重要]

軟水(硬度:0～100 mg/L)を使用してください。
守らないと、エンジン、ラジエータ内にミネラル成分が析出し、破損するおそれがあります。
(水道水が軟水の場合は、水道水を使用してください。)

エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。定期的に交換してください。

表 4-11 交換時期

交換時期	1回目:50時間または1シーズン後 2回目以後:300時間ごと

作業は、エンジン後カバーを開いてから行ってください(173ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

[参考]

エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。
(205ページ参照)

表 4-12 エンジンオイルエレメント

名　称	コードNo.
指定エレメント	94690075301

交換のしかた

エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取ったあとに行ってください。

1. オイルエレメントを矢印方向に回して外します。(図 4-139)

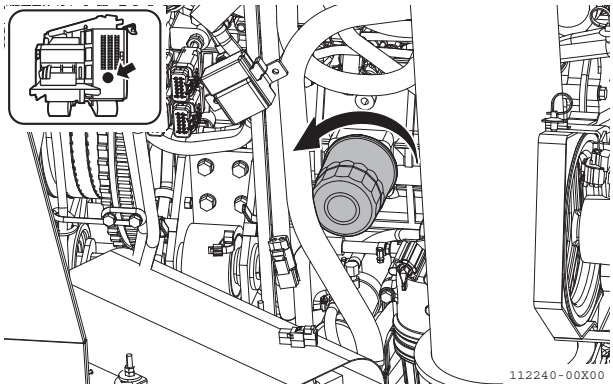


図 4-139

2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだあと、2/3回転締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイル漏れを起こす場合があります。
- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、純正部品をご使用ください。

サプライモジュールメインフィルターの交換のしかた

メインフィルターを洗浄して再使用はしないでください。イコライジングエレメントも必ず一緒に交換してください。

表 4-13 サプライモジュールメインフィルター

交換時期	2000時間ごと

交換のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。(図 4-140)

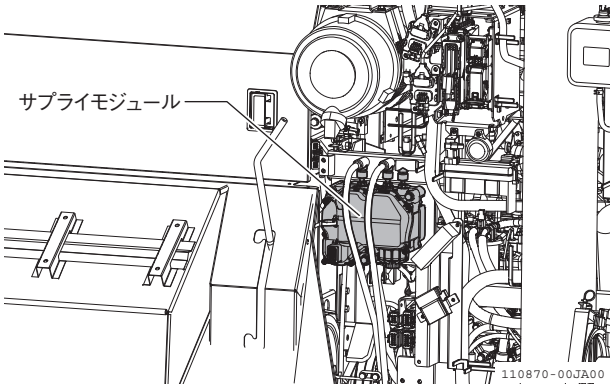


図 4-140

2. メインフィルターカバーはサプライモジュールの下側の面にあります。(図 4-141)

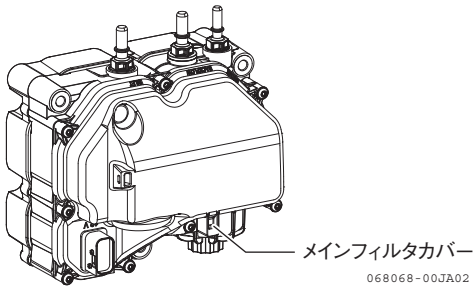


図 4-141

3. サプライモジュール (1) のフィルターカバー (2) を、指定の工具 (27 mm　12 角レンチ：DIN3124/ISO2725-1) を使用して外します。カバーを外す際は、尿素水が流出するおそれがありますので、尿素水が床面にこぼれないよう十分注意してください。

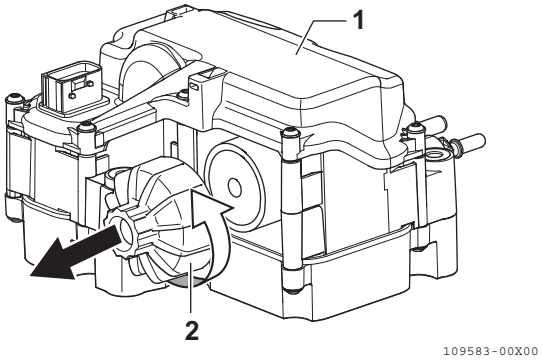


図 4-142

[重要]

- 交換作業は十分に冷却されたことを確認してから行ってください。高温・高圧時には作業しないでください。
- 交換作業はキースイッチを「OFF」位置にしてから10分以上経過し、システム内の尿素水残量が少なくなった状態で行い、フィルターカバーを外す際は、尿素水の流出に十分注意してください。
- 交換作業は尿素水が凍結した状態で行わないでください。
- 交換作業時はシステム内に圧力が残っている可能性があるため、適切な保護具を着用してください。
- 交換の際に、軍手などの使用により繊維状のコンタミ（異物）を発生させないようにしてください。
- 交換作業の際に、部品に無理な力を加えたり、足がけなどにより破損させないようにしてください。

4. フィルターエレメント（1）の内側に挿入されているイコライジングエレメント（2）を抜き出します。（図 4-143）

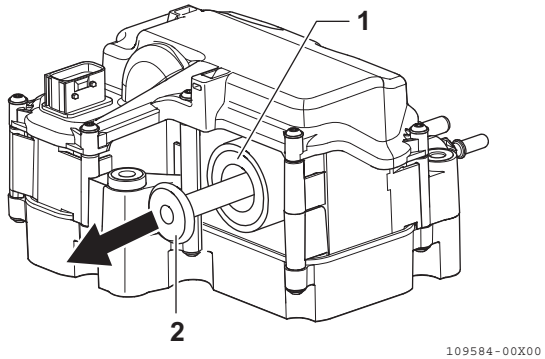


図 4-143

5. フィルターエレメントの装着部（1）の色が灰色か黒色かを目視で確認します。確認した色に従って、メインフィルターキットに付属しているセレクトエッジ（図 4-144）を、エッジに記載されている灰色（G）または黒色（B）の矢印方向に、カチッと手応えまたは音がするまでしっかりと挿入します。エッジを奥まで挿入したら、手で抜き出します。もし固いようであれば、エッジ中央の長穴に工具を引っ掛けて抜き出すか、エッジの端を工具でつかんで抜き出します。うまく抜けない場合は、直接フィルターの端を工具でつかんで抜き出します。新品のフィルターエレメントに交換する前に、フィルターカバー締付部の表面（1）を清水で洗います。

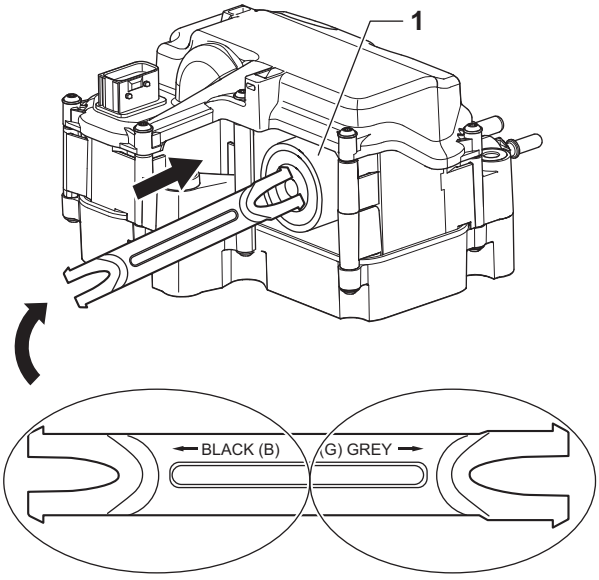


図 4-144

[重要]

交換作業中にフィルターエレメントの O リングやフィルターカバーのねじ部、シール部分にキズを付けないようにしてください。また尿素水が結晶化した状態で装着しようとすると、O リングにキズを付ける可能性があるので、結晶は水で洗い流して装着してください。O リングは再使用しないでください。

6. 新しいフィルターエレメント（1）は下記の指定されたものを使用します。O リング（2）に軸受け油などを塗布（Mobil Velocite #6 を推奨）し装着します。フィルターエレメントは奥までしっかり挿入します。交換時に O リングにキズを付けないよう注意してください。（図 4-145）

表 4-14 キット名、コードNo.

メイン フィルター キット	部品番号	F00B H40 428 (ボッシュキット番号)
		97390000120
	キット内容	フィルターエレメント、イコライジングエレメント

表 4-15 締付トルク

フィルターカバー 締付トルク	20 + 5 N·m

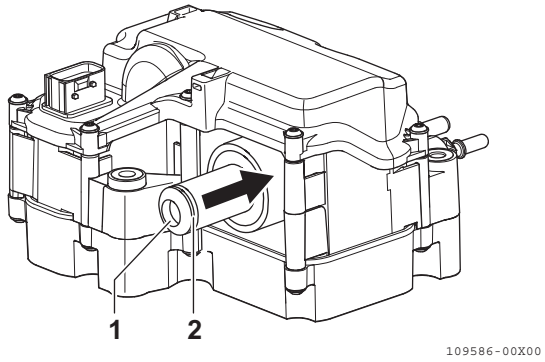


図 4-145

7. 新品のイコライジングエレメント（1）を挿入し、フィルターカバーを指定の工具（27 mm レンチ：DIN 3124/ISO 2725-1）を使って取り付けます。（図 4-146）

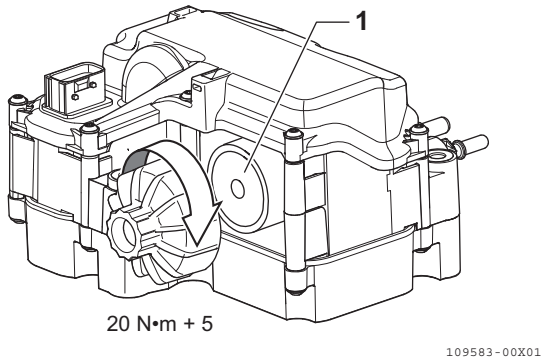


図 4-146

[重要]

- フィルターエレメントのろ紙部分を濡らした状態で組み付けないでください。フィルターの変形により挿入が困難となります。
- 一度装着したフィルターエレメントは再使用しないでください。フィルターの変形により挿入が困難となります。
- メインフィルターエレメントを交換する場合、イコライジングエレメントも必ず付属の新品に交換してください。
- フィルターカバーの締め付けは、指定の工具を使用してください。
- 組み付けの際に異物や周囲の砂塵などの混入がないように注意してください。また軍手などの使用による繊維状の異物を発生させないようにしてください。

8. 交換終了後、エンジンを始動して漏れがないことを確認します。

燃料フィルターの交換のしかた

燃料フィルターは、燃料内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

表 4-16 交換時期

交換時期	300時間ごと

表 4-17 燃料フィルター

名　称	コードNo.
燃料フィルター	97360000250

作業は、エンジン後カバーを開いて行ってください。(173ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

交換のしかた

1. カートリッジを矢印の方向へ回して外します。(図 4-147)

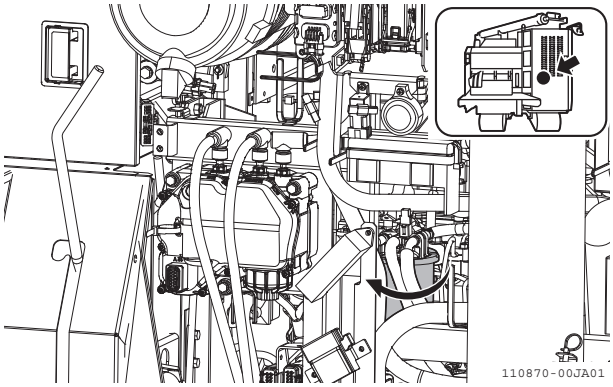


図 4-147

2. 新しいカートリッジのゴムリングに、オイルを塗布します。
3. ゴムリングが接触するまで回したあと、2/3回転程度手で締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイル漏れを起こす場合があります。
- 交換後は、燃料フィルター取付面などからの燃料漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- 燃料フィルターは、純正部品をご使用ください。

排気フィルターの再生のしかた

⚠ 危　険

再生中は、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないようにし、コンバインから離れないでください。火災や死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警　告

- 再生中および再生直後は、排気フィルター周辺や排出ガスの出口が高温になります。絶対に触らず近づかないようにしてください。ヤケドなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。可燃性のものが周囲にないように常にきれいにしてください。また、再生直後はシートをかけないようにしてください。
- 倉庫や車庫など、閉めきった屋内では排気フィルターの再生をしないでください。再生するときは、風通しのよい屋外で行ってください。排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

エンジンオイルは、必ず指定のオイルを使用してください。指定以外のオイルを使用すると、排気フィルターが目詰まりして故障の原因となります。

[参考]

- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。
- 再生中、エンジン音が変化したり、白煙が出ることがありますが故障ではありません。
- アイドリング中は、PMが堆積しやすくなります。
- 不要なアイドリング（低回転）はしないでください。

排気フィルターについて

排気フィルターは、エンジンと排出ガス出口の間に装着され、PM（ススなどの粒子状物質）を捕集することで、大気中に放出しないようにするためのフィルター装置です。
排気フィルターにたまった PM を燃焼除去することにより、排気フィルターの機能を再生できます。
(図 4-148)

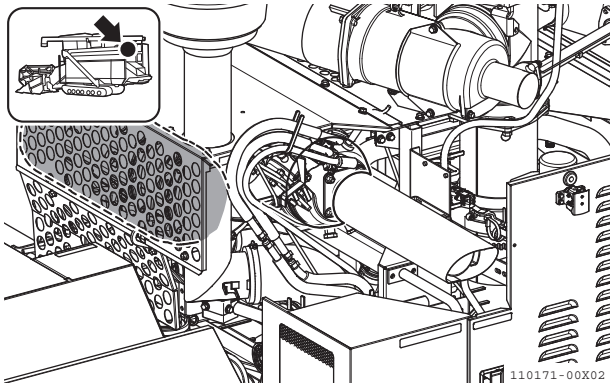


図 4-148

[参考]
捕集した PM を放置すると目詰まりを起こしエンジン性能が低下します。このため定期的に排気温度を上昇させて、PMを燃焼除去する必要があります。これを排気フィルターの再生といいます。

排気フィルターのメンテナンスについて

⚠ 警　告

アッシュには、エンジンオイルの添加剤の燃え残りで人体に有害な成分が含まれています。メンテナンスは、必ず特販店、またはJAに依頼してください。

排気フィルターは、PM（ススなどの粒子状物質）以外に潤滑油の添加剤に含まれる金属成分のアッシュ（灰分）がたまります。
アッシュは、PMのように排気フィルター内で燃焼除去ができませんのでメンテナンスが必要です。

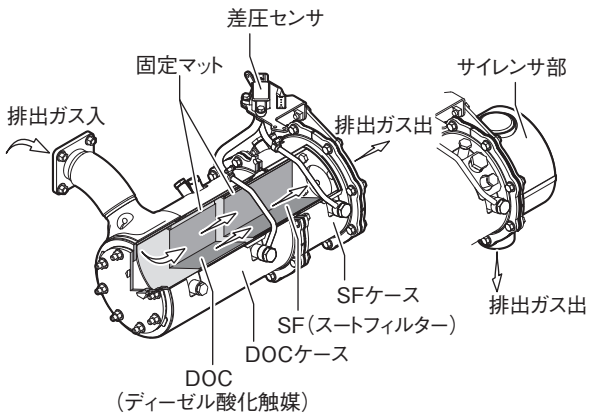


図 4-149 排気フィルター構成図

表 4-18 メンテナンス・交換時期

部品名	メンテナンス時期	交換時期
SF （スートフィルター）	6000時間ごと	9000時間
DOC （ディーゼル酸化触媒）	不要	9000時間

[重要]
- 燃料は、必ず低硫黄ディーゼル軽油を使用してください。
- エンジンオイルは、排気フィルター搭載用ディーゼルエンジンオイル（純正DH−2オイル）を使用してください。
- メンテナンス・交換時期（表 4-18）は、指定の燃料、エンジンオイルをご使用した場合の目安です。指定以外のものをご使用された場合、故障の原因となります。
- 排気フィルターは、定期的なメンテナンスが必要です。堆積されたアッシュのメンテナンスを行わないとエンジン出力の低下や燃費悪化の原因となります。

排気フィルターの再生モードについて

排気フィルターの再生には、PMの堆積量、稼働時間に応じた５つの再生モードがあります。このうち、自動再生、アシスト再生は自動で再生が行われますが、リセット再生、駐車再生、リカバリ再生については手動で再生を行う必要があります。排気フィルター再生要求画面が表示されたら、必ず手動で再生操作を行ってください。

[重要]

再生せずに放置すると、排気フィルターの目詰まりによるエンジン性能の低下や燃費悪化の原因となります。また、手動再生を行わずに一定時間以上運転を継続すると、修理が必要となる場合があります。

表 4-19 再生モードについて

警告(PM堆積)レベル	再生モード		モニター表示	排気フィルタースイッチ(お知らせランプ)	ブザー	作業	処置のしかた
小 ↓ 大	自動	自己再生	ー	ー	ー	可	コンバインは、エンジンの排熱で自己再生を行います。
	自動	アシスト再生	ー	ー	ー	可	PMが一定量堆積すると自動で再生を行います。
	手動	リセット再生		2秒間に1回点滅(0.5Hz)	2秒間に1回鳴る(0.5Hz)	可	リセット再生を行ってください。(219ページ参照) 〈リセット再生要求発生条件〉 ・初回アワメータ約50時間、以降約100時間ごと または ・PM の推積量がリセット再生レベルに達したとき
	手動	駐車再生(警告1)		1秒間に1回点滅(1Hz)	1秒間に1回鳴る(1Hz)	不可	作業を中止してコンバインを安全な場所に駐車して ・作業クラッチレバー「OFF」 ・駐車ブレーキ「ロック」 ・エンジンローアイドル にします。
				2秒間に1回点滅(0.5Hz)	2秒間に1回鳴る(0.5Hz)		PMが推積していますのでただちに駐車再生を行ってください。(220ページ)
	手動	リカバリ再生(警告2)		ー	ー	不可	作業を中止して安全な場所に駐車し、エンジンを停止してください。ただちに特販店、またはJAへご連絡ください。(271ページ参照)

＊1 駐車再生の機械条件を満たすと警報表示がされます。「表示切替」スイッチで警報詳細画面に切り替えられます

表 4-20 排気フィルター再生とお知らせ機能について

排気フィルター再生スイッチ(お知らせランプ)	ブザー	状態
点滅	鳴る	排気フィルター再生待ち
点灯	停止	排気フィルター再生中(約30分)
消灯	停止	排気フィルター再生終了

リセット再生の手順

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが0.5Hzで鳴ります。(図 4-150)

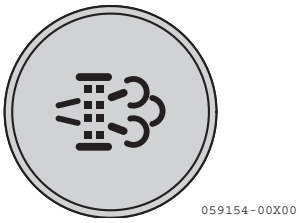


図 4-150

2. 排気フィルター再生要求の警報が表示されます。(図 4-151)



図 4-151

[参考]

- 再生要求の警報はエンジンの使用状況によっては設定時間より早く表示される場合があります。
- 「表示切替」(スイッチ)を押すと「排気フィルター再生要求画面」が表示されます。「戻る」(スイッチ)を選択すると通常画面に戻ります。(図 4-152)



図 4-152

3. コンバインを停車します。
4. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押します。(図 4-153)

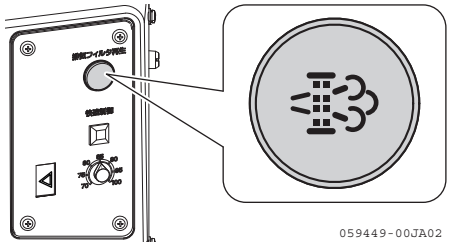


図 4-153

5. ブザーが停止して再生が始まり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。
6. 作業を開始します。

[重要]

- リセット再生は必ず刈取作業中に行ってください。刈取作業中以外では再生条件が満たされず、再生要求ランプが点灯したまま、再生が終わらない場合があります。
- 刈取作業が終了している場合は、つぎの刈取作業時にリセット再生を行ってください。再生要求が出た状態で保管しても、エンジンには影響ありません。
- リセット再生を行わずエンジンを始動していると、駐車再生の要求が出る場合があります。その場合は、220 ページの「駐車再生の手順」に従って、駐車再生を行ってください。

[参考]

- リセット再生は、つぎの条件では再生が開始されません。冷態時は、暖機運転をしてください。条件がそろうと自動的に再生が開始されます。
  - ・エンジン冷却水温が低いとき
  - ・排気フィルターの温度が低いとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。

- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断したい場合は、キースイッチを「OFF」位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求の警告が表示されますので、できるだけ早く再開してください。
- エンジンのエラーが発生しているときは、再生要求の警報が表示されません。ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJA へご連絡ください。(図 4-154)

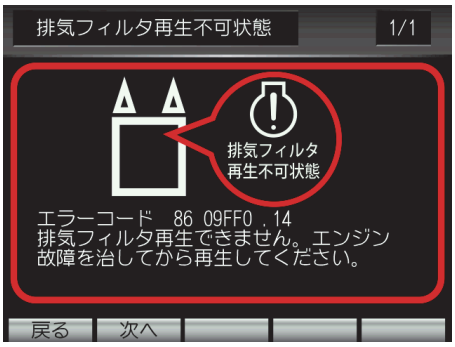


図 4-154

- リセット再生中に「表示切替」(スイッチ)を押すと「排気フィルター再生中画面」が表示されます。(図 4-155)



図 4-155

- 再生中は、エンジン音が変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

駐車再生の手順

⚠ 警 告

- 排気フィルター再生(駐車再生)の要求を無視して、運転を継続すると、PM が過剰に堆積するため場合によっては PM が異常に燃焼して、排気フィルターが破損し、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 排出ガスに十分注意してください。倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内で始動するときは、換気を十分に行ってください。

  【守らないと】

  排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 排気フィルター再生スイッチのお知らせランプが点滅し、ブザーが1Hzで鳴ります。(図 4-156)

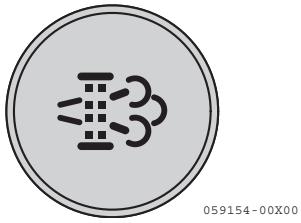


図 4-156

2. 排気フィルター再生要求 1 の警報が表示されます。(図 4-157)



図 4-157

[参考]

「表示切替」（スイッチ）を押すと「排気フィルター再生要求 1 画面」が表示されます。「戻る」（スイッチ）を選択すると通常画面に戻ります。（図 4-158）



図 4-158

3. 安全な場所に停車し、作業クラッチレバーを「OFF」位置にし、駐車ブレーキをかけてアイドリング（低回転）にします。
4. 排気フィルター再生要求 2 の警告が表示されます。（図 4-159）



図 4-159

[参考]

「表示切替」（スイッチ）を押すと「排気フィルター再生要求 2 画面」が表示されます。「戻る」（スイッチ）を選択すると通常画面に戻ります。（図 4-160）



図 4-160

5. 排気フィルター再生スイッチを 3 秒以上長押しします。（図 4-161）

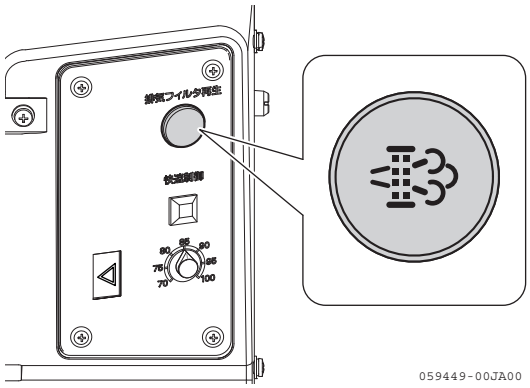


図 4-161

6. ブザーが停止して再生がはじまり、スイッチのお知らせランプが点灯します。終了するとランプは消灯します。（図 4-161）

[参考]

- 再生中は、エンジン回転が自動的に上がります。
- つぎの操作を行うと再生が中断されます。
  - ・アクセルダイヤルを「 」回転側に回したとき
  - ・作業クラッチレバーを「OFF」以外の位置にしたとき
  - ・駐車ブレーキを解除したとき
- 再生は、約30分で終了しますが、再生終了までの時間は、外気温によって異なります。あらかじめ燃料残量を確認して、再生を開始してください。
- 再生は、できるだけ中断せず終了するまで実行してください。やむをえず、再生を中断する場合は、キースイッチを「OFF」位置にしてください。再生が完了しないままエンジン停止すると、つぎにエンジンを始動したときに排気フィルター再生要求画面が表示されますので、できるだけ早く再開してください。

[参考]

- エンジンのエラーが発生しているときは、再生要求の警報が表示されません。ただちにお買い上げいただいた特販店、またはJA へご連絡ください。(図 4-162)

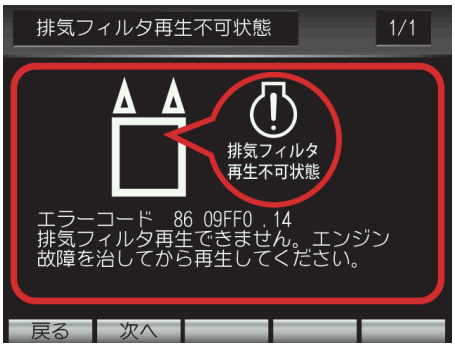


図 4-162

- 再生中は、エンジン音が変化したり、白煙が出たりすることがありますが故障ではありません。
- 再生中の排出ガスは、通常時とは異なる臭いが発生しますが故障ではありません。
- 排気フィルター再生中は、吸気スロットルが作動するため作動音が発生することがありますが故障ではありません。

ウォーターセパレータエレメントの点検・ドレン抜き・掃除・交換のしかた

表 4-21 ウォーターセパレータエレメント

水抜き・洗浄	1回目:50時間目 2回目以降:100時間ごと

[重要]

- ウォーターセパレータを表 4-21 に従って定期的に点検し、水が溜まっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄を行ってください。サプライポンプまたはインジェクタが焼き付くおそれがあります。
- ウォーターセパレータに多くの水が溜まっている場合は、エンジンを始動せず、特販店、またはJA に連絡して点検・整備を受けてください。サプライポンプまで水が浸入しているおそれがあります。

点検のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。
2. エンジン後側にウォーターセパレータ(油水分離器)があります。表 4-21に従って定期的に点検します。特にセンターディスプレイ下部に警報画面が表示された場合は、ウォータセパレータに水が溜まっていますので、すみやかに中の水を抜きます。(図 4-163)

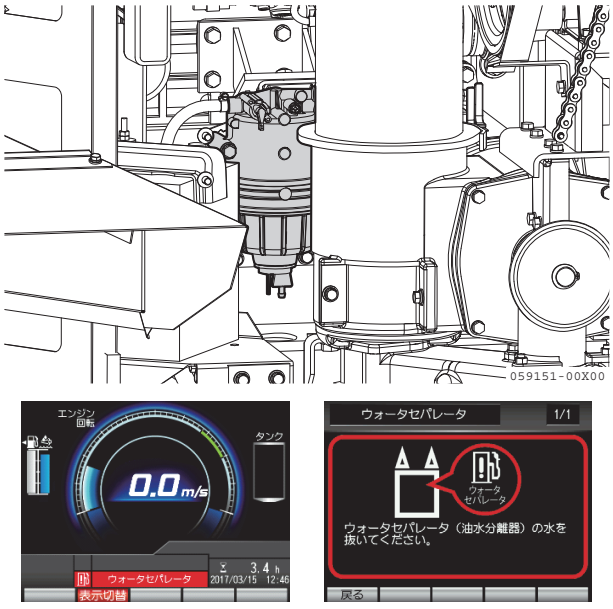


図 4-163

ドレン抜きのしかた

1. エンジン後カバーを開きます。
2. ウォーターセパレータ（1）のコック（2）を「OFF」（閉）位置にします。（図 4-164）

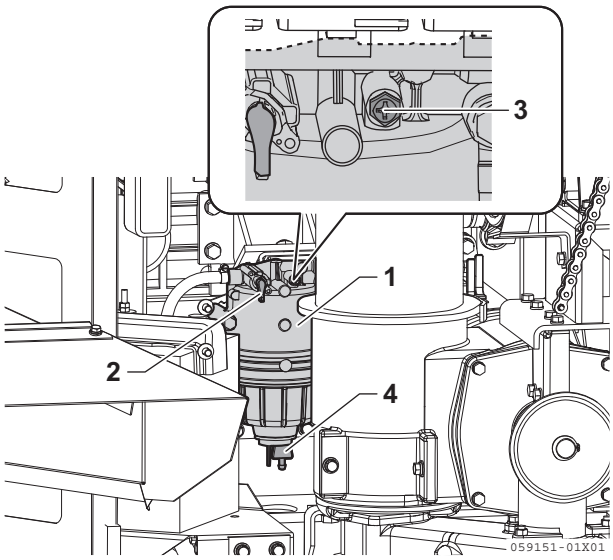


図 4-164

3. エア抜きプラグ（3）をゆるめます。（図 4-164）
4. ドレンプラグ（4）を回して中の燃料と水をすべて抜きます。（図 4-164）
5. ドレンプラグを元通りに締めます。
6. 燃料タンクのドレン抜きを行います。（224ページ参照）
7. 燃料のエア抜きを行います。（224ページ参照）

[重要]

- 空気が入ったときは、燃料のエア抜きをしてください。（224ページ参照）
- ドレン抜きを行うときは、ドレン下方に容器を用意してください。

掃除のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。
2. ウォーターセパレータ（1）のコック（2）を「OFF」（閉）位置にします。（図 4-165）

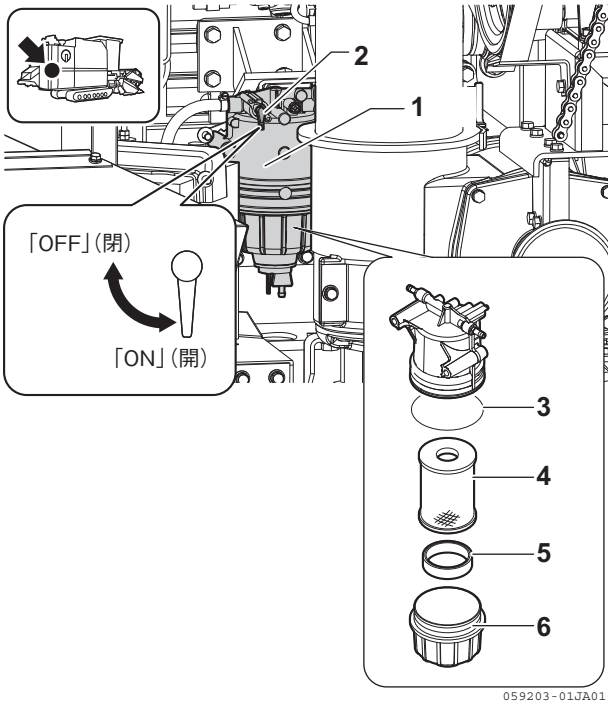


図 4-165

3. FOフィルターカップ（6）、フロート（5）、Oリング（3）を外し、水・ごみを取り除きます。（図 4-165）
4. コシ器の洗浄が終わったら FO フィルターカップ、フロート、エレメント（4）とOリングを元通りに取り付けます。（図 4-165）
5. ウォーターセパレータのコックを「ON」（開）位置にします。

交換のしかた

コシ器内のエレメントは、300 時間ごとに交換が必要です。

要領は、掃除のしかたと同じです。前記3.のときに、エレメントを交換してください。

表 4-22 交換時期

交換時期	300時間ごと

燃料タンクのドレン抜きのしかた

⚠ 警　告

燃料ホースを確実に接続してください。燃料が漏れると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料タンクの底部には、水やごみが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

ドレン抜きのしかた

1. 燃料タンク下部にあるドレンボルト（1）の下に、燃料を受ける容器を置きます。（図 4-166）

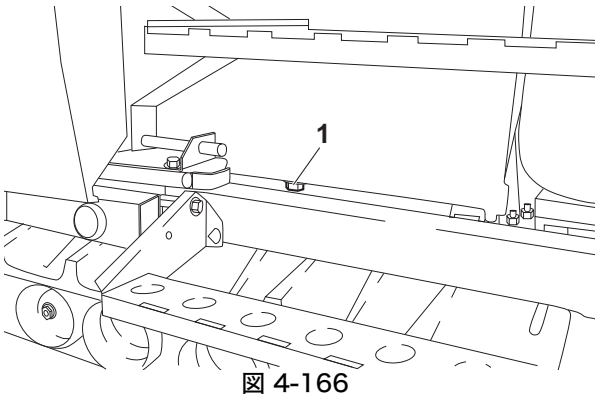


図 4-166

2. ドレンボルトを外します。燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。
3. 排出後、ドレンボルトを取り付けます。
4. 燃料キャップを外し、新しい燃料を補給します。（図 4-167）

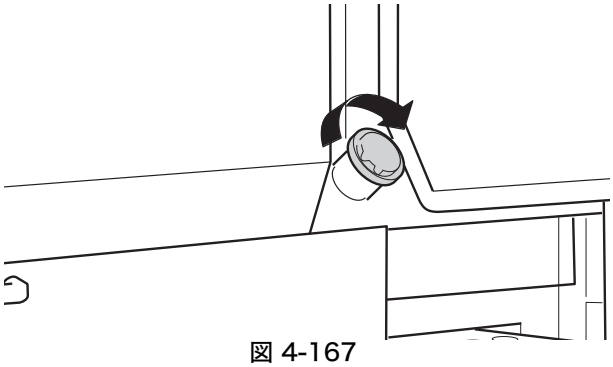


図 4-167

燃料の空気（エア）抜きのしかた

⚠ 警　告

エンジン周りのベルト・防振ゴム・ホースなどに、燃料がかからないように注意してください。もし、燃料がかかった場合は、十分に水洗いしてください。燃料がかかっていると、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。つぎの要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料タンクを満タンにします。
2. キースイッチを「ON」位置にしたまま20～30秒待ち、「START」位置にします。
3. 自動的に空気（エア）抜きが行われ、エンジンが始動します。

以上で空気（エア）抜きは完了です。

エアクリーナーの掃除・交換のしかた

⚠ 警　告

エアクリーナーエレメントの掃除は作業前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。排出ガス出口やエレメントフックが高温になって、ヤケドによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エアクリーナーは吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。刈取作業は、ホコリがよく出ますので、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。（225ページ参照）

表 4-23 エアクリーナー

掃除時期	エレメントの交換時期
50時間ごと	●300時間ごと ●ホコリの多いところでは200時間ごと （規定時間未満でも1年間で交換）

掃除・交換のしかた

1. エンジン後カバーを開きます。(173ページ参照)
2. エンジン左カバー上を外します。
3. カバークランプ（1）を外して、アウターエレメント（2）を外します。(図 4-168)

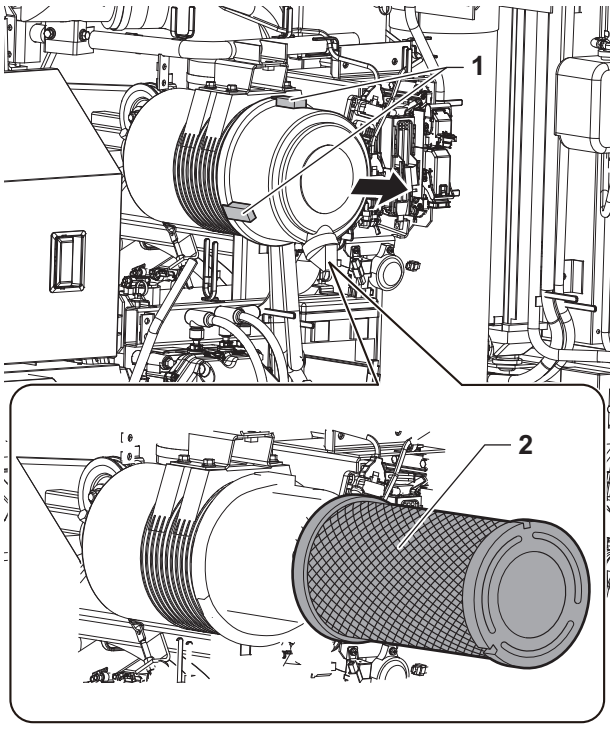


図 4-168

4. エレメントは、内側から圧縮空気（7 kg/cm^{2}以下）を吹きつけます。
5. 取り付けるときは、逆の手順で行います。

[重要]

- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

表 4-24 エレメント

名　称	コードNo.
アウターエレメント	90350032590

- エレメントを洗ったときは、完全に乾かしてください。生乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
- 中性洗剤の水溶液でザブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。

プレクリーナーの掃除のしかた

⚠ 注　意

エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。

プレクリーナーの中にたまったごみは、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時にエアクリーナーも掃除してください。(224ページ参照)

掃除のしかた

プレクリーナー（1）上部のチョウナット（2）を外して、たまっているごみを取り除きます。
(図 4-169)

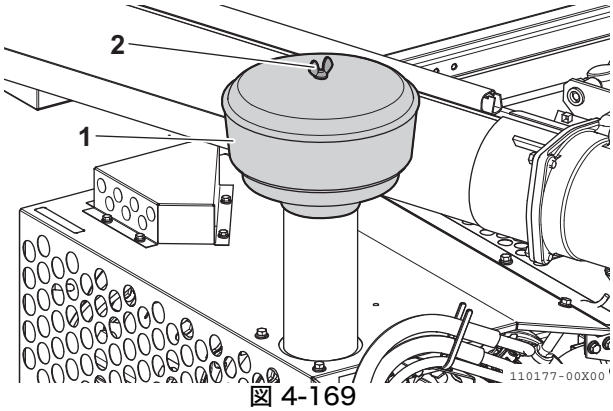


図 4-169

防塵装置の掃除のしかた

吸気口・ロータリースクリーンなどは、防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置です。作業前・後には必ず掃除をしてください。

吸気口の掃除のしかた

1. 防塵カバー（1）取付ボルト M6（2 本）（2）を外します。（図 4-170）

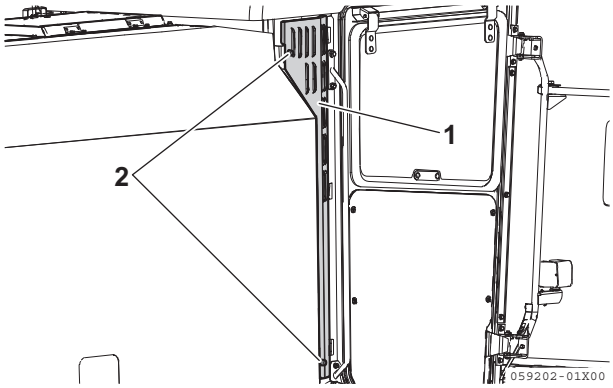


図 4-170

2. 防塵カバーを開いて吸気口の網面を点検します。（図 4-171）
   吸気口の網面にごみが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面をこすってごみを落とします。

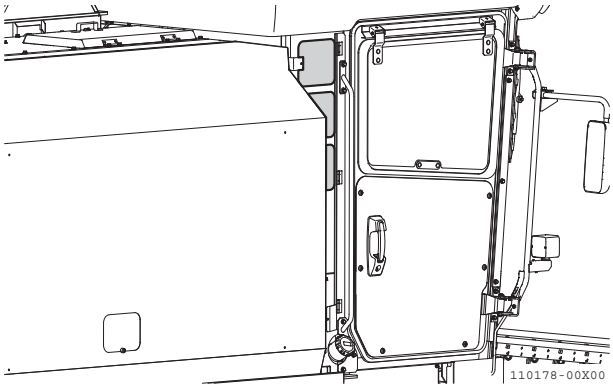
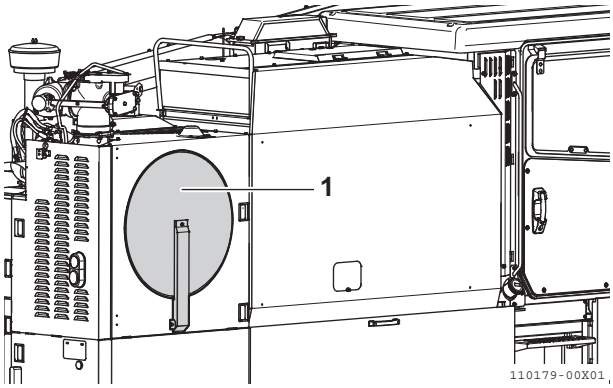


図 4-171

■ ロータリースクリーン

[重要]
吸気口の網面へのごみの付着は常に注意し、ごみが付着していれば掃除するようにしてください。ごみが付着したままにしておくと、エンジン冷却水、および油圧作動オイルの冷却不良の原因になります。

ロータリースクリーン（1）の網面にごみが付着したときは、軽く網面をこすってごみを落としてください。吸引ダクト（2）のごみやホコリを掃除してください。（図 4-172）



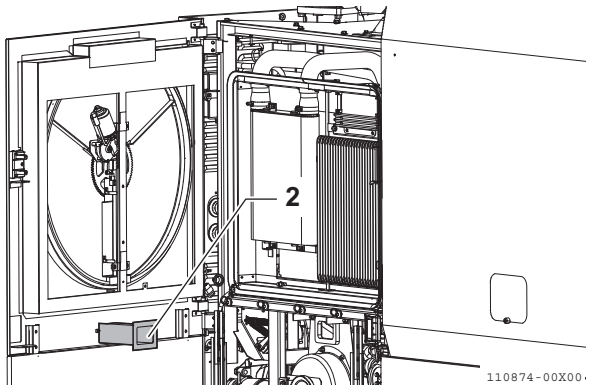


図 4-172

■ エアコン用コンデンサ外気吸入口

[重要]

- 網面やスクリーンへのごみの付着には常に注意し、ごみが付着していれば必ず掃除してください。
- コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

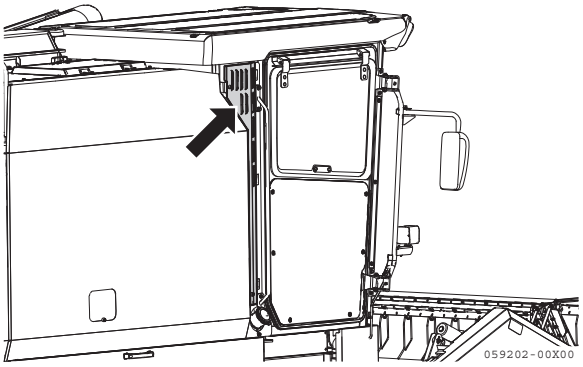


図 4-173 エアコン用コンデンサ外気吸入口

■ エアコン用コンデンサフィン(キャビン室内)

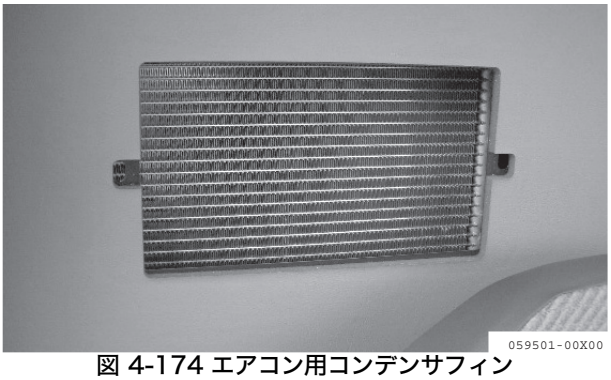


図 4-174 エアコン用コンデンサフィン

インタークーラーフィン・燃料クーラーフィン・オイルクーラーフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

粉塵が特に多い場合は、つぎの要領でラジエータ冷却フィンを掃除してください。

1. エンジン右カバーを開きます。
2. ノブボルト（1）（4本）とM8ボルト（2）（2本）を外します。(図 4-175)

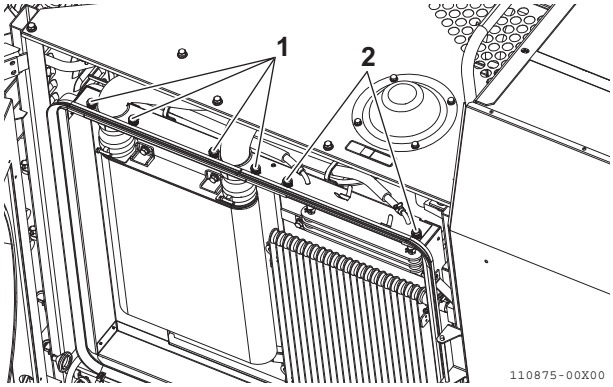


図 4-175

3. HST 用オイルクーラー、燃料クーラー、インタークーラーを固定しているボルト、ナット類を外して開きます。(図 4-176)

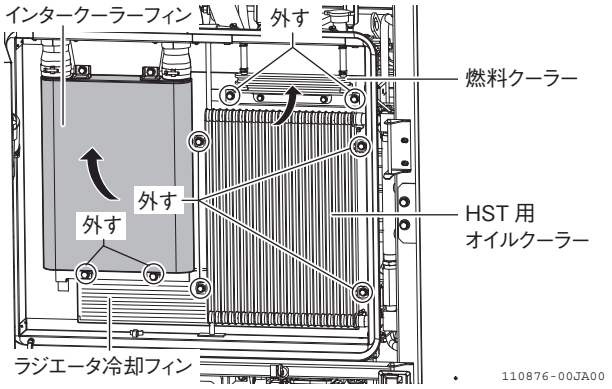


図 4-176

4. 奥側にあるラジエータ冷却フィンと各部フィンに付着しているごみを取り除きます。
5. きれいに掃除したあと、元通りに取り付けます。
6. エンジン右カバーを閉じます。

[重要]

フィンを変形させないでください。

フィルターの掃除のしかた(キャビン室内)

⚠ 警 告

- フィルターの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「OFF」位置にしてください。
- キースイッチが「ON」位置のときに、空気の吸い込み口や吹き出し口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. キースイッチを「OFF」位置にします。
2. ノブネジ（2本）(1) を外します。(図 4-177)

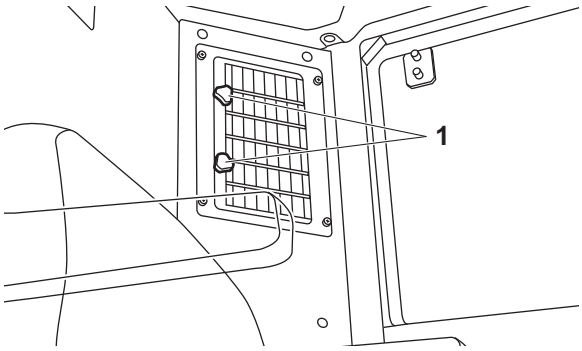


図 4-177

3. フィルターを外して、圧縮空気で洗浄します。(図 4-178)

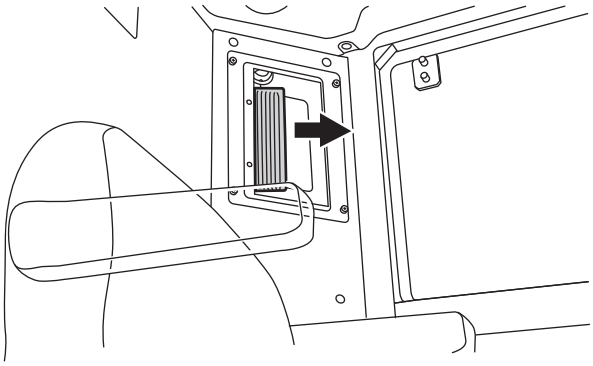


図 4-178

■ 汚れや詰まりが著しい場合

1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄します。
2. 清水でよくすすいだあと、完全に自然乾燥させます。

[重要]

- 洗浄に有機溶剤（ガソリン・シンナーなど）を使用しないでください。
- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

表 4-25 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
エレメント	97280000740

作動油タンクオイルの点検・補給・交換のしかた

HSTは、油圧機器の中でも特に精密で、作動油の管理が性能・寿命に大きく影響します。
作動油タンクオイルの点検・補給・交換は、ステップカバーを開いてから行ってください。(図 4-179)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

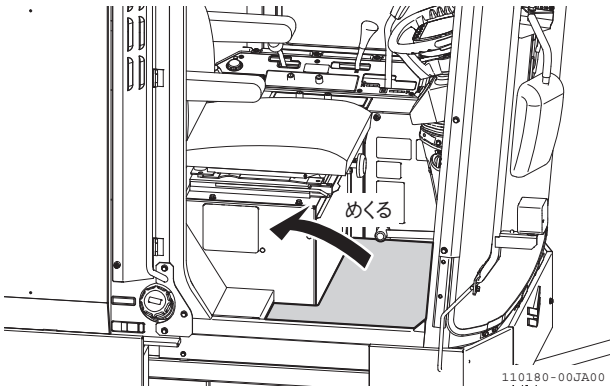


図 4-179

表 4-26 指定オイル・交換時期

指定オイル	交換時期	規定量
耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品 (スーパーハイドロオイル56)	1回目:300時間後 2回目以降:600時間ごと	※全量 35ℓ

※作動油タンクの容量は26ℓ

[参考]

作動油タンクオイルの交換と同時に、HST フィルターの交換も行ってください。(230ページ参照)

点検のしかた

1. オイルゲージ（1）を抜いて、先端をきれいに拭き取ります。(図 4-180)

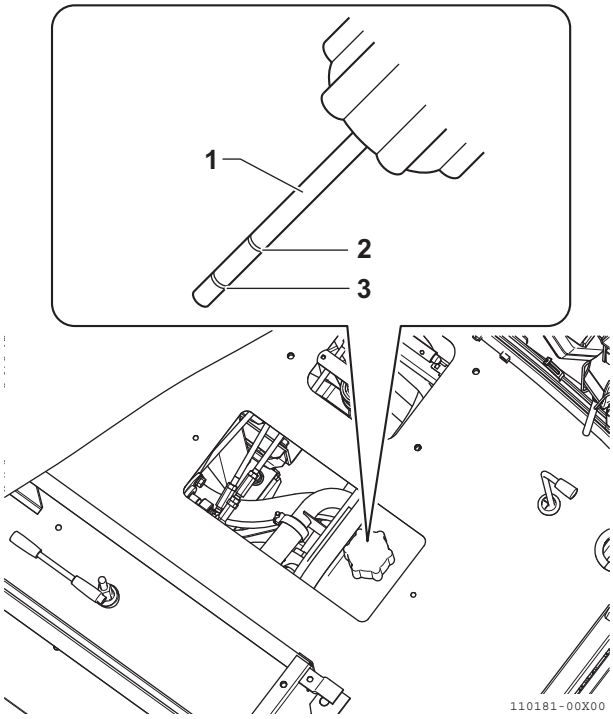


図 4-180

2. オイルゲージを元通りに差し込んだあと、もう一度抜き出して、ゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。
(図 4-180)
3. 点検後は、オイルゲージを元通りに取り付けます。

[参考]
点検時、オイル漏れのないことも確認してください。

補給のしかた

オイルが不足している場合は、給油口（1）から規定量になるまで補給してください。(図 4-181)

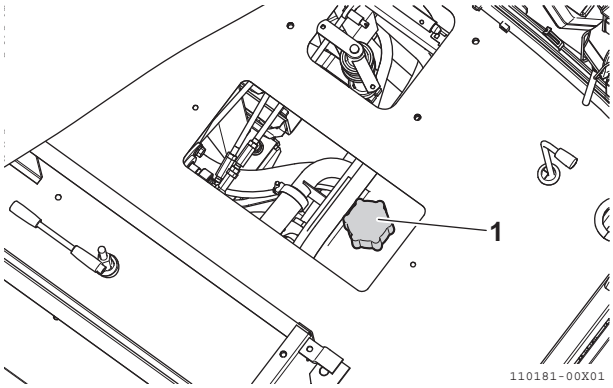


図 4-181

交換のしかた

1. ドレンプラグ（1）の下に、古いオイルを受ける容器を置きます。(図 4-182)

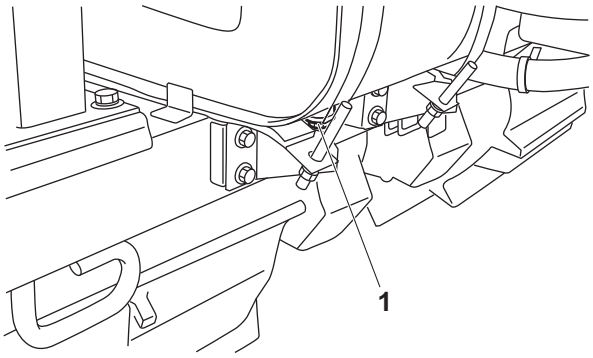


図 4-182

2. 作動油タンクのオイルゲージを外してから、ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]
給油口のオイルゲージを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口から、指定オイルを規定量まで給油します。
5. 給油口にオイルゲージを取り付けます。
6. エンジンを始動して、アイドリング状態（低速回転）で3分程度回します。

7. エンジンを停止して、5分間待ちます。
8. オイルゲージ（1）でゲージの上限（2）と下限（3）の間にオイルがあることを点検します。不足している場合は、補給します。（図 4-183）

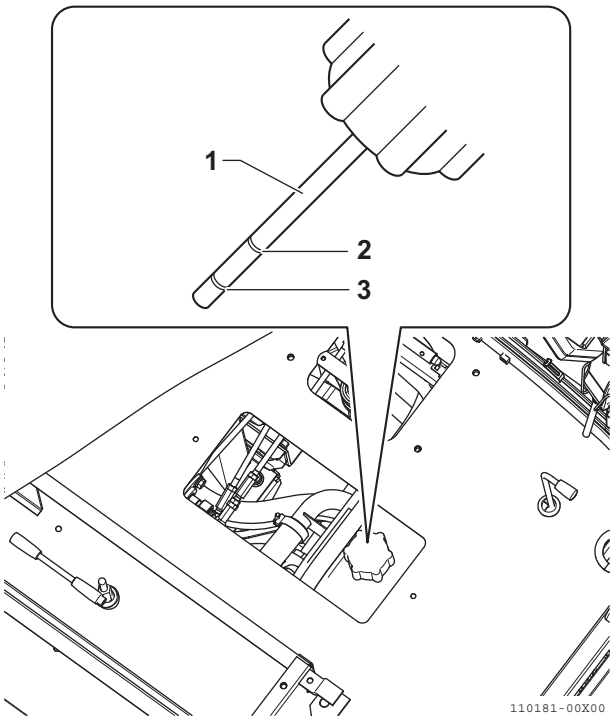


図 4-183

[重要]

- 異質のオイルを混入しないでください。作動不良の原因になります。
- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。処分は、特販店、JAまたは、産業廃棄物業者に依頼してください。

HSTフィルターの交換のしかた

HST フィルターは、作動油中に含まれる小さな異物をこし取ります。HST フィルターは、カートリッジタイプになっていますので、掃除はできません。定期的に交換してください。

表 4-27 HSTフィルター

交換時期	1回目:300時間後 2回目以降:600時間ごと

[参考]

HST フィルターの交換と同時に、作動油タンクオイルの交換も行ってください。（228ページ参照）

交換のしかた

HST フィルターの交換は、作動油タンクのオイルを抜き取ったあとに行ってください。（228ページ参照）

1. カートリッジ（1）を矢印方向（2）に回して外します。（図 4-184）

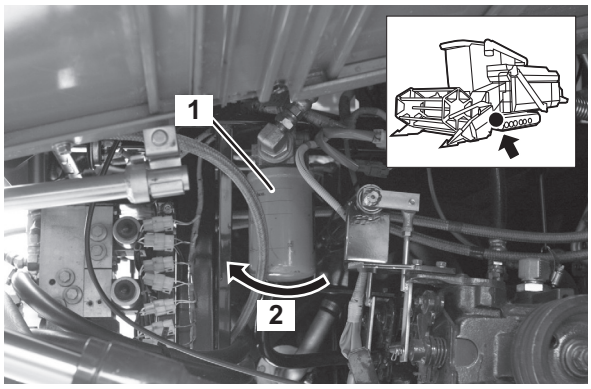


図 4-184

2. 新しい HST フィルターの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布します。
3. HSTフィルターを、ゴムリングが取付部に接触する位置までねじ込んだあと、2/3回転締め付けます。

[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイル漏れを起こす場合があります。
- 交換後は、HSTフィルター取付面からのオイル漏れやにじみがないか、必ず点検してください。
- HSTフィルターは、純正部品をご使用ください。

表 4-28 名称、コードNo.

名　称	コードNo.
HSTフィルター	94690071390

ウォッシャー液の補充のしかた

ウォッシャー液が無くなったときは、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れてください。

1. エンジン右カバー（1）を開きます。（図 4-185）
2. グレンタンク下部カバー（2）を開き、左へスライドさせてカバーを外します。（図 4-185）
3. グレンタンクを開きます。

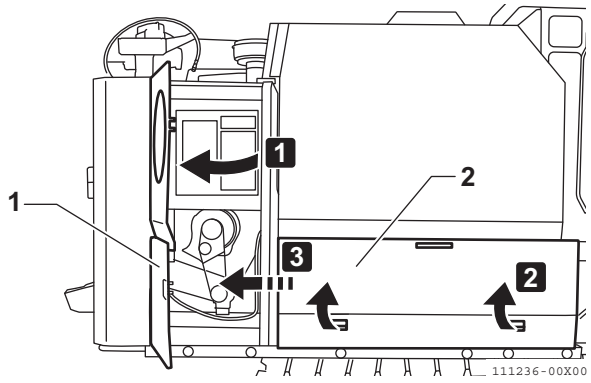


図 4-185

4. ウォッシャータンク（1）にウォッシャー液を入れます。（図 4-186）

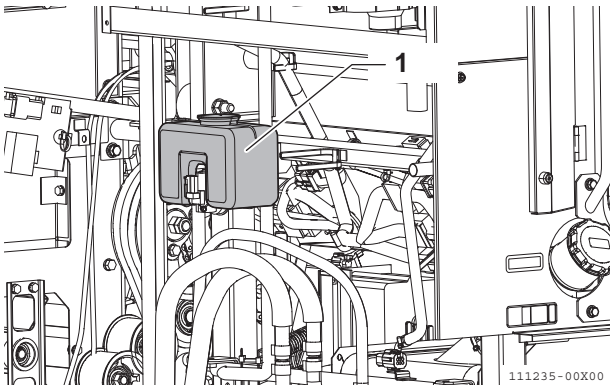


図 4-186

5. 作業終了後、グレンタンクを閉じ、下部カバーを元通りに取り付けて、エンジン右カバーを閉じます。

バッテリーの点検･整備のしかた

⚠ 危　険

- バッテリーを点検するときおよびコンバインから外すときは、必ずエンジンを停止し、ショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーから発生する水素ガスに引火して爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- バッテリーの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、ヤケドや火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- バッテリーの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、ただちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- 急速充電はしないでください。

⚠ 警　告

- バッテリーの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリー液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出るおそれがあります。また、その火花が容器内のガスに引火して破裂し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- バッテリー端子を取り付けるときは、（＋）側を先に取り付け、外すときは（－）側から外してください。ショートによるヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- バッテリーの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- 電解液の地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・溶剤・フィルター・バッテリー・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
  廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。
- バッテリーの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、コンバインの金属部を腐食させます。
- 急速充電はしないでください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリーを使用してください。
- キースイッチを「OFF」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
  ⇒システム破損の原因になるため、キースイッチ「OFF」後10分間は、バッテリーからケーブルを絶対に外さないでください。

表 4-29 バッテリー

指定バッテリー	115D31R

バッテリー液の点検･補給のしかた

各槽のバッテリー液が、上限（1）と下限（2）のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは､蒸留水を補給してください｡(図 4-187)

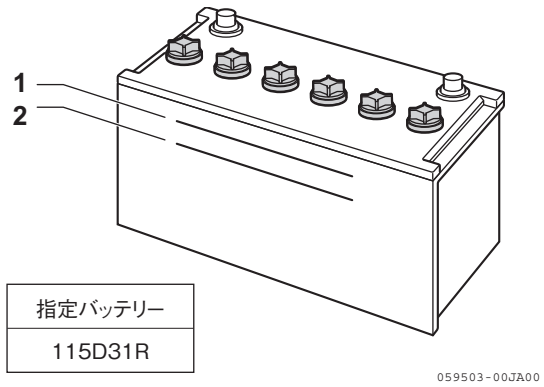


図 4-187

[重要]

- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

[参考]

バッテリーにはインジケータが付いています。
インジケータの表示により、液量と充電状態（バッテリー液比重）を点検できます。
インジケータは、代表として特定セルの状態を表示しています。他のセルの状態を確認することはできないため、バッテリー状態のあくまで「目安」としてください。(図 4-188)

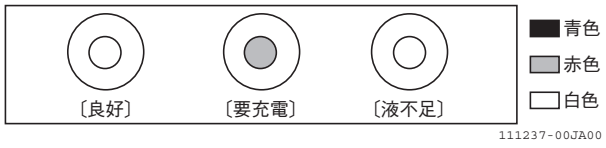


図 4-188 インジケータの見かた

良　好：バッテリー液比重および液量ともに良好です。
要充電：バッテリー液比重が低下しています。
液不足：バッテリー液が不足しています。

※液不足の場合は全セルの液量を確認してください。

交換時期について

交換時期（バッテリー電圧が10.5V以下）になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。（図 4-189）

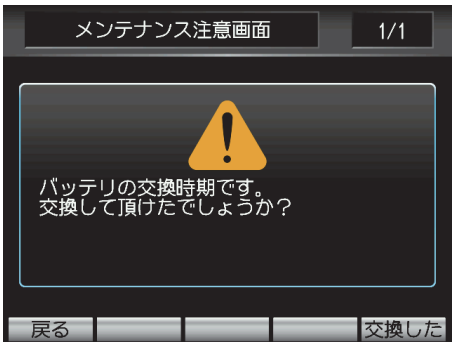


図 4-189

■ 表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「交換した」（スイッチ）を押してください。

■ すぐに交換しない場合

「戻る」（スイッチ）を押してください。メンテナンス情報の表示は、次回キースイッチを「ON」位置にしたときにも表示されます。

バッテリーの外しかた

バッテリーは、エンジン後方にあります。つぎの要領で外してください。

[重要]

キースイッチ「OFF」後、DCU の電源が切れるまで10分間が必要です。

DCU 電源が切れるまでの 10 分間、ドージングモジュール、サプライモジュール、尿素水ホース内部の尿素水を、尿素タンクに戻しているため作動音がします。バッテリーのケーブルを外してこの作動が中断された場合、尿素水がドージングモジュール、サプライモジュール、尿素水ホース内部に残留し、凍結による体積膨張や、乾燥による尿素沈着（デポジット）によってこれらの部品が故障する原因になります。このため、キースイッチ「OFF」後 10 分間はバッテリーを外さないでください。

1. エンジン後カバーを開きます。（173ページ参照）
2. クランプ（4カ所）（1）を外します。（図 4-190）

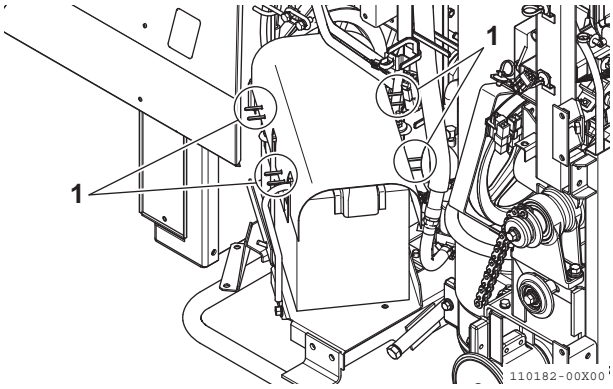


図 4-190

3. バッテリーを固定している、取付ナット（1）（4個）を外して、バッテリー固定金具を外します。（図 4-191）

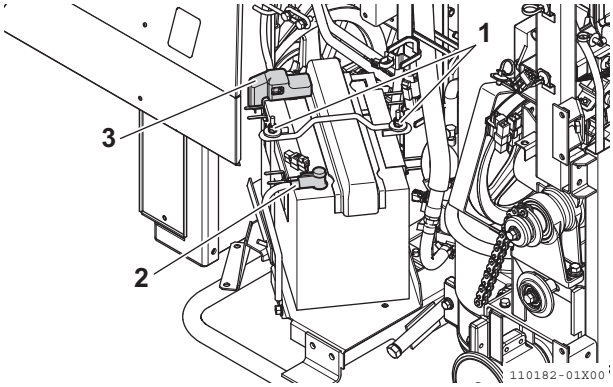


図 4-191

4. バッテリーコードの（−）端子（2）を外したあと、（+）端子（3）を外します。（図 4-191）
5. バッテリーを抜き出します。
6. バッテリーの取り付けは、逆の手順で行います。
7. 作業終了後、カバーを元通りに閉じます。

[重要]

キースイッチを「OFF」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。

⇒システム破損の原因になるため、キースイッチ「OFF」後10分間は、バッテリーからケーブルを絶対に外さないでください。

補充電のしかた

⚠ 危　険

急速充電はしないでください。

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、つぎの要領で補充電をしてください。

1. バッテリーを外します。(前項参照)
2. 液口栓を外し、バッテリーの（＋）を充電器の（＋）に、バッテリーの（－）を充電器の（－）に接続します。
3. 3アンペア程度で8～10時間行います。
4. 充電が完了したら、充電用の接続を外し、液口栓を取り付けます。
5. バッテリーをコンバインに､元通りに取り付けます。

[重要]

- **急速充電はしないでください。**
- **取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などをふき取ってください。また、取り付けあとは、ターミナル部にグリスを塗布してください。**
- **バッテリーの（＋）ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。**
- **充電完了後は、液口栓を確実に締め付けて取り付けてください。**

バッテリーの手入れのしかた

バッテリー端子が腐食していたり、白い粉が付いている場合は、お湯で掃除し、グリスを塗布してください。

バッテリーの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリーは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

パイプ類の点検のしかた

⚠ 警　告

- **燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油の漏れは厚紙や板などを使って点検してください。油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。**
- **作業前・作業後に、燃料パイプの劣化やキズによる燃料漏れがないか点検し、燃料漏れのある燃料パイプは交換してください。燃料漏れがあると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料漏れ、水漏れがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでいないか点検してください。
燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。
燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。(224ページ参照)

[重要]

- **燃料パイプを交換するときは、ホース、またはサプライポンプに異物が入らないように注意してください。サプライポンプが故障するおそれがあります。**
- **エンジンオイルのドレンホースも必ず点検してください。エンジンオイルのドレンホースが破損していると､エンジンの焼き付きの原因になります。**

電気配線の点検のしかた

⚠ 警　告

- ワイヤーハーネスおよびバッテリーケーブルが損傷しているとショートを起こします。
- バッテリーや配線に付着しているわらくずやごみは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。わらくずやごみが付着していますと、火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれやキズ、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、特販店、またはJAで修理してください。配線コードは、傷みがなくても 50 時間使用または、1 年ごとに定期点検を受けてください。

ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換のしかた

⚠ 警　告

ヒューズおよびスローブローヒューズは、必ず規定アンペアのものを使用してください。
火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ヒューズの交換のしかた

1. エンジン後カバーを開いて、ヒューズを点検します。（173ページ参照）

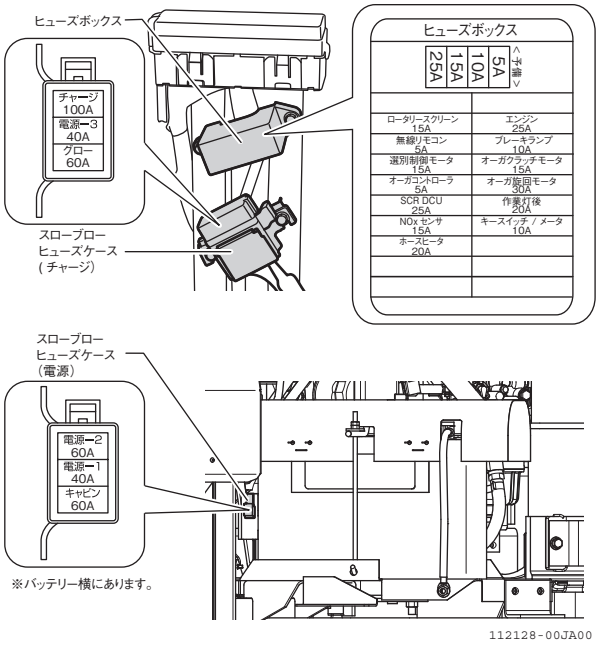


図 4-192 ヒューズの交換

2. ヒューズが切れていれば、規定容量のものと交換します。

[重要]

規定容量のヒューズと交換してもすぐに切れてしまう場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA で点検を受けてください。

スローブローヒューズ60A・100Aの交換のしかた

1. バッテリーコードの（−）端子を外します。
2. スローブローヒューズケース（1）を固定しているボルト（2）2本を外します。(図 4-193)

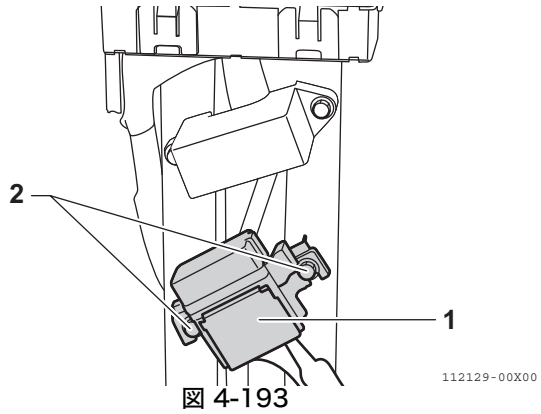


図 4-193

3. ヒューズケース両側面のカバー（1）を開き、スローブローヒューズを固定しているボルト（2）(2本）を外します。(図 4-194)

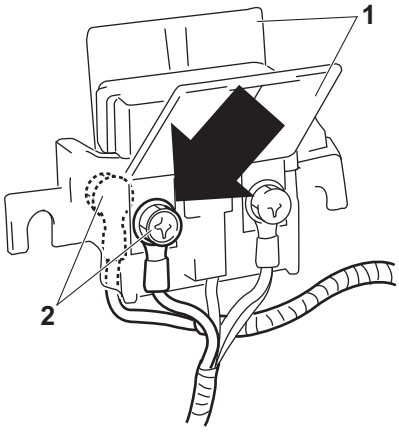


図 4-194

[参考]

ボルト（2本）は、スローブローヒューズごとにあります。

4. ヒューズケース上面のカバーを外し、スローブローヒューズを交換し、元通りに取り付けます。

[参考]

スローブローヒューズはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したらお買い上げいただいた特販店、またはJAで点検を受けてください。

ヒューズボックス(キャビン室内)

シート下のノブネジ（1）(2本）を外し、カバー（2）を外してください。(図 4-195)



図 4-195

刈刃の調節のしかた

⚠ 警　告

刈取部を上げて点検・調節・整備をするときは、必ずエンジンを停止して、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

刈刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。けがをするおそれがあります。

[重要]

刈跡がそろわなくなったときは、刈刃のすき間を調節してください。

表 4-30 調節時期

調節時期	100時間または1シーズンごと

調節のしかた

1. リールを最上げにします。
2. 受刃（1）と刈刃（2）上下面のすき間は、受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか、締付ナット M10 をゆるめて、シムで調節します。（図 4-196）

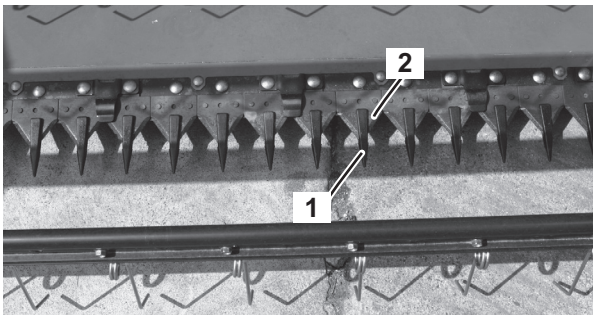


図 4-196

[参考]

- シムの位置については、図 4-197を参考にしてください。
- 受刃と刈刃上面……最大すき間1.2 mm
- 受刃と刈刃下面……すき間0.3 mm～0.8 mm

3. 刈刃の前後すき間は、締付ナット M10 をゆるめて、摩擦板を前後に動かして、最大0.8 mmに調節します。（図 4-197）
4. 締付ナットM10を締め付けて固定します。（図 4-197）

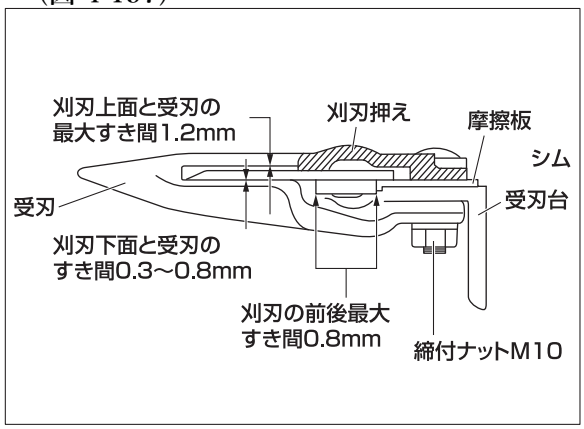


図 4-197 調節のしかた

[重要]

刈刃には食品衛生上、食品機械用潤滑スプレーを使用して、たっぷり注油してください。
シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やわらくずを取り除き、注油してください。

プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた

⚠ 警　告

プラットホームオーガ(1)を手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
(図 4-198)

調節のしかた

1. リールを最上げにしリールを固定します。
2. プラットホーム底板（2）とスクリューコンベア（3）とのすき間が、稲・麦の場合は6～8 mm、大豆の場合は 12 ～ 15 mm になるように調節します。（図 4-198）

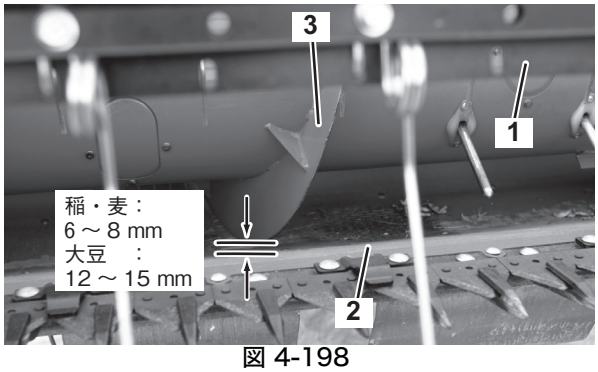


図 4-198

〈プラットホーム左側〉

オーガハンガ調節ボルト（1）で調節します。
(図 4-199)

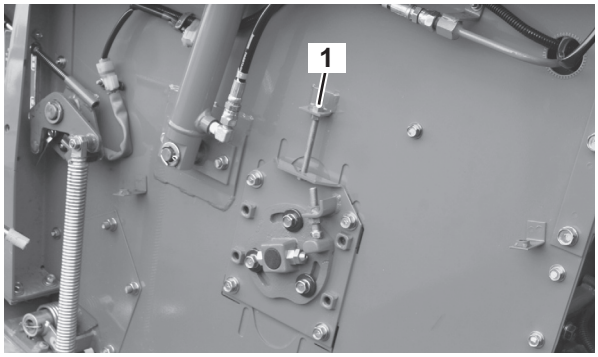


図 4-199

〈プラットホーム右側〉

オーガハンガ調節ボルト（1）で調節します。
(図 4-200)

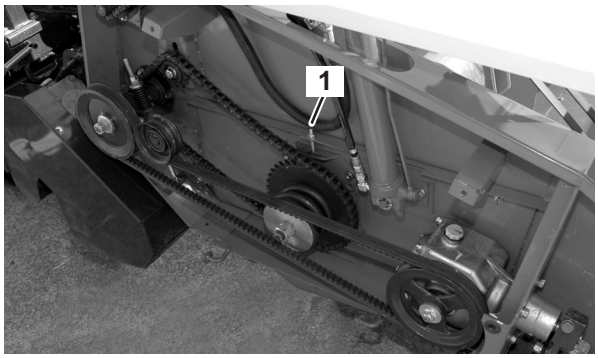


図 4-200

ストリッパの調節のしかた

ボルト2本をゆるめて、すき間が1～5 mmになるようにストリッパを調節します。
※両側にあります。(図 4-201)

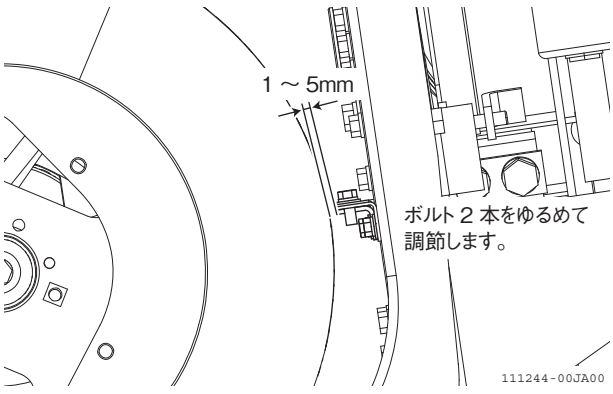


図 4-201

リール変速ベルトの交換のしかた

⚠ 警　告

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

調節のしかた

1. リール変速ベルトカバー（1）を外します。
(図 4-202)

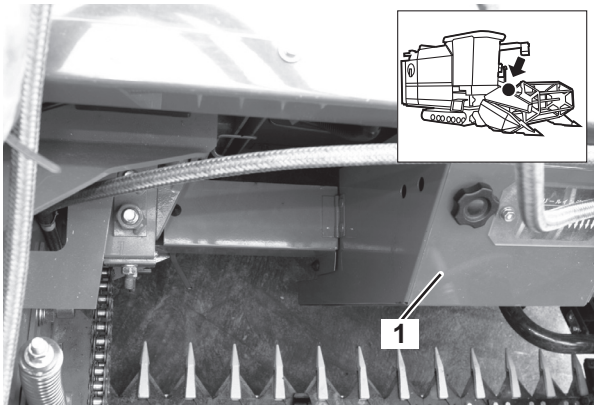


図 4-202

2. 軸継手のスナップピン・平頭ピン（1）を外し、軸継手をプラットホーム側へ寄せて、軸継手を外します。(図 4-203)
3. 止めボルト（2）(2本) と平頭ピン・スナップピンを外して、変速ヨーク（3）を外します。
(図 4-203)
4. リール変速ベルト(4)を交換します。(図 4-203)

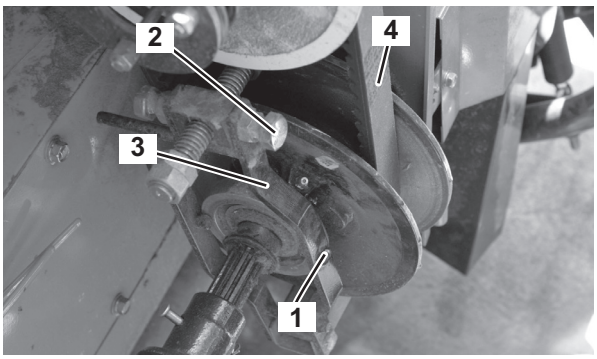


図 4-203

5. 作業終了後、カバーは元通りに取り付けます。

プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節のしかた

⚠ 警　告

プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

点検のしかた

1. リールを最上げにします。
2. プラットホームオーガを手で回転させ、中央部のオーガフィンガ（1）が、プラットホーム底板（2）に最も近い位置で、底板からフィンガ先端までの寸法を測定し、4〜6 mmになっていることを確認します。（図 4-204）

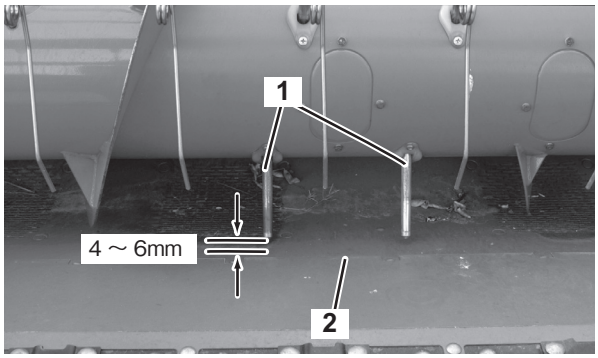


図 4-204

調節のしかた

1. 基準範囲内（4〜6 mm）にないときは、ボルト（1）（3 本）と左のフィンガアジャスタ（2）のロックナット（3）をゆるめます。（図 4-205）

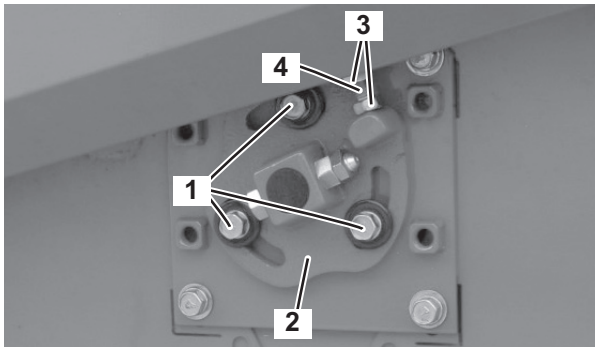


図 4-205

2. フィンガアジャスタを回転させて調節します。
3. ストッパボルト（4）で固定します。（図 4-205）

プラットホームオーガリミットクラッチの点検･調節のしかた

刈取サイドカバー右を外して（167ページ参照）、つぎの点検・調節をしてください。点検・調節後は元通りに取り付けてください。

点検のしかた

リミットクラッチバネ（1）のバネ長（4）が標準ヘッダーおよびワイドヘッダーの場合は 63 〜 65 mm、スーパーワイドヘッダーの場合は59〜61 mmであることを確します。（図 4-206）

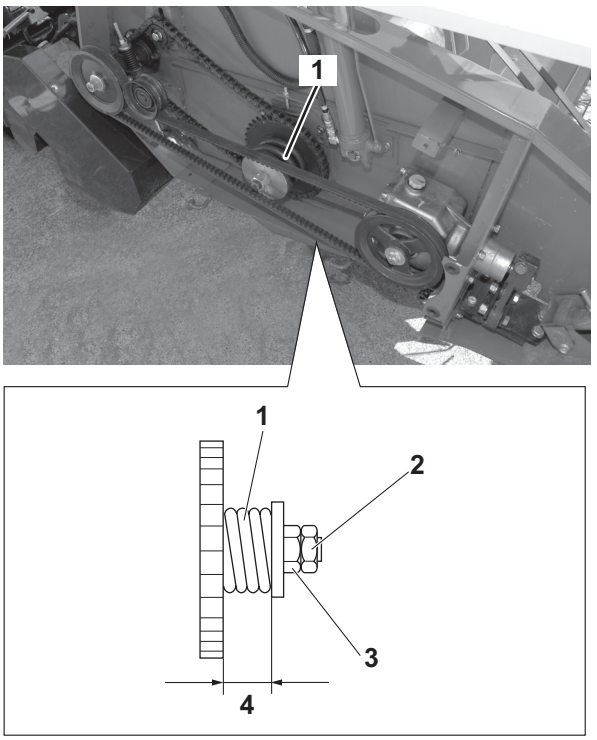


図 4-206

調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-206）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長（4）を調節します。（図 4-206）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

リール調節のしかた

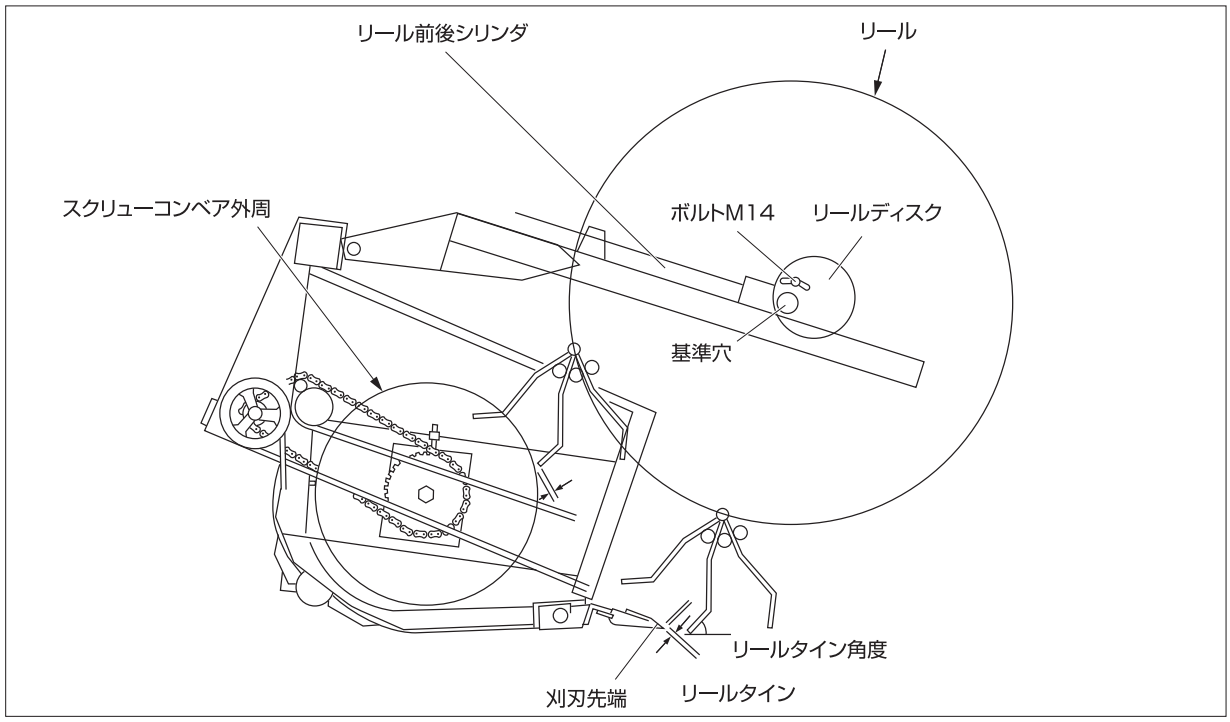


図 4-207 リール調節のしかた

刈刃上面のリールタイン先端のすき間調節のしかた

1. ボルト（1）M14をゆるめます。(図 4-208)

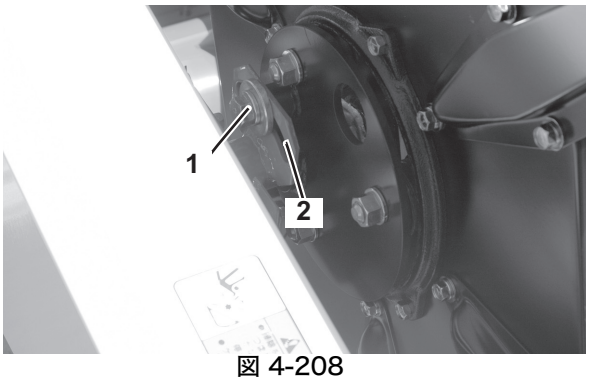


図 4-208

2. ボルトM14の中心とリールブラケットRの長穴部（2）の中心が合うように、リールディスクを動かします。(図 4-208)
3. ボルトM14を締め付けます。
4. エンジンを始動します。
5. リール前後・リール速度スイッチを「後」側にしてリールを後方へ移動し、リール高さ調節スイッチを「下降」側にして、リールをいっぱいまで下げます。
6. エンジンを停止します。
7. 刈刃（1）上面とリールタイン（2）先端のすき間が、刈刃先端で 10 ～ 20 mm になるように、リール上下シリンダ（3）のアイボルト（4）で調節します。(図 4-209)

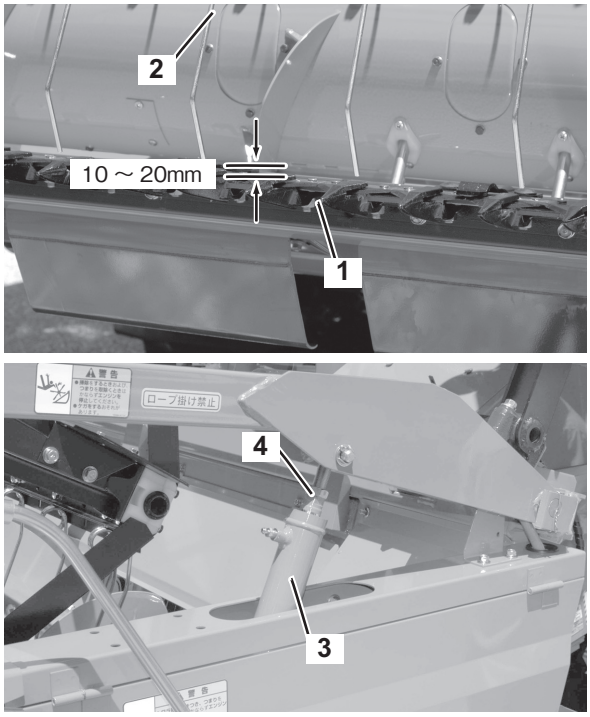


図 4-209

8. リールを回転させて、プラットホームオーガのスクリューコンベア（1）の外周とリールタイン（2）先端のすき間が、10〜20 mmでスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認します。（図 4-210）

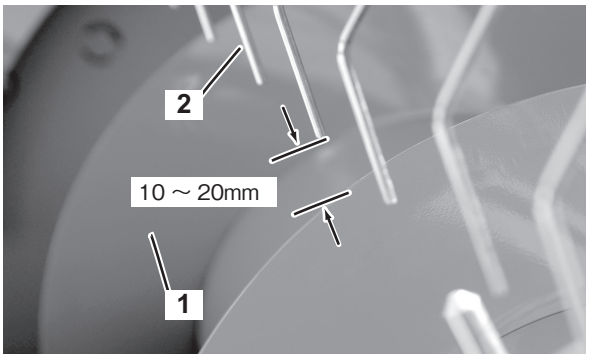


図 4-210

スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、適正でない場合の調節のしかた

1. ボルト（1）M14 をゆるめ、すき間が 10 ～ 20 mmで、スクリューコンベア（2）の外周と接触しないように調節します。（図 4-211）

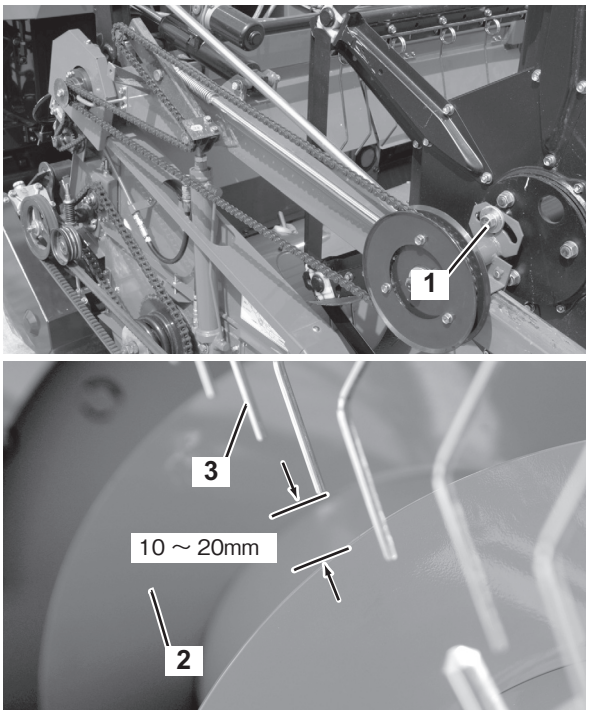


図 4-211

2. ボルトM14を締め付けます。
3. 再度、刈刃上面とリールタイン（3）先端のすき間を確認します。（図 4-211）
   このとき、リールタインとオーガフィンガが接触し、音がでる場合は、リールタインが当たらないように、リールタインを左右方向に動かします。

倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合

1. リールディスクの位置を前に動かし、タイン角度を小さくします。（240ページ参照）
2. 小さくしすぎると、プラットホームオーガと当たる場合があります。このときはリールを少し前へ出します。

立毛した作物で、リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合

リールディスクを後に動かし、タイン角度を大きくします。（240ページ参照）

各部チェンの点検･調節のしかた

フィーダチェン

⚠ 警 告

刈取部を上げて作業するときは､刈取部ストッパで刈取部を固定してください｡固定しないと､刈取部が急に下がり､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検のしかた

1. FHソウジカバー（1）を外します。(図 4-212)

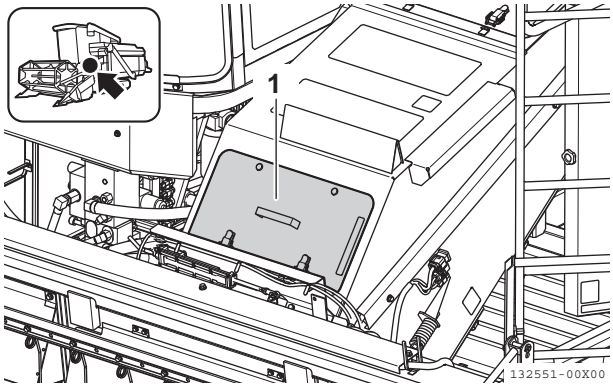
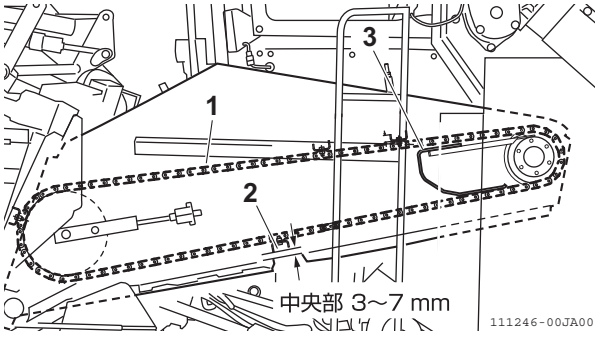


図 4-212

2. フィーダチェン（1）を手で回し、スラット（2）をフィーダハウスドラム下部の位置にしたとき、スラットとフィーダハウス底板のすき間寸法を確認します。(図 4-213)

中央部……すき間3～7 mm



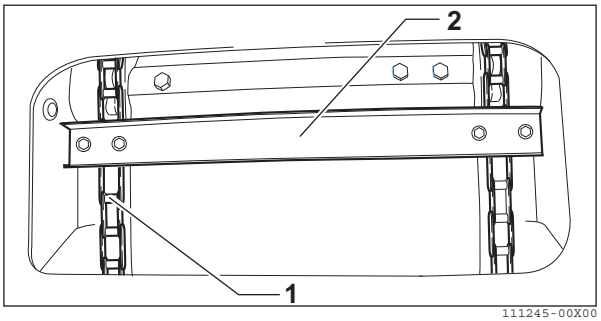


図 4-213

■ 中央部の調節のしかた

調節は、左右同時に行います。フィーダハウスドラムテンション固定ボルト（1）をゆるめて、調節ナット（2）で調節します。(図 4-214)

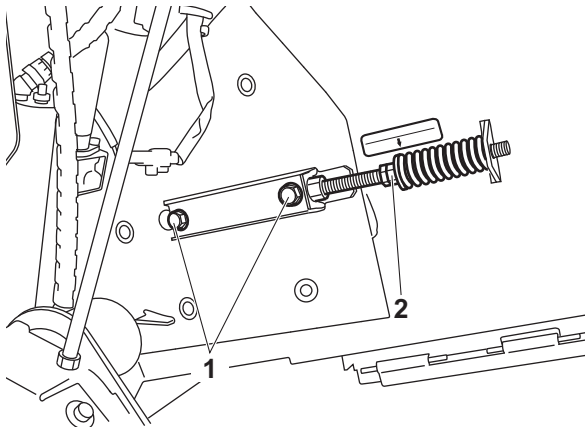


図 4-214

1. FHチェンササエバネ（1）の板厚が1 mm以上であることを確認します。(図 4-215)

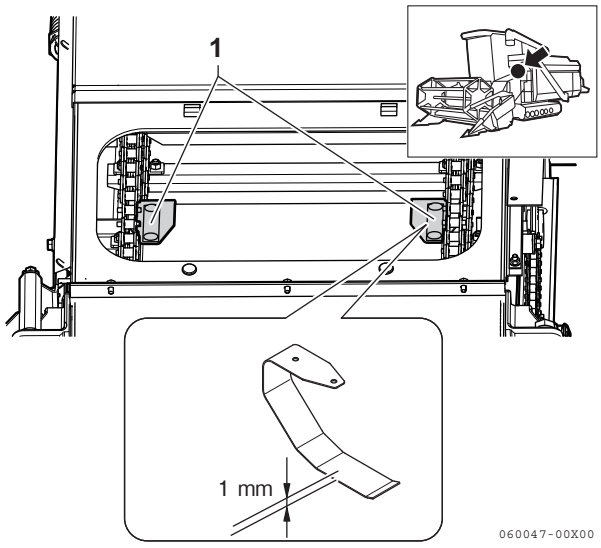


図 4-215

2. 基準範囲内（1 mm以上）にないときはFHチェンササエバネの左右を入れ替えます。
3. 調節終了後、カバーを元通りに取り付けます。

リールカウンタチェン

リールチェンカバーと刈取サイドカバー右を外して（167ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

チェン（1）の中央を軽く指で押さえたときのたわみ量（2）が、10〜16 mmにあることを確認してください。（図 4-216）

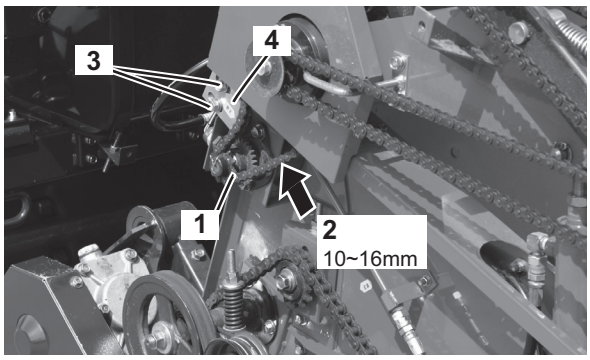


図 4-216

■ 調節のしかた

1. ロックボルト（3）M8（2本）をゆるめます。（図 4-216）
2. テンショナ（4）を移動させてチェンを張ります。（図 4-216）
3. ロックボルトを締め付けて固定します。

プラットホームオーガチェン

刈取サイドカバー右を外して（167ページ参照）、つぎの点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

プラットホームオーガチェン（1）の中央を指で押したとき、たわみ量（2）が14〜20 mmにあることを確認します。（図 4-217）

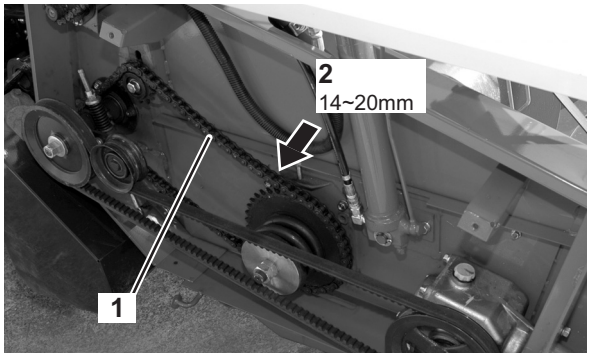


図 4-217

■ 調節のしかた

1. ロックナット（1）をゆるめます。（図 4-218）

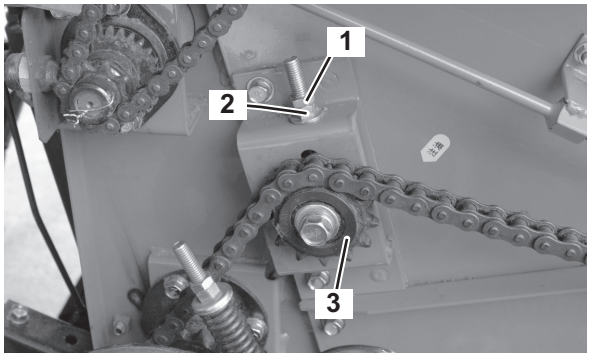


図 4-218

2. 調節ナット（2）を回して、テンションプーリ（3）を調節してチェンを張ります。（図 4-218）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

刈取駆動チェン

■ 点検のしかた

1. 座金（1）とカラーのすき間が、0～1 mmにあることを確認します。(図 4-219)
2. フィーダハウス右側の一番前のチェンの中央を軽く指で押さえたときのたわみ量が、5 ～ 11 mmであるか確認します。(図 4-219)

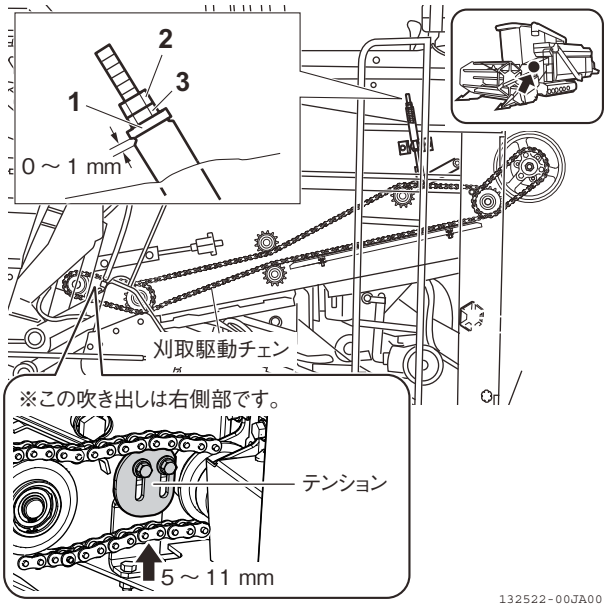


図 4-219

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-219)
2. 調節ナット（3）を回して、座金とカラーのすき間を調節します。(図 4-219)
3. ロックナットを締め付けて固定します。
4. 刈取駆動チェンがたるんでいる場合は、テンションで調整します。

バケットチェン

ベルトカバーを外して、つぎの点検・調節をします。点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

座金（1）とカラーの間が、0～0.5 mmにあることを確認します。(図 4-220)

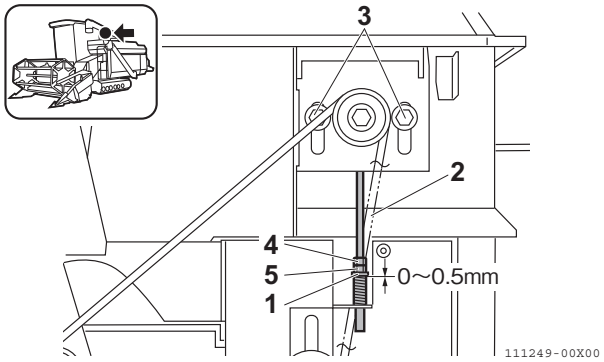


図 4-220

■ 調節のしかた

1. レベリングディスクベルト（2）を外します。(図 4-220)
2. バケット左右のボルト（3）M10×20（2本）をゆるめます。(図 4-220)
3. ロックナット（4）をゆるめます。(図 4-220)
4. 調節ナット（5）を左右交互に回して、チェンを引っ張ります。(図 4-220)
5. 座金とカラーのすき間を調節します。
6. ロックナットを締め付けて固定します。
7. バケット左右のボルト M10×20（2本）を締め付けて固定します。

[参考]

調節後には、バケットチェンのたわみ量を昇降機内部の点検口から確認してください。

チェンを指で、50〜60 mmにあることを確認してください。(図 4-221)

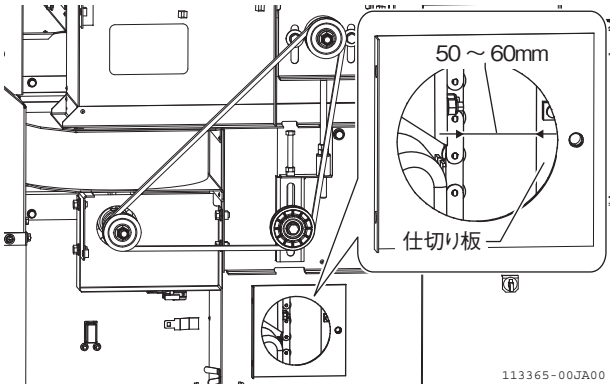


図 4-221

グレン駆動チェン

■ 点検のしかた

チェン (1) の中央を軽く指で押さえたときのたわみ量 (2) が、14〜20 mmにあることを確認します。(図 4-222)

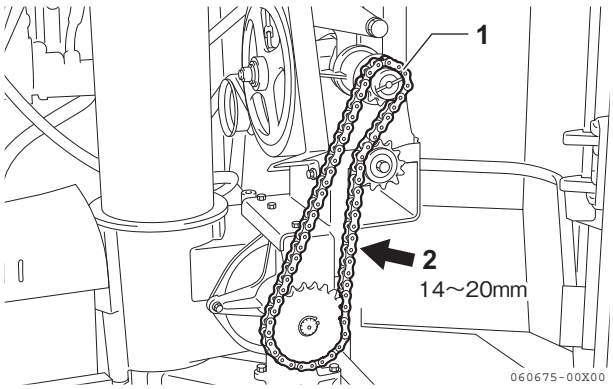


図 4-222

■ 調節のしかた

1. ロックボルトM8 (1本) をゆるめます。
2. テンショナを移動させてチェンを張ります。
3. ロックボルトを締め付けて固定します。

セカンドモア駆動チェン

別冊のセカンドモア取扱説明書を参照してください。

各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（308ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

[参考]

ベルトの位置を探すときの参考にしてください。

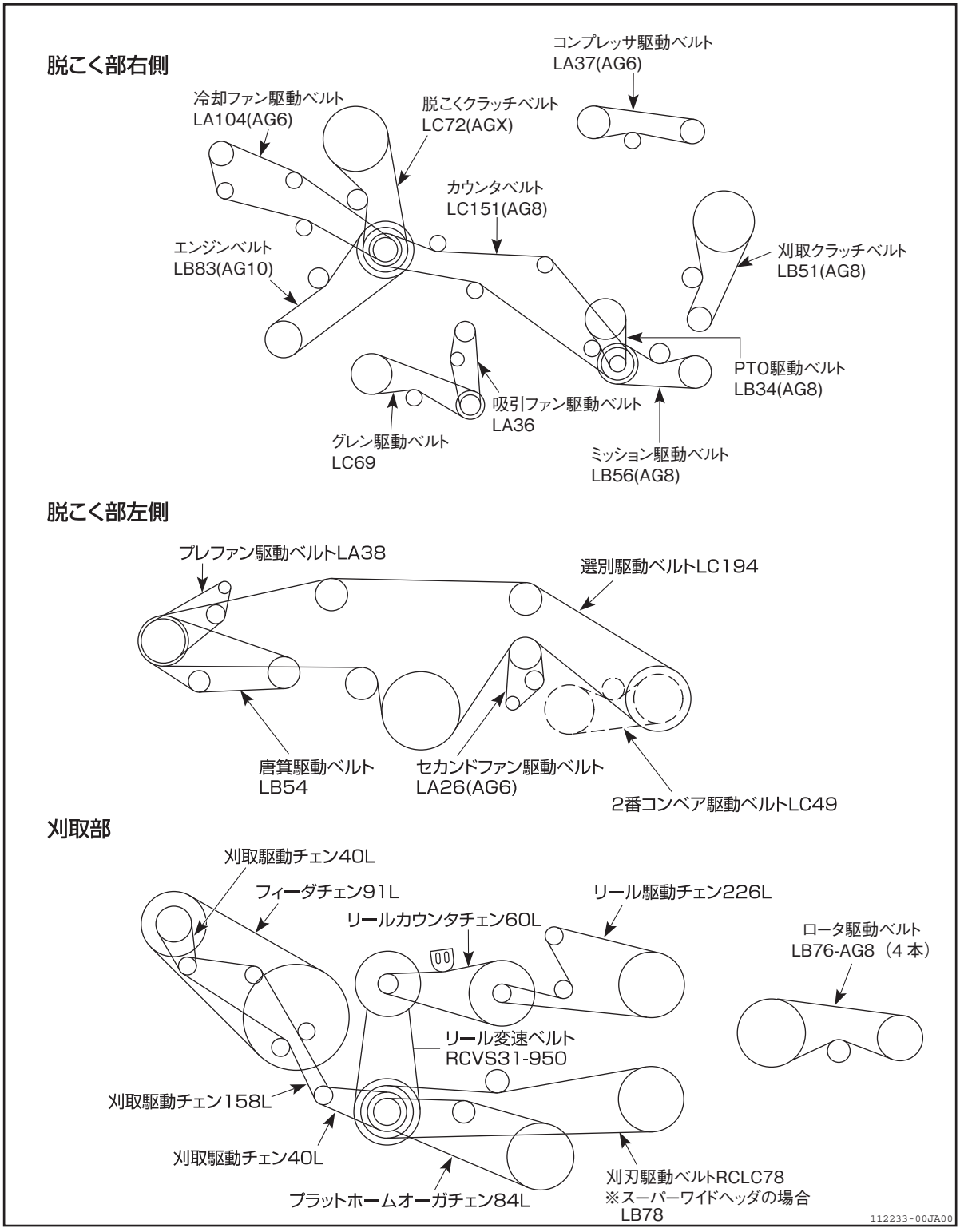


図 4-223 各部ベルト

2番駆動ベルト

点検・調節後は元通りに取り付けてください。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、90 〜 94 mmにあることを確認します。(図 4-224)

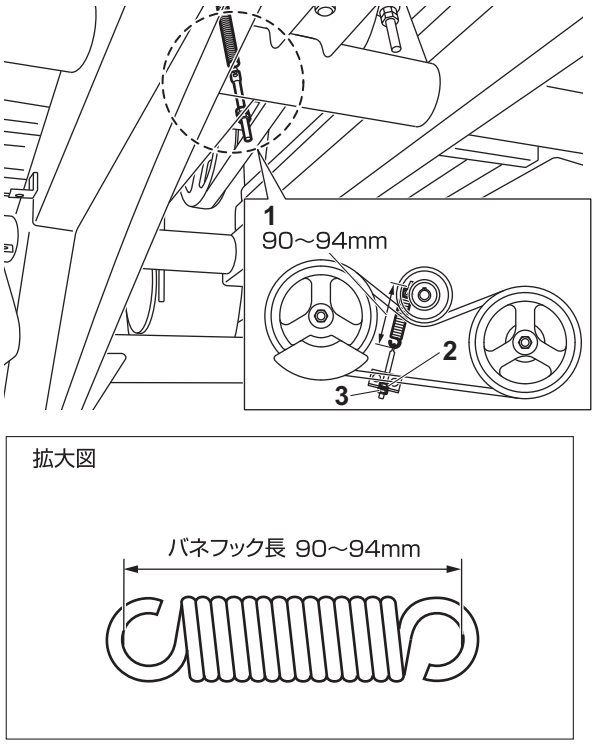


図 4-224

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-224)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-224)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

選別駆動ベルト

脱こく左前カバーを外して（172ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、151〜155 mmにあることを確認します。(図 4-225)

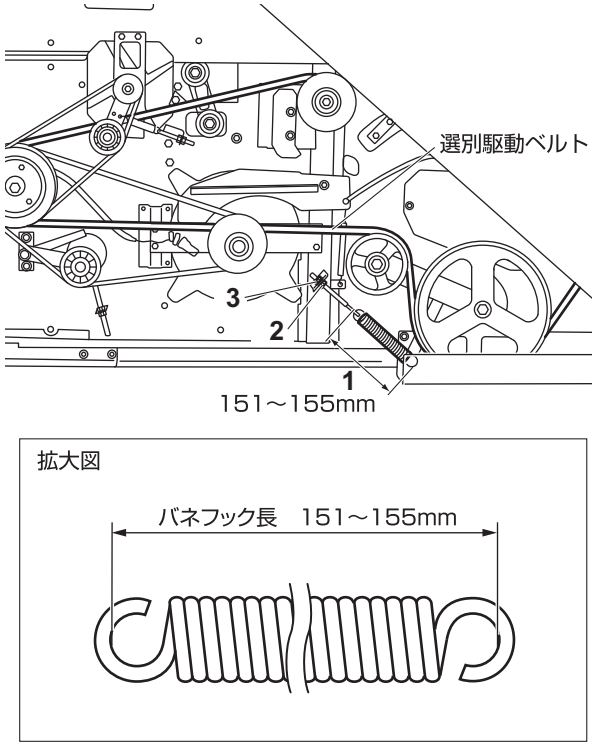


図 4-225

■ 調節のしかた

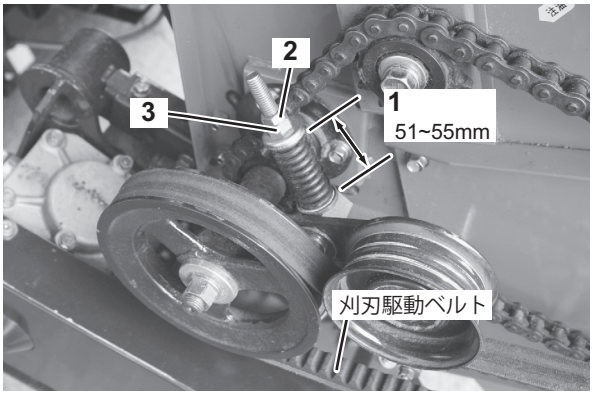
1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-225)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-225)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

刈刃駆動ベルト

刈取サイドカバー右を外して（167ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネ長（1）が、51～55 mmにあることを確認してください。(図 4-226)



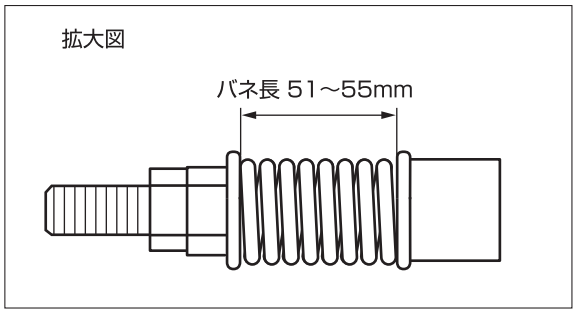


図 4-226

■ 調節のしかた

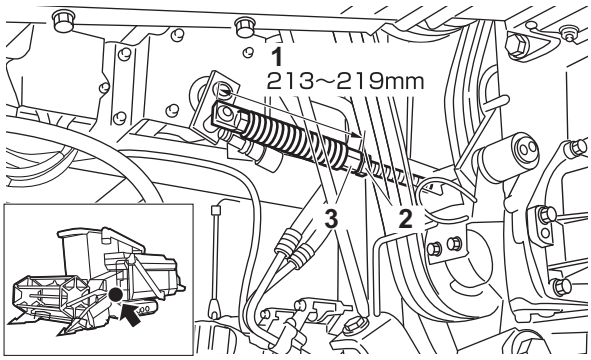
1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-226)
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。(図 4-226)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

刈取駆動ベルト

刈取部を上げて刈取部ストッパで固定し、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. 作業クラッチレバーを「刈取」位置にします。
3. テンションバネの金具を含む全長（1）が、213～219 mmにあることを確認します。(図 4-227)



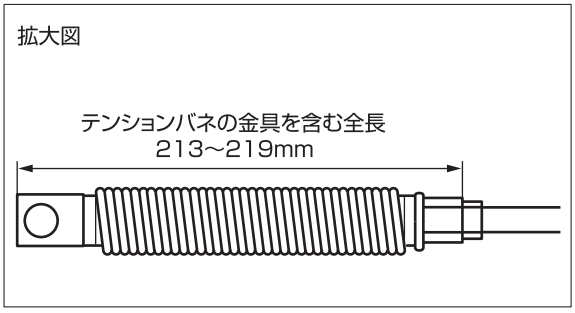


図 4-227

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-227)
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。(図 4-227)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

[重要]
点検・調節後は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。

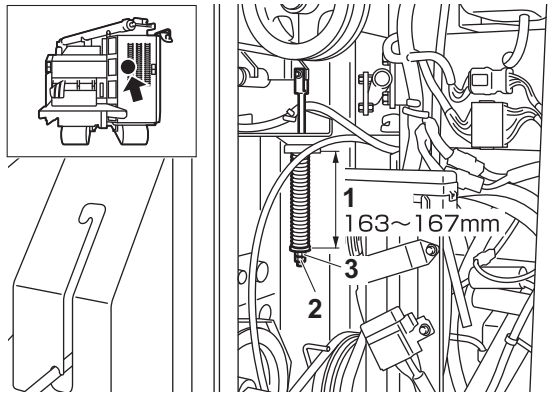
ロータ駆動ベルト

エンジン後カバーを開き（173ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネ長（1）が、つぎの寸法であることを確認してください。（図 4-228）

- 稲・麦・大豆作業時……163～167 mm



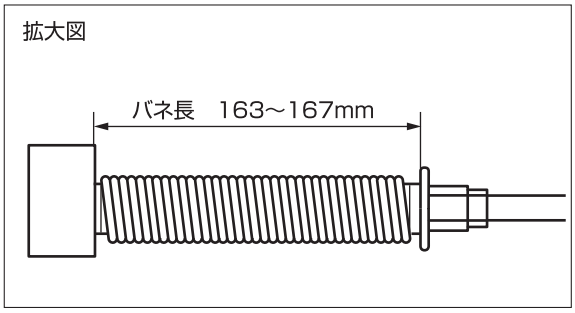


図 4-228

■ 調節のしかた

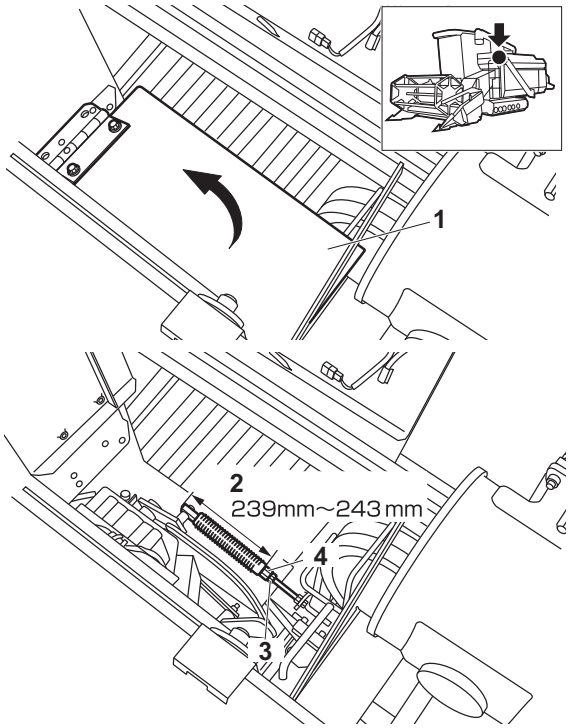
1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-228）
2. 調節ナット（3）を回して、バネ長を調節します。（図 4-228）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

脱こく駆動ベルト

グレンタンクを開き、カバー（1）を開けて、つぎの点検・調節をします。（図 4-229）
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

1. キースイッチを「ON」位置にします。
2. 作業クラッチレバーを「脱こく」位置にします。
3. テンションバネの金具を含む全長（2）が、239～243 mmにあることを確認します。（図 4-229）



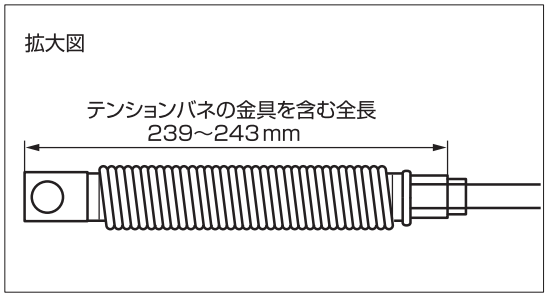


図 4-229

■ 調節のしかた

1. ロックナット（3）をゆるめます。（図 4-229）
2. 調節ナット（4）を回して、テンションバネの金具を含む全長を調節します。（図 4-229）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

[重要]
点検・調節後は、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。

グレン駆動ベルト

エンジン後カバーを開いて（173ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに閉じます。

■ 点検のしかた

1. エンジンを始動して、オーガをオーガ収納位置からキャビンを越えるまで移動させます。(82ページ参照)
2. 一度エンジンを停止して、再びキースイッチを「ON」位置にします。
3. 排出オーガクラッチスイッチを押して「入」にします。
4. テンションバネのバネフック長 (1) が、122〜126 mmにあることを確認します。(図 4-230)

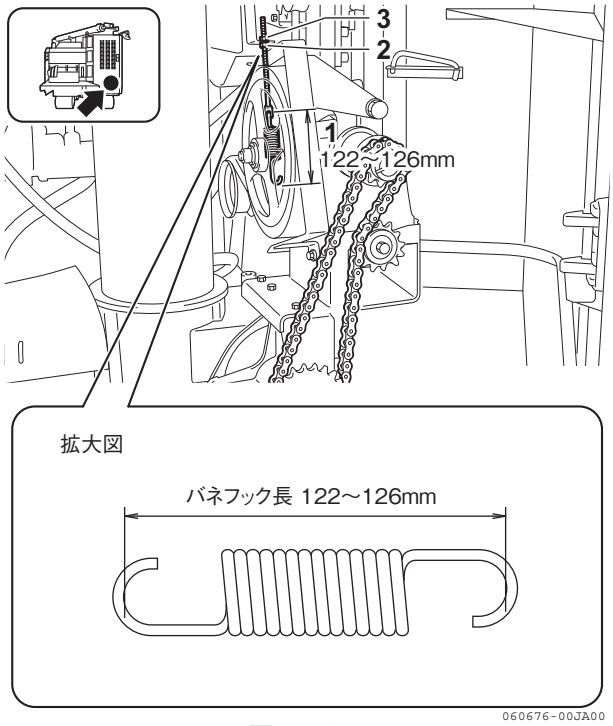


図 4-230

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）(2カ所）をゆるめます。(図 4-230)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-230)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

[重要]

- 点検・調節後は、必ず排出オーガクラッチスイッチを「切」にして、キースイッチを「ON」位置にしてください。
- 排出オーガが、オーガレストの収納位置付近にあるときは、オーガ先端およびオーガマルチリモコンの排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押しても、オーガクラッチは「入」になりません。

エンジンベルト

エンジン後カバーを開いて（173ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りに閉じます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネ長（1）が、143〜147 mmにあることを確認します。(図 4-231)

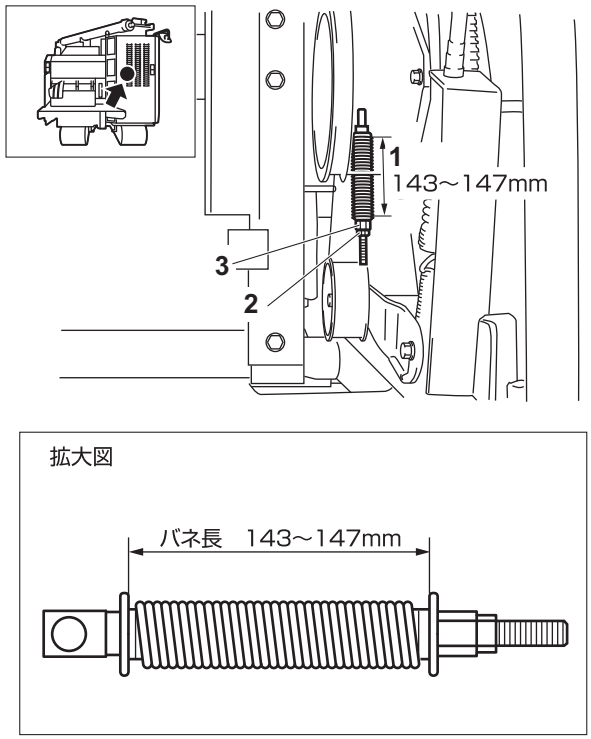


図 4-231

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-231)
2. 調節ナット (3) を回して、バネ長を調節します。(図 4-231)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

ジェネレータ駆動ベルト

エンジン右カバーを開いて（167ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに閉じます。

■ 点検のしかた

ベルト（1）の中央を軽く指で押さえたとき、たわみ量（2）が10〜14 mmにあることを確認します。(図 4-232)

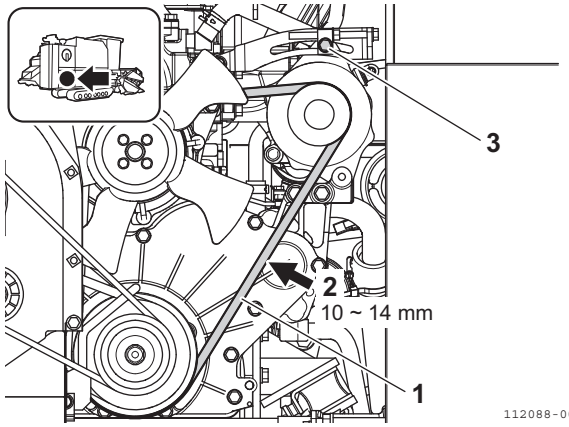


図 4-232

■ 調節のしかた

1. ジェネレータ取付ボルト（3）をゆるめます。(図 4-232)
2. ジェネレータを引っ張って、ベルトを張り、たわみ量を調節します。
3. ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してます。

[参考]

ジェネレータをいっぱいまで動かしても張りが不足する場合は、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後20時間・50時間目に必ず点検してください。

冷却ファンベルト

エンジン後カバーを開いて（173ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに組み立てます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、104〜108 mmにあることを確認します。(図 4-233)

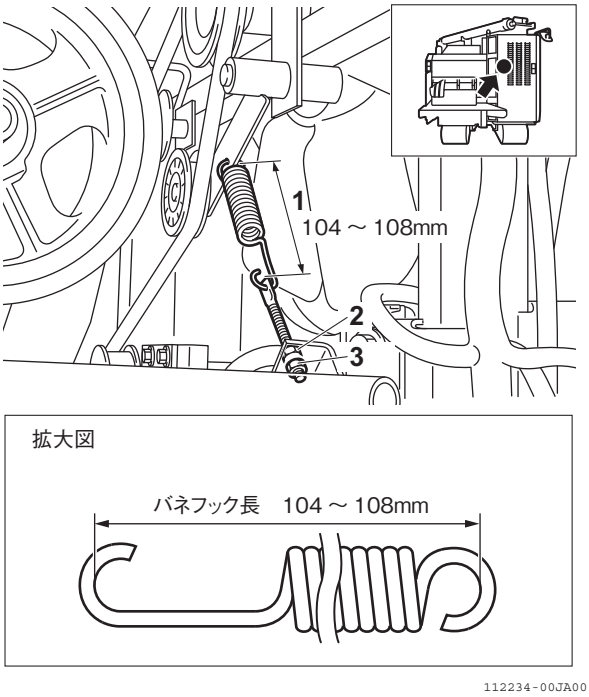


図 4-233

■ 調節のしかた

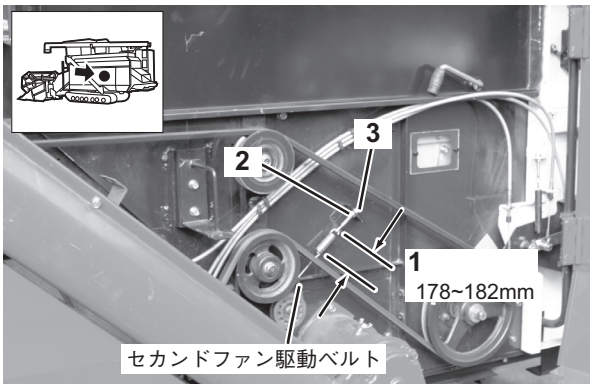
1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-233)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-233)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

セカンドファン駆動ベルト

脱こく左後カバーを開いて（172ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、178～182 mmにあることを確認します。（図 4-234）



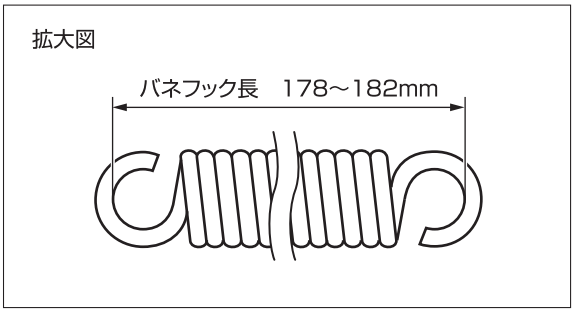


図 4-234

■ 調節のしかた

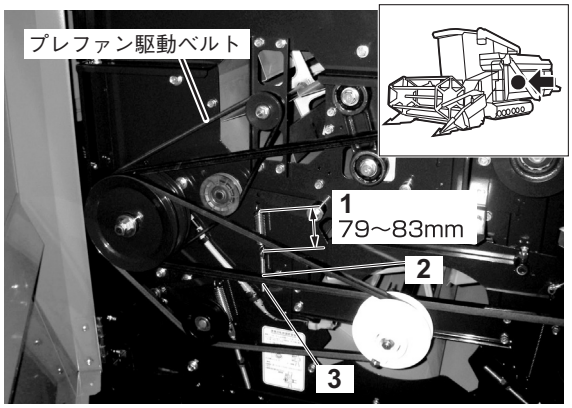
1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-234）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-234）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

プレファン駆動ベルト

脱こく左前カバーを開いて（172ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、79 ～ 83 mmにあること確認します。（図 4-235）



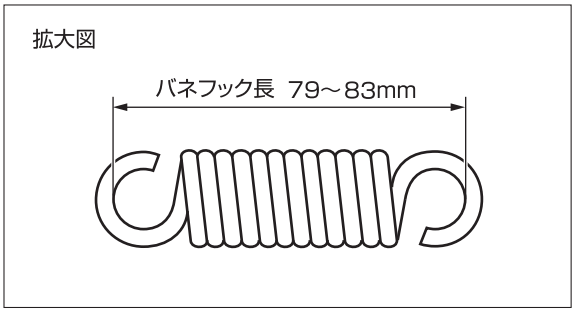


図 4-235

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-235）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-235）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

唐箕駆動ベルト

脱こく左前カバーを開いて（172ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、93 ～ 97 mmにあることを確認します。(図 4-236)

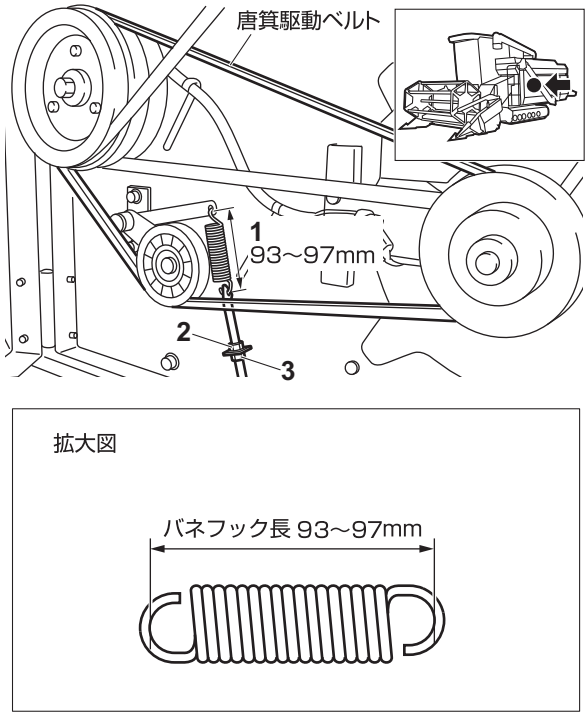


図 4-236

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-236)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-236)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

HST駆動ベルト

刈取部を最上昇位置にして、刈取部ストッパで刈取部を固定して（183ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は、元通りにセットします。

■ 点検のしかた

テンションバネの金具を含む全長（1）が、232 ～ 236 mmにあることを確認します。(図 4-237)

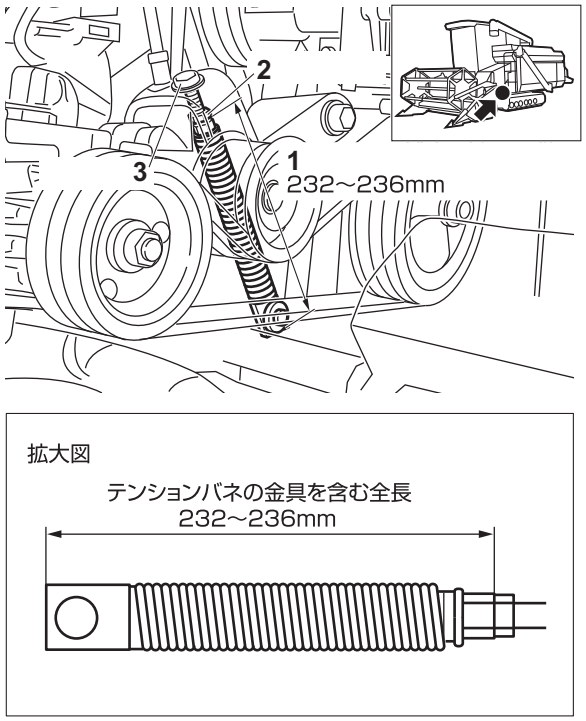


図 4-237

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-237)
2. テンションボルト（3）を回して、テンションバネの金具を含む全長を調節します。(図 4-237)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

レベリングディスクベルト

コンベアカバーを開いて、つぎの点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

1. ノブボルト（1）（4 個）を外して、コンベアカバーを開きます。（図 4-238）

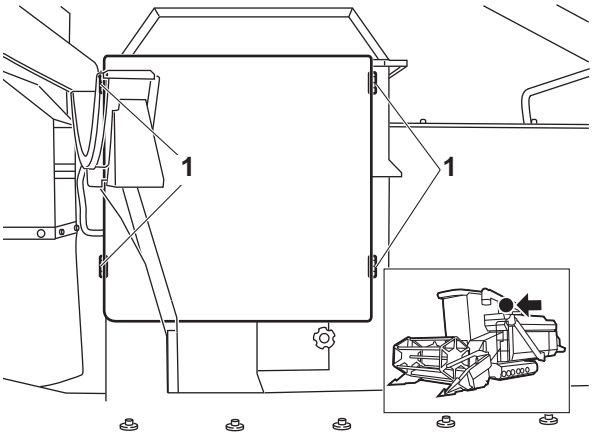


図 4-238

2. テンションプーリのボルト（1）（M10）をゆるめてプーリを下方に押し下げます。（図 4-239）
3. ベルト中央部を軽く指で押さえたとき、たわみ量が10〜15 mmにあることを確認し、テンションプーリのボルトを締め付けて固定します。

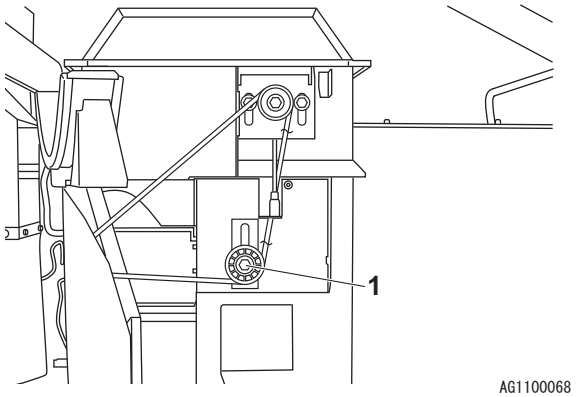


図 4-239

カウンタベルト

グレンタンクを開いて（170ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

■ 点検のしかた

テンションバネのフック長（1）が、239〜243 mmであることを確認します。（図 4-240）

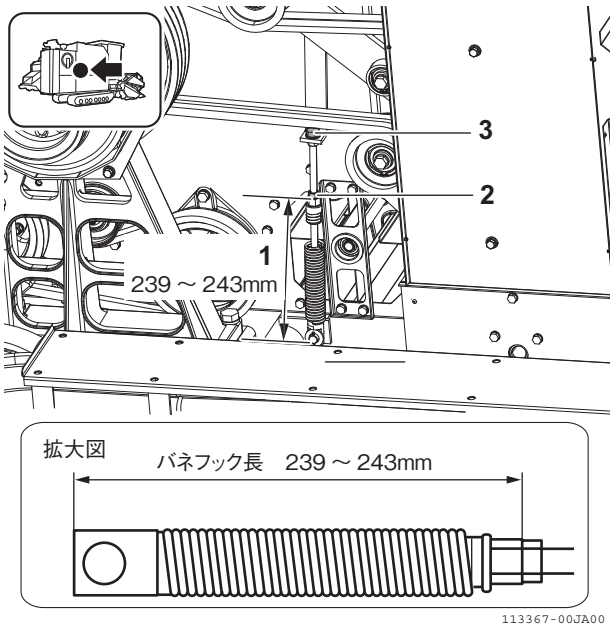


図 4-240

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-240）
2. 調節ボルト（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-240）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

PTO駆動ベルト

グレンタンクを開いて（170ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのフック長（1）が、146〜150 mmにあることを確認します。(図 4-241)

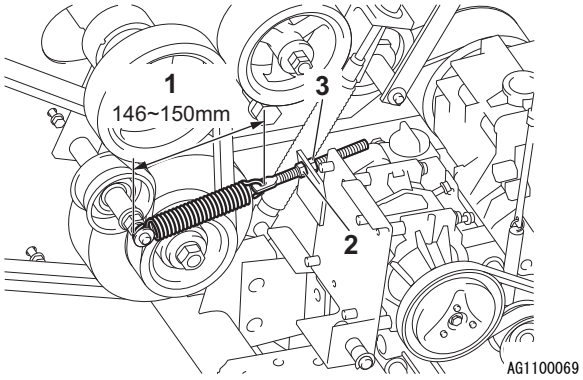


図 4-241

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-241)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-241)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

コンプレッサ駆動ベルト

刈取部を最上げ位置にして、刈取部を刈取部ストッパで固定して（183ページ参照)、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りにします。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、121〜125 mmにあることを確認します。(図 4-242)

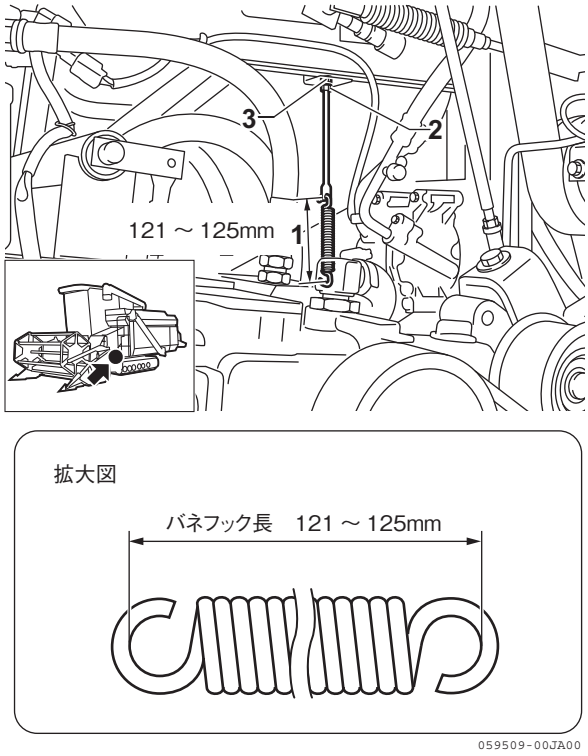


図 4-242

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。(図 4-242)
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。(図 4-242)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

ロータリースクリーン 吸引駆動ベルト

エンジン右カバーを開いて（167ページ参照）、つぎの点検・調節をします。
点検・調節後は元通りに取り付けます。

■ 点検のしかた

テンションバネのバネフック長（1）が、63 ～ 67 mmであることを確認してください。（図 4-243）

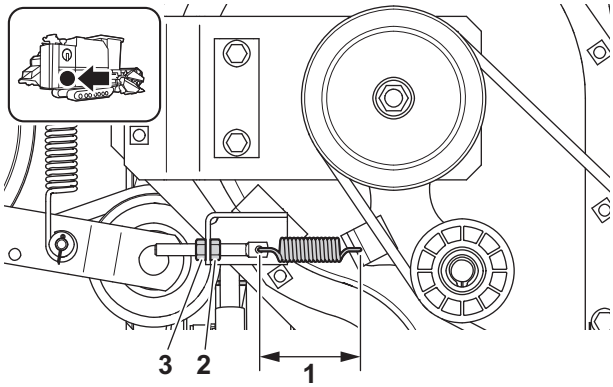


図 4-243

■ 調節のしかた

1. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-243）
2. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-243）
3. ロックナットを締め付けて固定します。

セカンドモア駆動ベルト

別冊のセカンドモア取扱説明書を参照してください。

スプレッダ駆動ベルト

別冊のスプレッダ取扱説明書を参照してください。

駐車ブレーキの点検･調節のしかた

駐車ブレーキをかけてつぎの点検・調節をします。
点検・調節後は、駐車ブレーキを解除します。

■ 点検のしかた

1. 刈取部を最下げ位置まで下げます。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. サイドパネル外 (1) を開けます。（図 4-244）

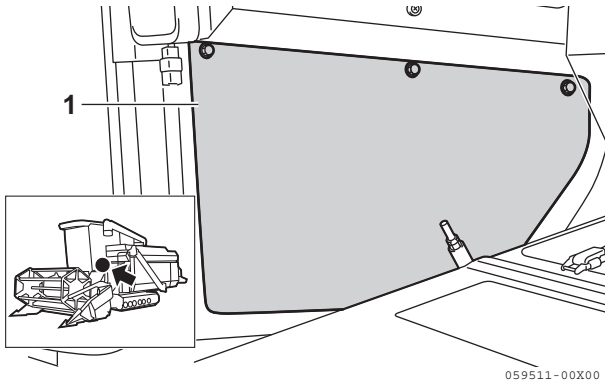


図 4-244

4. 駐車ブレーキバネのバネフック長(1)が、100～102 mmにあることを確認します。（図 4-245）

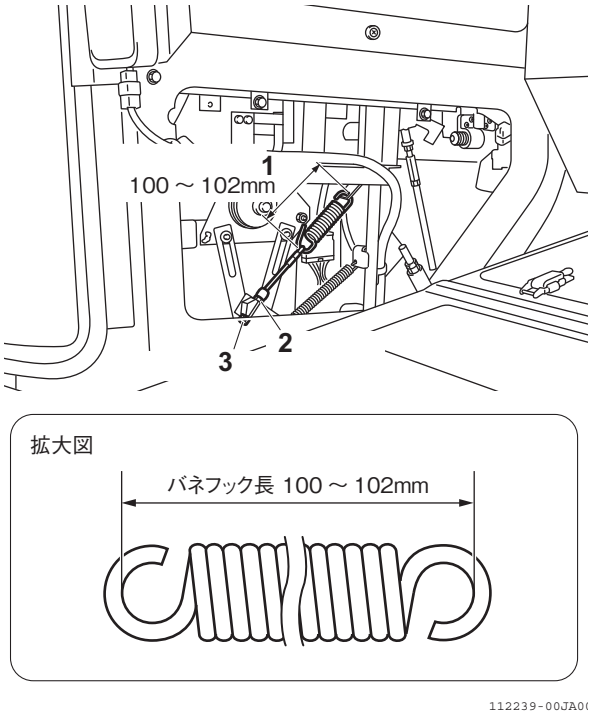


図 4-245

■ 調節のしかた

1. 刈取部を最下げ位置まで下げます。
2. 駐車ブレーキをかけます。
3. サイドパネル外を開けます。
4. ロックナット（2）をゆるめます。（図 4-245）
5. 調節ナット（3）を回して、バネフック長を調節します。（図 4-245）
6. ロックナットを締め付けて固定します。

各部ワイヤーの点検･調節のしかた

チャフ切替ワイヤーの調節

■ 点検のしかた

選別自動作動時、シャッタワイヤーがスムーズに動くことを確認します。シャッタワイヤーが左端を通っていることを確認します。

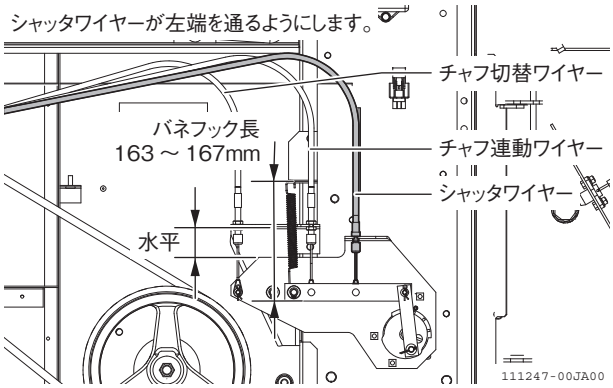


図 4-246

■ 調節のしかた

チャフ操作レバーが「3」の位置で水平でバネフック長が163～167 mmになるように、チャフ切替ワイヤーを調節します。

チャフ連動ワイヤーの調節

■ 点検のしかた

連環をΦ4穴下端にあることを確認します。

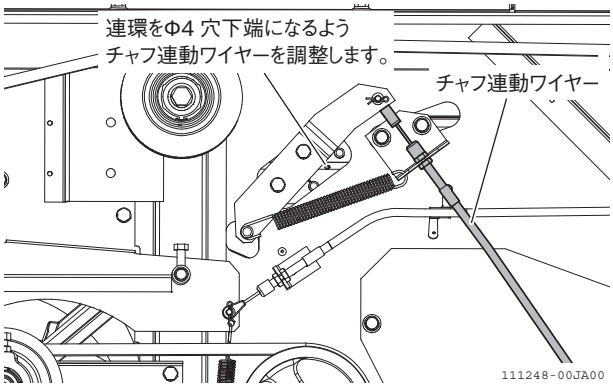


図 4-247

■ 調節のしかた

連環を Φ4 穴下端になるようチャフ連動ワイヤーを調節します。

シャッタワイヤーの調節

■ 点検のしかた

メタルとシャッタのすき間が7～13 mmあることを確認します。

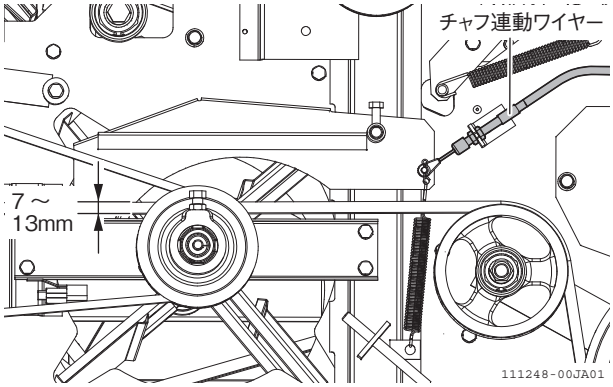


図 4-248

■ 調節のしかた

メタルとシャッタの隙間が7～13 mmになるようにシャッタワイヤーを調節します。

クローラの点検･調節のしかた

ジャッキをかける位置

つぎの4カ所にジャッキをかけてください。

⚠ 警　告

ジャッキアップをするときは､地面が固く､平たんな場所で､必ず５トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください｡バランスをくずして転倒し､傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ミッション下部(2カ所)

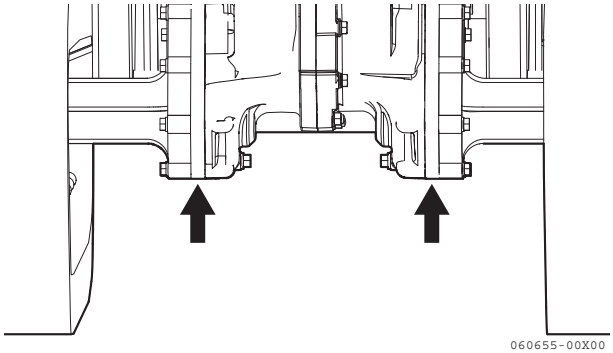


図 4-249 ミッション下部

■ シャーシ後方の角パイプ(2カ所)

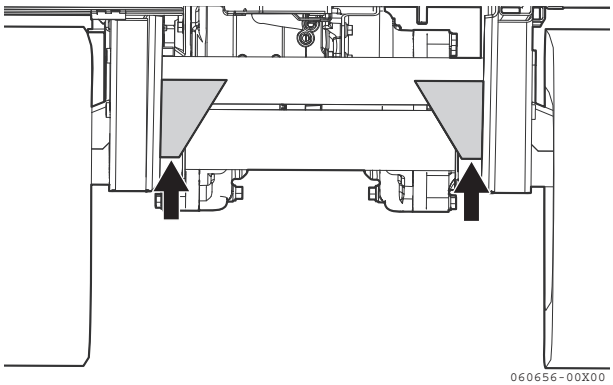


図 4-250 シャーシ後方の角パイプ

■ 点検のしかた

イコライザ（1）（前側）を水平にし、クローラ（2）と第3転輪（3）のすき間（4）が、20～25 mmにあることを確認します。(図 4-251)

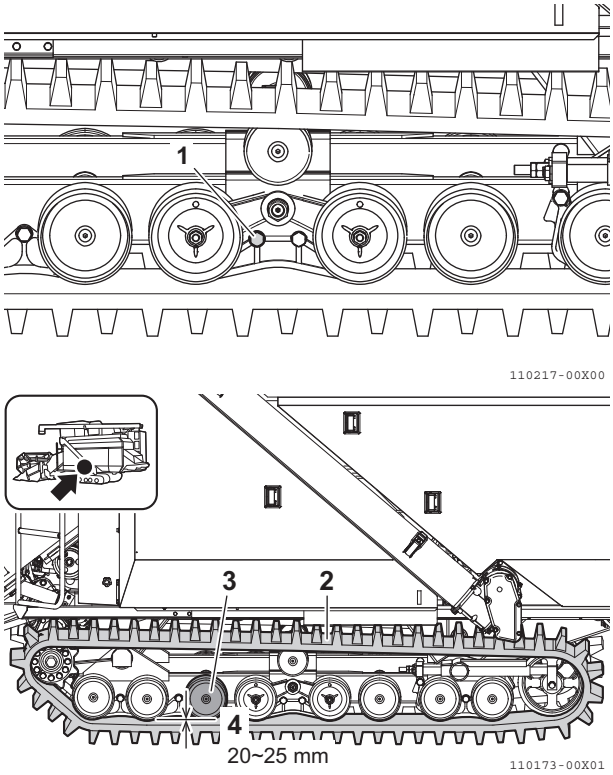


図 4-251

■ 調節のしかた

1. ロックナット（1）をゆるめます。(図 4-252)

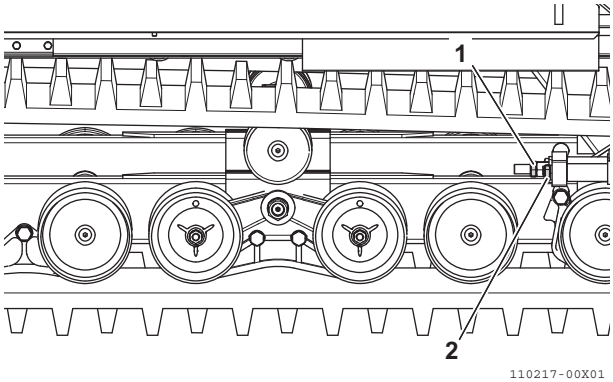


図 4-252

2. 調節ナット（2）を回して、クローラと転輪のすき間を調節します。(図 4-252)
3. ロックナットを締め付けて固定します。

強力ピンの交換のしかた

⚠ 警　告

コントローラの初期設定は正しく行ってください。初期設定を正しく行わないで、オーガ自動旋回をすると、オーガが思わぬ方向に動き、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

万一、強力ピンが切れたときは、特販店、またはJAにご相談ください。コントローラの初期設定が必要です。

■ オーガ回動モータ

過負荷から駆動部を保護するために、オーガ回動モータ（1）には強力ピン（2）を設けています。(図 4-253)

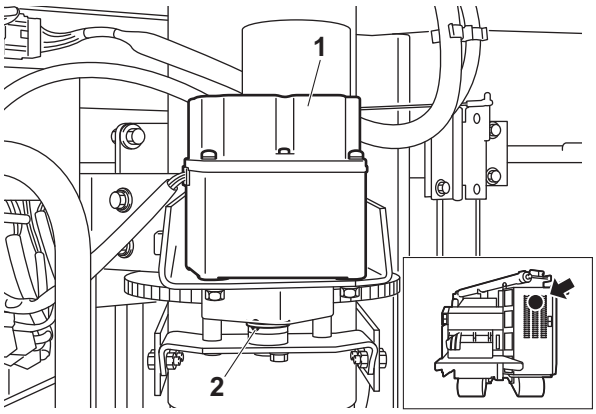


図 4-253

※図は、エンジンルーム後カバーを開いています。

■ グレン駆動チェン

過負荷から駆動部を保護するために、グレン駆動チェン（1）には強力ピン（2）を設けています。(図 4-254)

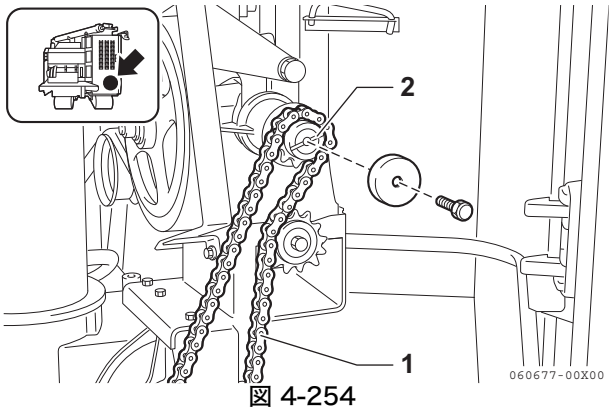


図 4-254

※図は、エンジンルーム後カバーを開いています。

送信機の電池の交換のしかた

⚠ 警　告

電池を取り出した場合は、電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師にご相談ください。

[重要]

- ご使用済みの電池は、すみやかに交換するか、送信機から外してください。そのままにしておくと、電池の特性上、液漏れを起こすおそれがあります。
- 交換した古い電池は、新しい電池を購入したお店に処分を依頼するか、各自治体の処分方法に従って処分してください。
- 電池は、リチウム電池CR2032タイプを必ず使用してください。
- 電池を交換するときは、金属製のピンセットで持ったり、ボールペンなど金属性のものの先で外したりしないでください。
- 電池をセットするときは、＋ーを間違えないように正しく行ってください。
- 長期間使用しないときは、電池を本体から抜いてください。
- 電池を交換するときは、2 個の電池を新しいものに交換してください。(新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください)
- 電池は分解したり、ショートさせないでください。
- 加熱したり、火の中に投入しないでください。
- 充電しないでください。

[参考]

工場出荷時には、送信機にお試し用の電池が入っています。出荷検査用の電池ですので、すぐに電池寿命が切れることがあります。

送信機の電池の寿命について

送信機のONスイッチを長押ししても、赤ランプが点滅しないときは、電池の寿命が考えられます。
電池を交換してください。

交換のしかた

送信機（1）には、電池を2個使用しています。電池を交換するときは、2個とも交換してください。
(図 4-255)

1. 送信機裏側のネジ（2）をプラスドライバーで外します。(図 4-255)

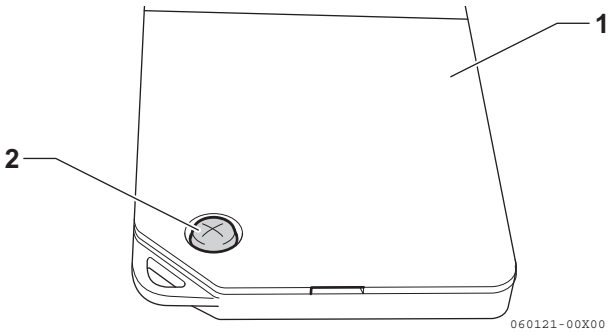


図 4-255

2. 電池カバーをつぎの手順で外します。
   1) 送信機の凹み部分（1）に硬貨（2）を押し当て、硬貨を少し持ち上げて、電池カバー（3）を浮かせ、送信機との間にすき間を作ります。(図 4-256)

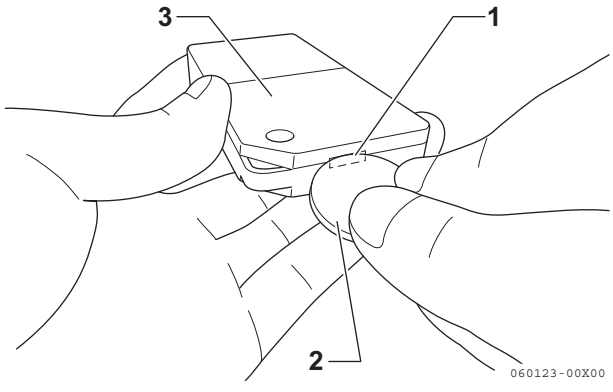


図 4-256

   2) できたすき間に硬貨（1）を挿し込み、指で硬貨を左側にスライド（2）させます。
   (図 4-257)

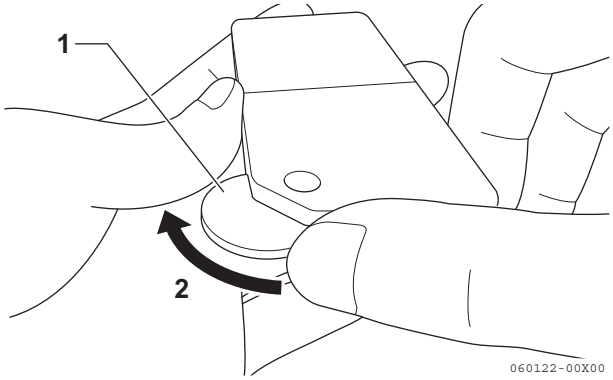


図 4-257

   3) 硬貨を挿し込んだままで、送信機の凹み部分に指を掛け（1)、電池カバーを引っ張り上げて（2)、外します。(図 4-258)

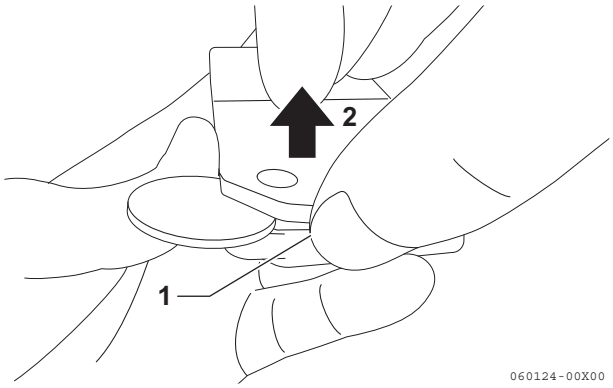


図 4-258

3. 電池（1）を横から押し上げるように外します。（図 4-259）

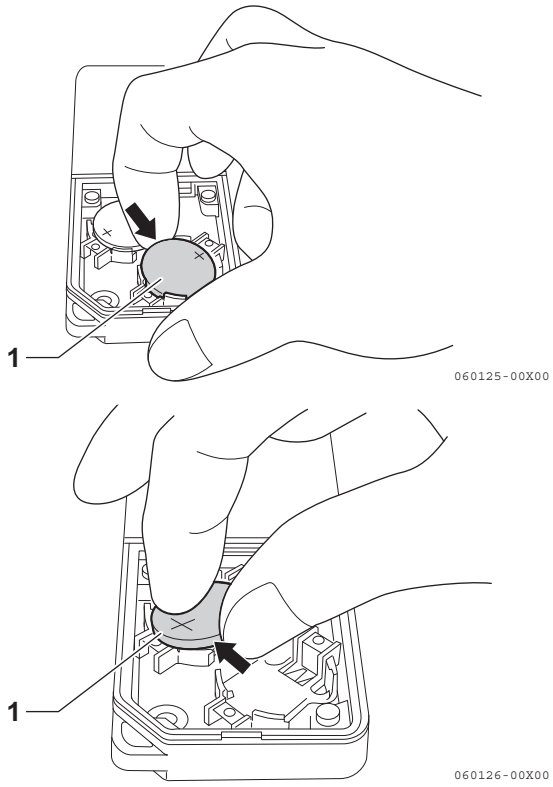


図 4-259

4. 新しい電池（1）を、プラス側を上にして、横から斜めに入れて押さえます。（図 4-260）

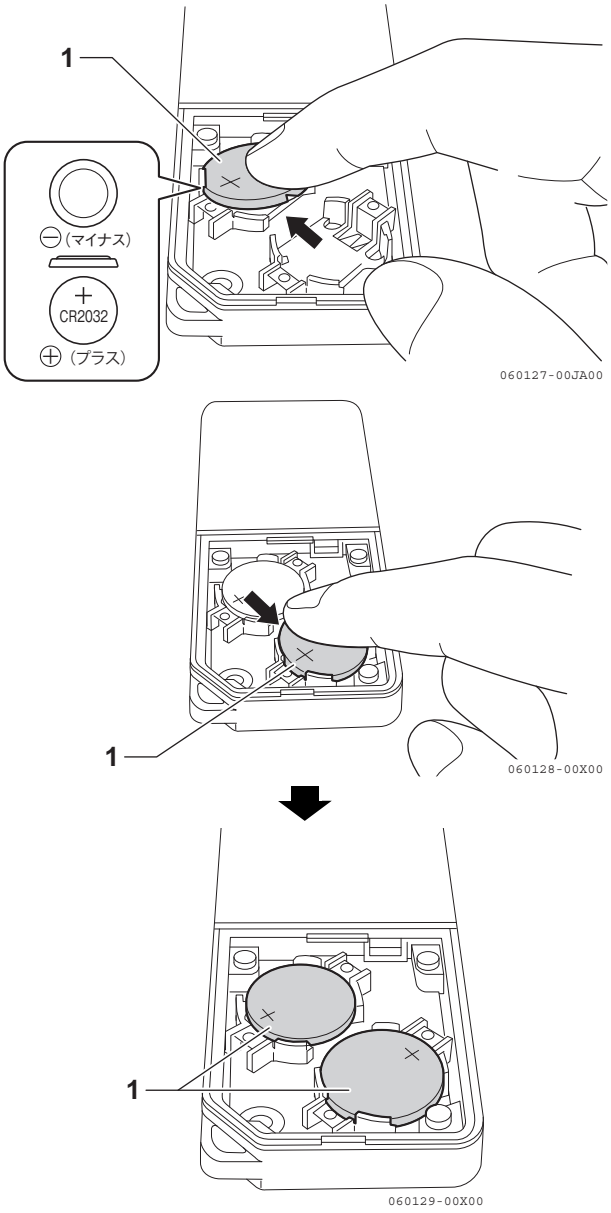


図 4-260

5. 送信機に電池カバーを確実に取り付けて、プラスドライバーでネジを締め付けます。

排出ガスの色について

気温が低い場合は、エンジン始動時に排気フィルターおよび排気管から白煙が出ることがあります。白煙は水蒸気のため問題ありません。
構造上、排気フィルターを搭載していない従来機にくらべ排出ガス中の水蒸気が白煙として見えやすくなります。

クーラーガス(冷媒)の点検のしかた

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。
特販店、またはJAで点検・補充を受けてください。

⚠ 警　告

- 冷媒回路の分解は絶対しないでください。クーラーガスの液が目に入ったり手にかかると、失明や凍傷にかかり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

[重要]

- クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

表 4-31 クーラーガス(冷媒)

使用クーラーガス(冷媒)	フロンR-134-a
充てん量	730 g

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。

点検のしかた

1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にします。
2. ファンスイッチを「HI」位置（最大風量）にします。(図 4-261)

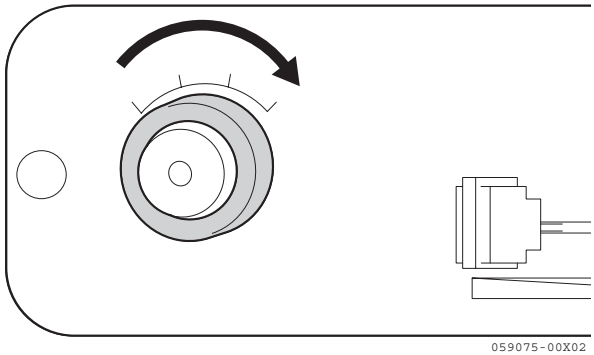


図 4-261

3. 温度コントロールレバーを「COOL」位置（強冷）にします。(図 4-262)

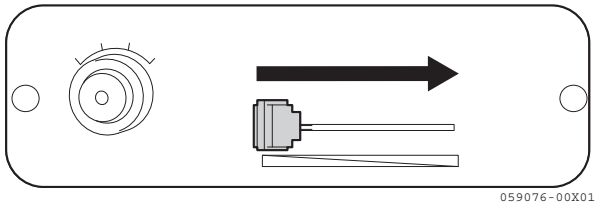


図 4-262

4. エアコンスイッチ（1）を「ON」位置（ランプ点灯）（2）にします。(図 4-263)

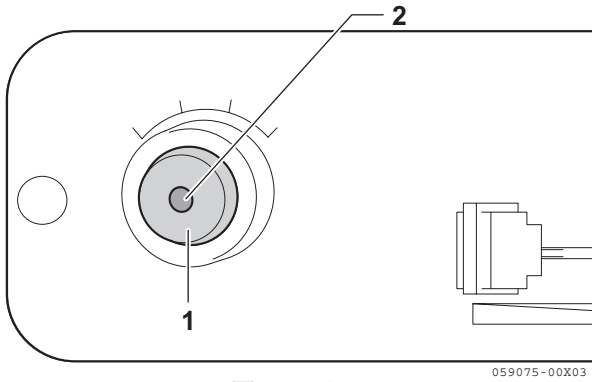


図 4-263

5. リキッドタンク（1）のサイトグラス（点検窓）から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をします。(図 4-264)（263 ページ参照）

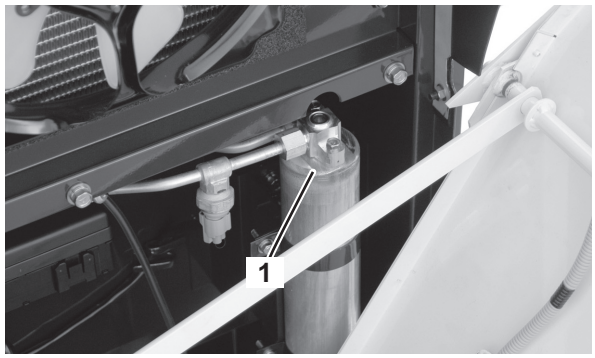
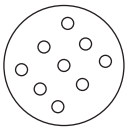
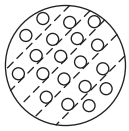
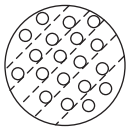
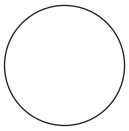


図 4-264

表 4-32 クーラーガス量チェック表

クーラーの状態	異常なし	異常あり		
高・低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 ●コンプレッサ吐出側温度70℃ ●コンプレッサ吸入側温度5℃	高圧パイプは暖かく、低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ、低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く、低圧パイプはやや暖かい。温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明。気泡の流れが見えても、エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1  060003-00X00	気泡の流れるのが見える。透明または白泡のときもある。  060004-00X00	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。  060005-00X00	ドアを全開にして、ファンを最大風量にし、アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2  060006-00X00
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れているところがある。	油の汚れが著しいところがある。	異常なし。
このクーラーの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスが漏れているところがある。	ガスがほとんど漏れてなくなってしまった。	ガスが過充てんになっている。

※1外気温度が低いときには、ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。
※2クーラーガスがない場合があるので、高・低圧パイプの温度差がないことを確認してください。
この場合、全く冷えない状態にあります。

[重要]

- 連続した気泡が見えるときは、冷媒が不足していますので、特販店、またはJAですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態で運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。
- 点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」位置（ランプ点灯）にしても冷えないときは、冷媒が入っていませんので、つぎの処置を行ってください。
- 冷媒漏れによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因になります。

1. 特販店、またはJAで、冷媒漏れ箇所のチェックをします。
   （配管ジョイント部、ホースなど）
2. 冷媒を規定量補充します。（点検窓でチェック）
3. ND-8 オイルを 120cc、低圧側より追加します。
   （コンプレッサ内・低圧ホース内など）

冷媒ガス（フロン類）の処理について

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
  廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。

不調診断のしかた

⚠ 注　意

コンバインの調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。回転物にはさまれてけがをするおそれがあります。

つぎの処置をしても改善されないときは、特販店、またはJAに連絡してください。

センターディスプレイの注意画面について

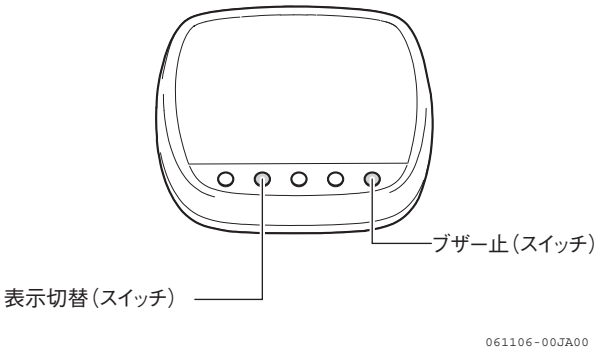
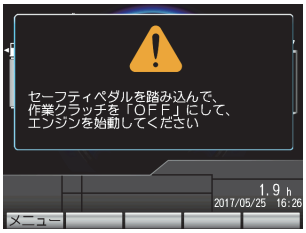


図 4-265 操作スイッチ

エンジン始動時に表示された画面

キースイッチを「START」位置にしても、つぎの条件の場合はエンジンの始動ができません。
表示された注意画面に従って再度エンジンを始動させてください。

表 4-33 エンジン始動時に表示された画面

表示画面	警報の種類	処置	参照ページ
	–	・セフティペダルを踏まずにキーを回した場合、セフティペダルをしっかり踏み込んでから、再度キーを回してください。 ・作業クラッチレバーが「刈取逆転」位置の場合は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。	113
	–	作業クラッチレバーが「脱こく」または「刈取」位置になっている場合は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてから、再度キーを回してください。	113
	–	排出オーガクラッチスイッチが「入」（ランプ点灯）になっている場合は、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にしてから、再度キーを回してください。（この注意画面が表示された場合は、排出オーガクラッチが故障している可能性があります。点検をしてください。）	113

エラーの表示

エラーが発生した場合は、画面下部に「エラーコード」が表示します。「表示切替」（スイッチ）を押すと画面表示が切り替わり、エラーコードの詳細画面が表示されます。「戻る」（スイッチ）を押すと元の画面表示に戻ります。

表 4-34 エラーの表示

表示画面	画面表示切り替え後（「表示切替」（スイッチ）押す）	警報の種類	備考・処置	参照ページ
エラー表示 111239-00JA00	1 1 エラーコード 060793-00JA00	—	チェッカ機能で各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックを行ってください。	293

表 4-35 その他の注意

表示画面	警報の種類	備考・処置	参照ページ
燃料残量表示 	○ 「ブザー止」	燃料の残量が少なくなったときに、「●」マークが点灯し、ブザーが断続で鳴ります。 「ブザー止」（スイッチ）を押すとブザーが鳴り止みます。 燃料を補給してください。 満量近くになると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが鳴り続けます。 「ブザー止」（スイッチ）を押すと、ブザーは鳴り止みます。	202
尿素水残量表示 	○ 「ブザー止」	尿素水の残量が少なくなったときに、「●」マークが点灯、マークが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。（尿素水の残量はおよそ 2.5L です。）約10L入ります。 「ブザー止」（スイッチ）を押すとブザーが鳴り止みます。 尿素水を補給してください。	202
タンクシグナル 	○ ブザーは断続音	グレンタンク内がほぼ満量になると、ブザーが断続に鳴り、グレンタンクモニターが赤色で点滅表示します。 ブザーを停止する場合は、作業クラッチレバーを「OFF」位置にしてください。ただし「3／3」のタンクシグナルランプは点滅したままです。 **[重要]** グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。 **[参考]** グレンタンク内のもみがなくなると、センサが感知し、ブザーが断続で数秒鳴ります。	160

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」（スイッチ）を押すとブザーが鳴り止みます。

センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

⚠ 警　告

移動走行中に、警報画面が表示された場合は、安全な場所に停止してから点検・処置を行ってください。

警報が発生した場合はセンターディスプレイ下部に警報表示され「表示切替」（スイッチ）を押すと警報詳細画面が表示されます。

異常が発生したときのスイッチ操作



図 4-266 警報表示

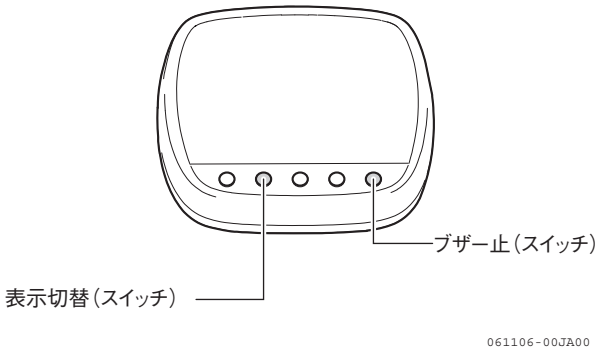


図 4-267 操作スイッチ

表 4-36 センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

表示画面	点検または処置画面（表示切替スイッチを押す）点検箇所	警報の種　類	備考・処置	参照ページ
チャージ異常  	 	○	エンジン回転中にバッテリーに充電されません。 「ブザー止」（スイッチ）ではブザーは停止できません。	231
	ジェネレータ駆動ベルトがゆるんだり、破損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	251
	ジェネレータが故障していませんか。		ジェネレータが故障している場合は、特販店、またはJAへご連絡ください。	−

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」（スイッチ）を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
エンジン油圧異常 			エンジン潤滑油の油圧が低下しています。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	−
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	○	オイルを規定量まで補給してください。	205〜
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	
	油圧スイッチ(プレッシャスイッチ)が故障していませんか。		油圧スイッチが故障の場合は、特販店、または JA へご連絡ください。	−
	オイルポンプが故障していませんか。		オイルポンプが故障の場合は、特販店、または JA へご連絡ください。	−
燃料温度異常 		○	燃料温度が上昇しています。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。 燃料温度警報判定に 1 分間かかります。1 分以上冷却運転を行い、警報が発生しないことを確認してください。 ロータリースクリーンが不具合の場合は特販店、または JA へご連絡ください。 燃料クーラーが不具合の場合は特販店、または JA へご連絡ください。	−
	燃料クーラーのフィンが目詰まりしていませんか。		掃除してください。	−
ウォーターセパレータ 		○	ウォーターセパレータに水が溜まっています。 水を抜いてください。 「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	222

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
オーバーヒート 		○	エンジンの冷却水温がオーバーヒート(冷却水温が異常)です。すみやかに停止し、作業クラッチを「OFF」位置、Eモードスイッチを「切」位置(E モードランプ消灯)にして、エンジン回転をローアイドリング(低回転)に下げ、冷却運転をしてください。「警報表示」が消えてからエンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから適正な処置を行ってください。「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	210
	冷却水が不足していませんか。		冷却水を補給してください。	210
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、特販店、またはJAへご連絡ください。	–
	冷却ファンベルト(ジェネレータ駆動ベルト)がゆるんだり、折損していませんか。		ベルトの張り調節、または交換してください。	251
	吸気口・ロータリースクリーン・ラジエータ冷却ファンが目詰まりしていませんか。		掃除してください。	226
	作業中、ロータリースクリーンは作動(回転)していますか。		ロータリースクリーンが不具合の場合は、特販店、またはJAへご連絡ください。	–
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを補給してください。	205
	過負荷運転をしていませんか。		負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。)	137

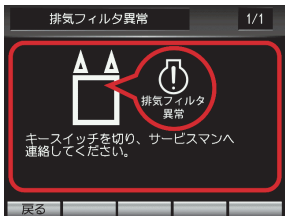
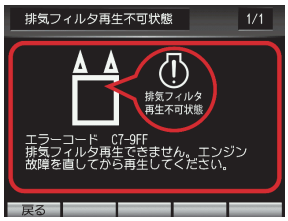
○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
ロータ詰まり 		○	ロータの回転が、規定回転より低下しました。 刈取速度を下げて作業してください。 「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報表示のままです。「ブザー止」(スイッチ)ではブザーは停止できません。	―
	ロータ内に作物がいっぱいで過負荷になっていませんか。		車速を落とすなど負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。	137～
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●ロータ駆動ベルト ●脱こく駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	249
	ロータ回転センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		特販店、または JA でセンサを適正位置に取り付けを行ってください。 または交換してください。	―
1番詰まり 		○ (エンジン停止)	1番コンベア部に詰まりが発生しました。 「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。処理画面に従って点検処理をしてください。	―
	バケットコンベア部に詰まりがありませんか。		詰まりを取り除いてください。	249
	チェン、ベルトがゆるんでいませんか。 ●バケットチェン ●選別駆動ベルト ●レベリングディスクベルト		チェン、ベルトの張りを適正に調整してください。	244、 247、 254
	1番警報センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		1番警報センサをゆるみのないように締め付けてください。 または交換してください。 籾満量警報(ブザー音連続)後1番警報表示が出た場合は、こく粒を排出してください。	―

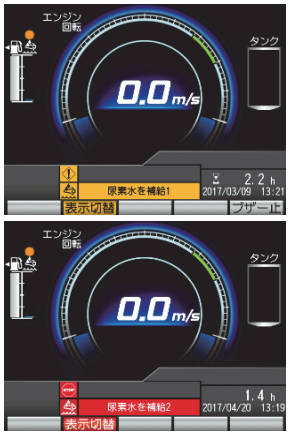
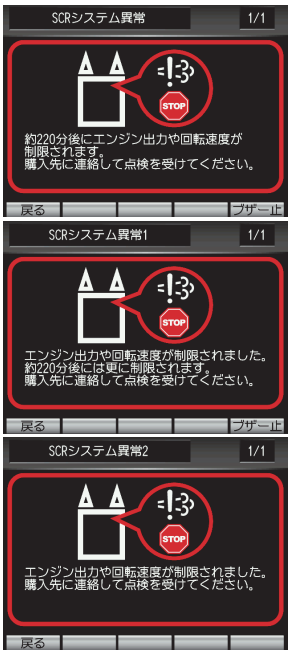
○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
2番詰まり 		○	2番スクリューコンベアにこく粒が詰まり、回転が規定回転より低下しました。 作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。 OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。 処置画面に従って点検・処置をしてください。	―
	2番コンベア部に詰まりがありませんか。		詰まりを取り除いてください。	187、188
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●2番駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	247
	2番警報センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		2番警報センサをゆるみのないように締め付けてください。 または交換してください。	―
スプレッダ警報		○ (エンジン停止)	スプレッダ部に詰まりが発生しました。 作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。 OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。 処置画面に従って点検・処置をしてください。	―
	スプレッダ部に詰まりがありませんか。		詰まりを取り除いてください。	
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●スプレッダ駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	
	スプレッダ警報センサが故障していませんか。		スプレッダ警報センサを交換してください。	

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
もみ満量 		○	グレンタンク内のこく粒が満量になりました。 こく粒を排出してください。 ブザーが断続で鳴り、グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量警報画面を交互に表示します。OFF(ブザー停止)スイッチを押すと、ブザー音は止めることができますが、画面は通常画面と警報画面を交互に表示され続けます。 さらに刈取作業を続けるとブザーが連続で鳴り、もみ満量警報画面が表示されます。この場合、OFF(ブザー停止)スイッチを押してもブザーを停止することはできません。作業クラッチレバーを「OFF」位置にするとブザーは停止し、通常画面に戻ります。	160
排気フィルター異常 (リカバリ再生) 		ー	駐車再生が正常に終了しませんでした。作業を中止し、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。ただちにお買い上げいただいた特販店、または JA へご連絡ください。	ー
排気フィルター再生不可状態 		ー	エンジンの異常により排気フィルターの再生ができません。 作業を中止し、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。ただちにお買い上げいただいた特販店、または JA へご連絡ください。	ー
オーガ未収納表示 		○	排出オーガが収納されていません。オーガを収納してください。	ー

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
尿素水残量低下 		○ 「ブザー止」 ※「尿素水を補給2"の画面が出たときは、"ブザー停止"(スイッチ)を押してもブザーは停止しません。尿素水を補給してください。	尿素水の残量が低下していますので補給してください。補給せずに作業を続けると、作業ができなくなるおそれがあります。 残量によって、2つの画面の内1つが表示されます。 ・尿素水の残量メータが10% ・尿素水タンクの尿素水残量が空	―
尿素SCRシステム異常 		○ 「ブザー止」 ※「SCR時ステム異常2"の画面が出たときは、"ブザー停止"(スイッチ)を押してもブザーは停止しません。	尿素SCR システムに異常が発生しましたので、特販店、またはJAへご連絡ください。無視して作業を続けると、作業ができなくなるおそれがあります。 経過時間によって、3 つの画面の内1つが表示されます。 ・異常発生からのエンジン運転時間が3時間未満 ・異常発生からのエンジン運転時間が3時間以上4時間未満 ・異常発生からのエンジン運転時間が4時間以上	―

○はブザーが鳴ります。
「ブザー止」は、「ブザー止」(スイッチ)を押すとブザーが鳴り止みます。

■ エラーコード一覧表

つぎの表のエラーが表示された場合は、特販店、またはJAにご相談ください。

表 4-37 エラーコード一覧表

00:エンジン(ECU)　C3:走行コントローラ
3D:エンジン(DCU)　C5:刈取コントローラ
C1:メータ(センターディスプレイ)　C6:コラムコントローラ
C2:コラムコントローラ　C7:翻訳コントローラ

エラーコード（表示内容）	原因	異常時の動作
28 03B00 00	燃料センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	燃料計の表示ができません。
28 05A00 03 28 05A00 04	メータ内部温度センサの異常です。	画面の輝度が低下します。
28 08100 09	メータへのCAN通信系統の異常です。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	エンジン関係の情報が更新されません。
28 0810A 09	メータへのCAN通信系統の異常です。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	ほとんどの制御が動作しません。
28 0810B 09	走行コントローラからのCAN通信系統の異常です。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	走行に関する情報が表示されません。
28 0810C 09	刈取コントローラからのCAN通信系統の異常です。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	刈取に関する表示がされません。
28 0810D 09	オーガコントローラからのCAN通信系統の異常です。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	オーガに関する表示がされません。
28 0810E 09	翻訳コントローラからのCAN通信系統の異常です。	—
28 0810F 09	DCUからのCAN通信系統の異常です。	—
28 08610 12	コンビネーションメータ異常です。 コラム・走行・刈取・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
28 08B10 12	CAN通信系統の異常です。	正常作動しません。 エラー判定条件が成立したデータのみ初期値を使用します。
28 08E80 12	FLASHROM異常(メータ)です。	収穫情報の管理機能を失います。
28 08E90 12	時計IC異常(システム異常)です。	時計・カレンダ表示機能を失います。 収穫情報の作業日時管理機能を失います。
C2-220	アクセルダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	電源投入時より異常の場合はエンジン回転定格となります。
C2-230	傾斜角調節ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	水平傾斜角を変更できません。 自動スイッチ入時はオートリフト高さ以下では常に水平制御(ダイヤル水平位置で制御)を行います。

エラーコード（表示内容）	原因	異常時の動作
C2-250	刈高さ調節ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	刈高さ・オートセット高さの調節ができません。 刈高さ自動制御「切」 刈取オートセット制御「切」
C2-260	リール高さ調節ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	リールオートセット制御「切」
C2-622	刈高さ調節スイッチの異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	手動で刈取昇降ができません。 刈取手動昇降「切」 ・低速昇降スイッチ異常の場合は高速昇降は可能です。 ・高速昇降スイッチ異常の場合は低速昇降は可能です。
C2-631	刈取オートリフト・セットスイッチの異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	刈取オートリフト・セット制御「切」
C2-641	刈取スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	刈取クラッチ作動不能です。
C2-672	コラムコントローラのセンサ電源の異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	コラムコントローラへ接続しているセンサの値がおかしくなり、関係しているいろいろな制御が正常に動きません。
C2-690	排出オーガ後セットスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	オーガオートセット不能（右セット、後セット）
C2-6A6	セカンドモア自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	セカンドモア自動「切」
C2-6B0	Eモードスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	Eモードがはたらきません。 アクセルダイヤルでの回転制御。
C2-6B6	自動刈高さ高スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	刈高さ自動制御「切」
C2-6B7	自動刈高さ低スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	刈高さ自動制御「切」
C2-6C2	コラムコントローラのEEPROMデータ異常。	すべての制御が正常作動しません。
C2-6D6	リール変速自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	リール自動「切」
C2-6F4	リール昇降・速度スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	リール自動昇降「切」 リール自動変速「切」
C2-6F5	水平自動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	水平自動「切」

エラーコード（表示内容）	原因	異常時の動作
C2-6F8	リールクロススイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	リール前後「切」 リール変速「切」
C2-802	エンジンコントローラ異常です。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	エンジンに関係する制御が動作しません。
C2-812	コンビネーションメータ異常です。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	警報時動作など一部の制御が動作しません。
C2-832	走行コントローラ異常です。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	走行に関するほとんどの制御が動作しません。
C2-852	刈取コントローラ異常です。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	刈取に関するほとんどの制御が動作しません。
C2-862	オーガコントローラ異常です。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	オーガに関するほとんどの制御が動作しません。
C2-8E2	コラムコントローラ異常です。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C2-8F2	コラムコントローラ異常です。 メータ・走行・刈取・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C3-200	快速調整ダイヤルの異常です。 ダイヤル異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	快速制御「切」
C3-300	トラニオン位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	快速制御「切」
C3-310	快速駆動位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	快速制御「切」
C3-350	刈取位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	オートセット・オートリフト・オートクラッチが作動しません。 刈高さ自動制御「切」 刈取オートリフト・セット制御「切」 刈取バックリフト制御「切」 脱こく入り時、常時選別制御「入」（回行時制御なし）
C3-450	車速センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	各コントローラが車速値を800 mm/sとして制御を行います。
C3-580	排稈口センサの異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	脱穀制御が動作しません。
C3-633	排出オーガ操作スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	排出オーガが昇降旋回できません。

エラーコード（表示内容）	原因	異常時の動作
C3-650	排出オーガリターンスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	オーガオートリターン不能です。
C3-660	排出オーガクラッチスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	排出オーガクラッチが「入」「切」できません。
C3-682	走行コントローラのセンサ電源の異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	自動制御（刈高さ・オートセット、リフト・バックリフト・リール高さ・水平・セカンドモア）を「切」にします。
C3-683	排出オーガ右セットスイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	オーガオートセット不能（右セット、後セット）
C3-6D2	走行コントローラのEEPROMデータ異常です。	ほとんどの制御が動作しません。
C3-6F3	水平手動スイッチの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。 背反操作でエラーと判定する。	水平手動「切」
C3-6F7	刈取クラッチボタンの異常です。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	刈取クラッチ「切」
C3-803	エンジンコントローラ異常です。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	エンジンに関する制御が動作しません。
C3-813	コンビネーションメータ異常です。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	警報時動作など一部の制御が動作しません。
C3-823	コラムコントローラ異常です。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	ほとんどの制御が動作しません。
C3-853	刈取コントローラ異常です。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	刈取に関するほとんどの制御が動作しません。
C3-863	オーガコントローラ異常です。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	オーガに関するほとんどの制御が動作しません。
C3-8E3	走行コントローラ異常です。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C3-8F3	走行コントローラ異常です。 メータ・コラム・刈取・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C5-380	刈高さソリセンサ（左 の異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	自高「低刈」制御「切」 クイックリフト制御「切」 自高「低刈」制御時、刈取オートセット制御「切」
C5-390	傾斜センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	自動水平制御作動しません。

エラーコード（表示内容）	原因	異常時の動作
C5-391	ストロークスイッチの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	自動水平制御作動しません。
C5-3A6	リール位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	リール自動昇降「切」
C5-470	リール回転センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	リール自動変速「切」
C5-6A2	刈取コントローラのセンサ電源の異常です。 コントローラ電源の断線（ヒューズ切れ・ハーネス断線）、コントローラ異常。	刈取コントローラへ接続しているセンサの値がおかしくなり、関係しているいろいろな制御が正常に動かなくなります。
C5-6A7	セカンドモアスイッチ上の異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	セカンドモア収納状態になります。
C5-6A8	セカンドモアスイッチ下の異常です。 スイッチ異常・ハーネス短絡。	セカンドモア収納状態になります。
C5-6F2	刈取コントローラのEEPROMデータ異常です。	刈取に関する制御が正常作動しません。
C5-805	エンジンコントローラ異常です。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	エンジンに関係する制御が動作しません。
C5-815	コンビネーションメータ異常です。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	警報時動作など一部の制御が動作しません。
C5-825	コラムコントローラ異常です。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	ほとんどの制御が動作しません。
C5-835	走行コントローラ異常です。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	走行に関するほとんどの制御が動作しません。
C5-865	オーガコントローラ異常です。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	オーガに関するほとんどの制御が動作しません。
C5-8F5	刈取コントローラ異常です。 メータ・コラム・走行・オーガ・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C6-321	排出オーガ上限スイッチの異常です。 ヒューズ切れ・スイッチ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	オーガオートセット・オートリターン旋回動作不能です。
C6-3C0	オーガ位置センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	オーガオートセット・オートリターン不能です。 先端操作旋回不能です。
C6-482	ロータ回転センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	ロータ警報が表示されません。

エラーコード（表示内容）	原因	異常時の動作
C6-483	スプレッダ回転センサの異常です。 センサ異常・コネクタ抜け・断線・ハーネス短絡。	なし(エラーコード送信)
C6-686	オーガコントローラのEEPROMデータ異常です。	オーガに関する制御が正常作動しません。
C6-696	オーガコントローラのセンサ電源のハーネスの異常です。 コントローラ電源の断線(ヒューズ切れ・ハーネス断線)、コントローラ異常。	オーガコントローラへ接続しているセンサの値がおかしくなり、関係しているいろいろな制御が正常に動かなくなります。
C6-6FE	リモコン装置の異常です。 電源投入時に、スイッチ状態異常でエラーと判定する。	リモコン操作ができません。
C6-806	エンジンコントローラ異常です。 エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	エンジンに関係する制御が動作しません。
C6-816	コンビネーションメータ異常です。 コンビネーションメータヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	警報時動作など一部の制御が動作しません。
C6-826	コラムコントローラ異常です。 コラムコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	ほとんどの制御が動作しません。
C6-836	走行コントローラ異常です。 走行コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	走行に関するほとんどの制御が動作しません。
C6-856	刈取コントローラ異常です。 刈取コントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	刈取に関するほとんどの制御が動作しません。
C6-8E6	オーガコントローラ異常です。 オーガコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C6-8F6	オーガコントローラ異常です。 メータ・コラム・走行・刈取・エンジンコントローラヒューズ切れ、コネクタ抜け、断線。	—
C7-6FC	再生スイッチの異常ですです。 電源投入時に、スイッチ異常・ハーネス短絡でエラーと判定する。	排気フィルター再生ができません。
C7-6FD	翻訳コントローラのEEPROMデータ異常です。	正常作動しません。
C7-9FF	エンジンの故障です。 排気フィルター再生できないエラーが発生しています。	排気フィルターの再生ができません。 そのまま作業するとエンジン回転が上がらなくなります。

表 4-38 エンジンエラーコード一覧表

エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
00 0001D 03	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3 異常（電圧高）
00 0001D 04	アクセルセンサ3	アクセルセンサ3 異常（電圧低）
00 00033 03	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ（電圧高）
00 00033 04	吸気スロットル開度センサ	吸気スロットル開度センサ（電圧低）
00 0005B 03	アクセルセンサ1	アクセルセンサ1 異常（電圧高）
00 0005B 04	アクセルセンサ1	アクセルセンサ1 異常（電圧低）
00 00064 04	油圧スイッチ	油圧スイッチ断線
00 00064 01	油圧スイッチ	油圧低下警報
00 00066 03	EGR 低圧側センサ	EGR低圧側センサ異常（電圧高）
00 00066 04	EGR 低圧側センサ	EGR低圧側センサ異常（電圧低）
00 00069 03	吸マニ温度センサ	吸マニ温度センサ異常（電圧高）
00 00069 04	吸マニ温度センサ	吸マニ温度センサ異常（電圧低）
00 0006C 03	大気圧センサ	大気圧センサ異常（電圧高）
00 0006C 04	大気圧センサ	大気圧センサ異常（電圧低）
00 0006C 10	大気圧センサ	大気圧センサ異常（特性異常）
00 0006E 03	冷却水温センサ	冷却水温センサ異常（電圧高）
00 0006E 04	冷却水温センサ	冷却水温センサ異常（電圧低）
00 0006E 00	冷却水温センサ	冷却水温上昇（オーバーヒート）
00 0009D 03	レール圧センサ	レール圧センサ異常（電圧高）
00 0009D 04	レール圧センサ	レール圧センサ異常（電圧低）
00 0009D 00	レール圧異常	レール圧異常高圧
00 0009D 18	レール圧異常	レール圧偏差異常（レール圧減少）
00 000A7 05	チャージスイッチ	チャージスイッチ断線
00 000A7 01	チャージスイッチ	チャージ警報
00 000AC 03	新気温度センサ	新気温度センサ異常（電圧高）
00 000AC 04	新気温度センサ	新気温度センサ異常（電圧低）
00 000AD 03	排マニ温度センサ	排マニ温度センサ異常（電圧高）
00 000AD 04	排マニ温度センサ	排マニ温度センサ異常（電圧低）
00 000AE 03	燃料温度センサ	燃料温度センサ異常（電圧高）
00 000AE 04	燃料温度センサ	燃料温度センサ異常（電圧低）
00 000AE 00	燃料温度センサ	燃料温度上昇
00 000BE 00	過回転	回転数超過
00 000ED 31	VI（CAN メッセージ）	VI の受信タイムアウト
00 000ED 13	VI（CAN メッセージ）	VI の受信データ異常
00 0019C 03	EGR ガス温度センサ	EGR ガス温度センサ異常（電圧高）
00 0019C 04	EGR ガス温度センサ	EGR ガス温度センサ異常（電圧低）
00 00276 02	EEPROM	EEOROM 異常
00 00279 03	SCV（MPROP）	SCV（MPROP）H/L サイドVB 短絡
00 00279 05	SCV（MPROP）	SCV（MPROP）H サイドGND 短絡/ 断線
00 00279 07	SCV（MPROP）	駆動回路異常（SCV 固着）
00 0028B 05	インジェクタ1 4TNV：Cyl No. 4	インジェクタ1 断線異常 （インジェクタ固有個所）
00 0028C 05	インジェクタ4 4TNV：Cyl No. 3	インジェクタ4 断線異常 （インジェクタ固有個所）

エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
00 0028D 05	インジェクタ2 4TNV：Cyl No. 2 3TNV：Cyl No. 2	インジェクタ2 断線異常 （インジェクタ固有個所）
00 0028E 05	インジェクタ3 4TNV：Cyl No. 1	インジェクタ3 断線異常 （インジェクタ固有個所）
00 004B9 03	EGR 高圧側センサEGR	高圧側センサ異常（電圧高）
00 004B9 04	EGR 高圧側センサEGR	高圧側センサ異常（電圧低）
00 00543 00	高圧ポンプ	ポンプ保護フェール
00 00543 15	高圧ポンプ	ポンプ保護フェール
00 005CD 02	メインリレー	自己保持なしで電源オフ
00 00AE7 07	EGR	EGR フィードバック異常
00 00AE7 09	EGR	EGR ECM データ異常
00 00AE7 00	EGR	EGR 過電圧異常
00 00AE7 01	EGR	EGR 低電圧異常
00 00AED 03	インジェクタ共通	インジェクタバンク1 ＋ B ショート
00 00AED 06	インジェクタ共通	インジェクタバンク1GND ショート
00 00AED 05	インジェクタ共通	インジェクタバンク1 断線異常
00 00AEE 03	インジェクタ共通	インジェクタバンク2 ＋ B ショート
00 00AEE 06	インジェクタ共通	インジェクタバンク2GND ショート
00 00AEE 05	インジェクタ共通	インジェクタバンク2 断線異常
00 00B86 05	吸気スロットル駆動回路	吸気スロットル駆動回路断線
00 00B86 03	吸気スロットル駆動回路	吸気スロットル駆動回路VB/GND ショート
00 00B9B 12	EGR	EGR モータコイル間断線
00 00CAA 03	DPF 入口温度センサ	DPF 入口温度センサ異常（電圧高）
00 00CAA 04	DPF 入口温度センサ	DPF 入口温度センサ異常（電圧低）
00 00CAA 00	DPF 入口温度センサ	温度異常（高）
00 00CB2 03	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ異常（電圧高）
00 00CB2 04	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ異常（電圧低）
00 00CB2 01	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ温度異常低温
00 00CB2 00	DPF 中間温度センサ	DPF 中間温度センサ温度異常上昇 （ポスト噴射不良）
00 00CB3 03	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ（電圧高）
00 00CB3 04	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ（電圧低）
00 00CB3 00	DPF 差圧センサ	DPF 差圧センサ差圧異常上昇
00 00E19 03	DPF 高圧側センサ	DPF 高圧側センサ（電圧高）
00 00E19 04	DPF 高圧側センサ	DPF 高圧側センサ（電圧低）
00 00E6F 14	DPF OP インターフェース	リセット再生禁止
00 00E87 16	DPF OP インターフェース	ステーショナリ再生スタンバイ
00 00E87 00	DPF OP インターフェース	バックアップモード
00 00E88 16	DPF OP インターフェース	Ash クリーニング要求1
00 00E88 00	DPF OP インターフェース	Ash クリーニング要求2
00 7F803 05	始動補助リレー	始動補助リレー断線・VB 短絡
00 7F803 06	始動補助リレー	始動補助リレーGND 短絡
00 7F853 00	エアクリーナスイッチ	エアクリーナ詰まり警報
00 7F859 00	油水分離器スイッチ	油水分離警報
00 7F8A0 02	クランク速度センサ	クランク信号異常です。

エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
00 7F8A0 05	クランク速度センサ	クランク信号なし
00 7F8A1 02	カム速度センサ	カム信号異常
00 7F8A1 05	カム速度センサ	カム信号なし
00 7F94D 00	DPF	過堆積（C 法）
00 7F94E 00	DPF	過堆積（P 法）
00 7F94F 07	DPF	再生不良（ステーショナリ再生失敗）
00 7F951 11	DPF	再生不良（ステーショナリ再生未実施）
00 7F953 12	EGR	EGR モータコイル間ショート
00 7F954 12	EGR	EGR ポジションセンサ異常
00 7F955 07	EGR	EGR 開弁固着異常
00 7F956 07	EGR	EGR イニシャライズ異常
00 7F957 01	EGR	EGR 高温サーミスタ異常
00 7F958 01	EGR	EGR 低温サーミスタ異常
00 7F964 09	TSC1（CAN メッセージ）	TSC1 の受信タイムアウト（SA1）
00 7F965 09	TSC1（CAN メッセージ）	TSC1 の受信タイムアウト（SA2）
00 7F968 09	Y_EC（CAN メッセージ）	Y_EC の受信タイムアウト
00 7F972 09	EGR	EGR バルブからのCAN 受信タイムアウト
00 7F979 12	EGR	EGR 目標値レンジ外れ
00 7F97A 09	EBC1（CAN メッセージ）	EBC1 の受信タイムアウト
00 7F97B 09	Y_DPFIF（CAN メッセージ）	Y_DPFIF の受信タイムアウト
00 7FA33 13	高圧ポンプ	ポンプ学習未実施警報
00 7FAF1 12	ECU 内部異常	CPU 監視用IC 異常
00 7FAF2 12	ECU 内部異常	CPU 異常
00 7FAF3 12	QR データ	QR データ補正入力異常
00 7FAF4 04	インジェクタ駆動回路	ローチャージ異常
00 7FAF5 03	インジェクタ駆動回路	オーバーチャージ異常
00 7FAF6 12	ECU 内部異常	Flash ROM 異常（チェックサム）
00 7FB42 01	ECU 内部異常	センサ5 V 回路1 異常（電圧低）
00 7FB42 00	ECU 内部異常	センサ5 V 回路1 異常（電圧高）
00 7FB43 01	ECU 内部異常	センサ5 V 回路2 異常（電圧低）
00 7FB43 00	ECU 内部異常	センサ5 V 回路2 異常（電圧高）
00 7FBD5 12	QR データ	QR データ未書き込み
00 7FBD5 13	QR データ	QR データ異常
00 7FBF1 05	クランク・カム速度センサ	クランク・カム両センサ同時未入力
00 07FCF9 09	DCU	DCUのCAN受信タイムアウト
00 07FD7B 09	ECU-DCU間	ECU-DCU間での異常。受信タイムアウト
3D 0000AC 19	ECU（ECUシステム異常）	ECUシステム異常新気温度の無効値受信
3D 0006E1 01	尿素水タンクレベル	尿素水タンクレベル低下（Inducement2）
3D 0006E1 03	尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I）	尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I）　内部回路断線
3D 0006E1 04	尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I）	尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I）　内部回路短絡
3D 0006E1 13	尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I）	尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I） コントローラ内部異常
3D 0006E1 15	尿素水タンクレベルセンサ	尿素水タンクレベルセンサ　妥当性異常
3D 0006E1 18	尿素水タンクレベル	尿素水タンクレベル低下（Inducement1）
3D 000BD7 00	尿素水タンク温度センサ	尿素水タンク温度上昇異常

エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
3D 000BD7 02	尿素水タンク温度センサ・尿素水タンクレベルセンサ(AT1T1I)	尿素水タンク温度センサ・尿素水タンクレベルセンサ(AT1T1I) コントローラ温度上昇異常
3D 000BD7 03	尿素水タンク温度センサ(AT1T1I)	尿素水タンク温度センサ(AT1T1I)　内部回路断線
3D 000BD7 04	尿素水タンク温度センサ(AT1T1I)	尿素水タンク温度センサ(AT1T1I)　内部回路短絡
3D 000BD7 13	尿素水タンク温度センサ(AT1T1I)	尿素水タンク温度センサ(AT1T1I)　コントローラ内部異常
3D 000BD7 15	尿素水タンク温度センサ	尿素水タンク温度センサ　妥当性異常(上限側異常)
3D 000BD7 17	尿素水タンク温度センサ	尿素水タンク温度センサ　妥当性異常(下限側異常)
3D 000C90 15	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOxセンサ　妥当性異常(上限側異常)
3D 000C90 17	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOxセンサ　妥当性異常(下限側異常)
3D 000DBB 02	尿素水品質センサ・尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)	尿素水品質センサ・尿素水タンク温度センサ(A1DEFI) コントローラ温度上昇異常
3D 000DBB 03	尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)	尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)　内部回路断線
3D 000DBB 04	尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)	尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)　内部回路短絡
3D 000DBB 13	尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)	尿素水タンク温度センサ(A1DEFI)　コントローラ内部異常
3D 000DBC 00	尿素水品質センサ	尿素水品質センサ　濃度異常(偏差大)
3D 000DBC 01	尿素水品質センサ	尿素水品質センサ　濃度異常(偏差小)
3D 000DBC 03	尿素水品質センサ(A1DEFI)	尿素水品質センサ(A1DEFI)　内部回路断線
3D 000DBC 04	尿素水品質センサ(A1DEFI)	尿素水品質センサ(A1DEFI)　内部回路短絡
3D 000DBC 13	尿素水品質センサ(A1DEFI)	尿素水品質センサ(A1DEFI)　コントローラ内部異常
3D 000DC1 13	尿素水品質センサ	尿素水品質センサ　尿素水タンク内異物混入異常
3D 0010EE 03	サプライモジュールポンプ圧センサ	サプライモジュールポンプ圧センサ異常(電圧高)
3D 0010EE 04	サプライモジュールポンプ圧センサ	サプライモジュールポンプ圧センサ異常(電圧低)
3D 0010EE 15	サプライモジュールポンプ圧センサ	サプライモジュールポンプ圧センサ 妥当性異常(上限側異常)
3D 0010EE 17	サプライモジュールポンプ圧センサ	サプライモジュールポンプ圧センサ 妥当性異常(下限側異常)
3D 0010F5 00	尿素水ホースヒータ(プレッシャ)	尿素水ホースヒータ(プレッシャ) パワーステージ温度上昇異常
3D 0010F5 03	尿素水ホースヒータ(プレッシャ)	尿素水ホースヒータ(プレッシャ) LサイドVB短絡
3D 0010F5 05	尿素水ホースヒータ(プレッシャ)	尿素水ホースヒータ(プレッシャ) 断線
3D 0010F7 00	尿素水ホースヒータ(バックフロー)	尿素水ホースヒータ(バックフロー) パワーステージ温度上昇異常
3D 0010F7 03	尿素水ホースヒータ(バックフロー)	尿素水ホースヒータ(バックフロー) LサイドVB短絡
3D 0010F7 05	尿素水ホースヒータ(バックフロー)	尿素水ホースヒータ(バックフロー) 断線
3D 0010F9 00	尿素水ホースヒータ(サクション)	尿素水ホースヒータ(サクション) パワーステージ温度上昇異常
3D 0010F9 03	尿素水ホースヒータ(サクション)	尿素水ホースヒータ(サクション) LサイドVB短絡
3D 0010F9 05	尿素水ホースヒータ(サクション)	尿素水ホースヒータ(サクション) 断線
3D 001108 00	SCR触媒上流温度センサ	SCR触媒上流温度センサ　温度上昇異常
3D 001108 03	SCR触媒上流温度センサ	SCR触媒上流温度センサ異常(電圧高)
3D 001108 04	SCR触媒上流温度センサ	SCR触媒上流温度センサ異常(電圧低)
3D 001108 10	SCR触媒上流温度センサ	SCR触媒上流温度センサ　妥当性異常(冷態始動チェック時)
3D 001108 15	SCR触媒上流温度センサ	SCR触媒上流温度センサ　妥当性異常(上限側異常)

エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
3D 001108 17	SCR触媒上流温度センサ	SCR触媒上流温度センサ　妥当性異常（下限側異常）
3D 001117 00	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ） パワーステージ温度上昇異常
3D 001117 03	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ） PWM信号線VB短絡
3D 001117 04	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ） PWM信号線GND短絡
3D 001117 05	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ） PWM信号線断線
3D 001117 07	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ） ポンプモータ駆動異常2
3D 001117 10	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ） ポンプモータ駆動異常1
3D 001411 00	タンクヒーティングバルブ	タンクヒーティングバルブ　パワーステージ温度上昇異常
3D 001411 04	タンクヒーティングバルブ	タンクヒーティングバルブ　LサイドGND短絡
3D 001411 05	タンクヒーティングバルブ	タンクヒーティングバルブ　断線
3D 07FD22 03	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ） HサイドVB短絡
3D 07FD22 04	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ） HサイドGND短絡
3D 07FD23 03	ホースヒータリレー・タンクヒーティングバルブ	ホースヒータリレー・タンクヒーティングバルブ HサイドVB短絡
3D 07FD23 04	ホースヒータリレー・タンクヒーティングバルブ	ホースヒータリレー・タンクヒーティングバルブ HサイドGND短絡
3D 07FD24 03	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ） HサイドVB短絡
3D 07FD24 04	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ） HサイドGND短絡
3D 07FD24 05	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ） 断線
3D 07FD24 10	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ） 妥当性異常
3D 07FD25 03	尿素水ホースヒータ （バックフロー、プレッシャ、サクション）	尿素水ホースヒータ（バックフロー、プレッシャ、サクション） HサイドVB短絡・LサイドVB短絡
3D 07FD25 07	SCRシステム	SCRシステムの強制シャットオフ
3D 07FD26 03	DCU供給電圧	DCU供給電圧異常（電圧高1）
3D 07FD26 04	DCU供給電圧	DCU供給電圧異常（電圧低2）
3D 07FD27 03	DCU供給電圧	DCU供給電圧異常（電圧高2）
3D 07FD27 04	DCU供給電圧	DCU供給電圧異常（電圧低1）
3D 07FD28 02	メインリレー	メインリレー早期開き
3D 07FD28 07	メインリレー	メインリレー固着
3D 07FD2A 09	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOxセンサからのCAN受信タイムアウト
3D 07FD2B 09	SCR下流NOxセンサ	SCR下流NOxセンサからのCAN受信タイムアウト
3D 07FD32 09	ECU	ECUからのCAN受信タイムアウト
3D 07FD36 03	DCU内部異常	サプライ1電圧過大エラー
3D 07FD36 04	DCU内部異常	サプライ1電圧過小エラー
3D 07FD38 12	サプライモジュールポンプ圧センサ	センササプライ電圧エラー
3D 07FD39 12	DCU内部異常	SPI通信異常1
3D 07FD3A 12	DCU内部異常	SPI通信異常2
3D 07FD3B 12	DCU内部異常	ADコンバータ異常1

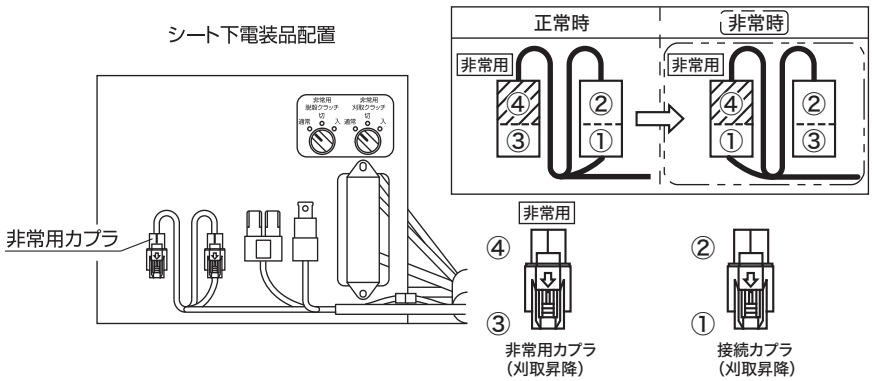
エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
3D 07FD3C 12	DCU内部異常	ADコンバータ異常2
3D 07FD3D 00	DCU内部温度センサ	DCU内部温度上昇異常
3D 07FD3E 03	DCU内部温度センサ	DCU内部温度センサ異常（電圧高）
3D 07FD3E 04	DCU内部温度センサ	DCU内部温度センサ異常（電圧低）
3D 07FD40 00	ドージングモジュール	ドージングモジュール　パワーステージ温度上昇異常
3D 07FD41 03	ドージングモジュール	ドージングモジュール　LサイドVB短絡
3D 07FD42 03	ドージングモジュール	ドージングモジュール　HサイドVB短絡・断線
3D 07FD42 04	ドージングモジュール	ドージングモジュール　LサイドGND短絡
3D 07FD42 05	ドージングモジュール	ドージングモジュール　HサイドGND短絡
3D 07FD44 07	ドージングモジュール	ドージングモジュールバルブ　固着
3D 07FD45 12	EEPROM	EEPROMメモリ消去エラー
3D 07FD46 12	EEPROM	EEPROMメモリ読み出しエラー
3D 07FD47 12	EEPROM	EEPROMメモリ書き込みエラー
3D 07FD48 00	ホースヒータリレー	ホースヒータリレー　パワーステージ温度上昇異常
3D 07FD48 03	ホースヒータリレー	ホースヒータリレー　LサイドVB短絡
3D 07FD48 04	ホースヒータリレー	ホースヒータリレー　LサイドGND短絡
3D 07FD48 05	ホースヒータリレー	ホースヒータリレー　断線
3D 07FD49 03	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ） LサイドVB短絡
3D 07FD4A 03	タンクヒーティングバルブ	タンクヒーティングバルブ　LサイドVB短絡
3D 07FD4B 00	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOx値上昇異常
3D 07FD4B 03	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOxセンサ　内部回路短絡
3D 07FD4B 05	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOxセンサ　内部回路断線
3D 07FD4C 00	SCR下流NOxセンサ	SCR下流NOx値上昇異常
3D 07FD4C 03	SCR下流NOxセンサ	SCR下流NOxセンサ　内部回路短絡
3D 07FD4C 05	SCR下流NOxセンサ	SCR下流NOxセンサ　内部回路断線
3D 07FD4D 07	SCR上流NOxセンサ	SCR上流NOxセンサ　加熱未完了異常
3D 07FD4E 07	SCR下流NOxセンサ	SCR下流NOxセンサ　加熱未完了異常
3D 07FD4F 00	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ） パワーステージ温度上昇異常
3D 07FD50 03	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ） LサイドVB短絡
3D 07FD50 04	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ） LサイドGND短絡
3D 07FD50 05	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ）　断線
3D 07FD51 01	SCRシステム	NOx浄化効率異常
3D 07FD56 10	SCR下流NOxセンサ	SCR下流NOxセンサ　妥当性異常
3D 07FD5A 00	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ） パワーステージ温度上昇異常
3D 07FD5A 01	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ温度センサ） 妥当性異常
3D 07FD5A 10	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ温度センサ） 妥当性異常（冷態始動チェック時）
3D 07FD5B 01	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュール温度センサ） 妥当性異常
3D 07FD5B 10	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュール温度センサ） 妥当性異常（冷態始動チェック時）

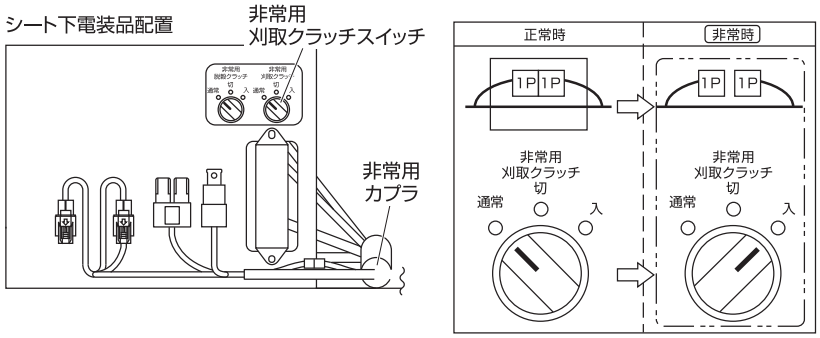
エラーコード（表示内容）	部位	エラー内容
3D 07FD5C 02	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ温度センサ）温度情報Duty値故障値受信
3D 07FD5D 02	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュールヒータ温度センサ）温度情報Duty値無効値受信
3D 07FD5E 08	サプライモジュール	サプライモジュール　温度情報PWM周期異常
3D 07FD5F 08	サプライモジュール	サプライモジュール　温度情報PWM信号異常
3D 07FD60 02	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュール温度センサ）温度情報Duty値故障値受信
3D 07FD61 02	サプライモジュール	サプライモジュール（サプライモジュール温度センサ）温度情報Duty値無効値受信
3D 07FD62 07	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ）温度測定の開始不可
3D 07FD63 00	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ）圧力上昇異常1
3D 07FD64 07	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ）プレッシャリダクション不良
3D 07FD65 00	尿素水ホース（バックフロー側）	尿素水ホース（バックフロー側）　圧力上昇異常
3D 07FD66 07	尿素水ホース（プレッシャ側）	尿素水ホース（プレッシャ側）　圧力上昇異常
3D 07FD67 02	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ）　圧力安定性異常
3D 07FD68 07	サプライモジュール	サプライモジュール（リバーティングバルブ）　作動不良
3D 07FD69 00	サプライモジュール	サプライモジュール　尿素水吸い戻し不良
3D 07FD6A 00	サプライモジュール	サプライモジュール（ポンプモータ）　圧力上昇異常2
3D 07FD6B 01	サプライモジュール	サプライモジュール　圧力低下異常
3D 07FD6C 10	サプライモジュール	サプライモジュール　尿素水昇圧失敗
3D 07FD6E 02	尿素水タンク温度センサ	尿素水タンク温度昇温不良
3D 07FD72 09	尿素水品質センサ・尿素水タンク温度センサ（A1DEFI）	A1DEFIの受信タイムアウトエラー
3D 07FD73 09	尿素水タンク温度センサ・尿素水タンクレベルセンサ（AT1T1I）	AT1T1Iの受信タイムアウトエラー
3D 07FD74 00	SCRシステム	SCRシステム異常（Inducement2）
3D 07FD74 16	SCRシステム	SCRシステム異常（Inducement1）
3D 07FD75 00	ECU（ECUシステム異常）	ECUシステム異常ECUからのFSアクション指示1
3D 07FD78 05	キースイッチ	キースイッチ　断線

センターディスプレイに表示されない不調について

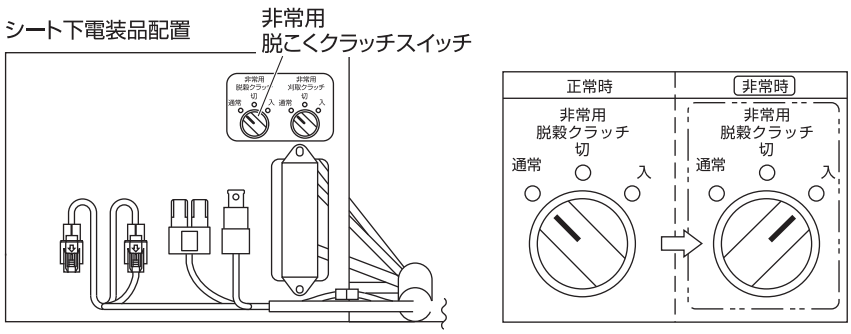
表 4-39 センターディスプレイに表示されない不調について

状況	点検箇所	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	バッテリー液は規定量入っていますか、また放電してはいませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電にしてください。	231
	バッテリー端子部のゆるみ、外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けてください。 ※ バッテリー端子を外す場合はキースイッチを必ず「OFF」位置にして、マイナス端子を外し、その後にプラス端子を外してください。 締め付ける場合はプラス端子を締め付け、つぎにマイナス端子を締め付けてください。	231
	バッテリーの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	プラス・マイナスを正しく接続してください。	231
	ヒューズが切れていませんか。 ●ジェネレータ・スタータスローブローヒューズ 100A, 60A, 40A（エンジン後部） ●キースイッチヒューズ 10A（エンジン後部） ●キースイッチONヒューズ 10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	脱こくクラッチまたはオーガクラッチが「入」になっていませんか。	脱こくクラッチまたはオーガクラッチを「切」にしてください。	78・82
スタータは回るがエンジンが始動しない。	副変速レバーが「N」（中立）位置になっていますか。	副変速レバーを「N」（中立）位置にしてください。（走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。）	77
	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満たんに給油し、エア抜きをしてください。	203・224
	燃料に水が入っていませんか。	ウォーターセパレータに水が溜まっていれば、水を抜いてください。	222
	燃料にエアが混入していませんか	燃料のエア抜きを行ってください。	224
	エラーが表示されていませんか。 ●エンジン過回転 ●エンジン回転数	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「エンジン制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・リレーのチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	—

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取が昇降できない。	ミッションオイルが規定量入っていますか。	ミッションオイルを規定量補給してください。	208
	ヒューズが切れていませんか。 ●走行コントローラヒューズ 15A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	エラーが表示されていませんか。 ●刈取昇降スイッチ ●受信エラー（刈取→走行 ●送信エラー（走行	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「刈高さ制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。 チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
	応急で手動での作業をする場合 シート下内の4Pカプラの接続を変更してください。 1. ①のカプラと非常用銘板が付いている④のカプラを接続してください。 2. ②のカプラと③のカプラを接続してください。  ※作業終了後は、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
傾斜調節できない。	ヒューズが切れていませんか。 ●刈取コントローラヒューズ 5A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ 10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→刈取 ●送信エラー（コラム ●水平調節スイッチ ●傾斜センサ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「水平制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

<table>
<tr><th>状況</th><th>点検箇所</th><th>処置</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">刈取クラッチが入らない。</td><td>ヒューズが切れていませんか。
●刈取クラッチヒューズ 15A
（シート下）
●コラムコントローラヒューズ 10A
（シート下）
●走行コントローラヒューズ 15A
（シート下）</td><td>ヒューズを交換してください。
交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。</td><td>235</td></tr>
<tr><td>エラーが表示されていませんか。
●受信エラー（コラム→走行
●送信エラー（コラム</td><td>チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「クラッチ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="2">応急で刈取クラッチを入れる場合
シート下の非常用刈取クラッチスイッチを切り替えてください。
1. ハーネスに巻かれている非常用カプラ（1P）の黄色のテープをはがし、カプラ接続を外してください。
2. 非常用刈取クラッチスイッチを「入」側へ回してください。


※作業終了後は、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。
※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オーガ昇降できない。</td><td>作動油が規定量入っていますか。</td><td>作動油を規定量補給してください。</td><td>228</td></tr>
<tr><td>ヒューズが切れていませんか。
●走行コントローラヒューズ 15A
（シート下）</td><td>ヒューズを交換してください。
交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。</td><td>235</td></tr>
<tr><td>エラーが表示されていませんか。
●オーガ操作スイッチ（コラム</td><td>チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。</td><td>—</td></tr>
</table>

状況	点検箇所	処置	参照ページ
オーガ旋回できない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガ旋回モータヒューズ 30A（エンジン後） ●走行コントローラヒューズ 15A（シート下） ●オーガコントローラヒューズ 5A（エンジン後）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	オーガ旋回モータの強力ピンが折れていませんか。	強力ピンが折れている場合は、コントローラの初期設定が必要です。修理を依頼してください。	259
	エラーが表示されていませんか。 ●オーガ操作スイッチ（コラム ●受信エラー（走行→オーガ ●送信エラー（走行	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。 チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
脱こくクラッチが入らない	ヒューズが切れていませんか。 ●脱こくクラッチヒューズ 15A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ 10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	応急で脱こくクラッチを入れる場合 シート下の非常用脱こくクラッチスイッチを切り替えてください。 1. 非常用脱こくクラッチスイッチを「入」側へ回してください。  ※作業終了後は、特販店、またはJAに修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
排出オーガクラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガクラッチモータヒューズ 15A（エンジン後） ●走行コントローラヒューズ 15A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	CAN 通信エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→走行 ●送信エラー（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータのチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取オートセット・オートリフト装置が作動しない。	わらくず、泥がたまっていませんか。 ●刈取位置センサ ●刈高さセンサソリ	わらくず、泥を取り除いてください。	―
	エラーが表示されていませんか。 ●刈取位置センサ ●オートセット・オートリフトスイッチ ●オートセット高さ調節ダイヤル ●刈高さセンサソリ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「刈高さ制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
オーガ自動旋回装置が作動しない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガコントローラヒューズ 5A（エンジン後） ●コラムコントローラヒューズ 10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	エラーが表示されていませんか。 ●排出オーガ自動スイッチ ●排出オーガ位置センサ ●排出オーガ上限スイッチ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
刈取水平制御（水平）装置が作動しない。	エラーが表示されていませんか。 ●傾斜センサ ●傾斜設定ダイヤル ●水平自動スイッチ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「水平制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
快速制御が作動しない。	ヒューズが切れていませんか。 ●快速制御ヒューズ（15A）：〔シート下〕	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	235
	エラーが表示されていませんか。 ●快速調節ダイヤル ●トラニオン位置センサ ●快速駆動位置センサ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「快速制御」を選択し、スイッチ、センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
作物を搬送しない。	刈刃駆動ベルトがスリップしていませんか。	刈刃駆動ベルトの調節を行ってください。	248
	刈刃や搬送部に、雑草、引き抜き株、泥、石などの異物がかみ込んでいませんか。	刈刃・搬送部を点検して、異物があれば取り除いてください。	―
排出オーガより穀物が排出されない。	グレン駆動チェンの強力ピンが折れていませんか。	強力ピンが折れている場合は、強力ピンを交換してください。	259

状況	点検箇所	処置	参照ページ
株の引き抜きがある。	デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈高さ調節スイッチで、デバイダの先端を地面から５～10cmの範囲に調節してください。	―
	刈取速度が速すぎませんか。	作物・ほ場の状態に合わせて、適正な速度で刈取作業を行ってください。	―
	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のすき間を調節してください。	237
刈取部でのロスが多い。	リール速度が間違っていませんか。	リール速度を、走行速度より少し速くしてください。	143
	刈刃の前で作物が滞留していませんか。	リールの高さを低くセットし、作物が刈刃からオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	143
刈取部でのロスが多い。	プラットフォームが高すぎて、作物を短く刈りすぎていませんか。	作物をオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまで、プラットフォームを低くしてください。	143
	向い刈りで、リールが作物を押さえつけていませんか。	リール高さを適正にしてください。	143
リールに巻き上げや巻き付きがある。	リール速度が速すぎませんか。	リールの速度を適正にしてください。	143
	タイン角度が小さすぎませんか。	タイン角度を適正にしてください。	240
	リール高さが低すぎませんか。	リールの高さを適正にしてください。	143
土や石が入る。	プラットフォームが低すぎませんか。	プラットフォームは、できるだけ高く上げてください。	143
	刈高さ自動制御を使っていますか。	刈高さ自動制御を使ってください。	150
こぎ残しがでる。	ロータの回転数が低くありませんか。	エンジン回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モードスイッチを「入」(E モードランプ点灯)にしてください。また、ロータ変速が作物に合っているか、確認してください。	―
	送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	「7」または、「閉」側にしてください。	132
	作物の供給量が不十分ではありませんか。	走行速度を少し速くしてください。	―
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	走行速度を少し速くしてください。リールが前すぎるときは、後ろに下げてください。	―
こく粒の飛散が多い。	送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	送塵調節レバーを「閉」側に調節してください。	132
	エンジンの回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にしてください。	―
	クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	78
	唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	132

状況	点検箇所	処置	参照ページ
こぎ室内でゴトゴト音がして、能率があがらない。	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから刈り取ってください。	ー
	ロータの回転数が低くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モードスイッチを「入」(E モードランプ点灯)にしてください。また、ロータ変速が作物に合っているか、確認してください。	ー
	作業速度が速すぎませんか。	現在の速度より少し落として作業してください。	ー
	送塵調節レバーが「閉」側になっていませんか。	稲の含水率が高いときには、送塵調節レバーを「開」側にしてください。	132
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	ー
選別が悪い。	クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	作物の条件に合わせて、クリーンシフトレバーで適正位置に調節してください。	78
	エンジンの回転数が低すぎませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで正しく調節してください。	ー
	唐箕の風路、および風吸入口にわらくずなどがたまっていませんか。	わらくずなどを取り除いてください。	ー
	唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	132
損傷粒が多い。	供給量が不適正ではありませんか。	走行速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは、走行速度を落として作業してください。	ー
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	ー
	クリーンシフトレバーの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	78
	昇降機、排出オーガパイプに土が付着していませんか。	土をきれいに落としてください。	ー
	ロータ回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数に調節してください。	ー
キャビン内が冷えない。	風量が少ない。また、風が出ないのではありませんか。	ブロアモータの作動を調べてください。	ー
	吹出空気が送風になっていませんか。	温度コントロールレバーを「COOL」側にしてください。	97
	吹出空気温度が高くありませんか。	コンプレッサの回転を調べてください。	ー
	コンプレッサが回転しないのではありませんか。	ベルトの張りを適正に調整してください。	255
		電磁クラッチの作動を調べてください。	ー
	冷媒量が不足していませんか。	補充してください。	262
	コンデンサが詰まっていませんか。	掃除してください。	227

チェッカ機能について

このコンバインには、チェッカ機能が内蔵されています。各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックがセンターディスプレイの画面で行えます。

⚠ 警　告

- 確認する内容によっては、1人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- チェッカ機能を使用するときには、安全な場所でコンバインを停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「ON」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむをえずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。不意にコンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[参考]

- 非常用カプラが接続されているときは、チェッカ機能による刈取昇降はできません。
- センターディスプレイは、タッチパネルではありません。スイッチ表示部の操作は、スイッチ1～5で行ってください。(図 4-268)

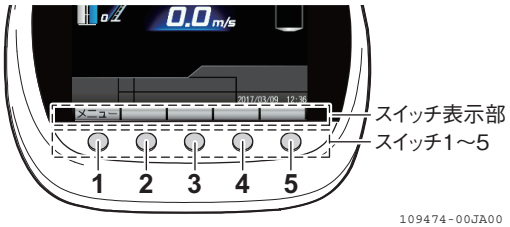


図 4-268

チェッカ機能の使いかた

1. 「メニュー」(スイッチ) を3秒以上押し続けます。(図 4-269)
   はじめにブザーが断続で鳴ってから連続に変わり、「メンテナンス選択メニュー」の画面に切り替わります。(図 4-270)

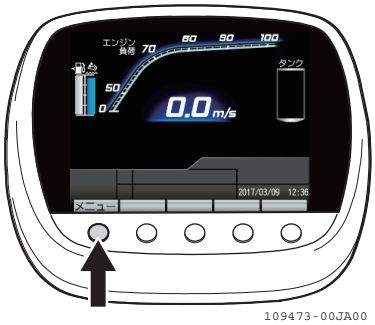


図 4-269

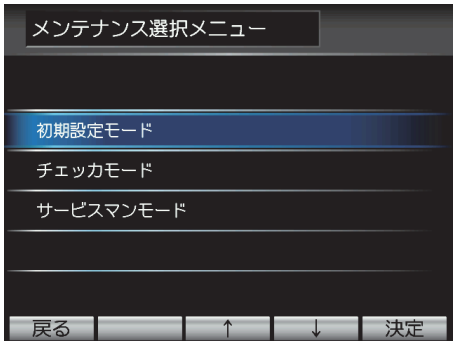


図 4-270

2. 「↑」(スイッチ) および「↓」(スイッチ) を押して「チェッカモード」を選択し、「決定」(スイッチ) を押します。(図 4-271)



図 4-271

3. 「↑」（スイッチ）および「↓」（スイッチ）を押してチェックを行いたい制御の項目を選択し、「決定」（スイッチ）を押します。（図 4-272）



図 4-272

4. 各制御に関連するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などの「各制御メニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい項目選択し、「決定」（スイッチ）を押します。（図 4-273）

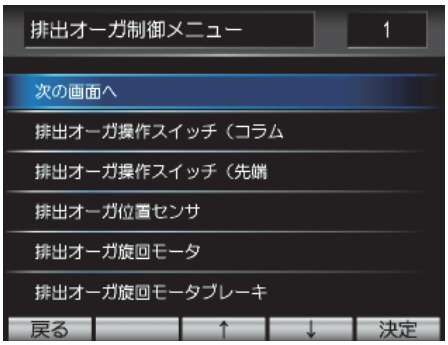


図 4-273

※図は、排出オーガ制御のチェック例です。

5. つぎに、それぞれ選択したチェックしたい項目について説明します。

スイッチを選択した場合

1）スイッチの状態と、そのスイッチの入力を処理しているコントローラが表示されます。

2）スイッチ操作と表示が異なるときは、スイッチの故障か、もしくはスイッチとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。

3）カプラの外れやわらくずなどでスイッチが押された状態になっていないことを確認してください。

4）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、お買い上げいただいた特販店または JA に修理を依頼してください。

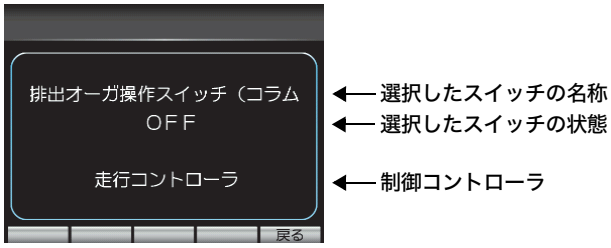


図 4-274

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、排出オーガ操作スイッチコラムを押した状態の画面です。

センサを選択した場合

1）センサの入力値（電圧・回転数・温度など）と正常なときのセンサ値の範囲、およびそのセンサの入力を処理しているコントローラが表示されます。
2）センサが異常値のときはセンサの故障か、もしくはセンサとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
3）カプラが外れていないことを確認します。
4）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、センサ値が正常値にない場合や、エラーが解除されない場合は、特販店またはJAに修理を依頼してください。

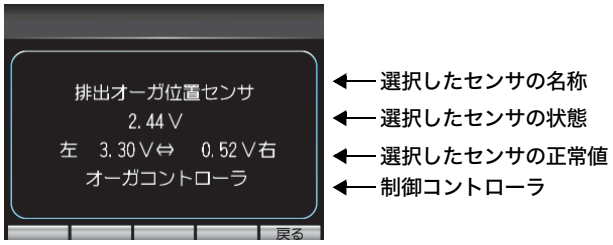


図 4-275

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、排出オーガがオーガレストに収納された状態の画面です。

モータ・ランプ・電磁弁を選択した場合

1）「駆動」（スイッチ）を押しながら、「右」（スイッチ）もしくは「左」（スイッチ）を押して、モータなどを動かすことができます。
2）画面には動かしている状態と、出力しているコントローラが表示されます。
3）もし動かないときは、モータなどの故障か、もしくはモータなどとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
4）カプラが外れていないことを確認します。
5）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、特販店またはJAに修理を依頼してください。

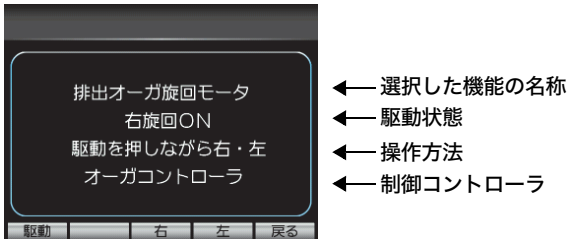


図 4-276

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、「駆動」（スイッチ）を押しながら「右」（スイッチ）を押した状態の画面です。

6. 「戻る」（スイッチ）を押して、「各制御メニュー」の画面に戻ります。さらに、制御に関するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などをチェックする場合は、手順4.の要領で行います。
7. 通常の画面に戻る場合は、キースイッチを「OFF」位置にして、再度「ON」位置にするか、画面表示に従って、「戻る」（スイッチ）を押します。

[重要]

エンジンをかけたまま各モータ・電磁弁などのチェッカ機能を使用したあとは、必ずキースイッチをいったん「OFF」位置にしてから再度エンジンを始動するか、画面表示に従って（戻る）を押して、通常の画面に戻ってから、作業を開始してください。「各制御メニュー」のまま作業を続けると、各モータ・電磁弁の手動・自動の作動が正常にできないことがあります。

短期保管するときは（2カ月以内）

[重要]

- 各部にこく粒やわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 無線リモコンのアンテナを外して保管する場合は、アンテナ基部に雨などが入らない場所で保管するか、シートをかけてください。

[参考]

床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。

保管のしかた

コンバインを保管する場合は、つぎの要領で整備し、保管してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（99 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。
3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」（193 ページ）に従って、グリスアップします。
5. サイドデバイダを収納します。
6. 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

[重要]

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

7. 刈取部をいっぱいまで下げます。
8. 各操作スイッチ・レバーを「切」、「OFF」位置、または「N」位置にします。
9. バッテリーの（－）側ケーブルを外します。

[重要]

- バッテリーは、使わなくても自然放電します。
  1 カ月に 1 度は充電器で完全充電してください。
  （234ページ参照）
- キースイッチを「OFF」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
  ⇒システム破損の原因になるため、キースイッチ「OFF」後10分間は、バッテリーからケーブルを絶対に外さないでください。

10. 必ずキーを抜き取って保管します。

尿素水について

尿素水は保管温度により下表のように寿命が異なります。保管の際は、できるだけ低温状態で保管してください。尿素タンク内に残った未使用の尿素水は、抜いてから機械を保管してください。機械を使用するときは、使用される前日に尿素水を満量状態にしてから使用することを推奨します。詳しくは、尿素水メーカーの取扱説明書をご確認ください。

[参考]

JIS K2247-2/ISO22241-1 に基づく保存有効期間

表 5-1

保管温度	予想される尿素水の寿命
≦ 10 ℃	36カ月
10 ℃< T ≦ 25 ℃	18カ月
25 ℃< T ≦ 30 ℃	12カ月
30 ℃< T ≦ 35 ℃	6カ月
35 ℃< T ≦ 40 ℃	4カ月
40 ℃< T ≦ 50 ℃	1カ月
50 ℃< T ≦ 60 ℃	1週間

＞ 35 ℃は都度品質確認が必要です。
（JIS K2247-2 に従い、アルカリ度を試験してください）
保管場所から取り出された尿素水は、すべて ISO22241-1 もしくは JIS22247-1 を満たすことを確認することを推奨します。

運転を再開するときは

短期保管または長期保管後、初めて運転をするときは、つぎの要領で準備してください。

1. 塗布した防錆油をふき取ります。
2. さびや部品などの劣化がないか確認します。
3. 新しい尿素水を満量補給します。
   補給する尿素水の取り扱いについては、296 ページの「尿素水について」を参照してください。
4. オイル・尿素水・冷却水の量の確認、漏れ、ホース、パイプ類の損傷がないかを点検します。
5. バッテリーの（－）側ケーブルを取り付けます。
6. エンジンを始動し、異常がないことを確認します。

[重要]

- **エンジン始動後は、暖機運転を長く行い、各部を十分になじませてください。**
- **オイル・尿素水・冷却水は指定の交換時期または寿命を過ぎている場合は交換してください。**

保管中の整備のしかた

保管中は、つぎのような整備を行ってください。
また、作業装置を作動させるときは油圧シリンダロッドに塗った防錆油をふき取ってください。

- 1カ月に一度はエンジンをかけて、コンバインを動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。
- バッテリーは、使用しなくても自然に放電します。
  1 カ月に一度は、充電してください。
  (234ページ参照)
- 2 ～3週間ごとに1～2回は、エンジンをローアイドリング（低回転）で、エアコンを10分以上作動させてください。
- 保管中に整備するときは、排水されている尿素タンクに新しい尿素水を補給し、エンジンを始動してください。整備後の尿素水の処置は、296 ページの「尿素水について」を参照してください。

長期保管するときは（2カ月以上）

⚠ 警　告

長期保管するときは、バッテリーを外し、キーを抜き取ってから保管してください。電気配線被覆の劣化による漏電で火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- 各部にこく粒やわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、つぎの年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 無線リモコンのアンテナを外して保管する場合は、アンテナ基部に雨などが入らない場所で保管するか、シートをかけてください。

[参考]

床が汚れないように、コンバインの下に板を敷いてください。

保管のしかた

コンバインを長期間使用しない場合は、つぎの要領で整備し、格納してください。

〈用意するもの〉

- 防錆油
- グリス
- バッテリー充電器
- ポリエチレンなどの袋

1. コンバインを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取ります。

[重要]

さびの発生を防ぐため、電装品やコネクタなどに水が入り込まないように注意してください。

2. 「運転前の点検」（99 ページ）に従って点検を行い、不具合箇所は整備します。

[重要]

メンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをしてください。（196ページ参照）

3. 外部のさびやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ります。
4. 「グリスアップのしかた」（193 ページ）に従って、グリスアップします。
5. サイドデバイダを収納します。
6. 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい平たんな屋内に置きます。

[重要]

やむをえず屋根のない場所に保管する場合は、カバーなどをかけてください。

7. 刈取部をいっぱいまで下げます。
8. さびを防ぐため、燃料タンクの燃料を満タンにします。
9. ウォーターセパレータは OFF（閉）位置にします。

[重要]

整備などでエンジンを運転する場合は、規定量の冷却水を給水して行ってください。エンジンが破損します。

[参考]

- 不凍液を入れた冷却水でも、－10 ℃以下になると凍ることがあります。（200ページ参照）
- 冷却水は抜かずに保管してください。

10. 各操作レバー・スイッチを「OFF」、「切」位置、または「N」位置にします。

11. バッテリーを完全充電し、コンバインから外し、風通しのよい冷暗所に保管します。

⚠ 警　告

バッテリーを、外すときは(−)側のケーブルから外し、取り付けるときは(+)側のケーブルを(+)側の端子に取り付けてください。ショートによるヤケドや火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

[重要]

- バッテリーは、使わなくても自然放電します。
  1カ月に1度は充電器で完全充電してください。
  (234ページ参照)
- キースイッチを「OFF」位置にすると、サプライモジュールが経路内の尿素水をタンクに吸い戻す制御を実施しています。
  ⇒システム破損の原因になるため、キースイッチ「切」後10分間は、バッテリーからケーブルを絶対に外さないでください。

12. エアクリーナー・排出ガス出口・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉します。
13. 必ずキーを抜き取って保管します。

[参考]

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。

尿素水について

尿素水は保管温度により下表のように寿命が異なります。保管の際は、できるだけ低温状態で保管してください。尿素タンク内に残った未使用の尿素水は、抜いてから機械を保管してください。機械を使用するときは、使用される前日に尿素水を満量状態にしてから使用することを推奨します。詳しくは、尿素水メーカーの取扱説明書をご確認ください。

[参考]

JIS K2247-2/ISO22241-1 に基づく保存有効期間

表 5-2

保管温度	予想される尿素水の寿命
≦ 10 ℃	36カ月
10 ℃< T ≦ 25 ℃	18カ月
25 ℃< T ≦ 30 ℃	12カ月
30 ℃< T ≦ 35 ℃	6カ月
35 ℃< T ≦ 40 ℃	4カ月
40 ℃< T ≦ 50 ℃	1カ月
50 ℃< T ≦ 60 ℃	1週間

＞ 35 ℃は都度品質確認が必要です。
(JIS K2247-2 に従い、アルカリ度を試験してください)
保管場所から取り出された尿素水は、すべて ISO22241-1 もしくはJIS22247-1 を満たすことを確認することを推奨します。

運転を再開するときは

短期保管または長期保管後、初めて運転をするときは、つぎの要領で準備してください。

1. 塗布した防錆油をふき取ります。
2. さびや部品などの劣化がないことを確認します。
3. メンテナンス時期を確認し、必要に応じてメンテナンスをします。（196ページ参照）
   冷却水は、純正または純正相当品でないものを使用の場合は必ず交換してください。
4. 新しい尿素水を満量補給します。
   補給する尿素水の取り扱いについては、299ページの「尿素水について」を参照してください。
5. ウォーターセパレータを「ON」（開）位置にします。
6. 燃料、尿素水、冷却水の量の確認、漏れ、ホース、パイプ類の損傷がないかを点検します。
7. バッテリーをコンバインに取り付けます。
8. エンジンを始動し、異常がないことを確認します。

[重要]

- **エンジン始動後は、暖機運転を長く行い、各部を十分になじませてください。**
- **オイル・尿素水・冷却水は指定の交換時期または寿命を過ぎている場合は交換してください。**

保管中の整備のしかた

保管中は、つぎのような整備を行ってください。
また、作業装置を作動させるときは油圧シリンダロッドに塗った防錆油をふき取ってください。

- 1カ月に一度はエンジンをかけて、コンバインを動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。
- バッテリーは、使用しなくても自然に放電します。1 カ月に一度は、充電してください。（234ページ参照）
- 2 ～3週間ごとに1～2回は、エンジンをアイドリング（低回転）で、エアコンを10分以上作動させてください。
- 保管中に整備するときは、排水されている尿素タンクに新しい尿素水を補給し、エンジンを始動してください。整備後の尿素水の処置は、299 ページの「尿素水について」を参照してください。

トラックへの積み･降ろしのしかた

⚠ 警　告

- 移動走行時およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチ、および自動スイッチを「OFF」・「切」位置にしてください。自動ランプが消えていることを、確認してください。急に刈取部が上下に動き、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ほ場間の移動でトラックを使用される場合は、十分な強度のあるトラックを使用してください。
- コンバイン重量以上の積載トン数のトラックを使用してください。
- コンバインを積むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。転落により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 積み・降ろしのコンバイン方向は、「コンバインの積み込みかた」（302ページ参照）の表 6-2 に従い行ってください。バランスをくずし、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- コンバインが不意に動いたときに危険なので、コンバインの直前・直後には、絶対に立たないでください。
- コンバインがアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積んだコンバインは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけクローラの前後に車止めをしてください。コンバインは荷締機で確実に固定してください。転落により、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注　意

- 長距離の移動などでトラックを使用されるときは、安全のため、必ずお買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。
- 積み・降ろしをする場所は、平たんで安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。けがをするおそれがあります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒し、けがをするおそれがあります。
- アユミ板の上では、副変速の操作をしないでください。コンバインが不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、けがをするおそれがあります。
- 移動走行時およびトラックなどの積み降ろしをするときは、必ず作業クラッチレバーを「OFF」位置、Eモードスイッチを「切」位置（Eモードランプ消灯）にしてください。また、リール、セカンドモア、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。刈取部が急に傾いて転倒し、けがをするおそれがあります。

アユミ板について

アユミ板は、つぎの基準に合ったものを使用してください。

- 長さ…トラックの荷台の高さの4倍以上
- 幅…55 cm以上
- 強度 …1 枚がコンバインの重量に十分耐えられるもの
  （コンバイン質量約5370 kg〈MCH1150A-W3M〉）
- 表面…滑らないように処理してあるもの
- トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの

トラックの準備

⚠ 警　告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

[重要]

荷台からコンバインがはみださないトラックを準備してください。やむをえず、コンバインが荷台からはみだす場合は、道路交通法規を守って積み込んでください。

表 6-1 準備するトラック

最大積載荷重	荷台長さ	荷台幅	荷台高さ
6t 以上	5300 mm 以上	2400 mm 以上	1050 mm 以下

1. トラックの変速は、オートマチック車は「P」、マニュアル車は「1 速」または「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
2. トラックのタイヤ前後に車止めをします。
3. トラックの荷台にアユミ板（1）のフックを、段差 (2) がでないように確実に掛けます。(図 6-1)

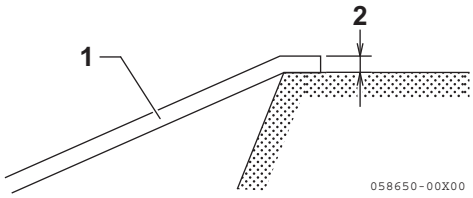


図 6-1

[重要]

- デバイダヘッドは外して移動してください。
- トラックの荷台に、ダンプ機構が付いていない場合は、基準に合ったアユミ板を使用してください。

コンバインの積み込みかた

1. ワイドヘッダー、スーパーワイドヘッダーの場合は、ヘッダー部を外します。
   外しかたは175ページを参照してください。
2. コンバインは、移動走行時の走行姿勢と同じ状態にします。(123ページ参照)

[重要]

乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行うと、ステップの破損・変形の原因になります。

3. Eモードスイッチ（1）を「切」(Eモードランプ消灯)（2）にします。(図 6-2)

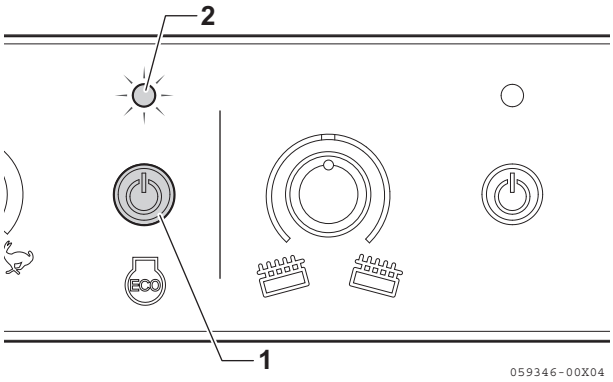


図 6-2

[参考]

E モードスイッチが「入」(E モードランプ点灯)のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

4. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、コンバインの方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めます。

5. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押します。刈取部がアユミ板に接触しないように上げます。(図 6-3)

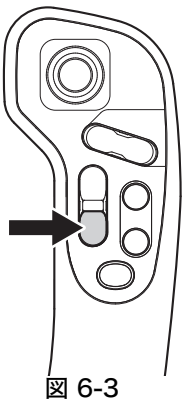


図 6-3

6. コンバインの積み込み方向は、表 6-2 の表を参照します。

表 6-2 積み込み方向

進行方向	積み込み	ヘッダー付き	前進
		ヘッダーなし	後進
	降ろし	ヘッダー付き	後進
		ヘッダーなし	前進

7. 副変速レバー（1）を「低速」位置にして、オールマイティシフトレバー（2）をゆっくり「後進」位置にします。コンバインがゆっくり動き始めます。(図 6-4)

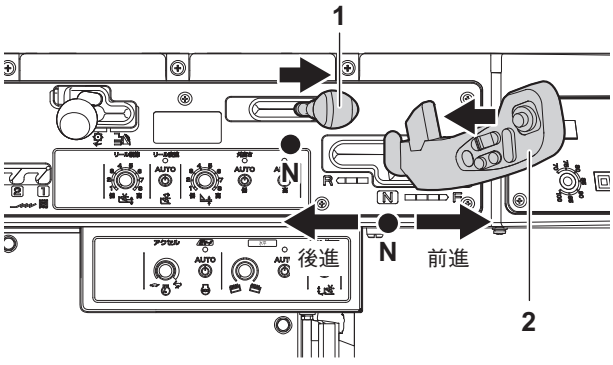


図 6-4

8. コンバインをトラックに積み込んだら、セフティペダル（1）をいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバー（2）を手前に引いて、セフティペダルにフック部（3）をかけ、駐車ブレーキをかけます。(図 6-5)

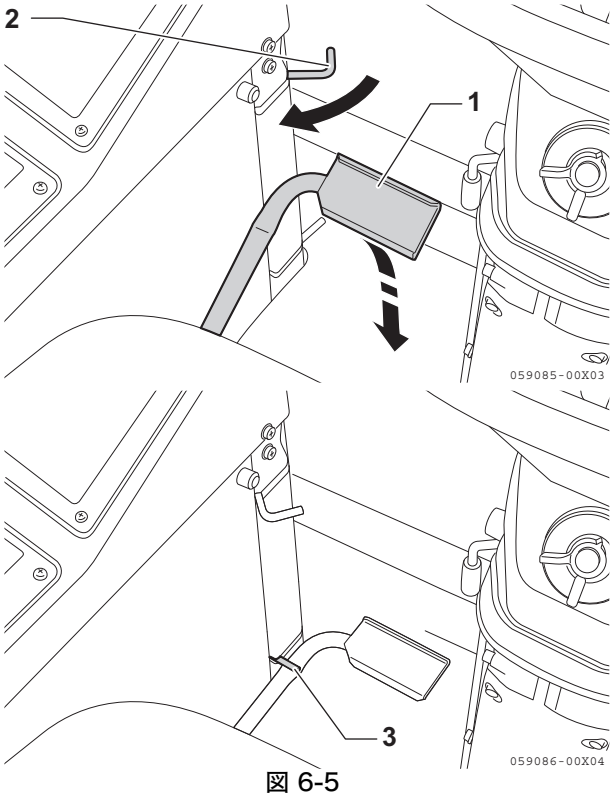


図 6-5

トラックに積んだら

1. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押します。刈取部をトラックの荷台に接地させます。(図 6-6)

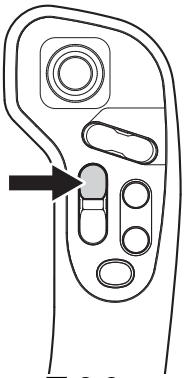


図 6-6

2. エンジンを停止します。(116ページ参照)
3. クローラの前後に車止めをし、コンバイン左右のフック（4 カ所）に、十分に強度のある荷締機を掛けて、コンバインを確実に固定します。

■ コンバイン左前

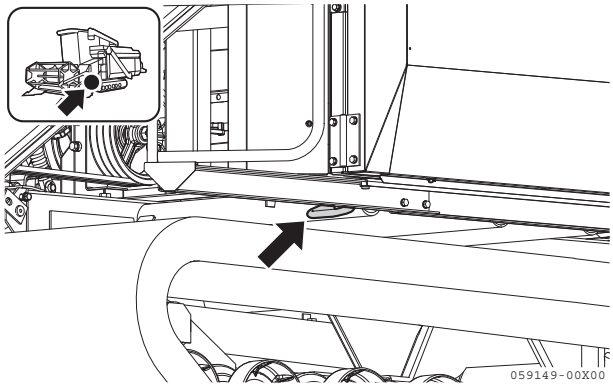


図 6-7 フック左前

■ コンバイン左後

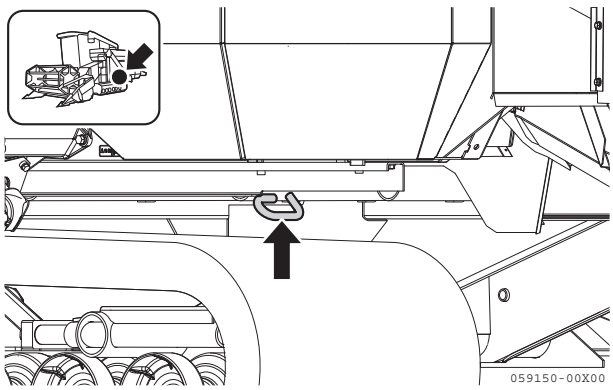


図 6-8 フック左後

■ コンバイン右前

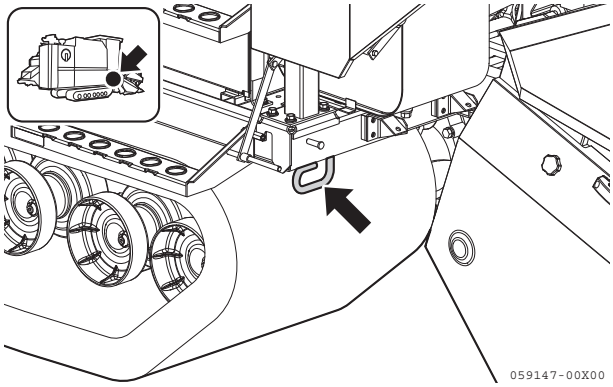


図 6-9 フック右前

■ コンバイン右後

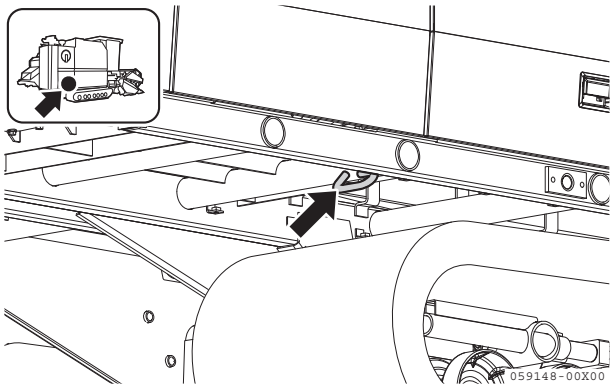


図 6-10 フック右後

[重要]

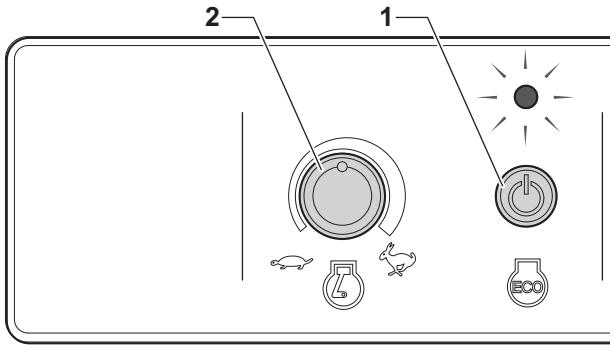
- フック以外には、荷締機を掛けないでください。破損するおそれがあります。
- 荷締機を強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。
- フックに荷締機をかけるときは、クローラに当たらないように固定してください。

コンバインの降ろしかた

⚠ 警　告

トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車し、エンジンを停止してください。

1. クローラ前後の車止めとコンバインを固定している荷締機を外します。
2. コンバインに破損、または欠落している部品がないかを確認します。
3. エンジンを始動します。（114ページ参照）
4. Eモードスイッチ（1）を「切」（Eモードランプ消灯）にし、アクセルダイヤル（2）を「🐇」側に回します。エンジン回転が上がります。（エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置に調節します。）（図 6-11）



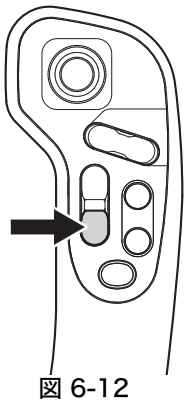
059345-00X01

図 6-11

[参考]

Eモードスイッチが「入」位置（Eモードランプ点灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、Eモードがはたらき、瞬時にエンジン回転が定格回転（グリーンゾーン）になります。このとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調整はできなくなります。

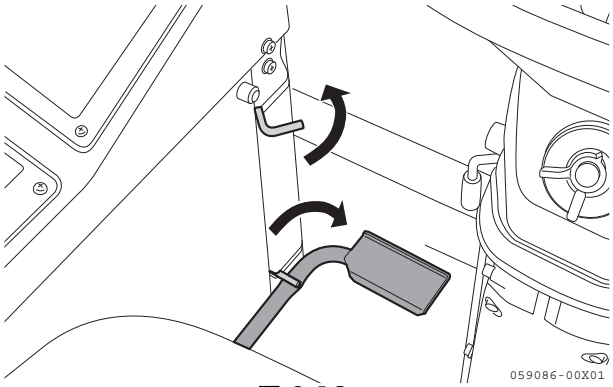
5. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押します。刈取部が上昇します。（図 6-12）



058828-00X04

図 6-12

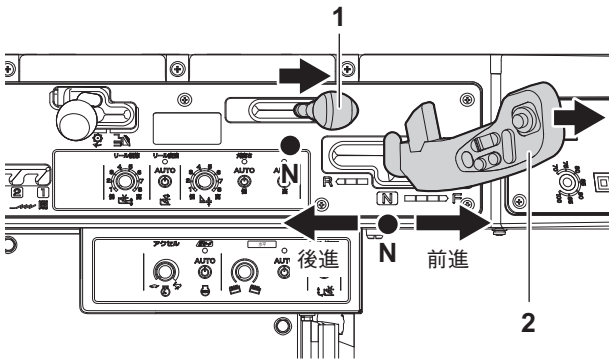
6. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除します。（図 6-13）



059086-00X01

図 6-13

7. 副変速レバー（1）を「低速」位置にして、オールマイティシフトレバー（2）をゆっくり「前進」位置にします。コンバインがゆっくりと動き始めます。（図 6-14）



058831-03JA08

図 6-14

8. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、コンバインの方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めます。
9. コンバインを完全にトラックから降したら、オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にして、コンバインを停止し、駐車ブレーキをかけます。
10. エンジンを停止します。（116ページ参照）
11. 外したヘッダー部（ワイドヘッダー）を取り付けます。各部の取り付けは、逆の手順で行います。

積み・降ろし中の停止・発進のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にして、コンバインを停止します。（図 6-15）

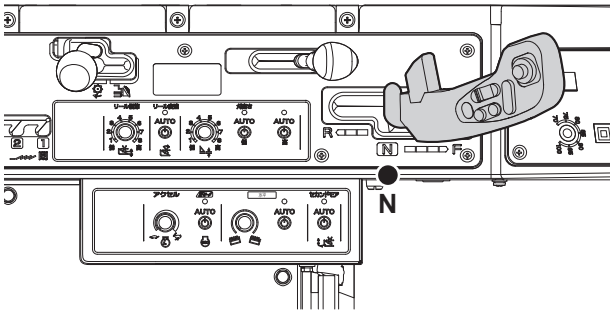


図 6-15

2. 再度動かすときは、オールマイティシフトレバーを操作して、コンバインをゆっくりと動かします。

主要諸元

表 7-1 主要諸元

名称				三菱コンバイン					
販売型式名				MCH1150A					
区分				—	M	W	WM	W3	W3M
機体寸法	全長		(mm)	6240					
	全幅		(mm)	2370		2840		3485	
	全高		(mm)	2760					
機体質量(重量)	コンバイン単体		(kg)	5040	5180	5110	5250	5200	5370
エンジン	型式名			4TNV94FHT-NRC1					
	種類			水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル　インタークーラーターボ(CR)					
	総排気量		(L{cc})	3.053{3053}					
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	84.2{114.5}/2500					
	使用燃料			ディーゼル軽油					
	燃料タンク容量		(L)	110					
	始動方式			セルスタータ式					
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	550×1960					
		中心距離	(mm)	1235					
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm^2})	23.0 {0.23}	23.6 {0.24}	23.2 {0.24}	23.9 {0.24}	23.7 {0.24}	24.4 {0.25}
	変速方式			HST無段変速(FDS)					
	変速段数		(段)	前後進無段×副変速3段					
	変速速度(エンジン定格回転速度時)		(m/s)	前進=低速:0～1.00, 標準:0～2.00, 走行:0～2.81 後進=低速:0～0.93, 標準:0～1.89, 走行:0～2.62					
刈取部	デバイダ先端間隔		(mm)	2060		2590		3230	
	刈取装置形式			リール+プラットホーム					
	刃幅		(mm)	1976		2508		3148	
	刈高さ範囲		(mm)	-100～1000					
	リール	回転径×幅	(mm)	1000×1915		1000×2450		1000×3090	
		回転速度	(rpm)	15～37(車速同調)					
脱こく・選別部	形式			スクリューローター					
	ローター	個数	(個)	1					
		こぎ歯の種類		スクリューこぎ歯					
		径×長さ	(mm)	590(オーガ径)×2170					
		回転速度	(rpm)	310(大豆・そば)/710(稲・麦)					
	コンケーブ面積		(m^2)	2.10					
	チャフシーブ面積		(m^2)	1.47					
	グレンシーブ面積		(m^2)	0.27					
	総選別面積		(m^2)	1.74					
籾処理部	タンク容量		(L)	1900					
	排出高さ		(mm)	5100/4300					
刈取処理装置				—	セカンドモア	—	セカンドモア	—	セカンドモア
排わら処理装置				チョッパー スプレッダ					
諸装置	自動化装置			自動刈高さ制御(2モード)・刈取水平制御・バックアップ機構・ 刈取オートリフト/オートセット・リール車速同調/リール高さ制御・ 脱こく選別制御・オーガ自動セット/収納・エコディーゼル・自動快速制御					
	その他装置			CDラジオ・ロータリースクリーン・スイングプレート・オーガマルチリモコン・ 無線リモコンオーガ・デュアルモニター(バックモニター・オーガ先端モニター)・ 刈取詰まり除去装置(刈り取り逆転)・排出オーガ掃除口・DPF・SCR					
作業能率(計算値)			(分/10a)	6～39(麦・大豆) 10～39(稲)		5～31(麦・大豆) 10～31(稲)		5～27(麦・大豆) 10～27(稲)	
安全性検査合格番号				申請予定					

主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

※ コンバインの使用状況やほ場の状態により、交換時間などは変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。運転・作業中に異常を感じた場合は、すみやかに点検を実施し、特販店、またはJAに相談してください。

表 7-2 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

○:点検と調整・掃除・締結　●:初期運転後の点検と調整　▲:交換

点検箇所		点検・交換時期																									それ以降(時間:h)	
		アワメータ表示時間(時間)																										
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
エンジン	冷却水	毎日点検																					毎日点検	2年ごと
	油水分離器(交換部品:エレメント)		●	○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		○	100hごと	300hごと
	燃料フィルター(交換部品:カートリッジ)							▲						▲						▲			−	300hごと
	燃料タンクのドレン抜き			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100hごと	−
	燃料パイプおよび接合部の亀裂・ゆるみ							○						▲						○			300hごと(1年)	600hごと(2年)
	エアクリーナーエレメント目詰まり		○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	50hごと	300hごと
	防塵網、ラジエータフィンの目詰まり		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	−
	プレクリーナーのホコリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50hごと	−
	排気フィルターリセット再生		●		○		○		○		○		○		○		○		○		○		100hごと	−
	スートフィルター(排気フィルター)																						6000hごと	9000hごと
	サプライモジュールメインフィルター																						−	2000hごと
	尿素水タンクの残量	毎日点検																					毎日点検	−
油脂類	エンジンオイル		▲	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	50hごと	100hごと
	エンジンオイルエレメント		▲					▲						▲						▲			−	300hごと
	ミッションオイル		▲					▲						▲						▲			−	300hごと
	作動油							▲						▲						▲			−	300hごと
	HSTオイルフィルター							▲						▲						▲			−	300hごと
	刈刃駆動ケースオイル		▲					▲						▲						▲			−	300hごと
	ロータ駆動ケースオイル							▲						▲						▲			−	300hごと
	PTO駆動ケースオイル							▲						▲						▲			−	300hごと
走行部	クローラ					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	クローラガイド					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	車軸オイルシール									○								▲					400hごと	800hごと
	転輪					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	転輪ベアリング					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	転輪オイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	転輪スリーブ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	アイドラ					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	アイドラベアリング					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	アイドラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	アイドラスリーブ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	イコライザ					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	イコライザベアリング					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	イコライザオイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	キャリアローラ					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	キャリアローラベアリング					○				○				○				▲				○	200hごと	800hごと
	キャリアローラオイルシール					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	キャリアローラスリーブ					○				▲				○				▲				○	200hごと	400hごと
	スプロケット									▲								▲					−	400hごと

点検箇所		点検・交換時期																					それ以降(時間:h)	
		アワメータ表示時間(時間)																						
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
ベルト	ジェネレータ駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	ラジエータ冷却ファンベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	エンジンベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	カウンタベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	ＨＳＴ駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	コンプレッサ駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	吸引ファン駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	刈取駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	刈刃駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	リール変速ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	脱こく駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	ロータベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	PTO駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	プレクリーニングファン駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	唐箕駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	選別駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	セカンドファン駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	２番駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	レベリングデイスクベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	グレン駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	スプレッダ駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
	セカンドモア駆動ベルト	●		○		○		○		▲	●	○		○		○		▲	●	○		○	100hごと	400hごと
チェン	刈取駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	フィーダチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	バケットチエン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
	グレン駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100hごと	500hごと
ワイヤー	駐車ブレーキワイヤー		●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	50hごと	300hごと
	選別ワイヤー		●							○								▲					400hごと	800hごと
	スプレッダ切換えワイヤー		●							○								▲					400hごと	800hごと
刈取部	刈刃(含む隙間調整)			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		○	100hごと	300hごと
	刈刃駆動アームベアリング							▲						▲						▲			−	300hごと
脱こく部	インペラ補強											▲										▲	−	500hごと
	ロータオーガ補強											▲										▲	−	500hごと
	こぎ歯											▲										▲	−	500hごと
	排稈羽根											▲										▲	−	500hごと
	コンケーブ											▲										▲	−	500hごと
	ロータ内側補強											▲										▲	−	500hごと
	１番コンベア											▲										▲	−	500hごと
	２番コンベア											▲										▲	−	500hごと
	２番縦コンベア											▲										▲	−	500hごと
	２番上コンベア											▲										▲	−	500hごと
	バケット											▲										▲	−	500hごと
グレン部	下部コンベア											▲										▲	−	500hごと
	縦コンベア											▲										▲	−	500hごと
	排出横コンベア											▲										▲	−	500hごと
	スイングプレート											▲										▲	−	500hごと

| 点検箇所 | | 点検・交換時期 | | |

廃棄するときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このコンバインに使用されている、燃料・オイル・冷却水・尿素水・フィルター・バッテリー・ファンベルト・油圧ホース・燃料ホースなどは、正しく処分してください。

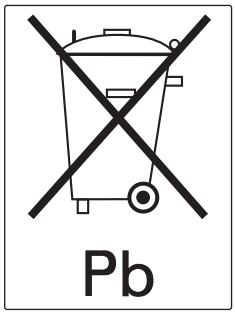


図 8-1

廃油、不凍液の処理

オイル交換で出た廃油や交換した不凍液は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。
廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご相談ください。

バッテリーの処理

環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリーは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

冷媒ガス(フロン類)の処理

- 冷媒ガスをみだりに大気中に放出することは法令で禁じられています。絶対に行わないでください。
- 冷媒ガス（フロン類）の充填・回収・廃棄は都道府県に登録された第一種フロン類充填回収業者のみが行うことができます。
  廃棄する場合は、登録された充填回収業者に依頼してください。

表 8-1 冷媒ガス

使用冷媒(クーラーガス)	フロン　R-134a
充てん量	950 g

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせずに、購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

尿素水の処理

尿素水は危険物・毒劇物の指定はありませんが、水質汚濁防止法令が適用されるため、残液および残液を含む空容器を湖沼、海域、河川などへ廃棄しないでください。廃棄する場合には都道府県知事の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託し、適切な処理をしてください。

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになったあとは大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

コンバインの調子が悪いときは、264ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してもなお不具合があるときは、つぎの「連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号（車両銘板）
- エンジンの場合は、エンジンの番号（エンジン銘板）
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。

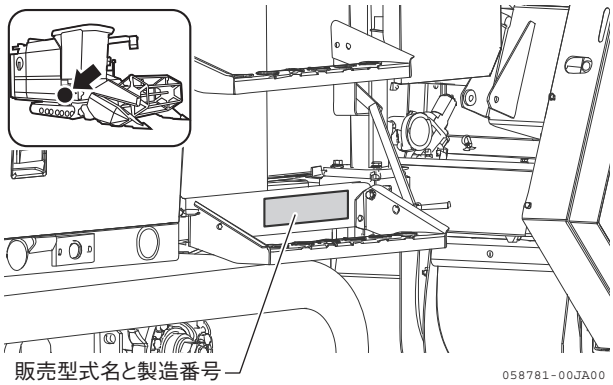


図 9-1 車両銘板

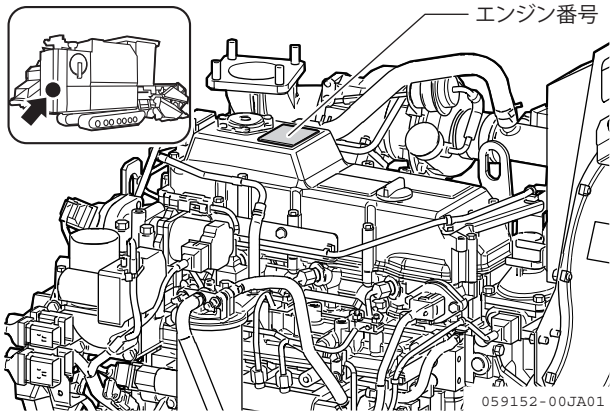


図 9-2 エンジン銘板

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品･オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。
部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



図 9-3 メーカー純正部品・オイルについて

改造について

かってな改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

10章 索引

英数字

E モードスイッチ 73
E モード設定 107
FM・AM 付 CD ラジオ 95
HST フィルター 230

あ

アームレスト 89
アクセルダイヤル 73

う

ウォーターセパレータ 222
ウォッシャー液 231
ウォッシャースイッチ 93

え

エアクリーナー 224
エアコン 125
エアコンスイッチ 96
エラーコード 70, 273
エンジン後カバー 173
エンジンオイル 200
エンジンオイルエレメント 212
エンジン銘板 1

お

オーガ自動旋回スイッチ 81
オーガ自動旋回装置（オーガオートセット・オーガオートリターン装置） 157
オーガマルチリモコン 81
オーガモニターカメラ 97
オーガリターンスイッチ 86
オートデセル機能 74
オールマイティシフトレバー 79
オイル 205
温度コントロールレバー 97

か

快速制御機能 76
快速制御スイッチ 75
快速調節ダイヤル 76
外部電源 91
刈高さ自動切替スイッチ 72
刈高さ調節ダイヤル 73
刈取オートセットボタン 80
刈取オートリフトボタン 80
刈取クラッチボタン 80
刈取昇降スイッチ 79
刈取水平制御装置 155
刈取バックアップ装置 155
刈取部ストッパ 91
刈刃 131

き

キー 62
キースイッチ 62
基本設定 111
キャビン 92

く

クリーンシフトレバー 78
グリス 193
グレンシーブ 189
グレンタンク 170

け

傾斜角調節ダイヤル 74

こ

コンビネーションスイッチ 63

さ

サイドウインドウ 93
サイドデバイダ 130
作業クラッチレバー 78
作業灯増設用電源① 91
作業灯増設用電源② 91

し

自動定回転制御装置 146
車両銘板 1, 2
乗降ステップ操作レバー 90

す

水平自動スイッチ 75
水平手動スイッチ 79
スプレッダ 173

せ

セカンドモア自動スイッチ 75
セフティペダル 86
旋回モード切替ノブ 87
センサソリ切替レバー 72
センターディスプレイ 65

そ

送塵調節レバー 88

た

高刈モード（自動切替） 72
高刈モード（調節） 73
脱こく下網 174
脱こく制御装置 157
脱こく左後カバー 172
脱こく左前カバー 172

ち

チャフシーブ 134
駐車ブレーキロックレバー 87
チルトレバー 64

つ

詰まりセンサ 84

て

ディーゼル燃料 9
デバイダヘッド 130
デュアルモニター 97

と

ドア開閉レバー 92
ドアハンドル 92
ドライバーシート 89
取扱説明書収納ポケット 90

に

尿素水 11

ね

燃料キャップ 203
燃料残量表示 202
燃料フィルター 203

は

バイオディーゼル 10
バイオディーゼル燃料 12
排気フィルター 190, 216
排気フィルター再生スイッチ 77
排出オーガクラッチスイッチ 82
排出オーガ手動スイッチ 82
バックアップ電源 95
バックモニターカメラ 97
バッテリー 231

ひ

低刈モード（自動切替） 72
低刈モード（調節） 73
ヒューズ・スローブローヒューズ 235
ヒューズボックス（キャビン室内） 236

ふ

ファンスイッチ 96
フィーダチェン 242
風向グリル 97
副変速レバー 77
不凍液 200
プレクリーナー 225

ほ

ホーンボタン 64

ま

マルチハンドル 64

み

ミッションオイル 208

む

無線リモコンオーガ 84
無線リモコン用アンテナ 86

め

メンテナンスモード 105

ら

ライトスイッチ（作業灯スイッチ兼用） 63

11章 部品リスト(部品早見表)

オプション

表 11-1 オプション

名称・型式	機能
セカンドモア CSM1100,M(MCH1150A用) CSM1100,WM(MCH1150A,W用) CSM115A,W3M(MCH1150A,W3用) CSM1100,WMH(MCH1150A,W用北海道向け) CSM115A,W3MH(MCH1150A,W3用北海道向け)	高刈り作業時の残株を、刈取と同時に再切断します。
スプレッダ CSS1140, CWM CSS1140, CWMH(北海道向け)	排稈・排塵を、ほ場へ均一に拡散します。
ビーンキット(パイプコンケーブ) B115A-K,PM(MCH1150用) B115A-K,WPM(MCH1150,W用) B115A-K,W3PM(MCH1150,W3用) B115A-K,HWPM(MCH1150,W用北海道向け) B115A-K,HW3PM(MCH1150,W3用北海道向け)	大豆の作物特性に合わせて改装する専用部品で、コンケーブがパイプタイプのもの。
小豆キット RB1150A,M(ビーンキット「有」) RB1150B,M-A(ビーンキット「無」) RB1150B,MH-A(ビーンキット「無」北海道向け)	小豆の作物特性に合わせて改装する専用部品です。
ソバキット BW1150A,M(ビーンキット「有」) BW1150B,M(ビーンキット「無」) BW1150A,MH(ビーンキット「有」北海道向け) BW1150B,MH(ビーンキット「無」北海道向け)	ソバの作物特性に合わせて改装する専用部品です。
大豆直接排出キット B1150-S,M B1150-L,M	バケットコンベアで大豆を排出する専用部品です。

主要消耗部品

表 11-2 主要消耗部品

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
1	エンジンベルト　LB83(AG10)	97360000400	3	エンジン～カウンタ1
2	カウンタベルト　LC151(AG8)	97320000270	2	カウンタ1～カウンタ2
3	HST入力ベルト　LB56(AG8)	97280000530	3	カウンタ2～HST
4	脱こくクラッチベルト　LC72(AGX)	97360000260	2	カウンタ1～ロータケース
5	ロータ駆動ベルト　LB76(AG8)	97280000050	4	ロータケース～ロータ
6	冷却ファン駆動ベルト　LA104(AG4)	97280000050	1	カウンタ1～冷却ファン
7	吸引ファン駆動ベルト　LA36	97390000140	1	エンジン～吸引ファン
8	グレン駆動ベルト　LC69	97360000050	1	エンジン～グレンカウンタ
9	ジェネレータ駆動ベルト ローエッジコグ B46.0	97320000040	1	エンジン～ジェネレータ
10	コンプレッサ駆動ベルト　LA37(AG6)	97360000060	1	T/M～コンプレッサ
11	PTO入力ベルト　LB34(AG8)	97320000240	2	カウンタ2～PTOケース
12	プレファン駆動ベルト　LA38H	97320000200	1	PTOケース～プレファン
13	唐箕駆動ベルト　LB54H	97390000150	1	PTOケース～唐箕
14	選別駆動ベルト　LC194H	97280000020	1	PTOケース～揺動､1番コンベア
15	セカンドファン駆動ベルト　LA26(AG6)	94690028820	1	選別ベルト～セカンドファン
16	2番コンベア駆動ベルト　LC49	97080008280	1	揺動～2番コンベア
17	レベリングディスク駆動ベルト　LA48H	97320000210	1	昇降機～レベリングディスク
18	刈取クラッチベルト　LB51(AG8)	97320000110	3	PTOケース～刈取
19	リール変速ベルト　RCVS31-950	94690002210	1	PF駆動軸～リールカウンタ軸
20	刈刃駆動ベルト　RCLC78	94690003170	1	PF駆動軸～刈刃駆動ケース 標準、ワイドヘッダー
21	刈刃駆動ベルト　LB78	97390000160	2	PF駆動軸～刈刃駆動ケース スーパーワイドヘッダーのみ
22	セカンドモア駆動ベルト　LC42H	97180000080	1	セカンドモア
23	スプレッダクラッチベルト　LB63(AG8)	97360000410	1	エンジン～スプレッダ
24	スプレッダ駆動ベルト　LB48(AG6)	97250011760	1	スプレッダ(低速)
25	スプレッダ駆動ベルト　SB47(AG6)	97250011770	2	スプレッダ(高速)
26	刈取駆動チェン　40L	97320000160	2	刈取駆動
27	チェン　50×158L	97290000660	1	
28	フィーダチェン　91L	97180010320	2	F.H
29	チェン　50×84L	94690003900	1	PFオーガ
30	チェン　415×60L	94690001860	1	リール駆動
31	チェン　415×226L	94690001920	1	リール
32	チェン　43	94690015840	1	2番下ケース
33	チェン　38	94690006000	1	2番上ケース
34	エレベータチェン　160	97320000180	1	昇降機
35	チェン　50×62L	97250010230	1	Gカウンタ～縦オーガ受継下
36	チェン　50×40L	97320000130	1	縦オーガ受継下
37	チェン　50×28L	97320000070	1	縦オーガ受継上
38	チェン　50×34L	97320000080	1	縦オーガ受継上
39	ローラチェン　50×53	97180000200	1	セカンドモア
40	タイン　260	94690029820	87	標準ヘッダー
			108	ワイドヘッダー
			135	スーパーワイドヘッダー

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
41	フィンガ	94690013040	13	標準ヘッダー、スーパーワイドヘッダー
			15	ワイドヘッダー
42	フィンガガイド	97360000270	13	標準ヘッダー、スーパーワイドヘッダー
			15	ワイドヘッダー
43	フィンガベアリング	97360000280	13	標準ヘッダー、スーパーワイドヘッダー
			15	ワイドヘッダー
44	ブラケット　A	94950000430	18	リールスパイダ
45	ブラケット　B	94950000440	18	リールスパイダ
46	刈刃　CMP	97320000150	1	標準ヘッダー
47	刈刃　CMP	97320000260	1	ワイドヘッダー
48	刈刃　CMP	97500000020	1	スーパーワイドヘッダー
49	FHチェン ササエバネ	97180010850	2	F.H
50	刈刃	94950000010	19	標準ヘッダー
			26	ワイドヘッダー
			34	スーパーワイドヘッダー
		94690003420	7	標準ヘッダー、ワイドヘッダー、 スーパーワイドヘッダー
51	受刃 AM	94690003331	13	標準ヘッダー
			17	ワイドヘッダー
			21	スーパーワイドヘッダー
52	受刃 C	94950001010	1	刈刃
53	ガイド　L	94690003430	1	刈刃
54	リールプレート	94690029882	6	リールプレート
55	リールテンショナ　A	94690001910	1	リールカウンタ
56	グロメット　30	94690029930	10	リールスライド
57	FH駆動テンショナ	97180010310	1	FH駆動
58	シートメタルゴム	94690014990	1	FHシートメタル
59	シートメタル	97180000120	2	FHシートメタル
60	こぎ歯　(H-1100)	97290001120	45	ロータ
61	こぎ歯　SK27.5	97280000430	44	ロータ
62	六角ボルト　6×12(11T)	94690028960	17	ロータ
63	六角角穴ボルト　6×16	AAAA0000231	170	ロータ
64	六角角穴ボルト　6×20	97280000390	16	ロータ
65	コーンケーブ　18(950)	97280000152	6	コーンケーブ
66	送塵弁　B	94690004790	9	送塵弁
67	弁	97320000170	1	送塵弁
68	インペラ補強前	94690028890	2	ロータ
69	インペラ補強　A	94690028900	3	ロータ
70	インペラ補強　B	97290000380	1	ロータ
71	ロータオーガ補強	94690028920	8	ロータ
72	排稈羽根	97290000540	3	ロータ
73	スロワ羽根	94690006040	2	2番コンベア上
74	入口供給板	97290000431	1	上本体入口
75	1番コンベア	97320012680	1	1番コンベア
76	バケット　120	97270000150	40	バケットエレベータ
77	2番コンベア横	94690015801	1	2番コンベア横
78	2番コンベア縦	97280000710	1	2番コンベア縦
79	2番コンベア上	94690006020	1	2番コンベア上
80	下部コンベア前	97360000070	1	グレン

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
81	下部コンベア後	97360000080	1	グレン
82	縦コンベア	97320013720	1	排出パイプ
83	横コンベア元	97290000700	1	排出パイプ
84	横コンベア先	97320000140	1	排出パイプ
85	チャフ切換ワイヤ	97320000090	1	
86	選別ワイヤ	97320012580	1	
87	シャッターワイヤ	97320000100	1	
88	駐車ブレーキワイヤ	97320000120	1	
89	選別クラッチワイヤ	97280000720	1	
90	ワイヤ(リバース	97390003670	1	
91	エレメント　ASY	94690071390	1	HST
92	エレメント(アウタ	90350032590	1	エアクリーナ
93	フィルター150メッシュ	94690070810	1	油圧タンク
94	エレメント	97360000240	1	油水分離器
95	バッテリー　115D31R	97320000060	1	
96	強力ピン6.5	94950000750	1	オーガ旋回モータ
97	FHチェンササエバネ	97180010850	2	F.H
98	ピン14	97250010080	2	グレン駆動
99	FOフィルター	97360000250	1	燃料フィルター
100	フィルター(D80×L100	94690075301	1	エンジンオイルフィルター
101	カバー(ホキョウ C	97390000170	1	
102	プレート(ガイド	97390000180	1	
103	カバー(ホキョウ B	97390000190	1	
104	カバー(ホキョウ E	97390000200	1	
105	ノコハ	97250010180	15	スプレッダ
106	ナイフ T5	97180010380	16	スプレッダ
107	チェンガイド	97500000030	1	

フロン排出抑制法によるお客様点検

フロン排出抑制法とは
「フロン類の使用の合理化および管理の適正化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）として施行されました。

対象機種	エアコン装備（キャビン仕様）のトラクター・コンバインや玄米低温貯蔵庫、ガスヒートポンプなど、第一種特定製品が該当します。 ※ 13 馬力以上のガスヒートポンプは、ガスエンジンの定格出力が7.5kW 以上となり、別途「定期点検」が必要となります。詳細は販売店にご確認ください。

機械の管理者（お客様）は、以下のことを行う必要があります。	
1. 簡易点検の実施 3カ月に1回以上の目視による簡易点検（外観点検※）を行う必要があります。 点検により冷媒の漏れや、その可能性を見つけた場合は、速やかに販売店にご連絡ください。 ※ 目視で確認可能な配管部分などの異音・異常振動、製品外観の損傷・腐食・錆、油のにじみなどの点検です。簡易点検はお客様自身でもできる点検のため、資格などは必要はありません。	**2. 記録の保管** 簡易点検を行ったこと、および点検を行った日を記録する必要があります。点検記録表は、機械・機器を廃棄したあとも3年間保管する必要があります。 ※ 機械を他者に売却・譲渡する場合は、点検記録表またはその写しを相手に引き渡す必要があります。点検記録表はつぎのページを参照してください。
点検サービスについて	お買い上げいただいた販売店では、簡易点検に関するアドバイスを行っております。点検に関するご相談や代行の依頼など、お気軽にご相談ください。

お客様点検用

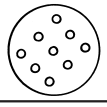
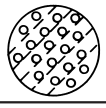
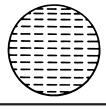
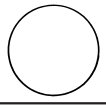
フロン排出抑制法に基づく
第一種特定製品（農業機械用エアコン機器等）

簡易点検記録表

機　種		管理責任者	
型　式			
機　番			

点　検				項目	機器の損傷・腐食	機器の冷媒の漏れ	冷媒量 サイトグラスの状態・点検	機器の騒音	機器の振動	機器の温度調整機能	気づいたこと
点検者	年	月	日	基準	損傷・著しい腐食	油漏れ・にじみ		異常な音	異常な振動	温度変化があること	
				3ヶ月に1回以上点検すること	有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	

■冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし	異常あり		
サイトグラスの状態	ほとんど透明 泡の流れが見えてもエンジン回転をあげると透明になる 	気泡の流れるのが見える。 透明または白泡のときもある 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える 	ファンを最大で回し、窓を全開にしてアイドリングで回しても気泡が見えない 

※不具合や不明なことがあった場合は、販売店にお問い合わせください。
　冷媒の漏えいを発見した場合は、速やかに漏えい箇所の特定および修理を依頼してください。漏えい箇所が不明の場合は充填しないでください。
※［記録の保管］機械・機器を廃棄したあとも3年間保管する必要があります。
※点検記録表は、この用紙を複写してお使いください。

071250-00JA00